

茨城県教育財団文化財調査報告第359集

宮内遺跡

国道354号岩井バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月

茨城県境工事事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第359集

みやうち 遺跡

国道354号岩井バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月

茨城県境工事事務所
財団法人茨城県教育財団



調査区全景（上が北方向）



古墳時代前期土器集合

序

茨城県では、市町村や県の枠を超える広域的な交流と連携を進めるため、また県土の均衡のある発展を支える基盤として、県土の骨格を成すとともに、首都圏中央連絡道路へアクセスするための一般国道や主要地方道などの、幹線道路の整備を進めています。

その一環として、茨城県境工事事務所は、坂東市岩井において、国道 354 号岩井バイパス事業を計画しました。しかしながら、この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である宮内遺跡が所在することから、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が茨城県境工事事務所から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成 22 年 9 月から平成 23 年 3 月までの 7 か月間にわたってこれを実施しました。

本書は、その調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります茨城県境工事事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、坂東市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成24年 3 月

財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木 欣 一

例 言

- 1 本書は、茨城県境工事事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成 22 年度に発掘調査を実施した、茨城県坂東市岩井字宮内前 959-3 番地ほかに所在する宮内遺跡^{みやうち}の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査	平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
整 理	平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	皆川 修	平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
首席調査員	小澤 重雄	平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日
首席調査員	小林 和彦	平成 22 年 9 月 1 日～12 月 31 日
主任調査員	齋藤 貴史	平成 23 年 3 月 1 日～3 月 31 日
主任調査員	櫻井 完介	平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日
主任調査員	大関 隆	平成 23 年 3 月 1 日～3 月 31 日
調 査 員	江原美奈子	平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
調 査 員	関 絵美	平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、以下の者が担当した。

首席調査員	小林 和彦	平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
調 査 員	宮崎 剛	平成 24 年 1 月 1 日～3 月 31 日
- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

小林 和彦	第 1 章～第 3 章 3 節 4・第 3 章 4 節
宮崎 剛	第 3 章 3 節 5
- 6 本書の作成にあたり、第 47 号住居跡から出土した製鉄関連遺物の分類については、たたら研究会委員・製鉄遺跡研究会代表穴澤義功氏に御指導いただいた。当遺跡内から出土した鉄製品の保存処理等については、筑波大学准教授松井敏也氏に御協力、御指導いただいた。第 50 号住居跡から出土した獣骨の同定については、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館考古研究部教授西本豊弘氏に御指導いただいた。

凡 例

1 当遺蹟の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、 $X = + 7,240 \text{ m}$ 、 $Y = + 4,800 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」, 「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j, 西から東へ 1, 2, 3, … 0 とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」, 「B 2 b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP - 炉跡 PG - ピット群 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SI - 住居跡
SK - 土坑 SX - 不明遺構

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 P - 土器 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器

土層 K - 攪乱



3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 = 焼土・赤彩・施釉・ガラス質  = 炉・火床面・繊維土器断面

 = 竈部材・粘土範囲・炭化材・炭・鉄滓の範囲・黒色処理  = 煤・油煙・柱痕

● = 土器 ○ = 土製品 □ = 石器・石製品 △ = 金属製品

----- = 硬化面 - - - - = 焼土・粘土・炭化物範囲

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版 標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m・cm, kg・g である。なお現存値は () で、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺構番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一である。

(4) 磁着度の欄は、磁着の弱い順に 1, 2, 3 … と記した。

(5) メタル度の欄は、メタル度の高い順に特 L (☆), L (●), M (◎), H (○), 銹化 (△), なし, と記した。

6 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向とともに、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	5
第2章 位置と環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
土坑	13
2 古墳時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴住居跡	15
(2) 土坑	115
3 奈良時代の遺構と遺物	117
(1) 竪穴住居跡	117
(2) 土坑	200
4 平安時代の遺構と遺物	206
竪穴住居跡	206
5 その他の遺構と遺物	219
(1) 掘立柱建物跡	219
(2) 溝跡	221
(3) 炉跡	226
(4) 井戸跡	227
(5) 土坑	230
(6) ピット群	238
(7) 不明遺構	257
(8) 遺構外出土遺物	257
第4節 まとめ	262
写真図版	PL 1～PL48
抄 録	
付 図	

みやうち いせき がいよう 宮内遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

宮内遺跡は、坂東市のほぼ中央に位置し、市内を南北に流れる江川^{えがわ}右岸の標高約 10～15 m の、台地から低地に向かう緩やかな斜面部に立地しています。

当遺跡の調査は、国道 354 号バイパスの建設に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が実施しました。調査期間は、平成 22 年 9 月から平成 23 年 3 月までの 7 か月間でした。



調査の内容

今回の調査によって、古墳時代（4～7 世紀）、奈良時代（8 世紀）、平安時代（9・10 世紀）の集落跡が確認されました。特に、周辺の遺跡にはあまり多く見られない、奈良・平安時代の製鉄（鉄作り）工人たちの集落であることがわかりました。



調査区全景（東側から）

古墳時代（約 1,650 ～ 1,400 年前）の遺構は、^{たてあなじゅうきょあと} 竪穴住居跡 33 軒、^{どこう} 土坑 2 基が確認されました。4 世紀の後葉に人々が住み始め、小さな集落が形成されました。そして、6 世紀には大きな集落へと発展していったことがわかりました。特に 5 世紀末から 6 世紀初頭にかけては、一辺



大形の住居跡（第 41 号住居跡）

が 9 m を超えるような大形の住居が次々と建てられました。人々が使用していた土器は^{はじき}土師器が中心で、特に 4 世紀後葉から 6 世紀前葉にかけては赤く塗られたものが多く、^{せきせいも ぞうひん} 剣・鏡・玉を模して作られた石製模造品などとともに、マツ



第 11 号住居跡の竈近くから出土した土師器



第 41 号住居跡から出土した土師器

りの時に使われたと考えられています。また、土師器とともに、わずかですが東海地方で生産された^{すえき}須恵器も出土しました。このことから、古墳時代から遠方と人々の交流や物品の流通があったことがわかりました。



古墳時代の住居跡などから出土した須恵器



古墳時代の住居跡などから出土した石製模造品

奈良時代（約 1,300 年前）の遺構は、竪穴住居跡 27 軒、土坑 4 基が確認されました。竪穴住居の数も多い時代ですが、古墳時代よりも規模が小さくなっています。当時は、中国から律令制りつりょうせいが取り入れられ、法律によって地方まで治められるようになりました。土師器は主に甕かめに用いられ、それ以外は須恵器が用いられるようになります。県内でも須恵器が焼かれるようになり、木葉下あばっけ（水戸市）、新治にいばり（土浦市）、堀之内ほりのうち（桜川市）などの窯かまが開かれました。宮内遺跡でも、新治や堀之内産の須恵器が出土しています。



奈良時代の住居跡から出土した土師器や須恵器



土師器の甕が袖部の補強材に使われていた竈（第 15 号住居跡）

平安時代（約 1,200 ～ 900 年前）の遺構は、竪穴住居跡 4 軒が確認されました。引き続き甕には土師器が用いられていました。古墳時代の終わり頃からみられ、口縁部のつまみ上げに特徴がある常総甕じょうそうがめや、武蔵甕むさしがめと呼ばれ、普通の口縁を持ち、薄くて倒卵形をした体部が特徴のものが共に出土しています。また、竈かまどを補強するための芯材しんざいとして、製鉄炉せいてつろの炉壁ろへきを使用している住居跡が見つかりました。このことから、製鉄に携わる工人たちが住んでいたことがわかります。



平安時代の住居跡から出土した土師器や須恵器

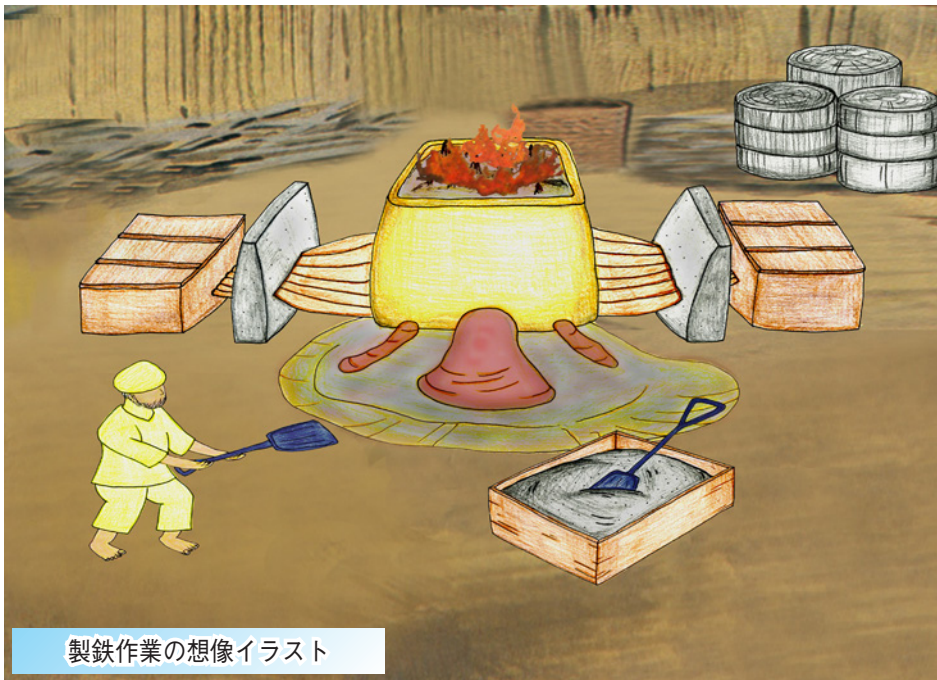


製鉄炉の炉壁が竈の芯材に使われていた竈（第 8 号住居跡）

奈良・平安時代の住居跡からは、約135kgの鉄滓てっさいが出土しました。第47号住居跡から出土した約93kgは、炉壁・炉底塊ろへき・炉内滓ろないさい・炉内滓含鉄ろないさいがんとつ・鉄塊系遺物てっかいけい いぶつに分類でき、製鉄作業によってできる製鉄滓であることがわかりました。他の住居跡からは、少量ですが鍛冶関連遺物かじかんれん いぶつも出土しており、製鉄が中心ですが、鍛冶も行われていたと考えられます。



奈良・平安時代の住居跡から出土した製鉄関連遺物



製鉄作業の想像イラスト

調査の結果

今回の調査で次の様なことがわかりました。古墳時代前期後葉から、人々が台地上に集落を形成し始め、古墳時代後期には住居が周辺にも広がり、大きな集落が形成されていきました。奈良時代には、住居の規模は小さくなりましたが軒数は増え、炉本体は見つかりませんでした。製鉄や鍛冶に携わる工人たちが存在していました。平安時代には住居の数は減りますが、引き続き製鉄や鍛冶が行われていました。

今回の調査区は一部分であり、集落の全容は解明できませんでしたが、古墳時代から平安時代に至る当地域の歴史の一端を知ることができました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成19年2月26日、茨城県境工事事務所長から、茨城県教育委員会教育長に対して、国道354号岩井バイパス事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は、平成19年10月24日に現地踏査を、平成22年2月16・17・19日に試掘調査を実施し宮内遺跡の所在を確認した。平成22年3月1日、茨城県教育委員会教育長は茨城県境工事事務所長あてに、事業地内に宮内遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成22年3月5日、茨城県境工事事務所長から、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づく土木工事の通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成22年3月12日、茨城県境工事事務所長あてに、宮内遺跡について工事着工前に発掘調査をするよう通知した。

平成22年3月25日、茨城県境工事事務所長から、茨城県教育委員会教育長に対して、国道354号岩井バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書の提出があった。平成22年3月26日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県境工事事務所長あてに、宮内遺跡について発掘調査の範囲及び面積について回答し、あわせて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県境工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年9月1日から平成23年3月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

宮内遺跡の調査は、平成22年9月1日から平成23年3月31日までの7か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程 \ 期間	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■	■				
遺構調査		■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理			■	■	■	■	■
補足調査 撤収							■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

宮内遺跡は、茨城県坂東市岩井字宮内前 959-3 番地ほかに所在している。

坂東市は、平成 17 年 3 月 22 日に旧岩井市と猿島町とが合併して誕生した。市域は南北に長く、東西約 12 km、南北に約 20km、面積は 123.18km²である。当市は猿島台地の南東部に位置し、洪積台地と利根川・飯沼川・東仁連川やその支流によって形成された沖積低地から成り立っている。猿島台地は北西から南東へ延びており、標高 15～20 m で、利根川をはじめ飯沼川・東仁連川支流の小河川により開析された谷津が樹枝状に入り込み、複雑な地形を呈している。

猿島台地の基部を構成する地層は、貝化石を含む成田層（見和層）である。この貝化石を含む地層には小形有孔虫の化石も入っており、これを調べることにより、古鬼怒湾時代の気候や植生などの古環境を復元することができる。さらに、成田層の上に黄褐色砂や黄褐色粗砂を含む竜ヶ崎砂礫層、その上に灰白色の粘土層である常総粘土層、そして、表土の下を厚く覆う赤褐色の関東ローム層が堆積している。

当遺跡は、坂東市の中央部に位置し、当市を南北に縦断するように流れる飯沼川支流である江川の蛇行により、突き出した形となった標高約 15 m の台地の尾根上から縁辺部にかけて立地しており、江川沿いの低地との比高は約 5 m である。調査前の現況は畑地である。

第2節 歴史的環境

宮内遺跡が所在する猿島台地南東部には、『茨城県遺跡地図』¹⁾によれば、数多くの遺跡が分布している。しかし、現在までのところ、坂東市内における発掘調査例は少ない。昭和 50 年に旧岩井市教育委員会が県立岩井西高等学校建設に伴い、上出島古墳群〈22〉の発掘調査²⁾を行ったのが最初の例である。

平成 2～4 年にかけて、旧岩井市史編さん事業に伴い市史編さん室の自然考古部会によって、拾二ゴゼ遺跡〈13〉、坂東市東部の飯沼川に面した駒寄遺跡、高山古墳〈8〉などの調査³⁾が実施されている。これらの調査によって、原始、古代の様子が徐々に明らかになっていった。ここでは、当市及びその周辺の遺跡について、時代を追って概観することにする。

旧石器時代の遺跡としては、上記の拾二ゴゼ遺跡、平成 2・3 年に茨城県教育財団が調査した菅生沼右岸台地上の北前遺跡⁴⁾、平成 3・4 年にやはり当財団で調査した北前遺跡に隣接する高崎貝塚⁵⁾があげられる。各遺跡とも、調査区内から頁岩製のスクレイパー及び剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は、坂東市内とその周辺に多く分布するようになる。飯沼川から菅生沼及び鬼怒川流域の台地上には、貝塚が数多く見られ、貝塚の形成と海進・海退による汀線の変動の研究には重要な地域である。早期の遺跡では、南原遺跡〈23〉、台島北遺跡〈15〉で条痕文系土器が確認されている。前期の遺跡は、高崎貝塚と北前遺跡などである。北前遺跡では、黒浜式期の住居跡 4 軒が地点貝塚とともに調査されている。高崎貝塚では、住居跡 10 軒が確認されている。中期から後期にかけての遺跡は、長谷中妻遺跡〈14〉・山中後遺跡〈17〉・宝光院遺跡〈10〉・坂東市東部の飯沼川に面した駒寄遺跡などがある。これらの遺跡からは、加曾利 E 式期から加曾利 B 式期にかけての土器片が採集されているが、現在は湮滅した遺跡も多い。後期から晩期の遺跡であ

る拾二ゴゼ遺跡は、利根川の氾濫原に西面する台地端の緩い傾斜地上に位置しており、後期後半が中心の汽水系貝塚（ヤマトシジミ主体）であるが、晩期の安行Ⅲ式期の土器も出土している。

弥生時代については、菅生沼西岸の大崎遺跡⁶⁾で弥生土器が出土し、高崎貝塚では4軒の住居跡が確認されている。西に隣接する境町長井戸遺跡群⁷⁾では24軒の住居跡が調査され、集落跡が確認されている。しかし、坂東市を含めた周辺の市町村での調査例は少なく、今後の調査が期待される。

古墳時代の遺跡は数多く確認されている。縄文時代と複合する北前遺跡では、古墳時代前・中期の住居跡33軒が調査されている。当遺跡の北西側約2kmの同一台地上に位置する元屋敷遺跡〈24〉、寮ノ下遺跡〈3〉では、前期の五領式土器が採集されている。当遺跡と江川を挟んだ対岸の松葉遺跡〈7〉、当遺跡から東へ約3kmに位置するまたでなかだい遺跡では中期の和泉式土器が採集されている。駒寄遺跡、菅生沼南東側台地上に位置するおおなみ大並遺跡⁸⁾、さらに、約3km東に位置するにしはら西原遺跡⁹⁾では、合わせて18軒の中期の住居跡が調査されている。次に、上出島古墳群をあげることができる。3基の古墳のうち、第2号墳は全長56mの前方後円墳であり、その後円部墳頂と墳丘の裾部から壺形埴輪の配列が検出されている。さらに、後円部に設けられた粘土槨からは、滑石製勾玉・管玉・鉄剣・鉄鎌・鉄斧・鉄針が出土しており、出土遺物から築造年代は5世紀の前半頃に比定されている。当遺跡の東約1kmに所在する高山古墳は、坂東市を代表する円墳であるが、明治45年に土取りにより破壊されてしまった。その際出土した直刀・金環などは、東京国立博物館に収蔵されている。平成2年、筑波大学により再調査されたが遺存状態が悪く、墳形・規模を確認することができなかった。主体部は、雲母片岩（筑波石）を使用した横穴式石室である。その他、だいみょうじんづか大明神塚古墳〈21〉、くぐいど鶴戸古墳群〈20〉、せんにゅうく仙入久保古墳群〈19〉、かとりづか香取塚古墳群〈18〉、だいにちづか大日塚古墳〈16〉、なかざと中里古墳群〈12〉、けんざき剣崎古墳群〈11〉、さかきやま榊山古墳〈25〉など、坂東市には数多くの古墳が存在していたが、現在は湮滅してしまったものが少なくない。

律令期になると、当遺跡は下総国さしま猿嶋郡岩井郷に属した。奈良・平安時代の遺跡としては、当遺跡と同一台地上に、やくしはら薬師原遺跡〈2〉、にしごうや寮ノ下遺跡、にしごうや西高野遺跡〈4〉が存在し、集落の広がりを捉えてみる必要がある。また、江川を挟んだ対岸に位置するにし西遺跡〈6〉でも土師器片が確認されている。これらの遺跡の大半は、古墳時代から継続しているものである。人物では、あべさしまのおみすみなわ猿嶋郡出身の安部猿嶋臣墨繩があげられる。『続日本紀』によると、墨繩は蝦夷征伐に副将軍として参加しており、当遺跡周辺からも多くの人々が従軍したと考えられる。次に、平将門である。承平5年（935年）に始まった承平の乱では、坂東市が表舞台となっている。当遺跡内や近隣には、将門にまつわる史跡が多く残されている。将門は、戦乱のさなか承平7年（937年）に、この地にいわい石井の営所を築いている。この地は水に恵まれるとともに、菅生沼の北に伸びたひろかわ広河の江（現在の飯沼）が東にひかえているので、要害の地であった。また、将門は営所敷地内にえんめいじ延命寺として延命寺を建立した。さらに、当遺跡内に存在するこくおう国王神社は、将門終焉の地として現在も地域の信仰を集めている。

将門の登場以前から、飯沼川・東仁連川支流の小河川と入り組んだ台地とが織りなす岩井地域は、馬牧に適していた。石井の営所とされる地の西側には、ながす長洲馬牧（現在の坂東市長須付近に比定）があり、北側には大結馬牧（現在の常総市大間木付近に比定）と、2か所の官牧が存在していた。これらは、軍馬調達の地となった可能性が考えられる。さらに、9世紀の製鉄遺構として知られるおさきまやま尾崎前山遺跡（現在の八千代町尾崎）は、大結馬牧に付属したもので、馬具が生産されていたと推測されている。石井の営所に程近い長洲馬牧比定地の坂東市長須では、当遺跡から西に約4kmの位置に所在するにしはら西原遺跡で、土師器とともに鉄滓の散布が確認されている。当遺跡の調査区内でも、奈良・平安時代の住居跡の覆土中から鉄滓や鎌・刀子等の鉄製品が、また、竈からは芯材として転用された炉壁の一部が出土している。近辺に製鉄炉があった証となる。これらのことから、軍馬の調達・鉄の生産という観点から、将門の勢力基盤の基礎が築かれていった可能性が考えられる。

鎌倉時代には、将門を討伐した秀郷流藤原一族によって開墾された荘園である下河辺荘に属し、下河辺氏によって治められた。その後、15世紀中頃には古河公方足利氏の支配下となる。城館跡¹⁰⁾としては、菅生沼の東側台地上におおつかすがお、菅生城跡がある。当遺跡から江川を挟んで1.5km北東には弓田城跡^{ゆだ}があり、群雄割拠の戦国の世を彷彿とさせる。

江戸時代に入ると、享保年に、古代から中世にかけて広大な沼であった飯沼は、周囲24か村の住民の切なる要望を受けて、新田開発が積極的に行われていった。新田の維持や改良は明治以降も続けられ、多くの人々の尽力によって、現在の豊かな水田地帯に生まれ変わった。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。

註

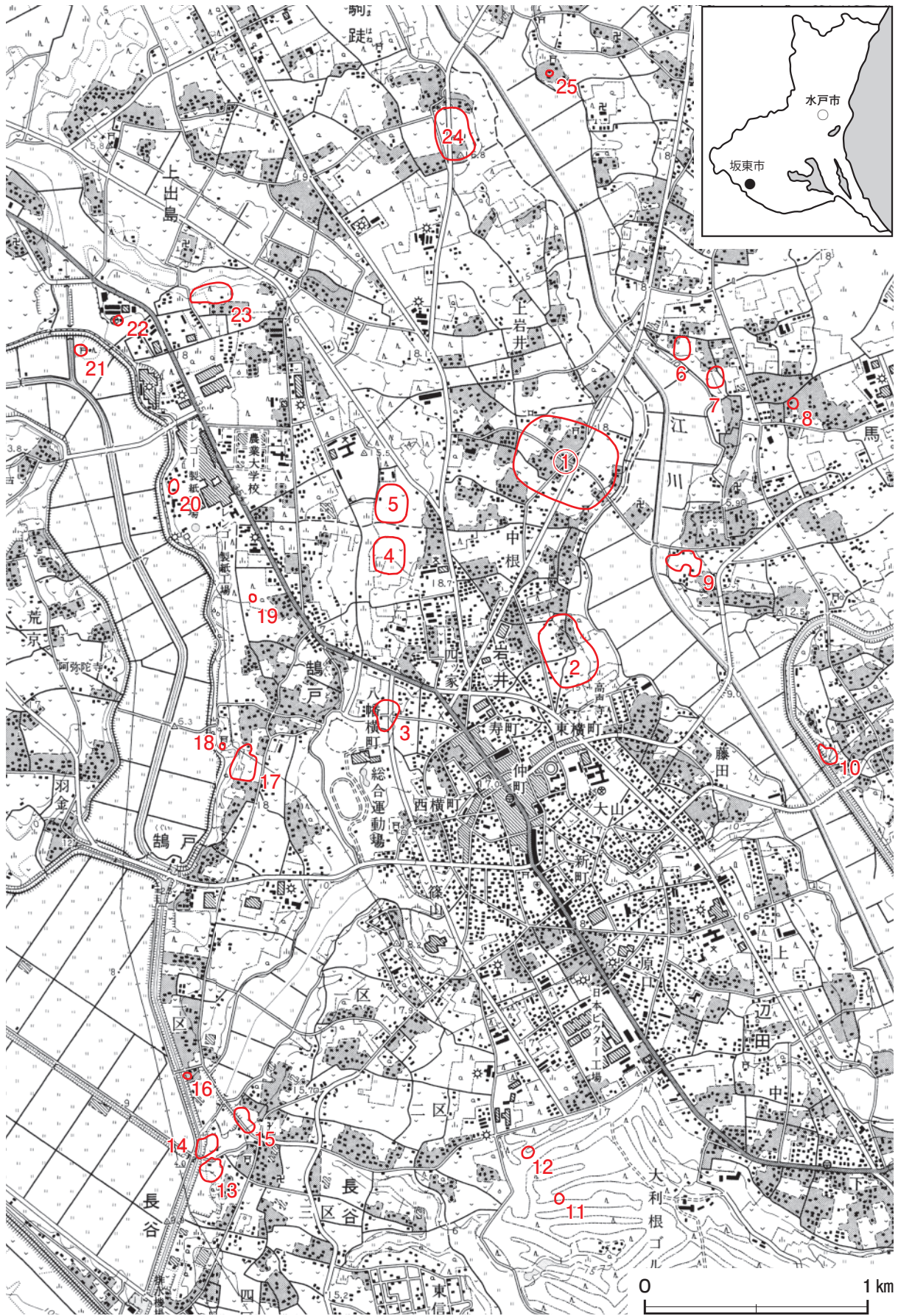
- 1) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 岩井市教育委員会『上出島古墳群』1975年3月
- 3) 岩井市史編さん委員会『岩井市の遺跡』『岩井市史遺跡調査報告書』第1集 1992年3月
- 4) 大森雅之『茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 原口遺跡・北前遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第83集 1993年3月
- 5) 鶴見貞夫『茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 高崎貝塚』『茨城県教育財団文化財調査報告』第88集 1994年3月
- 6) 今井隆介『北下総地方史』崙書房 1974年12月
- 7) 鹿島直樹 前島直人『長井戸遺跡群 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告』第337集 2011年3月
- 8) 水海道市教育委員会『水海道市埋蔵文化財包蔵地分布地図』1992年3月
- 9) 小河邦男『水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 奥山A遺跡・奥山B遺跡・西原遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第31集 1986年3月
- 10) 茨城県教育委員会『重要遺跡調査報告書Ⅱ(城館跡)』1985年3月

参考文献

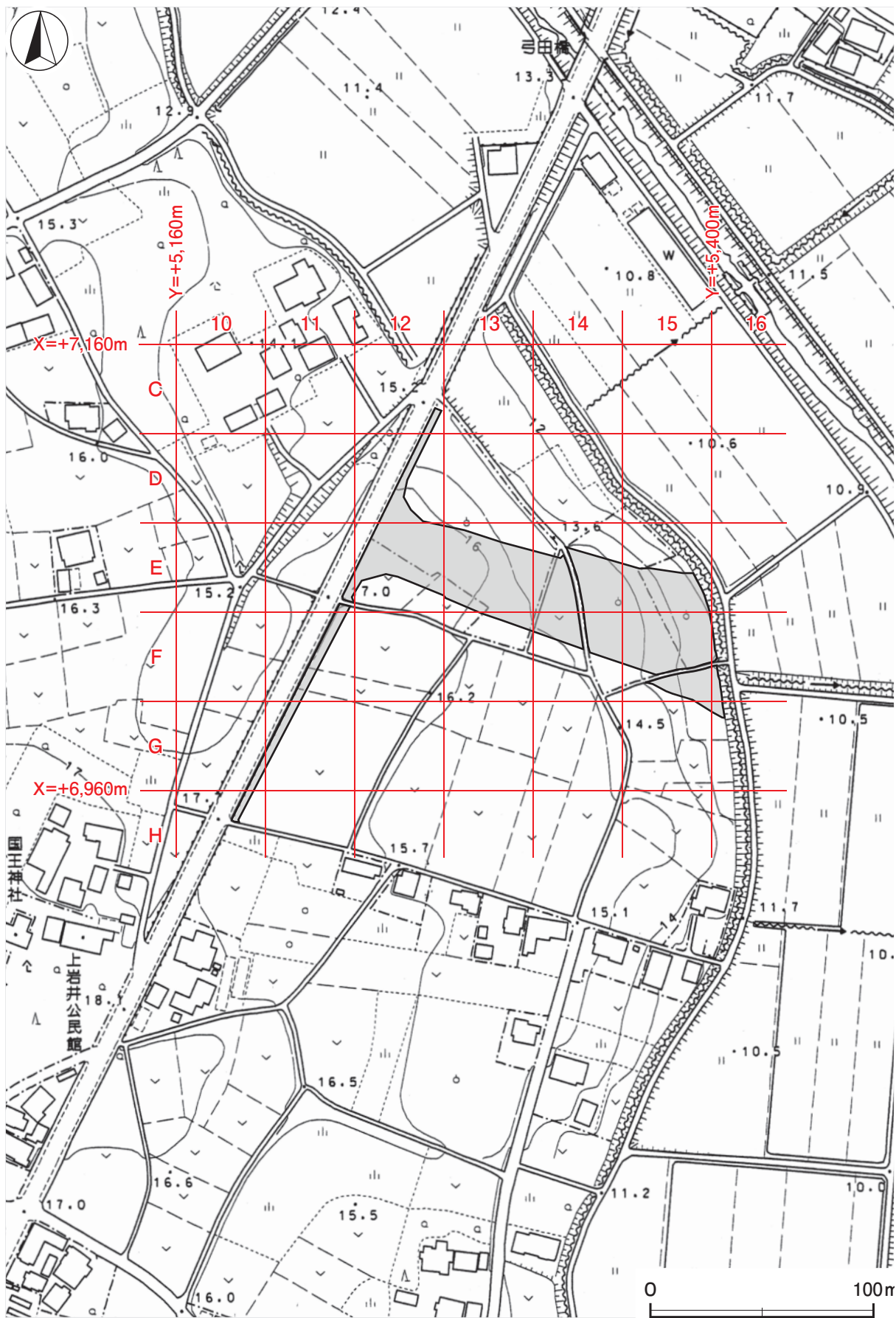
- ・岩井市史編さん委員会『岩井市史』(考古編) 岩井市 1999年3月
- ・岩井市史編さん委員会『岩井市史』(通史編) 岩井市 2001年3月
- ・八千代町史編さん委員会『八千代町史』(通史編) 八千代町 1990年12月
- ・深見兵吉『平将門』成美堂出版 1976年1月
- ・瀬谷義彦『茨城の将門』茨城新聞社 1976年7月

表1 宮内遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代									
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世		
①	宮内遺跡		○		○	○			14	長谷中妻遺跡		○							
2	薬師原遺跡					○			15	台島北遺跡		○		○	○				
3	寮ノ下遺跡				○	○			16	大日塚古墳				○					
4	西高野遺跡		○		○	○			17	山中後遺跡		○							
5	西高野北遺跡				○				18	香取塚古墳群				○					
6	西遺跡					○			19	仙入久保古墳群				○					
7	松葉遺跡		○		○				20	鶴戸古墳群				○					
8	高山古墳				○				21	大明神塚古墳群				○					
9	遠西遺跡				○				22	上出島古墳群				○					
10	宝光院遺跡		○						23	南原遺跡		○							
11	剣崎古墳群				○				24	元屋敷遺跡				○					
12	中里古墳群				○				25	榊山古墳				○					
13	拾二ゴゼ遺跡	○	○			○													



第1図 宮内遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「宝珠花」「水海道」）



第2図 宮内遺跡調査区設定図（坂東市都市計画図2,500分の1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

宮内遺跡は、飯沼川の支流である江川右岸の標高10～15mの台地縁辺部に立地している。調査面積は6,622㎡で、調査前の現況は畑地である。

今回の調査によって、竪穴住居跡64軒(古墳時代33・奈良時代27・平安時代4)、掘立柱建物跡2棟(時期不明)、溝跡14条(時期不明)、炉跡2基(時期不明)、井戸跡3基(時期不明)、土坑103基(縄文時代2・古墳時代2・奈良時代4、時期不明95)、ピット群14か所(時期不明)、不明遺構1基(時期不明)を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に122箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器(深鉢)、土師器(坏・椀・高台付坏・埴・器台・高坏・壺・甕・小形甕・甑・手捏土器)、須恵器(坏・蓋・鉢・壺・長頸瓶・長頸壺・甕・甗)、土製品(勾玉・土玉・紡錘車)、石器(砥石・紡錘車)、石製品(勾玉・管玉・白玉・有孔円板)、鉄製品(鍬・鎌・手鎌・刀子・紡錘車)、銅製品(腰带具)、製鉄・鍛冶関連遺物(炉壁・鉄滓・羽口)などである。

第2節 基本層序

当遺跡は、東西に長く台地縁辺部に位置しているため、比高が5mほどある。そこで、東側の低地に向かう(E15f2区)にテストピット1を、西側の台地上(E12g6区)にテストピット2を設定し、基本土層(第3回)の観察を行った。

土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから、テストピット1が8層、テストピット2が7層に細分でき、テストピット1・2ともに第2層上面で遺構を確認した。観察結果は以下のとおりである。

テストピット1

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は30～50cmである。

第2層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は10～20cmである。

第3層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりが強く、層厚は15～20cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりが強く、層厚は10～20cmである。第Ⅱ黒色帯と考えられる。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりが普通で、層厚は10～20cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層から常総粘土層への漸移層である。炭化粒子・白色粘土粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は10～20cmである。

第7層は、にぶい褐色を呈する常総粘土層である。鉄分を中量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は5～10cmである。

第8層は、にぶい褐色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに強い。下部は未掘のため、層厚は不

明である。

テストピット2

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は35～40cmである。

第2層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は20～40cmである。

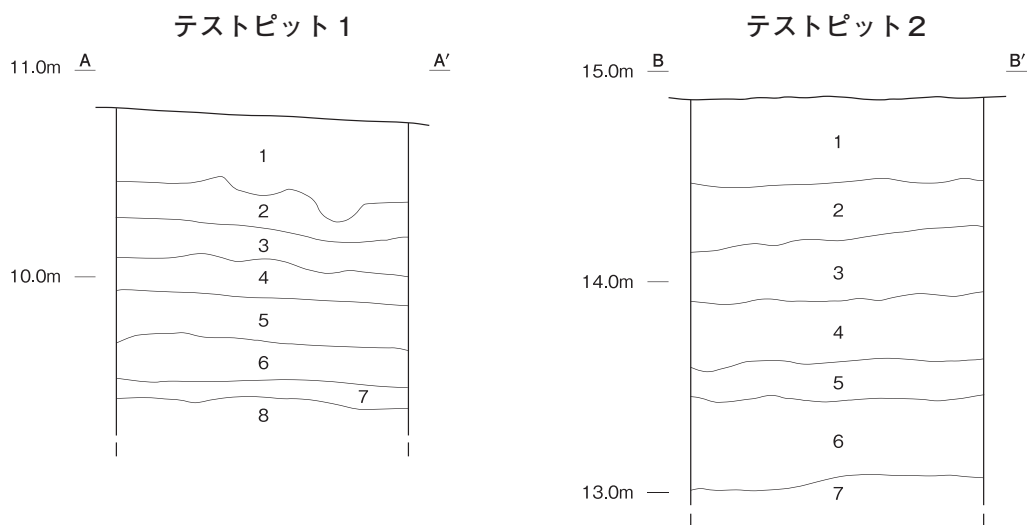
第3層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりが強く、層厚は25～35cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりが強く、層厚は25～35cmである。第Ⅱ黒色帯と考えられる。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりが普通で、層厚は15～20cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層から常総粘土層への漸移層である。炭化粒子・白色粘土粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は35～45cmである。

第7層は、にぶい褐色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに強い。下部は未掘のため、層厚は不明である。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

土坑

第85号土坑（第4図）

位置 調査区東部のF 15b6区、標高12mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.40m、短径1.00mの楕円形で、長径方向はN-3°-Wである。深さは88cmで、底面は平坦である。南・北の壁はほぼ直立し、東・西の壁は外傾して立ち上がっている。

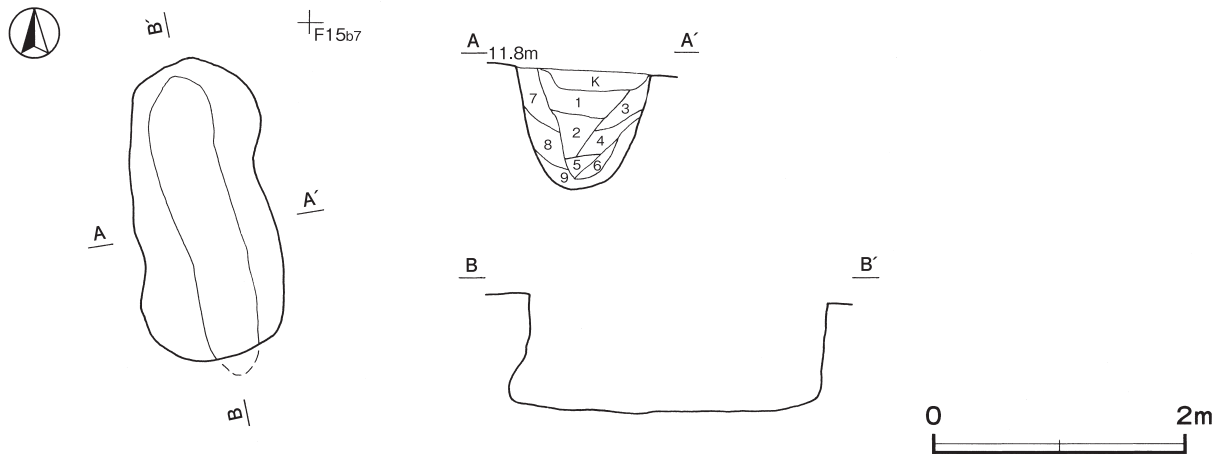
覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|----------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・赤色粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 赤色粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・赤色粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、赤色粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 混入したと見られる土師器片1点（甕類）が、覆土上層から出土している。

所見 時期は、縄文時代の土器を伴う第87号土坑が隣接しており、形状や覆土の状況が似ていることから、縄文時代と思われる。



第4図 第85号土坑実測図

第87号土坑（第5図）

位置 調査区東部のF 15d7区、標高12mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸1.92m、短軸1.38mの楕円形で、長径方向はN-3°-Eである。深さは56cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

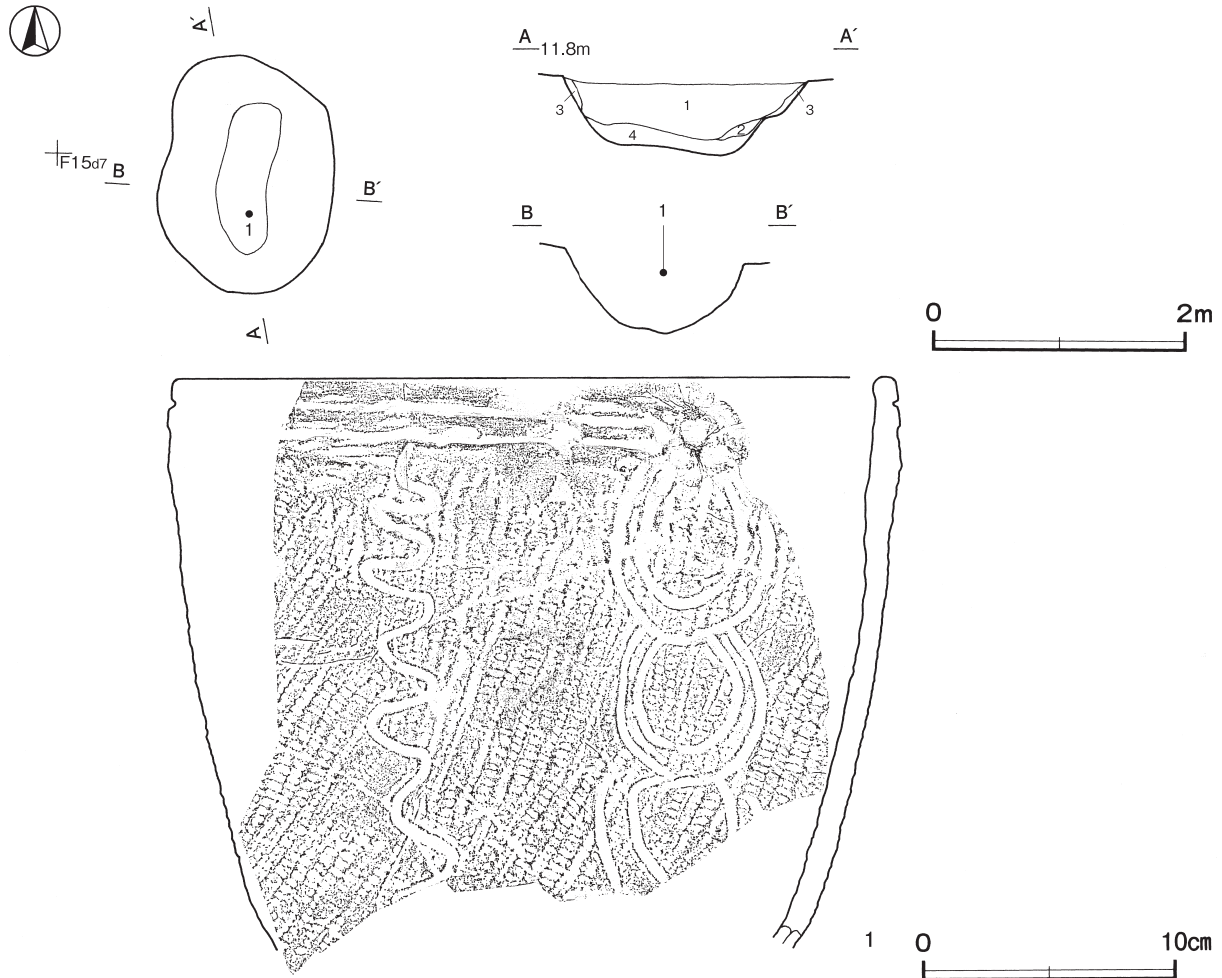
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子中量

3 暗褐色 ローム粒子微量
 4 暗褐色 ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器1点(深鉢)が出土している。そのほか、混入したとみられる土師器片2点(甕類2)が出土している。1は、中央やや南よりの覆土上層から正位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代後期前葉に比定できる。



第5図 第87号土坑・出土遺物実測図

第87号土坑出土遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口唇部2条の平行沈線文 胴部外面LR縄文施文後厭手状懸垂文施文	覆土上層	15% PL27

表2 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
85	F15b6	N-3°-W	楕円形	2.40×1.00	88	平坦	直立・外傾	人為	土師器	
87	F15d7	N-3°-E	楕円形	1.92×1.38	56	皿状	外傾	自然	縄文土器・土師器	

2 古墳時代の遺構と遺物

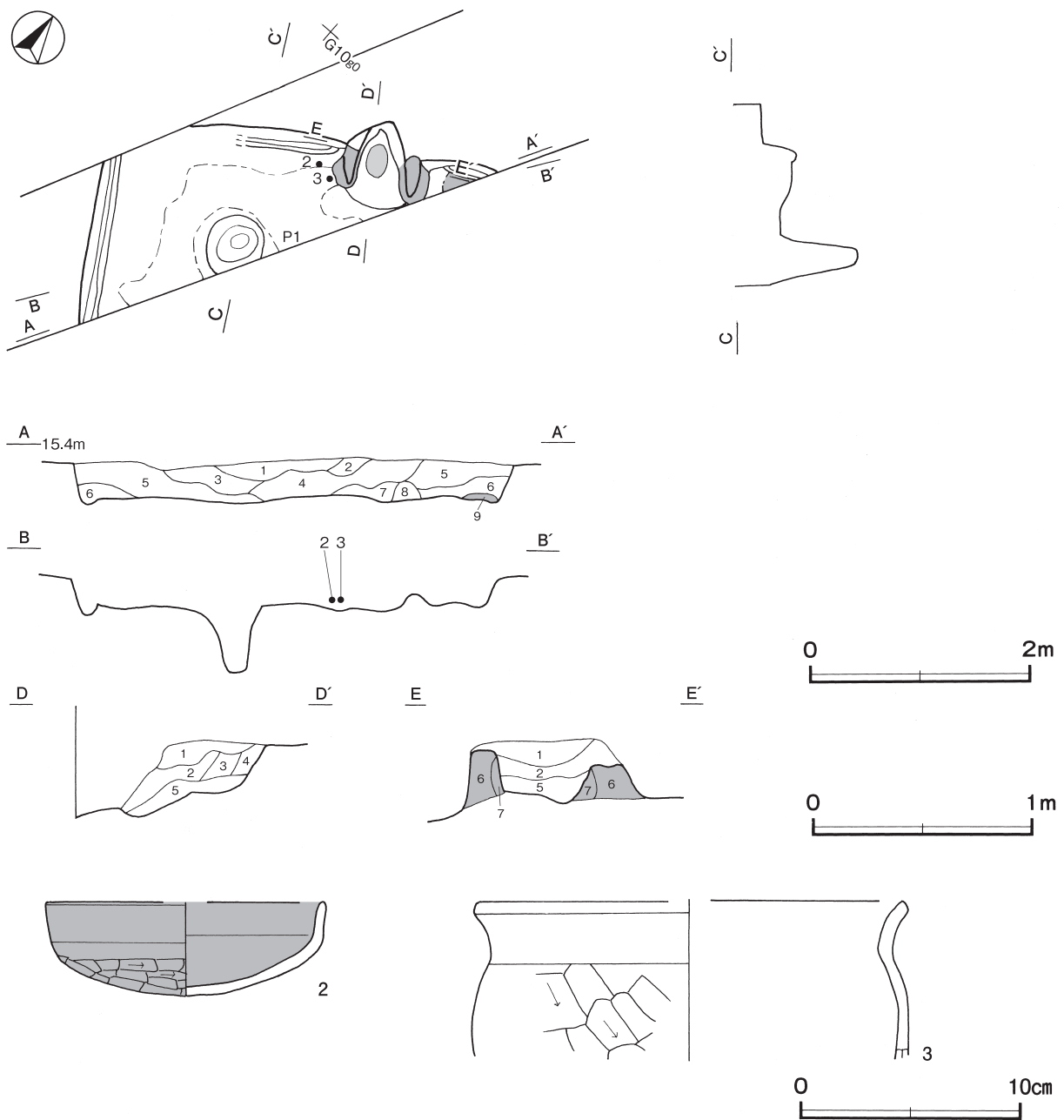
当時代の遺構は、竪穴住居跡 33 軒、土坑 2 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡 (第6図)

位置 調査区南西部の G 10g0 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は 2.65 m で、北西・南東軸は 1.50 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向は $N - 30^\circ - W$ と推定できる。壁高は 25 ~ 32 cm で、外傾して立ち上がっている。



第6図 第2号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第6～7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶ赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	7 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量
4 にぶ赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量		

ピット 深さ58cmで、規模と配置から主柱穴である。

覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9 にぶ褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量
5 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片41点(坏8, 鉢1, 甕類31, 小形甕1)が出土している。2・3は竈の西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2号住居跡出土遺物観察表 (第6図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	坏	[12.6]	4.2	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	70%
3	土師器	小形甕	[19.2]	(7.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部上半斜位のヘラ削り	覆土下層	5%

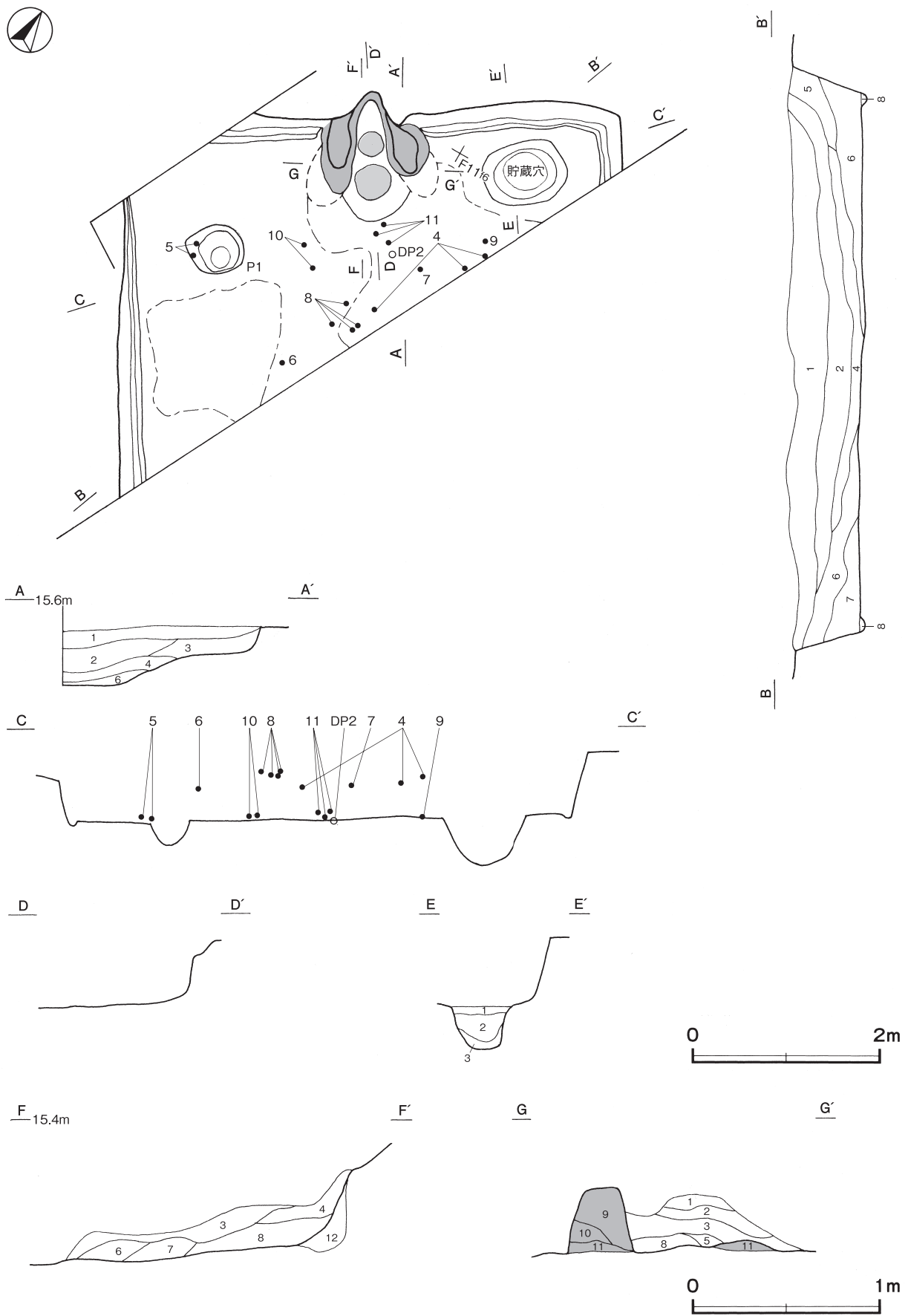
第3号住居跡 (第7・8図)

位置 調査区南西部のF 11f5区, 標高15mの平坦な台地上に位置している。

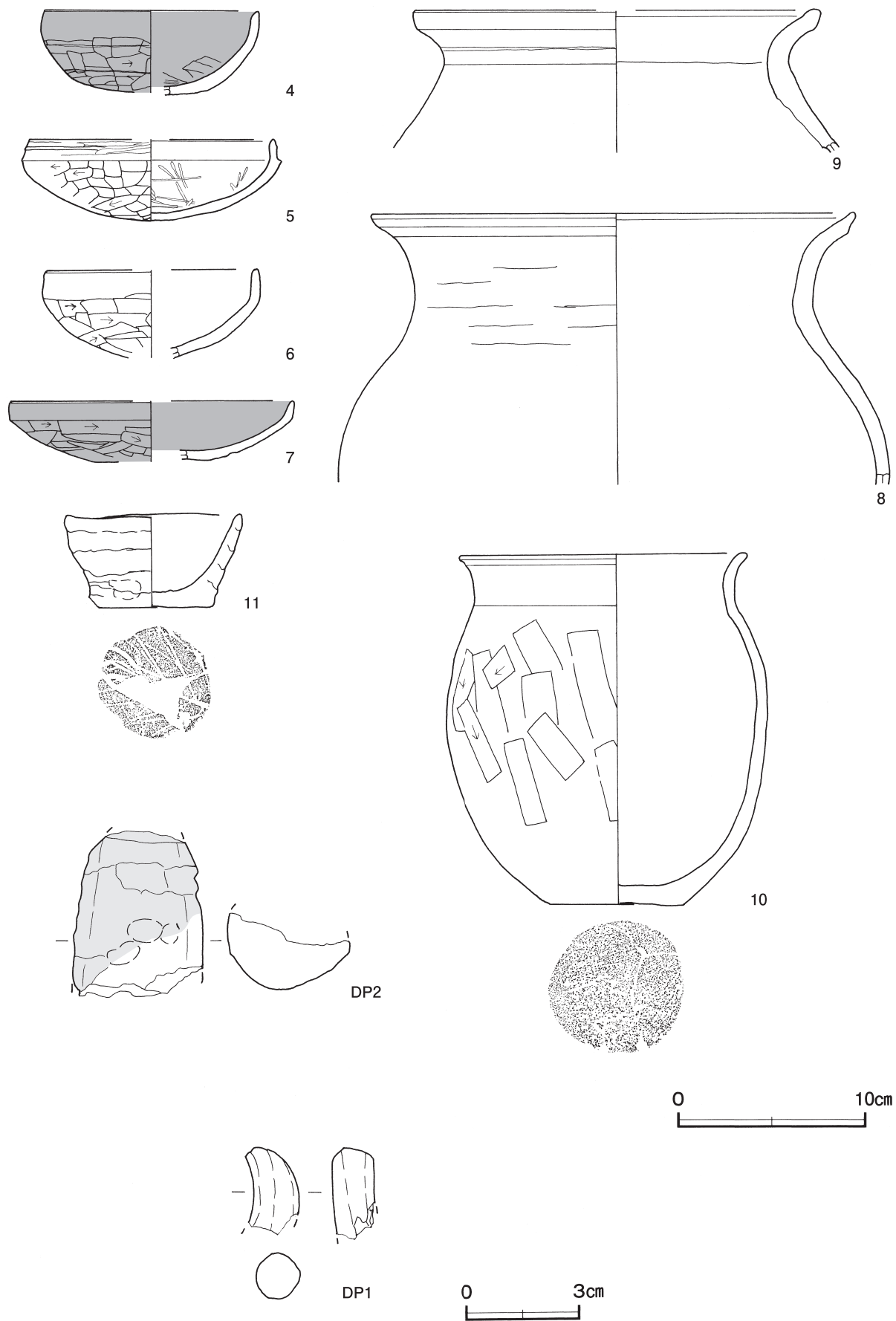
規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は5.37mで、北西・南東軸は3.20mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-32°-Wと推定できる。壁高は46～64cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈付近と南西壁下が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。構築時の袖部は壊れており、先端の基部の痕跡が認められる。残存する部分の規模は焚口部から煙道部まで140cmで、燃焼部幅は48cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第9～11層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、壁下の部分に焼土ブロック・ローム粒子を含んだ第12層を埋土して煙道部を構築している。火床面は2か所存在し、ともに火を受けて赤変硬化している。縦2口掛けの竈であった可能性が考えられる。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。



第7图 第3号住居跡実測図



第8図 第3号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	にぶい褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
3	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量
4	にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10	にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
5	灰褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11	にぶい褐色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量

ピット 深さ28cmで、規模と配置から支柱穴である。

貯蔵穴 竈の右側に位置している。長径93cm, 短径67cmの楕円形である。深さは53cmで、底面は皿状である。壁は、外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	3	褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量			

覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量
2	極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片351点(坏93, 高坏1, 甕類256, 小形甕1), 須恵器片3点(坏1, 甕類2), 土製品(勾玉, 支脚), 鉄製品1点(釘), 焼成粘土塊30点, 鉄滓7点(72g)が、竈から中央部の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、混入したと見られる剥片1点も出土している。9は貯蔵穴付近の床面から出土している。10・11・DP1・DP2は竈の前, 5はP1付近の覆土下層からそれぞれ出土している。4・6～8は中央部の覆土上層からそれぞれ出土し、廃絶後しばらく経過してから投棄されたものと見られる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第3号住居跡出土遺物観察表 (第8図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師器	坏	11.4	4.4	-	長石・石英	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土上層	75%
5	土師器	坏	[13.0]	4.3	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のヘラ磨き 体部横位のヘラ削り 内面多方向のヘラ磨き	覆土下層	30%
6	土師器	坏	[11.1]	(4.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部横位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土上層	40%
7	土師器	坏	[15.0]	(3.2)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部横位のヘラ削り 内面横ナデ 下端刃物痕	覆土上層	30%
8	土師器	甕	25.4	(14.5)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	覆土上層	30%
9	土師器	甕	[21.4]	(7.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	5%
10	土師器	小形甕	15.2	18.8	7.1	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部縦位のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	70% PL32
11	土師器	手捏土器	9.1	5.0	5.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面横ナデ 外面下端指頭圧痕 底部木葉痕	覆土下層	95% PL34

番号	器種	長さ	径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP1	勾玉	(24)	1.4	1.1	(3.4)	長石・石英	ナデ	覆土下層	PL42

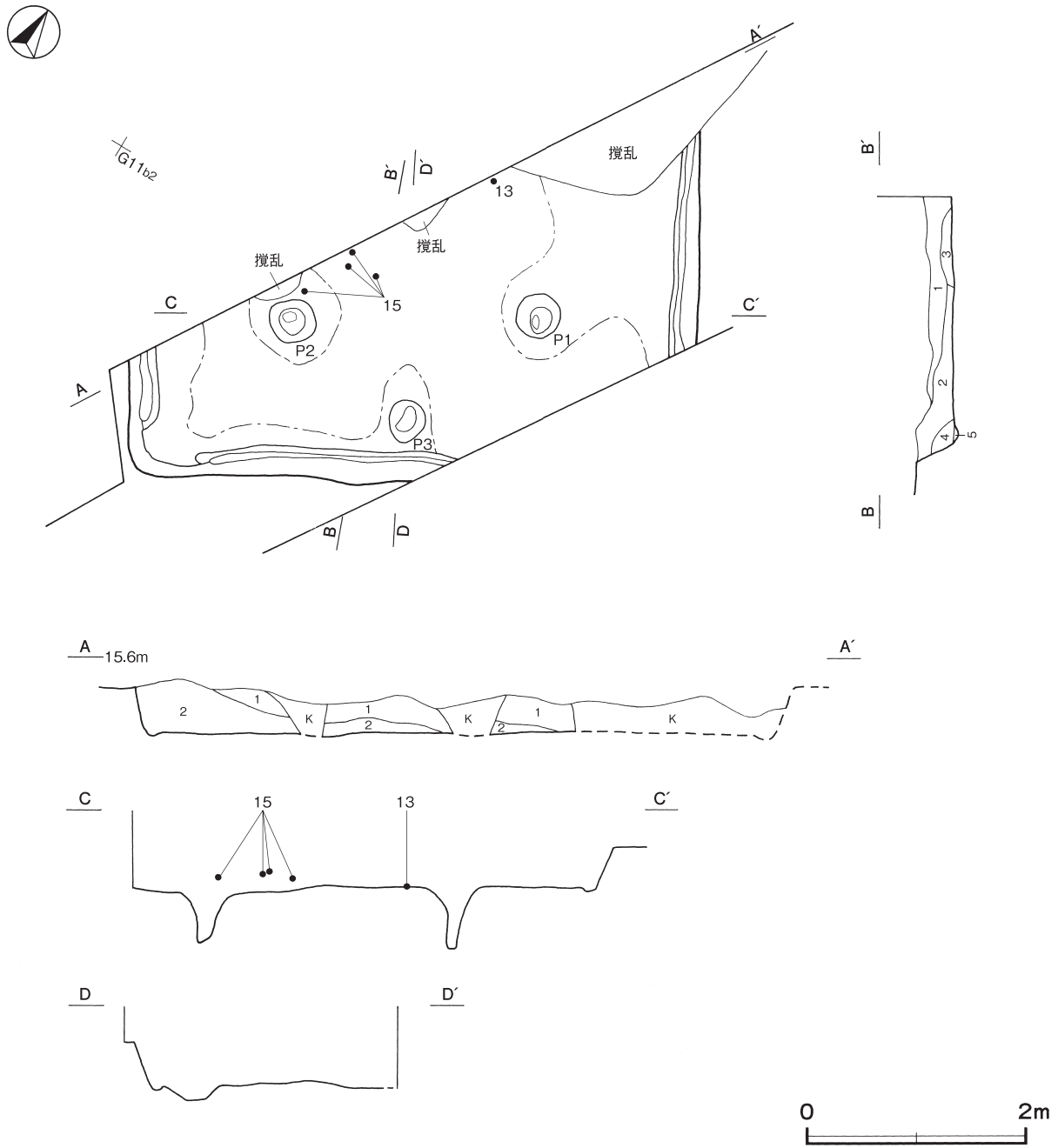
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	(9.0)	(4.2)	(6.8)	(200)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 被熱痕	覆土下層	

第6号住居跡 (第9・10図)

位置 調査区南西部のG 11a2区, 標高15mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部半分が調査区域外へ延びているため, 北東・南西軸は5.18mで, 北西・南東軸は2.36mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で, 主軸方向はN-31°-Wと推定できる。壁高は32~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 南西コーナー部を除いて壁溝が巡っている。



第9図 第6号住居跡実測図

ピット 3か所。P1・P2は深さ58cm・43cmで、規模と配置から主柱穴である。P3は深さ16cmで、南東壁側の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

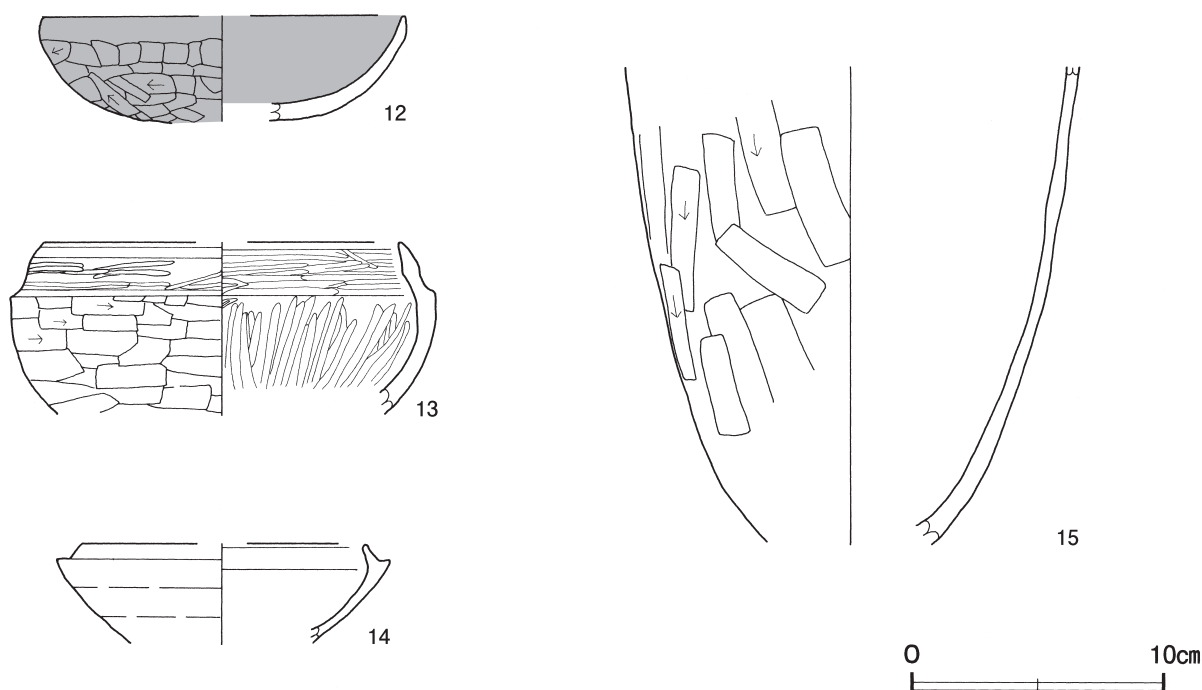
覆土 5層に分層できる。著しく攪乱を受けている。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片144点(坏38, 甕類93, 甑13), 須恵器片1点(坏)が出土している。そのほか、混入したと見られる陶器片1点も出土している。13は中央部の床面から、15は覆土下層から、12・14は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀初頭に比定できる。



第10図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表(第10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	土師器	坏	[14.4]	4.2	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土中層	25%
13	土師器	坏	[14.0]	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のヘラ磨き 体部外面横位のヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	床面	20%
14	須恵器	坏	[11.2]	(3.9)	-	長石・石英	灰黄	普通	ロクロナデ	覆土中層	20%
15	土師器	甑	-	(19.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り	覆土下層	50%

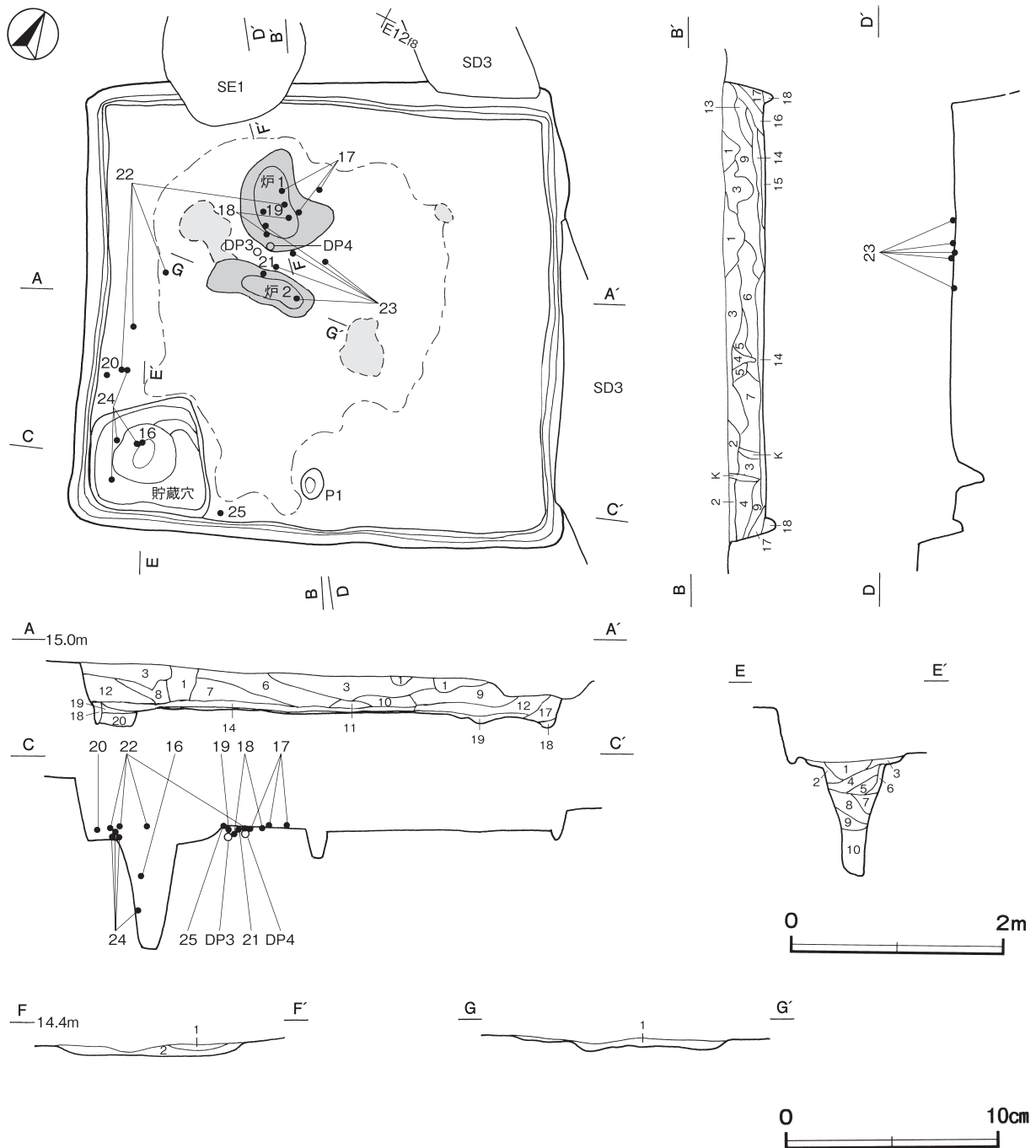
第10号住居跡（第11～14図）

位置 調査区西部のE 12f8区，標高15mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号井戸，第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m，短軸4.32mの方形で，主軸方向はN-28°-Wである。壁高は16～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。



第11図 第10号住居跡実測図（1）



第12図 第10号住居跡実測図(2)

炉 2か所。炉1は中央部からやや北西寄りに位置している。長軸95cm，短軸55cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変硬化している。炉2は，中央部からやや西寄りに位置している。長径100cm，短径40cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変硬化している。2か所の炉の新旧は不明である。

炉土層解説

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量 | 2 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子微量 |
|-----------------------|---------------------|

ピット 深さ28cmで，南東壁側の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部壁下に位置している。上端は長軸110cm，短軸105cmの方形で，中端は長径60cm，短径58cmの円形を呈している。深さは100cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

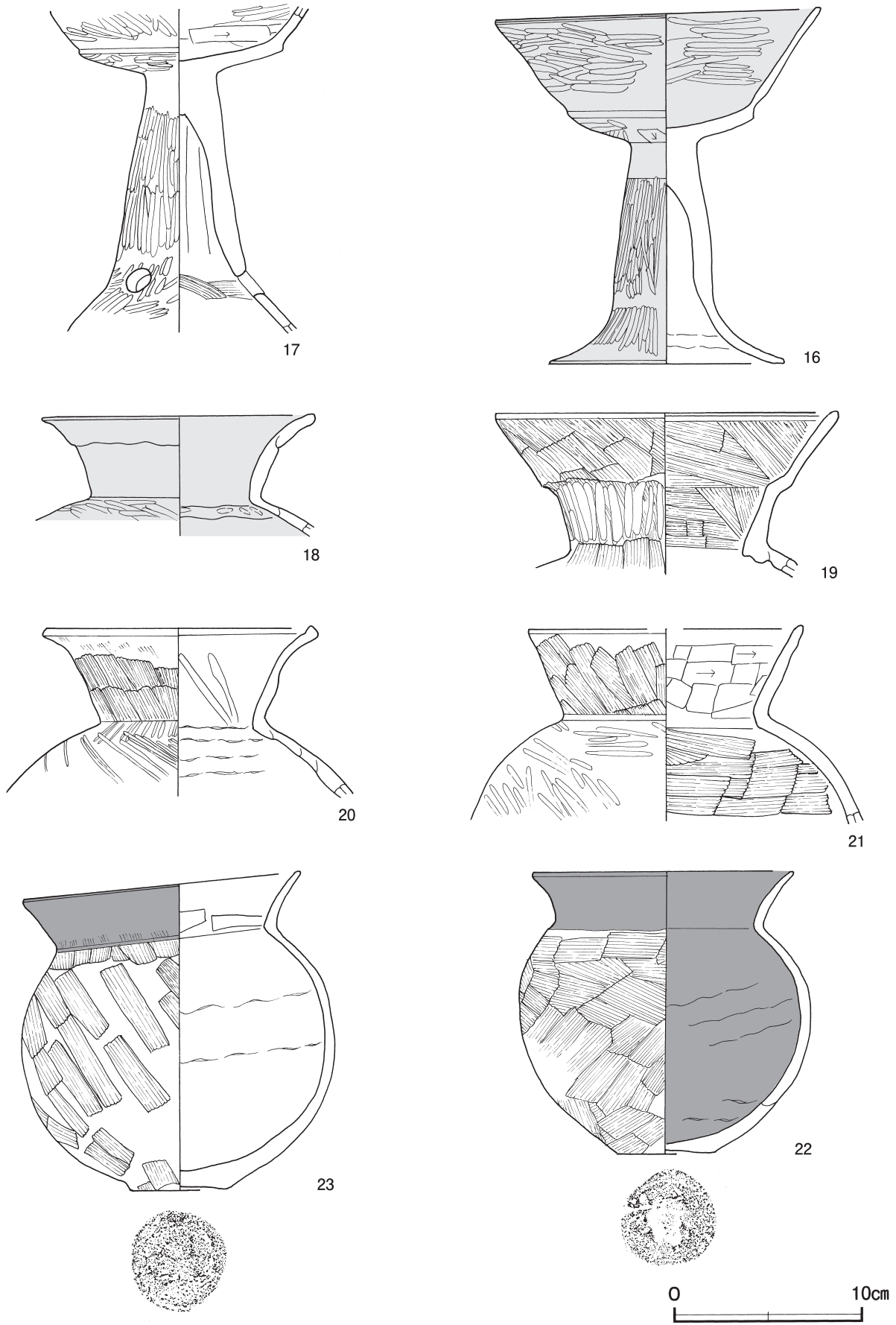
貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 9 極暗褐色 ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量 | |
| 6 褐色 ロームブロック中量 | |

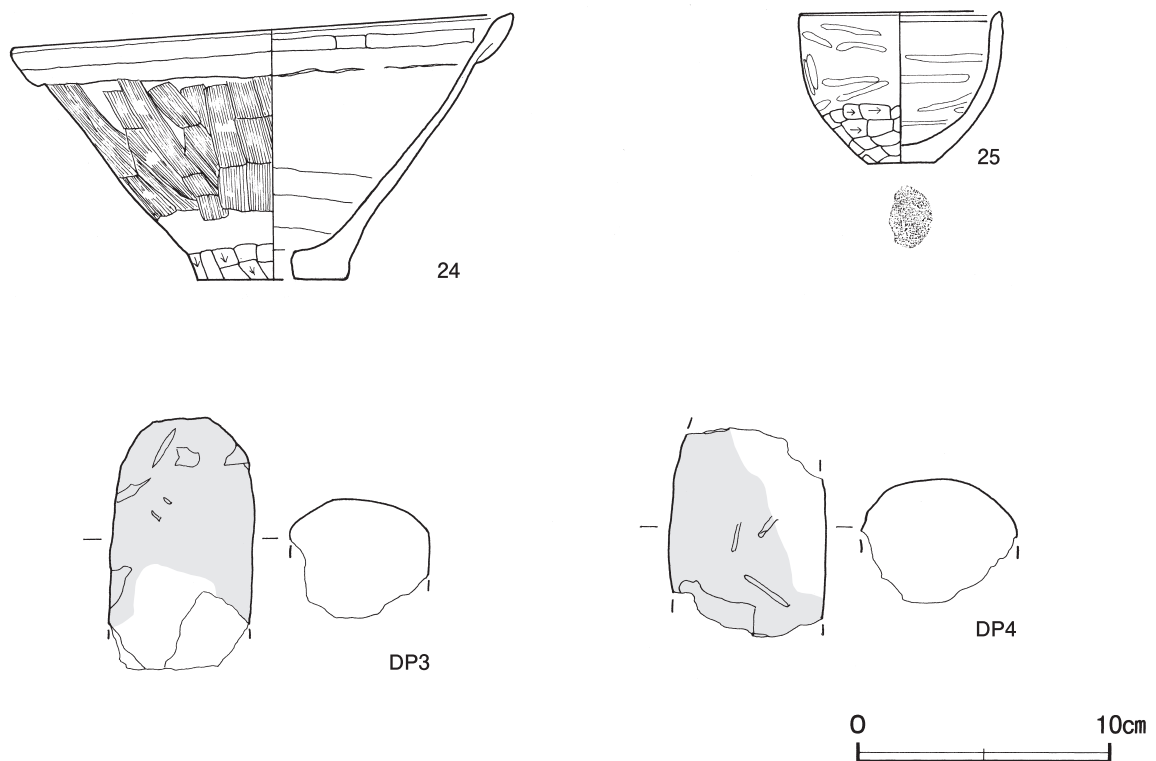
覆土 20層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化材微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化材微量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量 | 13 極暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量 | 14 暗赤褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 15 暗赤褐色 ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 極暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 18 褐色 ローム粒子中量 |
| 9 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 19 褐色 ロームブロック微量 |
| 10 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 20 暗褐色 ロームブロック少量 |



第13图 第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第14図 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片144点(埴2, 高坏14, 壺5, 甕類118, 小形甕2, 甑1, ミニチュア土器2), 土製品2点(炉器台)が出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片2点(甕類)が出土している。そのほか, 混入した須恵器片1点(蓋)も出土している。18・19は炉の覆土中から逆位の状態で, 17・21・23・25・DP3・DP4は炉の周辺に堆積した焼土の下の床面からそれぞれ出土している。いずれも住居廃絶時に遺棄されたものと見られる。20は西側の壁下の覆土下層から出土している。22は炉1の覆土中と貯蔵穴周辺の覆土下層から出土した破片が接合したものである。24は貯蔵穴周辺の床面と貯蔵穴の覆土中層から出土した破片が接合したものである。16は貯蔵穴の覆土中層から横位の状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器から4世紀後葉に比定できる。床面で検出された炭化材や焼土塊から, 焼失住居と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表(第13・14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	土師器	高坏	17.0	19.0	[12.4]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	坏部外・内面横位のヘラ磨き 脚部外面縦位のヘラ磨き 内面横ナデ 裾部外面縦位のヘラ磨き 内面輪積痕を残す横ナデ	貯蔵穴覆土中層	70% PL30
17	土師器	高坏	-	(17.4)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	坏部外・内面横位のヘラ磨き 脚部外面縦位のヘラ磨き 内面縦位のヘラ削り 裾部外面からの穿孔あり 内面上端横位のハケ目	床面	70% PL30
18	土師器	壺	14.0	(6.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 頸部外面縦位のハケ目 後横ナデ 内面上位輪積痕を残す横ナデ・指頭圧痕	炉覆土中	10%
19	土師器	壺	18.0	(8.7)	-	長石・石英・雲母	黄橙	普通	口縁部外・内面斜位のハケ目 頸部外面縦位のハケ目後縦位のヘラ磨き 頸部内面斜位・横位のハケ目	炉覆土中	10% PL31
20	土師器	壺	14.0	(9.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目後横ナデ 口縁部から頸部内面横ナデ後斜位のヘラ磨き 体部上端斜位のヘラ磨き 内面輪積痕を残す横ナデ	覆土下層	10% PL31
21	土師器	壺	[14.4]	(10.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 頸部外面斜位のハケ目 頸部内面横位のヘラ削り 体部上端縦位・斜位のヘラ磨き 内面上端横位のハケ目	床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師器	小形甕	13.8	15.1	5.2	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位・斜位のハケ目 輪積痕を残した斜位のヘラ削り	炬覆土中・覆土下層	外・内面煤付着80% PL32
23	土師器	小形甕	14.6	17.0	5.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目後横ナデ 口縁部内面横ナデ 体部外面斜位のハケ目 体部内面上端横位のヘラ削り	床面	外面煤付着60% PL32
24	土師器	甌	19.7	10.6	5.8	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 口縁部内面横位のヘラナデ 体部外面縦位のハケ目・下端縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	床面・貯蔵穴覆土中層	100% PL34
25	土師器	ミニチュア	7.8	6.0	2.4	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部上半縦位・横位のヘラ磨き・下半横位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	床面	50% PL34

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 3	炉器台	(10.1)	3.2	5.5	(260)	長石・石英	ヘラナデ 工具痕 被熱痕	床面	
DP 4	炉器台	(8.3)	5.9	6.2	(220)	長石・石英	ヘラナデ 工具痕 被熱痕	床面	

第11号住居跡（第15～19区）

位置 調査区西部のE 12c8区，標高15mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.86m，短軸7.78mの方形で，主軸方向はN-27°-Wである。壁高は8～34cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，東壁付近を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。床面には炭化材が散在し，壁際の床面からは，焼土塊が検出された。

竈 北壁の中央部からやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで，燃烧部幅は48cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第16～18層を積み上げて構築されている。火床部は床面を20cm掘り込んで，ロームブロックを含んだ第19～21層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁内に収まり，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量	11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量	15	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	褐灰色	砂質粘土粒子多量
8	黒褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック微量
9	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量
			19	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
			20	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
			21	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ59～73cmで，規模と配置から主柱穴である。P5は深さ49cmで，南壁側の中央やや東寄りで竈の正面に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部と出入り口ピットの間に位置している。長径85cm，短径65cmの楕円形で，深さは58cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

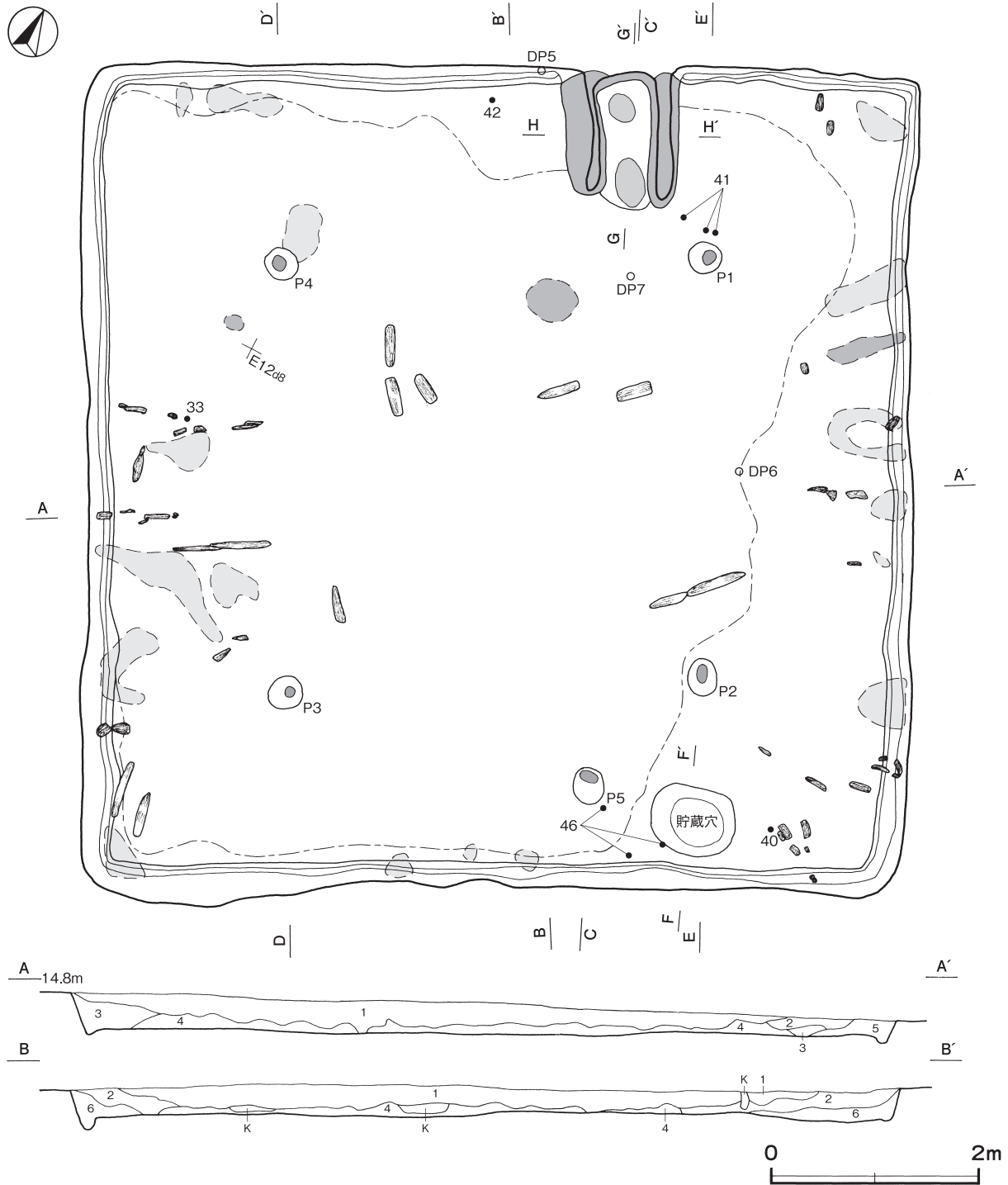
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量 | 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

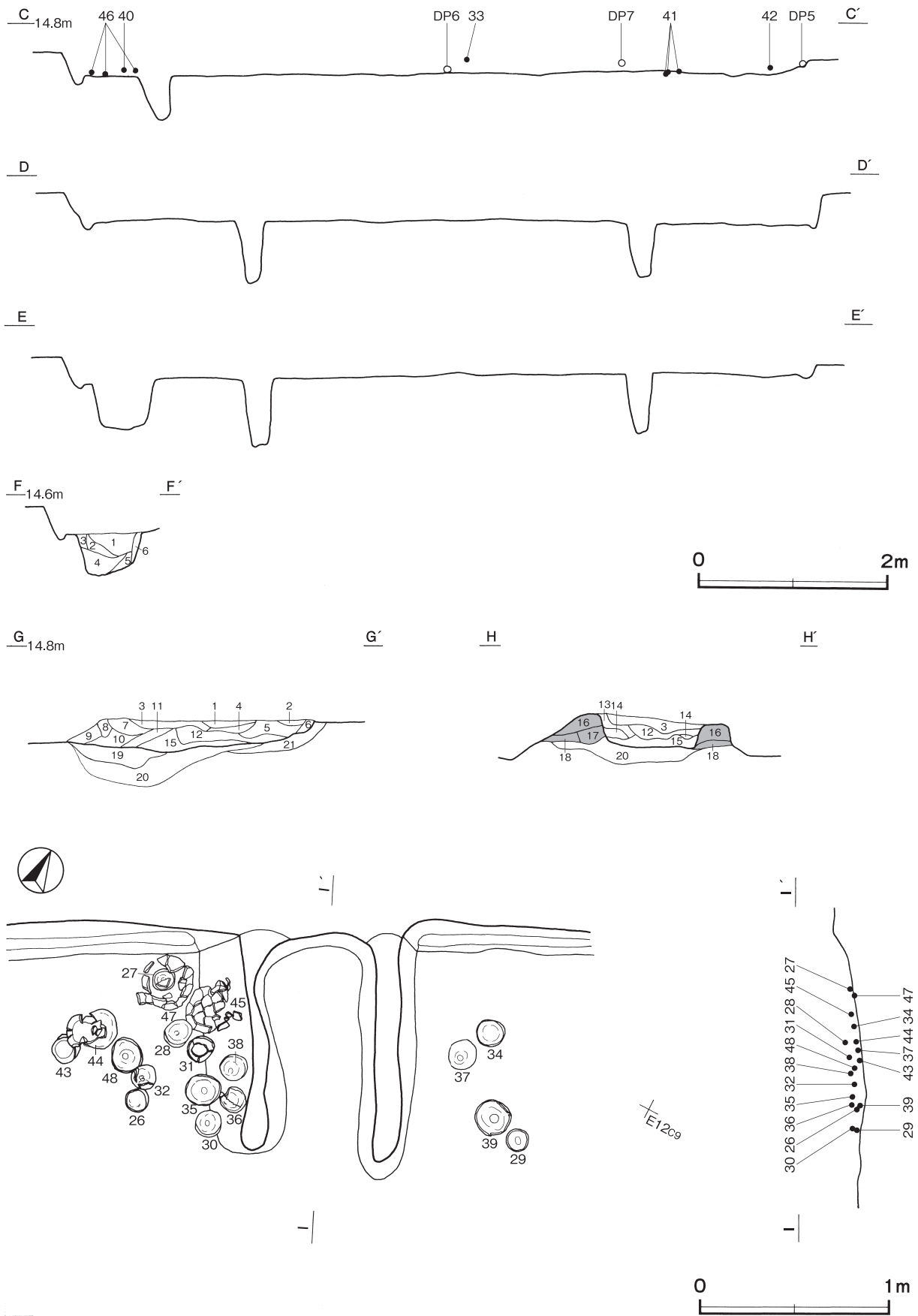
覆土 6層に分層できる。各層の含有物がブロック主体であることから、埋め戻されている。

土層解説

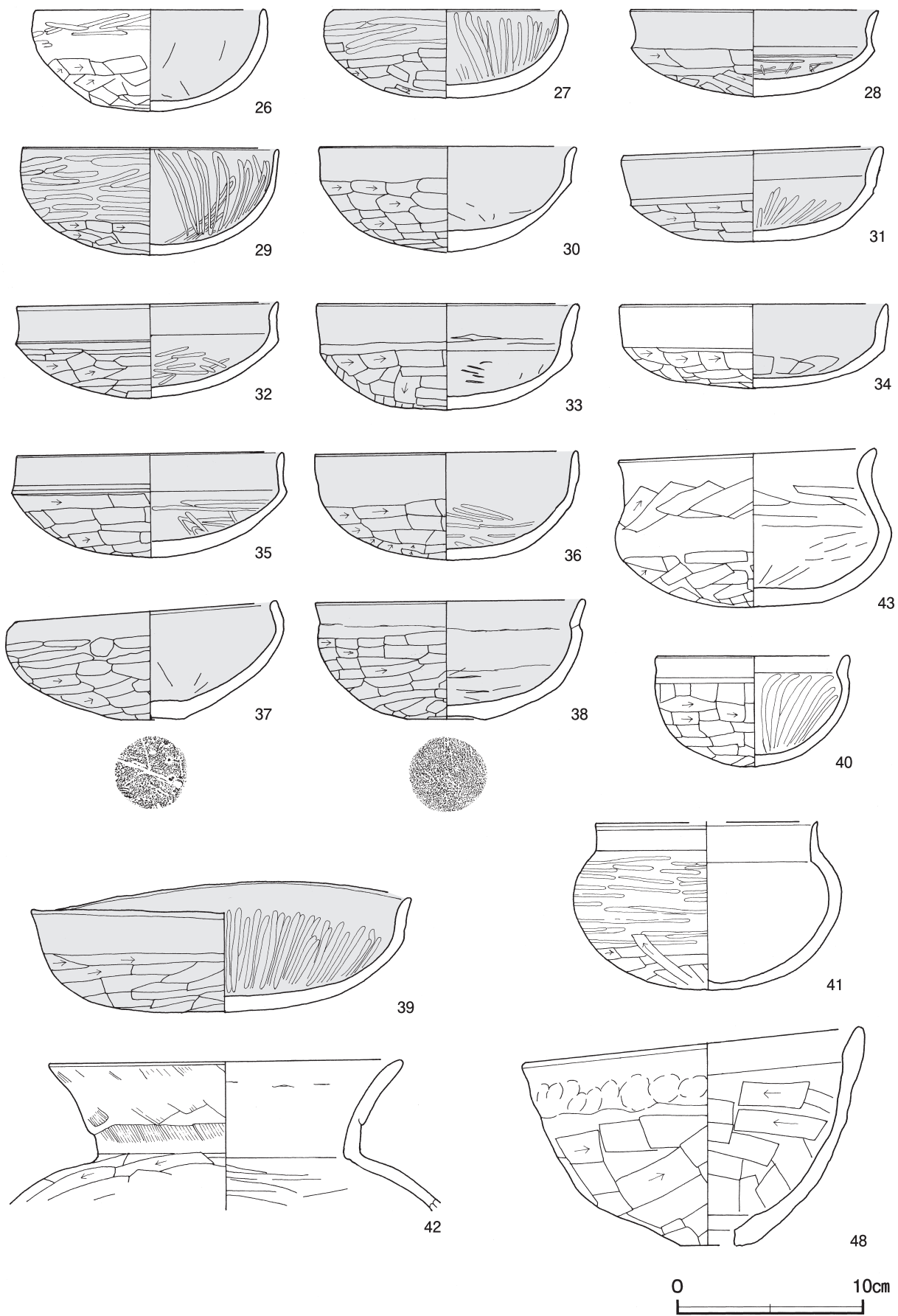
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



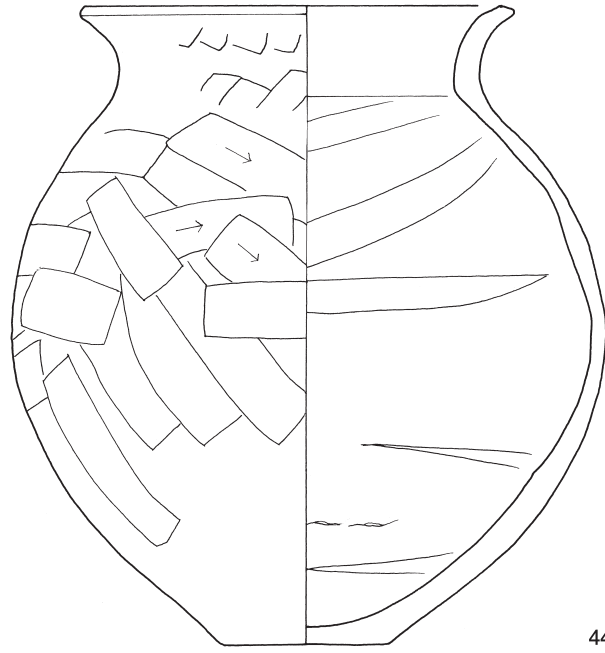
第15図 第11号住居跡実測図(1)



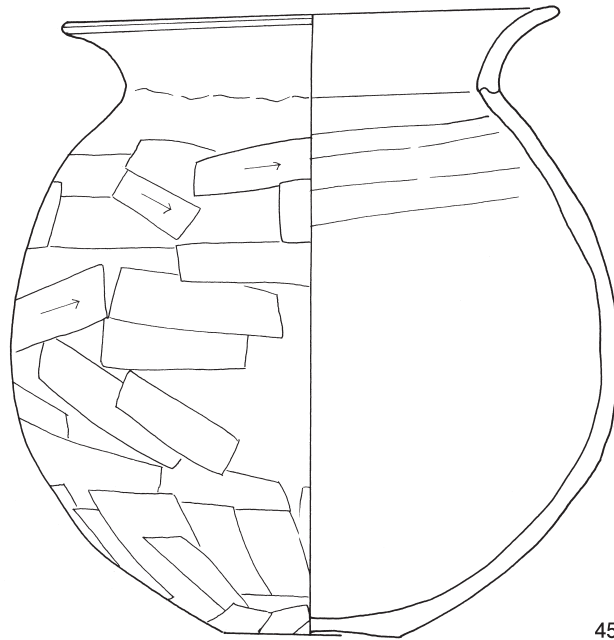
第 16 图 第 11 号住居跡実測图 (2)



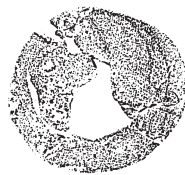
第 17 图 第 11 号住居跡出土遺物実測図 (1)



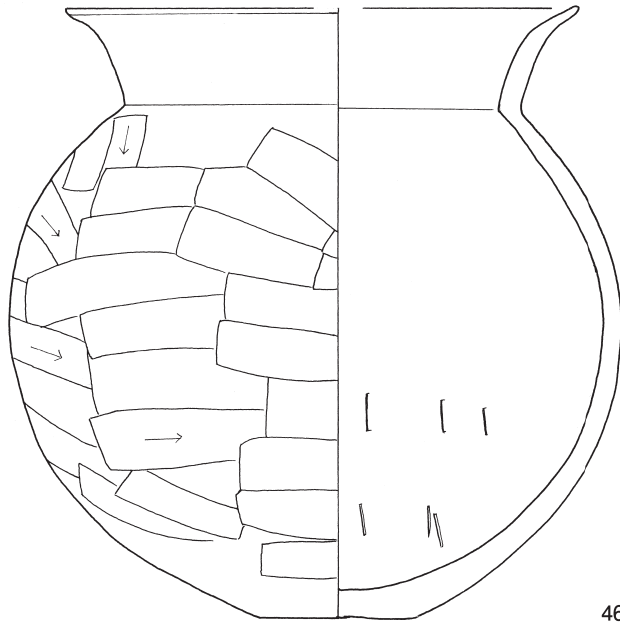
44



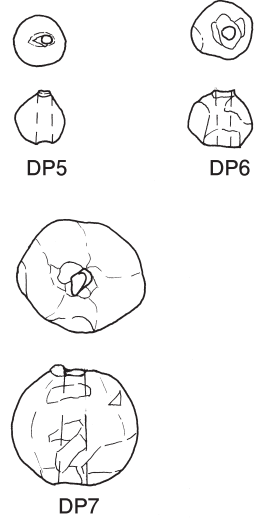
45



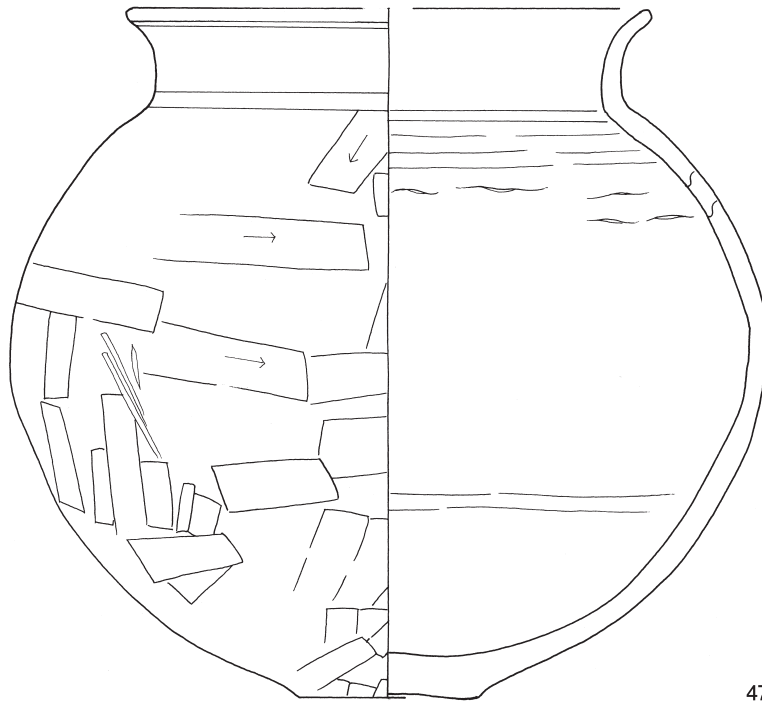
第 18 図 第 11 号住居跡出土遺物実測図 (2)



46



0 3cm



47

0 10cm

第 19 図 第 11 号住居跡出土遺物実測図 (3)

遺物出土状況 土師器片 571 点 (坏 120, 椀 7, 罎 1, 壺 1, 高坏 4, 甕類 436, 甑 2), 土製品 3 点 (土玉), 焼成粘土塊 15 点, 鉄滓 1 点 (17g) が, 壁際の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか, 混入した須恵器片 6 点 (坏), 陶器片 2 点, 剥片 3 点, 軽石 1 点も出土している。26 ~ 28・30 ~ 32・35・36・38・40・42 ~ 45・47・48・DP 5 は竈の西側の覆土下層から床面にかけて, 29・34・37・39・41 は竈の東側の床面からそれぞれ出土している。坏はほぼ正位, 甕は正位または横位の状態で出土している。DP 7 は竈の前, 33 は西壁下の覆土下層からそれぞれ出土している。40・46 は出入り口付近, DP 6 は東壁下の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 5 世紀末から 6 世紀初頭に比定できる。床面で検出された炭化材や焼土塊から, 焼失住居と考えられる。竈は, いわゆる初期竈と思われる。

第 11 号住居跡出土遺物観察表 (第 17 ~ 19 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
26	土師器	坏	12.2	5.4	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ後横位のヘラ磨き 体部横位のヘラ削り 内面横ナデ・工具痕	覆土下層	100% PL27
27	土師器	坏	12.2	4.7	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部上半横位のヘラ磨き 体部下半横位のヘラ削り 内面斜位のヘラ磨き	覆土下層	100% PL27
28	土師器	坏	13.2	4.7	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部上半横位のヘラ削り・下半斜位のヘラ削り 内面上半横位のヘラ磨き・下半多方向のヘラ磨き	覆土下層	100% PL27
29	土師器	坏	13.6	5.8	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面上半横位のヘラ磨き・下半横位のヘラ削り 内面多方向のヘラ磨き	床面	100% PL27
30	土師器	坏	13.6	5.7	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ・工具痕	覆土下層	100% PL27
31	土師器	坏	13.8	5.3	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	床面	100% PL27
32	土師器	坏	13.9	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部横位のヘラ削り 内面横位・斜位のヘラ磨き	覆土下層	98% PL27
33	土師器	坏	13.8	5.7	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ・工具痕	覆土下層	100% PL27
34	土師器	坏	14.2	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面縦位のヘラナデ	床面	100% PL27
35	土師器	坏	14.2	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面上半横位のヘラ磨き・下半多方向のヘラ磨き	覆土下層	100% PL27
36	土師器	坏	14.0	5.8	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	覆土下層	100% PL28
37	土師器	坏	13.9	6.3	3.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ・工具痕 底部木葉痕	床面	100% PL28
38	土師器	坏	14.3	6.5	4.2	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面輪積痕の残る横ナデ	覆土下層	100% PL28
39	土師器	坏	20.0	7.0	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	床面	100% PL28
40	土師器	椀	10.2	6.0	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	床面	70% PL29
41	土師器	椀	[11.8]	9.1	-	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ磨き・下端横位後縦位のヘラ削り 内面ナデ	床面	60% PL30
42	土師器	壺	18.7	(8.2)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外面ハケ目後横ナデ 口縁部内面横ナデ 頸部外面ハケ目 体部外面上端横位のヘラ削り	床面	20%
43	土師器	短頸壺	13.6	8.6	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 頸部外・内面斜位のヘラ削り 体部外面下半多方向のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	100% PL32
44	土師器	甕	16.5	25.4	6.4	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	80% PL33
45	土師器	甕	19.4	25.0	7.0	長石・石英・雲母・白色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半横位のヘラ削り・下半縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	70% PL33
46	土師器	甕	[20.2]	24.2	5.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部横位のヘラ削り 内面ナデ・工具痕	床面	70% PL33
47	土師器	甕	[20.4]	27.8	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位・横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	60%
48	土師器	甑	18.2	11.7	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上端指頭圧痕横位・斜位のヘラ削り 内面横位・斜位のヘラ削り	覆土下層	100% PL34

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 5	土玉	1.0	1.0	0.3	1.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP 6	土玉	1.3	1.1	0.2	1.6	長石・赤色粒子	ナデ 指擦痕 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP 7	土玉	2.5	2.4	0.4~0.7	14.9	長石・石英	ナデ 指擦痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL41

第 12 号住居跡（第 20 ～ 22 図）

位置 調査区西部の E 12e5 区，標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.65 m，短軸 5.55 m の方形で，主軸方向は N - 21° - W である。壁高は 42 ～ 50cm で，外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で，四隅を除いて踏み固められている。貼床は，全体を均一に掘りくぼめ，第 22 ～ 24 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。東壁及び西壁から主柱穴に向かって幅 12 ～ 23cm，長さ 85 ～ 130cm，深さ 6 ～ 8cm で U 字状の断面を呈する 4 条の間仕切り溝を確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 133cm で，燃焼部幅は 38cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 16 ～ 25 層を積み上げて構築されている。なお，右袖部の補強材として，小形甕が使用されていた。火床部は床面を 15cm 掘りくぼめ，第 26 ～ 34 層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 25cm 掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第 3 層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	15 暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2 にぶい褐色	砂質粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16 灰褐色	砂質粘土粒子多量
3 にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 明褐灰色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量
4 極暗褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	18 明褐色	砂質粘土粒子多量，炭化粒子微量
5 極暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	19 灰褐色	砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量
6 極暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	20 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
7 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量	21 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量	22 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
9 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	23 暗褐色	砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	24 暗褐色	砂質粘土粒子中量
11 暗赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	25 褐灰色	砂質粘土ブロック少量
12 暗赤褐色	焼土粒子中量，灰少量，ローム粒子・炭化粒子微量	26 極暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量	27 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
14 暗赤褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	28 褐色	砂質粘土粒子少量，砂質粘土粒子微量
		29 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量
		30 褐色	砂質粘土粒子中量・ローム粒子微量
		31 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
		32 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
		33 極暗赤褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
		34 極暗赤褐色	ローム粒子中量

ピット 7 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 43 ～ 74cm で，規模と配置から主柱穴である。P 5 ・ P 6 は深さ 19cm ・ 26 cm で，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。両者が同時に機能していたか否かについては不明である。P 7 は深さ 5 cm で，性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 84cm，短径 65cm の楕円形で，深さは 30cm である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	2 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
--------	----------------------------	-------	-----------------------

覆土 21 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第 22 ～ 24 層は，貼床の構築土である。

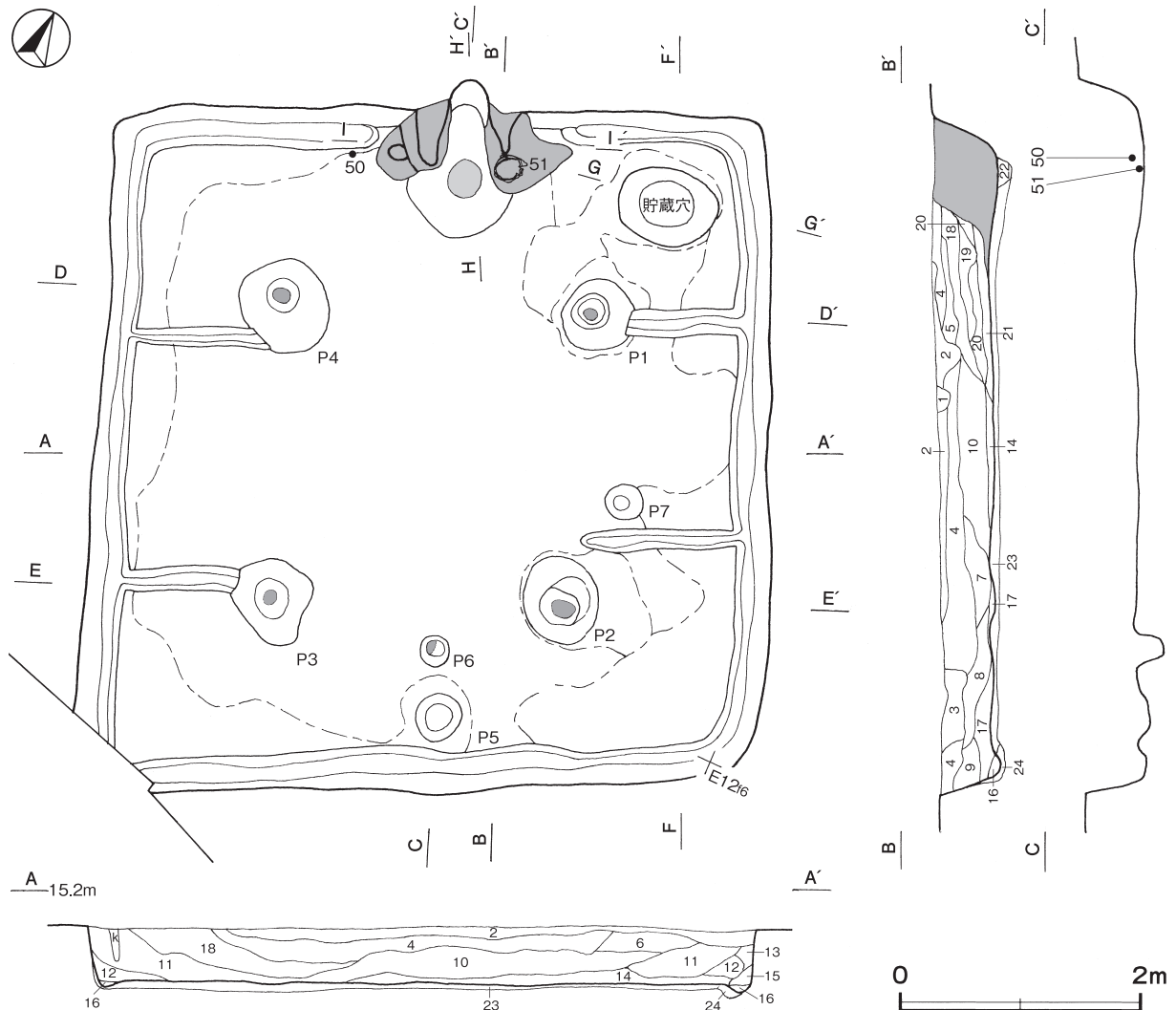
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量，炭化物微量	6 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量		
4 暗褐色	ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子微量		

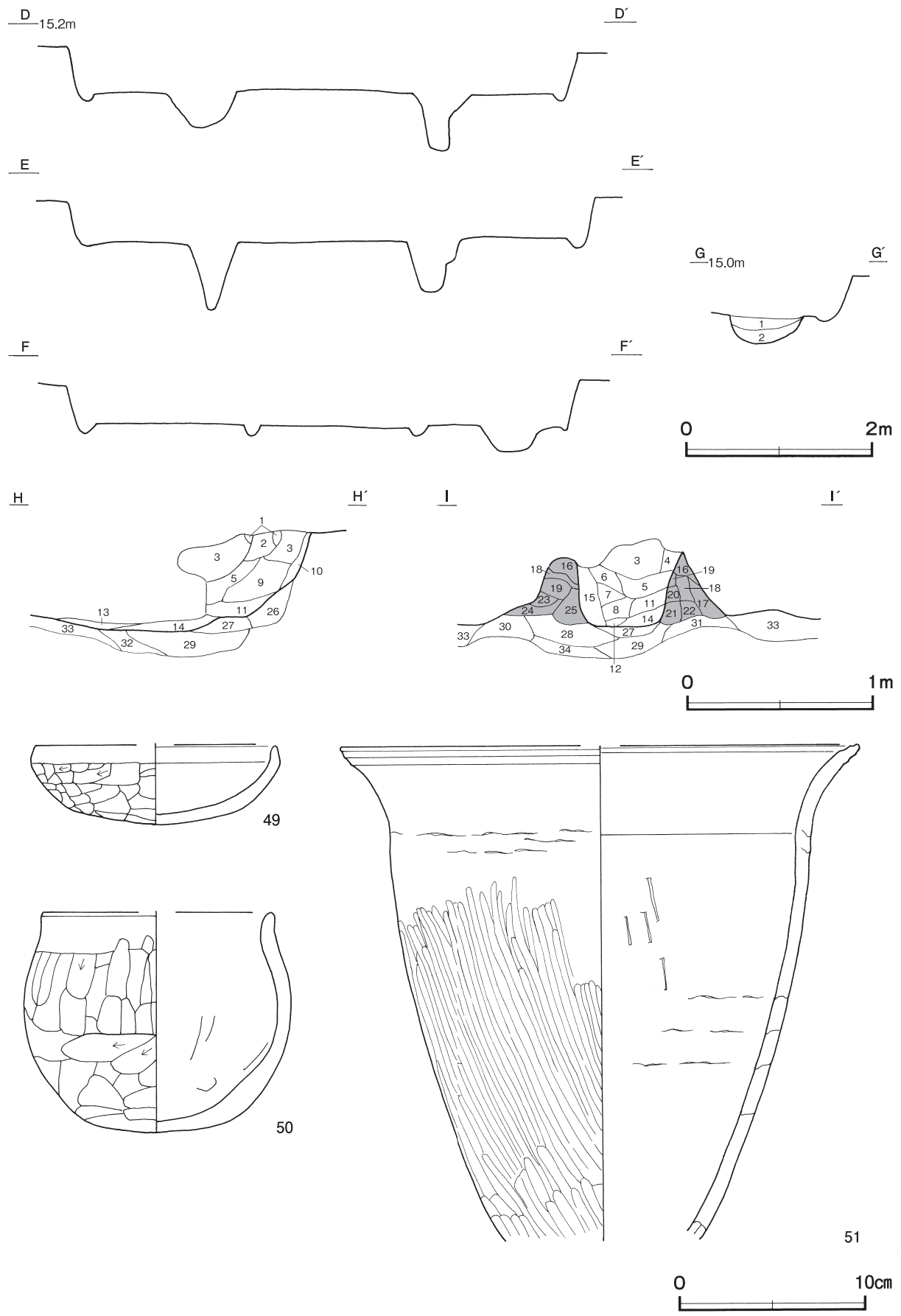
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	黒褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	19	にぶい褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	20	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
12	黒褐色	ロームブロック微量	21	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
13	極暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	22	暗褐色	焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量
14	暗褐色	ローム粒子少量	23	褐色	ロームブロック少量
15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	24	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 615点 (坏 113, 碗 2, 高坏 17, 壺 2, 甕類 478, 小形甕 1, 甑 2), 須恵器片 7点 (坏 6, 甕類 1), 土製品 2点 (勾玉, 管玉), 焼成粘土塊 2点, 鉄滓 4点 (46 g) が, 全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 8点 (坏 1, 甕類 7) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 1点 (深鉢), 剥片 1点, も出土している。50 は竈の左袖部西側の床面から, DP 9 は竈の覆土中からそれぞれ出土している。51 は竈の右袖部内に逆位の状態で補強材として使用されていた。DP 8 は竈の東側の覆土上層から, 49 は竈の西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

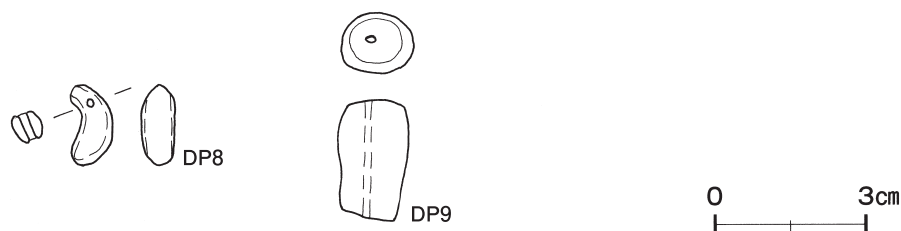
所見 時期は, 出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 20 図 第 12 号住居跡実測図 (1)



第 21 图 第 12 号住居跡実測图 (2)



第 22 図 第 12 号住居跡出土遺物実測図

第 12 号住居跡出土遺物観察表 (第 22 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	土師器	坏	[12.8]	4.2	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	70%
50	土師器	小形甕	[12.2]	11.8	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半縦位のヘラ削り・下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ・工具痕	竈右袖部内	80% PL32
51	土師器	甌	[27.8]	(26.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面輪積痕を残すヘラナデ・工具痕	床面	30%

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 8	勾玉	1.6	0.8	0.2	1.0	長石・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL42

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 9	管玉	2.5	1.4	0.15	4.8	長石・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL42

第 16 号住居跡 (第 23 図)

位置 調査区南西部の E 12f1 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部が調査区域外へ延びているため, 南北軸は 3.60 m で, 東西軸は 3.50 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で, 主軸方向は N - 15° - W と推定できる。壁高は 25 ~ 27 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁下を除いて踏み固められている。南壁下には, 壁溝が巡っている。東壁下の床面上に, 焼土塊を検出した。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 56 cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 2 は深さ 13 cm で, 東壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

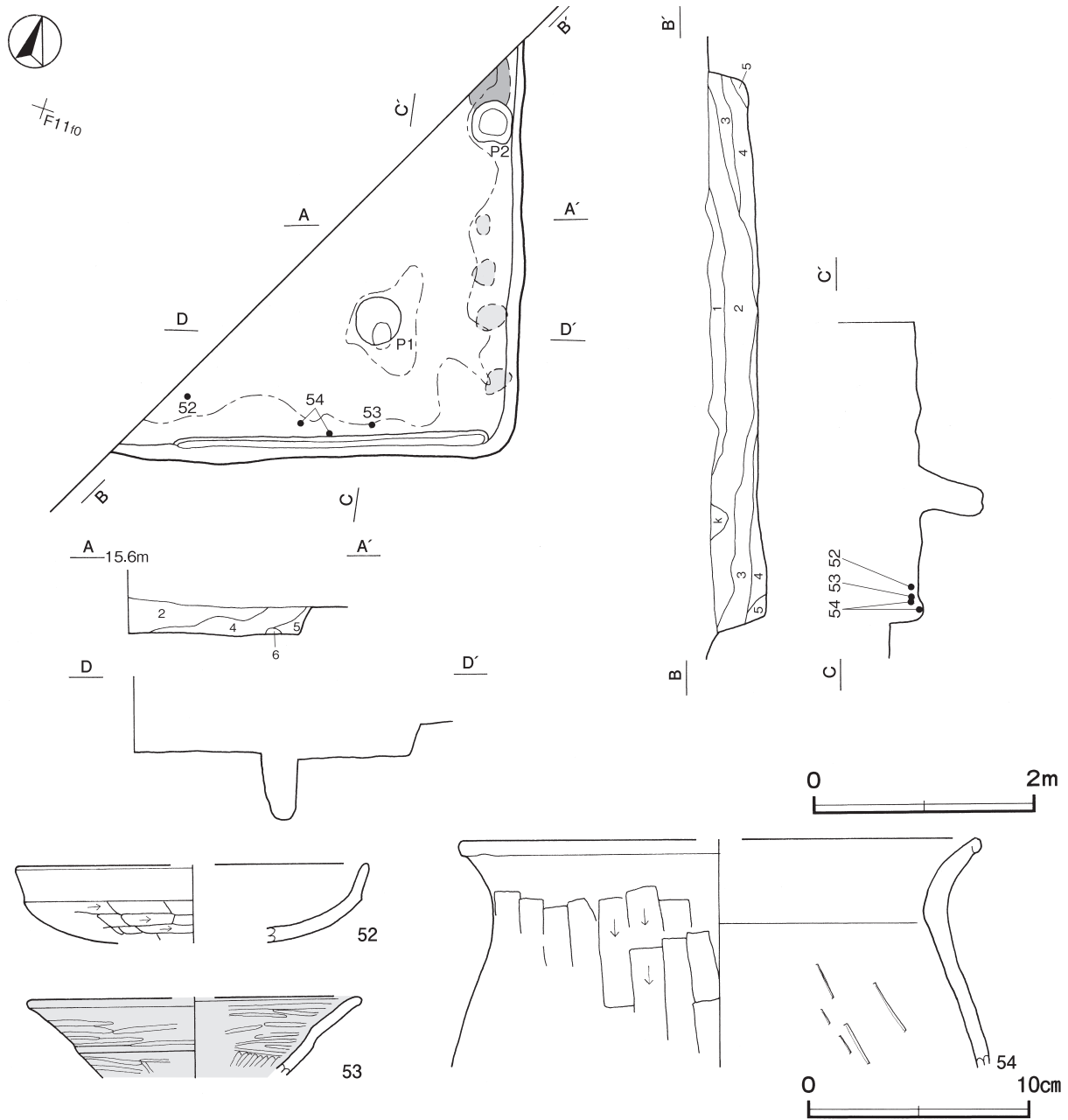
覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 59 点 (坏 2, 高坏 15, 埴 8, 甕類 34), 焼成粘土塊 1 点が出土している。出土遺物のほとんどが細片である。52 ~ 54 は南壁下の床面上からそれぞれ出土している。54 は 2 点の小片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から 6 世紀前葉に比定できる。覆土下層で確認した焼土塊は, いずれも床面まで達していないことから, 住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



第23図 16号住居跡・出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
52	土師器	坏	[15.8]	(3.5)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ割り	床面	10%
53	土師器	高坏	[15.0]	(3.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 坏部外面横位のヘラ磨き・内面上半横位のヘラ磨き・下半放射状のヘラ磨き	床面	5%
54	土師器	甕	[23.4]	(10.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ割り・内面工具痕	床面	5%

第18号住居跡（第24図）

位置 調査区西部のD 12h5区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は3.80mで、北西・南東軸は3.56mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-26°-Wと推定できる。壁高は4~23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。東コーナー部から南壁下には壁溝が巡っている。

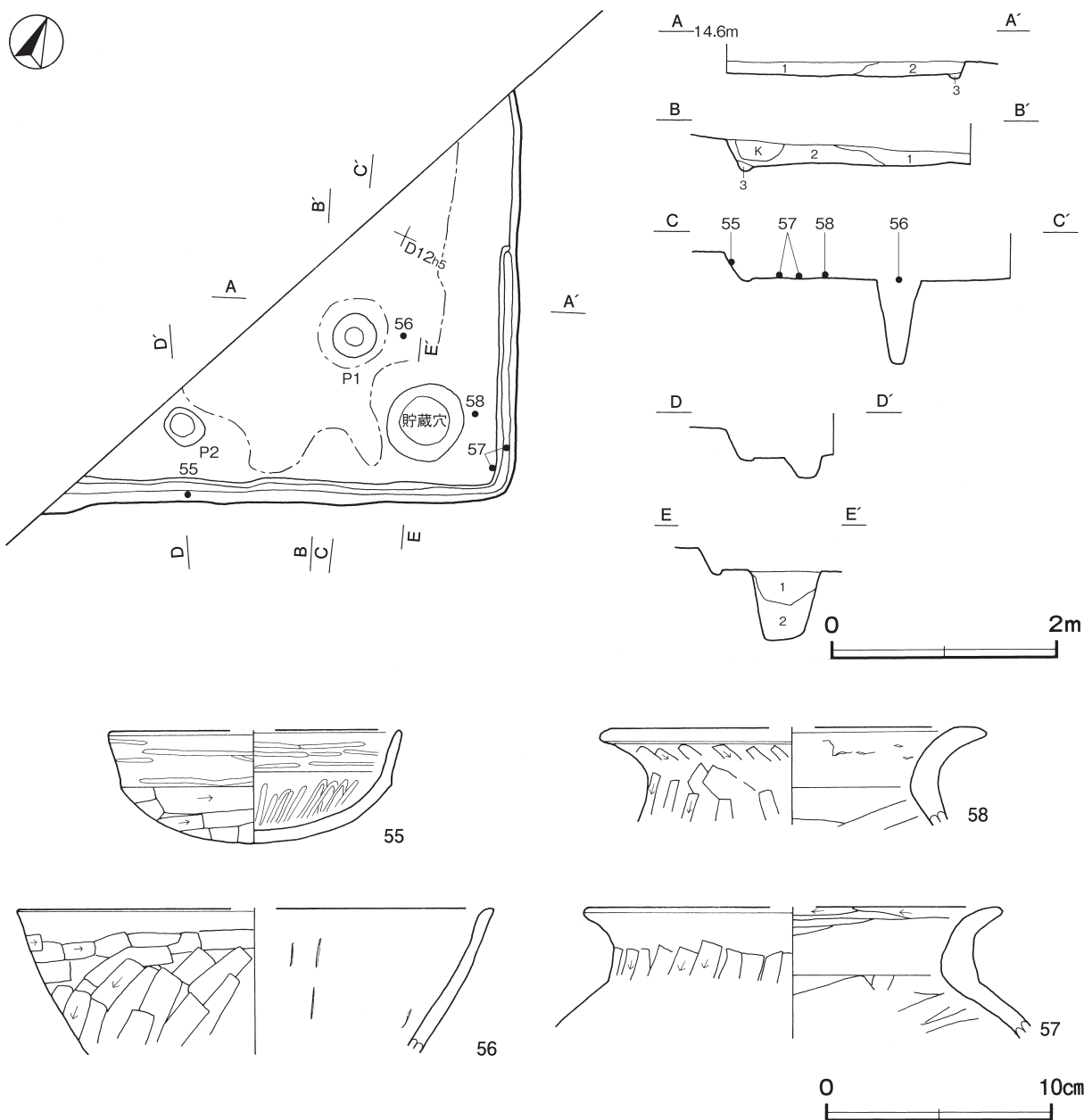
ピット 2か所。P1は深さ75cmで、規模と配置から支柱穴である。P2は深さ21cmで、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径72cm、短径65cmの楕円形で、深さは66cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

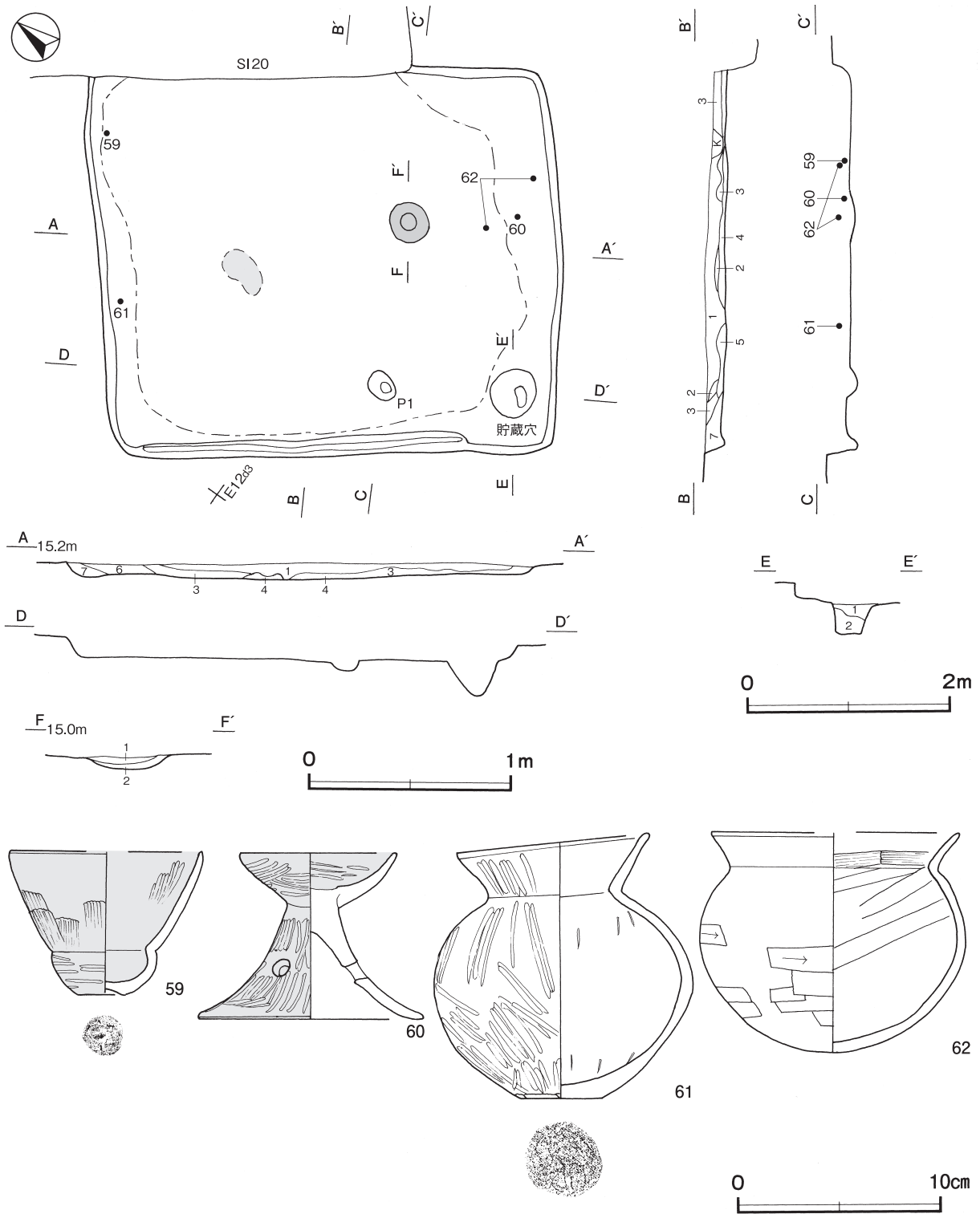
1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量



第24図 第18号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 35 点 (埴 4, 器台 1, 壺 1, 甕類 28, 小形甕 1), 鉄滓 2 点 (53g) が出土している。そのほか, 混入したとみられる須恵器片 2 点 (坏, 蓋) も出土している。62 は炉の東側床面上に散在していた 3 点の小片が接合したものである。59・61 は北西壁下, 60 は北東壁下の覆土下層からそれぞれ出土している。
所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。床面で確認した焼土塊は, 断ち割ってみたところ床面が赤変していないことから, 炉ではなく, 住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



第 25 図 第 19 号住居跡・出土遺物実測図

第 19 号住居跡出土遺物観察表 (第 25 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
59	土師器	埴	[9.4]	7.1	2.0	長石・石英	赤	普通	口縁部外・内面上端横ナデ・外面下部縦位のハケ目・内面下部縦位のヘラ磨き 体部外面横位のヘラ磨き	覆土下層	70% PL31
60	土師器	器台	7.6	8.2	11.0	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	受部外・内面横位のヘラ磨き 脚部外面縦位のヘラ磨き 内面縦位のヘラ削り	覆土下層	100% PL31
61	土師器	壺	9.3	13.1	4.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面縦位のヘラ磨き 体部外面縦位のヘラ磨き	覆土下層	80% PL31
62	土師器	小形甕	[12.2]	10.0	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ハケ目後横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面斜位のヘラナデ	床面	70%

第 20 号住居跡 (第 26 ~ 28 図)

位置 調査区西部の E 12b4 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 19・21 号住居跡を掘り込み, 第 21 号土坑, 第 3 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 7.40 m, 短軸 7.35 m の方形で, 主軸方向は N - 35° - W である。壁高は 30 ~ 45cm で, 外傾して立ち上がっている。南東壁中央やや北東寄りに, 貯蔵穴を伴って方形に張り出している。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。南西側の壁溝と P 4 をつなぐように, 幅 18 ~ 22cm, 長さ 150cm, 深さ 10cm で断面が逆台形の間仕切り溝を確認した。貯蔵穴の北側の床面に高まりを確認した。また, 南西側床面上に, 数か所の焼土塊を検出した。

竈 北西壁の中央部からやや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 106cm で, 燃焼部幅は 50 cm である。袖部は, 右側が第 3 号溝によって掘り込まれているが, 砂質粘土を主体とした第 7 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 24cm 掘り込んで, ローム粒子, 焼土粒子を含んだ第 8 ~ 10 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁内に収まり, 奥壁は直立している。

竈土層解説

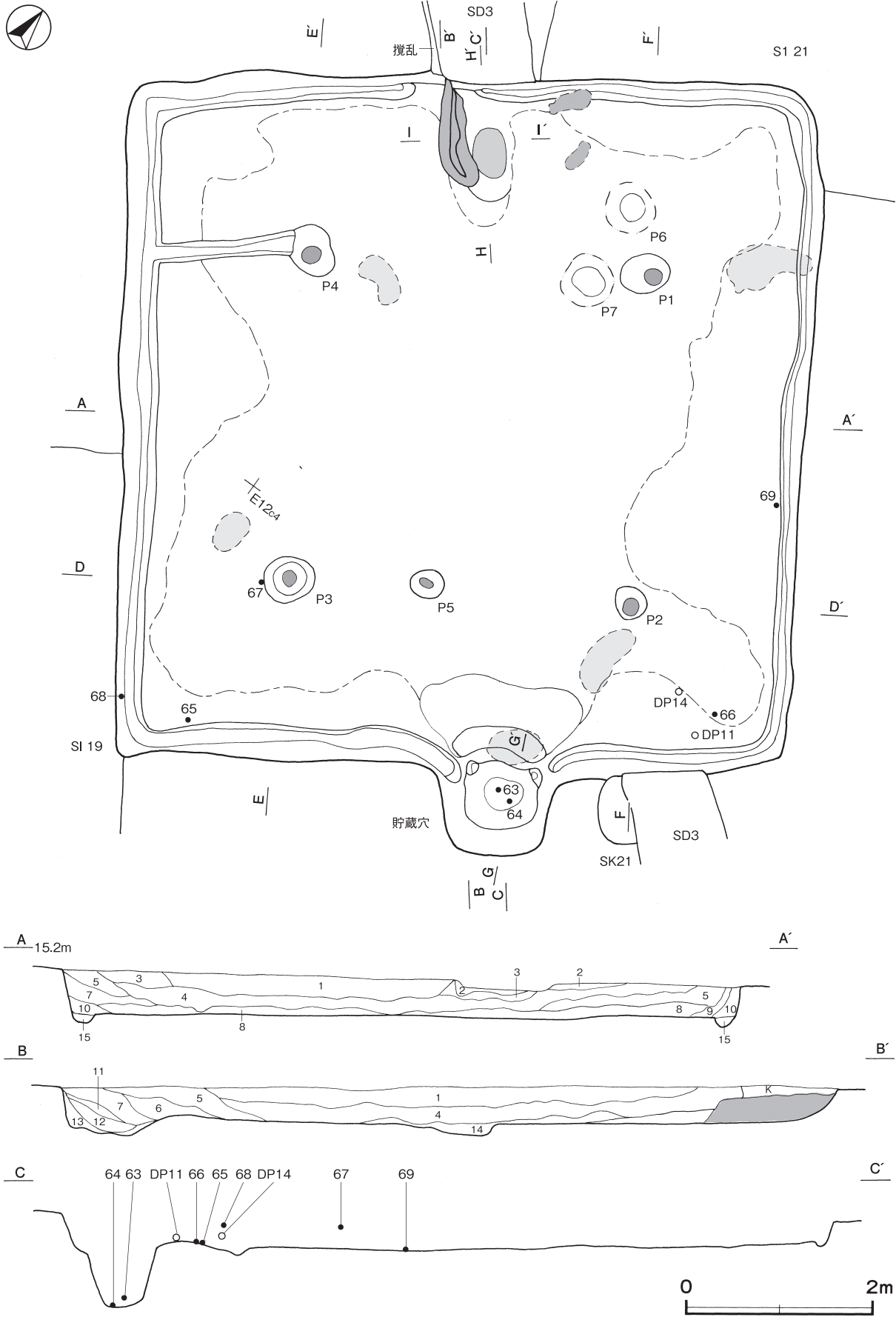
1	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ロームブロック炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
2	にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量炭化粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量	8	褐色	ローム粒子中量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量
5	暗褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量

ピット 7 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 58 ~ 95cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 20cm で, 南東壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7 は深さ 27cm・23cm で, P 1 付近の床下から確認したが, 性格は不明である。

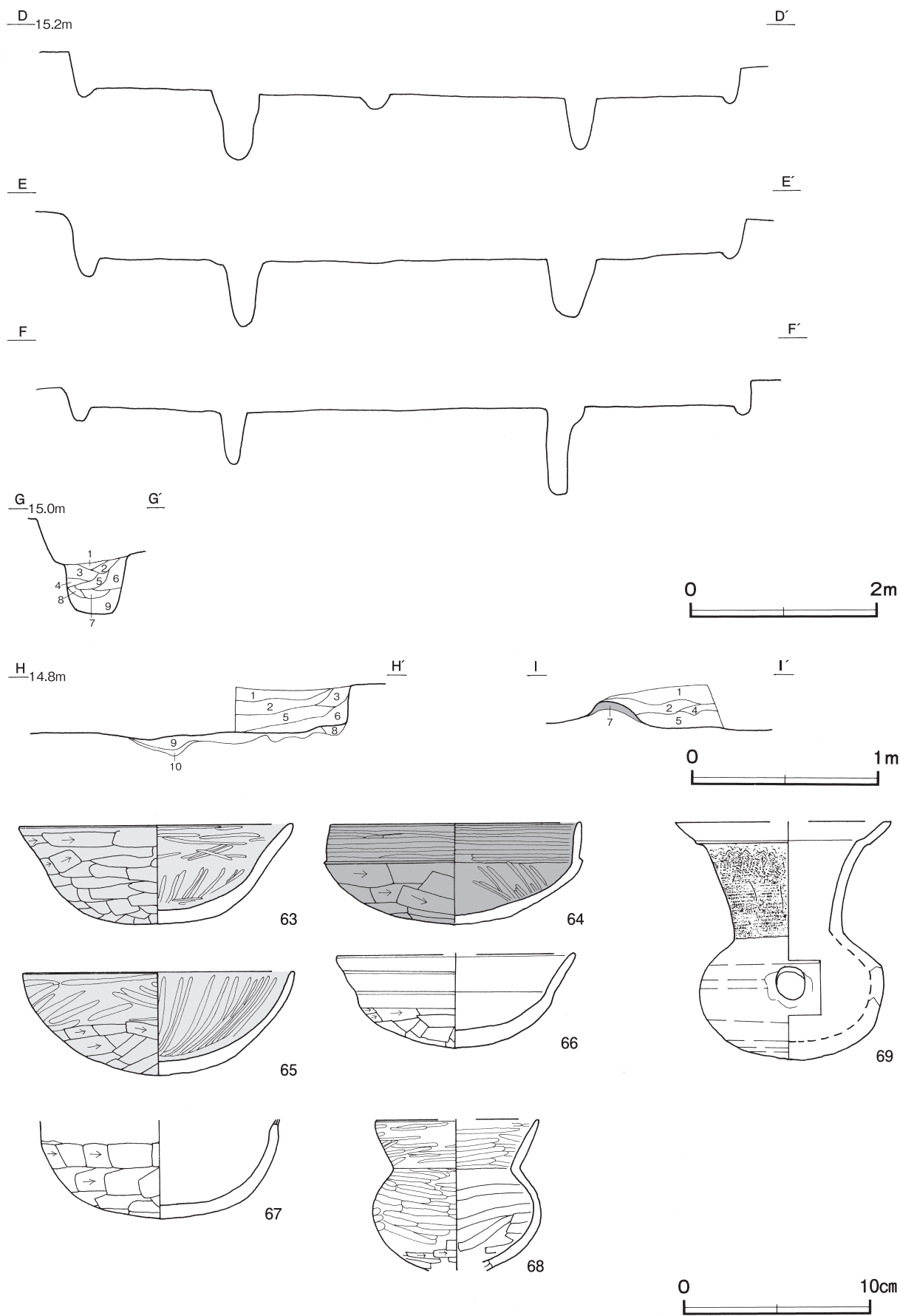
貯蔵穴 南西壁のやや東寄りに張り出して掘られ, 竈の正面に位置している。長軸 140cm, 短軸 114cm の長方形である。深さは 64cm で, 底面は平坦である。内側の壁は, 外傾して立ち上がっている。外側の壁は, 床面と同じ高さで段を持ち, 外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

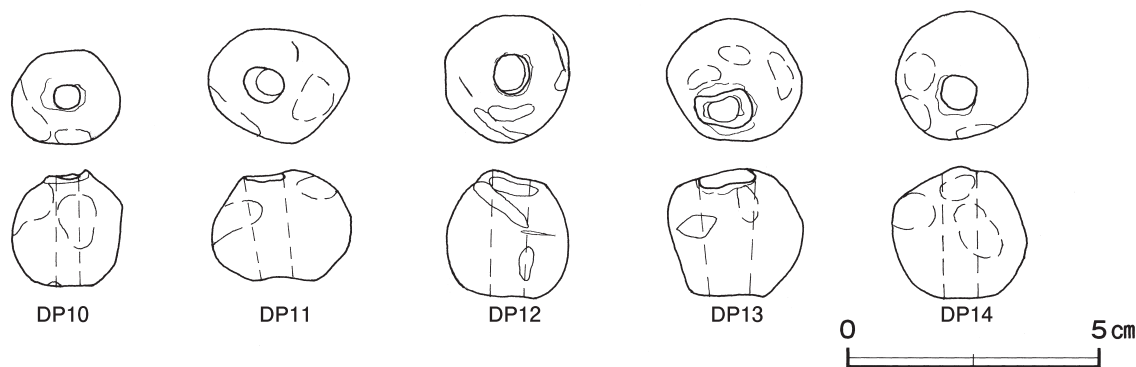
1	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量			



第 26 図 第 20 号住居跡実測図



第 27 图 第 20 号住居跡・出土遺物実測図



第 28 図 第 20 号住居跡出土遺物実測図

覆土 15 層に分層できる。第 1 層はロームブロックが主体であることから、埋め戻されている。第 2～15 層は周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|----------|------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 14 極暗褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 にぶい褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化材・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 866 点 (坏 256, 埴 5, 高坏 1, 甕類 604), 須恵器片 10 点 (坏 5, 甗 1, 甕類 4), 土製品 5 点 (土玉), 焼成粘土塊 25 点, 鉄滓 6 点 (43g) が, 全面的覆土上層から床面にかけて出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 15 点 (坏 7 点, 甕類 8) が出土している。そのほか, 流れ込んだ縄文土器片 3 点 (深鉢) も出土している。69 は, 北東壁下の床面から横位の状態で出土している。63 は貯蔵穴中央部の覆土下層, 64 は底面からそれぞれ出土している。65 は南コーナー部付近, 66・DP11・DP14 は東コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。DP13 は, 覆土下層から出土している。67 は P 3 付近, 68 は南コーナー部壁際, DP12 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP10 は東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 5 世紀末から 6 世紀初頭に比定できる。床面上で確認した焼土塊は, 断ち割ってみたところ, 床面が赤変していないことから, 住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。貯蔵穴北側の高まりは, 仕切りと推定できる。竈は, いわゆる初期竈と思われる。

第 20 号住居跡出土遺物観察表 (第 27・28 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
63	土師器	坏	14.5	5.3	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面横位のヘラ削り 口縁部内面横位のヘラ磨き 体部内面縦位のヘラ磨き	貯蔵穴覆土下層	100% PL28
64	土師器	坏	13.2	5.4	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横位のヘラ磨き 体部横位のヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	貯蔵穴底面	90% PL28
65	土師器	坏	14.5	5.5	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のヘラ磨き 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	床面	80% PL28
66	土師器	坏	[12.8]	5.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下半横位のヘラ削り 内面横ナデ	床面	80% PL28
67	土師器	坏	-	(5.2)	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土中層	60%
68	土師器	埴	[8.6]	(8.1)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のヘラ磨き 体部外面横位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	覆土中層	30%
69	須恵器	甗	[11.6]	12.3	-	長石・石英	黄灰	普通	頸部上半 16 本の櫛歯状工具による波状文下半ヘラナデ 体部外面下半回転ヘラ削り・外面からの穿孔あり	床面	80% 自然釉 PL31

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP10	土玉	1.9 ~ 2.2	2.3	0.5	9.4	長石・赤色粒子	ナデ 指頭擦痕 一方向からの穿孔	覆土上層	PL41
DP11	土玉	2.3 ~ 2.8	2.2	0.7 ~ 0.8	12.3	長石・石英・ 雲母	ナデ 指頭擦痕 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP12	土玉	2.5	2.5	0.7 ~ 0.9	14.8	長石・石英・ 赤色粒子	ナデ 工具痕 一方向からの穿孔	覆土中層	PL41
DP13	土玉	2.7	2.5	0.6 ~ 1.1	14.1	長石・石英・ 雲母	ナデ 指頭擦痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL41
DP14	土玉	2.6	2.6	0.7	14.9	長石・石英・ 雲母	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	PL41

第21号住居跡（第29～31図）

位置 調査区西部のD12J4区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第20号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.55m、短軸5.40mの方形で、主軸方向はN-63°-Eである。壁高は12～22cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、南東コーナー部を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、壁下を帯状に掘り込み、ロームブロック主体の第8層を埋土して構築されている。炉の北側の床面上に焼土塊を確認した。

炉 中央部からやや東寄りに位置している。長径55cm、短径48cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた後、中心に甕を据えた土器埋設炉である。炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ69～76cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ19cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径76cm、短径65cmの楕円形で、深さは60cmである。底面は皿状で、外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

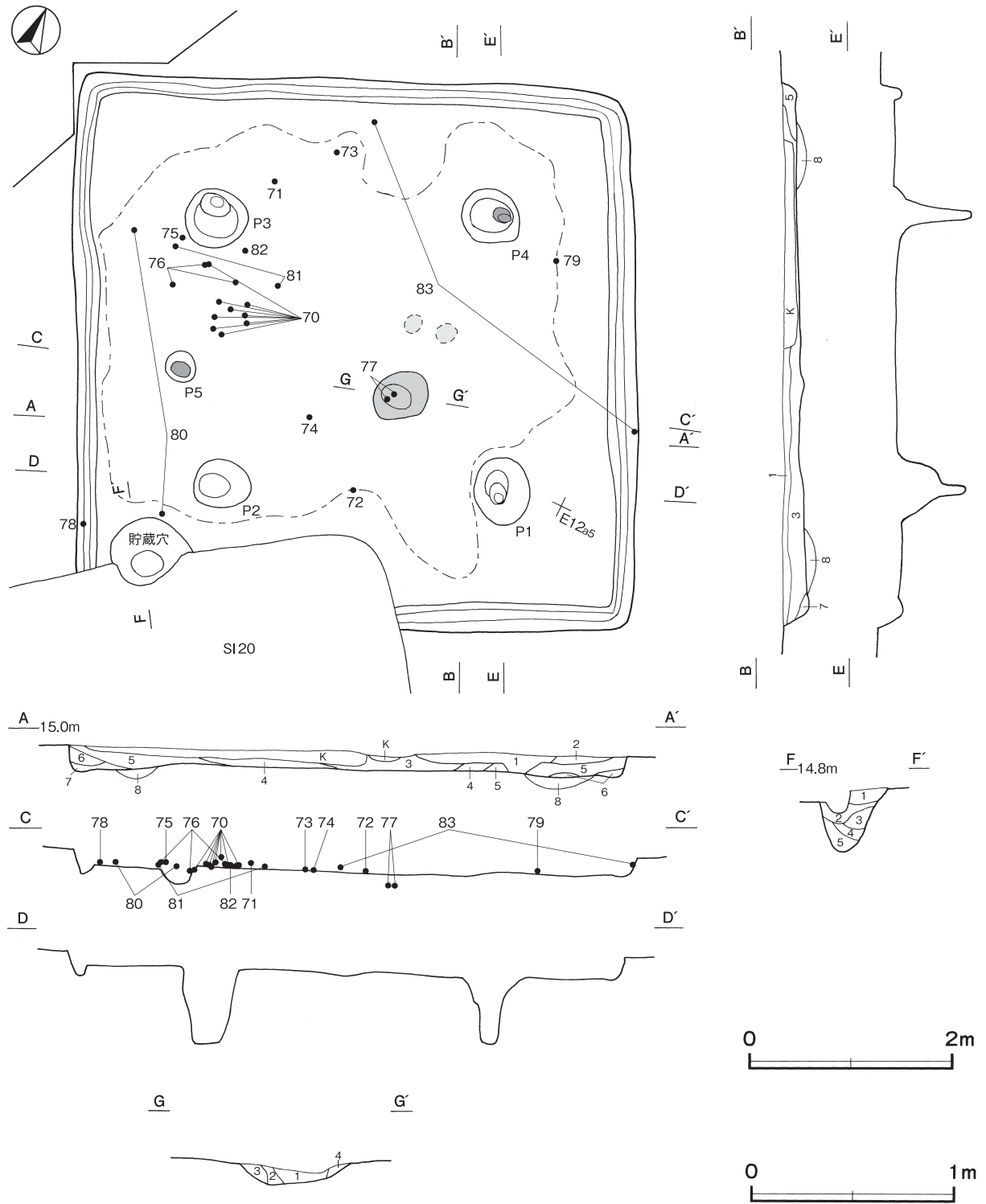
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

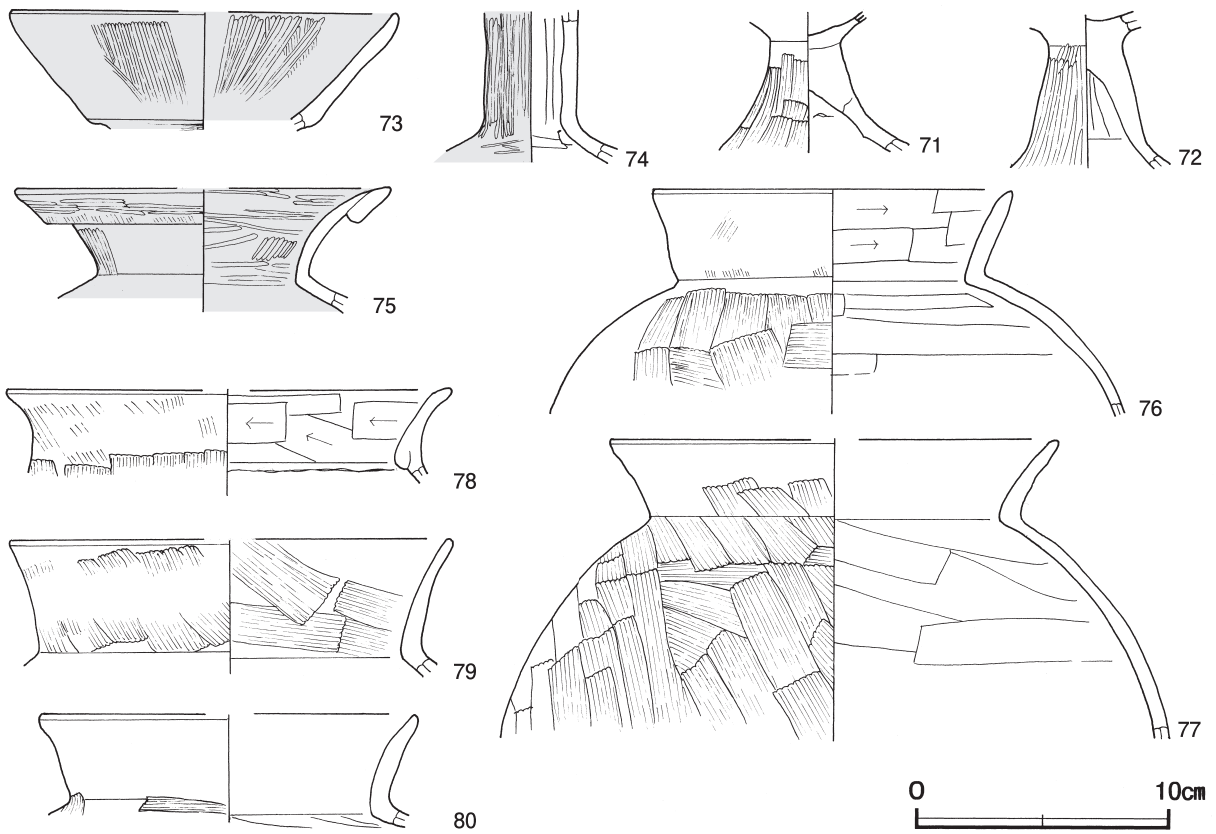
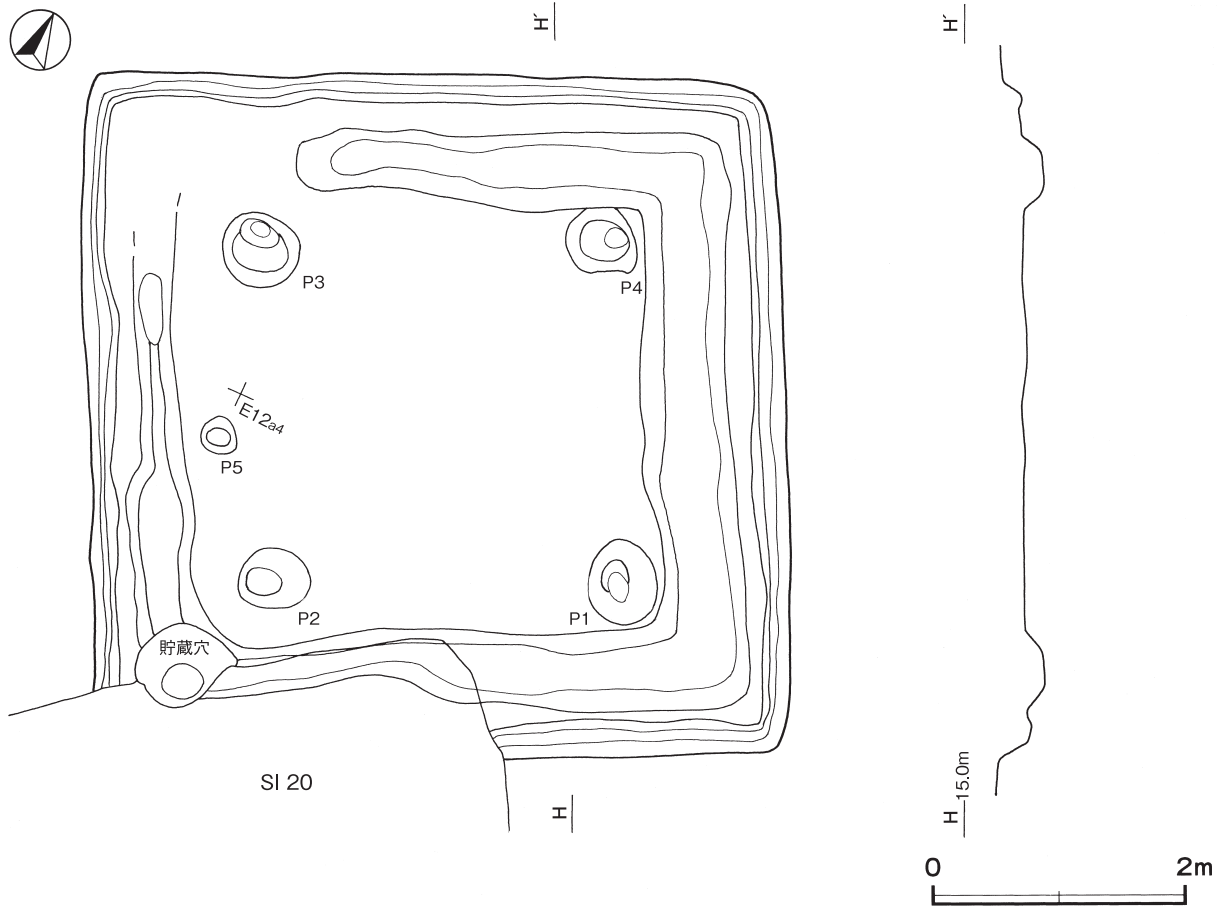
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片672点（坏33、埴6、器台2、高坏5、壺1、甕類625）、焼成粘土塊1点、鉄滓2点（23g）が、覆土中層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片8点（坏1、甕類7）が出土している。そのほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）、須恵器片13点（坏5、長頸壺1、甕類6、甗1）、剥片1点、も出土している。73は北部、74は中央部、82は西部、78・80は西壁際の床面からそれぞれ出土している。77は埋設炉の構築材として使用されていた。71・75・76・81・70は西部、72は南壁下、79は東部覆土下層からそれぞれ出土している。75・76・81・70は散在していた小片が接合したものである。83は北部と東部の覆土中層から出土している2点が接合したものである。

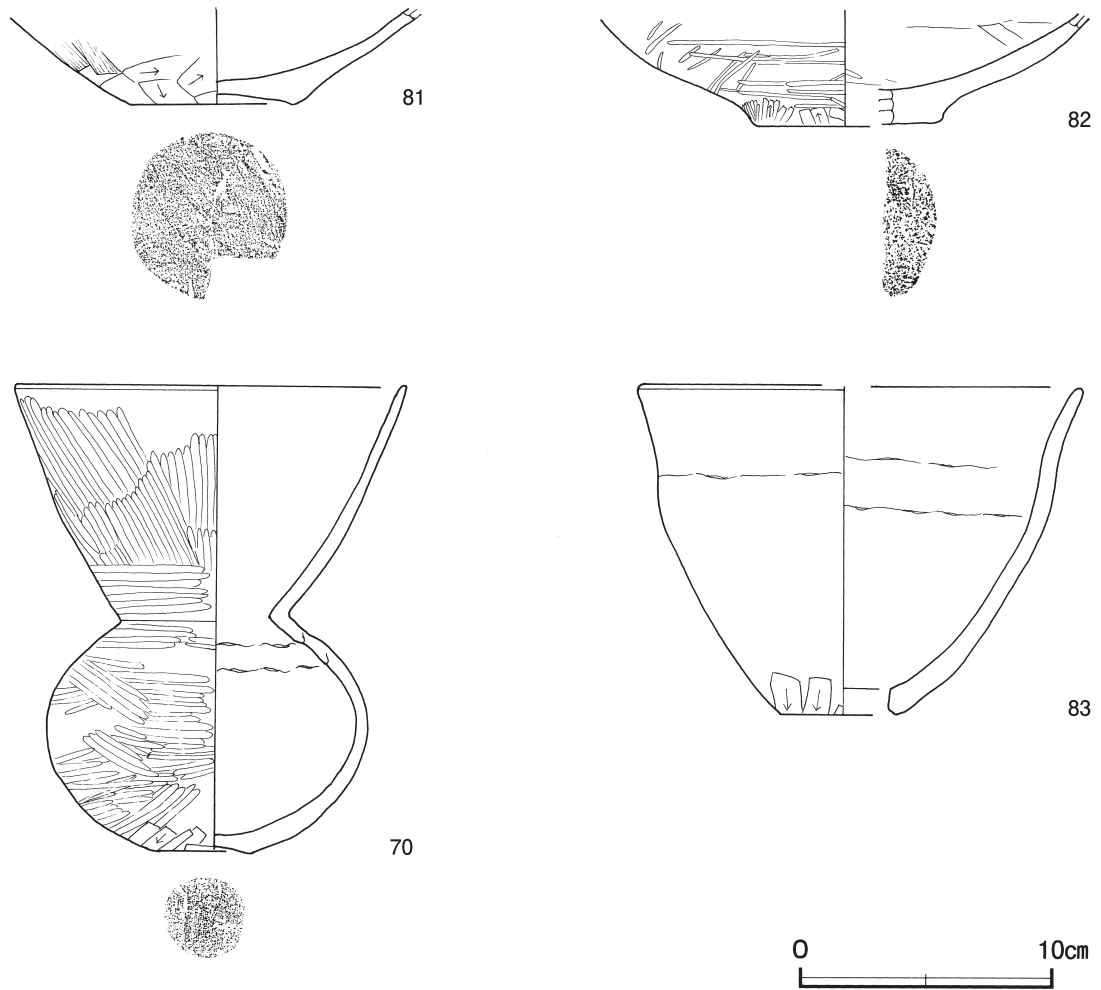
所見 時期は，出土土器から4世紀末に比定できる。床面上で確認した焼土塊は，断ち割ってみたところ床面が赤変していないことから，炉ではなく住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



第29図 第21号住居跡実測図



第30图 第21号住居跡・出土遺物実測図



第31図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第30・31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
70	土師器	埴	15.5	18.5	3.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面縦位のヘラ磨き・頸部から体部横位のヘラ磨き・下端横位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土下層	80% PL31
71	土師器	器台	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のハケ目 脚部内面横ナデ	覆土下層	30%
72	土師器	器台	-	(6.2)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部外・内面縦位のヘラ磨き 裾部内面横ナデ	覆土下層	30%
73	土師器	高坏	[15.2]	(4.7)	-	長石・石英	赤	普通	坏部外・内面縦位のヘラ磨き	床面	20%
74	土師器	高坏	-	(6.0)	-	長石・石英	赤褐	普通	脚部外面縦位のハケ目後縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラ削り 上部縦位のヘラ削り	床面	5%
75	土師器	壺	[14.6]	(5.0)	-	長石・石英	赤	普通	口縁部外面斜位のハケ目後横位のヘラ磨き 頸部外面縦位のヘラ磨き 内面横位・縦位のヘラ磨き	覆土下層	20%
76	土師器	甕	14.1	(9.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目後横ナデ 口縁部内面横位のヘラナデ 体部外面斜位のハケ目 内面荒い横位のヘラナデ	覆土下層	30%
77	土師器	甕	[17.6]	(12.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のハケ目 内面横位のヘラ削り	炉内	20%
78	土師器	甕	[17.6]	(3.7)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面斜位のハケ目後横ナデ 体部外面斜位のハケ目 内面荒い横位のヘラ削り	床面	10%
79	土師器	甕	[17.4]	(5.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外面斜位のハケ目後横ナデ 内面斜位のハケ目	覆土下層	10%
80	土師器	甕	[14.8]	(4.4)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部上端ハケ目 内面ヘラナデ	床面	10%
81	土師器	甕	-	(3.3)	6.8	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面斜位のハケ目・下端ヘラ削り	覆土下層	20%
82	土師器	甕	-	(4.5)	[7.0]	長石・石英	橙	普通	体部外面下端斜位のヘラ磨き・縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ・工具痕	床面	10%
83	土師器	甕	[17.2]	13.1	4.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横ナデ・下端ヘラ削り 内面横位のヘラナデ	覆土中層	60%

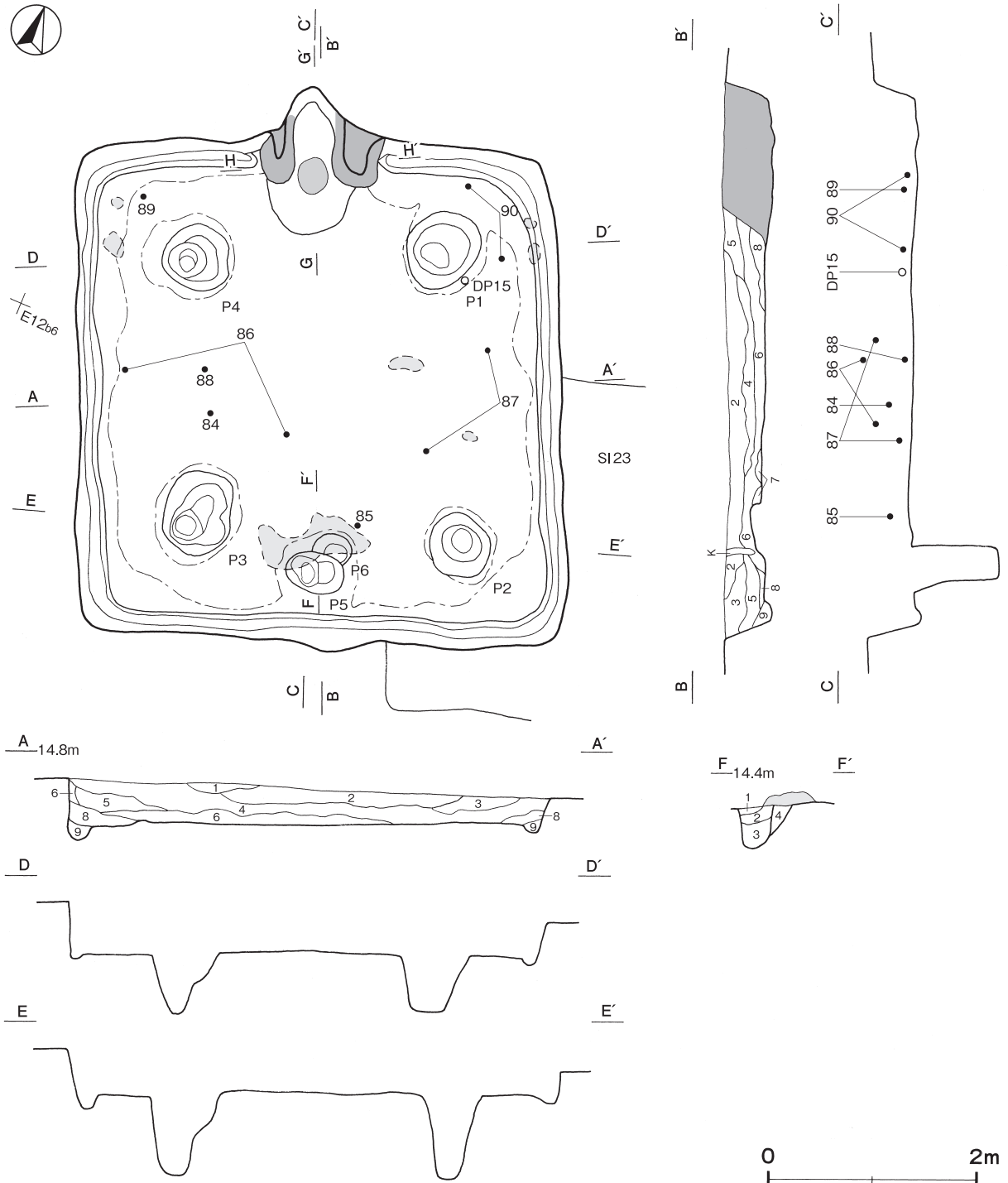
第 22 号住居跡 (第 32・33 図)

位置 調査区西部の E 12a6 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

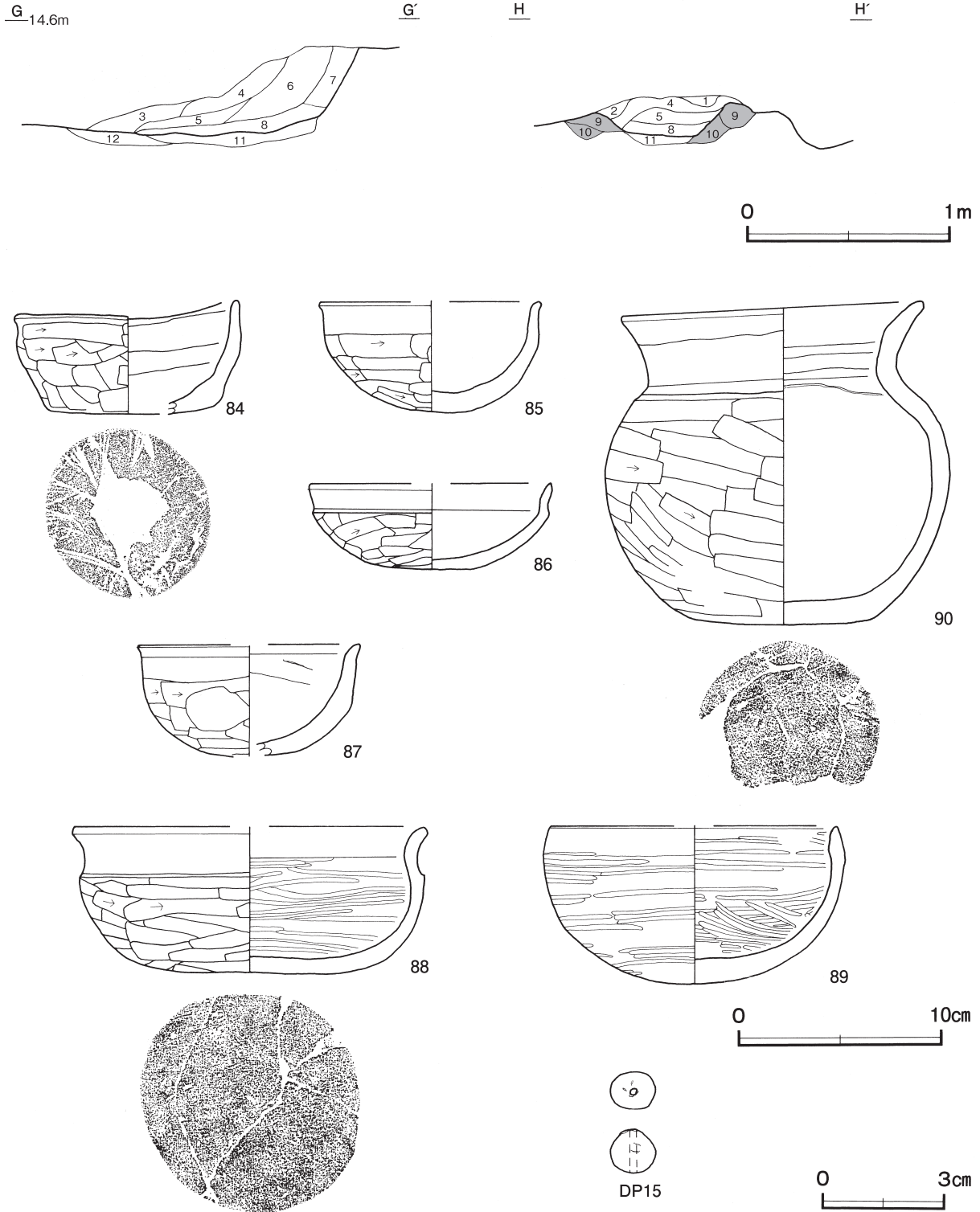
重複関係 第 23 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.77 m, 短軸 4.62 m の隅丸方形で, 主軸方向は $N - 21^\circ - W$ である。壁高は 5 ~ 39 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, ほぼ全面が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北西コーナー部と南壁際の P 5 付近の床面上で焼土塊を確認した。



第 32 図 第 22 号住居跡実測図



第33図 第22号住居跡・出土遺物実測図

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cmで、燃烧部幅は35cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土を主体とした第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめ、第11・12層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ50cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

甕土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	7	黒褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量
4	褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	12	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量

ピット 6か所。P1～P4は深さ57～82cmで、規模と配置から支柱穴である。P5・P6は深さ27cm・38cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6はP5に掘り込まれていることから、P6からP5へ付け替えられている。

ピット5・6土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量

覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	極暗褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8	極暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
			9	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片403点(坏77, 椀9, 高坏5, 甕類311, 小形甕1), 須恵器片5点(坏), 土製品1点(土玉), 焼成粘土塊8点, 鉄滓1点(1g), 種子1点(桃)が, 全面の覆土中層から床面にかけて出土している。88は西部, 90・DP15はP1付近の床面からそれぞれ出土している。84は西部, 85はP5付近, 89はP4付近の覆土下層からそれぞれ出土している。86は中央部と西部の覆土中層から, 87は西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀中葉に比定できる。床面上で確認した焼土塊は, 床面が火を受けて赤変していないことから, 住居廃絶後の埋め土に混入したのと考えられる。

第22号住居跡出土遺物観察表(第33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
84	土師器	坏	10.8	5.6	8.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位のヘラナデ 体部外面横位のヘラナデ 内面横位のヘラナデ	覆土下層	80% PL28
85	土師器	坏	[10.8]	5.5	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラナデ 内面横ナデ	覆土下層	70%
86	土師器	坏	[11.8]	4.2	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラナデ	覆土中層	35%
87	土師器	椀	[10.8]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラナデ 内面工具痕	覆土中層	45%
88	土師器	椀	[17.2]	7.3	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラナデ 内面横位のヘラ磨き	床面	50% PL29
89	土師器	椀	[14.0]	7.8	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ後横位のヘラ磨き 体部外面横位のヘラナデ 後横位のヘラ磨き 内面横位のヘラ磨き	覆土下層	40%
90	土師器	小形甕	14.7	16.0	8.8	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラナデ 頸部内面横位のヘラナデ	床面	70% PL33
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴		出土位置	備考	
DP15	土玉	1.1	1.1	0.2	1.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔		床面	PL41	

第 23 号住居跡 (第 34 図)

位置 調査区西部の E 12b7 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 22 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.62 m, 短軸 3.31 m の長方形で, 主軸方向は N - 17° - W である。壁高は 5 ~ 12 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 踏み固められた痕跡は確認できなかった。壁下には壁溝が巡っている。

ピット 深さ 32 cm で, 性格は不明である。

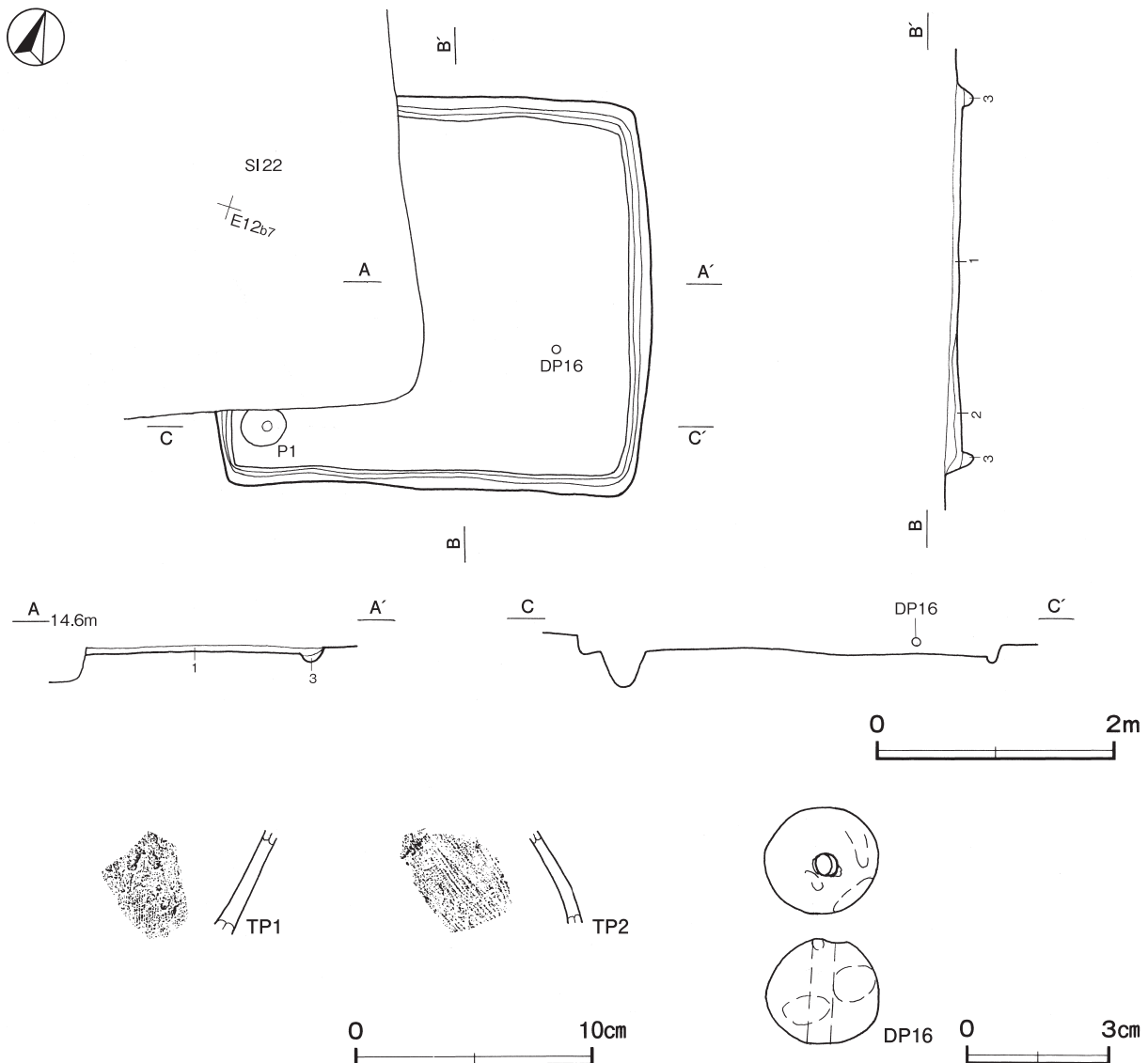
覆土 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 3 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 41 点 (高坏 22, 甕類 19), 土製品 1 点 (土玉) が出土している。遺物の大半は細片である。TP 1・TP 2 は中央部, DP16 は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 4 世紀代とみられる。



第 34 図 第 23 号住居跡・出土遺物実測図

第 23 号住居跡出土遺物観察表 (第 34 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	土師器	甕	長石・石英	にぶい橙	ハケ目	覆土下層	
TP 2	土師器	甕	長石・石英	にぶい赤褐	ハケ目	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP16	土玉	2.3~2.4	2.2	0.5	11.2	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭擦痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL41

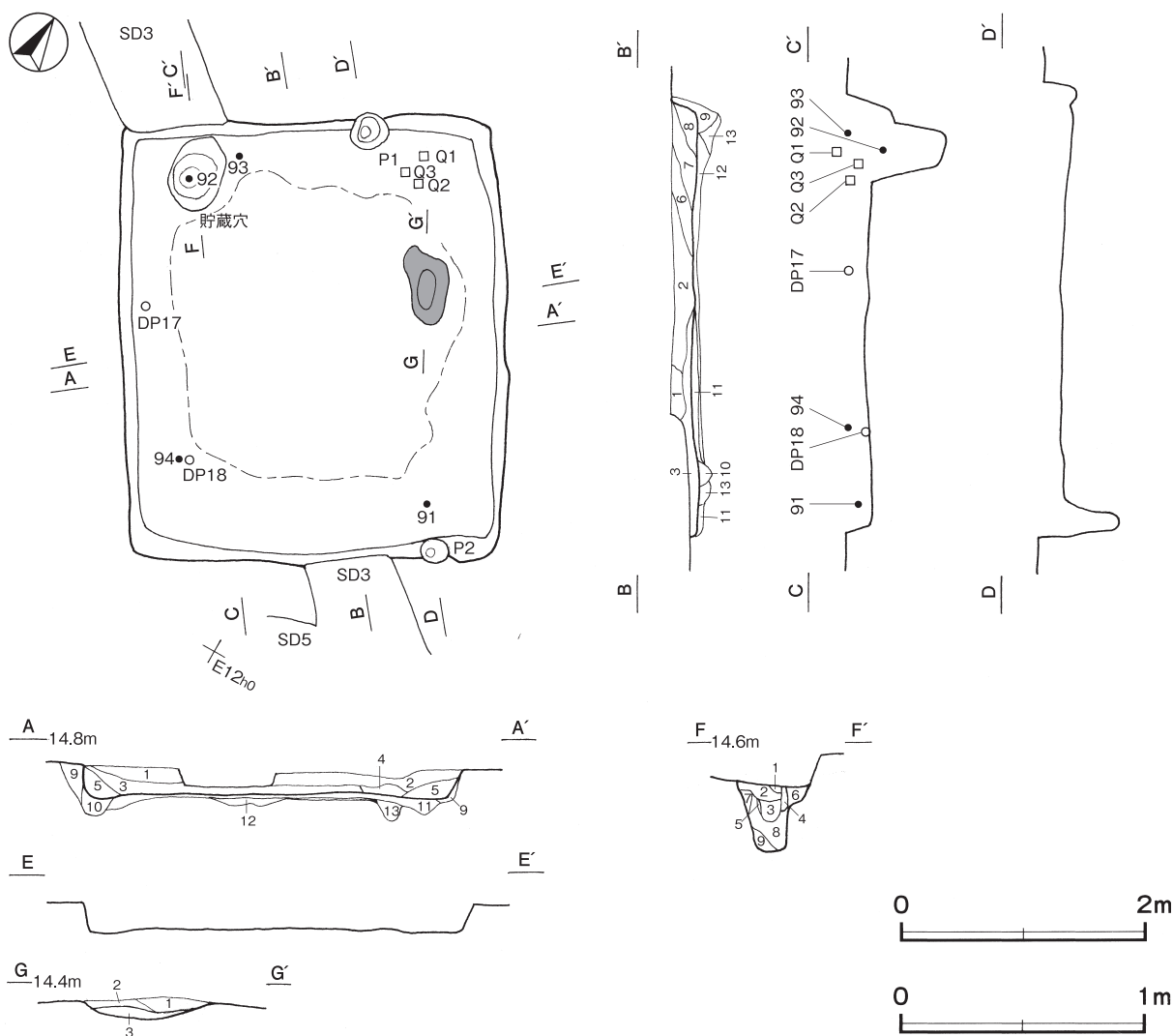
第 24 号住居跡 (第 35・36 図)

位置 調査区西部の E 12g9 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

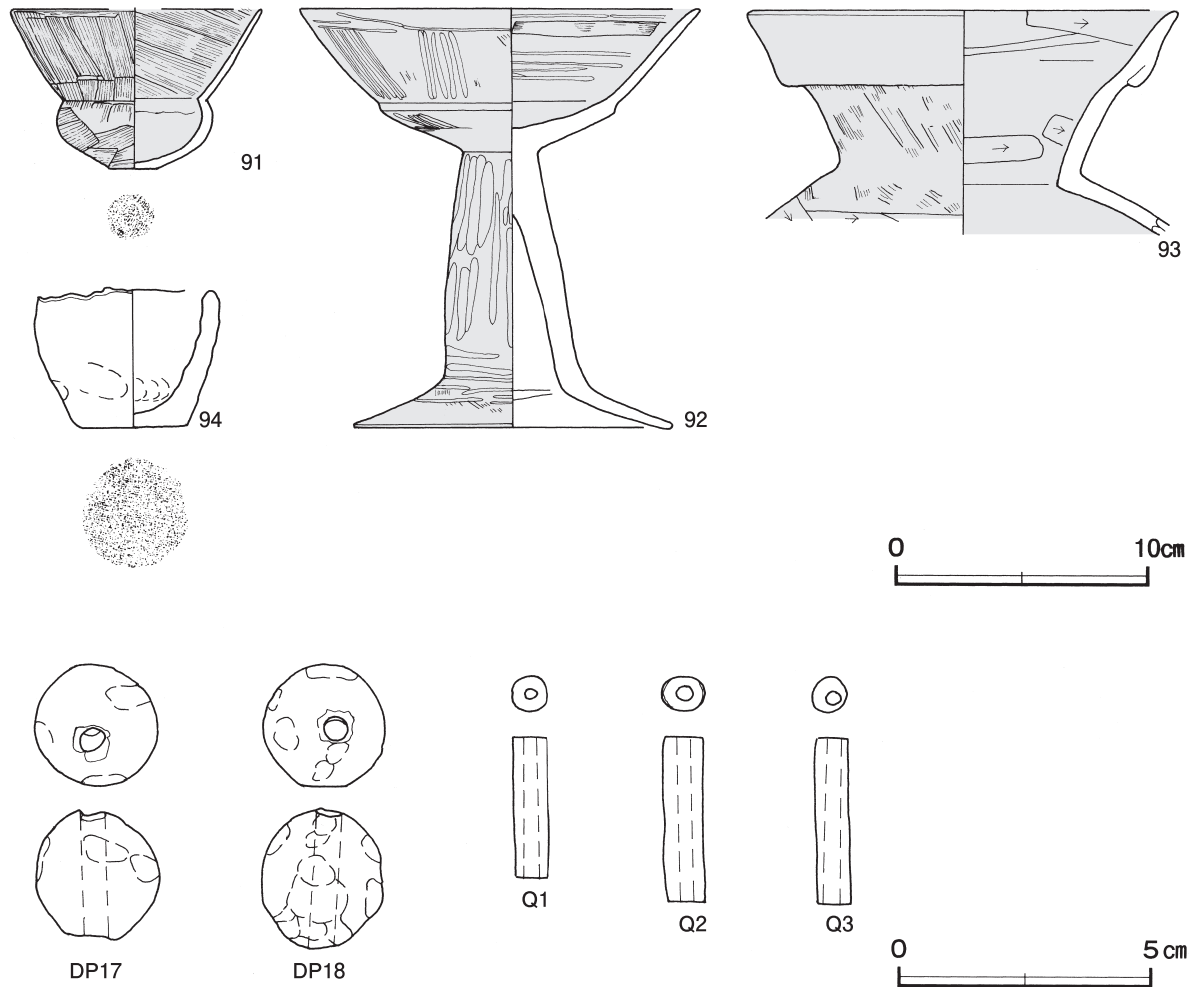
重複関係 第 3 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.60 m, 短軸 3.16 m の長方形で, 主軸方向は N - 32° - W である。壁高は 20 ~ 29 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 壁下を帯状に掘り込み, ローム粒子主体の第 9 ~ 13 層を埋土して構築されている。



第 35 図 第 24 号住居跡実測図



第36図 第24号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部から北東寄りに位置している。長径65cm，短径30cmの不整楕円形で，床面を9cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変している。

炉土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量 | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ45cm・31cmで，P1は北東壁に，P2は南東壁に近接して対になって配置されており，当住居跡にともなう柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部よりやや北東側に位置している。長径53cm，短径42cmの楕円形で，深さは60cmである。底面は皿状で，北側壁は段を有し，南側壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量 | 9 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量 | |

覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第9～13層は貼床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10	にぶい黄褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	12	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
6	極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片 52 点 (坏 3, 埴 4, 高坏 2, 甕類 42, 手捏土器 1), 土製品 2 点 (土玉), 石製品 3 点 (管玉), 鉄製品 1 点 (不明) が出土している。また, 貼床の構築土内から土師器 2 点 (甕類) が出土している。そのほか, 覆土に混入した須恵器片 2 点 (坏, 蓋) も出土している。DP18 は南西部の床面から出土している。92 は貯蔵穴の覆土中層から横位の状態で出土している。91 は南東部の覆土中層から出土している。Q 1 ~ Q 3 は北東部の覆土上層から中層にかけて出土しており, 住居廃絶時に投棄された可能性がある。93 は北西部, 94 は南西部, DP17 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。

第 24 号住居跡出土遺物観察表 (第 36 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
91	土師器	埴	[10.0]	6.3	1.8	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部上端外・内面横ナデ 口縁部外面縦位のハケ目・内面横位のハケ目 体部斜位のハケ目・内面横ナデ	覆土中層	50% PL31
92	土師器	高坏	15.7	16.6	[12.4]	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	坏部外面ハケ目後ヘラ磨き 坏部内面ヘラナデ 後横位のヘラ磨き 脚部外面縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	貯蔵穴覆土中層	90% PL30
93	土師器	甕	16.8	(8.9)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のヘラナデ 頸部外面斜位のハケ目後横ナデ 体部外面斜位のハケ目後横位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土上層	30%
94	土師器	手捏土器	6.8	5.4	4.3	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面・内面下端指頭圧痕	覆土上層	100% PL34

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP17	土玉	2.5	2.5	0.5	15.1	長石・石英	ナデ 指頭擦痕 一方向からの穿孔	覆土上層	PL41
DP18	土玉	2.5	2.7	0.5	16.0	長石・石英	ナデ 指頭擦痕 一方向からの穿孔	床面	PL41

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	管玉	2.8	0.7	0.2~0.3	2.9	緑色凝灰岩	全面研磨調整 断面円形 一方向からの穿孔	覆土上層	PL45
Q 2	管玉	3.3	0.7~0.8	0.3	3.3	緑色凝灰岩	全面研磨調整 断面円形 一方向からの穿孔	覆土中層	PL45
Q 3	管玉	3.3	0.7	0.3	3.1	緑色凝灰岩	全面研磨調整 断面円形 一方向からの穿孔	覆土中層	PL45

第 25 号住居跡 (第 37・38 図)

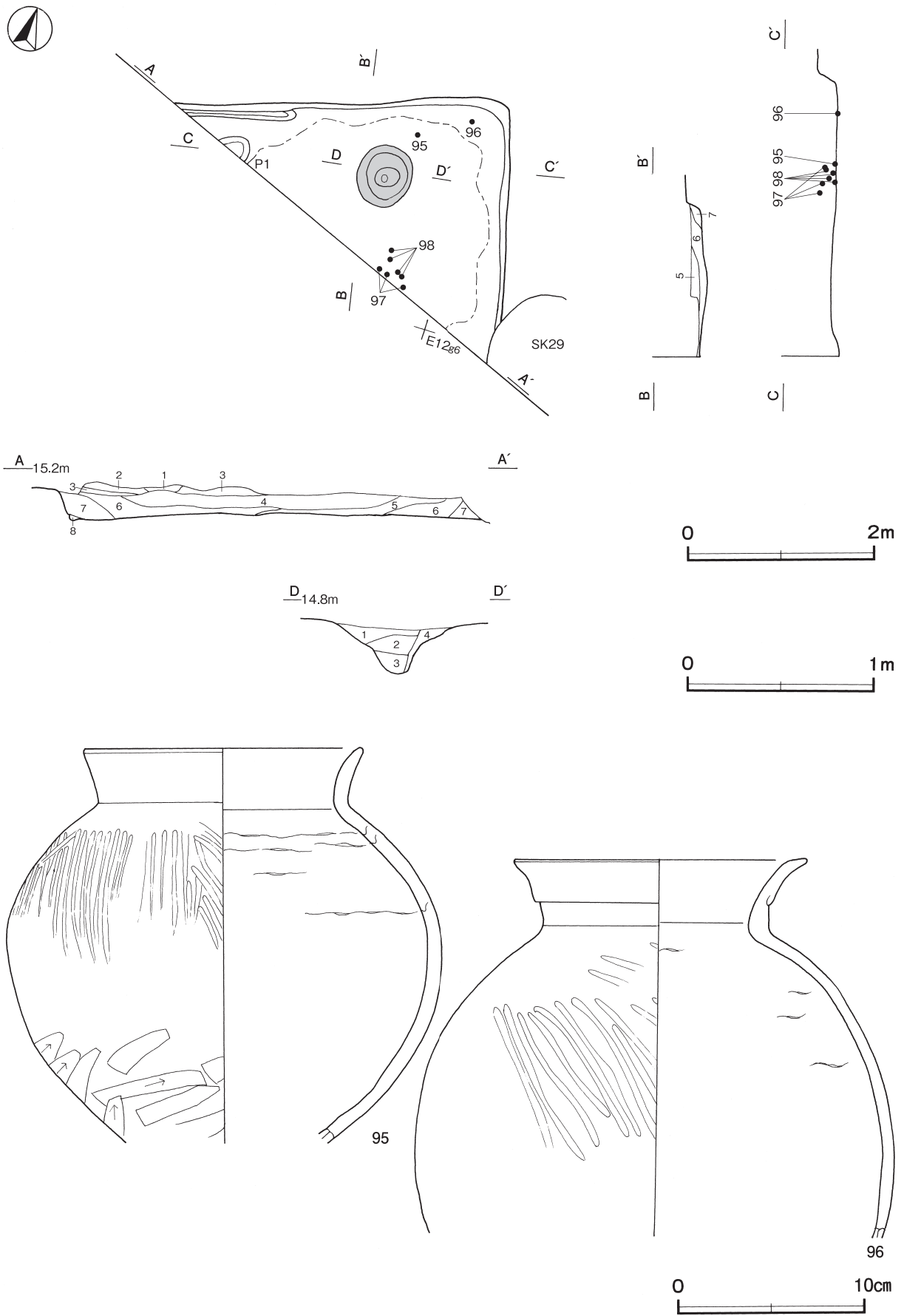
位置 調査区西部の E 12f5 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 29 号土坑に掘り込まれている。

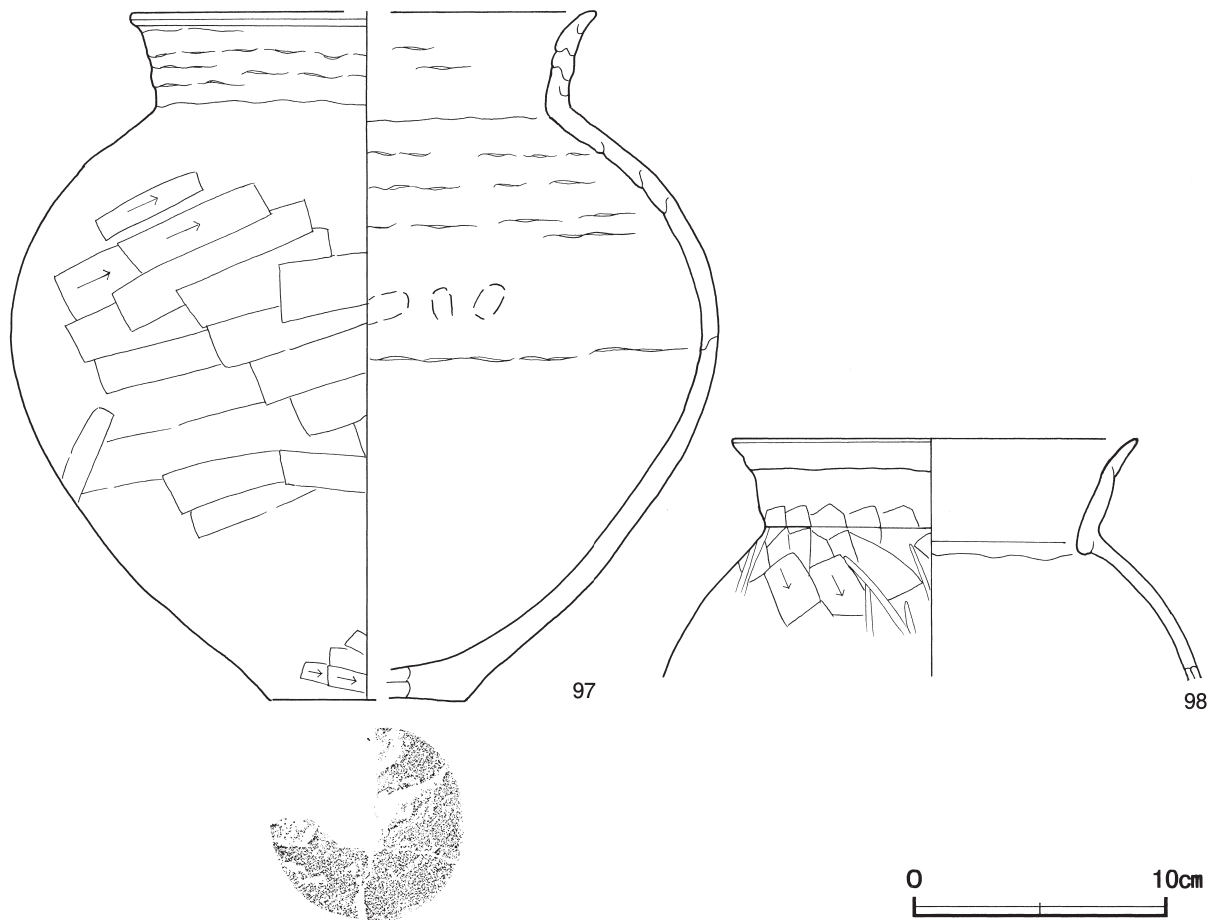
規模と形状 南西部分が調査区域外へ延びているため, 東西軸は 3.60 m で, 南北軸は 2.83 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で, 主軸方向は N - 18° - W と推定できる。壁高は 12 ~ 15cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, ほぼ全面が踏み固められている。北壁下の一部に壁溝が巡っている。

炉 北壁下の東寄りに位置している。長径 74cm, 短径 60cm の楕円形で, 床面を 10cm ほど掘りくぼめ, さらに中央をピット状に掘り込んだ地床炉である。炉床面は赤変している。



第 37 图 第 25 号住居跡・出土遺物実測図



第38図 第25号住居跡出土遺物実測図

炉土層解説

- 1 暗褐色 炭化材・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量

ピット 深さ10cmで, 性格は不明である。

覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片40点(坏2, 壺1, 甕類37), 鉄滓1点(3g)が出土している。95・96は北東部の床面からともに逆位の状態で出土している。98は南部の覆土下層から出土している。97は南部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀前葉に比定できる。

第25号住居跡出土遺物観察表(第37・38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
95	土師器	甕	14.8	(20.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半縦位のヘラ磨き・下半横位のヘラ削り	床面	80% PL34

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
96	土師器	甕	15.4	(20.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ磨き	床面	50%
97	土師器	甕	[18.3]	27.3	[7.6]	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面輪積痕を残す横ナデ・指頭圧痕 体部斜位のヘラ削り・下端横位のヘラ削り 内面輪積痕を残す横ナデ・指頭圧痕	覆土上層	40%
98	土師器	甕	15.9	(9.7)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り後斜位のヘラ磨き	覆土下層	20%

第26号住居跡（第39図）

位置 調査区西部のE 12a9区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びているため、北西・南東軸は2.45mで、北東・南西軸は1.55mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-33°-Wと推定できる。壁高は48~60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。床面上に焼土塊を確認した。

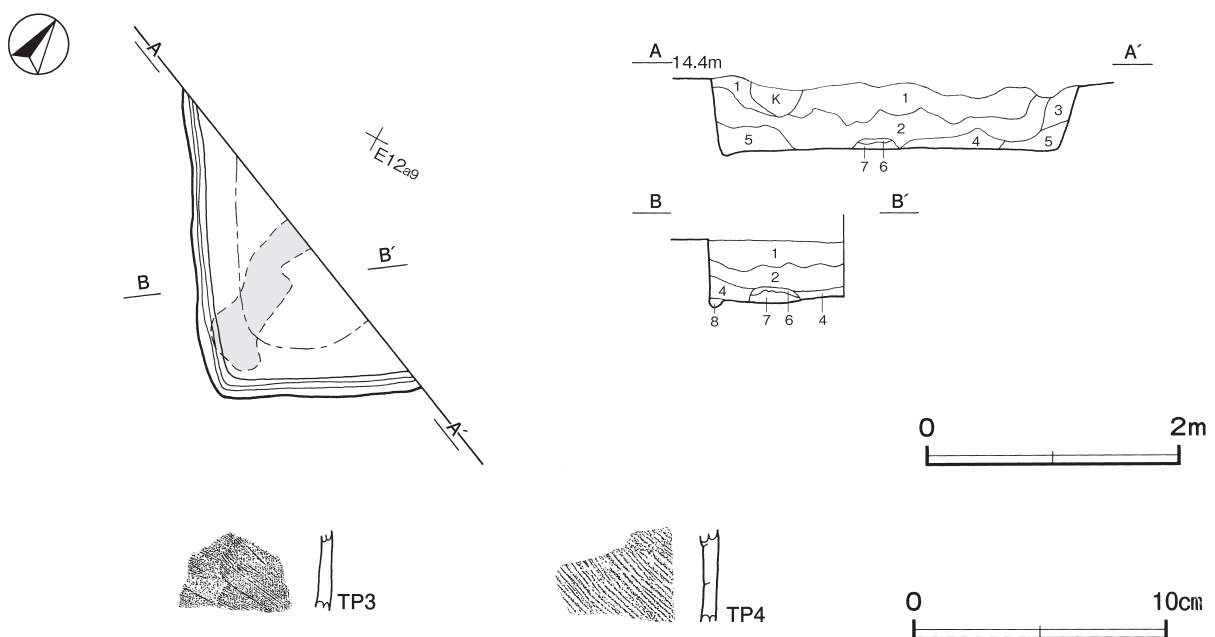
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片3点（埴1，甕類2）が出土している。TP3・TP4は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀代とみられる。覆土下層で確認した焼土塊は、断ち割ってみたところ床面との間に極暗褐色の第7層が入り、床面も赤変していないことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



第39図 第26号住居跡・出土遺物実測図

第 26 号住居跡出土遺物観察表 (第 39 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 3	土師器	甕	長石・石英	明赤褐	ハケ目	覆土下層	
TP 4	土師器	甕	長石・石英	にぶい褐	ハケ目	覆土下層	

第 27 号住居跡 (第 40・41 図)

位置 調査区西部の E 12c6 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.97 m, 短軸 4.93 m の隅丸方形で, 主軸方向は N - 20° - W である。壁高は 25 ~ 48cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。北東壁を除いて壁下には壁溝が巡っている。南壁中央部が, 幅 80cm, 奥行き 30cm の長方形に張り出している。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 122cm で, 燃焼部幅は 30cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 15 ~ 23 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 30cm 掘りくぼめ, ローム粒子, 焼土粒子を含んだ第 24 ~ 27 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40cm 掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

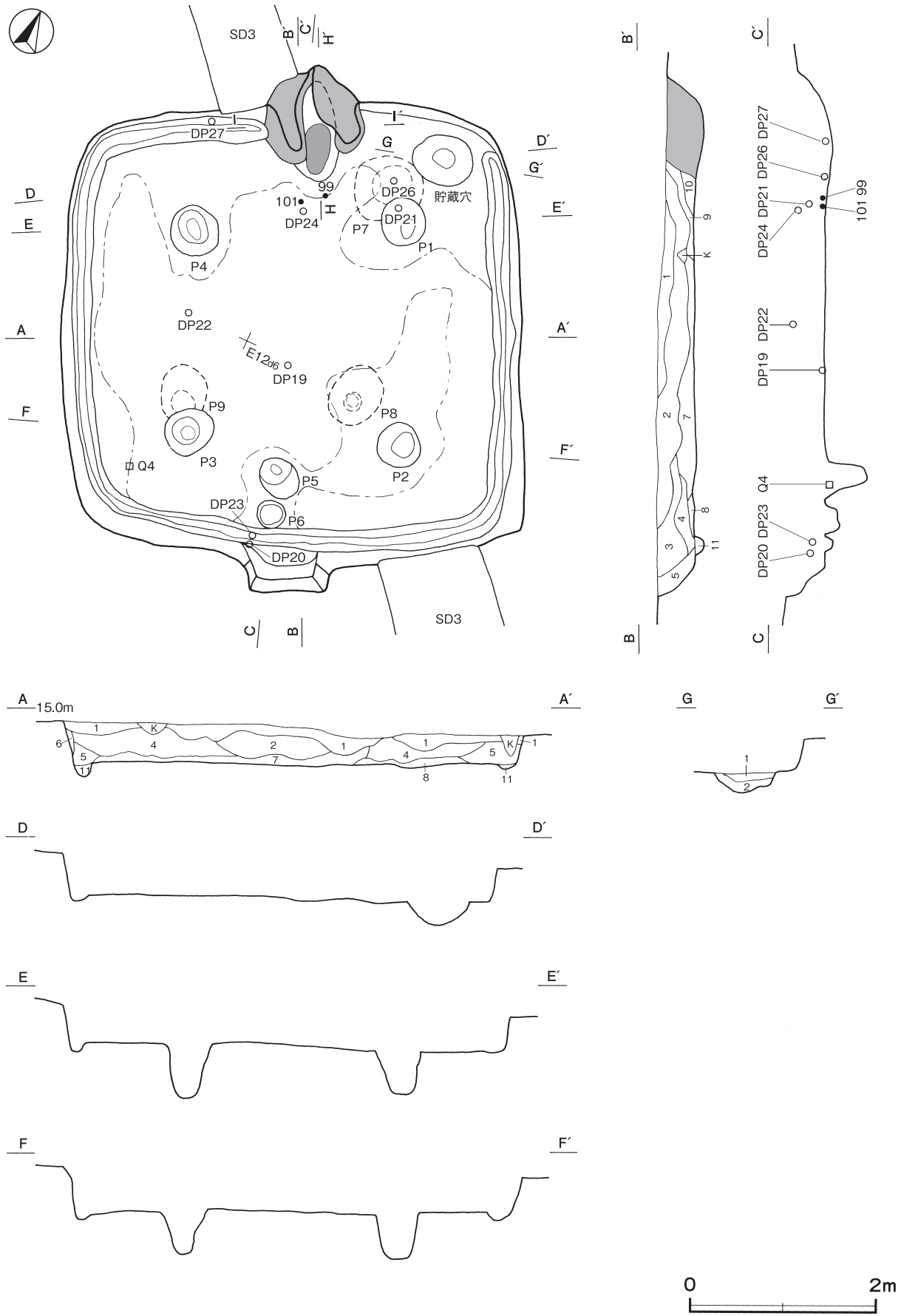
1 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	12 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
3 赤灰褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	13 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	14 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15 褐灰色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量
6 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
7 にぶい赤褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量
8 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
9 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量	19 明褐灰色	砂質粘土粒子多量
10 暗赤褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	20 褐灰色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
		21 暗褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
		22 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
		23 褐色	ローム粒子中量
		24 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
		25 暗褐色	ロームブロック少量
		26 褐色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量
		27 褐色	ローム粒子少量

ピット 9 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 49 ~ 59cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 5・P 6 は深さ 46cm・17 cm で, 南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P 7 ~ P 9 は掘方調査によって確認したもので, 深さ 25 ~ 69cm である。配置から P 7 から P 1 へ, P 8 から P 2 へ, P 9 から P 3 へ柱の立て替えが行われた可能性が考えられる。

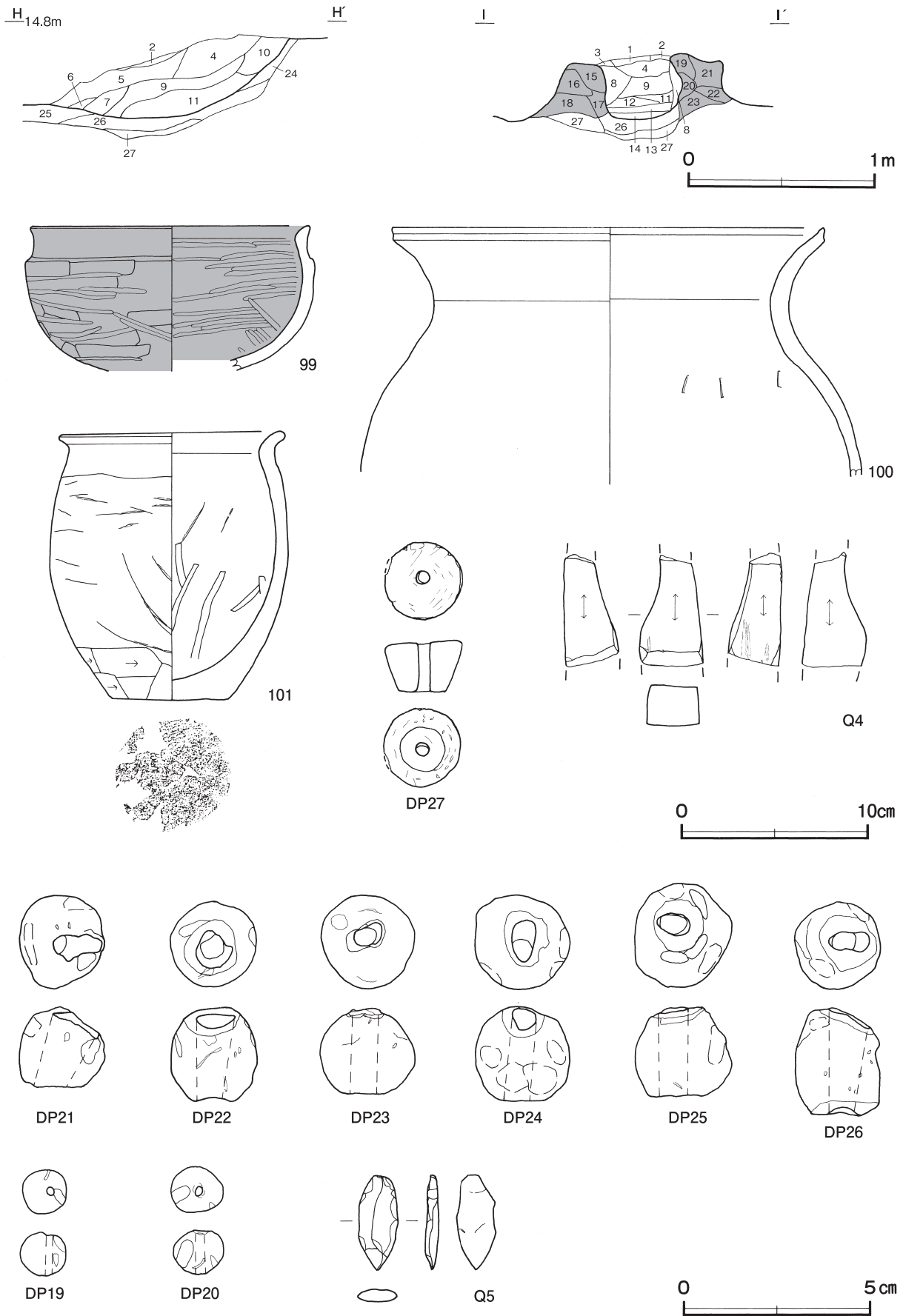
貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 66cm, 短径 54cm の楕円形で, 深さは 27cm である。底面は皿状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
-------	-------------------	-------	-------------------



第40图 第27号住居跡实测图



第 41 图 第 27 号住居跡・出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
2	極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片 593点 (坏 86, 椀 1, 高坏 53, 壺 7, 甕類 445, 小形甕 1), 須恵器片 6点 (坏 5, 甕類 1), 土製品 10点 (土玉 8, 支脚 1, 紡錘車 1), 石器 1点 (砥石), 石製品 1点 (剣形模造品), 鉄製品 1点 (釘), 鉄滓 9点 (198g) が, 全面的覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか, 混入した陶器片 1点 (碗) も出土している。99・101は竈の前, DP19は中央部の床面からそれぞれ出土している。DP26は竈の東側, DP27は竈の西側, Q 4は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP21・DP25は東部, DP20・DP23は出入り口付近, 100・Q 5は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP24は竈の前, DP22は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第 27 号住居跡出土遺物観察表 (第 41 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
99	土師器	椀	14.8	(7.8)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 後横位のヘラ磨き 内面横位のヘラ磨き	床面	80% PL30
100	土師器	甕	23.0	(13.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ・工具痕	覆土中層	10%
101	土師器	小形甕	11.7	14.5	6.2	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ 下横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	60% PL32

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP19	土玉	1.2	1.2	0.2	1.5	長石	ナデ 一部欠損 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP20	土玉	1.4	1.2	0.2~0.3	1.8	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL41
DP21	土玉	2.3	2.2	0.5~0.8 0.9~1.4	9.4	長石・石英	ナデ 指頭擦痕 一方向から二度穿孔	覆土中層	PL41
DP22	土玉	2.3	2.5	0.7~1.0	9.6	長石	ナデ 端部ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土上層	PL41
DP23	土玉	2.5	2.3	0.7	13.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL41
DP24	土玉	2.5	2.5	0.6~0.7	13.7	長石・石英	ナデ 端部ヘラ削り 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土上層	PL41
DP25	土玉	2.6	2.4	0.8~1.0	16.0	長石・石英	ナデ 端部ヘラ削り 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中層	PL41
DP26	土玉	2.3	2.9	0.7~1.1	13.9	長石・石英	ナデ 端部ヘラ削り 指頭擦痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL41
DP27	紡錘車	(4.1)	4.2	0.7	(49.0)	長石・石英	外面ナデ・擦痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	砥石	(6.1)	3.4	2.9	(69.2)	粘板岩	断面長方形 砥面 4面 側面端部に条線状の研痕	覆土下層	PL44
Q 5	石製模造品	3.4	1.4	0.5	2.2	滑石	剣形品 両面研磨	覆土中層	PL45

第 29 号住居跡 (第 42・43 図)

位置 調査区中央部の E 14g1 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 54 号土坑に掘り込まれている。

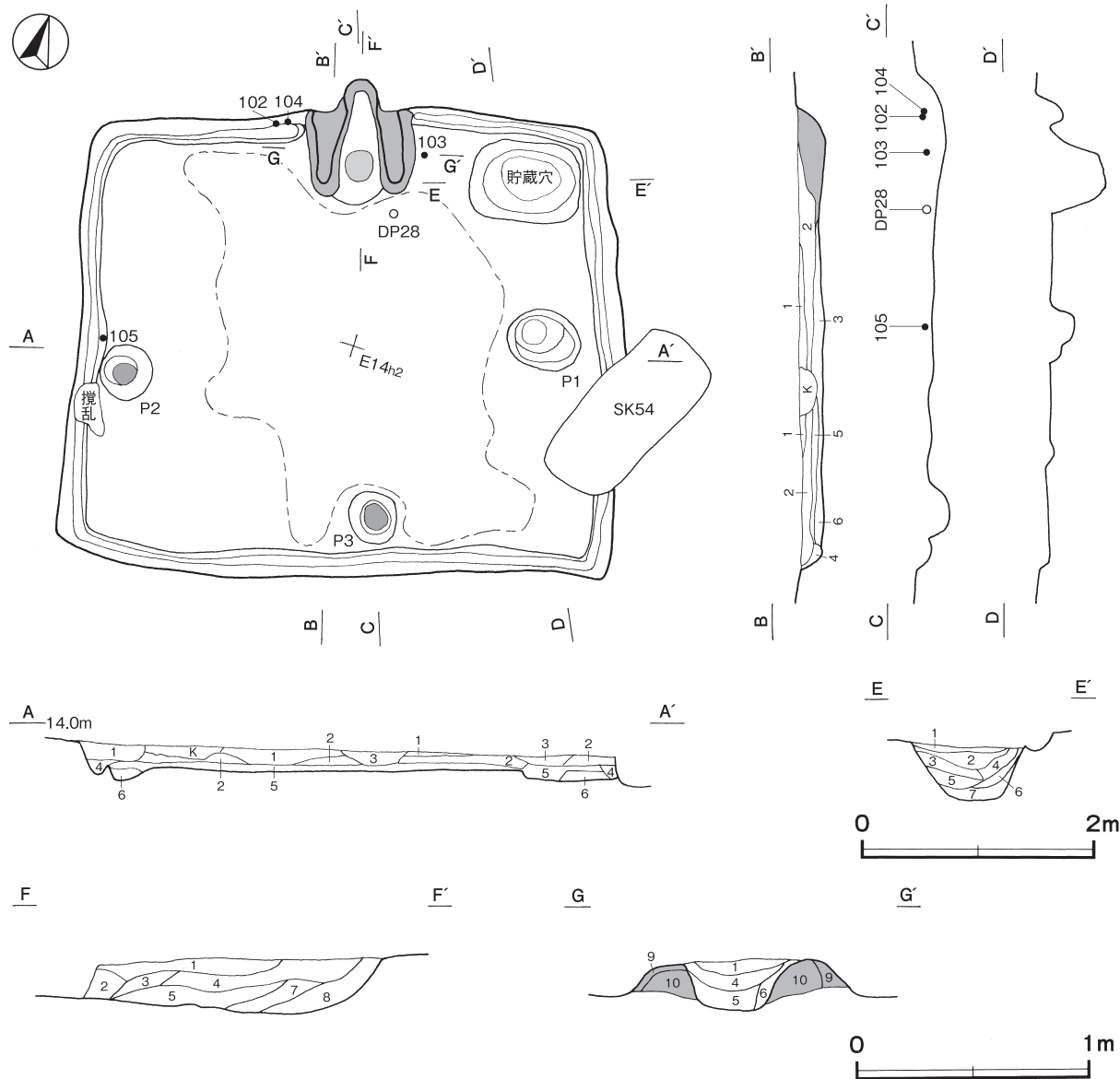
規模と形状 長軸 4.73 m, 短軸 4.06 m の長方形で, 主軸方向は N - 19° - W である。壁高は 9 ~ 17 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

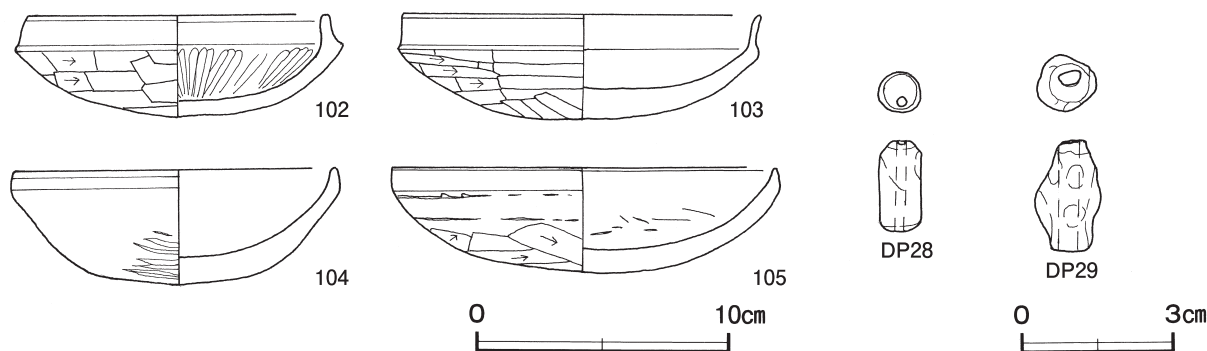
竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 119cmで、 燃焼部幅は 35cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は、床面より5cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐 色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |



第 42 図 第 29 号住居跡実測図



第 43 図 第 29 号住居跡出土遺物実測図

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ20cm・23cmで、規模と配置から主柱穴である。P 3は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸96cm、短軸65cmの隅丸長方形である。深さは45cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片49点(坏28, 甕類20, ミニチュア土器1), 須恵器片6点(坏4, 高台付坏1, 甕類1), 土製品2点(土玉, 管玉), 石器1点(砥石), 焼成粘土塊1点, 鉄滓6点(332g)が出土している。103は竈の東側, 102・104は竈の西側, DP28は竈の前, DP29は東部, 105は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第 29 号住居跡出土遺物観察表 (第 43 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
102	土師器	坏	11.7	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	覆土下層	90% PL28
103	土師器	坏	14.2	4.2	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	90% PL28
104	土師器	坏	12.7	4.6	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面刃物痕 内面ナデ	覆土下層	90%
105	土師器	坏	15.2	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半輪積痕を残す横ナデ 下半ヘラ削り 内面工具痕	覆土下層	90%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP28	管玉	1.9	0.9	0.2	1.7	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL42
DP29	管玉	2.2	1.2	0.3	2.9	長石	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL42

第 32 号住居跡 (第 44 ~ 46 図)

位置 調査区中央部の E 14i3 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 31・35 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 8.39 m, 短軸 8.32 m の方形で, 主軸方向は N - 32° - W である。壁高は 4 ~ 22cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北東と南西の壁溝から柱穴に向かって, 幅 15 ~ 25cm, 長さ 100 ~ 155cm, 深さ 5 ~ 9cm で断面形が逆台形状の間仕切り溝 5 条を確認した。南及び西壁際の床面上に多くの焼土塊, 竈の北東側の壁際から炭化材を検出した。また, 竈の焚口付近の床面では, 砂質粘土の広がりを確認した。

竈 北西壁の中央部からやや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 214cm で, 燃焼部幅は 52 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 7 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 18cm 掘り込んで, ローム粒子を含んだ第 8 ~ 12 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 30cm 掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量	7 灰褐色	砂質粘土粒子中量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 褐色	ローム粒子中量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量

炉 中央部からやや東寄りに位置している。長径 80cm, 短径 55cm の楕円形で, 床面を 10cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変している。

炉土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	2 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
--------	--------------------------------	------	--------------------------------

ピット 9 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 34 ~ 78cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 29cm で, 南東壁際の中央部からやや東寄りで竈の正面に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ~ P 9 は深さ 27cm ~ 37cm で, それぞれ主柱穴と主柱穴の間に位置していることから, 補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長軸 110cm, 短軸 100cm の隅丸方形で, 深さは 55cm である。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の西側の床面に, 幅 100cm, 長さ 120cm, 高さ 15cm で, 逆 L 字状を呈する高まりを確認した。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量
2 極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 極暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量
4 極暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子微量
5 極暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量		

覆土 14 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

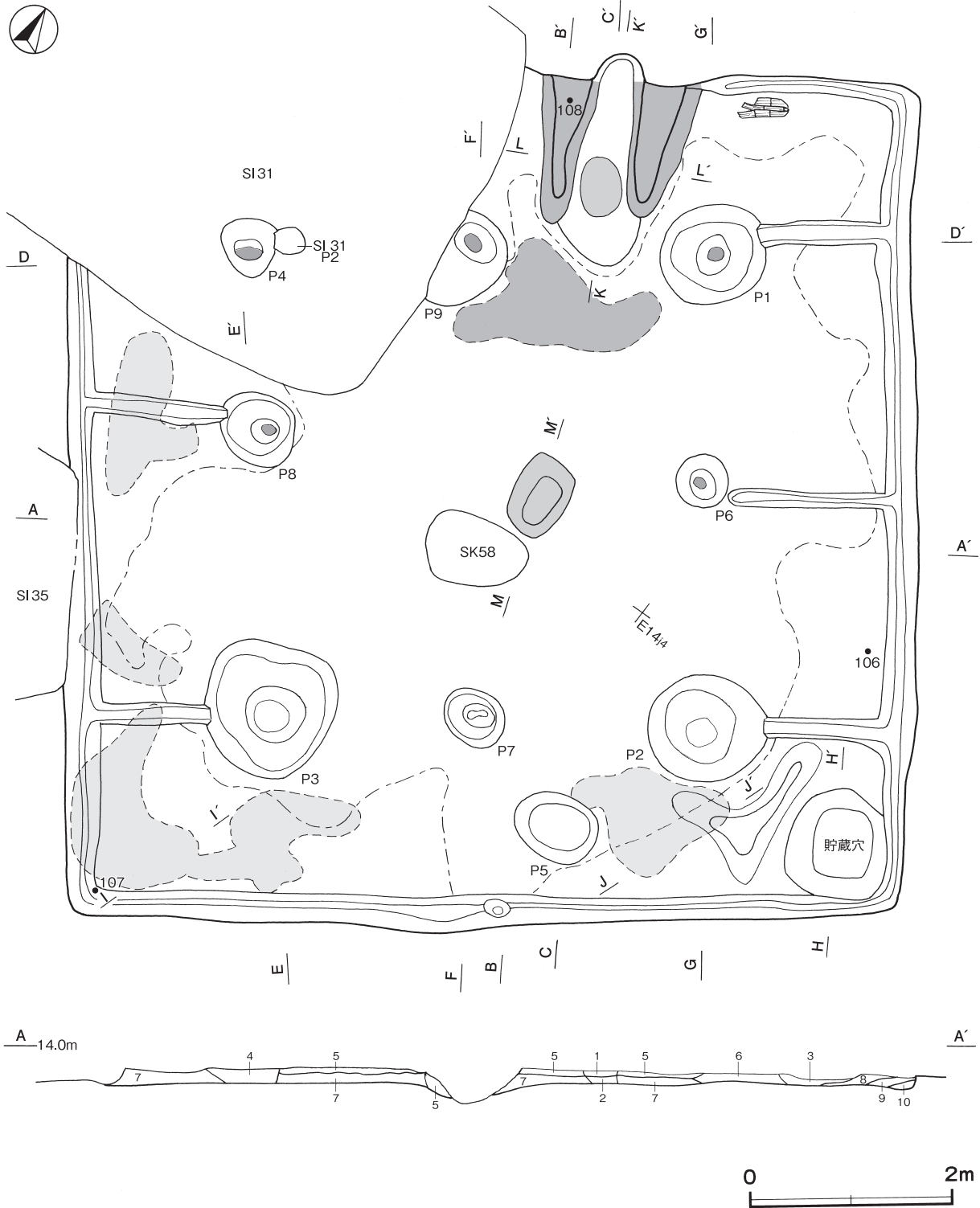
1 黒褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子中量	6 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	7 褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック微量	8 褐色	ローム粒子中量

- 9 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 10 暗 褐 色 ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量
- 11 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 12 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

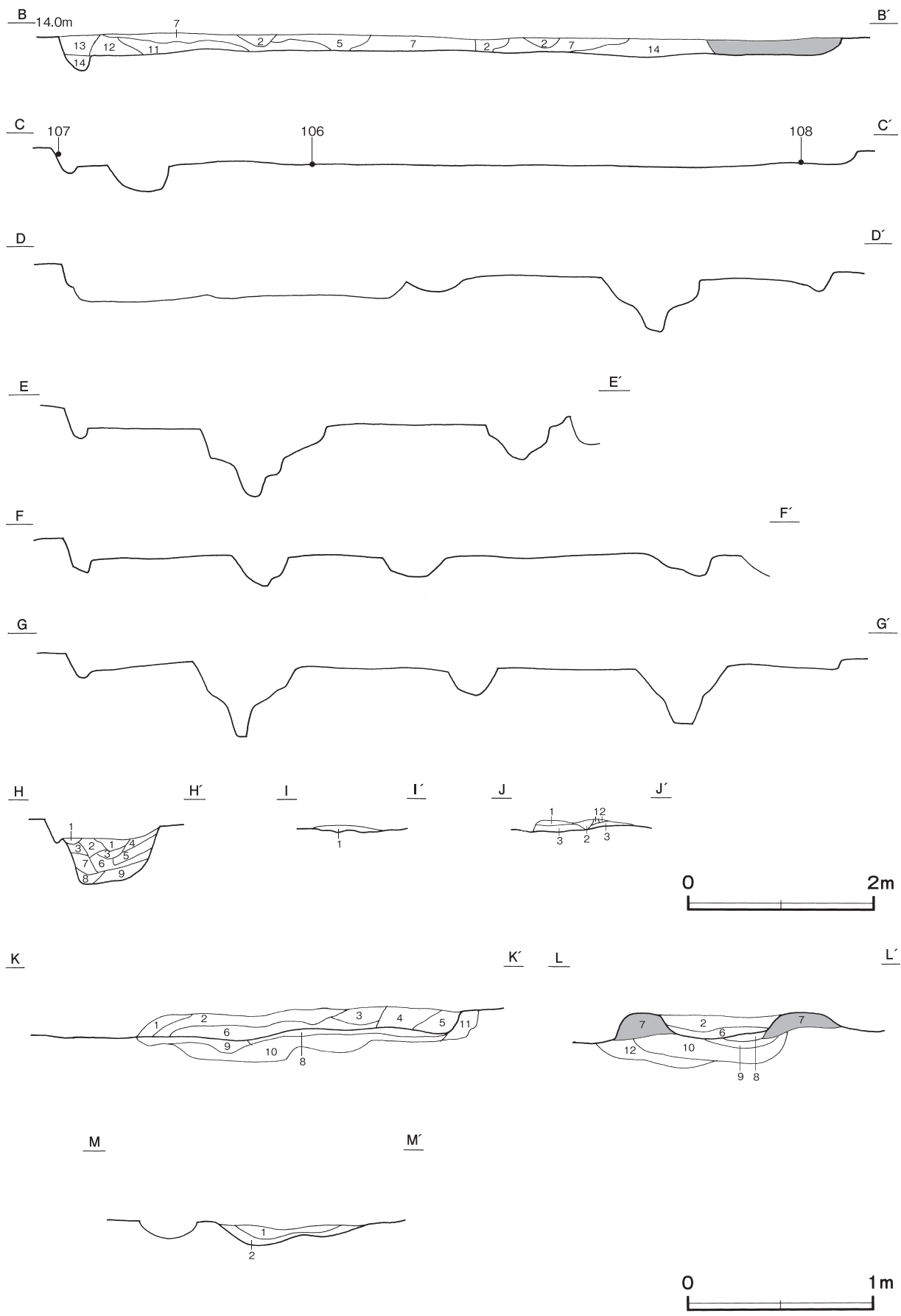
- 13 極 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 14 暗 褐 色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

焼土塊土層解説

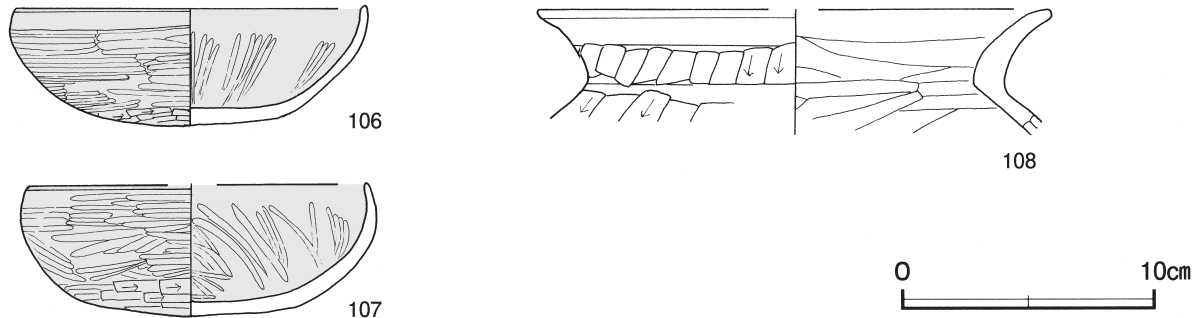
- 1 暗 赤 褐 色 ローム粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第 44 図 第 32 号住居跡実測図 (1)



第 45 图 第 32 号住居跡実測图 (2)



第46図 第32号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 326 点 (坏 82, 甕類 244), 須恵器片 6 点 (坏 5, 蓋 1), 鉄滓 1 点 (12g) が, 全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 1 点 (深鉢) も出土している。106 は東壁下の床面から出土している。108 は竈の左袖部の上面から出土している。107 は南コーナー部壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 5 世紀末から 6 世紀初頭に比定できる。床面で炭化材や焼土塊が検出されたことから, 焼失住居と考えられる。また, 炉と竈が併設されていることから, 竈の導入期の住居跡とみることができる。

第 32 号住居跡出土遺物観察表 (第 46 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
106	土師器	坏	13.8	4.6	-	長石・石英	赤	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ磨き・ 下端横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	床面	100% PL28
107	土師器	坏	[13.4]	5.2	-	長石・石英・ 雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ磨き・ 下端横位のヘラ削り 内面斜位のヘラ磨き	覆土下層	80%
108	土師器	甕	[20.2]	(4.9)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 頸部外・内面ヘラナデ	竈左袖上面	5%

第 34 号住居跡 (第 47・48 図)

位置 調査区中央部の E 14f3 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 6 号ピット群 P14 に掘り込まれている。

規模と形状 東部の大半が調査区域外へ延びているため, 北西・南東軸は 5.85 m で, 北東・南西軸は 1.95 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で, 主軸方向は N - 25° - W と推定できる。壁高は 20 ~ 30cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

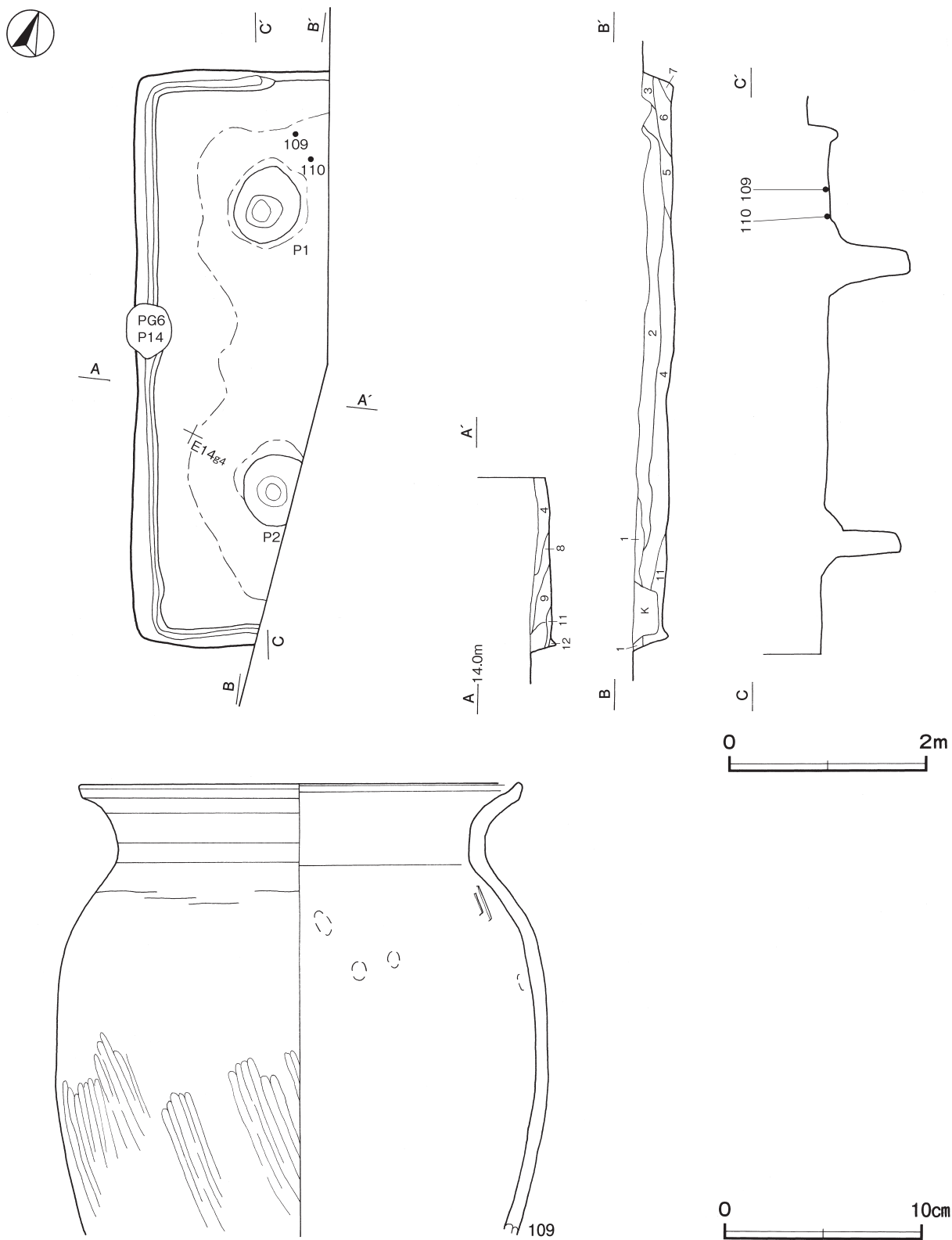
ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 79cm・81cm で, 規模と配置から支柱穴である。

覆土 12 層に分層できる。第 1 ~ 7 層は周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。第 8 ~ 12 層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

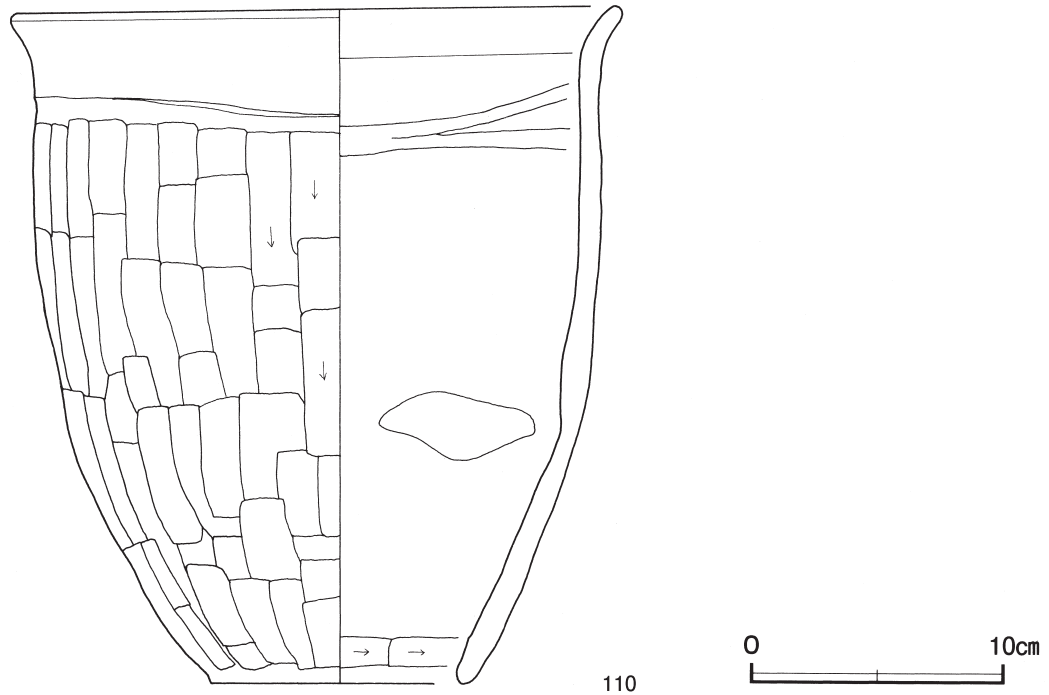
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
4 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
6 暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 69 点 (坏 32, 甕類 36, 甌 1), 土製品 1 点 (不明), 瓦片 1 点が出土している。
 109・110 は, 北部の床面から横位の状態でそれぞれ出土している。
 所見 時期は, 出土土器から 7 世紀代とみられる。



第 47 図 第 34 号住居跡・出土遺物実測図



第48図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表 (第47・48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
109	土師器	甕	22.4	(23.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面工具痕・指頭圧痕	床面	20%
110	土師器	甗	23.6	27.0	10.2	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ 下端横位のヘラ削り	床面	80% PL35

第35号住居跡 (第49図)

位置 調査区中央部のE 14j2区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第32号住居跡を掘り込み、第33号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南部の大半を第33号住居に掘り込まれているため、東西軸は4.48mで、南北軸は2.26mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北壁から西壁にかけての壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5～14層を積み上げて構築されている。火床部は床面を25cm掘り込んで、ローム粒子を含んだ第15～18層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ15cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい橙色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	5	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子微量
2	浅黄橙色	砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量	6	灰褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子少量
3	暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	灰褐色	砂質粘土ブロック中量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8	明褐灰色	砂質粘土ブロック多量
			9	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
			10	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量
			11	暗褐色	砂質粘土粒子中量

- | | | | |
|----------|-------------------|--------|-----------------|
| 12 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量 | 16 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 13 褐 色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 17 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 14 褐 色 | ローム粒子中量 | 18 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 15 褐 色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量 | | |

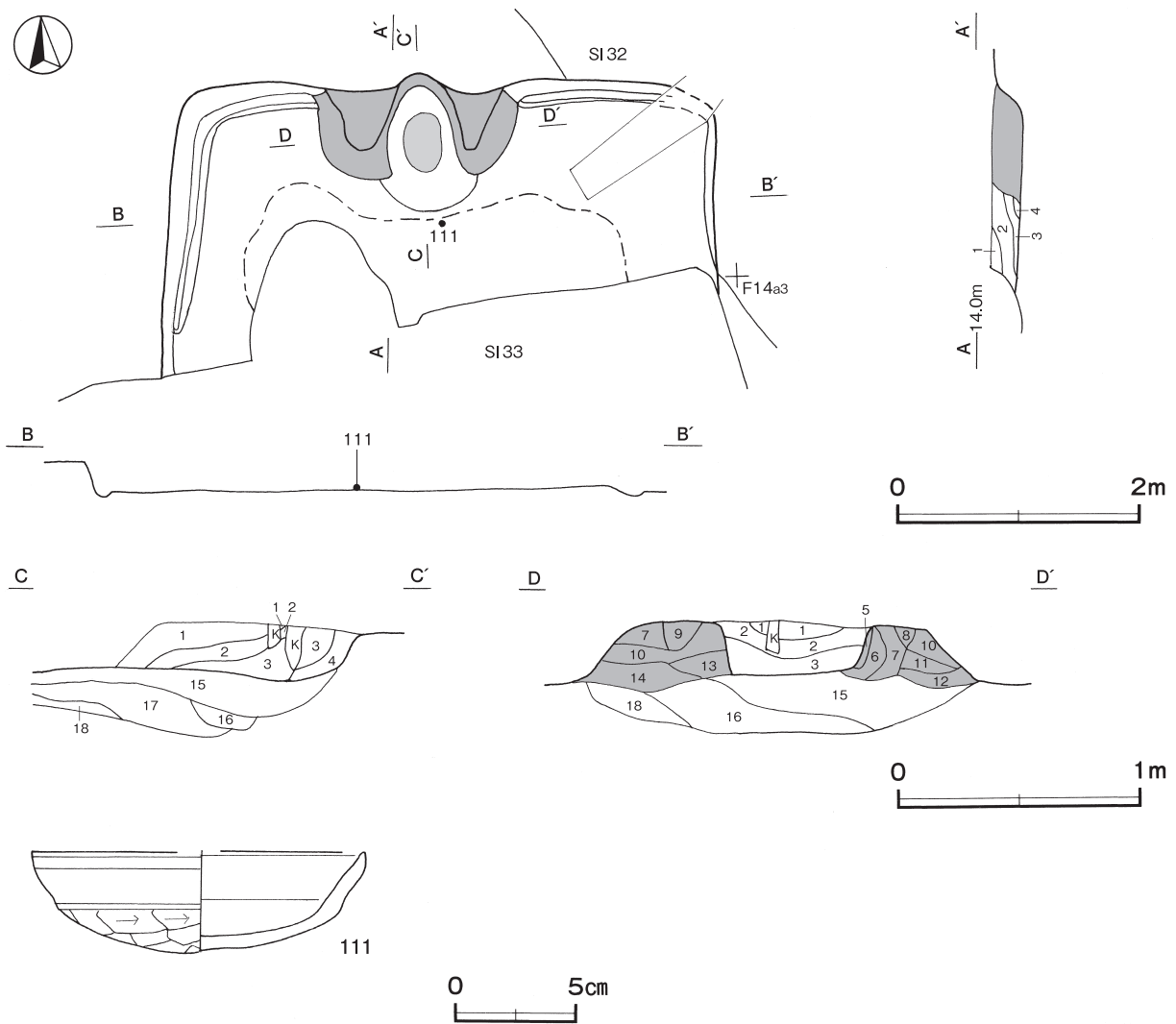
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|---------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 59 点 (坏 16, 高坏 1, 甕類 42), 須恵器片 2 点 (坏), 焼成粘土塊 12 点, 鉄滓 2 点 (9g) が出土している。111 は竈の焚き口付近の床面から横位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀後葉に比定できる。



第 49 図 第 35 号住居跡・出土遺物実測図

第 35 号住居跡出土遺物観察表 (第 49 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
111	土師器	坏	[13.6]	4.2	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	床面	50%

第 38 号住居跡 (第 50・51 図)

位置 調査区中央部の F 14b4 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 67 号土坑, 第 8 号ピット群 P 4 に掘り込まれている。

規模と形状 南東コーナー部を除いて, 北東部の大半が調査区域外にあり, 北西・南東軸 7.18 m で, 北東・南西軸は 3.80 m しか確認できなかった。平面形は方形で, 主軸方向は N - 31° - W と推定できる。壁高は 26 ~ 44cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北西壁の壁溝から南東方向に, 幅 15cm・20cm, 長さ 105cm・130cm, 深さ 10cm・15cm で, 断面形が浅い U 字状の間仕切り溝 2 条を確認した。また, 南西壁際の床面上に多量の焼土塊, 炭化材を検出した。

竈 北西壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 153cm で, 燃焼部幅は 49cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 10・11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 18cm 掘り込んで, ローム, 砂質粘土を含んだ第 12 ~ 15 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 30cm 掘り込まれ, 奥壁は直立している。

竈土層解説

1 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 灰 褐 色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	12 灰 褐 色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量
5 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	13 暗 赤 褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
6 灰 白 色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	14 暗 褐 色	砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 灰 白 色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 暗 褐 色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 63cm・66cm で, 規模と配置から支柱穴である。

覆土 15 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

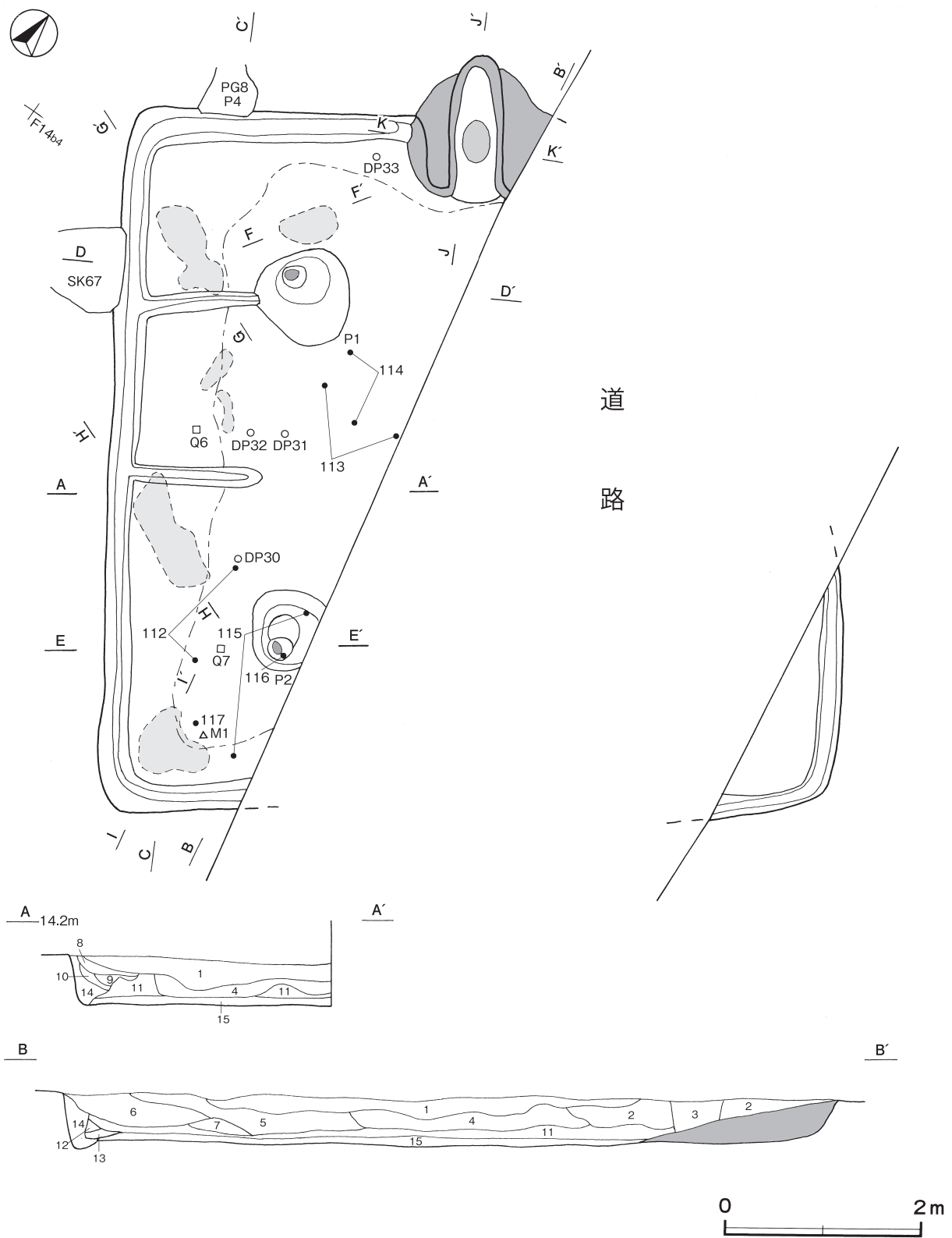
1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量	9 暗 褐 色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒 褐 色	ロームブロック少量
5 暗 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗 褐 色	ローム粒子微量
6 暗 褐 色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	14 黒 褐 色	ロームブロック微量
7 暗 褐 色	焼土粒子少量, ロームブロック微量	15 褐 色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 褐 色	焼土ブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量		

焼土塊土層解説

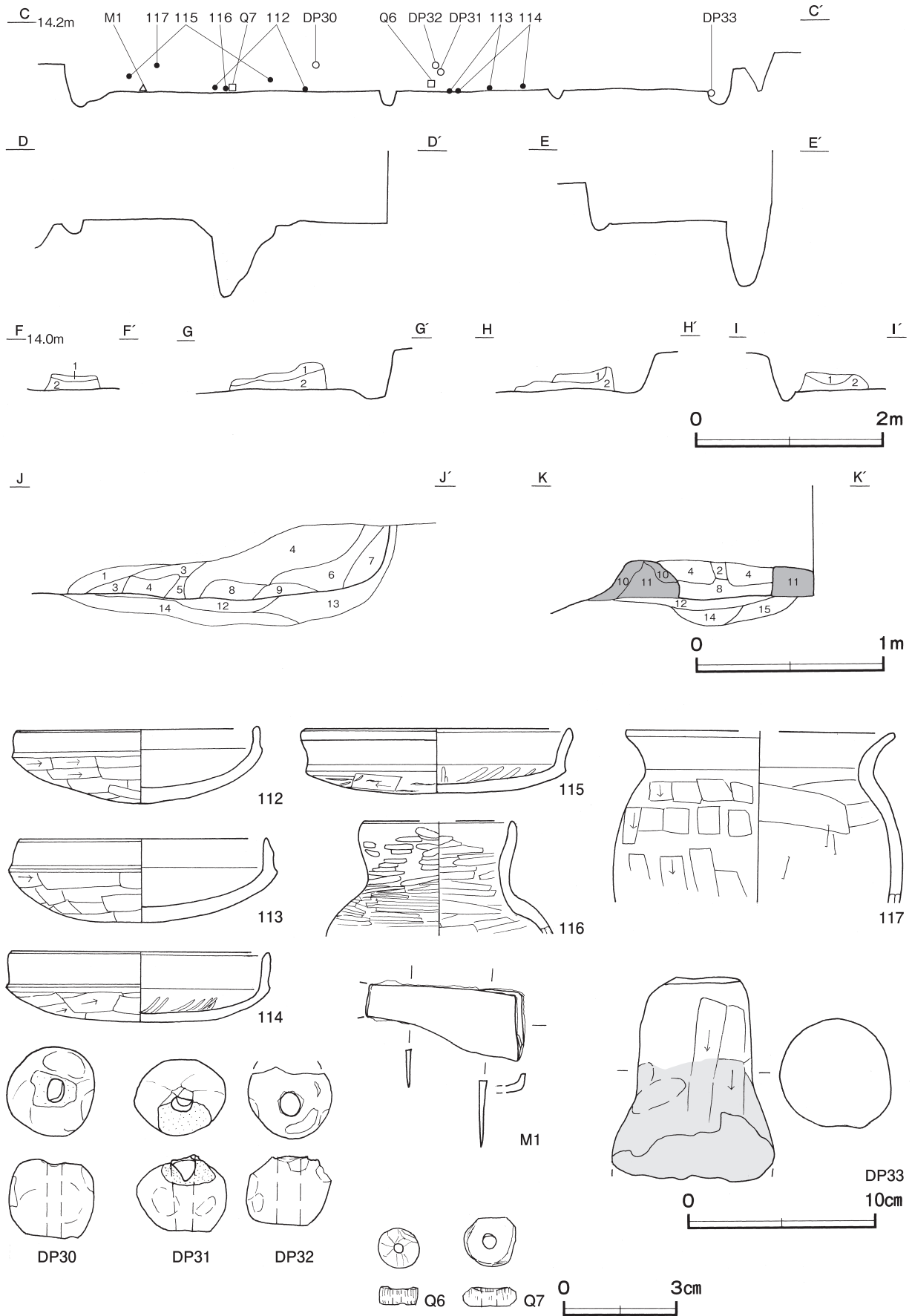
1 暗 赤 褐色	ローム粒子多量, 炭化物・ローム粒子微量	2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
----------	----------------------	---------	---------------------

遺物出土状況 土師器片 1362 点 (坏 229, 甕類 1129, 小形甕 1, 甗 2, 壺 1), 須恵器片 3 点 (坏), 土製品 4 点 (土玉 3, 支脚 1), 石製品 2 点 (白玉), 鉄製品 1 点 (鎌), 焼成粘土塊 9 点, 鉄滓 32 点 (206g), 種子 1 点 (桃) が, 東部の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 1 点 (深鉢), 剥片 2 点も出土している。DP33 は竈の南西側, 113・114 は中央部, 112・116・M 1 は南部の床面からそれぞれ出土している。Q 6 は中央部, Q 7 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP31 は中央部, 115 は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP30・DP32 は中央部, 117 は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉に比定できる。床面で炭化材や焼土塊が検出されたことから，焼失住居とみられる。



第50図 第38号住居跡実測図



第 51 图 第 38 号住居跡・出土遺物実測図

第 38 号住居跡出土遺物観察表 (第 51 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	土師器	坏	12.8	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面工具痕	床面	95% PL29
113	土師器	坏	13.2	4.5	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	床面	90% PL29
114	土師器	坏	13.8	3.3	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	床面	90%
115	土師器	坏	14.4	3.5	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	覆土中層	60%
116	土師器	壺	[8.0]	(6.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位のヘラ磨き 体部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	床面	10%
117	土師器	小形甕	[14.4]	(9.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラ削り・工具痕	覆土上層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP30	土玉	2.4	2.1	0.5	11.0	長石・石英	ナデ・端部ヘラ削り 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土上層	PL41
DP31	土玉	2.4	2.0	0.4~0.6	7.6	長石・石英	ナデ 一部欠損 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中層	PL41
DP32	土玉	2.3	1.9	0.6	(6.2)	長石・石英	ナデ 一部欠損 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土上層	PL41

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP33	支脚	(11.0)	5.5	(8.7)	(555)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 外面縦位のヘラ削り 指頭圧痕 被熱痕	床面	PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	白玉	1.0	0.6	0.3	1.04	滑石	一部欠損 円筒状 両面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45
Q 7	白玉	1.3~1.5	0.5	0.4	1.00	滑石	一部欠損 円筒状 両面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鎌	(8.5)	4.5	0.5	(40.8)	鉄	断面三角形 端部折り返し 刃部先端欠損	床面	PL46

第 39 号住居跡 (第 52・53 図)

位置 調査区東部の E 147 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 64・65・69 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東に向かって傾斜しており、北東壁付近は覆土がほとんどなく、壁は明確でなかったため、北西・南東軸は軸 8.93 m で、短軸は 7.38 m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき、主軸方向は N - 55° - W である。壁高は 10 ~ 43 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。竈から西コーナー部を回り、南西壁下まで壁溝が巡っている。南西の壁溝から柱穴に向かって、幅 13 ~ 20 cm、長さ 125 ~ 170 cm、深さ 3 ~ 5 cm で、断面形が浅い U 字状の間仕切り溝 3 条を確認した。

竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 200 cm で、燃焼部幅は 72 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 12 ~ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10 cm 掘り込んで、焼土ブロック、炭化粒子を含んだ第 16 ~ 18 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁内に収まり、奥壁は直立している。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子微量	5	暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
2	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	6	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量

9 暗 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
10 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	15 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
11 褐 色	ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
12 暗 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	17 暗 赤 褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
13 暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	18 暗 赤 褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量

炉 中央部に位置している。長径 60cm, 短径 50cmの楕円形で, 床面を 3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗 赤 褐色 焼土粒子多量

ピット 9か所。P 1～P 6は深さ 15～77cmで, 規模と配置から主柱穴である。P 7は深さ 69cmで, 南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P 8は深さ 4cm, P 9は床下から確認したもので深さ 40cmで, とともに性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸 108cm, 短軸 78cmの長方形で, 深さは 64cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の南西側の床面に, 砂質粘土を積み上げた幅 120cm, 長さ 180cm, 高さ 10cmの不定形の高まりを確認した。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰 褐 色 | ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

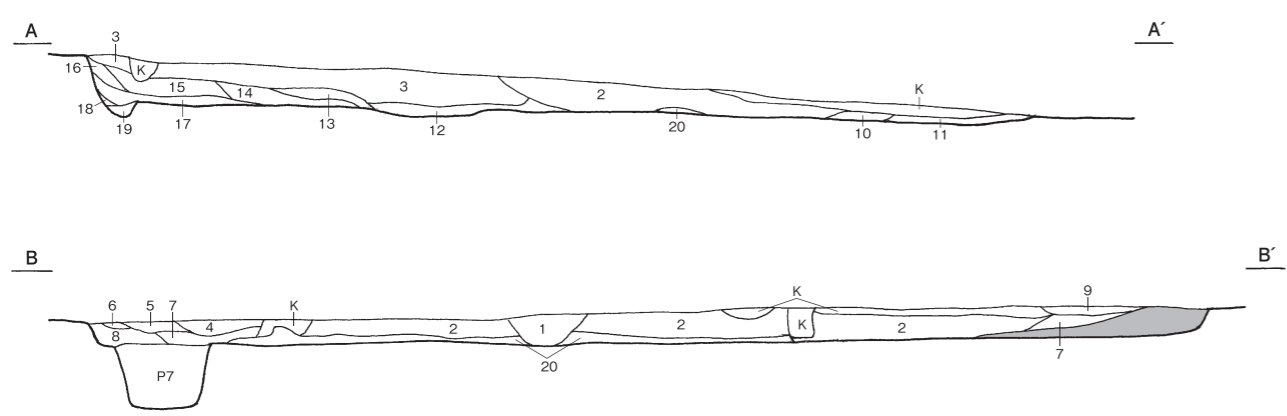
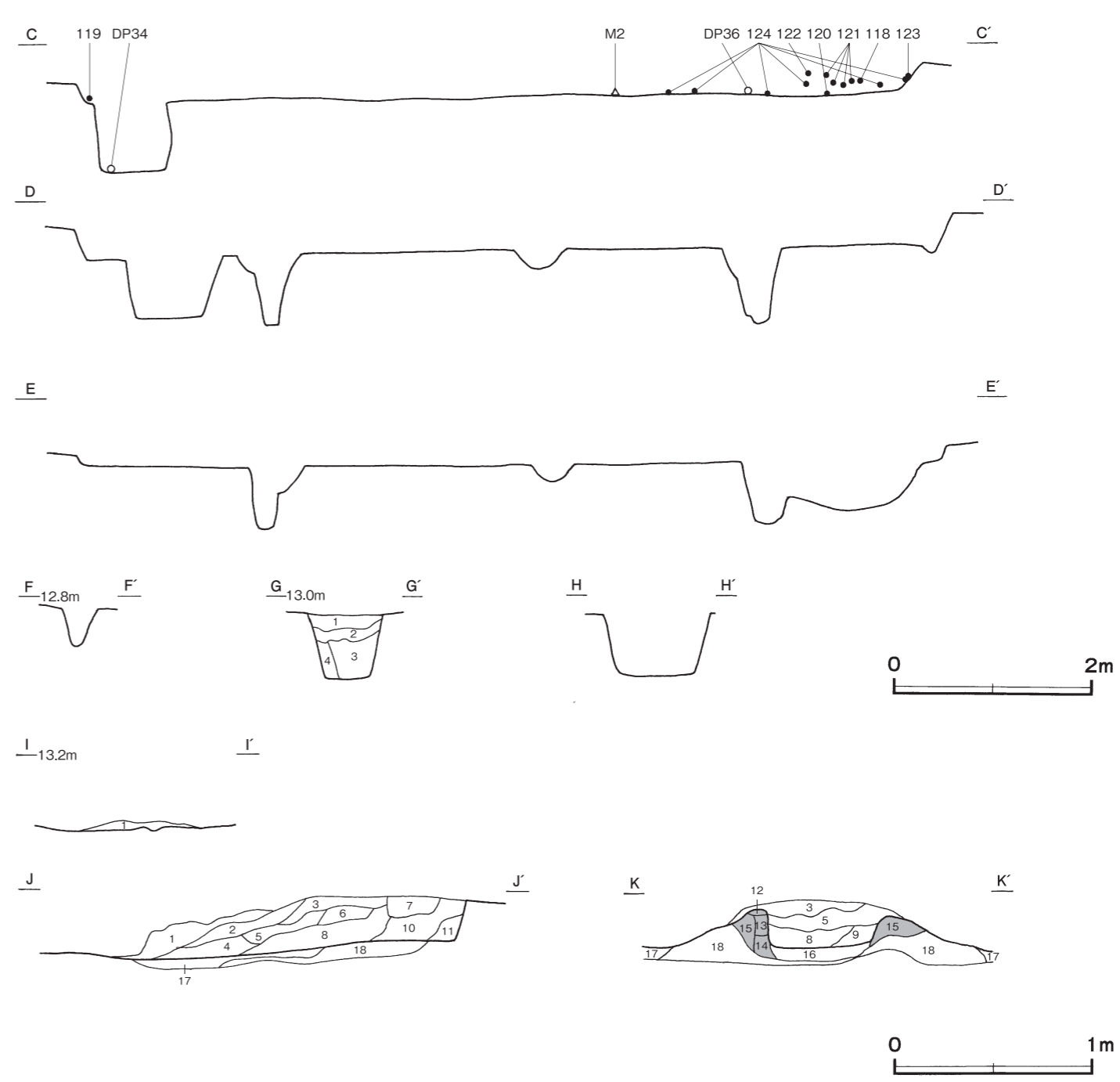
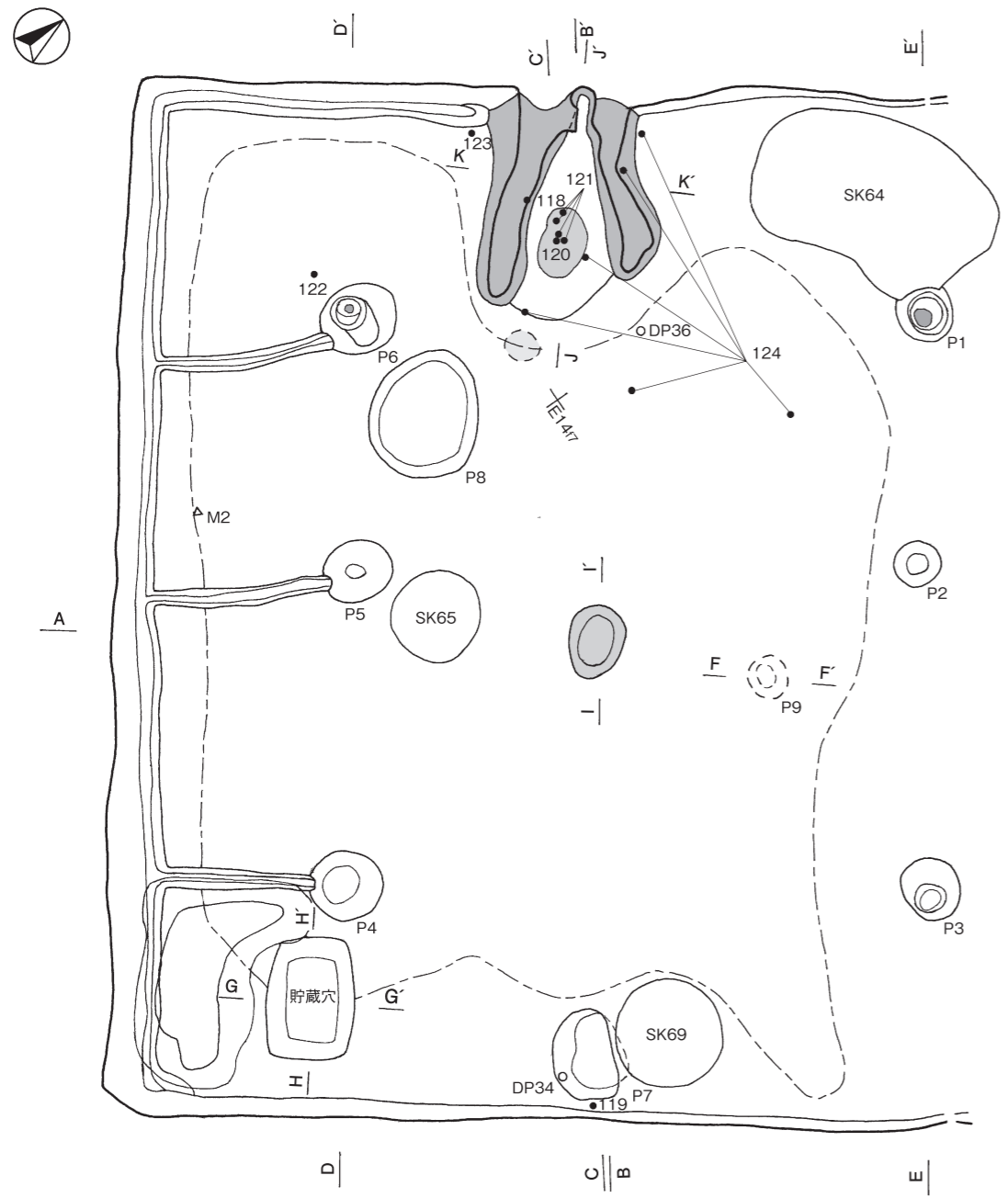
覆土 20層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

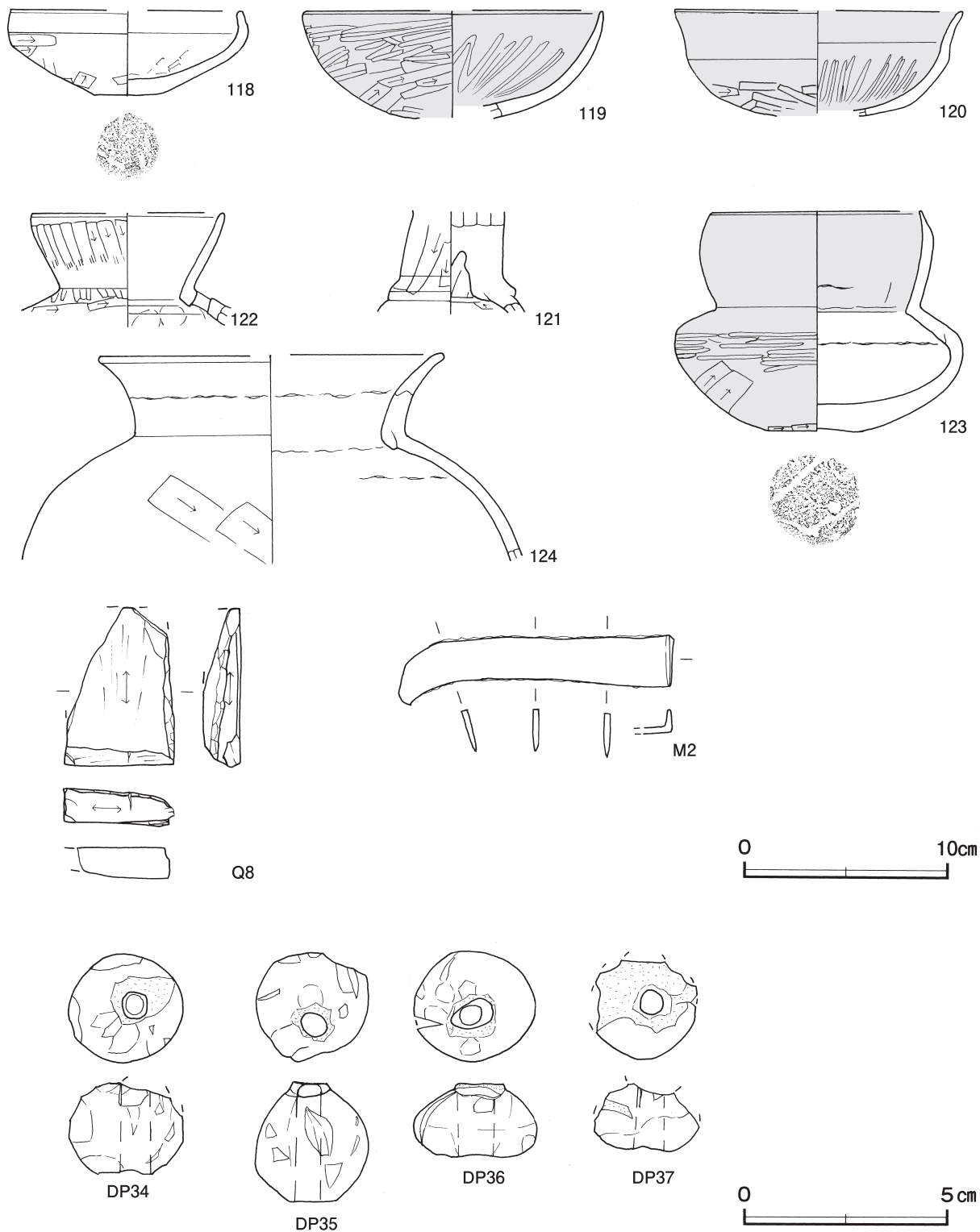
- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|----------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 11 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 極 暗 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック微量 | 13 極 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量・ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック微量 |
| 5 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 15 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 16 極 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 17 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 18 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 9 暗 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 19 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 10 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 20 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 660点 (坏 116, 埴 9, 高坏 1, 短頸壺 1, 甕類 533), 須恵器片 49点 (坏 30, 蓋 3, 甗 4, 壺 1, 甕 11), 土製品 4点 (土玉), 石器 1点 (砥石), 石製品 1点 (不明), 鉄製品 1点 (鎌), 焼成粘土塊 19点, 鉄滓 25点 (235g) が, 全面的覆土中層から床面にかけて出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 3点 (甕類) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 4点 (深鉢), 土師質土器 1点 (焙烙) も出土している。DP36は竈の前から出土し, 124は竈の前と竈の北側の床面に散在していた破片が接合したものである。M 2は西部の床面, DP34は P 7の底面からそれぞれ出土している。118・121は竈の覆土中層, 120は竈の火床面, D P 37は竈の掘方の埋土中からそれぞれ出土している。123は竈の南側の覆土下層から正位の状態出土している。119は出入口付近, 122は P 6付近の覆土下層からそれぞれ出土している。DP35・Q 8は, 覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 5世紀末から 6世紀初頭に比定できる。炉と竈が併設されていることから, 竈の導入期の住居跡とみることができる。



第52图 第39号住居跡実測図



第53図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
118	土師器	坏	[11.4]	4.2	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面工具痕	竈覆土中層	50%
119	土師器	坏	[14.5]	(5.3)	-	長石・石英	赤	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半横位のヘラ磨き 下半横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
120	土師器	坏	[14.2]	(5.2)	-	長石・石英	赤	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下半横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	竈火床面	40%
121	土師器	高坏	-	(5.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラ削り 脚部内面縦位のヘラナデ 裾部内面斜位のヘラナデ	竈覆土中層	10%
122	土師器	壺	[9.4]	(5.6)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面縦位のヘラナデ 口縁部内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面指頭圧痕	覆土下層	50%
123	土師器	短頸壺	10.3	10.9	4.8	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部外内面横ナデ 体部外面上半横位のヘラ磨き・下半斜位のヘラ削り	覆土下層	100% PL32
124	土師器	甕	[16.8]	(10.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り	床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP34	土玉	2.8	(2.3)	0.8	(14.4)	長石	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	P 7 底面	PL41
DP35	土玉	2.8	3.0	0.6	18.5	石英・雲母	ナデ 側面縦位のヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土中	PL41
DP36	土玉	3.1	1.8	0.8~1.0	13.2	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP37	土玉	(2.6)	(1.6)	0.6~0.8	(7.5)	長石	ナデ 一部欠損 一方向からの穿孔	竈掘方埋土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	(7.8)	4.6	(1.8)	(91.0)	凝灰岩	断面長方形 砥面3面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	鎌	13.5	3.3	0.3	45.7	鉄	刃部断面三角形 端部折り返し	床面	PL46

第 41 号住居跡 (第 54 ~ 57 図)

位置 調査区東部の E 14i0 区, 標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 42・43 号住居, 第 9 号ピット群 P 6 に掘り込まれている。

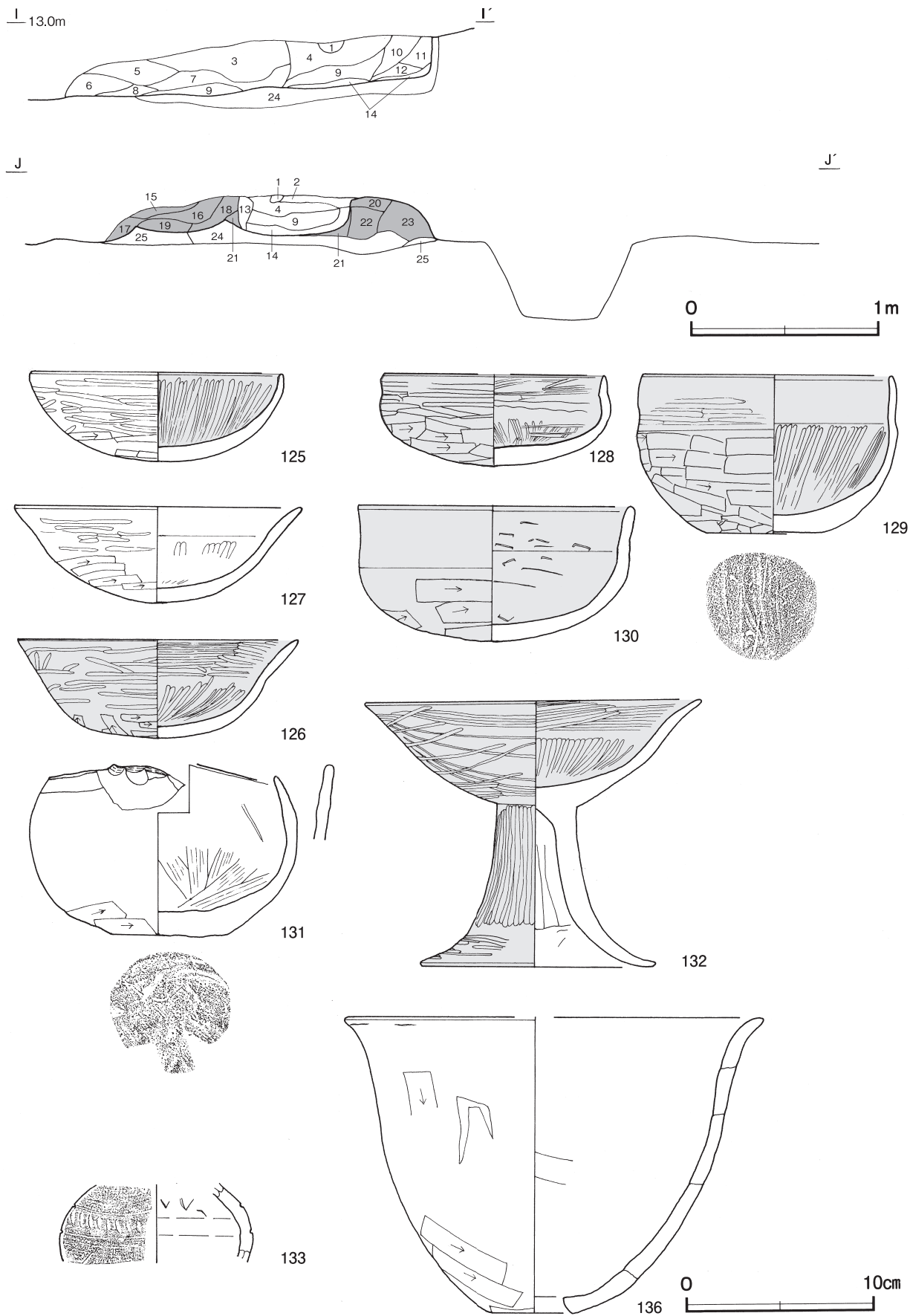
規模と形状 一辺が 9.62 m の方形で, 主軸方向は N - 30° - W である。壁高は 16 ~ 60cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。北西・南東壁を除く壁下には壁溝が巡っている。北西壁の壁溝から P 8・P 9 との間に, 幅 22cm・34cm, 長さ 155cm・160cm, 深さ 10cm・15cm で, 断面形が逆台形状の間仕切り溝 2 条を確認した。また, 床面から焼土塊, 炭化材を検出した。

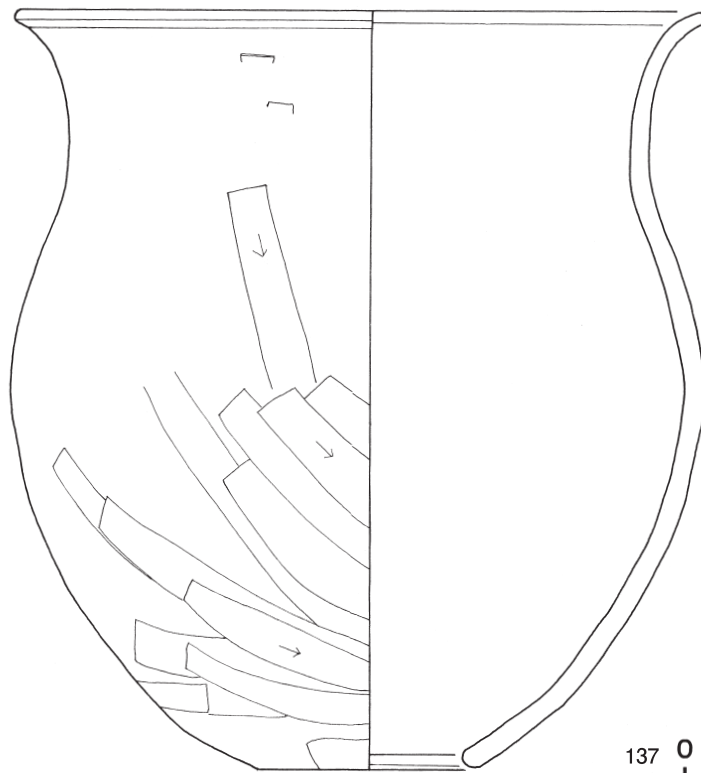
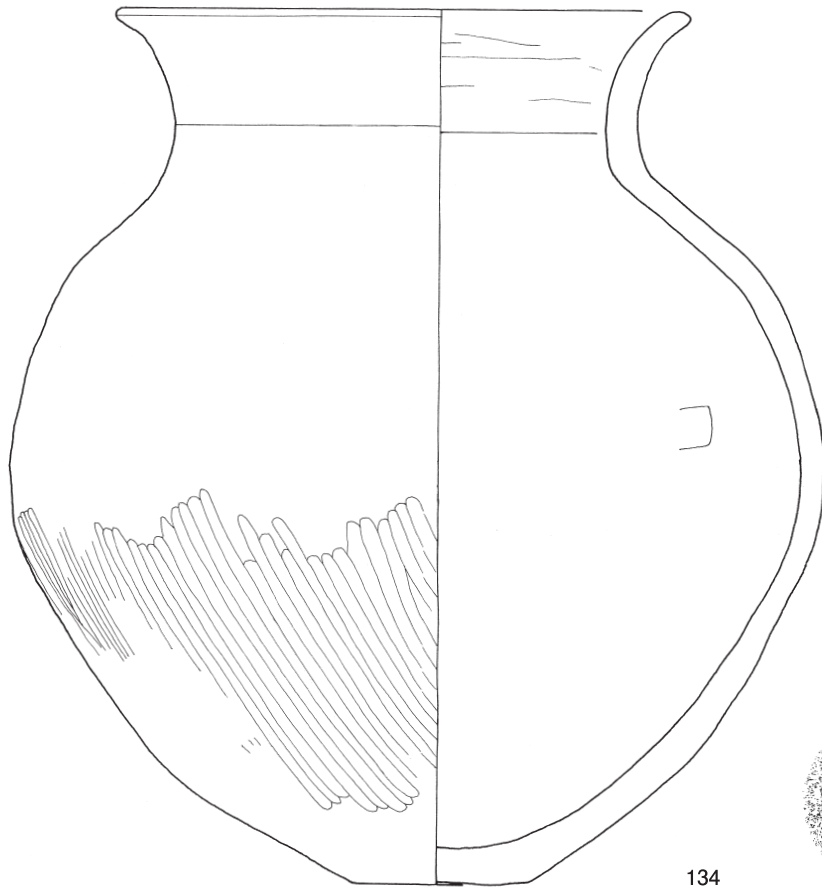
竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 153cm で, 燃焼部幅は 48cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 15 ~ 23 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 8cm 掘り込んで, ローム粒子を含んだ第 24, 25 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁内に収まり, 奥壁は直立している。

竈土層解説

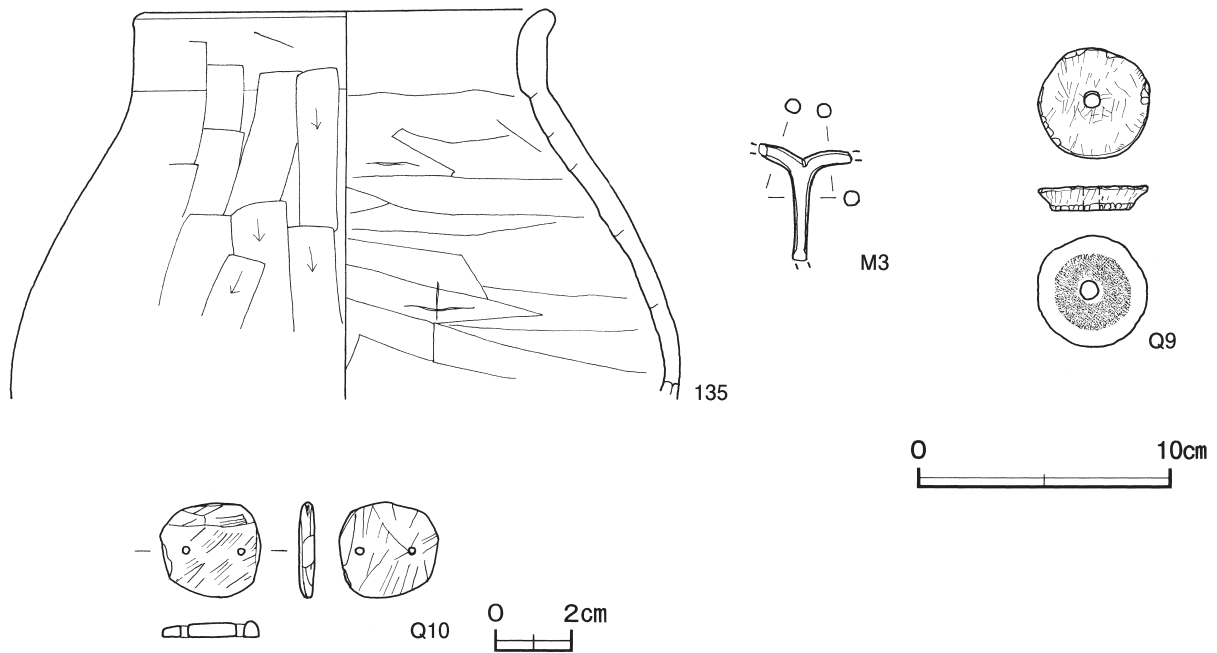
1	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	13	赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	14	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	15	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
4	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	褐灰色	砂質粘土粒子中量, 炭化物微量
5	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	焼土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	18	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	19	褐灰色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
8	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	20	褐灰色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量
9	暗赤褐色	焼土粒子少量	21	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
10	暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	22	褐灰色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
11	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	23	褐色	ローム粒子中量
12	暗赤褐色	焼土粒子中量	24	暗褐色	ローム粒子少量
			25	褐色	ローム粒子多量



第 55 图 第 41 号住居跡・出土遺物実測図



第 56 図 第 41 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 57 図 第 41 号住居跡出土遺物実測図 (2)

ピット 14 か所。P 1～P 11 は深さ 36～107cm で、規模と配置から主柱穴である。P 12 は深さ 62cm で、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 13・P 14 は深さ 70cm・46cm で、補助柱穴とみられる。

貯蔵穴 竈の右側に隣接している。長軸 87cm、短軸 70cm の長方形で、深さは 38cm である。底面は皿状にくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の東側の床面に、幅 150cm、長さ 80cm、高さ 15cm で逆 L 字状を呈する高まりを確認した。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

覆土 23 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック, 炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 18 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量 | 20 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 21 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 22 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 23 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 12 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 757 点 (坏 279, 碗 26, 片口碗 1, 高坏 25, 壺 1, 甕類 423, 甑 2), 須恵器片 51 点 (坏 38, 高台付坏 2, 蓋 2, 甗 3, 甕類 6), 石器 1 点 (紡錘車), 石製品 1 点 (双孔円板), 鉄製品 1 点 (不明), 鉄滓 29 点 (512g) が, 全面の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 101 点 (深鉢), 陶器片 1 点 (碗), 磁器片 3 点 (碗), ナイフ形石器 1 点, 瓦片 1 点も出土している。129・130 は貯蔵穴の覆土上層から, 127 は出入口付近, 125 は南コーナー部の床面からそれぞれ出土している。132・134 は竈

の覆土中層からそれぞれ出土している。131・135～137は竈の東側、126・128は出入り口付近、M3は東部、133は南部、Q9は西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。Q10は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末から6世紀初頭に比定できる。床面で炭化材や焼土塊が検出されたことから、焼失住居と考えられる。竈は、いわゆる初期竈と思われる。11本の支柱穴を有する、今回の調査範囲で本跡最大の住居跡である。

第41号住居跡出土遺物観察表（第55～57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
125	土師器	坏	13.4	4.8	-	長石・石英	黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ磨き	床面	100% PL29
126	土師器	坏	14.8	5.3	-	長石・石英	赤	普通	体部外面上半横位のヘラ磨き・下半ヘラ削り 内面上半横位のヘラ磨き・下半放射状のヘラ磨き	覆土下層	100% PL29
127	土師器	坏	15.0	5.2	-	長石・石英	赤	普通	口縁部外面横位のヘラ磨き 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	床面	100% PL29
128	土師器	坏	[11.8]	4.9	-	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外・内面横位のヘラ磨き 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	70%
129	土師器	椀	13.3	8.6	5.9	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外面横位のヘラ磨き 口縁部内面ヘラナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	貯蔵穴覆土上層	95% PL29
130	土師器	椀	14.5	7.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面工具痕	貯蔵穴覆土上層	100% PL29
131	土師器	片口椀	12.0	9.3	6.2	長石・石英・黒色粒子	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 片口部指押さえにより成形 体部下端横位のヘラ削り 底部内面放射状のヘラナデ	覆土下層	85% PL30
132	土師器	高坏	17.8	14.4	12.2	長石・石英	赤	普通	坏部外面・口縁部内面横位のヘラ磨き 内面放射状のヘラ磨き 脚部外面縦位のヘラ磨き・内面ヘラナデ	竈覆土中層	95% PL30
133	須恵器	甗	-	(4.2)	-	長石・石英	灰	普通	外面肩部沈線文・刺突文 内面クロコナデ・工具痕	覆土下層	5%
134	土師器	甗	22.0	34.9	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下端斜位のヘラ磨き 内面ヘラナデ・工具痕	竈覆土中層	80% PL33
135	土師器	甗	15.9	(15.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り 口縁部内面横ナデ内面ヘラナデ	覆土下層	40%
136	土師器	甗	[22.0]	15.9	4.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	80%
137	土師器	甗	27.2	30.2	8.7	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面ヘラナデ・工具痕	覆土下層	60% PL35

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	紡錘車	4.4	1.0	0.7	30.1	蛇紋岩	両面研磨 底面放射状の線刻 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	双孔円板	2.5	2.6	0.4	4.6	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	不明	(4.6)	(3.6)	0.6	(10.5)	鉄	断面円形 両端部欠損	覆土下層	PL46

第46号住居跡（第58・59図）

位置 調査区東部のE15j3区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第45号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.54m、短軸4.40mの方形で、主軸方向はN-37°-Wである。壁高は48～70cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁下を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、中央部と北西及び南東のコーナー部を土坑状に掘りくぼめ、ローム粒子を含んだ第33・34層を埋土して構築されている。床面の広範囲に炭化材を確認した。また、P3付近の床面からは、焼土も確認した。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部

は砂質粘土を主体とした第23層を積み上げて構築されている。火床部は、床面を5cm掘りくぼめ、ローム粒子を含む第24・25層を埋土して構築している。竈の覆土は埋め戻されており、内部を壊したためか火床面は遺存していない。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	13 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	14 灰 赤 色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量
3 にぶい黄褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	15 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量
4 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	16 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色	炭化材・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量	17 暗 褐 色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量
6 暗 赤 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	18 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
7 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	19 暗 赤 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗 褐 色	炭化物・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量	20 褐 色	ローム粒子中量
9 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量	21 暗 赤 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10 にぶい赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	22 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
11 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	23 暗 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
12 暗 褐 色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量	24 暗 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
		25 褐 色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量

ピット 7か所。P1～P4は深さ40～62cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ33cmで、南東壁の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ18cm, P7は床下から確認されたもので深さ14cmで、ともに性格は不明である。

貯蔵穴 北東側のコーナー部に位置している。長径75cm, 短径67cmの不整楕円形で、深さは43cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐 色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量	3 にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
2 暗 赤 褐色	焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量	4 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量

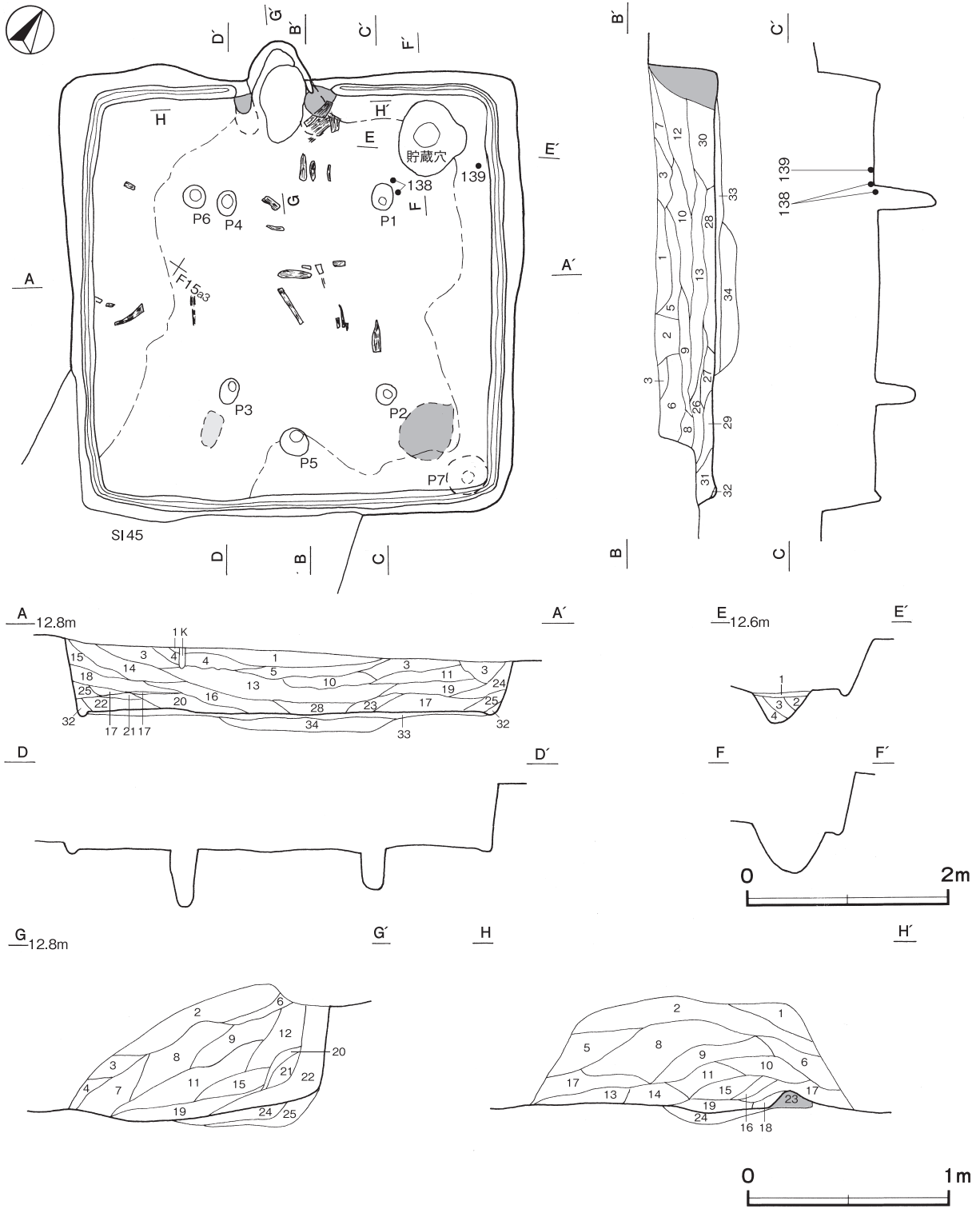
覆土 32層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第33・34層は貼床の構築土である。

土層解説

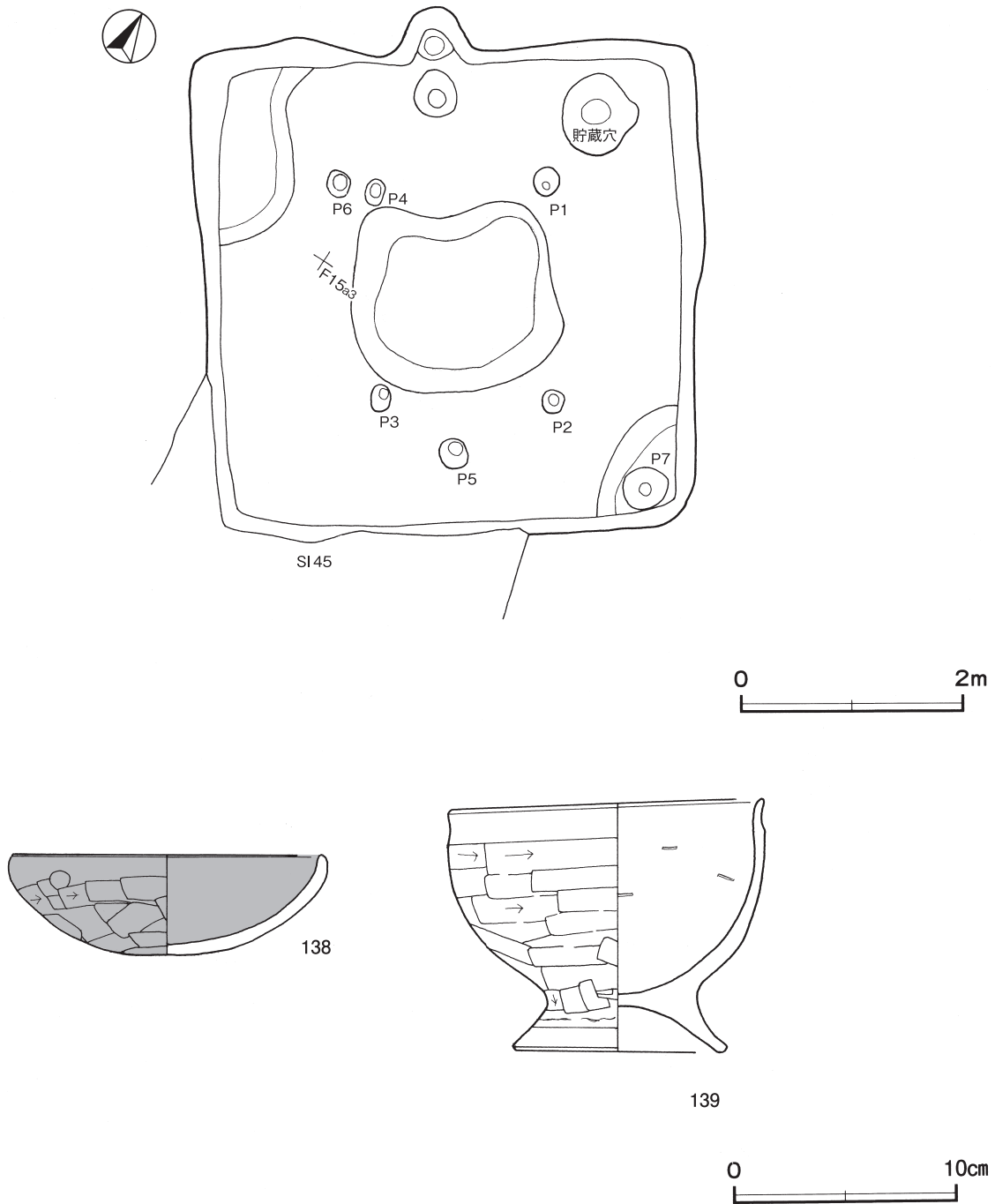
1 暗 褐 色	ローム粒子少量	19 褐 色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量
2 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	20 暗 褐 色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗 褐 色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量	21 暗 褐 色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐 色	ローム粒子中量	22 暗 褐 色	ロームブロック微量
5 暗 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	23 褐 色	炭化粒子中量, ローム粒子少量
6 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	24 暗 褐 色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
7 褐 色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量	25 にぶい褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
8 黒 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子・赤色粒子微量	26 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
9 黒 褐 色	ローム粒子少量	27 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
10 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子・赤色粒子微量	28 褐 色	ロームブロック・炭化物少量
11 褐 色	ロームブロック少量	29 暗 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・赤色粒子微量
12 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	30 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物微量	31 暗 褐 色	ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
14 暗 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子・赤色粒子微量	32 褐 色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量
15 暗 褐 色	ローム粒子・赤色粒子少量	33 褐 色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
16 暗 褐 色	赤色粒子少量, ローム粒子微量	34 暗 褐 色	ローム粒子多量
17 褐 色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量		
18 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片114点(坏19, 台付椀1, 甕類93, 甌1), 須恵器片6点(坏), 焼成粘土塊1点が出土している。そのほか、混入した縄文土器6点(深鉢)も出土している。138はP1付近, 139は貯蔵穴付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉に比定できる。床面で炭化材や焼土が確認されたことから，焼失住居と考えられる。



第58図 第46号住居跡実測図



第 59 図 第 46 号住居跡・出土遺物実測図

第 46 号住居跡出土遺物観察表 (第 59 図)

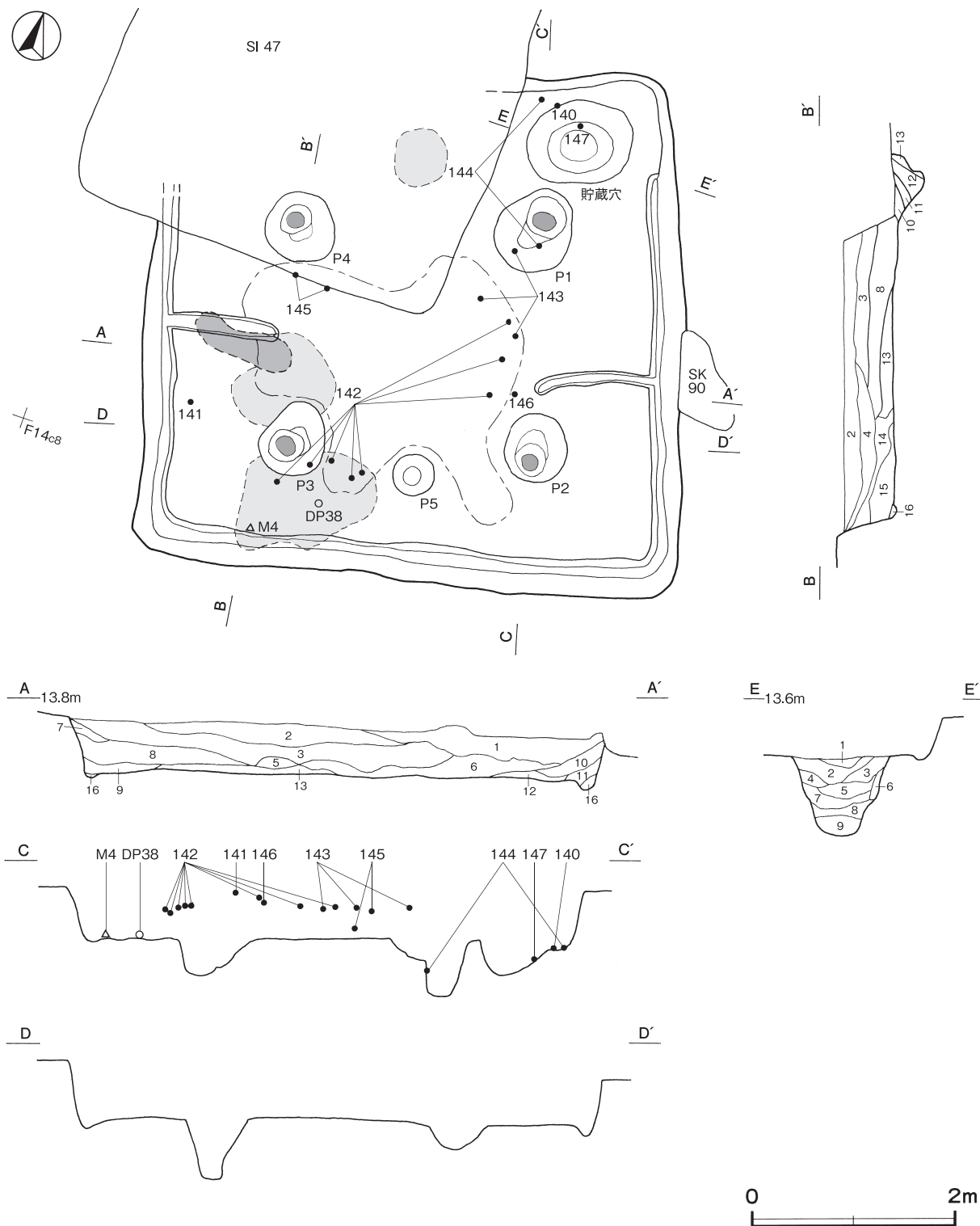
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
138	土師器	坏	13.8	4.5	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	床面	90%
139	土師器	台付椀	14.0	11.4	9.2	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	床面	80% PL30

第 48 号住居跡 (第 60 ~ 62 図)

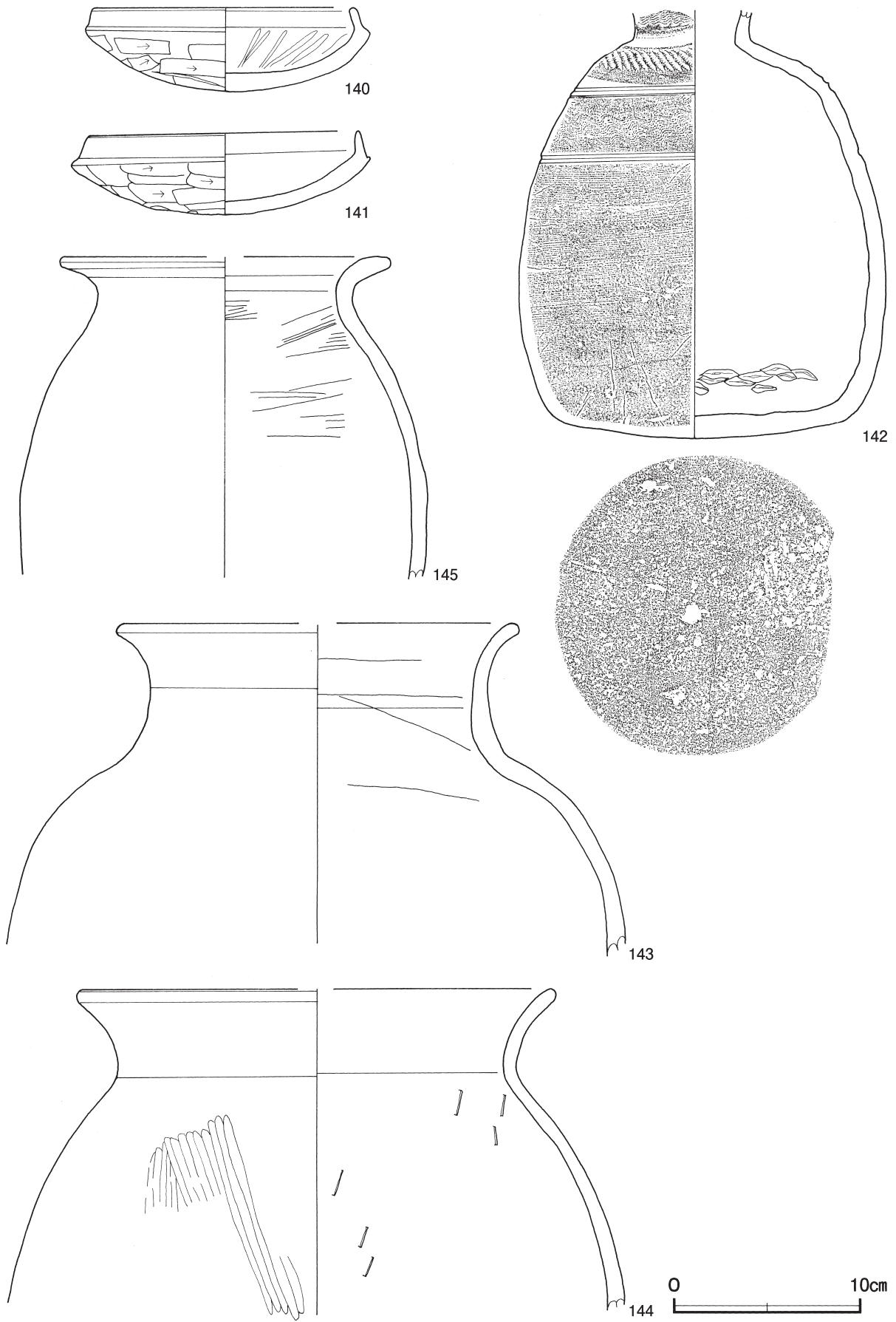
位置 調査区東部の F 14b8 区, 標高 14 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第47号住居，第90号土坑に掘り込まれている。

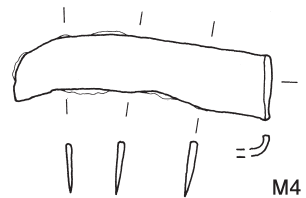
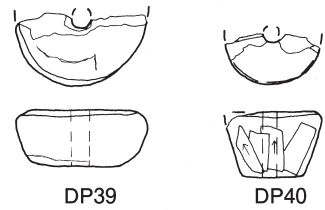
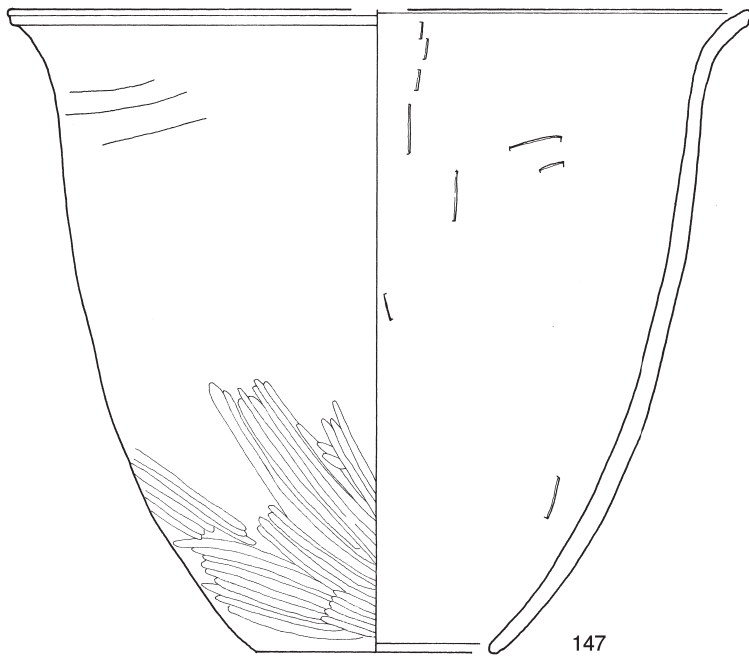
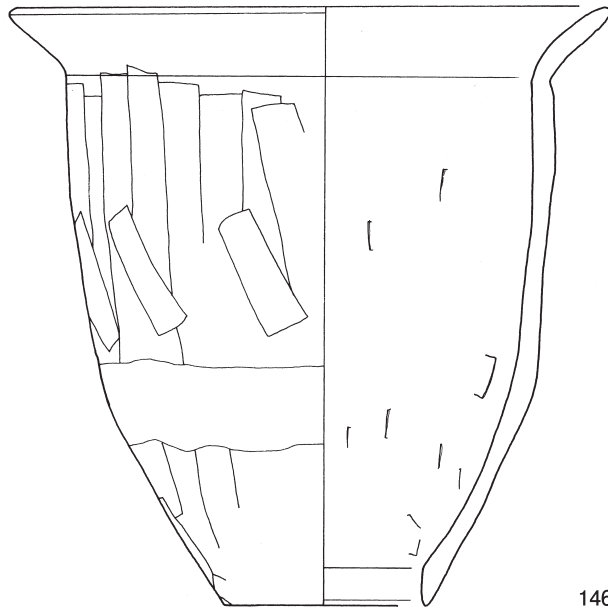
規模と形状 長軸5.35m，短軸5.15mの方形で，主軸方向はN-17°-Wである。壁高は52~57cmで，外傾して立ち上がっている。



第60図 第48号住居跡実測図



第 61 图 第 48 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 62 図 第 48 号住居跡出土遺物実測図 (2)

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除く壁下には壁溝が巡っている。東壁と西壁の壁溝から中央に向かって、幅 10cm・20cm、長さ 110cm・115cm、深さ 20cm・23cmで、断面形が逆台形状の間仕切り溝 2 条を確認した。北西部は第 47 号住居に掘り込まれているが、北壁下中央部分にあたる位置に長径 56cm、短径 50cmの楕円形に赤変硬化した部分を確認した。竈火床面の残存と考えられる。また、南西コーナー付近で焼土・炭化材を検出した。

ピット 5 か所。P 1～P 4 は深さ 36～62cmで、規模と配置から支柱穴である。P 5 は深さ 31cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 107cm、短径 82cmの楕円形で、深さは 79cmである。底面は平坦で、

壁は中位に段を有し外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|----------------|
| 1 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック微量 |
| | | 9 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |

覆土 16層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------|------------|----------------------|
| 1 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 9 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 10 極 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 暗 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 5 極 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 13 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 6 極 暗 褐 色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 | 14 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐 色 | ロームブロック少量 | 15 黒 暗 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 8 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 16 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 1096 点（坏 96, 高坏 32, 甕類 919, 甌 49）, 須恵器片 39 点（坏 32, 長頸瓶 5, 甕類 2）, 土製品 3 点（土玉 1, 紡錘車 2）, 鉄製品 1 点（鎌）, 焼成粘土塊 19, 鉄滓 7 点（170g）が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した縄文土器片 2 点（深鉢）, 剥片 1 点も出土している。147 は貯蔵穴の覆土中層から出土している。DP38 は南部, M 4 は南西部の床面からそれぞれ出土している。140 は貯蔵穴の北側の覆土下層から出土し, 144 は貯蔵穴の北側の覆土下層と P 1 の覆土中層から出土した破片が接合したものである。142 は、覆土の第 3 層中に投棄された状態で出土した破片を接合したものである。145・146 は中央部, DP39・40 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。142・143 は中央部, 141 は東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。床面で検出した焼土・炭化材は、床面が赤変していなかったことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。

第 48 号住居跡出土遺物観察表（第 61・62 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
140	土師器	坏	14.0	4.5	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	90% PL29
141	土師器	坏	14.3	4.5	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土上層	90% PL29
142	須恵器	長頸瓶カ	-	(23.1)	[16.1]	長石・石英	灰黄	普通	頸部下端櫛歯状工具による波状文 肩部刺突文 体部上端 2 条の沈線文・15 本の櫛歯状工具による波状文 内面下端工具痕・底面指頭圧痕	覆土上層	80% PL31
143	土師器	甕	[21.2]	(17.9)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	覆土上層	20%
144	土師器	甕	[25.4]	[17.2]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面工具痕	覆土下層	20%
145	土師器	甕	[17.6]	(17.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	P 1 覆土中層	10%
146	土師器	甌	23.5	23.9	8.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ・工具痕 体部外面下半擦痕	覆土中層	70% PL35
147	土師器	甌	[29.4]	(25.6)	[9.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部下半斜位のヘラ磨き 内面工具痕	貯蔵穴覆土中層	10%

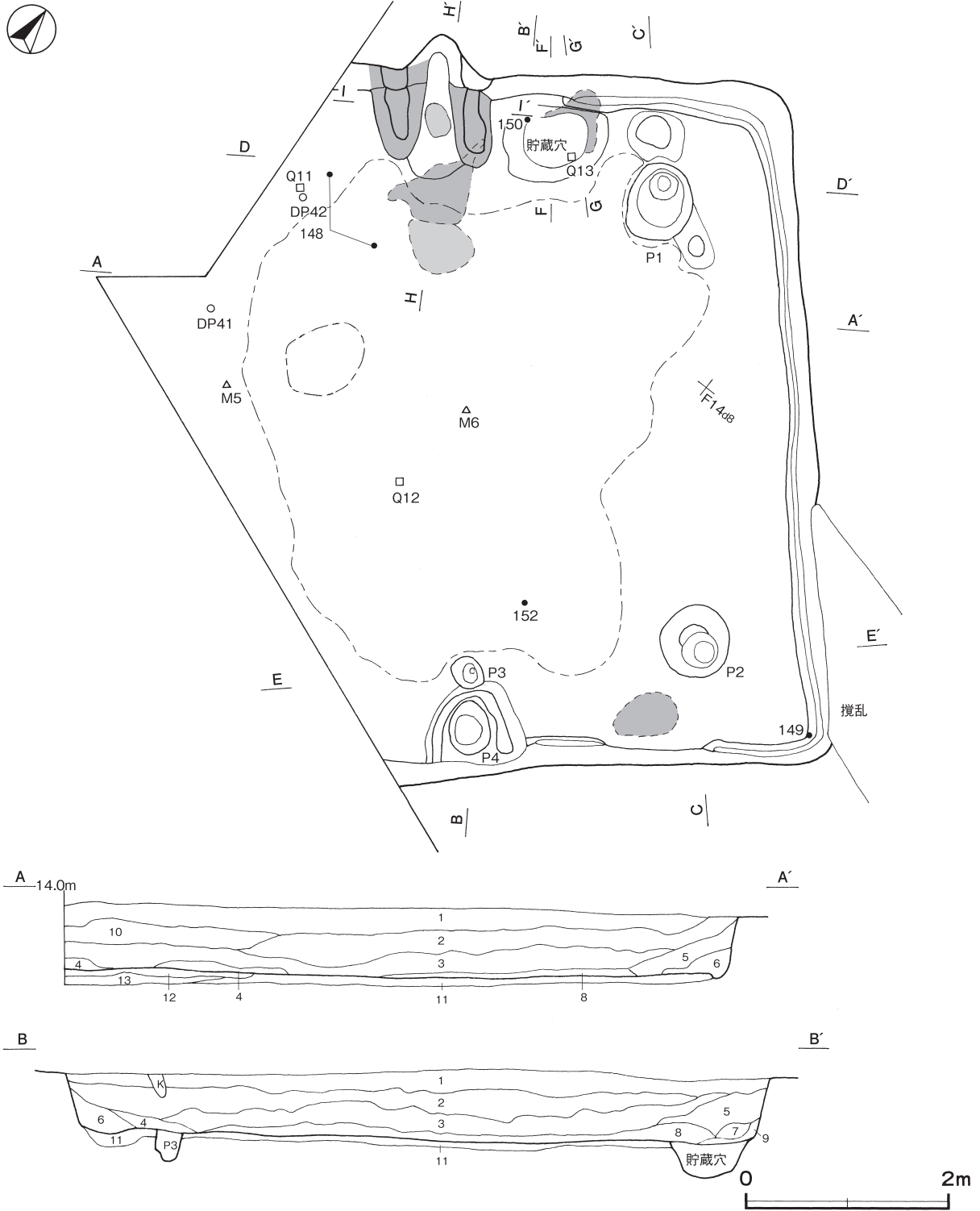
番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP38	土玉	1.1	1.0	0.2~0.3	1.0	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP39	紡錘車	(5.2)	2.2	0.7	(31.2)	長石	ナデ 欠損 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP40	紡錘車	(3.8)	2.6	0.5	(17.5)	長石	ナデ 欠損 側面ヘラナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 4	鎌	10.2	3.6	0.3	26.5	鉄	刃部断面三角形 端部折り返し	床面	PL46

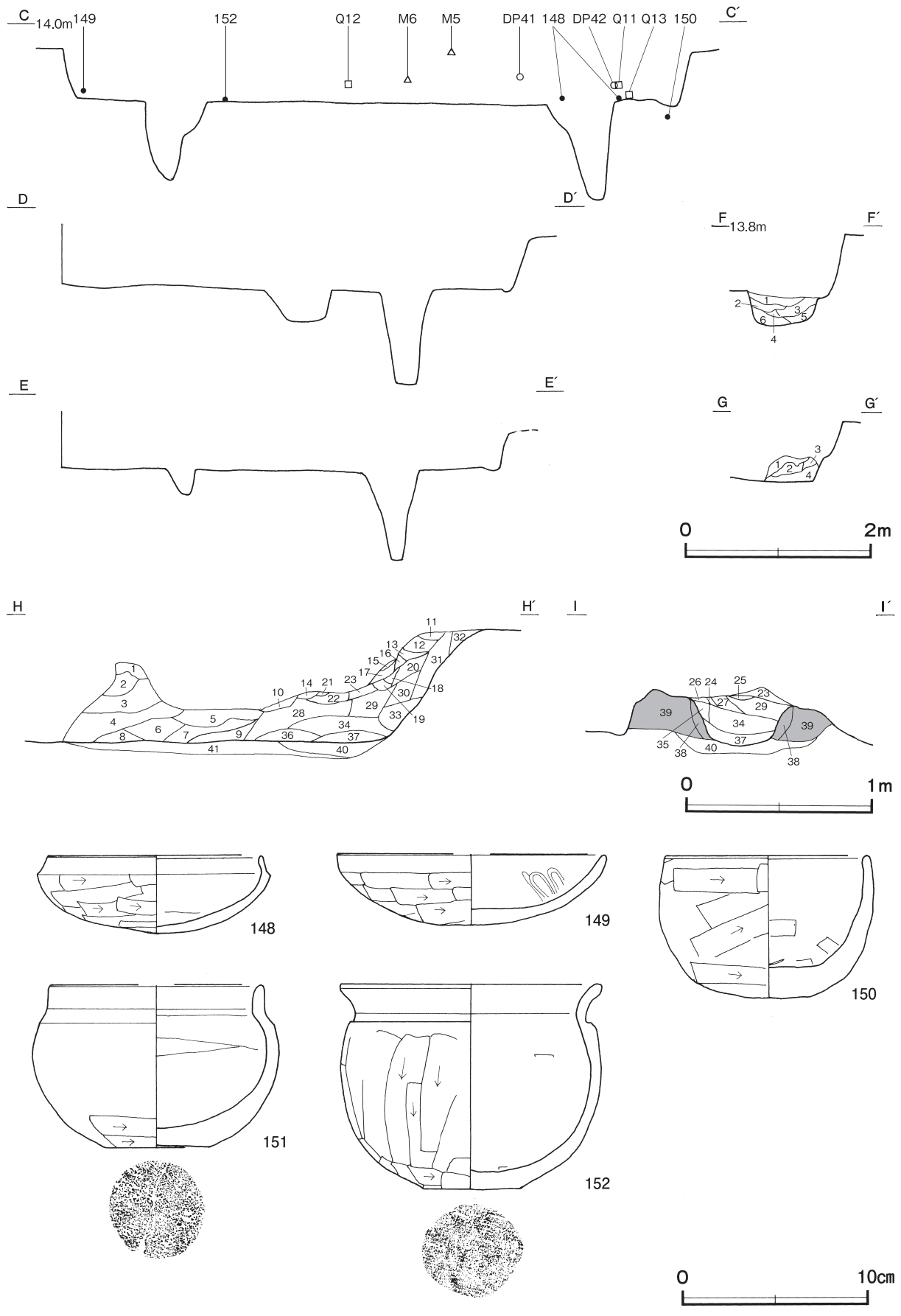
第 50 号住居跡 (第 63 ~ 65 図)

位置 調査区東部の F 14d7 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

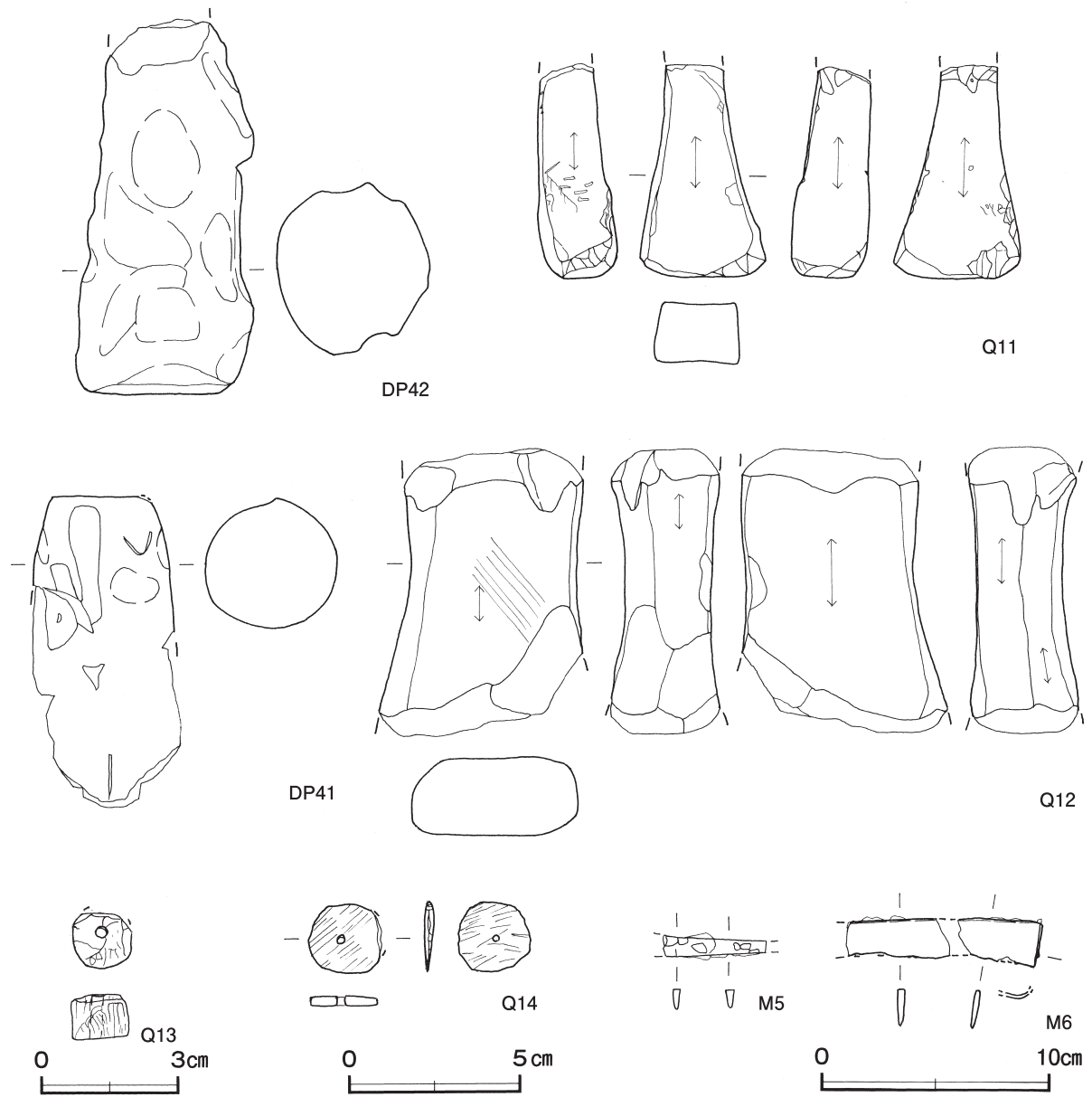
規模と形状 北東部及び南西部が調査区域外に延びているため, 北西・南東軸は 6.80 m で, 北東・南西軸は 6.76 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で, 主軸方向は $N - 40^\circ - W$ と推定できる。壁高は 36 ~ 60 cm で, 外傾して立ち上がっている。



第 63 図 第 50 号住居跡実測図



第 64 图 第 50 号住居跡・出土遺物実測図



第 65 図 第 50 号住居跡出土遺物実測図

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南西壁の一部を除く壁下には、壁溝が巡っている。貼床は、四隅を土坑状に掘りくぼめ、第 11～13 層を埋土して構築されている。竈の前と出入口付近の床面で焼土塊や粘土塊を検出した。出入口周辺に馬蹄形の高まりを確認した。また、中央やや北寄りの床面上に、長径 60cm、短径 50cm、高さ 18cm の不整楕円形の高まりを検出した。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 144cm で、燃烧部幅は 35cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 38・39 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10cm 掘り込んで、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第 40・41 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 45cm 掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 灰 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 5 灰 褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 灰 褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 6 褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 7 黒 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐色 焼土粒子少量・砂質粘土粒子微量 | 8 黒 褐色 焼土粒子微量 |

9	褐色	砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	25	褐灰色	砂質粘土粒子中量
10	褐色	砂質粘土粒子微量	26	褐灰色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
11	にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	27	褐灰色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
12	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	28	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
13	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量	29	暗赤褐色	焼土粒子少量
14	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	30	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
15	褐灰色	砂質粘土ブロック少量	31	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
16	褐灰色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	32	褐色	ローム粒子中量
17	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	33	暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量
18	褐灰色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	34	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
19	褐灰色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	35	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
20	極暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量	36	暗赤褐色	炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量
21	暗褐色	砂質粘土粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	37	暗赤褐色	焼土粒子微量
22	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	38	灰褐色	ローム粒子中量
23	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	39	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量
24	暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	40	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
			41	暗褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 4か所。P1・P2は深さ102cm・97cmで、規模と配置から主柱穴である。P3・P4は深さ29cm・18cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 竈の右側に位置している。長径105cm, 短径72cmの楕円形で、深さは39cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	4	灰褐色	砂質粘土粒子微量
2	灰褐色	砂質粘土粒子中量	5	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック微量	6	褐色	ローム粒子少量

覆土 10層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第11～13層は、貼床の構築土である。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	褐色	ロームブロック, 炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子少量			
6	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量			
7	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量			
8	褐色	ロームブロック少量			
9	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量			

粘土塊2

1	暗褐色	ローム粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	4	灰褐色	砂質粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師器片3680点(坏571, 椀4, 高坏36, 甕類3068, 小形甕1), 須恵器片415点(坏298, 高台付坏9, 蓋13, 高盤1, 甕類94), 土製品2点(支脚), 石器2点(砥石), 石製品2点(白玉, 双孔円板), 礫28点, 鉄製品3点(刀子, 鎌, 不明), 焼成粘土塊15点, 鉄滓43点(802g), 骨7点(牛の歯), 種子1点(桃)が、中央部から西部の覆土中層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器18点(坏4, 甕類14)が出土している。そのほか、混入した縄文土器片47点(深鉢), 剥片2点も出土している。148は竈の南側, 152は出入り口付近の床面からそれぞれ出土している。150は貯蔵穴の覆土中層, 151は覆土中, Q13は覆土上層, からそれぞれ出土している。DP42・Q11は竈の南側, 149は東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。Q12・M6は中央部, DP41は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。Q14は東部の覆土中, M5は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。また、牛の歯については、すべて白歯破片であり、用途は不明である。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。床面の中央やや北西寄りで確認された不整楕円形の高まりの性格については不明である。

第50号住居跡出土遺物観察表（第64・65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
148	土師器	坏	11.5	4.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ・工具痕	床面	90%
149	土師器	坏	[14.4]	3.8	-	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	60%
150	土師器	椀	10.9	7.7	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外・内面横位のヘラナデ	貯蔵穴覆土中層	100% PL30
151	土師器	椀	[11.2]	8.8	5.5	長石・石英	褐灰・橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下端横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	貯蔵穴覆土中	60% PL30
152	土師器	小形甕	14.0	11.1	5.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 下端横位のヘラ削り 内面横ナデ・工具痕	床面	80% PL32

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP41	支脚	(13.7)	4.8	(6.5)	(296)	長石・石英	ナデ 外面指頭圧痕 下部欠損	覆土中層	PL42
DP42	支脚	(16.5)	6.2	7.7	(905)	長石・石英	外面ヘラナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 11	砥石	(9.4)	5.5	3.4	(182)	凝灰岩	断面長方形 砥面4面	覆土下層	PL44
Q 12	砥石	(12.6)	9.0	4.8	(670)	凝灰岩	断面隅丸長方形 砥面5面	覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 13	白玉	1.3	1.0	0.2	(2.9)	滑石	全面研磨 円筒状 一部欠損 一方向からの穿孔	貯蔵穴覆土上層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	双孔円板	2.1	2.1	0.3	(1.8)	滑石	全面研磨 一部欠損 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 5	刀子	(4.7)	(1.2)	(0.3)	(4.6)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形・茎部断面逆台形	覆土上層	
M 6	鎌	(8.5)	3.1	0.3	(9.0)	鉄	端部折り返し 中間・先端欠損 刃部断面三角形	覆土中層	

第54号住居跡（第66～68図）

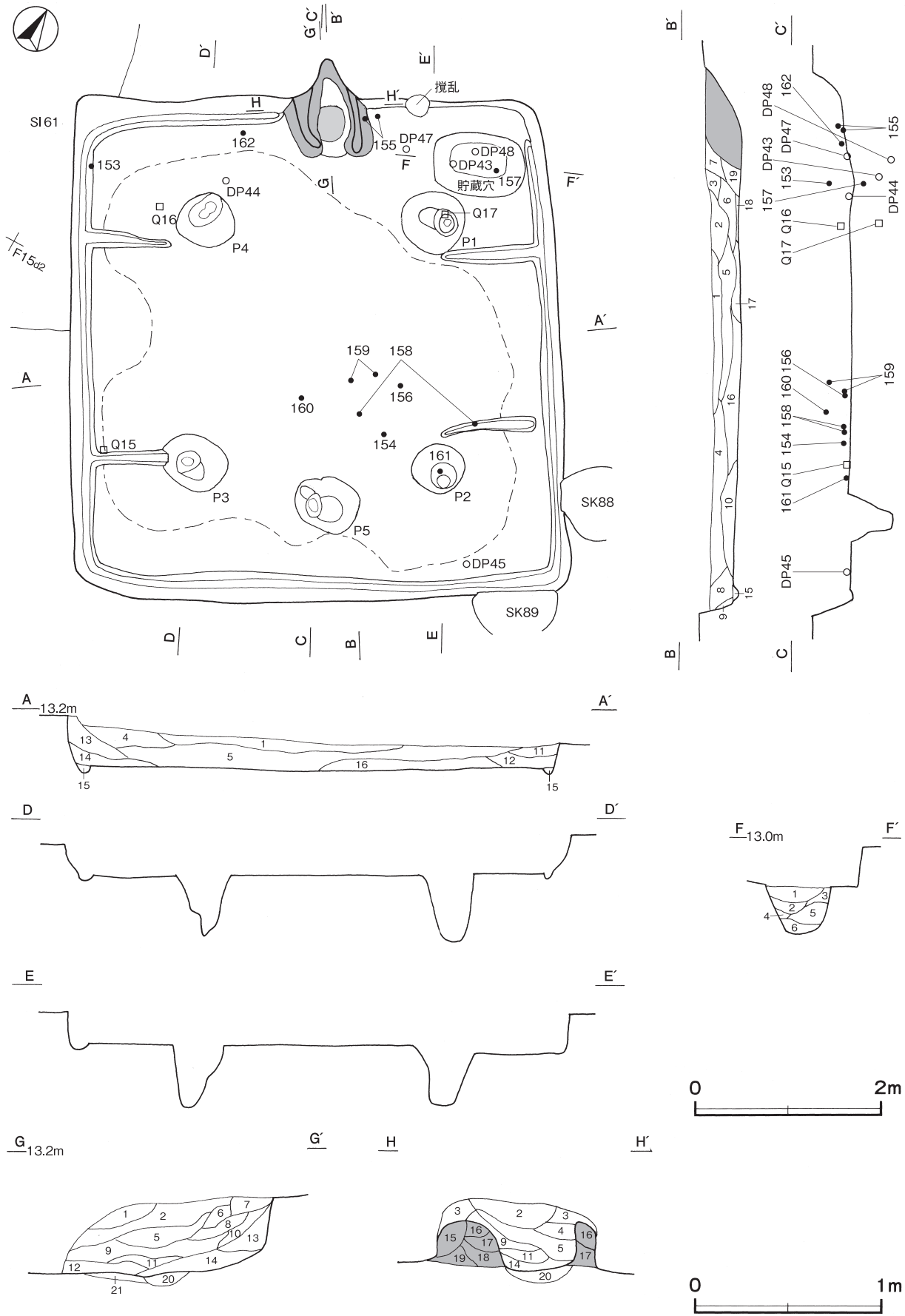
位置 調査区東部のF 15c2区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第61号住居跡を掘り込み、第88・89号土坑に掘り込まれている。

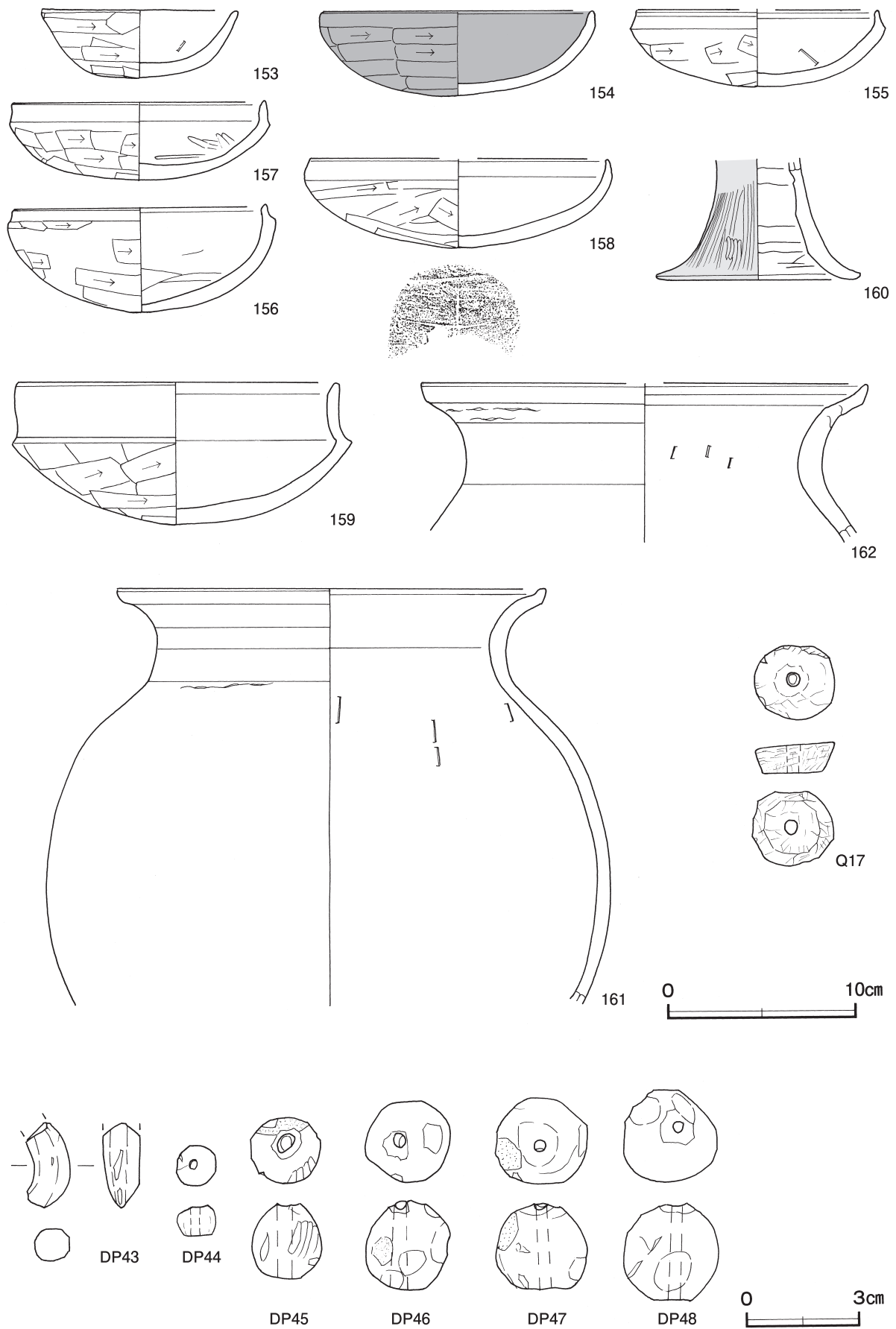
規模と形状 長軸5.50m、短軸5.30mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は25～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北東壁下を除いて壁溝が巡っている。東・西の壁溝から中央に向かって、幅8～18cm、長さ70～105cm、深さ11～14cmで、断面形が逆台形状の間仕切り溝4条を確認した。

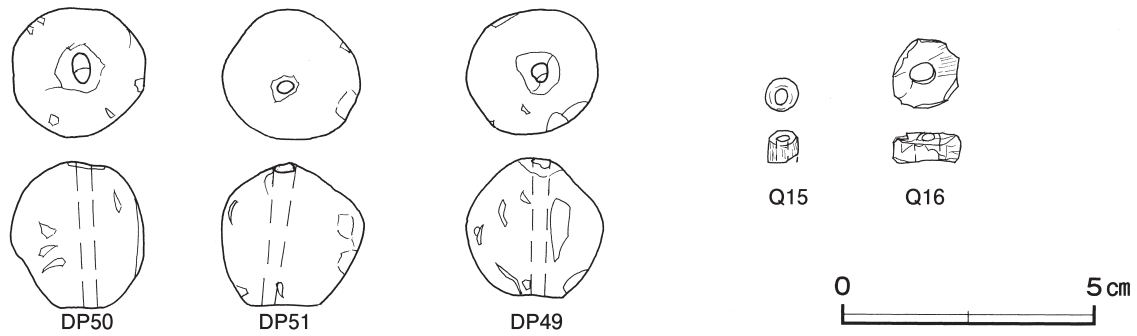
竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cmで、燃焼部幅は35cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第15～19層を積み上げて構築されている。火床部は床面を15cm掘り込んで、ローム粒子、砂質粘土粒子を含んだ第20・21層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ42cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。



第 66 图 第 54 号住居跡実测图



第 67 图 第 54 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 68 図 第 54 号住居跡出土遺物実測図 (2)

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	焼土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	灰少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子少量
6 灰褐色	砂質粘土少量, 炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 灰褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量	15 褐灰色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量
8 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	16 褐灰色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
		17 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
		18 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
		19 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
		20 褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
		21 褐色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 62～75cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ 45cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸 98cm, 短軸 73cmの長方形で、深さは 52cmである。底面は皿状にくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	4 極褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量,
3 極褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量

覆土 19層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	炭化粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量	14 極暗褐色	ロームブロック微量
5 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 極暗褐色	ローム粒子微量	18 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	19 暗褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片 718点 (坏 207, 甕類 509, 甌 2), 須恵器片 18点 (坏 12, 蓋 1, 甕類 5), 土製品 9点 (勾玉 1, 土玉 8), 石製品 3点 (白玉 2, 紡錘車 1), 石 2点 (軽石, 礫), 焼成粘土塊 8点, 鉄滓 3点 (13g) が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した縄文土器片 20点 (深鉢), 剥片 2点も出土している。162・DP44 は竈の南西側, 155・DP47 は竈の北東側, Q 16 は P 4 付近の床面からそれぞれ

れ出土している。DP46・DP49～DP51は竈の覆土中からそれぞれ出土している。161はP2の覆土上層、Q17はP1の覆土中層、157は貯蔵穴の覆土中層、DP43は貯蔵穴の覆土下層、DP48は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。156・158・159は中央部、Q15は西部、DP45は東コーナー部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。160は中央部、153は西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第54号住居跡出土遺物観察表(第67・68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
153	土師器	坏	10.5	3.6	-	長石・石英	黒褐	普通	体部外面横位のヘラナデ 内面横ナデ・工具痕	覆土中層	80%
154	土師器	坏	14.4	4.5	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	90%
155	土師器	坏	[12.9]	4.0	-	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ 工具痕	床面	70%
156	土師器	坏	13.4	5.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ・工具痕	覆土下層	90%
157	土師器	坏	13.3	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土中層	70%
158	土師器	坏	[15.8]	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面横ナデ 底部外面十字の刃物痕	覆土下層	60%
159	土師器	坏	17.1	7.6	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土下層	60% PL29
160	土師器	高坏	-	(6.5)	10.4	長石・石英	にぶい赤褐	普通	裾部外面縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	覆土中層	20%
161	土師器	甕	22.8	(22.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面横ナデ・工具痕	P2覆土上層	30%
162	土師器	甕	[23.6]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面工具痕	床面	10%

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP43	勾玉	(23)	1.0	-	(2.4)	長石・石英	ナデ 一部欠損 穿孔痕	貯蔵穴覆土下層	PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP44	土玉	1.1	0.8	0.2~0.3	1.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP45	土玉	1.9	2.0	0.3~0.4	(6.5)	長石	ナデ 側面ヘラ磨き 一方向からの穿孔	覆土下層	PL41
DP46	土玉	2.3	2.4	0.3~0.5	(10.6)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL41
DP47	土玉	2.5	2.4	0.3	(12.7)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP48	土玉	2.5	2.6	0.3~0.4	15.1	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	貯蔵穴底面	PL41
DP49	土玉	2.7	2.7	0.2~0.3	16.2	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL41
DP50	土玉	2.7	2.9	0.2~0.4	18.5	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL41
DP51	土玉	2.8	2.9	0.3	19.3	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL41

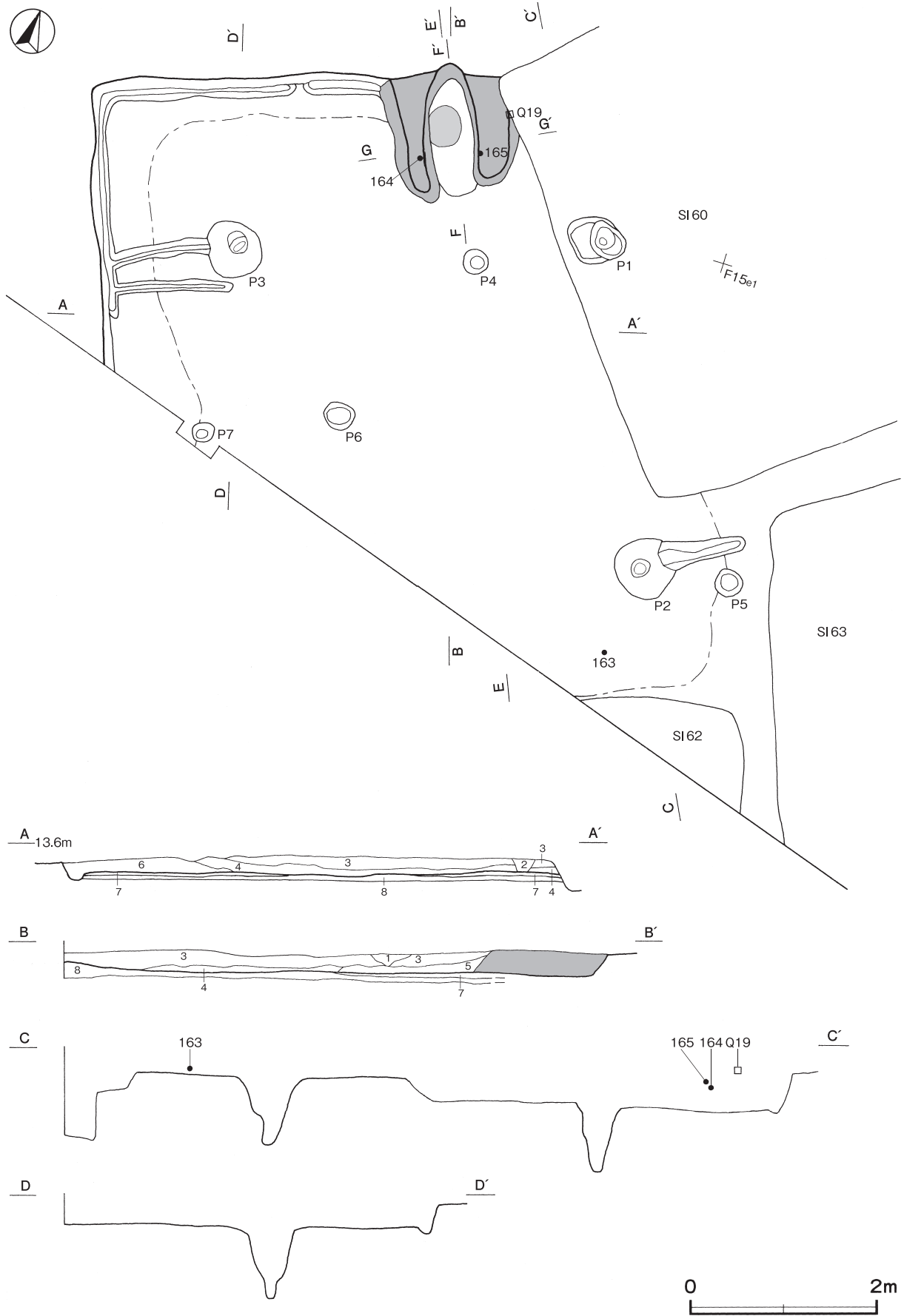
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	白玉	0.7	0.6	0.2	0.4	滑石	全面研磨 円筒状 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45
Q16	白玉	1.4	0.6	0.4	1.3	滑石	全面研磨 円筒状 一方向からの穿孔	床面	PL45
Q17	紡錘車	4.3	2.7	0.7	47.7	滑石	全面研磨 側面下端ヘラ磨き 一方向からの穿孔	P1覆土中層	PL45

第55号住居跡(第69・70図)

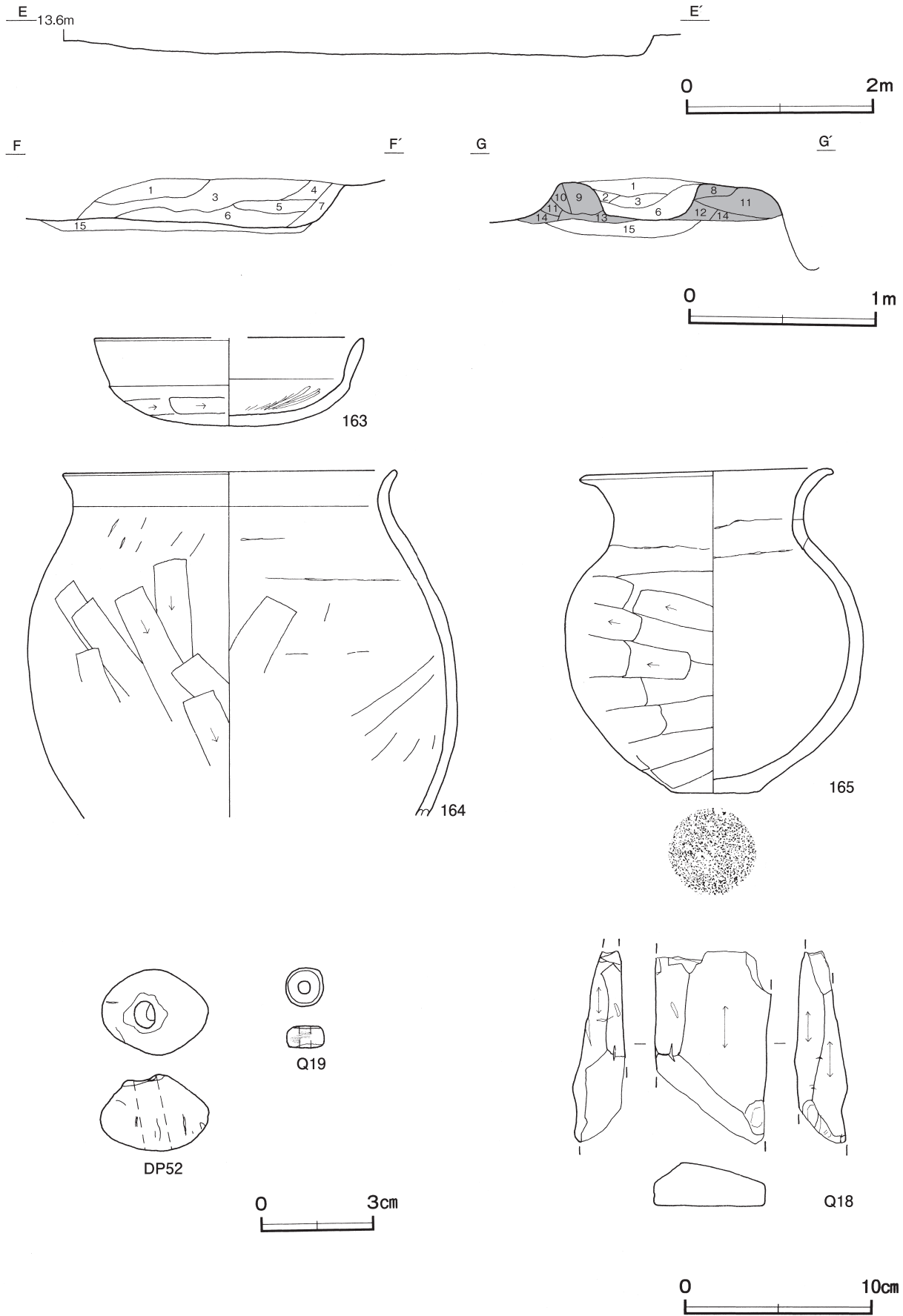
位置 調査区東部のF14e0区、標高14mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第60・62・63号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第60・63号住居に掘り込まれ、南西部が第62号住居に掘り込まれ、さらに調査区域外に延びているため、南北軸は5.36mで、東西軸は5.00mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-18°-Wと推定できる。壁高は16~23cmで、外傾して立ち上がっている。



第 69 图 第 55 号住居跡実测图



第70图 第55号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。西側の壁溝からP3に向かって、幅12～17cm、長さ115～135cm、深さ5～7cmで断面形が皿状の間仕切り溝2条と、P2の北東に、幅17～34cm、長さ95cm、深さ8cmで断面形が皿状の間仕切り溝1条を確認した。貼床は、全面を均一に掘り込み、ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子を含む第7・8層を埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで144cmで、燃焼部幅は47cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第8～14層を積み上げて構築されている。火床部は床面を5cm掘り込んで、ローム粒子、砂質粘土粒子を含んだ第15層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ12cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	灰褐色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7	灰褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
5	暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
			11	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、炭化粒子微量
			12	褐色	砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
			13	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量
			14	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
			15	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量

ピット 7か所。P1～P3は深さ70～74cmで、規模と配置から主柱穴である。P4～P7は深さ6～20cmで、性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量	6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量			
5	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片206点（坏37、碗13、高坏1、壺4、甕類149、小形甕1、ミニチュア土器1）、土製品1点（土玉）、石器1点（砥石）、石製品1点（白玉）が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片22点（坏5、甕類17）が出土している。そのほか、混入した陶器片3点（碗2、急須1）、磁器片1点（碗）も出土している。165は竈の右袖部、164は竈の左袖部の補強材として、ともに火床部の構築土上に逆位の状態で据えられていた。Q19は竈の右袖部上から出土している。163は南部の覆土下層から出土している。DP52・Q18は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第55号住居跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
163	土師器	坏	[14.4]	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	40%
164	土師器	甕	17.6	(18.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ・工具痕	竈火床部構築土上	40% PL34
165	土師器	小形甕	13.0	17.6	4.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	竈火床部構築土上	90% PL33

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP52	土玉	2.3 ~ 2.9	2.1	0.6 ~ 0.7	11.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 18	砥石	(10.4)	6.3	(2.8)	(177)	凝灰岩	砥面 2面	覆土中	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 19	白玉	1.0	0.6	0.3	0.9	滑石	全面研磨 円筒状 一方向からの穿孔	竈右袖部上	PL45

第 60 号住居跡 (第 71・72 図)

位置 調査区東部の F 15d1 区, 標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 61 号住居跡を掘り込み, 第 56 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.36 m, 短軸 5.06 m の方形で, 主軸方向は N - 38° - W である。壁高は 22 ~ 30 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北壁の壁溝と P 2 の間に, 幅 13 ~ 15 cm, 長さ 95 cm, 深さ 7 cm で, 断面形が皿状の間仕切り溝 1 条を確認した。

竈 北西壁の南西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 123 cm で, 燃焼部幅は 29 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 28・29 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 8 cm 掘り込んで, ローム粒子, 焼土粒子を含んだ第 30・31 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 35 cm 掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック微量	17 にぶい赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2 褐 色	ローム粒子少量	18 にぶい黄褐色	ローム粒子少量
3 灰黄褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量	19 暗 赤 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	20 暗 褐 色	焼土ブロック微量
5 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量	21 暗 赤 褐色	焼土粒子少量
6 暗 褐 色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	22 暗 赤 褐色	焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量
7 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	23 暗 褐 色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量
8 灰 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	24 暗 赤 褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
9 灰 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	25 褐 色	焼土粒子微量
10 灰 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	26 にぶい赤褐色	焼土粒子少量
11 赤 褐 色	焼土粒子中量	27 暗 赤 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
12 暗 赤 褐色	焼土粒子少量	28 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
13 灰黄褐色	砂質粘土粒子少量	29 黒 褐 色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
14 灰 褐 色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	30 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量
15 暗 赤 褐色	焼土粒子微量	31 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
16 暗 褐 色	ローム粒子微量		

ピット 7 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 32 ~ 47 cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 5・P 6 は深さ 15 cm・28 cm で, 南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P 7 は深さ 41 cm で, 性格は不明である。

覆土 14 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

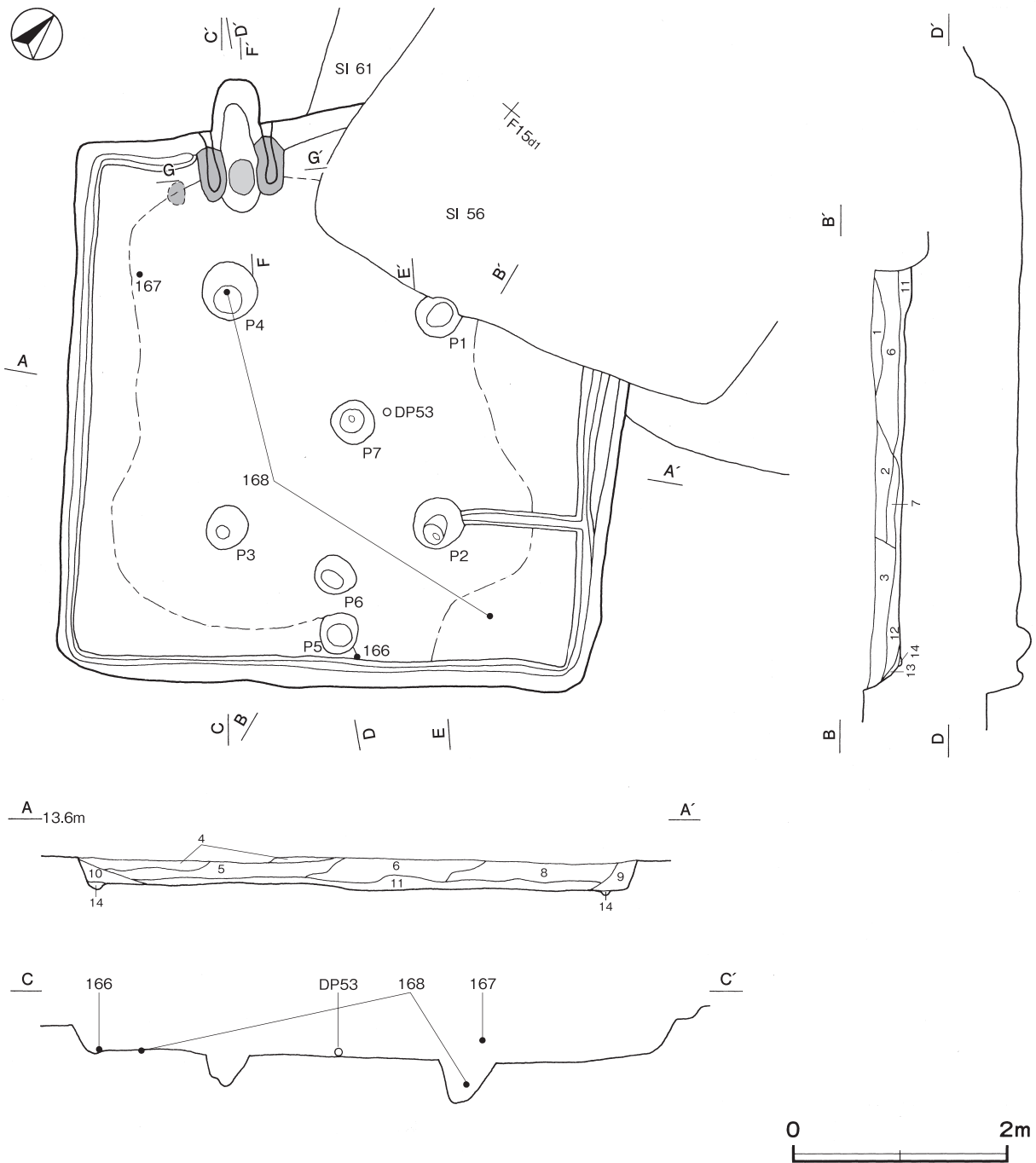
1 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	6 黒 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	7 暗 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ローム粒子中量	8 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色	ロームブロック微量	9 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
5 暗 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗 褐 色	ロームブロック少量

11 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
 12 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

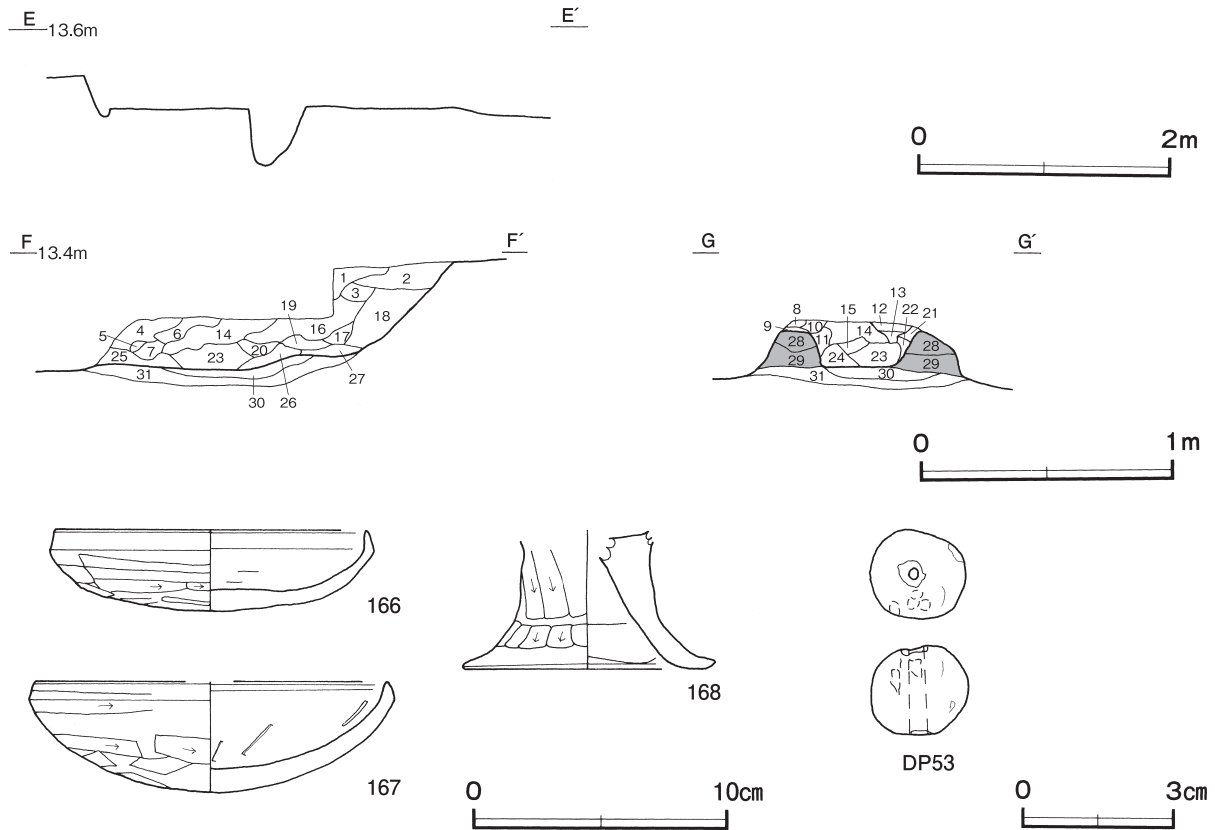
13 暗 褐 色 ローム粒子微量
 14 褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 203 点 (坏 31, 碗 1, 高坏 1, 甕類 169, 甑 1), 須恵器 5 点 (坏), 土製品 1 点 (土玉), 石器 1 点 (砥石), 焼成粘土塊 1 点, 鉄滓 2 点 (616g) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 5 点 (深鉢) も出土している。168 は東コーナー部の床面と P 4 覆土中層から出土した破片が接合したものである。DP53 は中央部, 166 は出入り口付近の覆土下層からそれぞれ出土している。167 は P 4 付近の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



第 71 図 第 60 号住居跡実測図



第72図 第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
166	土師器	坏	12.4	3.3	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のへら削り 内面ナデ	覆土下層	60%
167	土師器	坏	[14.2]	4.4	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のへらナデ 内面横ナデ・工具痕	覆土中層	40%
168	土師器	高坏	-	(5.6)	9.7	長石・石英	褐灰・黒	普通	脚部外面縦位のへら削り 内面横位のへら削り 裾部外・内面横ナデ	P4 覆土中層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP53	土玉	1.9	1.8	0.2~0.3	6.2	長石	ナデ 指頭擦痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL41

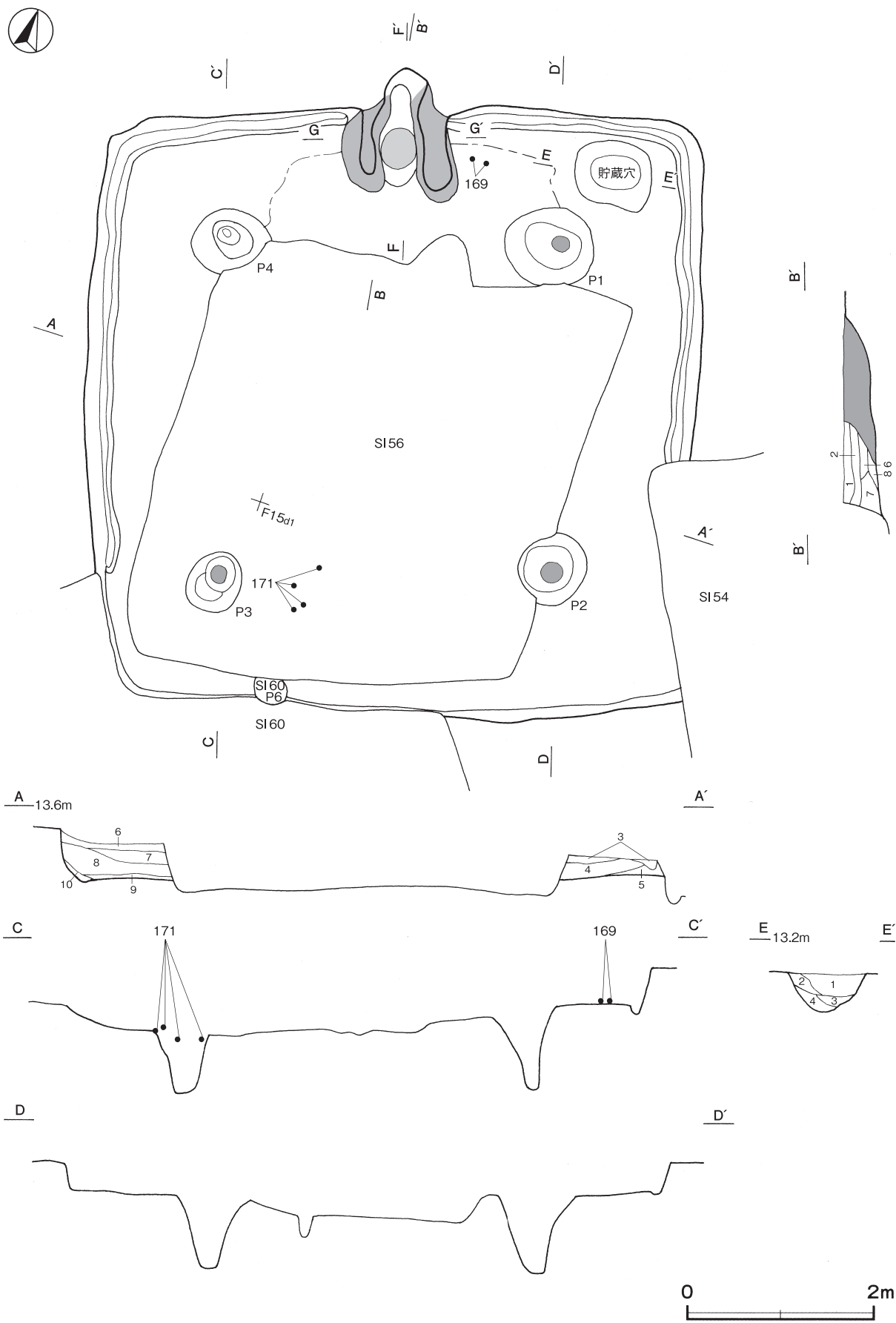
第61号住居跡（第73・74図）

位置 調査区東部のF 15c1区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

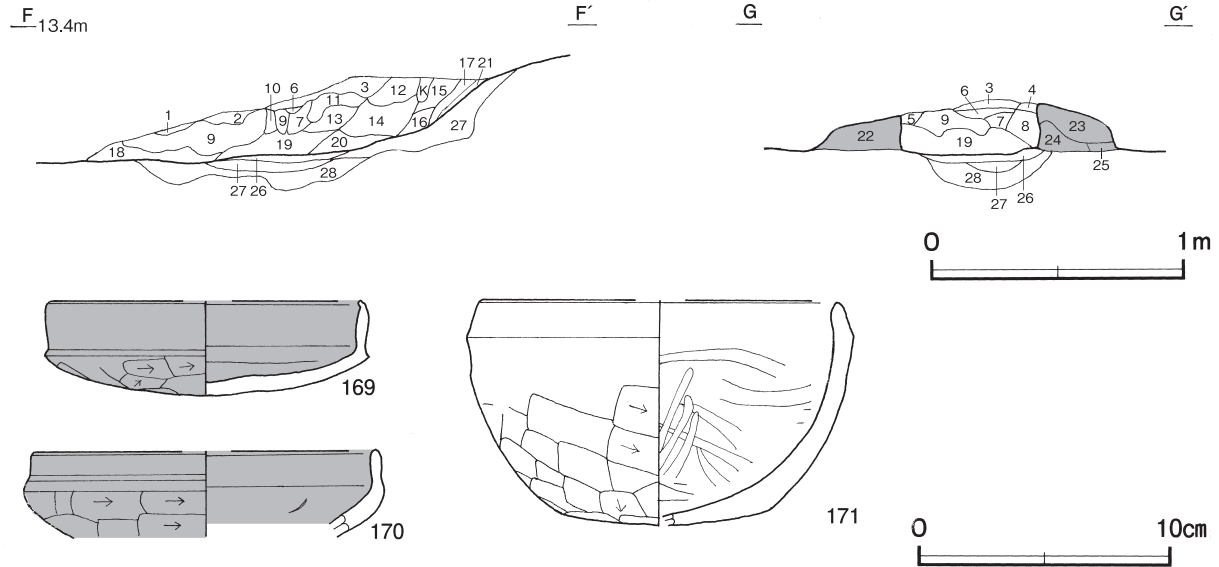
重複関係 第54・56・60号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.56m、短軸6.52mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は24~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部を第56号住居跡に掘り込まれているため、竈の前面のわずかに遺存している部分のみが踏み固められていることを確認した。北壁下と東壁・西壁下の一部には壁溝が巡っている。



第73图 第61号住居跡实测图



第74図 第61号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第22～25層を積み上げて構築されている。火床部は床面を12cm掘り込んで、焼土粒子を含んだ第26～28層を埋めて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ42cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子少量 | 16 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 17 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子微量 | 18 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 19 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 灰褐色 砂質粘土ブロック少量 | 20 黒褐色 焼土粒子少量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 21 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量 |
| 7 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 22 灰褐色 砂質粘土粒子中量 |
| 8 灰褐色 焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 23 にぶい褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 9 灰褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 24 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 10 暗褐色 焼土粒子少量 | 25 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 11 暗褐色 焼土粒子少量、砂質粘土ブロック微量 | 26 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 12 暗褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 27 にぶい赤褐色 焼土粒子中量 |
| 13 灰黄色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 28 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 14 暗褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | |
| 15 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量 | |

ピット 4か所。P1～P4は深さ69～94cmで、規模と配置から主柱穴である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径85cm、短径75cmの不整楕円形で、深さは43cmである。底面は皿状にくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 |

覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 161 点（坏 37, 椀 1, 甕類 122, 甑 1）, 須恵器片 7 点（坏 3, 甕類 4）, 鉄滓 2 点（262g）が出土している。そのほか、混入した縄文土器片 5 点（深鉢）も出土している。169 は竈の東側の床面から出土した破片が接合したものである。171 は P 3 付近の床面からまとめて出土した破片が接合したものである。170 は覆土中と貯蔵穴の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。

第 61 号住居跡出土遺物観察表（第 74 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
169	土師器	坏	[12.4]	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙・黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	60%
170	土師器	坏	[13.6]	(3.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土中・貯蔵穴覆土中	10%
171	土師器	椀	[14.0]	8.9	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ後ヘラ磨き	床面	50%

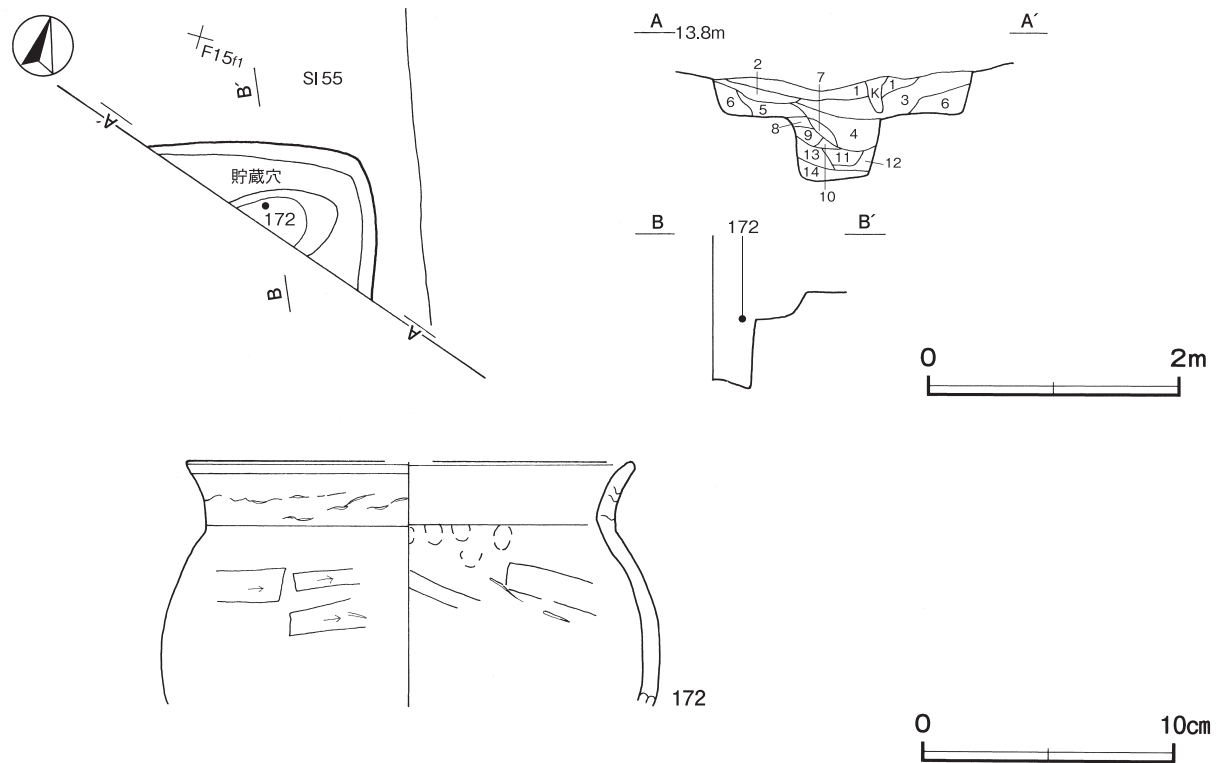
第 62 号住居跡（第 75 図）

位置 調査区東部の F 15f1 区、標高 14 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 55 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 大半が調査区域外へ延びており、東西軸は 1.55 m で、南北軸は 1.10 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向は N - 17° - W と推定できる。壁高は 18 ~ 32 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた面はほぼ平坦で、踏み固められた痕跡は確認できなかった。



第 75 図 第 62 号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、南西部が調査区域外へ延びている。平面形は、楕円形と推定でき、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 14層に分層できる。第1～6層が覆土で、第7～14層は貯蔵穴の覆土である。いずれも不規則な堆積状況を示しており、埋め戻されている。

住居・貯蔵穴土層解説

1	極暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・少量、砂質粘土粒子微量	9	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	極暗褐色	焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
5	極暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	12	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	黒褐色	焼土ブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 17点（坏2，壺2，甕類13），須恵器片2点（坏），軽石2点が出土している。そのほか、混入した陶器片2点（碗）も出土している。172は貯蔵穴の覆土中層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉以降と見られる。

第62号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
172	土師器	甕	[17.6]	(9.7)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面横位のヘラナデ	体部外面横位のヘラ削 指頭圧痕	貯蔵穴覆土中層	5%

第63号住居跡（第76図）

位置 調査区東部のF 15e2区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第55号住居跡を掘り込み、第57号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.80m、短軸4.62mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は2～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、四隅を土坑状に掘り込み、ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子を含む第10・11層を埋土して構築されている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cmで、燃焼部幅は23cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第14～16層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12	暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	13	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	にぶい橙色	ローム粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	14	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15	にぶい橙色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	16	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	極暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量			
8	灰白色	焼土粒子・ローム粒子微量			
9	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量			
10	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量			

ピット 5か所。P1～P4は深さ37～52cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ24cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

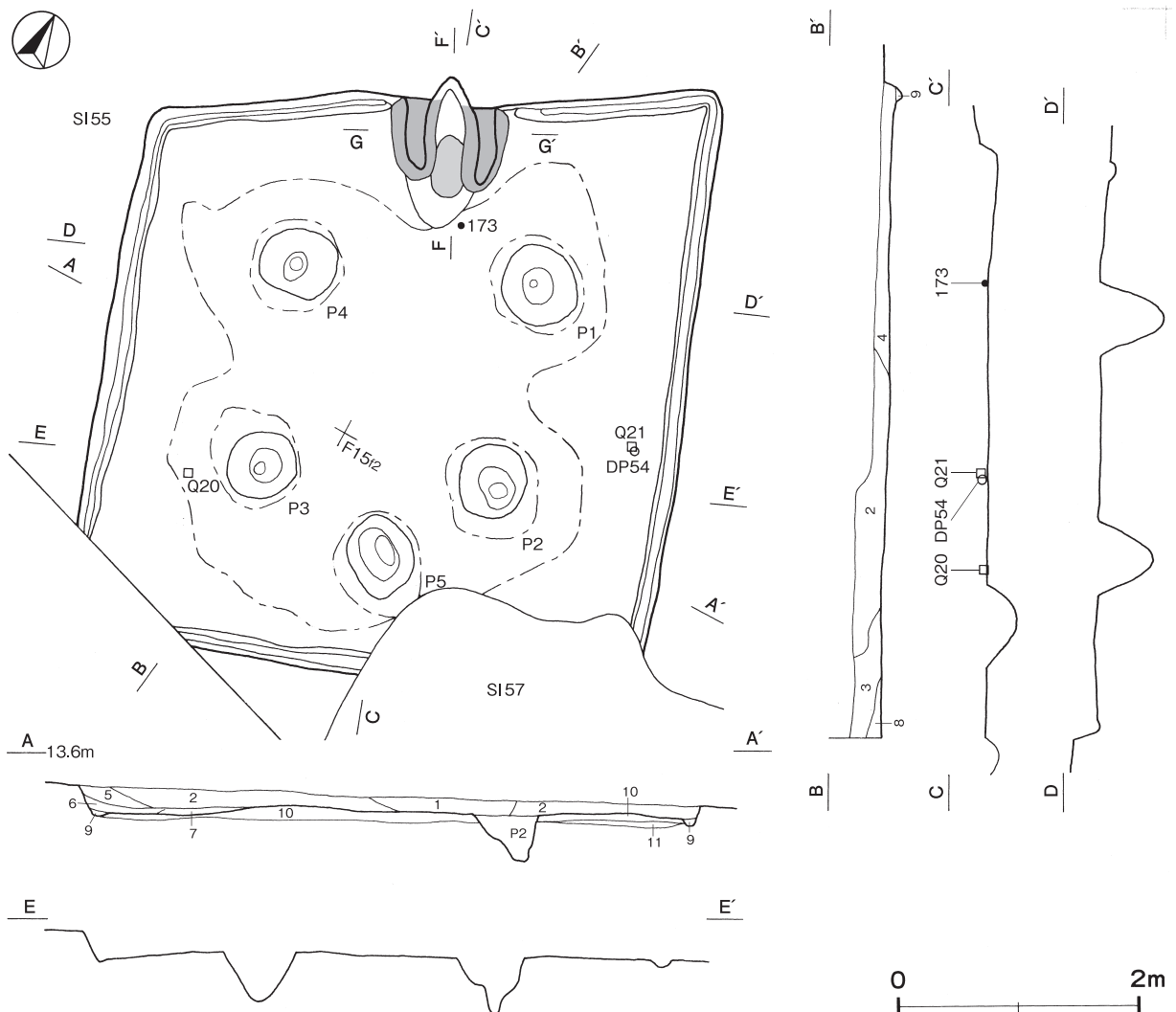
覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第10・11層は貼床の構築土である。

土層解説

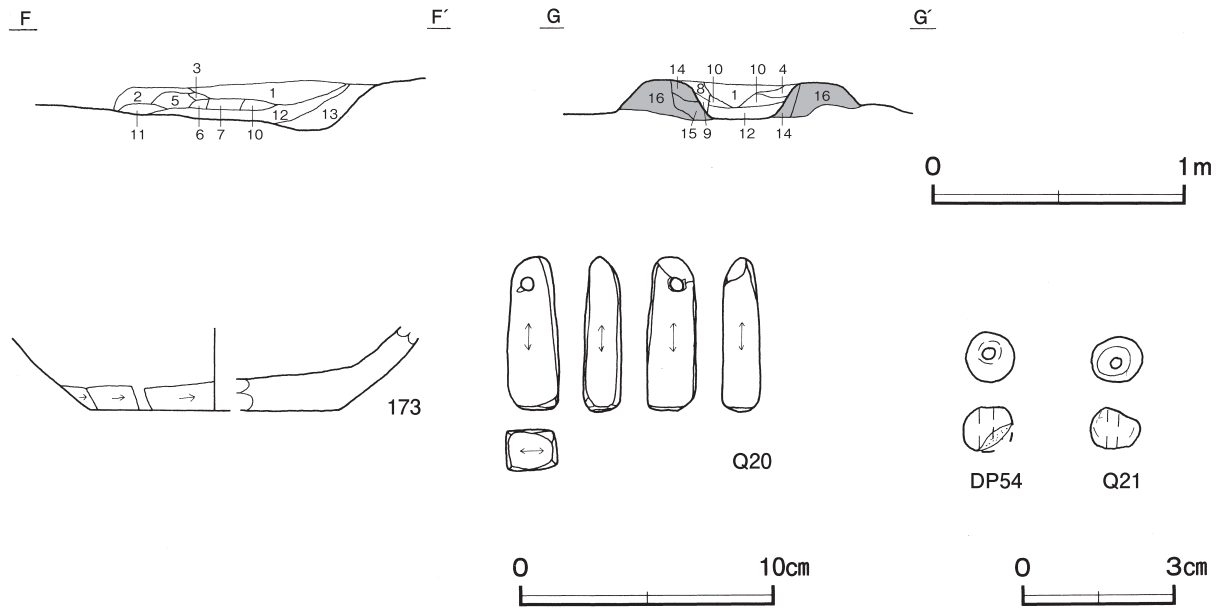
1 黒褐色	ローム粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	10 褐色	ローム粒子中量
		11 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片64点(坏17, 甕類47), 須恵器片9点(坏5, 蓋3, 甕類1), 土製品1点(土玉), 石器1点(砥石), 石製品2点(白玉), 軽石1点, 鉄滓6点(50g)が出土している。そのほか、混入した縄文土器片2点(深鉢), ナイフ形石器1点, 剥片2点も出土している。173は竈の前, DP54・Q21は東壁下, Q20はP3付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉以降と見られる。



第76図 第63号住居跡実測図



第77図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表 (第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
173	土師器	甕	-	(3.3)	[10.0]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面下端ヘラ削り	床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP54	土玉	1.0	0.8	0.2	(0.9)	長石・石英	ナデ 一部欠損 一方向からの穿孔	貼床構築土内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	砥石	6.1	2.0	1.5	30.3	凝灰岩	断面長方形 一部欠損 砥面5面 一方向からの穿孔	床面	PL44

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	白玉	1.0	0.8	0.2	1.0	滑石	全面研磨 円筒状 一方向からの穿孔	床面	PL45

表3 古墳時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)					主柱穴	出入口	ビット	炉・竈	貯蔵穴				
2	G10g0	[方形・長方形]	N-30°-W	(2.65) × (1.50)	25~32	平坦	一部	1	-	-	竈1	-	人為	土師器	6世紀中葉		
3	F11f5	[方形・長方形]	N-32°-W	(5.37) × (3.20)	46~64	平坦	一部	1	-	-	竈1	1	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉		
6	G11a2	[方形・長方形]	N-31°-W	5.18 × (2.36)	32~40	平坦	一部	2	1	-	-	-	人為	土師器	7世紀初頭		
10	E12f8	方形	N-28°-W	4.58 × 4.32	16~28	平坦	ほぼ全周	-	1	-	炉2	1	人為	土師器, 土製品	4世紀後葉	本跡→SE1, SD3	
11	E12c8	方形	N-27°-W	7.86 × 7.78	8~34	平坦	全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器, 土製品	5世紀末~6世紀初頭		
12	E12e5	方形	N-21°-W	5.65 × 5.55	42~50	平坦	ほぼ全周	4	2	1	竈1	1	人為	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀後葉		
16	E12f1	[方形・長方形]	N-15°-W	(3.60) × (3.50)	25~27	平坦	一部	1	1	-	-	-	人為	土師器	6世紀前葉		
18	D12h5	[方形・長方形]	N-26°-W	(3.80) × (3.56)	4~23	平坦	一部	1	1	-	-	1	自然	土師器	5世紀後葉~6世紀前葉		
19	E12c3	長方形	N-33°-W	4.60 × 3.82	13~17	平坦	一部	-	1	-	炉1	1	人為・自然	土師器	4世紀後葉	本跡→SI20	
20	E12b4	方形	N-35°-W	7.40 × 7.35	30~45	平坦	全周	4	1	2	竈1	1	人為・自然	土師器, 須恵器, 土製品	5世紀末~6世紀初頭	SI19・21 → 本跡→SK21, SD3	

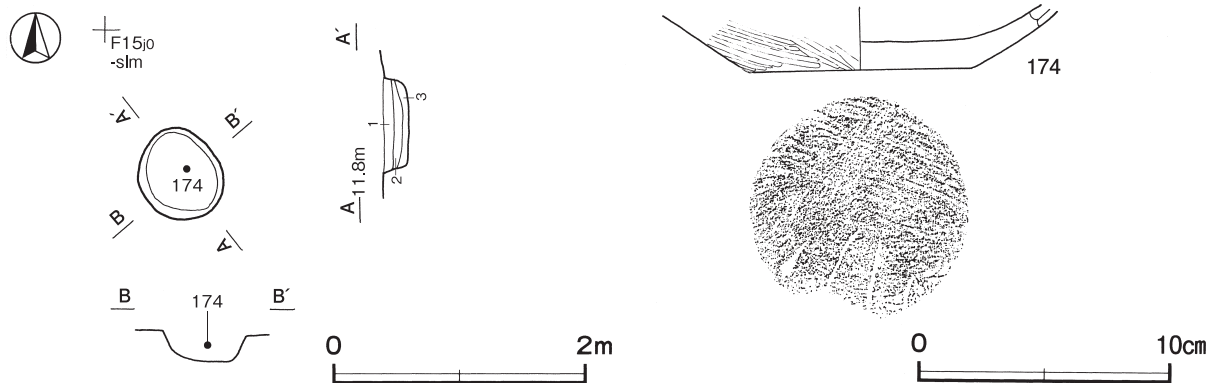
番号	位置	平面形	主軸方向	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
21	D12j4	方形	N-63°-E	5.55 × 5.40	12~22	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	炉1	1	人為	土師器	4世紀後葉	本跡→SI20
22	E12a6	隅丸方形	N-21°-W	4.77 × 4.62	5~39	平坦	全周	4	2	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀中葉	SI23→本跡
23	E12b7	長方形	N-17°-W	3.62 × 3.31	5~12	平坦	ほぼ 全周	-	-	1	-	-	自然	土師器, 土製品	4世紀代	本跡→SI22
24	E12g9	長方形	N-32°-W	3.60 × 3.16	20~29	平坦	-	-	-	2	炉1	1	人為	土師器, 土製品, 石製品	4世紀後葉	本跡→SD3
25	E12f5	[方形・ 長方形]	N-18°-W	(3.60) × (2.83)	12~15	平坦	一部	-	-	1	炉1	-	自然	土師器	5世紀前葉	本跡→SK29
26	E12a9	[方形・ 長方形]	N-33°-W	(2.45) × (1.55)	48~60	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器	4世紀代	
27	E12c6	隅丸方形	N-20°-W	4.97 × 4.93	25~48	平坦	ほぼ 全周	4	2	3	竈1	1	人為	土師器, 土製品, 石製品	6世紀後葉	本跡→SD3
29	E14g1	長方形	N-19°-W	4.73 × 4.06	9~17	平坦	全周	2	1	-	竈1	1	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	本跡→SK54
32	E14i3	方形	N-32°-W	8.39 × 8.32	4~22	平坦	ほぼ 全周	4	1	4	炉1 竈1	1	人為	土師器	5世紀末~ 6世紀初頭	本跡→SI31・35
34	E14f3	[方形・ 長方形]	N-25°-W	5.85 × (1.95)	20~30	平坦	ほぼ 全周	2	-	-	-	-	自然 人為	土師器, 土製品	7世紀代	本跡→PG6P14
35	E14j2	[方形・ 長方形]	N-3°-E	4.48 × (2.26)	22	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	7世紀後葉	SI32→本跡→SI33
38	F14b4	[方形・ 長方形]	N-31°-W	7.18 × (3.80)	26~44	平坦	[全周]	2	-	-	竈1	-	人為	土師器, 土製品, 石製品, 鉄製品	6世紀後葉	本跡→SK67, PG8P4
39	E14f7	[方形・ 長方形]	N-55°-W	8.93 × (7.38)	10~43	平坦	一部	6	1	2	炉1 竈1	1	人為	土師器, 土製品, 石器, 鉄製品	5世紀末~ 6世紀初頭	本跡→SK64・65・69
41	E14i0	方形	N-30°-W	9.62 × 9.62	16~60	平坦	一部	11	1	2	竈1	1	人為	土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品	5世紀末~ 6世紀初頭	本跡→SI42・43, PG9P6
46	E15j3	方形	N-37°-W	4.54 × 4.40	48~70	平坦	全周	4	1	2	竈1	1	人為	土師器	6世紀後葉	本跡→SI45
48	F14b8	方形	N-17°-W	5.35 × 5.15	52~57	平坦	全周	4	1	-	-	1	人為	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀後葉	本跡→SI47, SK90
50	F14d7	[方形・ 長方形]	N-40°-W	6.80 × (6.76)	36~60	平坦	-	2	2	-	竈1	1	自然	土師器, 土製品, 石器, 石製品	7世紀前葉	
54	F15c2	方形	N-30°-W	5.50 × 5.30	25~50	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器, 土製品, 石器, 石製品	6世紀後葉	SI61→本跡→SK88・89
55	F14e0	[方形・ 長方形]	N-18°-W	(5.36) × (5.00)	16~23	平坦	一部	3	-	4	竈1	-	人為	土師器, 土製品, 石器, 石製品	6世紀中葉	本跡→SI60・62・63
60	F15d1	[方形]	N-38°-W	5.36 × 5.06	22~30	平坦	全周	4	2	1	竈1	-	人為	土師器, 土製品	7世紀前葉	SI61→本跡→SI56
61	F15c1	方形	N-20°-W	6.56 × 6.52	24~32	平坦	一部	4	-	-	竈1	1	人為	土師器	6世紀後葉	本跡→SI54・56・60
62	F15f1	[方形・ 長方形]	N-17°-W	(1.55) × (1.10)	18~32	平坦	-	-	-	-	-	1	人為	土師器	6世紀後葉 以降	SI55→本跡
63	F15e2	方形	N-23°-W	4.80 × 4.62	2~18	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器, 土製品, 石器, 石製品	6世紀後葉 以降	SI55→本跡→SI57

(2) 土坑

第19号土坑(第78図)

位置 調査区南東部のF15j0区, 標高11mの台地上から低地に向かう斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.74m, 短径0.68mの円形である。深さは22cmで, 底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。



第78図 第19号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 黒 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片 4 点（碗 1，甕類 3）が出土している。174 は中央部からやや北寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀代と見られる。

第 19 号土坑出土遺物観察表（第 78 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
174	土師器	甕	-	(2.5)	8.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面斜位のヘラ磨き 底部木葉痕・ヘラ磨き	覆土中層	10%

第 75 号土坑（第 79 図）

位置 調査区東部の E 14j6 区，標高 14 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.56 m，短径 1.38 m の楕円形で，長径方向は N - 33° - W である。深さは 25cm で，底面は平坦である。底面の北西部に長径 35cm，短径 25cm の楕円形で，深さ 67cm のピット状の掘り込みを確認した。壁は外傾して立ち上がっている。

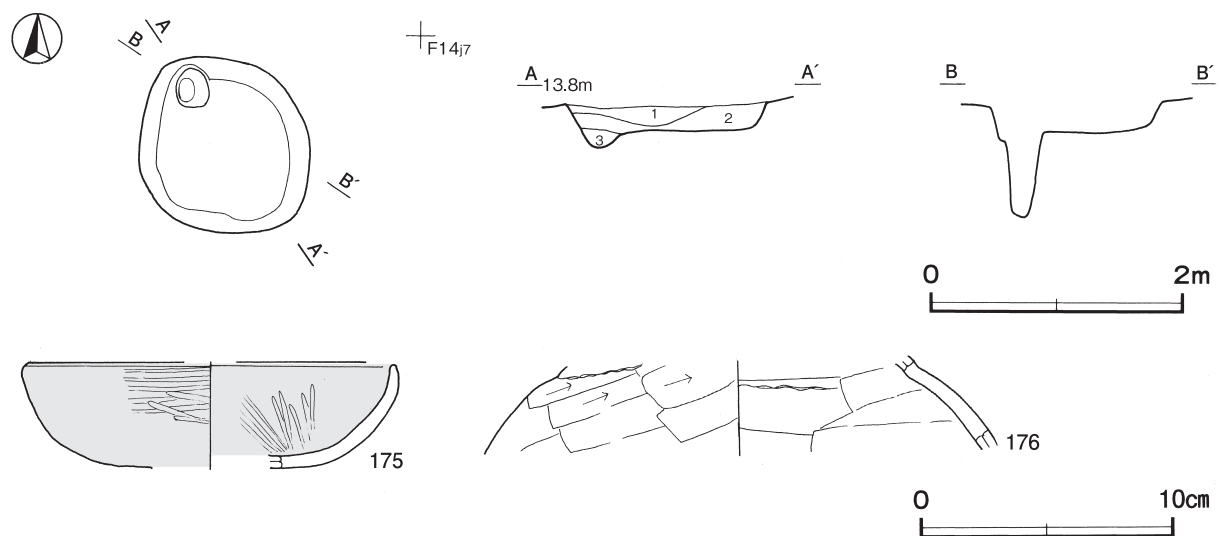
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 19 点（坏 1，壺 1，甕類 17），須恵器片 1 点（瓶），鉄滓 3 点（29g）が出土している。175・176 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から 5 世紀末から 6 世紀初頭とみられる。



第 79 図 第 75 号土坑・出土遺物実測図

第75号土坑出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
175	土師器	坏	[14.4]	(4.2)	-	長石・石英	赤褐	普通	体部外面横位のヘラ磨き 内面縦位のヘラ磨き	覆土中	10%
176	土師器	壺	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	10%

表4 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
19	F15j0	-	円形	0.74×0.68	22	皿状	外傾	人為	土師器	
75	E14j6	N-33°-W	楕円形	1.56×1.38	25	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	

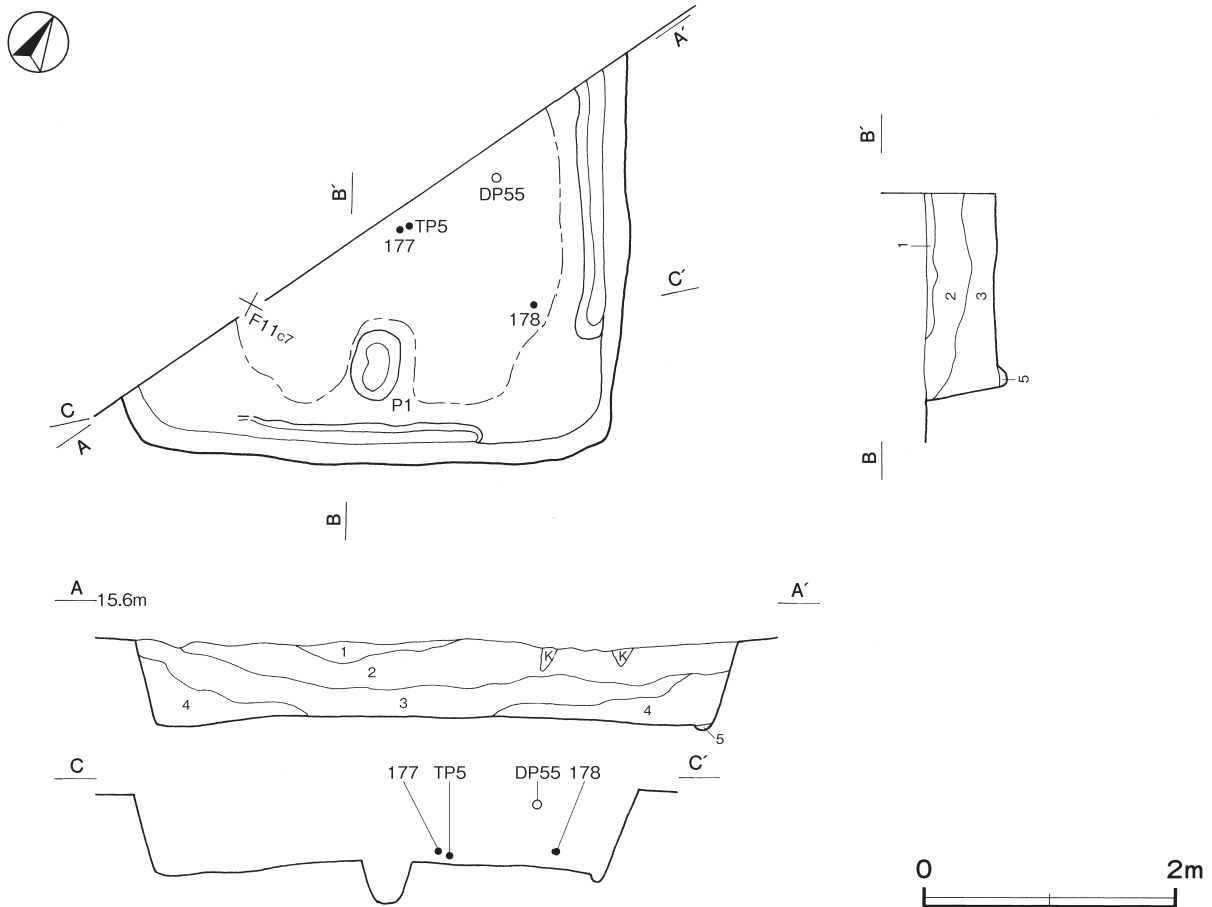
3 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡 27 軒，土坑 4 基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

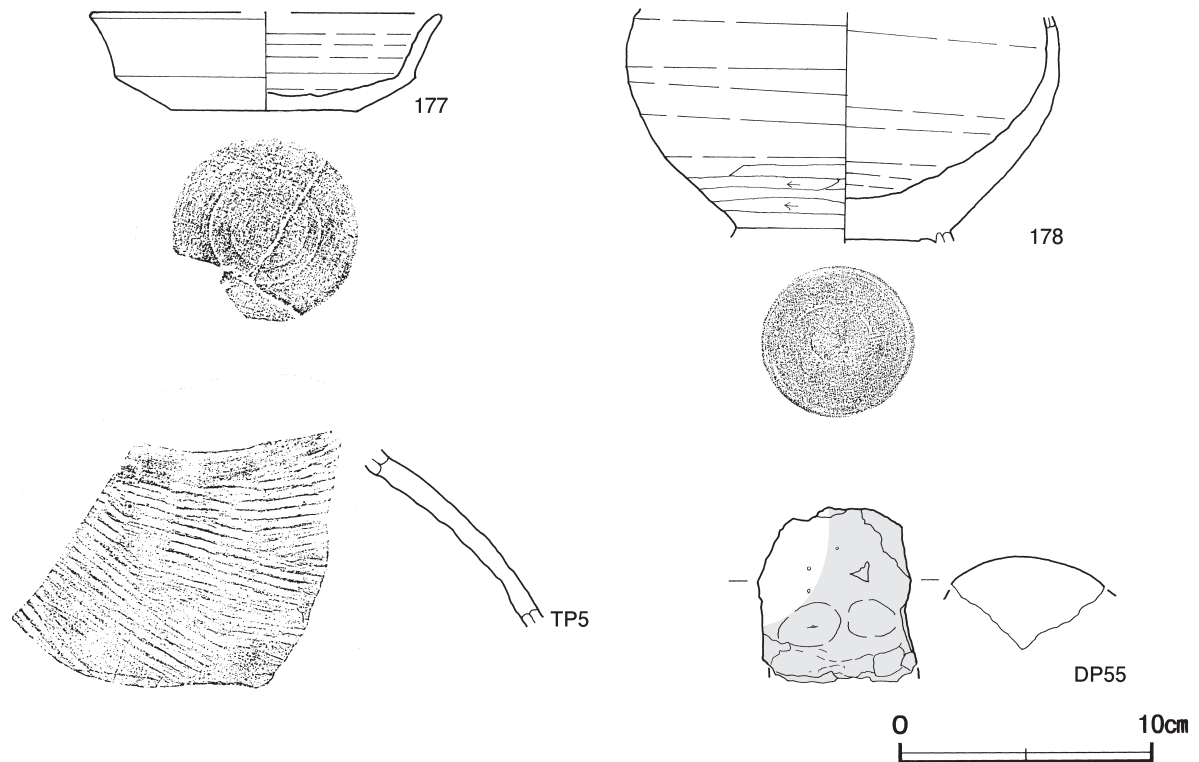
(1) 竪穴住居跡

第4号住居跡（第80・81図）

位置 調査区南西部のF 11b7区，標高 16 mの平坦な台地上に位置している。



第80図 第4号住居跡実測図



第 81 図 第 4 号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 西部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は 3.84 m で、北西・南東軸は 3.04 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向は N - 23° - W と推定できる。壁高は 58 ~ 65cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東と南東の壁下には壁溝が巡っている。

ピット 深さ 36cm で、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 422 点 (坏 36, 高台付坏 3, 甕類 383), 須恵器片 147 点 (坏 128, 壺 1, 甕類 18), 土製品 1 点 (支脚), 鉄製品 2 点 (不明 2), 焼成粘土塊 1 点, 鉄滓 33 点 (1577g) が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。177・TP 5 は中央部, 178 は東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP55 は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。

第 4 号住居跡出土遺物観察表 (第 81 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
177	須恵器	坏	[13.8]	3.9	7.4	長石・石英	灰白	普通	体部下端ナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
178	須恵器	長頸瓶カ	-	(9.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	覆土下層	40% PL38
番号	種 別	器種	胎 土		色 調	手 法 の 特 徴 ほか		出土位置	備 考		
TP 5	須恵器	甕	長石・石英		黄灰	体部外面横位の平行叩き 内面ナデ 当て具痕		覆土下層			

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP55	支脚	(7.1)	(4.3)	(6.1)	(140)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 一部欠損 指頭圧痕 被熱痕	覆土上層	

第4号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径10cm以上)	大 (長径4cm以上10cm未満)	中 (長径1cm以上4cm未満)	小 (長径1cm未満)	合計
点数	-	5	9	19	33
重量(g)	-	1,250	225	102	1,577

第5号住居跡 (第82・83図)

位置 調査区南西部のE 11j8区、標高16mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部及び西部が調査区域外へ延びているため、南北軸は3.58mで、東西軸は3.15mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は55～65cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈付近が踏み固められている。竈の東側と南西コーナー部の壁下で壁溝を確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第11層を積み上げて構築されている。火床部は床面より5cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	8 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量
3 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量
5 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	11 灰黄褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		

ピット 2か所。P1は深さ23cmで、規模と配置から支柱穴である。P2は深さ19cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

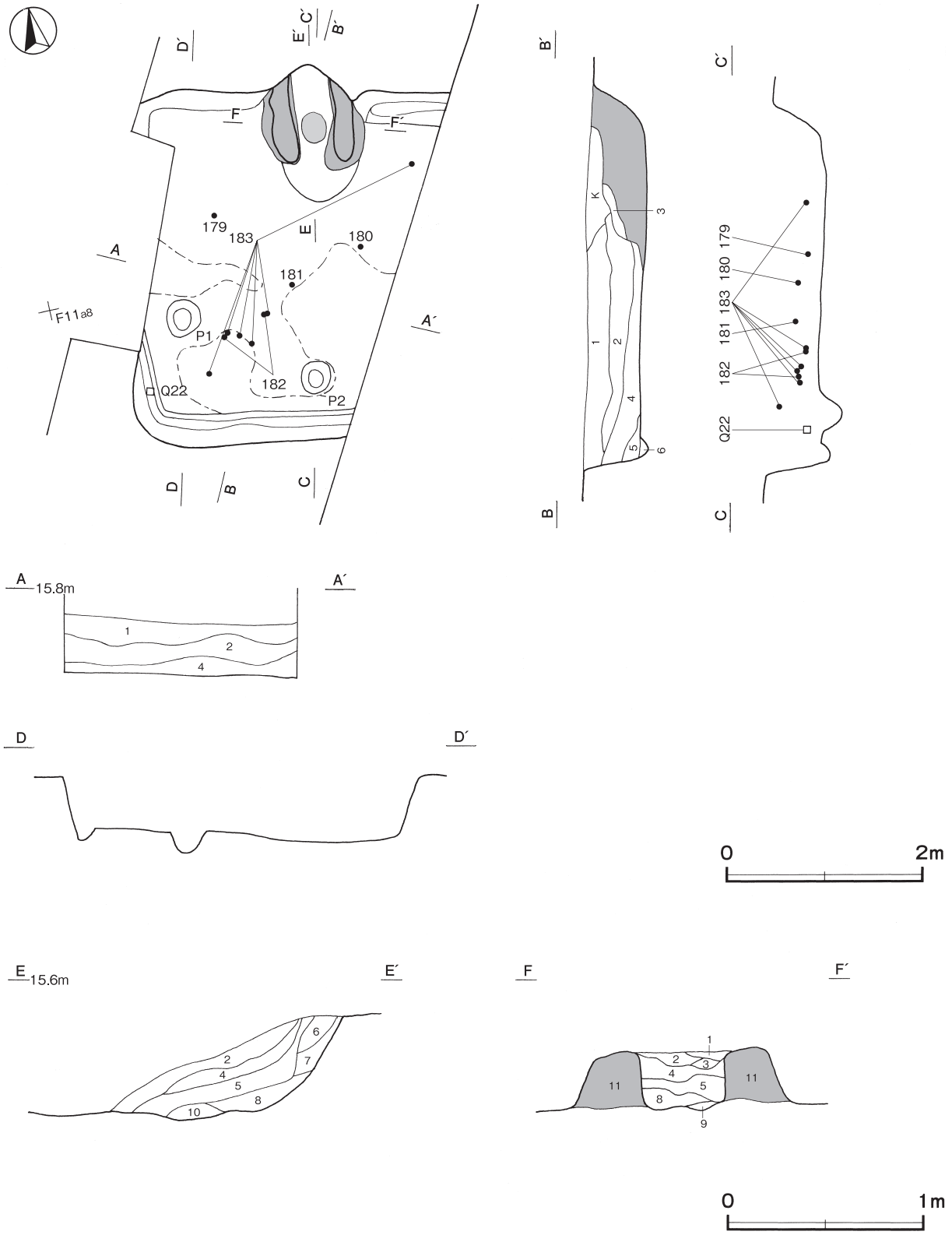
覆土 6層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

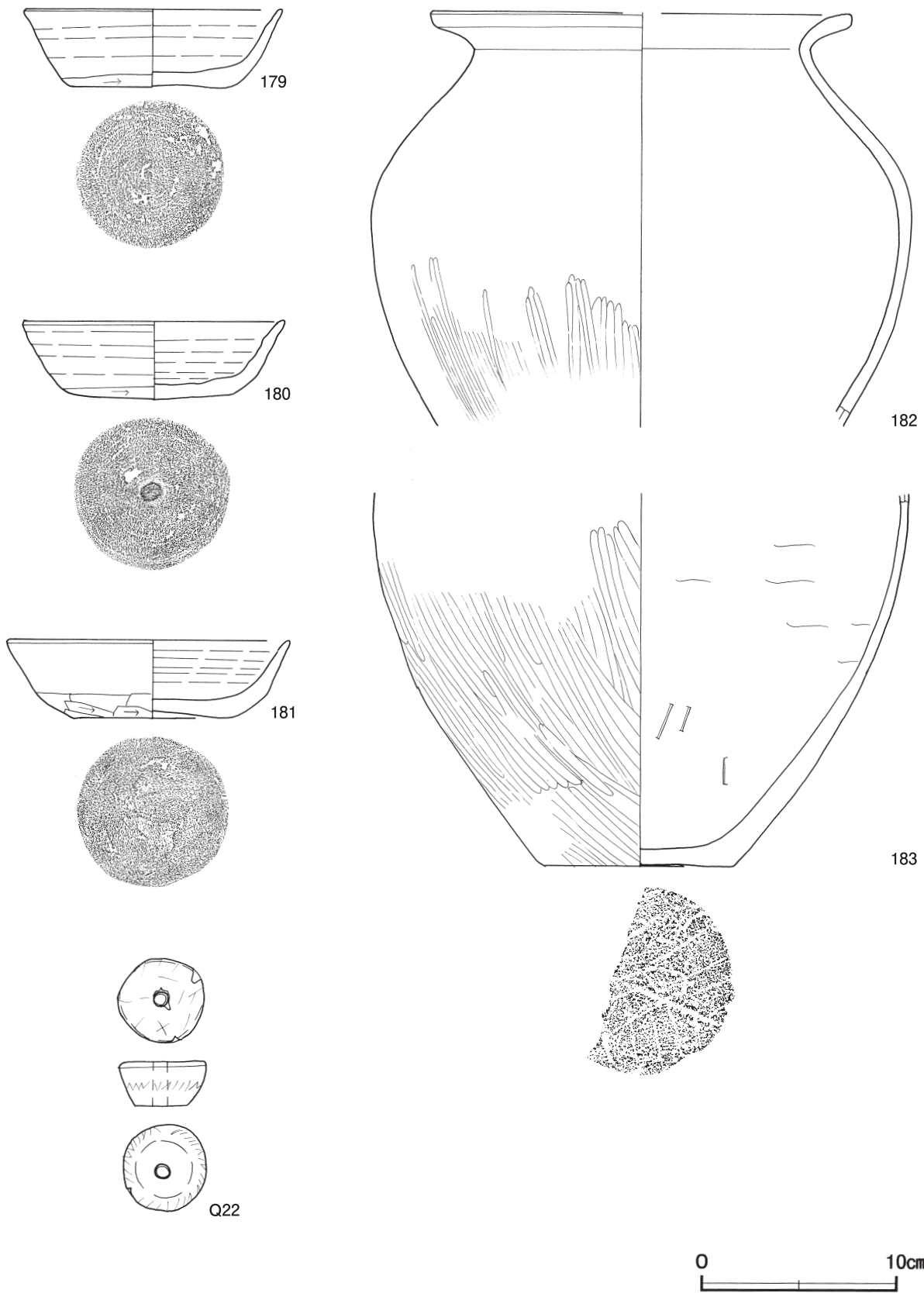
1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	4 褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5 褐色	ロームブロック・炭化物微量
3 灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片444点(坏47, 壺4, 甕類389, 甗3, ミニチュア土器1), 須恵器片113点(坏90, 蓋5, 瓶6, 甕類12), 土製品1点(支脚), 石器1点(紡錘車), 鉄製品1点(鍬), 鉄滓14点(358g)が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。179は西部, Q22は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。180・181は中央部, 182は南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。183は北部と南西部の覆土中層から出土した6点の小片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第 82 図 第 5 号住居跡実測図



第 83 图 第 5 号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表 (第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
179	須恵器	坏	13.2	4.0	7.5	長石・石英・雲母	浅黄	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	80% PL36
180	須恵器	坏	13.4	4.1	7.8	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中層	90% PL36
181	須恵器	坏	14.3	4.1	8.0	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中層	80% PL36
182	土師器	甕	[21.6]	(21.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き	覆土中層	20%
183	土師器	甕	-	(19.3)	9.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面斜位のヘラ磨き 内面工具痕	覆土中層	30%

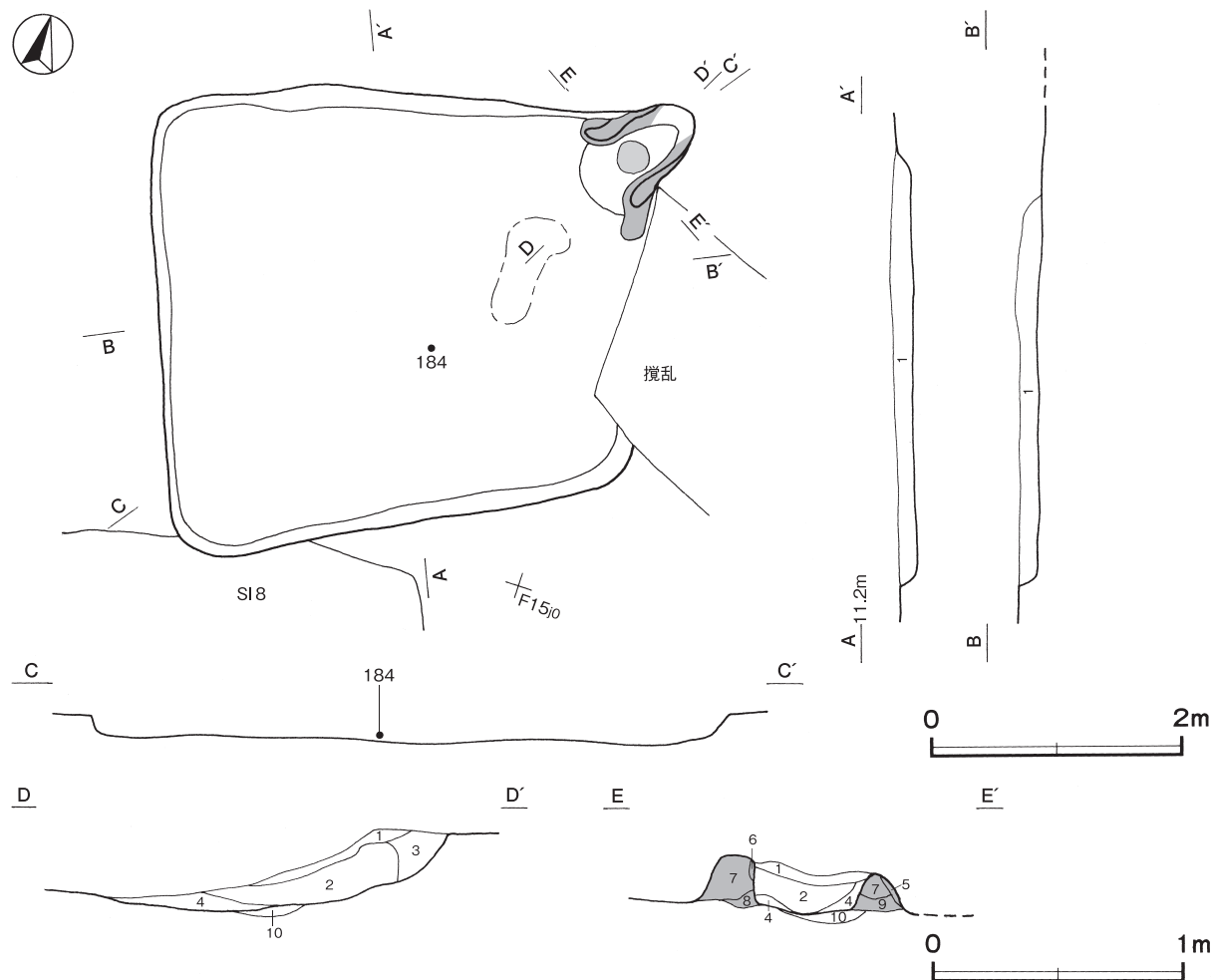
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 22	紡錘車	4.5	2.3	0.8	77.8	蛇紋岩	全面研磨 側面鋸歯状の線刻文 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

第7号住居跡 (第84・85図)

位置 調査区南東部のF 15i9区, 標高11mの低地に向かう斜面部に位置している。

重複関係 第8号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.72m, 短軸3.49mの方形で, 長軸方向はN-32°-Eである。壁高は18~23cmで, 外傾して立ち上がっている。



第84図 第7号住居跡実測図

床 平坦で、竈の前面が踏み固められている。

竈 北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cmで、燃焼部幅は35cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5～9層を積み上げて構築されている。火床部は床面を5cm掘り込んで、焼土ブロックを含んだ第10層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 にぶい橙色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 極 暗 褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 極暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒 色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 黒 褐 色 | 砂質粘土粒子・黒色粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 極 暗 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子・黒色粒子中量, 焼土粒子微量 | 10 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

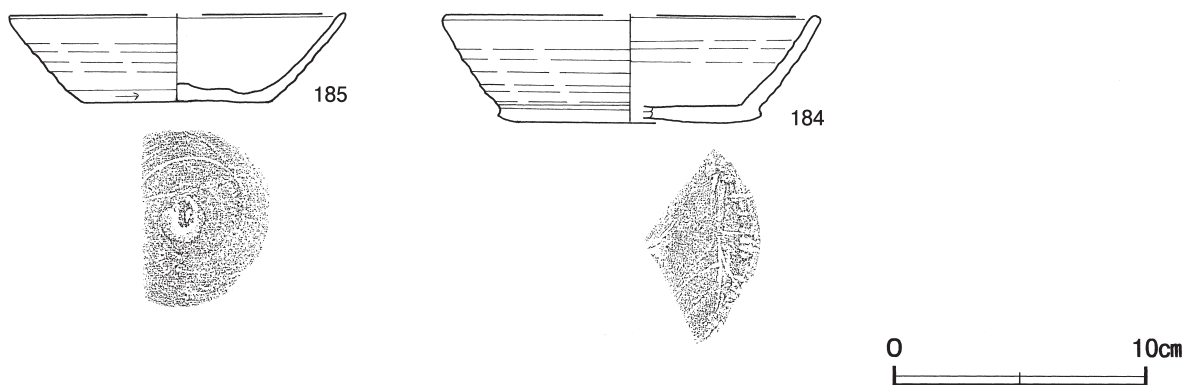
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片 89点 (坏 24, 高坏 1, 甕類 61, 甑 3), 須恵器片 14点 (坏 12, 蓋 1, 甕類 1), 鉄滓 8点 (196g) が出土している。そのほか、流れ込んだ縄文土器片 4点 (深鉢) も出土している。184 は中央部の覆土下層から出土している。185 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第 85 図 第 7 号住居跡出土遺物実測図

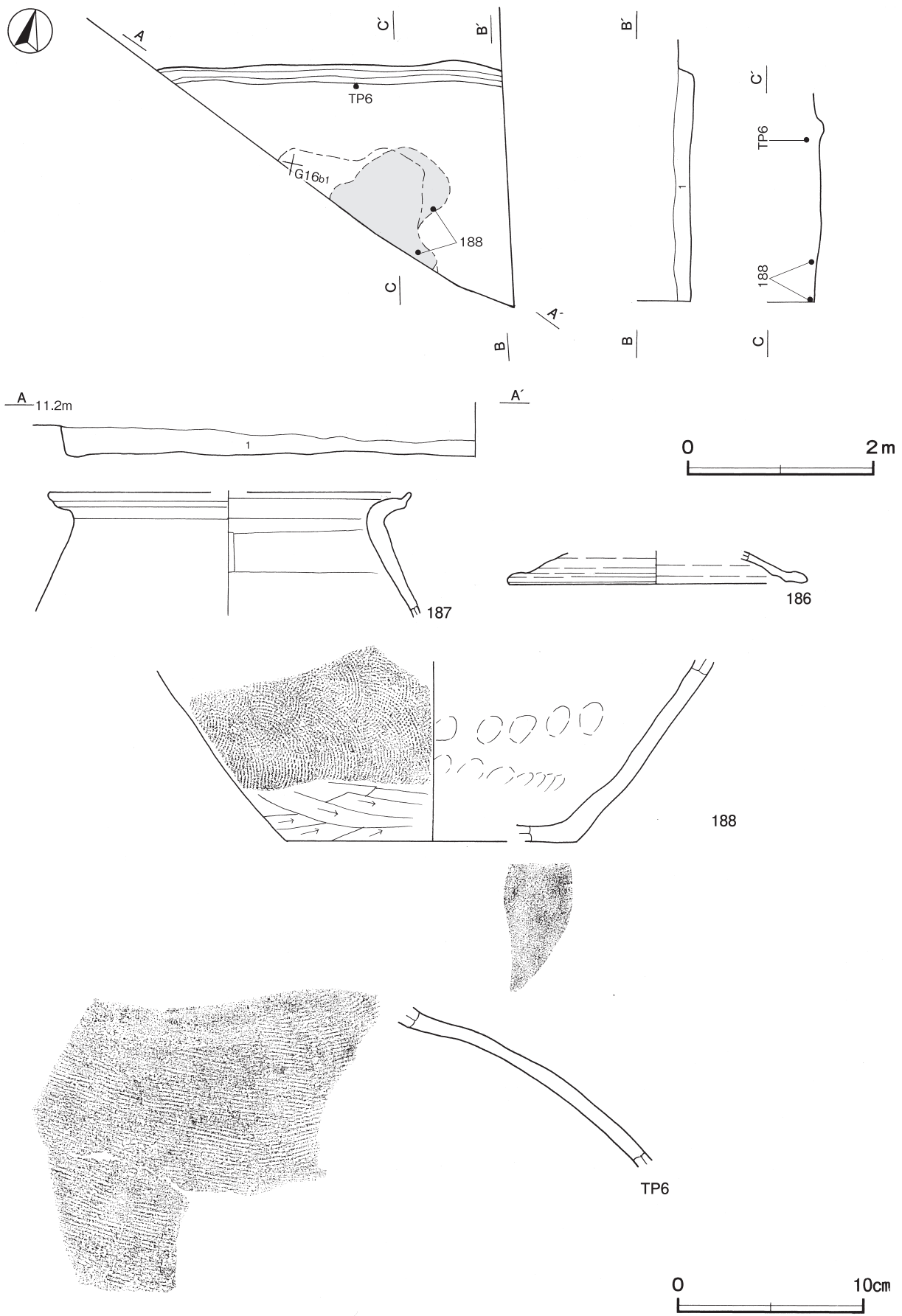
第 7 号住居跡出土遺物観察表 (第 85 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
184	須恵器	坏	[14.8]	4.3	[10.4]	長石・石英	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土下層	25%
185	須恵器	坏	[13.4]	3.5	7.4	長石・石英	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	25%

第 9 号住居跡 (第 86 図)

位置 調査区南東部の G 15a0 区, 標高 11 m の低地に向かう斜面部に位置している。

確認状況 調査区域の端部で確認したため、北壁の一部しか確認できなかった。



第 86 图 第 9 号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 大半が調査区域外へ延びているため、東西軸は3.70 m、南北軸は2.50 mしか確認できなかった。壁高は15～28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、北壁の南側が踏み固められている。北壁下に壁溝を確認した。床面上に、焼土の広がりを検出した。

覆土 単一層である。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片216点(坏43, 甕類170, 甑3), 須恵器片65点(坏23, 蓋3, 甕類39), 鉄滓186点(6076g)が出土している。そのほか、流れ込んだ縄文土器片7点(深鉢)も出土している。188は南東部の覆土下層から出土している。TP 6は北部の覆土中層から出土している。187・186は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。硬化面上で検出した焼土は、床面が火を受けて赤変していないことから、住居廃絶の際に投棄されたものとみられる。

第9号住居跡出土遺物観察表(第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
186	須恵器	蓋	[15.8]	(1.6)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部クロコナデ	覆土中	10%
187	土師器	甕	[19.4]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ・工具痕	覆土中	10%
188	須恵器	甕	-	(9.7)	[15.6]	長石・石英・雲母・細礫	黄灰	普通	体部同心円状の叩き 下端回転ヘラ削り 内面当て具痕	覆土下層	10% PL38

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 6	須恵器	甕	長石・石英・雲母	黄灰	体部斜位の平行叩き	覆土中層	10%

第9号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径10cm以上)	大 (長径4cm以上10cm未満)	中 (長径1cm以上4cm未満)	小 (長径1cm未満)	合計
点数	-	31	75	80	186
重量(g)	-	4,630	1,161	285	6,076

第13号住居跡(第87図)

位置 調査区西部のE 11i9区、標高15 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部及び南部の大半が調査区域外へ延びているため、南北軸は3.78 mで、東西軸は2.23 mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-24°-Wと推定できる。壁高は45～58 cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、西部に踏み固められた部分がわずかに確認できた。貼床は、全体を均一に掘りくぼめ、ローム粒子主体の第11～14層を埋土して構築されている。壁下には、壁溝を確認した。また、南部に焼土・炭化材、粘土塊を検出した。

ピット 深さ61cmで、規模と配置から支柱穴である。

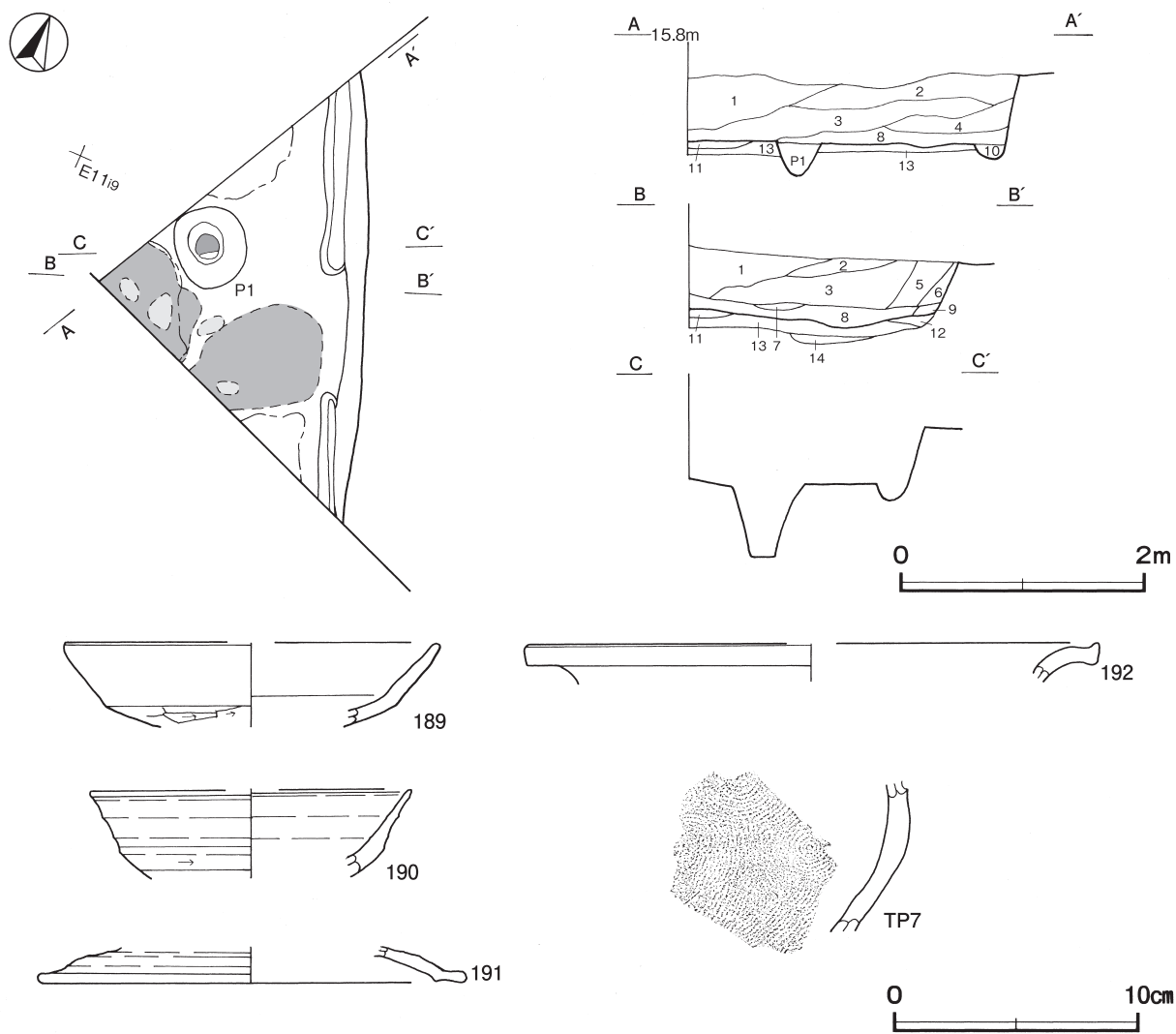
覆土 10層に分層できる。各層の含有物がロームブロック主体であることから、埋め戻されている。第11～14層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 暗褐色 | 炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片 125 点 (坏 22, 甕類 103), 須恵器片 12 点 (坏 7, 蓋 2, 甕類 3) が出土している。また, 貼床の構築土内から土師器 4 点 (坏 3, 甕類 1) が出土している。そのほか, 混入した剥片 1 点も出土している。191・192 は P 1 の覆土上層からそれぞれ出土している。189・190・TP 7 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。検出された焼土・炭化材については, 床面が赤変硬化していないことから, 住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。粘土塊については性格は不明である。



第 87 図 第 13 号住居跡・出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
189	土師器	坏	[15.2]	(3.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部下端横位のヘラ削り	覆土中	5%
190	須恵器	坏	[13.2]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り後、ナデ	覆土中	5%
191	須恵器	蓋	[17.2]	(1.5)	-	長石・石英	灰黄	普通	ロクロナデ	P1覆土上層	5%
192	土師器	甕	[23.4]	(1.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	P1覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP7	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰黄	体部外面同心円状の叩き 内面ナデ 当て具痕	覆土中	

第14号住居跡（第88・89図）

位置 調査区西部のE11g0区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第15号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部及び南東部が調査区域外へ延びているが、南北軸は5.35mで、東西軸は4.27mの長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は20～33cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、コーナー部を土坑状に掘り込み、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第6～11層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで、燃焼部幅は57cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第12・13層を積み上げて構築されている。竈の火床部の作り替えが行われており、新の竈は掘方の埋土である第6層の上面を火床部としており、火床面は赤変硬化している。旧の竈は床面を20cm掘りくぼめ、第9～11層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	にぶい黄褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量
3	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	11	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	12	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6	赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
7	にぶい橙色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

ピット 9か所。P1～P4は深さ48～74cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ45cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は深さ50～69cmである。土層図及び規模と配置状況から、P6からP1へ、P7からP2へ、P8からP3へ、P9からP4への柱の立て替えが行われた可能性が考えられる。

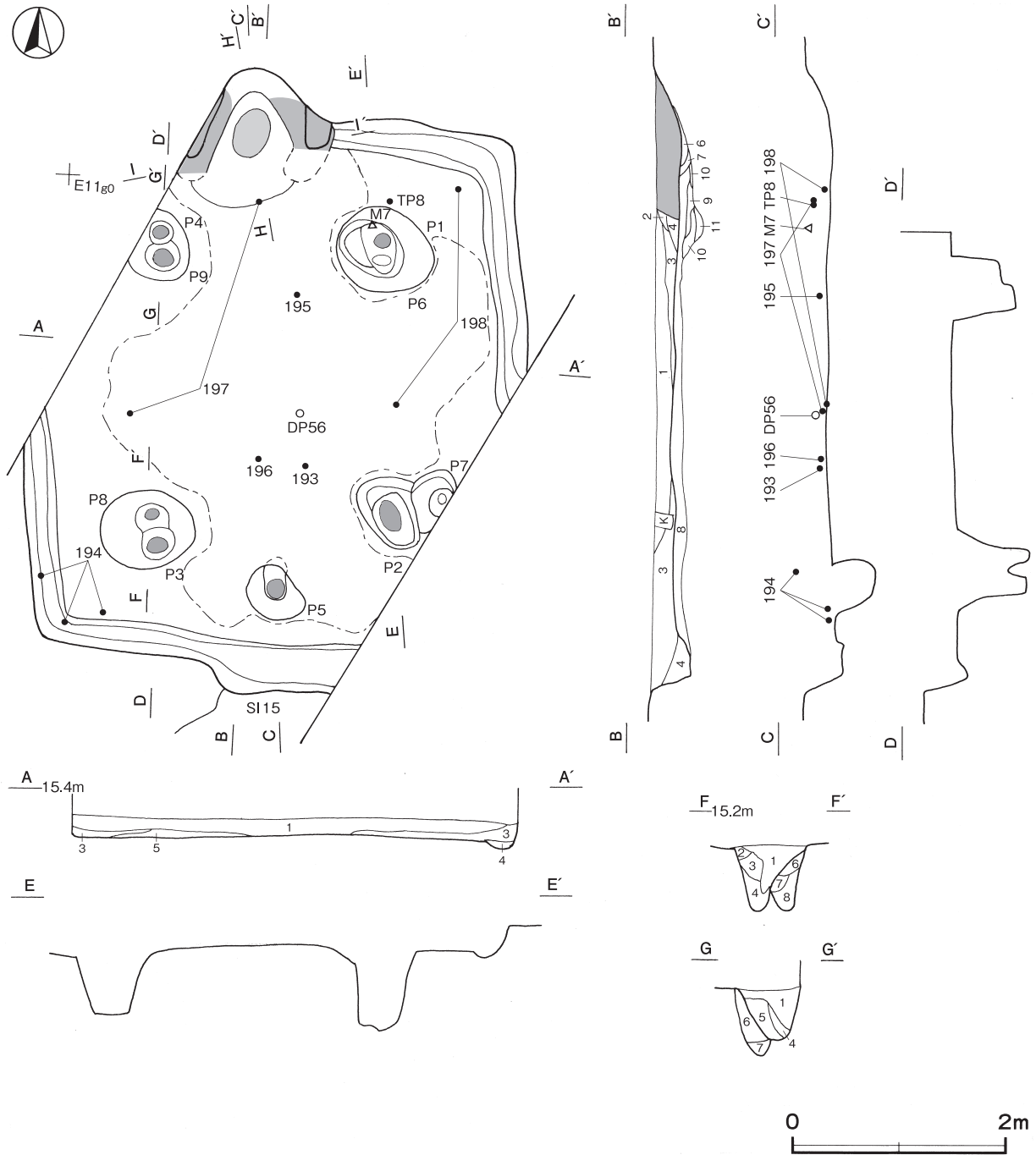
P3・P4・P8・P9土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	5	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	6	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量

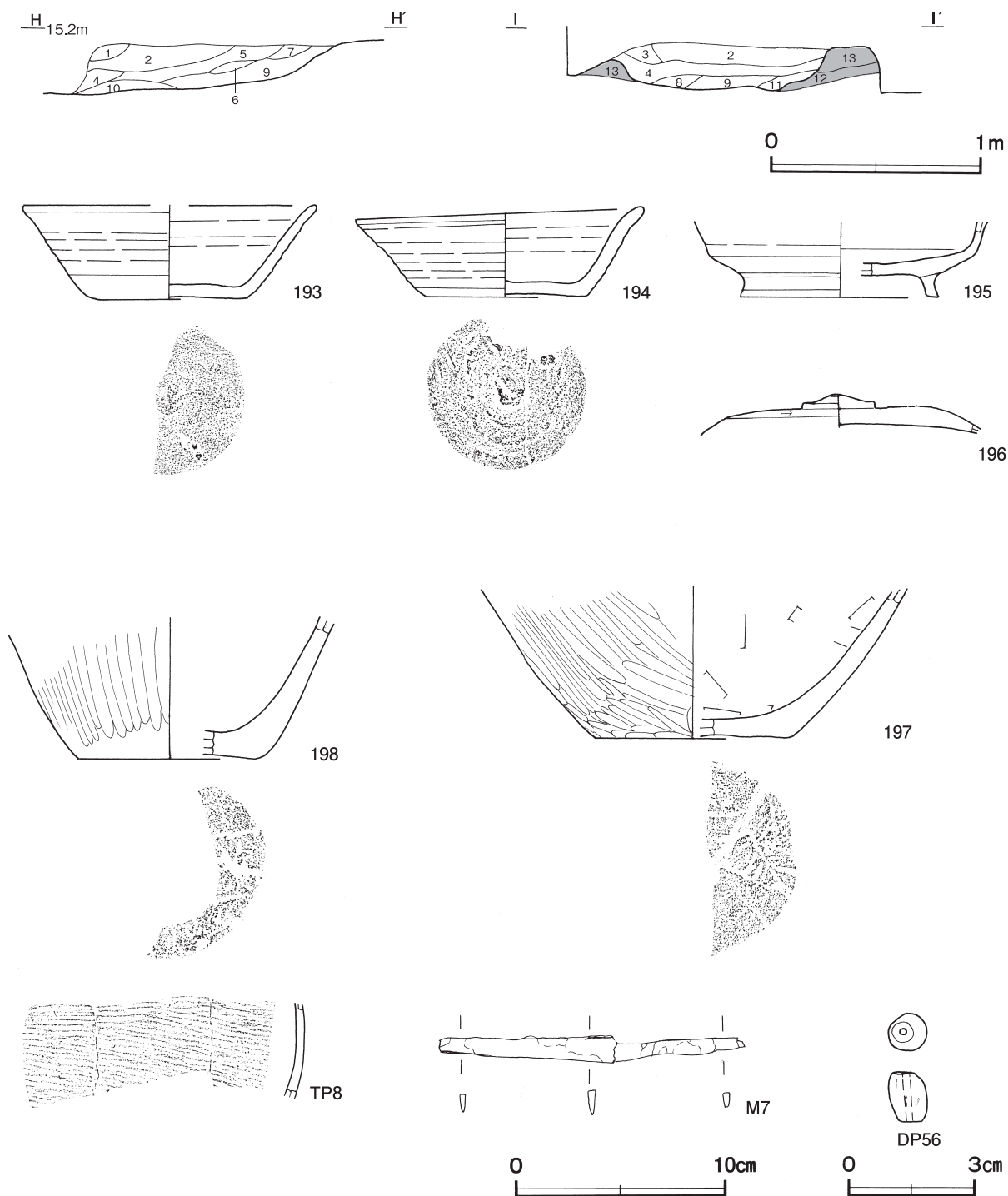
覆土 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第6～11層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・灰少量, 炭化粒子微量 | | |



第88図 第14号住居跡実測図



第 89 図 第 14 号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 258 点 (坏 26, 甕類 229, 甌 3), 須恵器片 4 点 (坏), 土製品 1 点 (土玉), 鉄製品 1 点 (刀子), 焼成粘土塊 2 点, 鉄滓 18 点 (142g) が出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 11 点 (甕類), 須恵器片 1 点 (坏) が出土している。そのほか, 流れ込んだ剥片 1 点も出土している。197 は竈の焚き口と西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。193・195・196・DP56 は中央部, 198 は東部, 194 は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。TP 8・M 7 は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。本跡は、竈の火床部の作り替え及び柱の立て替が行われた可能性がある。

第14号住居跡出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
193	須恵器	坏	[13.8]	4.5	7.4	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土下層	50%
194	須恵器	坏	13.6	4.3	7.6	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土下層	50%
195	須恵器	高台付坏	-	(3.5)	[9.4]	長石・石英・細礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	20%
196	須恵器	蓋	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土下層	20%
197	土師器	甕	-	7.2	[9.4]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端斜位のヘラ磨き 内面工具痕 底部木葉痕	覆土下層	10%
198	土師器	甕	-	(6.7)	[8.8]	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	体部下端縦位のヘラ磨き 底部木葉痕	覆土下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP8	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰	体部外面横位の平行叩き 内面ナデ 当て具痕	覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP56	土玉	0.9	1.2	0.1	1.0	長石・石英	ナデ・端部ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土下層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	刀子	(14.6)	1.3	0.2~0.3	(14.1)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形・茎部断面逆台形	覆土中層	PL45

第15号住居跡（第90～92図）

位置 調査区西部のE 11h0区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第14号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は3.00mで、北西・南東軸は2.40mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-25°-Wと推定できる。壁高は30～36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、北西コーナー部が踏み固められている。壁下には壁溝を確認した。

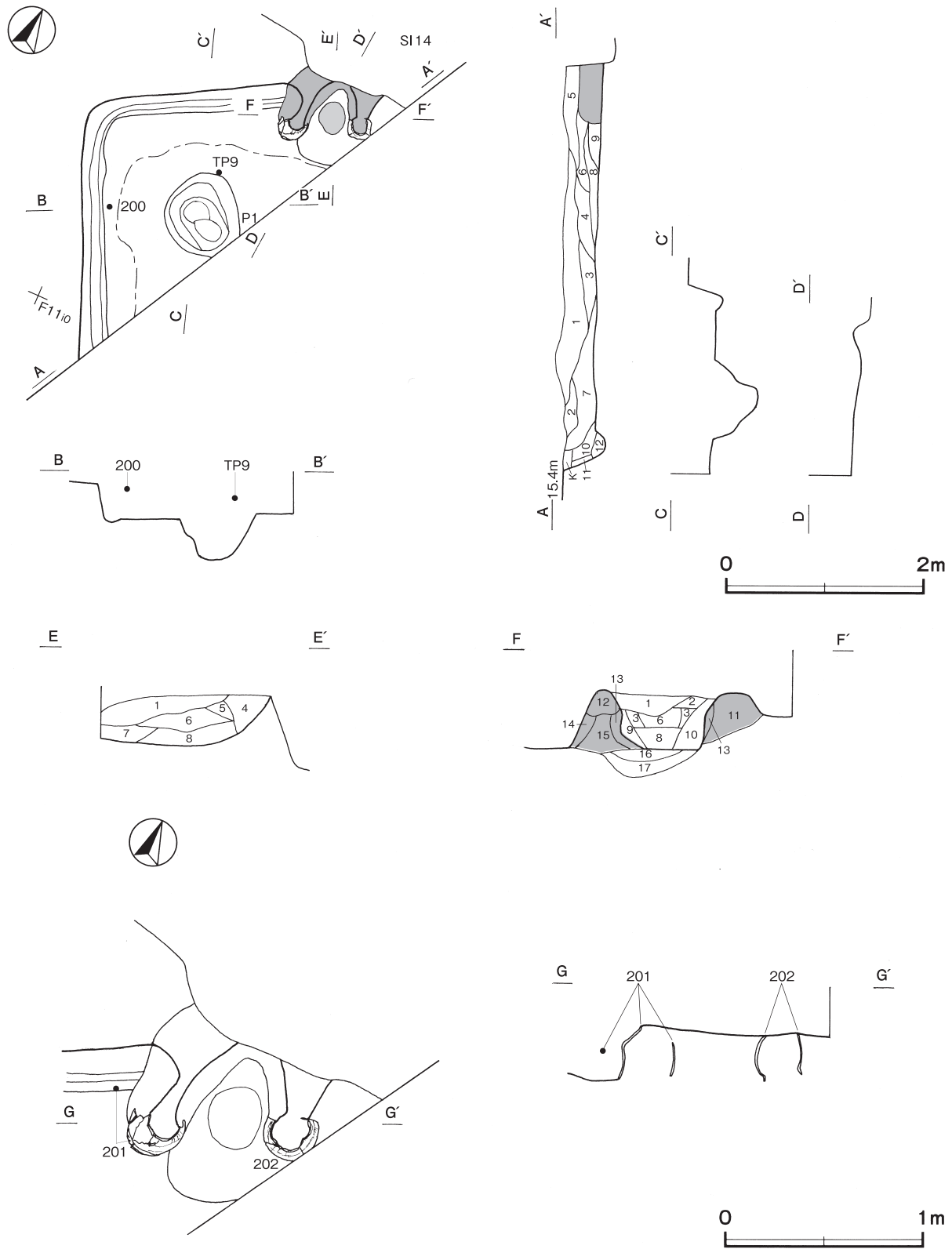
竈 北西壁に付設されている。北部が第14号住居に掘り込まれているため、遺存している規模は焚口部から煙道部まで85cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は左右ともに先端部に土師器甕を逆位の状態で据えて補強材とし、砂質粘土を主体とした第11～15層を積み上げて構築されている。火床部は床面を35cm掘りくぼめ、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第16～17層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ15cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	にぶい橙色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量、炭化材・ローム粒子微量
5	にぶい橙色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量	11	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量
6	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	12	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量

- 13 にふい赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量
- 14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

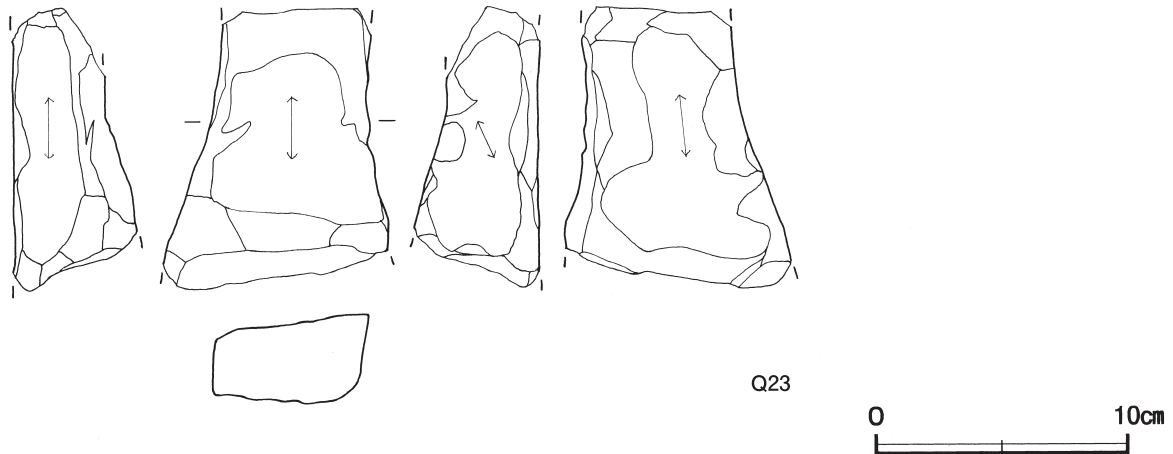
- 16 暗赤褐色 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子微量
- 17 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量



第90図 第15号住居跡実測図



第 91 図 第 15 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 92 図 第 15 号住居跡出土遺物実測図 (2)

ピット 深さ 55cm で、規模と配置から主柱穴である。硬化した底面が 2 か所確認できたので、柱の立て替えが行われた可能性がある。

覆土 12 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 褐色	ローム粒子多量
6 暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 104 点 (坏 9, 甕類 95), 須恵器片 12 点 (坏 7, 蓋 3, 甕類 2), 石器 1 点 (砥石), 焼成粘土塊 2 点, 鉄滓 2 点 (75g) が出土している。201 は竈の左袖部, 202 は右袖部の芯材として床面上に逆位で据えられた状態でそれぞれ出土した。TP 9 は北西部の覆土中層から出土している。200 は西部の覆土上層から出土している。199・Q 23 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。

第 15 号住居跡出土遺物観察表 (第 91・92 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
199	須恵器	坏	[10.8]	3.0	[7.8]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中	20%
200	須恵器	蓋	[15.7]	3.3	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け、内面の返りを磨り落としている。	覆土上層	20% PL38
201	土師器	甕	23.5	31.9	7.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半ヘラナデ・工具痕 下半縦位のヘラ磨き 内面横ナデ・工具痕	竈左袖部床面	80%
202	土師器	甕	23.8	(26.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き・工具痕 内面ヘラナデ・指頭圧痕	竈右袖部床面	70% PL39

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 9	須恵器	甕	長石・石英	灰	体部外面横位の平行叩き 内面ナデ	覆土中層	

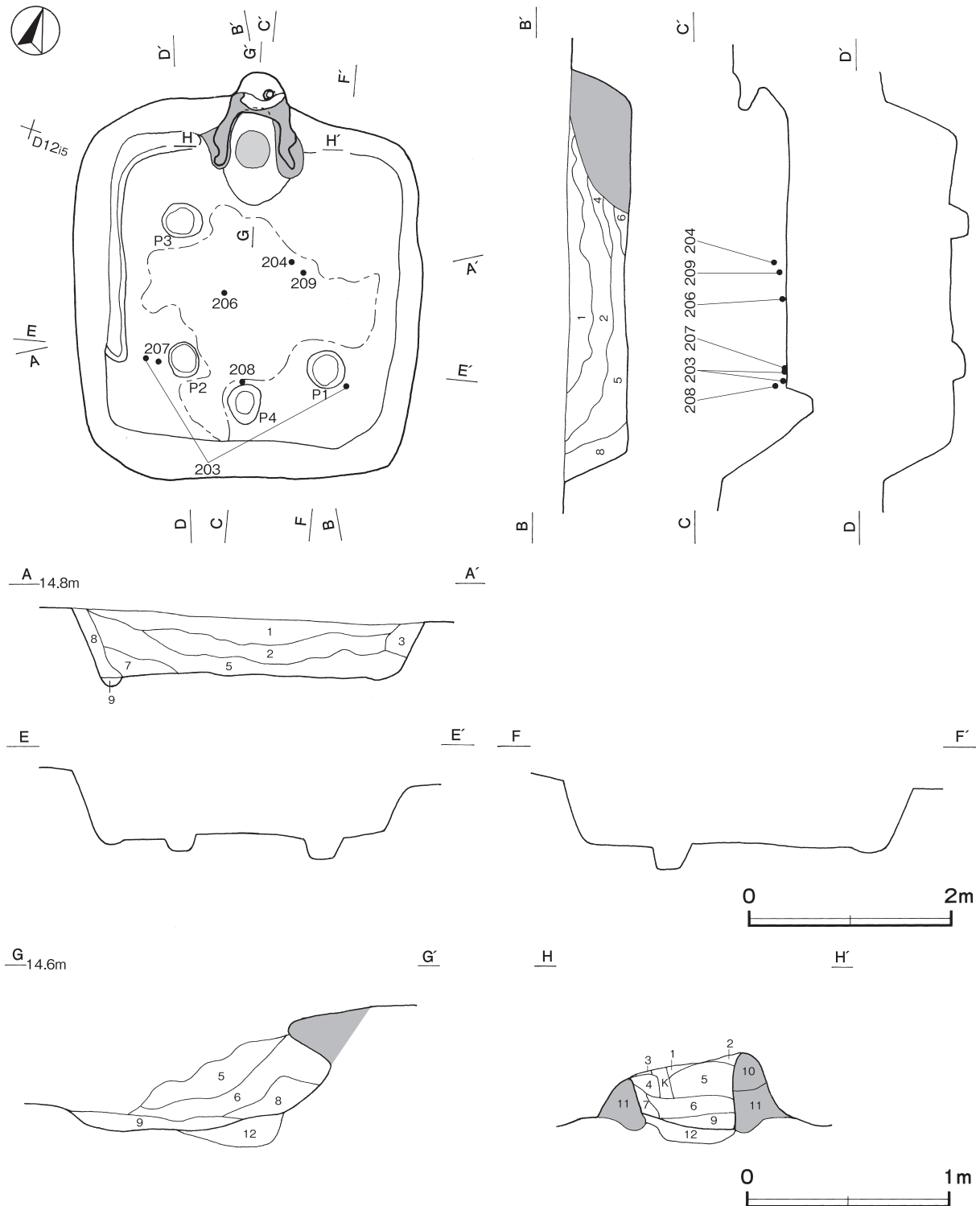
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 23	砥石	(11.2)	(9.0)	(5.0)	(570)	凝灰岩	断面逆台形 一部欠損 砥面 4 面	覆土中	

第 17 号住居跡 (第 93・94 図)

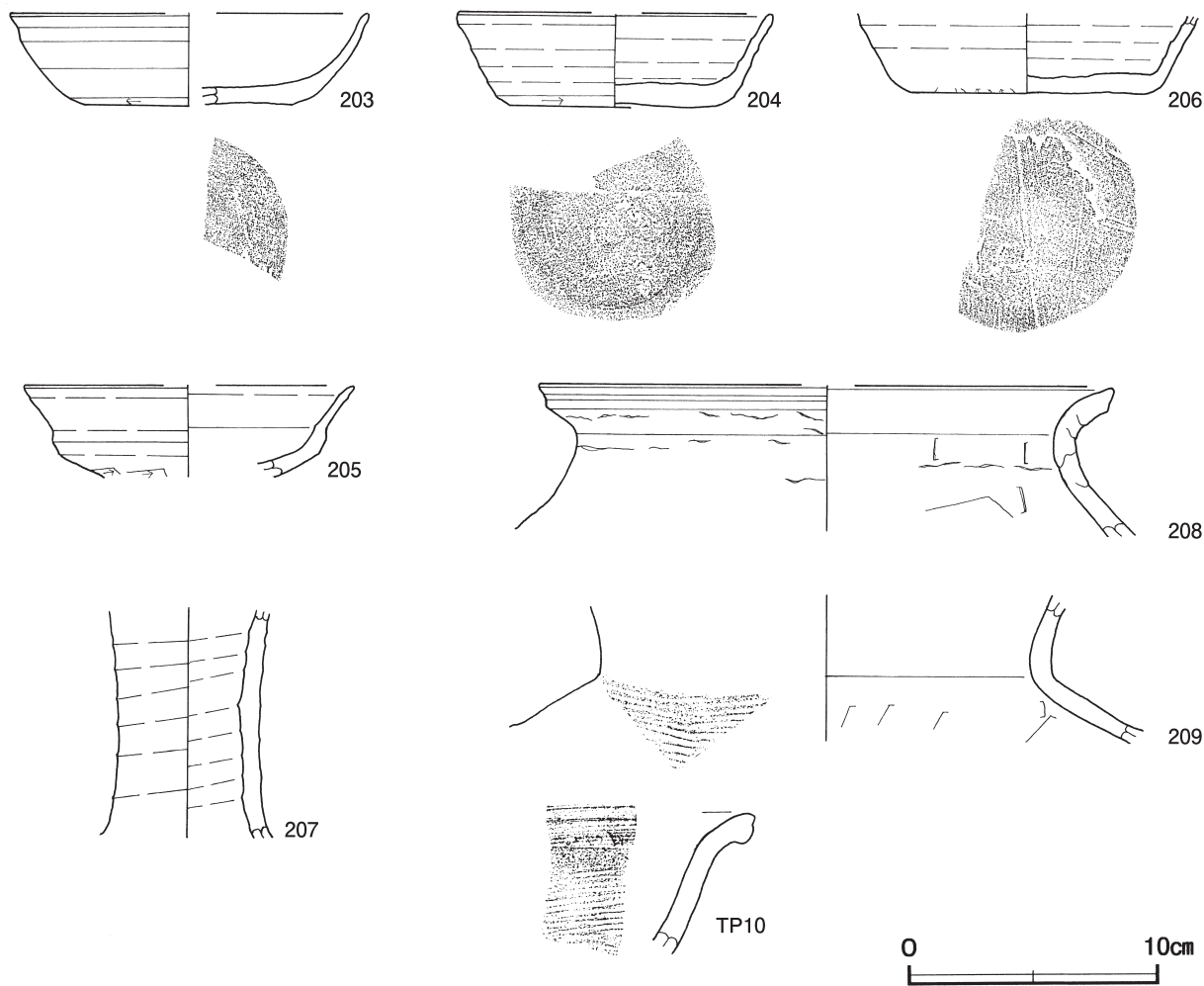
位置 調査区西部の D 12i5 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 3.76 m, 短軸 3.44 m の隅丸方形で, 主軸方向は $N - 18^\circ - W$ である。壁高は 48 ~ 65 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。竈の西側から西壁にかけて, 壁下には壁溝を確認した。



第 93 図 第 17 号住居跡実測図



第94図 第17号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は46cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第10・11層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめ、第12層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第1～5層は天井部の崩落土である。天井部が一部残存している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 5 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 灰黄褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 | | |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P3は深さ12～24cmで、規模と配置から主柱穴である。P4は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 273点 (坏 41, 高坏 17, 甕類 215), 須恵器片 45点 (坏 34, 長頸瓶 1, 甕類 10), 焼成粘土塊 3点, 鉄滓 15点 (133g) が出土している。そのほか, 流れ込んだ縄文土器片 1点 (深鉢) も出土している。206 は中央部, 207 は南西部の床面からそれぞれ出土している。203 は南西部と南東部の床面から出土した破片が接合したものである。204・209 は中央部, 208 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。205・TP10 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。

第 17 号住居跡出土遺物観察表 (第 94 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
203	須恵器	坏	[14.4]	3.8	[8.4]	長石・石英	橙	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	30%
204	須恵器	坏	[12.4]	3.8	8.4	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
205	須恵器	坏	[13.2]	(3.7)	-	長石・石英・白色粒子	灰黄	普通	体部下端ヘラ削り	覆土中	20%
206	須恵器	坏	-	(3.3)	9.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	多方向のヘラ削り	床面	40%
207	須恵器	長頸瓶	-	(9.3)	-	長石・石英	灰白・灰オリーブ	普通	頸部外・内面ロクロナデ	床面	10% 自然釉
208	土師器	甕	[23.0]	(6.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面工具痕	覆土下層	5%
209	須恵器	甕	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP10	須恵器	甕	長石・石英	灰	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外面横位の平行叩き 内面ナデ	覆土中	

第 28 号住居跡 (第 95・96 図)

位置 調査区南西中央部の E 13g0 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 3.73 m, 短軸 3.28 m の隅丸長方形で, 主軸方向は N - 30° - W である。壁高は 11 ~ 15cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 141cm で, 燃焼部幅は 41cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 13・14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 6cm 掘り込んで, ローム粒子, 焼土ブロックを含んだ第 15 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40cm 掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

- | | | | | | |
|---|-------|----------------------------------|----|-------|-----------------------------|
| 6 | にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 | 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 | 極暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 9 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| | | | 14 | 明灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量 |
| | | | 15 | 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 深さ32cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

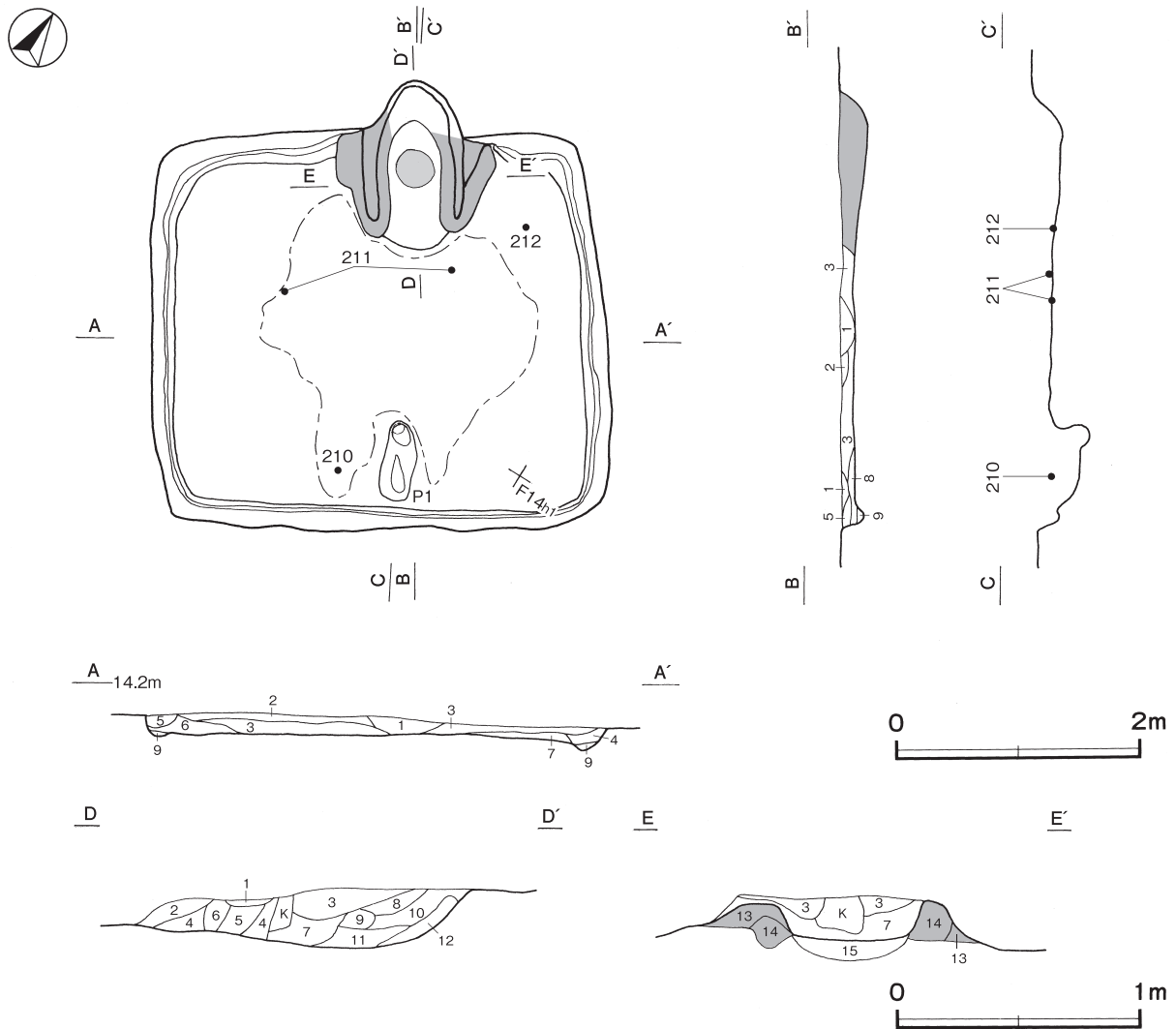
覆土 9層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

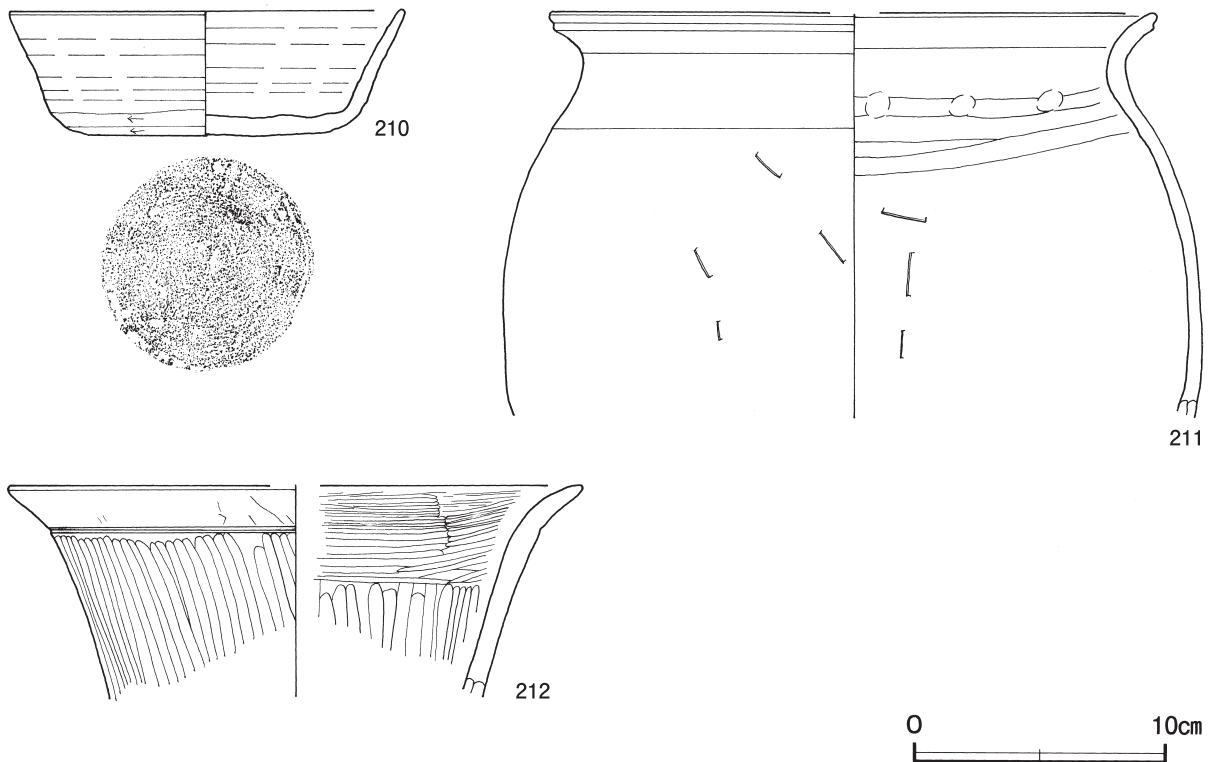
- | | | | | | |
|---|------|----------------------|---|------|-------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 | 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片99点(坏30, 甕類68, 甌1), 須恵器片13点(坏11, 盤1, 甕類1), 焼成粘土塊4点, 鉄滓7点(76g)が出土している。211は竈の前, 212は北部, 210は南部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第95図 第28号住居跡実測図



第 96 図 第 28 号住居跡出土遺物実測図

第 28 号住居跡出土遺物観察表 (第 96 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
210	須恵器	坏	15.5	5.0	9.4	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	70% PL36
211	土師器	甕	[24.0]	(16.2)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ・工具痕 内面ナデ・指頭圧痕・工具痕	床面	20%
212	土師器	甌	[22.6]	(8.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上端横位の沈線・縦位のヘラ磨き 内面上位横位のヘラ磨き・中位縦位のヘラ磨き	床面	10%

第 30 号住居跡 (第 97・98 図)

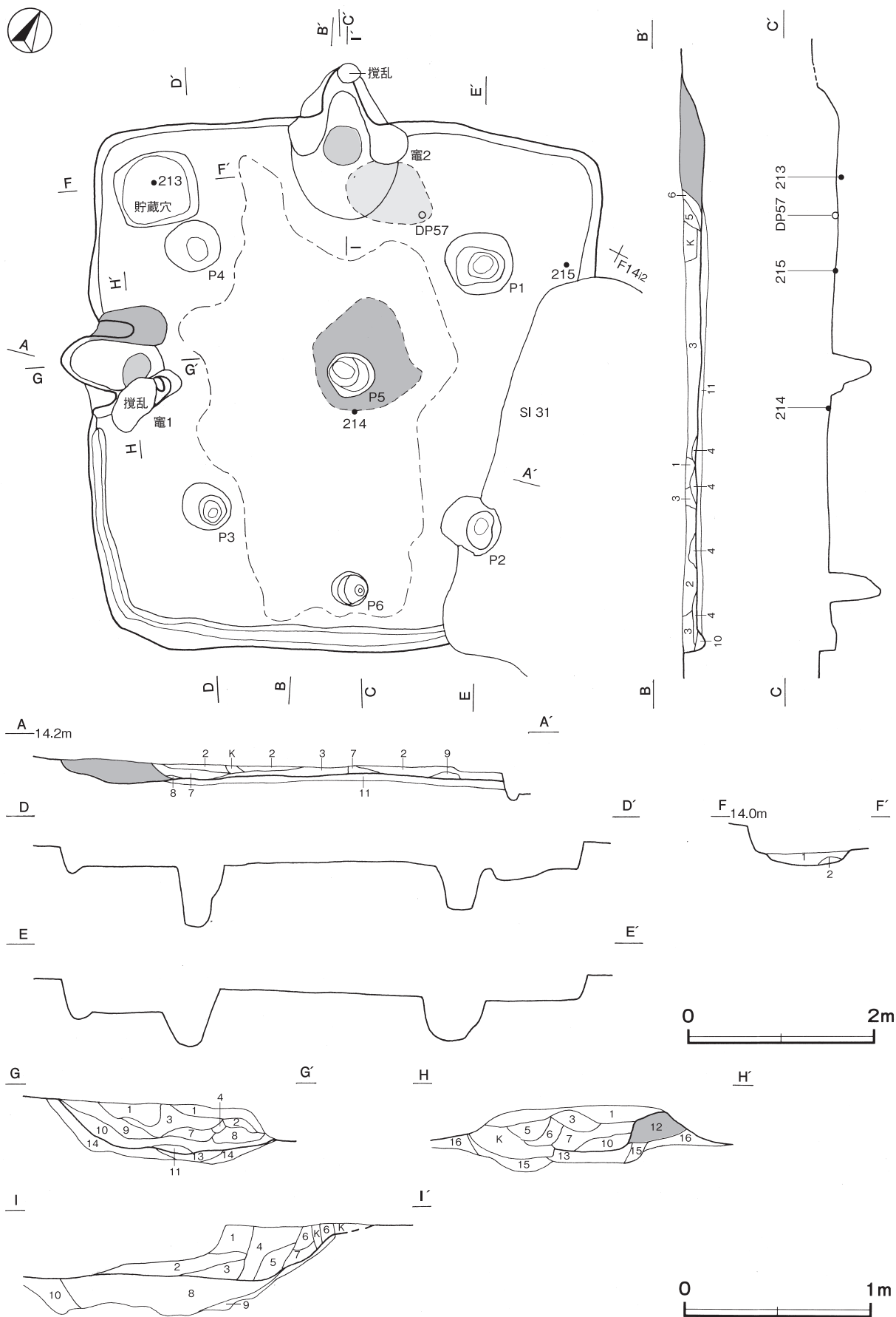
位置 調査区中央部の E 14i1 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 31 号住居に掘り込まれている。

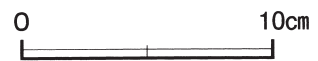
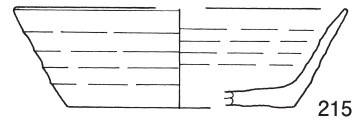
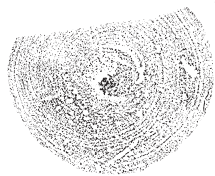
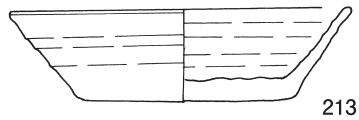
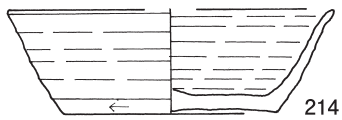
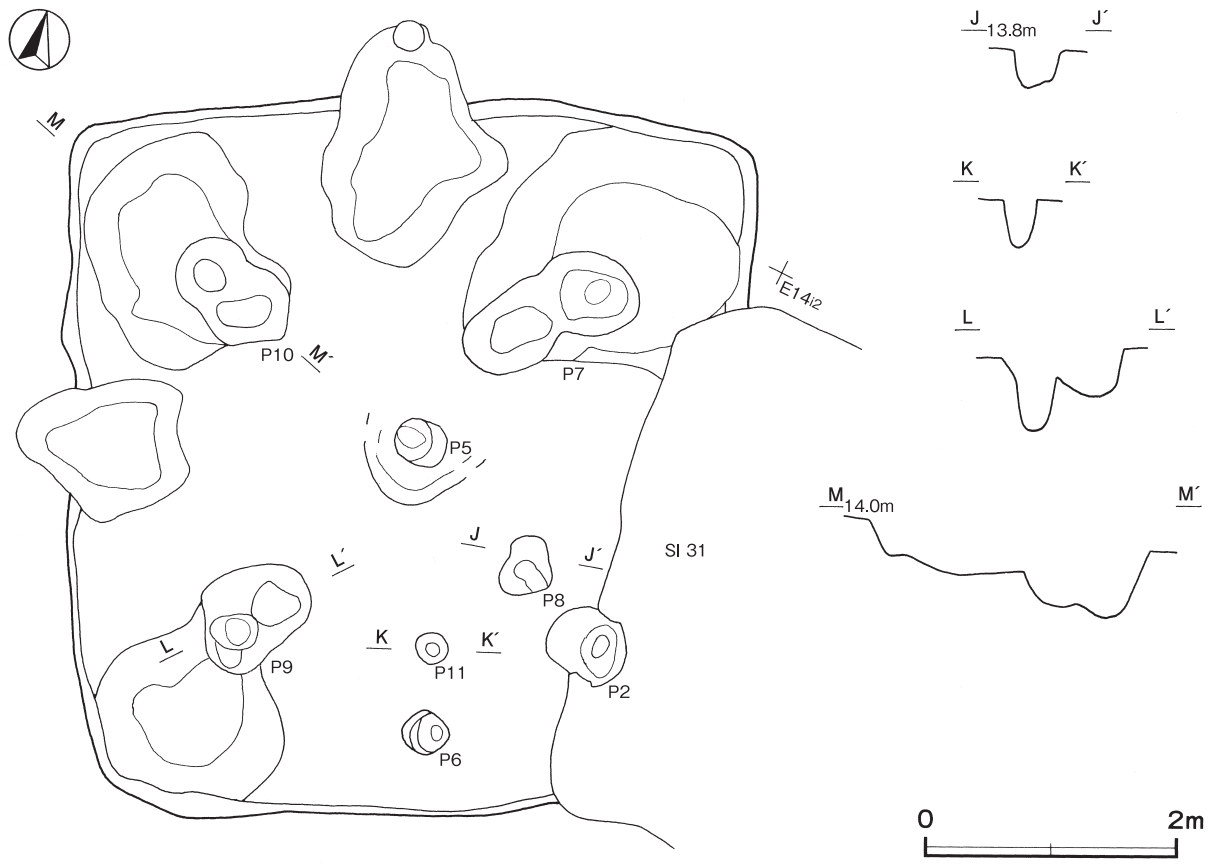
規模と形状 長軸 5.65 m, 短軸 5.49 m の方形で, 主軸方向は N - 27° - W である。壁高は 15 ~ 30cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。南西コーナー部から南壁にかけて壁下には壁溝を確認した。貼床は, 中央部を浅くコーナー部を土坑状に掘り込み, ローム粒子を多く含んだ第 11 層を埋土して構築されている。竈 2 の前に, 壊れた竈の袖や火床部と見られる砂質粘土の広がりや焼土を確認した。

竈 2 か所。竈 1 は, 西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 112cm で, 燃焼部幅は 40 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10cm 掘りくぼめ, 第 13 ~ 16 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 30cm 掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。竈 2 は, 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 156cm で, 燃焼部幅は 50cm である。火床部は床面を 18cm 掘りくぼめ, 第 8 ~ 10 層を埋土して構築されて



第97図 第30号住居跡実測図



DP57



第 98 图 第 30 号住居跡・出土遺物実測図

いる。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ60cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。竈2の袖部が遺存していないことから、竈2から竈1へ作り替えられたと思われる。

竈1土層解説

1 暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 灰黄褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量
3 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	12 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子微量
6 にぶい橙色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量	16 褐色	焼土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量・砂質粘土粒子微量
8 灰褐色	砂質粘土粒子多量		
9 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量		

竈2土層解説

1 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量		
6 暗赤褐色	焼土ブロック少量		

ピット 11か所。P1～P5は深さ38～68cmで、規模と配置から主柱穴である。P6は深さ58cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7～P11は掘方調査によって確認したものである。P7～P10は深さ33～54cmで、規模と配置から主柱穴である。P11は深さ40cmで、南壁側の中央部に位置していることから、出入口施設にともなうピットと考えられる。このことから、P7からP1へ、P8からP2へ、P9からP3へ、P10からP4へ、P11からP6への柱の立て替えが行われた可能性がある。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸90cm、短軸85cmの隅丸方形で、深さは17cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
-------	------------------------------	-------	---------------------

覆土 10層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	7 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片224点(坏48, 甕類176), 須恵器片56点(坏41, 高台付坏1, 蓋4, 甕類10), 土製品1点(土玉), 焼成粘土塊17点, 鉄滓112点(1330g)が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片24点(坏4, 甕類20), 須恵器片8点(坏6, 甕類2)が出土している。そのほか、流れ込んだ縄文土器片1点(深鉢), 磁器1点(碗)も出土している。DP57は竈の前, 214は中央部, 215は北東部の床面からそれぞれ出土している。213は貯蔵穴の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。本跡は、竈の作り替え及び柱の立て替えが行われた可能性がある。

第 30 号住居跡出土遺物観察表 (第 98 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
213	須恵器	坏	13.3	3.8	8.4	長石・石英	灰黄	普通	底部二方向のヘラ削り	貯蔵穴覆土上層	80% PL36
214	須恵器	坏	[12.8]	4.2	8.5	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	40%
215	須恵器	坏	[13.2]	4.0	[9.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部一方向のヘラ削り	床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP57	土玉	2.5~3.0	2.3	0.6~0.8	16.2	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	PL41

第 30 号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径 10cm以上)	大 (長径 4cm以上 10cm未満)	中 (長径 1cm以上 4cm未満)	小 (長径 1cm未満)	合計
点数	-	2	51	59	112
重量 (g)	-	420	733	177	1,330

第 33 号住居跡 (第 99 ~ 101 図)

位置 調査区中央部の F 14a2 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 35 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 5.85 m、短軸 5.24 m の長方形で、主軸方向は N - 15° - W である。壁高は 28 ~ 34cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は 2 面確認でき、一次面は、北西コーナー部から西壁下にかけて溝状に、それ以外のコーナー部は土坑状に掘り込み、ローム粒子を含んだ第 24 ~ 28 層を埋土して構築されている。二次面は、一次面の上に主にローム粒子、炭化粒子を含む第 14 ~ 23 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。また、竈の前面に焼土の広がりを確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 146cm で、燃焼部幅は 60cm である。袖部は砂質粘土ブロック、焼土ブロックを含んだ第 14 層を基部とし、砂質粘土を主体とした第 9 ~ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面より 5 cm ほどくぼんでおり、煙道部は壁外へ 70cm 掘り込まれ、奥壁で段を有し、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10	にぶい黄橙褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	灰黄褐色	砂質粘土粒子多量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	12	暗赤褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
5	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	13	にぶい黄橙色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14	極暗褐色	砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
7	にぶい黄橙色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量			
8	にぶい黄橙色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量			

棚状施設 竈の東側及び西側に付設されている。東側の棚は、確認面からの掘り込み 15cm、幅 100cm、奥行き 50cm、床面からの高さ 15cm、平面形は逆台形状で、棚面は南に向かって傾斜している。西側の棚は、確認面からの掘り込み 17cm、幅 120cm、奥行き 30cm、床面からの高さ 15cm、平面形は逆台形状で、棚面は南に向か

って緩やかに傾斜している。いずれも床面上に砂質粘土主体の第1～11層を積み上げて構築されている。北壁も全体に奥行き5～25cmで、確認面の高さまでローム混じりの砂質粘土を貼り付けて構築されていることから、本跡が第35号住居跡を掘り込んでいるため、軟弱な北壁を補強した可能性が考えられる。また、東側の棚状施設の下から壁溝が確認されたことから、壁溝を埋め戻して棚状施設が構築されたとみられる。

棚状施設・北壁1・2土層解説

1	暗褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2	灰褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3	暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量	9	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量
5	暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	11	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量
6	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量			

ピット 9か所。P1～P4は深さ53～71cmで、規模と配置から支柱穴である。P5は深さ35cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は掘方調査によって確認したもので、深さ33～54cmで、規模と配置から支柱穴である。このことから、P6からP1へ、P7からP2へ、P8からP3へ、P9からP4への柱の立て替えが行われたと考えられる。

覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第14～28層は貼床の構築土である。

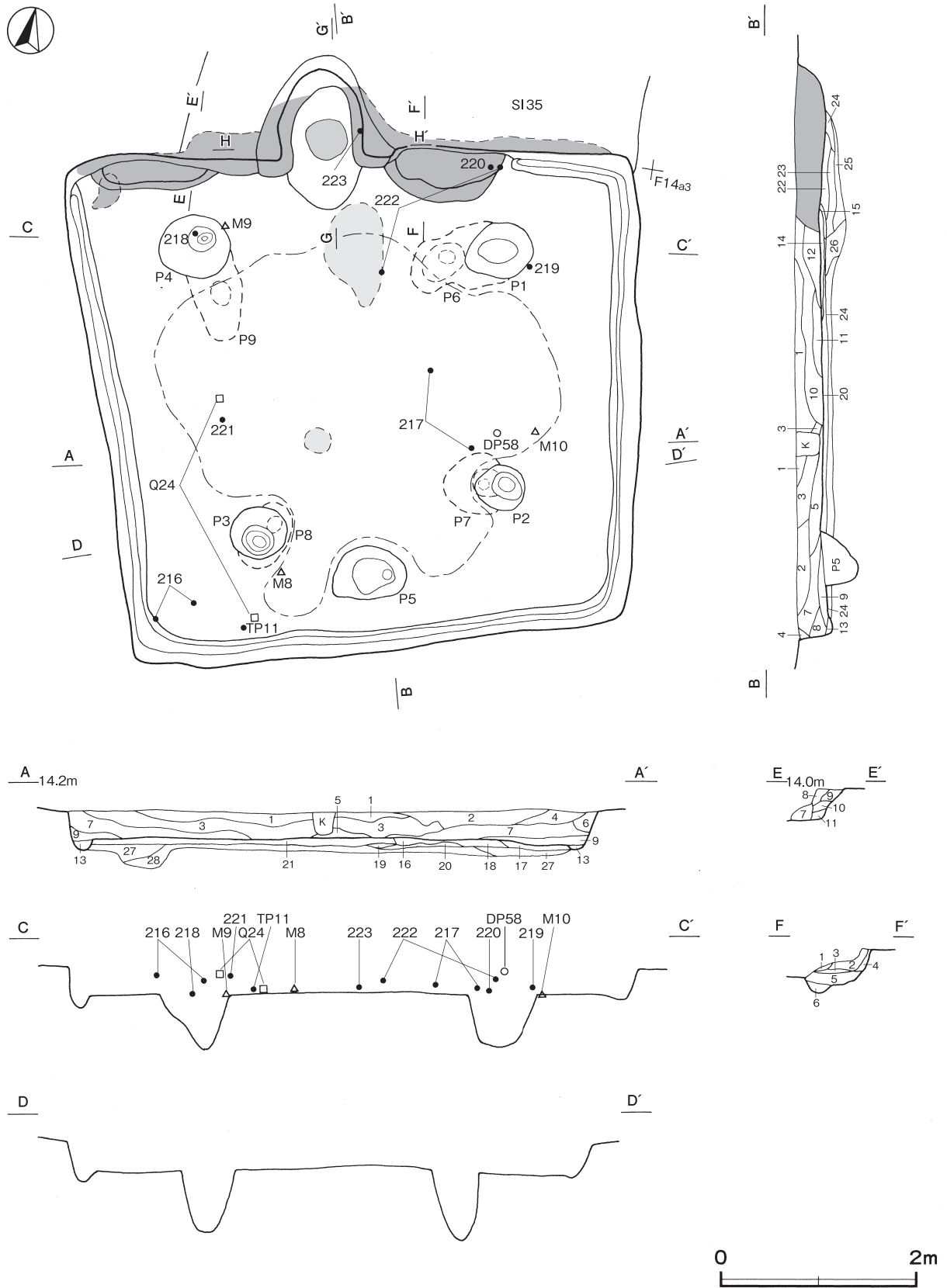
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック微量	15	灰褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	17	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	18	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量	19	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量	20	褐色	ローム粒子中量
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	21	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック微量	22	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量	23	暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	24	暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	25	暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
12	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量	26	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
13	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	27	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量
14	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	28	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量

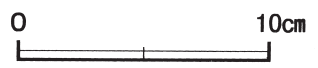
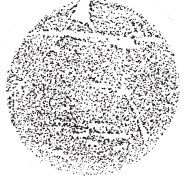
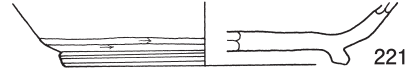
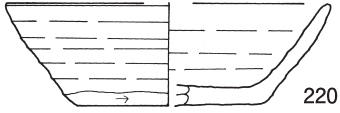
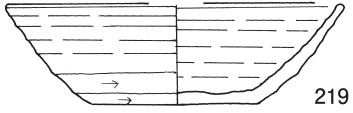
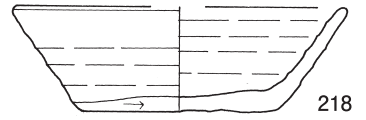
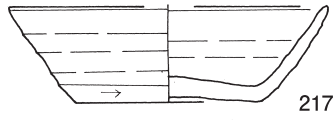
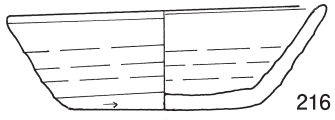
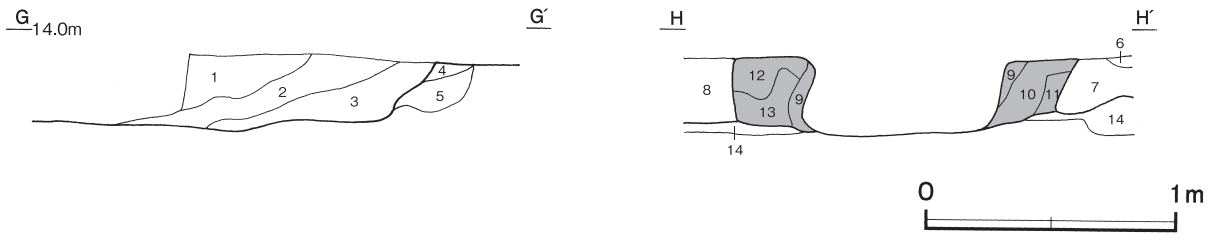
遺物出土状況 土師器片1151点(坏93, 甕類1057, 甑1), 須恵器片337点(坏273, 高台付坏2, 蓋9, 盤4, 鉢3, 甕46), 土製品2点(支脚, 不明), 石器2点(砥石), 鉄製品3点(刀子2, 鎌1), 焼成粘土塊15点, 鉄滓211点(2446g)が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片153点(坏18, 甕類135), 須恵器片25点(坏16, 蓋1, 甕類8)が出土している。そのほか、混入した縄文土器片1点(深鉢), 石器1点(剥片), 石製品5点(白玉1, 剣形模造品4)も出土している。220は棚状施設の構築土中から出土している。223は竈の覆土下層から出土している。218はP4の覆土上層から正位の状態でも出土している。Q24は西部の床面と南西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。M9は竈の南西側, M10は東部, M8は南西部の床面からそれぞれ出土している。217は中央部, 219は北東部, TP11は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。222は竈の東側, DP58は中央部, 221は西部, 216は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、貼床が2面確認されたこと及び柱の立て替えが行われたとみられることから、住居の建て替えが行われた可能性が考えられる。二次面の時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。二次面の貼床

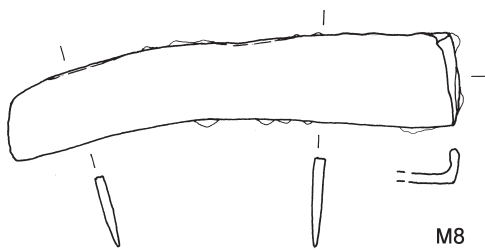
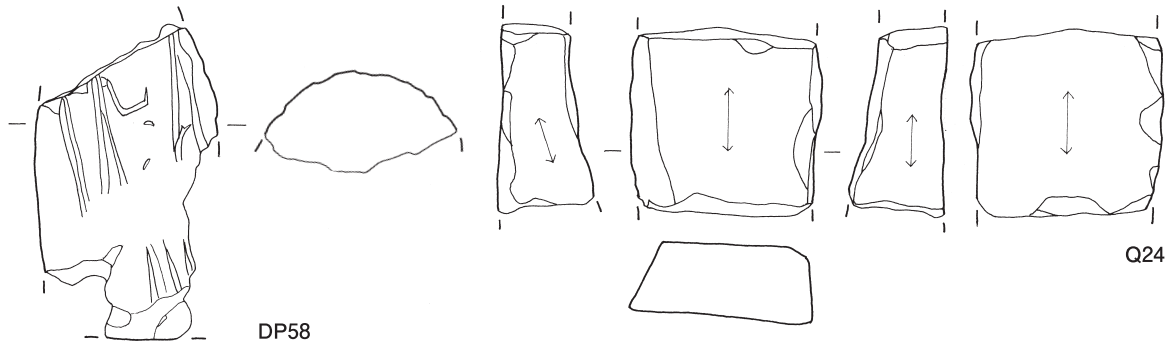
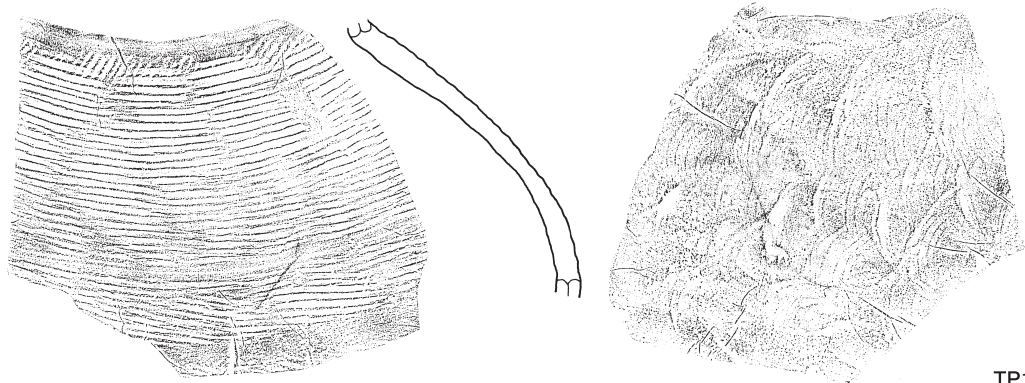
の構築土内から出土している土器は、みな細片で図示できるものはないが、須恵器の坏の形状等から大きな時期差はないものと思われる。



第99図 第33号住居跡実測図



第 100 图 第 33 号住居跡・出土遺物実測図



第 101 图 第 33 号住居跡出土遺物実測図

第 33 号住居跡出土遺物観察表 (第 100・101 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
216	須恵器	坏	12.6	4.2	7.6	長石・石英・ 細礫	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	85% PL36
217	須恵器	坏	[12.6]	3.8	7.4	長石・石英・ 細礫	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土下層	65% PL36
218	須恵器	坏	[13.0]	4.2	7.7	長石・石英・ 雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り痕を残すナデ	P4 覆土上層	55%
219	須恵器	坏	[13.2]	4.0	6.6	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	50%
220	須恵器	坏	[12.8]	4.1	[7.4]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り痕を残す一方向のヘラ削り	柵状施設構築土中	30%
221	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	[11.2]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中層	10%
222	須恵器	鉢	-	(16.3)	[20.0]	長石・石英・ 雲母	にぶい黄	普通	体部斜位の平行叩き 下端回転ヘラ削り 内面当て具痕	覆土中層	10% PL38
223	土師器	甕	22.4	(18.2)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半ヘラナデ 下半縦位のヘラ磨き 内面工具痕・指頭圧痕	甕覆土下層	15%

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
TP11	須恵器	甕	長石・石英・雲母	明黄褐	体部横位の平行叩き 内面当て具痕	覆土下層	PL40

番号	器 種	高さ	最小径	最大径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP58	支脚	(12.5)	-	(7.3)	(270)	長石・石英	ヘラナデ 欠損	覆土中層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 24	砥石	(7.6)	7.7	3.8	(322)	砂岩	断面台形 砥面 4 面	床面	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 8	鎌	18.0	5.3	0.4	109.4	鉄	刃部断面三角形 端部折り返し	床面	PL46
M 9	刀子	[10.1]	(1.7)	0.4	(11.9)	鉄	切先欠損 刃部断面三角形 茎部断面逆台形	床面	
M 10	刀子	(5.6)	(1.4)	0.3	(8.3)	鉄	切先・茎部欠損 刃部断面三角形	床面	

第 33 号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径 10cm 以上)	大 (長径 4cm 以上 10cm 未満)	中 (長径 1cm 以上 4cm 未満)	小 (長径 1cm 未満)	合 計
点数	-	12	42	157	211
重量 (g)	-	1,440	535	471	2,446

第 36 号住居跡 (第 102・103 図)

位置 調査区中央部の F 13a0 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 2.31 m、短軸 2.27 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 62° - E である。壁高は 16 ~ 18cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 70cm で、燃烧部幅は 28cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 7 ~ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 8 cm 掘り込んで、焼土ブロック、炭化粒子を含んだ第 13 層を埋土して構築されている。火床面はわずかに赤変している。煙道部は壁外へ 20cm 掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|----------------------------|---|---------|------------------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 | 暗 褐 色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 極 暗 褐 色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 | 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | | |

- | | | | |
|---------|--------------------------------|-----------|------------------------------|
| 6 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、
焼土粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子
微量 |
| 7 灰黄褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 11 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 8 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 12 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 9 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |

ピット 6か所。P1～P6は深さ11～35cmで、屋外柱穴の可能性が考えられる。

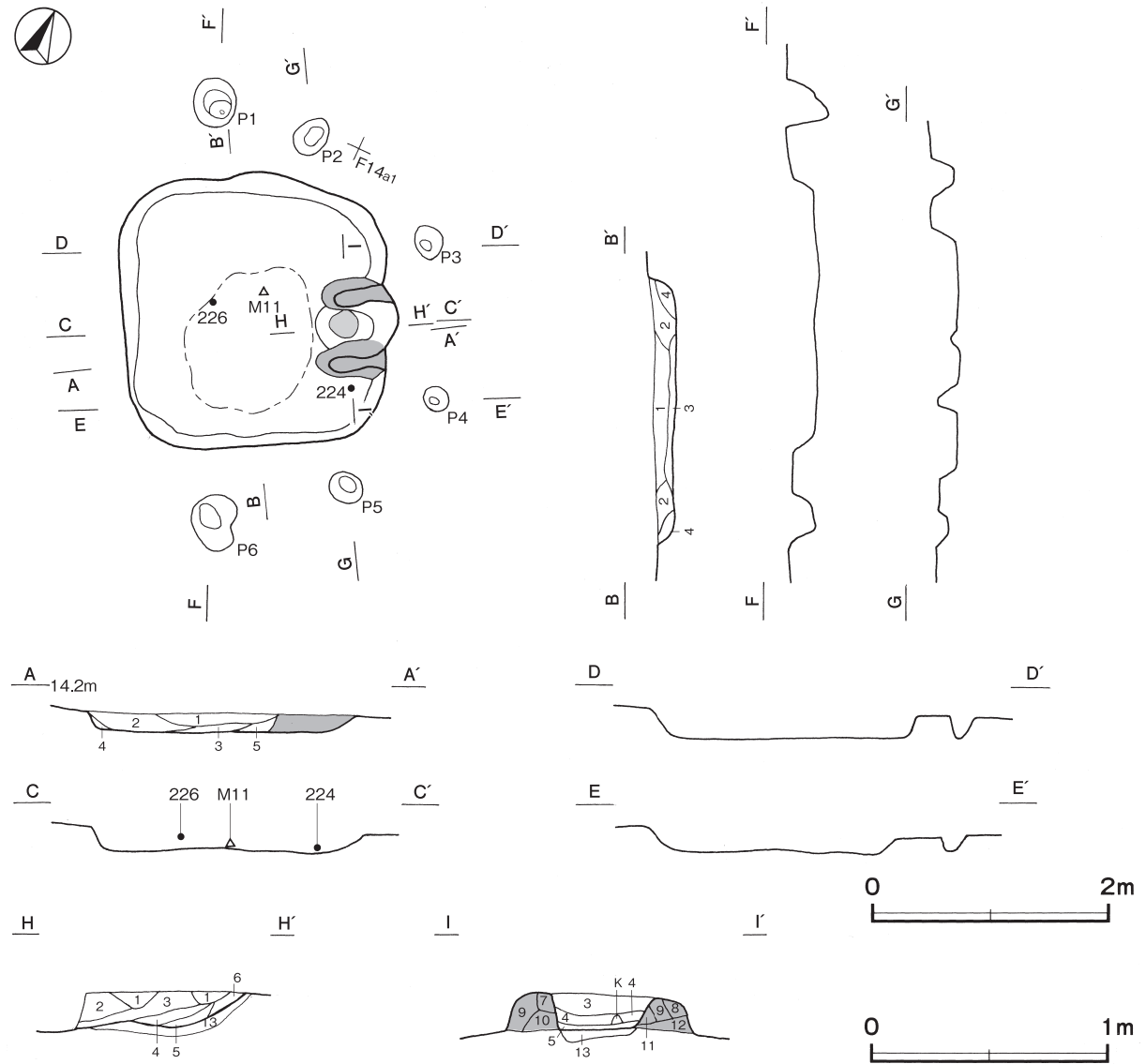
覆土 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

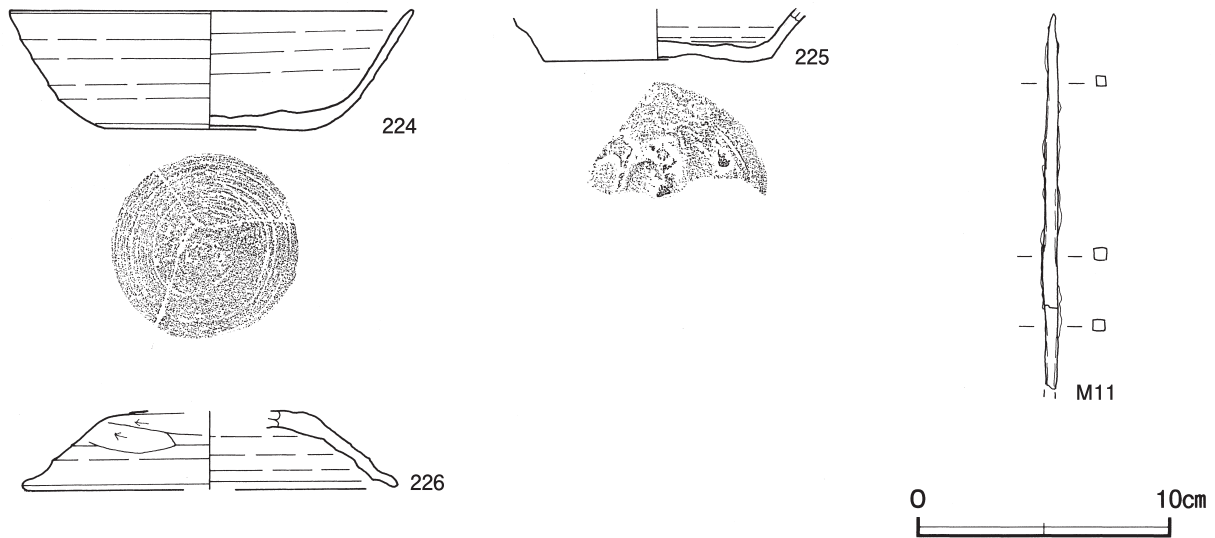
- | | | | |
|---------|-------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子
微量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片34点(坏8, 甕類26), 須恵器片5点(坏3, 蓋1, 甕1), 鉄製品(紡錘車軸), 焼成粘土塊8点, 鉄滓15点(151g)が出土している。M11は中央部の床面から出土している。224は竈の南側の覆土下層から出土している。226は中央部の覆土中層から出土している。225はP1の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第102図 第36号住居跡実測図



第 103 図 第 36 号住居跡出土遺物実測図

第 36 号住居跡出土遺物観察表 (第 103 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
224	須恵器	坏	16.0	4.8	8.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	60% PL36
225	須恵器	坏	-	(2.1)	[9.2]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 不調整	P 1 覆土中	10%
226	須恵器	蓋	[14.6]	(3.1)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 11	紡錘車軸	(14.9)	0.6	0.5	(18.4)	鉄	軸部断面方形 下端部欠損	床面	PL46

第 37 号住居跡 (第 104 ~ 106 図)

位置 調査区中央部の F 14c2 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているため、東西軸は 4.38 m で、南北軸は 3.87 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき、主軸方向は $N - 10^\circ - W$ である。壁高は 27 ~ 45cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁下を除いて踏み固められている。東及び西壁下には壁溝を確認した。貼床は、四隅を土坑状に掘りくぼめ、ローム粒子を多く含んだ第 15 層を埋土して構築されている。

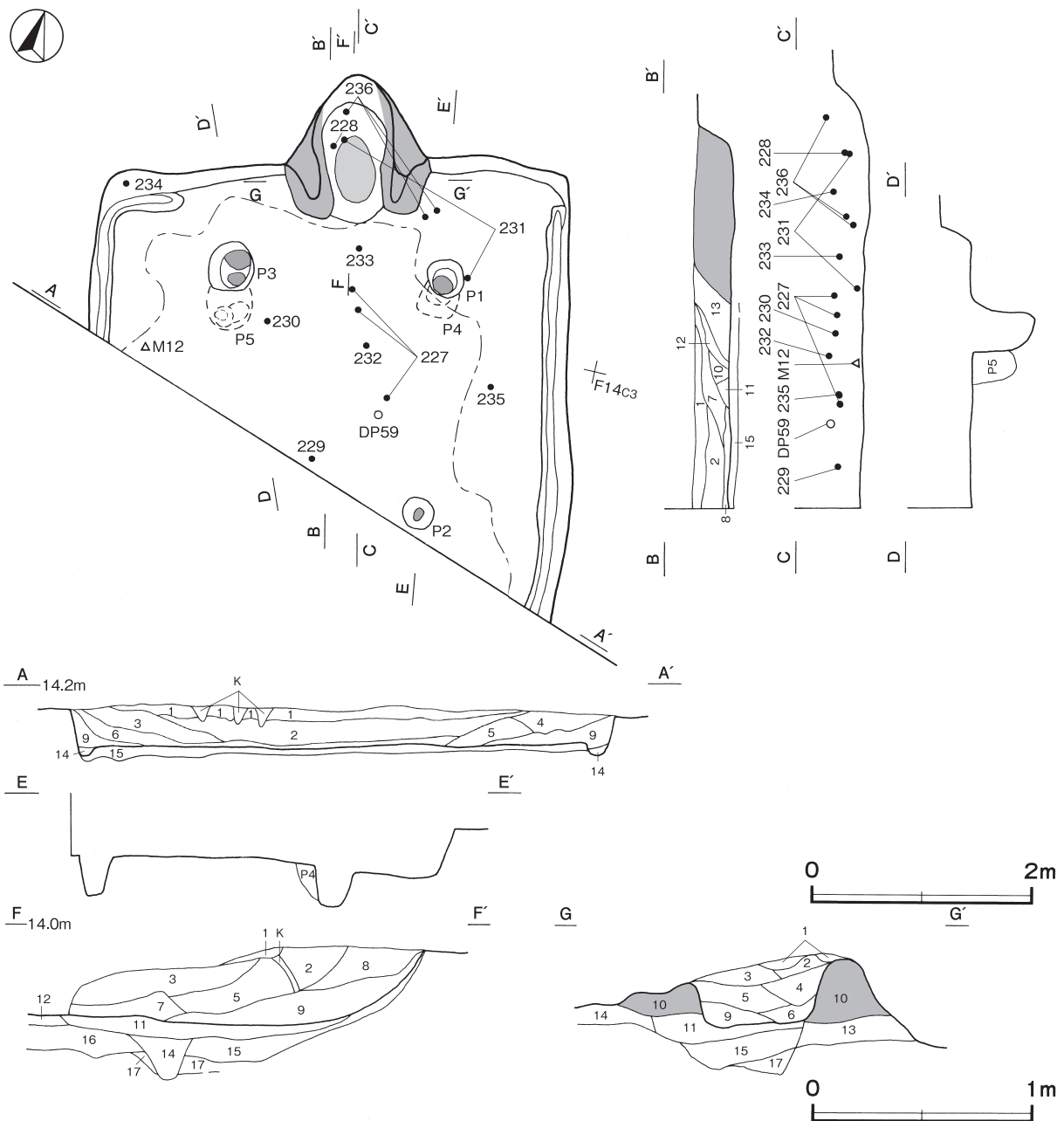
竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 135cm で、燃焼部幅は 45cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10cm 掘りくぼめ、第 11 ~ 17 層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 82cm 掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

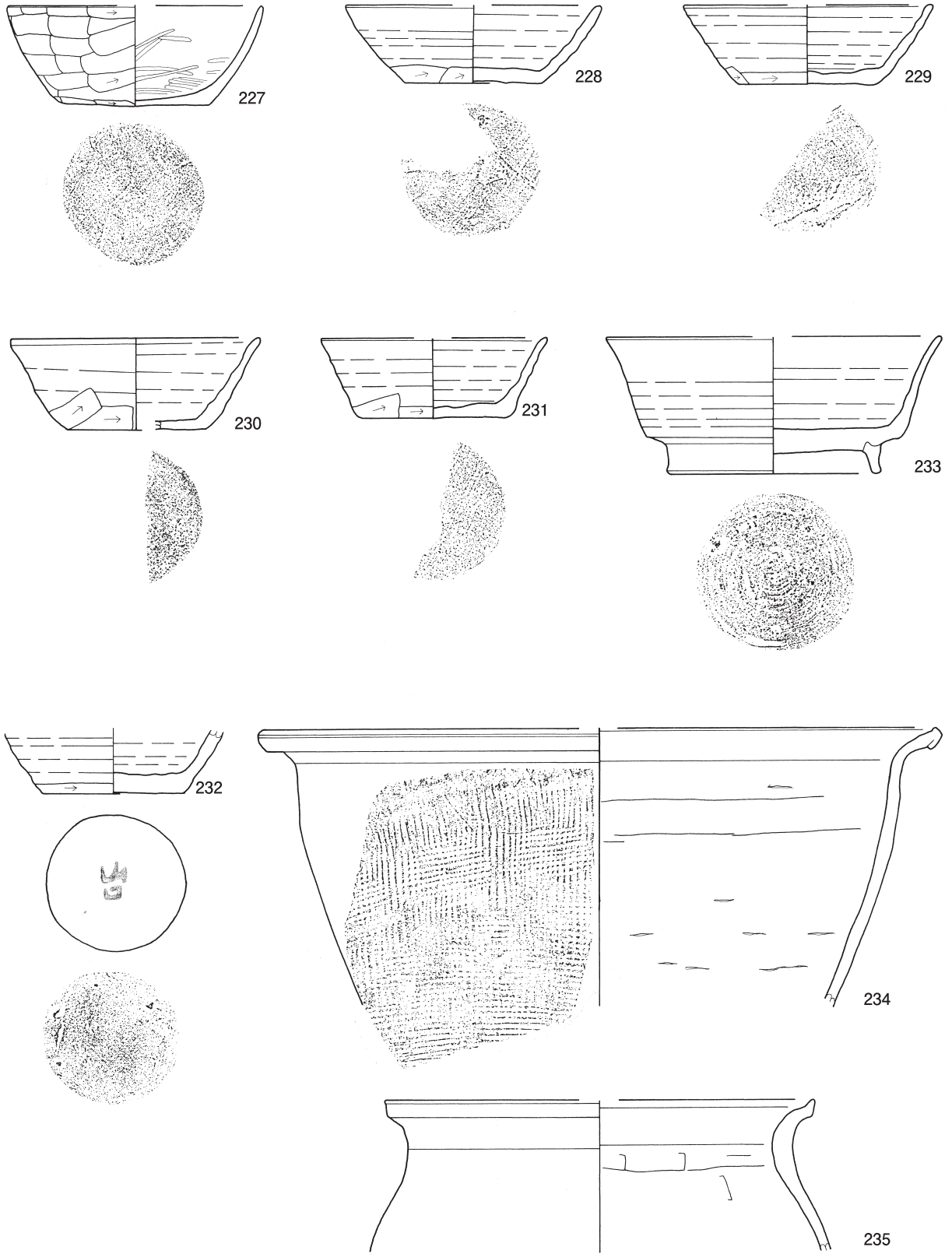
1	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5	暗赤褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

- | | | | |
|----------------|----------------------------------|------------|---------------------------------|
| 7 暗 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 明 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 8 に ぶ い 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 暗 赤 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗 赤 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 15 黒 褐 色 | 砂質粘土ブロック・焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 10 に ぶ い 黄 橙 色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 16 暗 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 暗 褐 色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 12 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

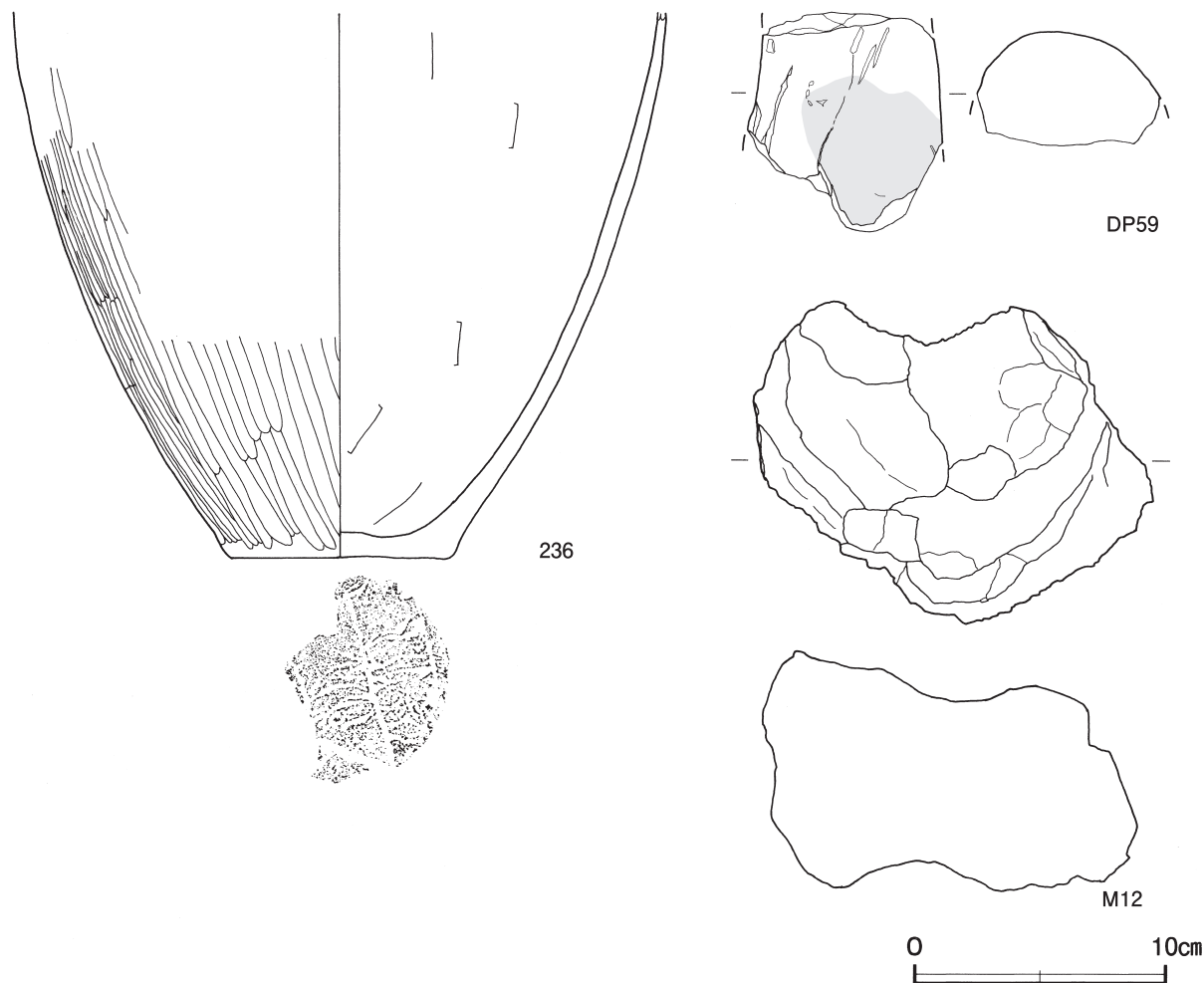
ピット 5か所。P1～P3は深さ39～56cmで、規模と配置から主柱穴である。P4・P5は掘方調査によって確認したもので、深さ35cm・40cmである。配置状況から、P4からP1へ、P5からP3への柱の立て替えが行われた可能性が考えられる。



第 104 図 第 37 号住居跡実測図



第 105 図 第 37 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 106 図 第 37 号住居跡出土遺物実測図 (2)

覆土 14層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第15層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	13 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6 極暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量	15 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量		
8 黒褐色	ロームブロック微量		
9 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 568 点 (坏 25, 高坏 6, 甕類 537), 須恵器片 133 点 (坏 119, 高台付坏 4, 蓋 4, 高盤 1, 鉢 1, 甕類 4), 土製品 2 点 (支脚), 石器 1 点 (砥石), 石製品 4 点 (白玉), 焼成粘土塊 10 点, 鉄滓 49 点 (957g) が, 全面の覆土中層から床面にかけて出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 30 点 (坏 2, 甕類 28), 須恵器片 7 点 (坏 4, 瓶 3) が出土している。そのほか, 流れ込んだ縄文土器片 1 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨石) も出土している。228 は竈の覆土中層から出土している。236 は竈の東側の覆土下層と竈覆土上層から出土した破片が接合したものである。231 は北東部の覆土下層と竈の覆土中層から出土した破片が接合したものである。M12 は西部の覆土下層から出土している。233 は竈の前, 227・229・230・232・DP59 は中央部, 234 は北西コーナー部, 235 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第37号住居跡出土遺物観察表(第105・106図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
227	土師器	坏	[13.0]	5.2	7.7	長石・石英	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	覆土中層	70% PL36
228	須恵器	坏	[12.7]	4.0	7.0	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	竈覆土中層	50%
229	須恵器	坏	[12.6]	4.2	7.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土中層	50%
230	須恵器	坏	12.7	4.7	[7.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	40% PL36
231	須恵器	坏	[11.4]	4.2	[7.3]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈覆土中層 覆土下層	60%
232	須恵器	坏	-	(3.2)	7.2	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り 底部に墨書「山口」	覆土中層	40%
233	須恵器	高台付坏	[17.0]	7.0	10.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中層	60% PL38
234	須恵器	鉢	[34.4]	(14.3)	-	長石・石英・雲母・細礫	黄灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き後、横位の平行叩き 内面ナデ	覆土中層	10% PL38
235	土師器	甕	[21.8]	(7.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面工具痕	覆土中層	10%
236	土師器	甕	-	(21.8)	8.4	長石・雲母・石英	橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面工具痕 底部木葉痕	竈覆土上層 覆土下層	40%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP59	支脚	(8.2)	(5.8)	(7.7)	(233)	長石・石英	ヘラナデ 一部欠損 被熱痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	着磁	材質	特徴	出土位置	備考
M12	碗状滓	12.7	15.0	9.5	2282	弱	鉄	地色は黒褐色 表面は顆粒状突起及び気孔が点在し、凹凸がある 底面は碗状である	覆土下層	

第40号住居跡(第107～109図)

位置 調査区東部のE14i8区、標高14mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

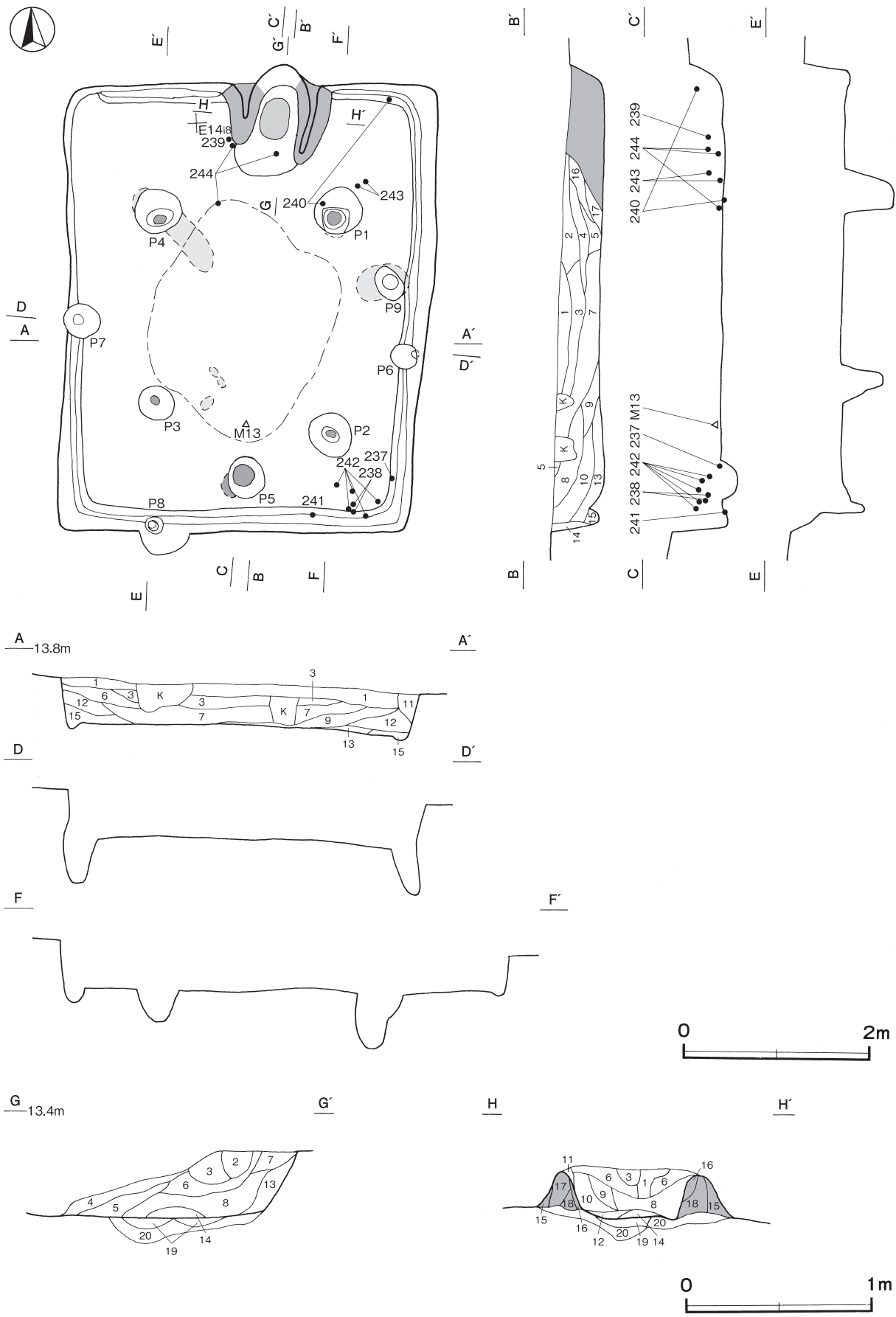
規模と形状 長軸4.88m、短軸4.00mの長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は38～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。西壁の北部を除いて壁下には壁溝が巡っている。北西部の床面上に焼土塊を確認した。

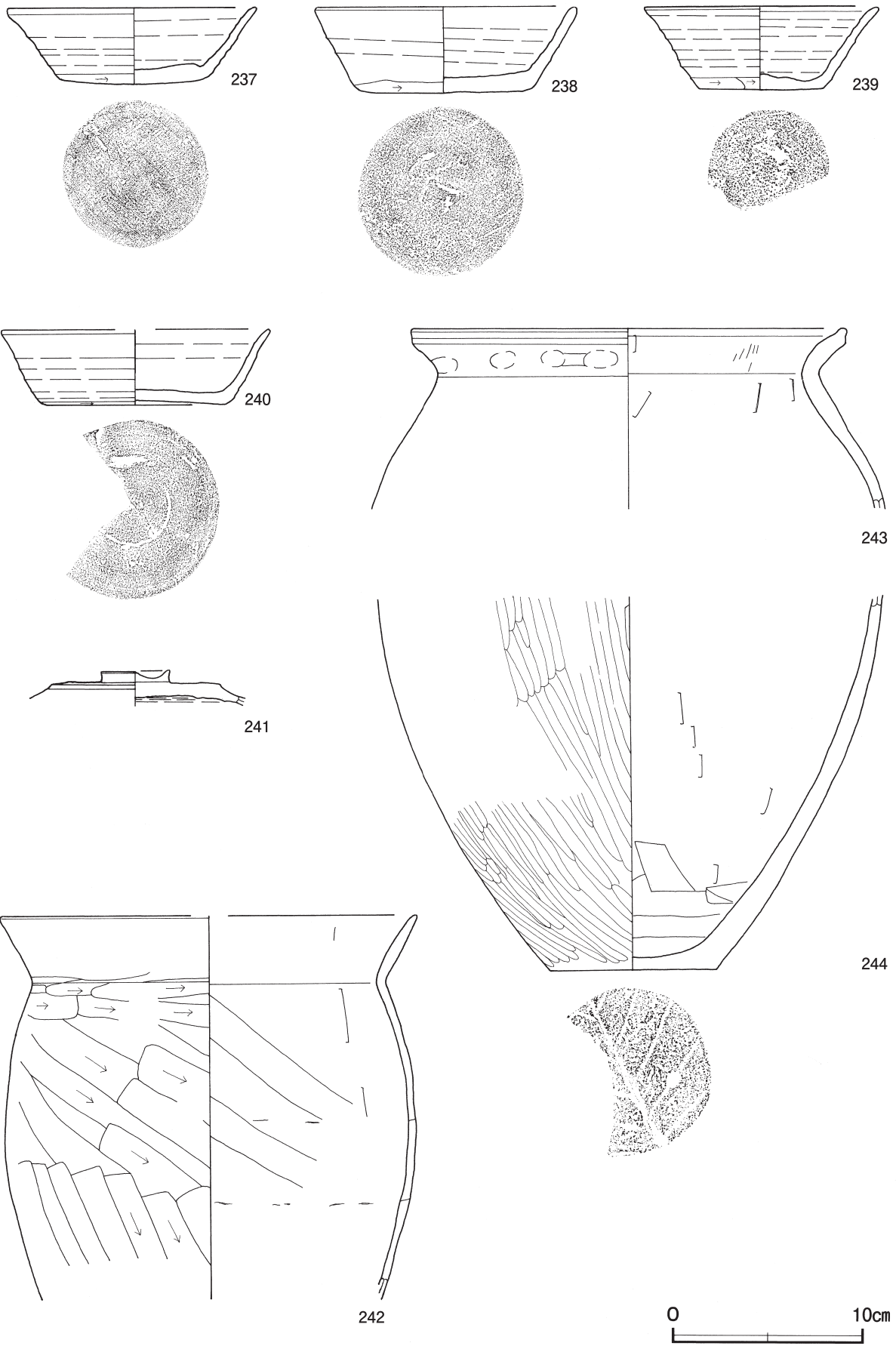
竈 北壁の中央部からやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで125cmで、燃焼部幅は45cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第15～18層を積み上げて構築されている。火床部は床面を14cm掘りくぼめ、第19・20層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ18cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

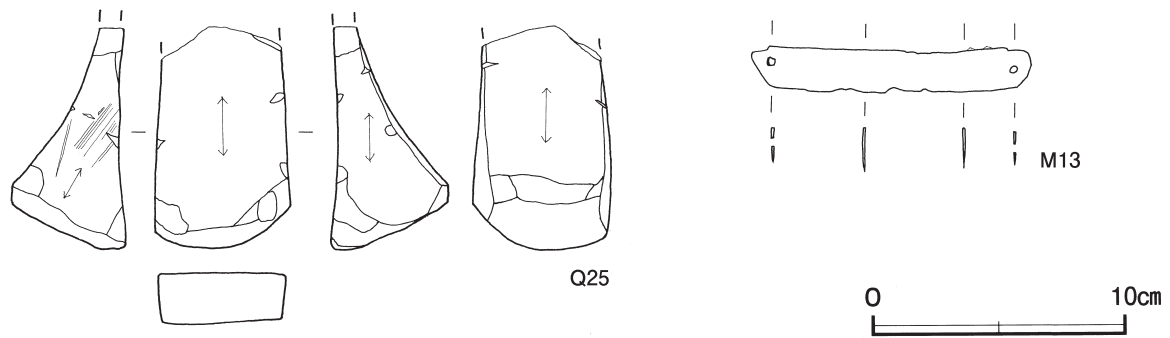
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量
3 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子微量
4 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量	13 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14 灰白色	焼土ブロック少量、灰微量
6 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子・炭化物微量	15 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	16 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
9 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
		19 暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
		20 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量



第 107 图 第 40 号住居迹实测图



第 108 図 第 40 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 109 図 第 40 号住居跡出土遺物実測図 (2)

ピット 9か所。P1～P4は深さ38～61cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は深さ13～55cmで、性格は不明である。

覆土 17層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 662点 (坏 68, 小形甕 1, 甕類 593), 須恵器片 110点 (坏 83, 蓋 2, 盤 1, 甕類 23, 甕 1), 石器 1点 (砥石), 鉄製品 1点 (手鎌), 焼成粘土塊 5点, 鉄滓 69点 (1091g) が, 全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか, 流れ込んだ縄文土器片 7点 (深鉢), 剥片 2点, 石製品 1点 (白玉) も出土している。244 は竈の前の床面と竈の覆土中層から出土した3点の破片が接合したものである。241 は南部の壁溝の底面から出土している。237 は南東コーナー部の覆土下層から, 正位の状態 で出土している。M13 は南部, 243 は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。239 は竈の西側, 238・242 は南東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。240 は北東コーナー部の覆土中層とP1の覆土上層から出土した破片が接合したものである。Q25 は竈の掘方埋土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。床面上で確認した焼土塊は, 床面が赤変していないことから, 住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。

第 40 号住居跡出土遺物観察表 (第 108・109 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
237	須恵器	坏	12.9	4.1	7.8	長石・石英	黄灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土下層	100% PL36
238	須恵器	坏	13.4	4.6	8.8	長石・石英	にぶい黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方のヘラ削り	覆土中層	50% PL36
239	須恵器	坏	12.2	4.4	6.5	長石・石英	灰オリーブ	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す多方向のヘラ削り	覆土中層	60% PL37
240	須恵器	坏	[14.0]	4.0	9.5	長石・石英・細礫	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中層 P1覆土上層	50%
241	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	長石・石英	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け	壁溝底面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
242	土師器	甕	[21.8]	(20.2)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半横位のヘラ削り・下半縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ・工具痕	覆土中層	30%
243	土師器	甕	22.6	(9.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 頸部外面指頭圧痕 内面ヘラナデ・工具痕	覆土下層	20%
244	土師器	甕	-	(19.7)	8.8	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ・工具痕 底部木葉痕	床面 竈覆土中層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 25	砥石	(8.8)	5.5	4.2	(210)	凝灰岩	断面長方形 一部欠損 砥面4面 側面に糸線状の研痕	竈掘方埋土中	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 13	手鎌	11.1	1.8	0.1	8.4	鉄	両端に0.3cmの孔	覆土下層	PL46

第40号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径10cm以上)	大 (長径4cm以上10cm未満)	中 (長径1cm以上4cm未満)	小 (長径1cm未満)	合計
点数	-	2	41	21	69
重量(g)	-	240	773	78	1,091

第42号住居跡 (第110・111図)

位置 調査区東部のE 15i1区, 標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第41号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.80m, 短軸3.66mの方形で, 主軸方向はN-17°-Wである。壁高は35~45cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。西壁際の床面上に焼土塊を確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cmで, 燃烧部幅は49cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第9~12層を積み上げて構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめ, 第13層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ50cm掘り込まれ, 奥壁で段を有して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量	7	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	黒褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量	10	暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
5	灰褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量
			13	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量

ピット 8か所。P1~P4は深さ28~31cmで, 規模と配置から主柱穴である。P5は深さ35cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6~P8は深さ52~83cmで, 性格は不明である。

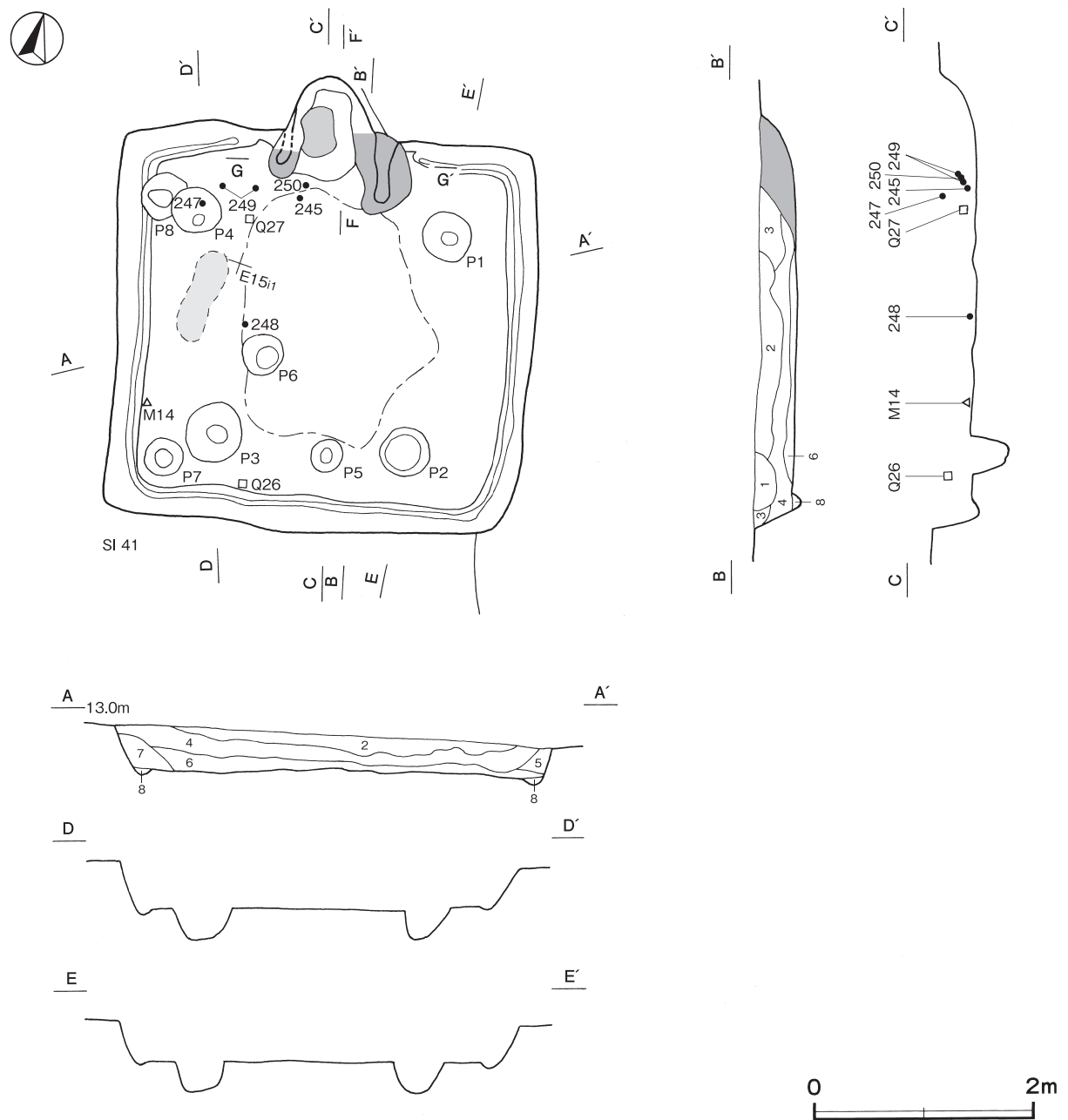
覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

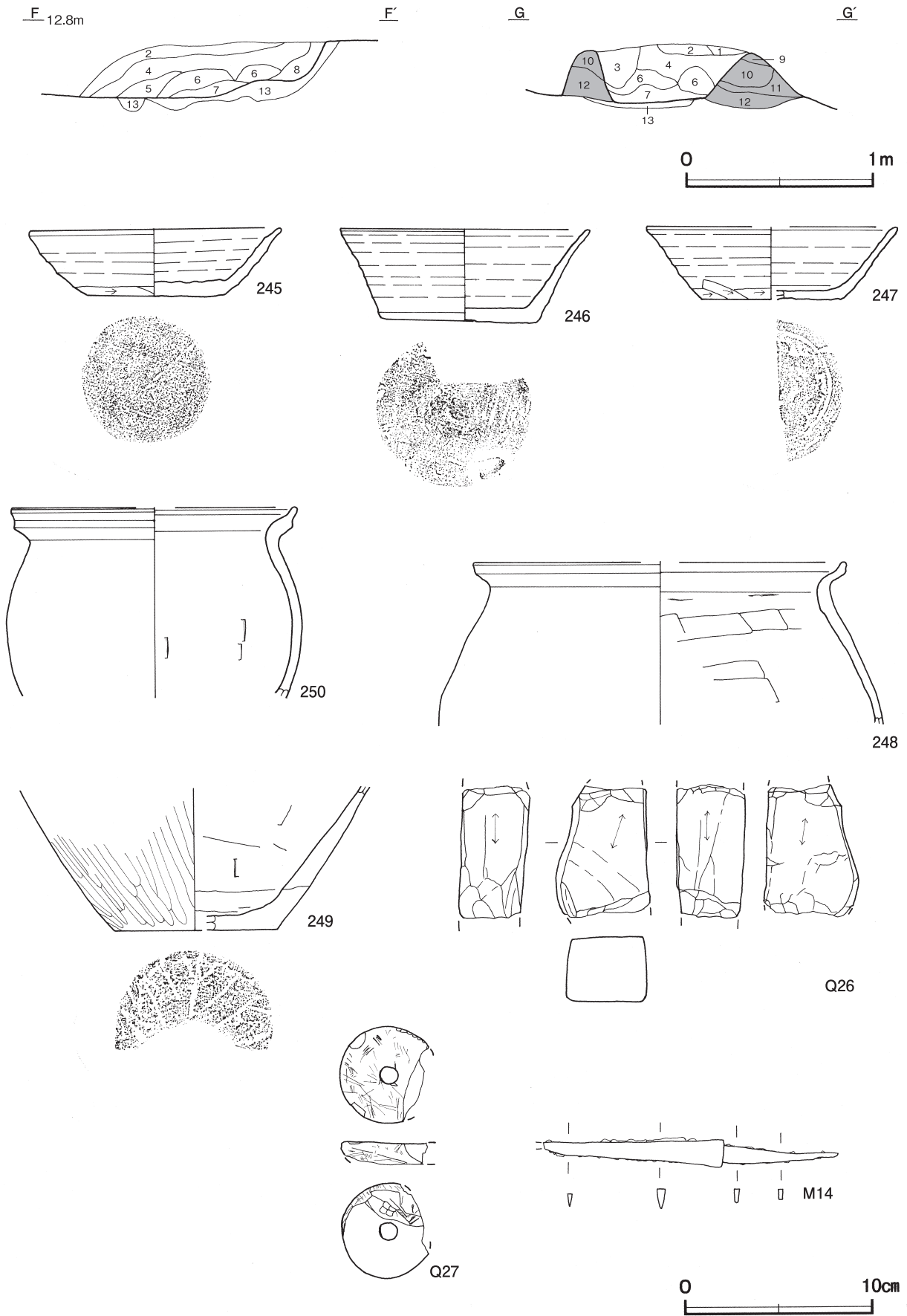
1	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化ブロック微量
3	極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 567 点 (坏 75, 椀 1, 高坏 4, 甕類 482, 小形甕 1, 甑 4), 須恵器片 133 点 (坏 105, 高台付坏 2, 蓋 6, 高盤 1, 鉢 9, 甗 5, 瓶 2, 甕類 3), 石器 2 点 (砥石 1, 紡錘車 1), 焼成粘土塊 28 点, 鉄滓 54 点 (573g) が, 全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか, 流れ込んだ縄文土器片 5 点 (深鉢), 石製品 1 点 (双孔円板) も出土している。245 は竈の前の覆土下層から, 正位の状態で出土している。250 は竈の前, 249・Q27 は竈の西側, 248 は中央部, M14 は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。247 は北西部, Q26 は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。246 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。床面上で確認した焼土塊は, 床面が赤変していないことから, 住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。



第 110 図 第 42 号住居跡実測図



第 111 图 第 42 号住居跡・出土遺物実測図

第 42 号住居跡出土遺物観察表 (第 111 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
245	須恵器	坏	13.4	3.7	7.2	長石・石英・ 細礫	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方のヘラ削り	覆土下層	90%
246	須恵器	坏	13.2	5.1	8.4	長石・石英・ 細礫	褐灰	普通	底部一方のヘラ削り	覆土中	50% 自然釉
247	須恵器	坏	[13.4]	3.9	[7.4]	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を 残す一方のヘラ削り	覆土中層	40%
248	土師器	甕	[19.8]	(8.7)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ・工具痕	覆土下層	10%
249	土師器	甕	-	(7.6)	8.6	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ・工具 痕 底部木葉痕	覆土下層	10%
250	土師器	小形甕	[15.2]	(10.2)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面工具痕	覆土下層	20%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 26	砥石	(7.1)	5.2	3.7	(176)	砂岩	断面長方形 一部欠損 砥面 4 面	覆土中層	

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 27	紡錘車	(5.2)	(1.2)	1.0	(35.2)	蛇紋岩	全面研磨 一部欠損 上・底面擦痕 一方からの穿孔	覆土下層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 14	刀子	(15.8)	1.5	0.4	(18.7)	鉄	切先欠損 刃部断面三角形・基部断面逆台形	覆土下層	PL45

第 44 号住居跡 (第 112・113 図)

位置 調査区東部の E 15i2 区, 標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.86 m, 短軸 3.50 m の長方形で, 主軸方向は N - 8° - W である。壁高は 20 ~ 42cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 全体を均一に掘り込み, 第 11 層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 80cm で, 燃烧部幅は 51cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 8 ~ 11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 15cm 掘りくぼめ, 焼土粒子を含んだ第 12・13 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ 30cm 掘り込まれ, 奥壁はほぼ直立している。

竈土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック少量	8 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量
2 暗 褐 色	ロームブロック中量	9 暗 褐 色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量
3 極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	10 褐 色	ローム粒子多量, 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量
4 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	11 黒 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
5 暗 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	12 灰 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
6 暗 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	13 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質 粘土粒子微量
7 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

ピット 2 か所。P 1 は深さ 16cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2 は掘方調査で確認したものであり, 深さ 18cm で, 性格は不明である。

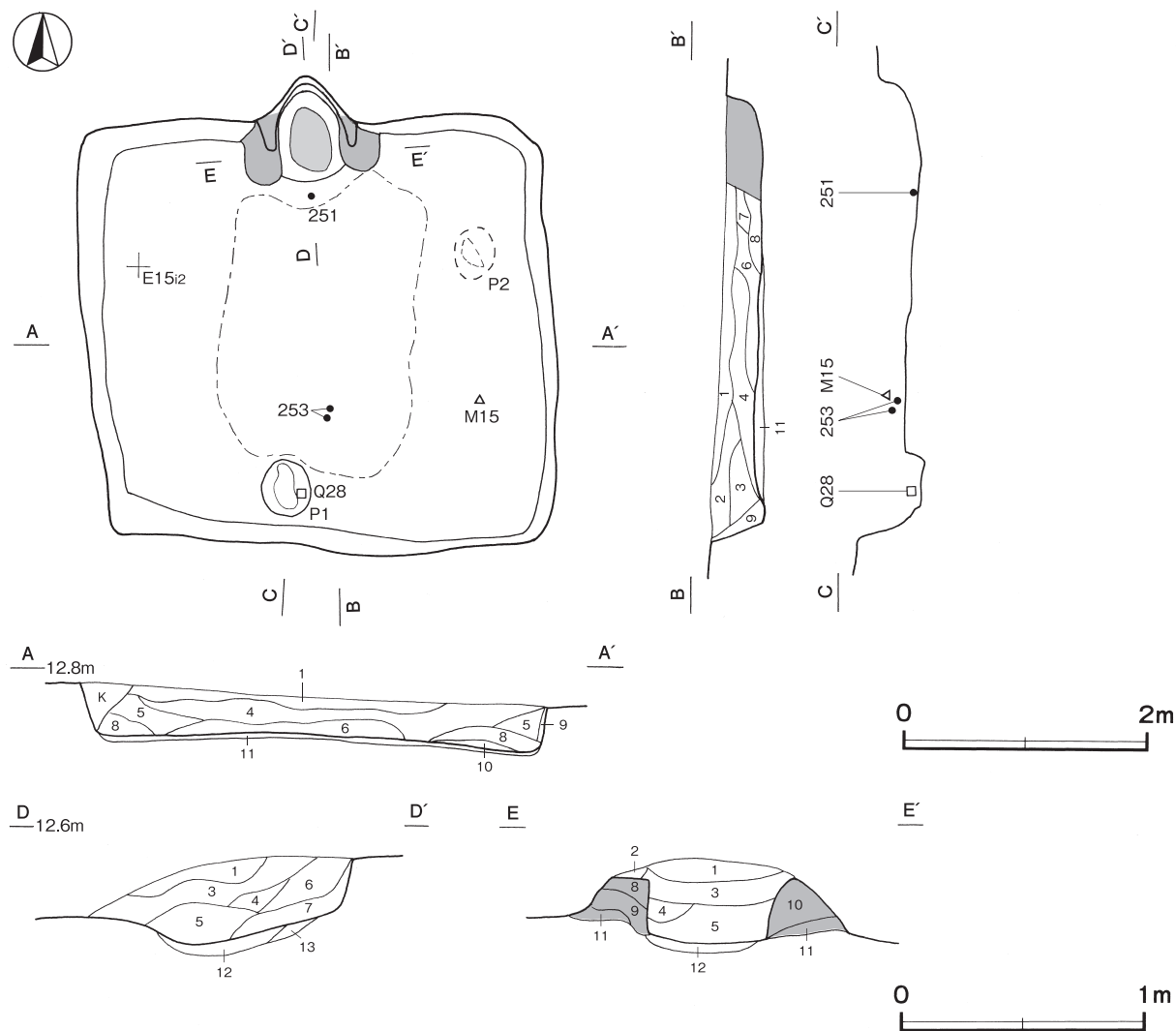
覆土 10 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 11 層は貼床の構築土である。

土層解説

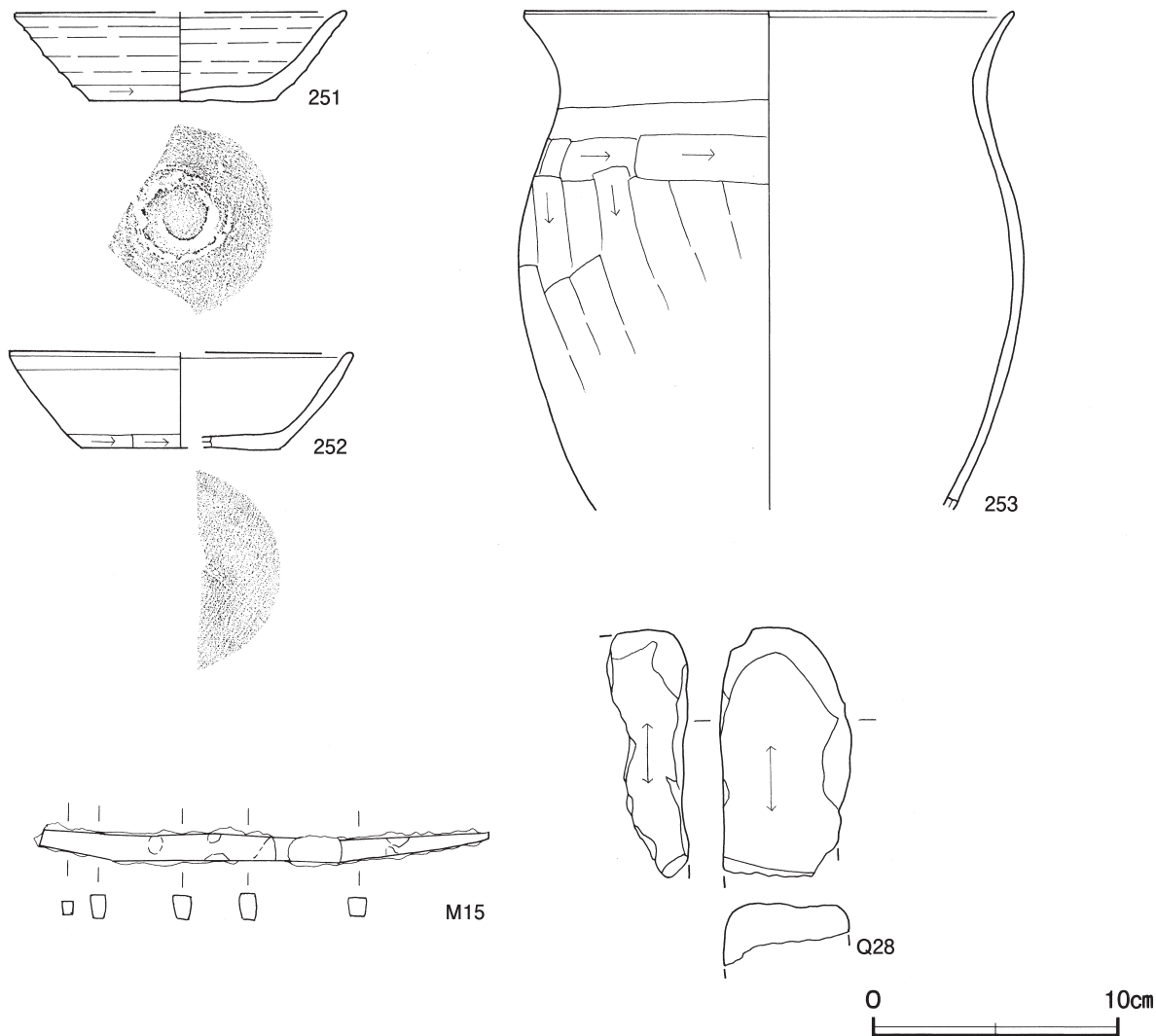
- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 150 点 (坏 25, 甕類 125), 須恵器片 16 点 (坏 9, 蓋 1, 壺 1, 甕類 5), 石器 1 点 (砥石), 鉄製品 1 点 (刀子), 焼成粘土塊 1 点, 鉄滓 6 点 (70.2g) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 1 点 (深鉢), 石器 1 点 (敲石), 陶器片 1 点 (碗) も出土している。251 は竈の前, 253 は南部の床面からそれぞれ出土している。Q 28 は P 1 の覆土上層から出土している。M 15 は東部の覆土中層から出土している。252 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 112 図 第 44 号住居跡実測図



第 113 図 第 44 号住居跡出土遺物実測図

第 44 号住居跡出土遺物観察表 (第 113 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
251	須恵器	坏	[13.4]	3.7	7.3	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	床面	30%
252	須恵器	坏	[13.8]	3.9	[8.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	30%
253	土師器	甕	19.8	(20.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部上位横位のヘラ削り 中位斜位のヘラ削り	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 28	砥石	(10.2)	5.3	(3.2)	(149)	凝灰岩	一部欠損 砥面 2 面	P 1 覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 15	鑿カ	18.5	1.8	0.7	53.8	鉄	断面長方形 茎部・先端部中心線よりやや屈曲	覆土中層	

第 45 号住居跡 (第 114・115 図)

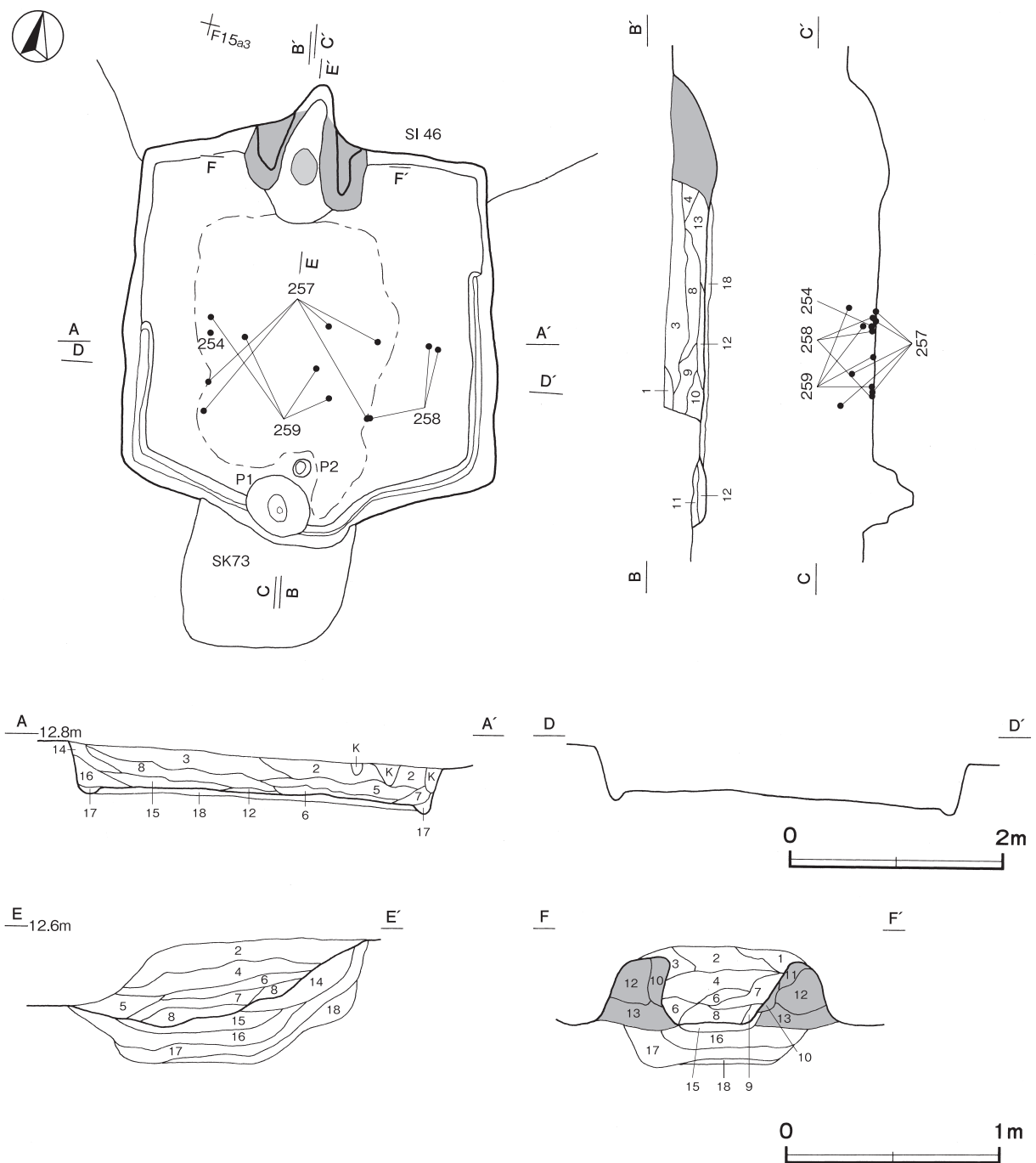
位置 調査区中央部の F 15a3 区, 標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 46 号住居跡を掘り込み, 第 73 号土坑に掘り込まれている。

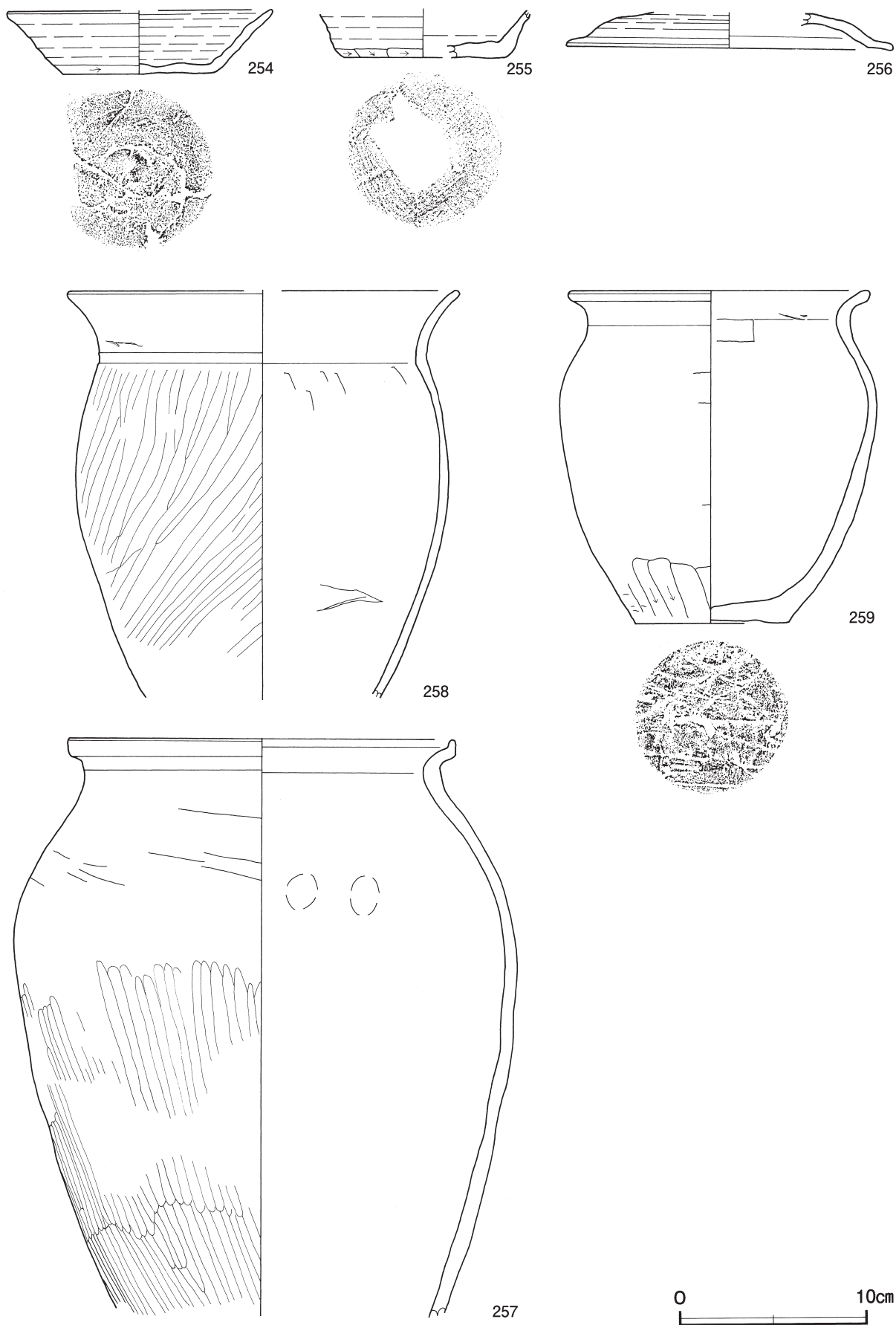
規模と形状 長軸 3.78 m, 短軸 3.48 m で, 南壁中央部が外側へ約 70cmほど突出した五角形を呈しており, 主軸方向は $N-8^{\circ}-W$ である。壁高は 35~45cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。南半部の壁下には壁溝が巡っている。貼床は, 東部を皿状に掘りくぼめ, 主にローム粒子を含んだ第 18 層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130cm で, 燃焼部幅は 38cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 10~13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 20cm 掘りくぼめ, 第 14~18 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ 50cm 掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。



第 114 図 第 45 号住居跡実測図



第 115 图 第 45 号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子微量	11	灰白色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック微量	12	灰白色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量	13	暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量	14	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子微量
6	赤褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	16	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量
8	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化物少量	18	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化物・ローム粒子微量
9	極暗赤色	焼土ブロック・炭化粒子微量			
10	暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量			

ピット 2か所。P1・P2は深さ36cm・12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 17層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第18層は貼床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	黒褐色	炭化物少量, 焼土ブロック微量
4	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
6	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16	極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	18	褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 258点 (坏 33, 甕類 224, 小形甕 1), 須恵器片 23点 (坏 18, 蓋 2, 鉢 1, 甕類 2), 焼成粘土塊 7点が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 7点 (深鉢), 陶器片 1点 (碗), 磁器片 2点 (碗) 軽石 1点も出土している。254は西部の床面から, 255は東部の覆土下層から, 正位の状態でそれぞれ出土している。258は東部の床面から出土している。257・259は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。256は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉に比定できる。

第45号住居跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
254	須恵器	坏	[14.2]	3.4	8.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	床面	60%
255	須恵器	坏	-	(2.6)	8.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土下層	70%
256	須恵器	蓋	[17.2]	(1.9)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
257	土師器	甕	20.5	(30.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上位ヘラナデ・中位以下縦位のヘラ磨き 内面指頭圧痕	覆土中層	70%
258	土師器	甕	[20.8]	(21.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後, 斜位のヘラナデ 内面工具痕	床面	40%
259	土師器	小形甕	15.8	17.8	8.2	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下端縦位のヘラ削り	覆土中層	80%

第47号住居跡 (第116～120図)

位置 調査区東部のF 14a8区, 標高14mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第48号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.86m, 短軸3.75mの方形で, 主軸方向はN-8°-Wである。壁高は45～60cmで, 外傾

して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は33cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第13～23層を積み上げて構築されている。火床部は、床面を4cm掘りくぼめ、ローム粒子を含む第24層を埋土して構築されている。火床面に赤変硬化している状況は確認できなかった。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	砂質粘土粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量	14	褐灰色	砂質粘土粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	15	灰褐色	砂質粘土粒子多量
5	褐灰色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	16	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子ブロック微量
6	褐灰色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量	17	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	褐色	ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	19	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
9	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	20	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量
10	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	21	褐灰色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量
11	暗赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	22	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
			23	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
			24	褐色	ローム粒子中量

ピット 深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 17層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。混鉄滓土層は3層に分層できる。第1・2層には製鉄滓が混在している。

土層解説

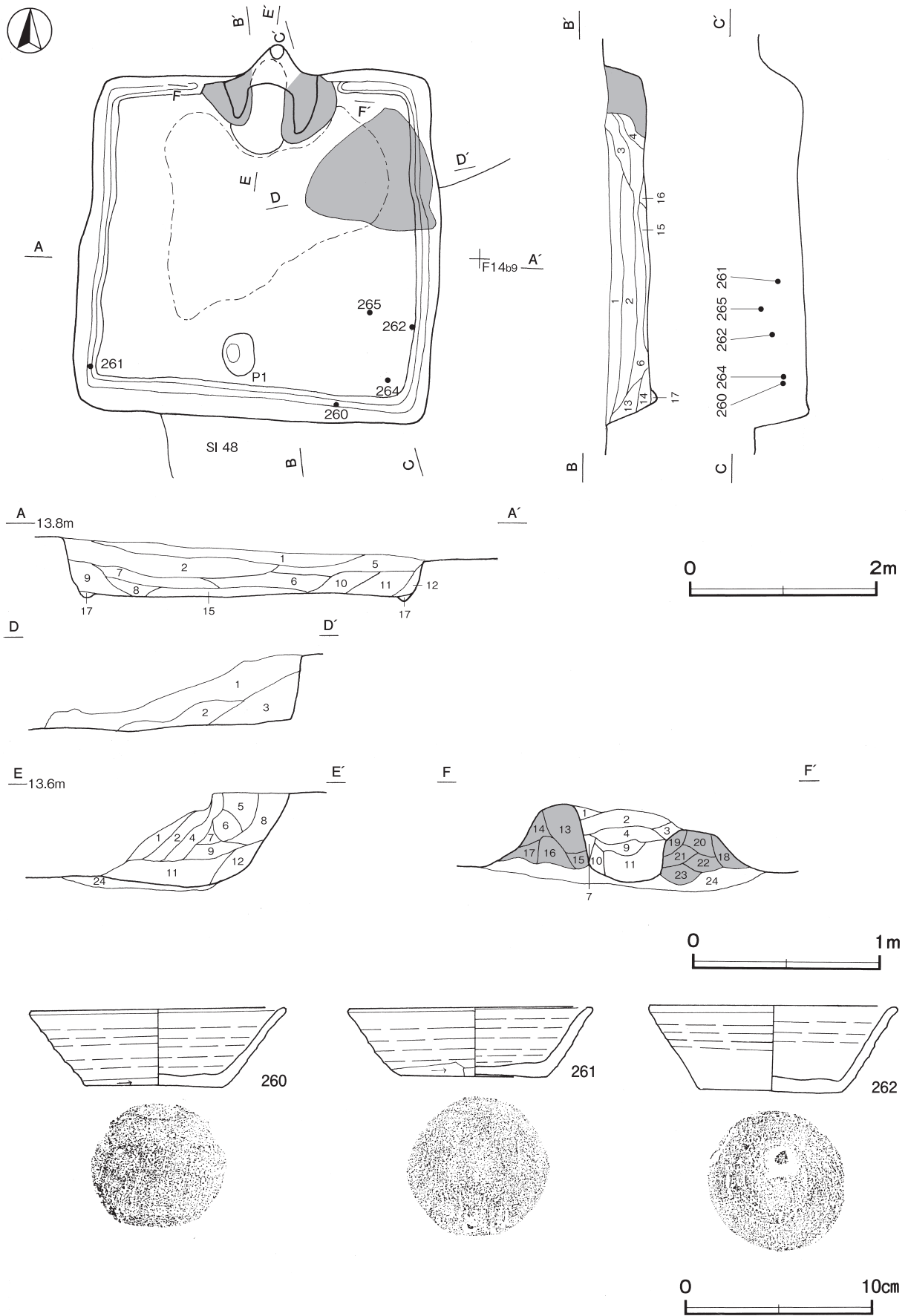
1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	13	暗褐色	ロームブロック微量
6	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子多量
8	暗褐色	ローム粒子微量	16	褐色	ローム粒子微量
			17	暗褐色	ローム粒子少量

混鉄滓土層解説

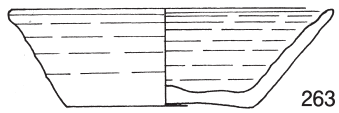
1	暗褐色	鉄滓多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2	極暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鉄滓少量			

遺物出土状況 土師器片431点(坏47, 甕類384), 須恵器片96点(坏79, 甕類17), 炉壁2点, 鉄製品1点(釘), 焼成粘土塊13点, 鉄滓5,574点(92,760g)が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した縄文土器片1点(深鉢), 陶器片1点(碗), 瓦片1点も出土している。TP12は北東コーナー部の覆土下層から出土している。260・262・264・265は南東部, 261は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。263・M16は覆土中からそれぞれ出土している。また, DP60・DP61・M17～132は東壁際北部の覆土上層から竈の前の覆土下層にかけて、投棄された状態で出土している。

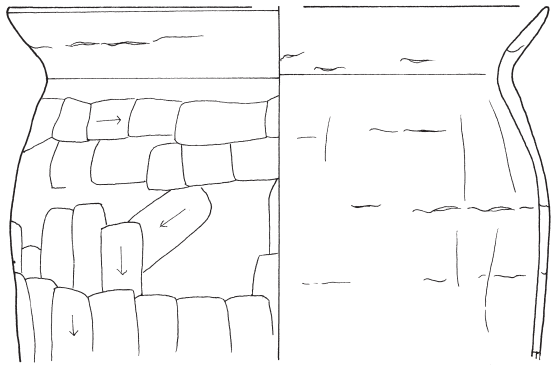
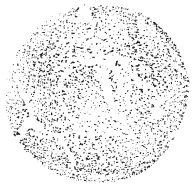
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。また、出土した多量の鉄滓は製鉄滓が主体であり、中割り・小割り段階の炉壁、炉底塊、炉内滓、炉内滓含鉄、鉄塊系遺物に分類できる。このことから、当住居の住人は製鉄工と密接な関わりを持つものと考えられる。



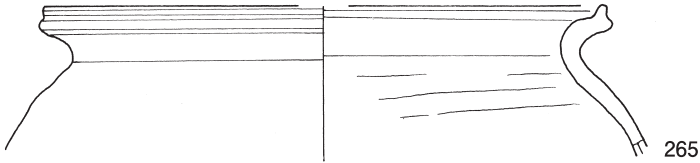
第 116 図 第 47 号住居跡・出土遺物実測図



263



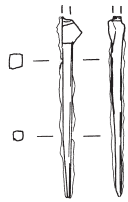
264



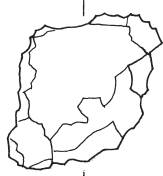
265



TP12



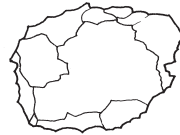
M16



DP60



DP61



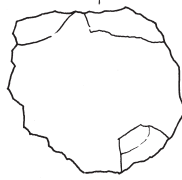
M17



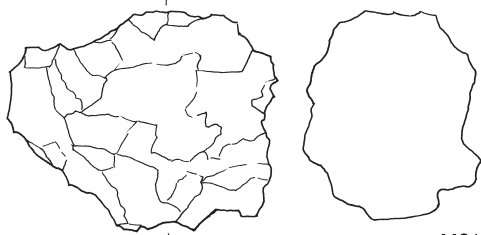
M18



M19



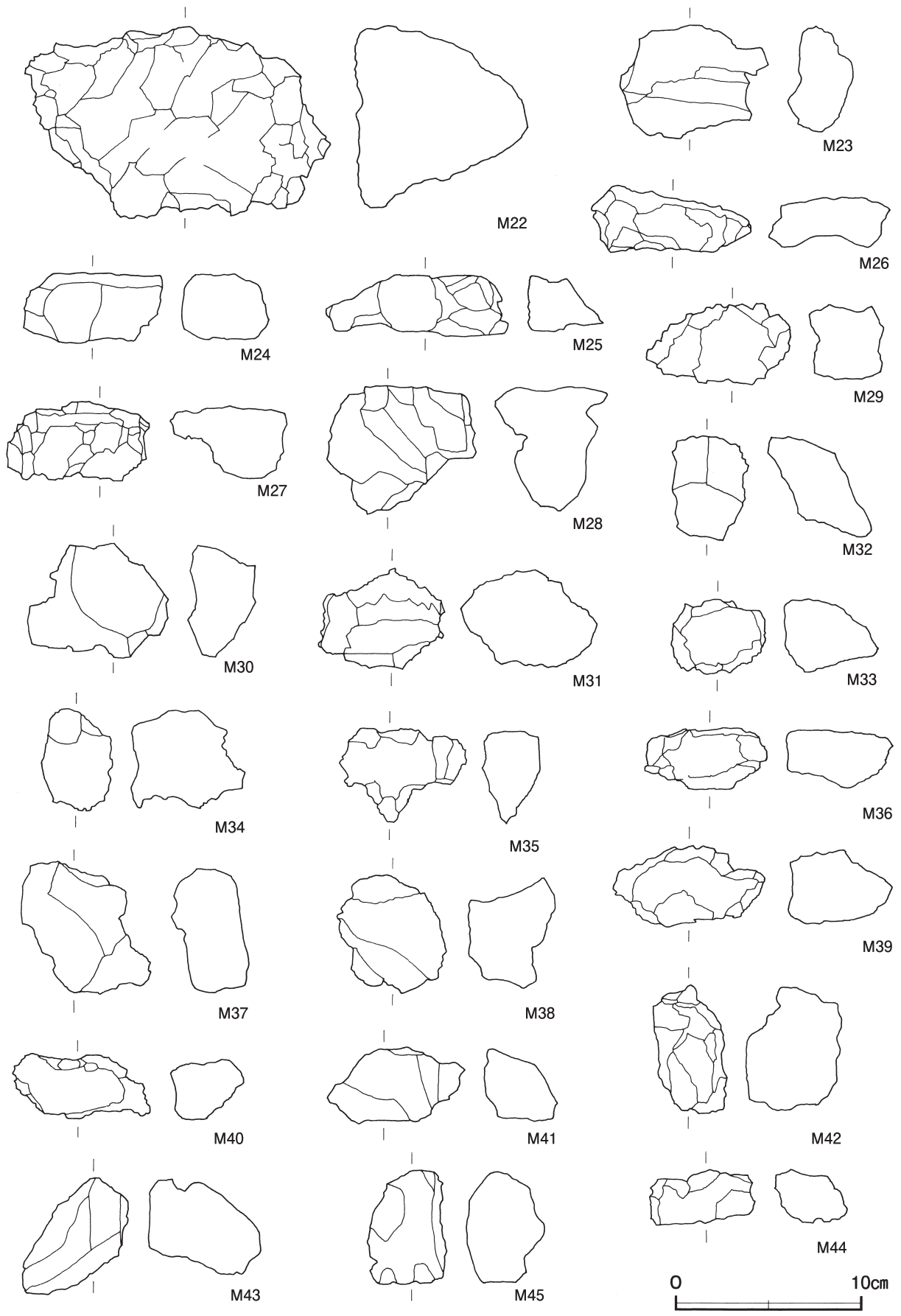
M20



M21



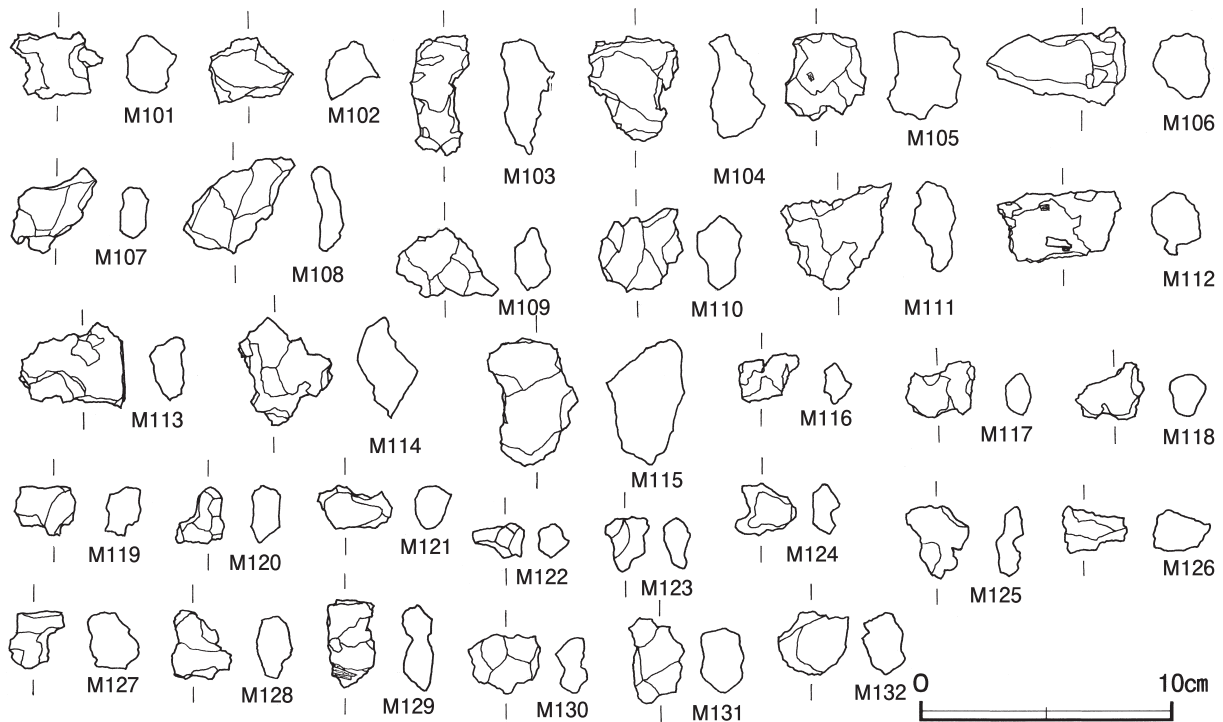
第 117 图 第 47 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 118 图 第 47 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第 119 图 第 47 号住居跡出土遺物実測図 (3)



第 120 図 第 47 号住居跡出土遺物実測図 (4)

第 47 号住居跡出土遺物観察表 (第 116 ~ 120 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
260	須恵器	坏	13.6	4.1	7.3	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土中層	95% PL37
261	須恵器	坏	12.9	3.8	7.8	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	70% PL37
262	須恵器	坏	13.2	4.7	7.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	70%
263	須恵器	坏	12.7	3.9	7.3	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土中	60%
264	土師器	甕	[21.4]	(14.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上位横位のヘラ削り 体部外面中位縦位のヘラ削り	覆土中層	20%
265	土師器	甕	[22.3]	(6.1)	-	長石・石英・雲母	黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰黄	体部斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 16	釘	(7.2)	1.0	0.5	(4.8)	鉄	断面方形 頭部欠損	覆土中	PL46

第 47 号住居跡出土製鉄関連遺物集計表

メタル度	なし	錆化 (△)	H (○)	M (◎)	L (●)	特L (☆)	メタル度	なし	錆化 (△)	H (○)	M (◎)	L (●)	特L (☆)
点数・重量	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数・重量	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)	点数 重量 (g)
炉壁 (精錬炉)	1 113.5						炉内滓 (含鉄, 大)		3 654	6 981	41 22741	46 30424	6 10110
炉壁 (滓付き, 含鉄)	48 731.3						炉内滓 (含鉄, 中)	3 298.0	3 990	870 41649	6 4531	42 11922	8 405.8
炉底塊 (含鉄)		2 379.0		1 301.2	2 1184.0	1 1475.1	炉内滓 (含鉄, 小)		256 3386.6		201 1335.4	285 2683.3	
炉内滓 (大)		833 36730.4					鉄塊系遺物 (含鉄, 大)				1 14		
炉内滓 (中)		1354 15610.4					鉄塊系遺物 (含鉄, 中)			32 199.6	17 305.0	65 987.2	9 311.6
炉内滓 (小)		1124 6567.8					鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	3 28.0	3 28.7	2 11.9	9 117.0		
炉内滓 (含鉄, 砂鉄塊付き)	285 4530.0	2 365.0		4 788.5									

第 47 号住居跡出土製鉄関連遺物観察表 (第 121・122 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	磁紋	メタル度	特徴	出土位置	備考
DP60	炉壁 (製鉄炉)	6.1	6.3	4.9	113.5	2	なし	右側部と外面が破面。内面と左側部はややガラス質に溶化して、短い垂れと 3cm 大前後の木炭痕が残されている。胎土はスサ入りで練りは甘い。	覆土中	PL47
DP61	炉壁 (滓付き, 含鉄)	4.8	5.4	4.6	71.3	2	なし	内面がガラス質溶化して、表面に不定形塊状の突出部が残る。側部 2 面と外面が破面となる。下面は粘土単位の接合部。胎土はスサ入りで横方向主体。	覆土中	PL47
M17	炉底塊 (含鉄)	5.1	7.0	4.8	182.0	2	錆化 (△)	下手側の側部に炉壁が薄皮状に残る。残る側部全体はいずれも破面。滓質には粗密があり。下手側の側部右側を中心に黒錆が吹く。含鉄部も黒錆部主体。炉壁側の平面形は緩やかな弧状。炉底塊の内でも上皮寄り肩部破片か。	覆土中	PL47
M18	炉底塊 (含鉄)	4.2	5.5	7.1	197.0	2	錆化 (△)	上手側の側部全体に炉壁土が薄く固着する。残る側部 4 面は中小の気孔が露出した破面となる。下面は砂鉄焼結部由来のためかイガイガしている。含鉄部は分散しており、集中部は認められない。下手側の側部の破面の結晶が発達する。炉壁側の平面形は緩やかな弧状。	覆土中	PL47
M19	炉底塊 (含鉄)	5.2	11.1	7.4	301.2	5	M (◎)	下手側の側部に炉壁土が薄く固着する。左右方向に長手の破片で、側部 3 面が破面となる。下面は半分以上が生きており、炉壁または炉床土に接している。含鉄部は下手側の左右 2 か所が中心。炉底塊を縦方向に割っていることがわかる。箱形炉の可能性もあり。	覆土中	PL47
M20	炉底塊 (含鉄)	6.7	7.0	5.9	324.2	4	L (●)	側部 5 面が破面。左側部全体が生きている。炉壁土は確認できないが、炉壁に接していた可能性大。上半分を中心に含鉄部が広く、黒錆も滲む。炉底塊の左側部下半が原位置か。	覆土中	PL47
M21	炉底塊 (含鉄)	8.8	10.7	8.0	859.8	6	L (●)	右手側の側部が生きている厚さ 7cm を超える。残る上下面や側部は連続的な破面となっている。滓質は下半ほど緻密で、破面は部分的に青光りしている。磁着部分は表面の半分以上を占め、含鉄部が広範囲であることを示す。炉底塊の中でも鉄部の生成から進んでいる右下寄り中核部破片か。859.8g という重量を持ち、炉底塊の荒削りから中削り相当の可能性を持つ。滓と含鉄部が混在することから、構成 No. 79 以下のような鉄塊系遺物を割り分ける素材となった可能性あり。	覆土中	PL47
M22	炉底塊 (含鉄)	10.4	16.7	9.2	1475.1	3	特 L (☆)	上面が平坦で、下手側の側部 2 面が明瞭な破面。平面形は上手側がきれいな弧状で生きている可能性を持ち、炉底塊側部の荒削り片かもしれない。表面には酸化土砂が厚く固着し、突出した下面中央を中心に結晶の発達した炉内滓の小破片が多数に固着する。通常は自然に割れない最も緻密な滓のため、炉底塊の荒削りから鉄塊系遺物の分離の過程で生成されたものであろう。表面には含鉄部がなく、比較的芯部に残る可能性を持つ。現状の厚みは 9cm 前後で、炉底塊自体はさらに厚いのとみられる。	覆土中	PL47
M23	炉内滓 (含鉄, 砂鉄焼結付き)	6.0	8.0	2.9	163.0	3	錆化 (△)	下面全体に焼結した砂鉄が広がっている。左右の側部が破面で、上面や下手側の側部には 6cm 大を超える木炭痕が残されている。下面は舟底状で、炉底塊の中でも底部寄りの破片か。含鉄部は芯部に広い。	覆土中	PL47
M24	炉内滓 (含鉄, 砂鉄焼結付き)	3.8	7.5	5.3	202.0	3	錆化 (△)	側部 4 面と上面の半分以上が破面。前者と同様、下面の上手側には砂鉄が広く焼結する。含鉄部は上面の中央部寄り。	覆土中	PL47
M25	炉内滓 (含鉄, 砂鉄焼結付き)	3.3	9.9	5.3	144.5	7	M (◎)	側部 2 面が破面。上面は平坦気味で生きており、下面全体に砂鉄焼結部が残る。含鉄部は芯部から下半主体。	覆土中	PL47
M26	炉内滓 (含鉄, 砂鉄焼結付き)	3.6	8.6	6.5	172.0	2	M (◎)	上手側の側部が炉壁に接している。残る側部全体が破面となる。平面形は緩やかな弧状。炉壁土は砂質でスサ入り。含鉄部は左寄りの芯部に来る。	覆土中	PL47
M27	炉内滓 (含鉄, 砂鉄焼結付き)	4.2	7.7	6.2	177.0	3	M (◎)	下手側の側面にスサ入りの炉壁土が面を成して残る。基本的には前者と同様で、炉壁沿いの含鉄の滓部となる。全体に黒錆が滲み、上面中央付近には 2cm 大以下の木炭痕が顔を出している。含鉄部は滓部の芯部にやや広い。	覆土中	PL47
M28	炉内滓 (含鉄, 砂鉄焼結付き)	6.9	8.1	6.9	295.0	3	M (◎)	上手側の側部が炉壁土となっている。残る側部 4 面と上面の左 3 分の 1 が破面になっており、木炭痕がやや大きいのが特色で、青光りする滓と含鉄部の混在が確認される。含鉄部の主体は上面上手側の盛り上がり部分。砂質の炉壁土にはスサが目立つ。	覆土中	PL47
M29	炉内滓 (含鉄, 大)	4.3	7.8	4.9	182.0	3	錆化 (△)	下手側の側部 2 面と下面が破面。上面と下手側の側部は生きており、上手側の側部には黒錆が広く滲んでいる。青光りする滓部と木炭痕の両者が認められる。含鉄部は中間層の芯部にやや広い。	覆土中	PL47
M30	炉内滓 (含鉄, 大)	6.1	7.5	4.4	207.0	3	錆化 (△)	上面が窪み、黒錆が広がっている。側部は全周が破面で、下面も破面の可能性大。下手側の側部下半には青光りした結晶の発達した滓部が露出する。含鉄部は上半部主体。	覆土中	PL47
M31	炉内滓 (含鉄, 大)	5.3	6.7	7.3	265.0	3	錆化 (△)	下手側の側部を除く側部 3 面が破面。上面と下手側寄りの肩部が生きている。破面には結晶の発達した滓部と黒錆に加えて、木炭痕も顔を出している。炉底塊の上面に砂鉄の資料か。含鉄部は複数箇所に分散している。	覆土中	
M32	炉内滓 (含鉄, 大)	5.6	4.2	4.4	130.0	3	H (○)	上手側の側部が炉壁に接している。上面の半分以上が生きており、右側の肩部が打痕状に窪む。全体に黒錆が滲み、不定形な気孔が表面に露出する。含鉄部は芯部に広め。	覆土中	PL47
M33	炉内滓 (含鉄, 大)	4.1	5.1	5.1	133.0	5	H (○)	側部 4 面が破面で、黒錆が目立つ。下面の一部が生きており、上面は破面の可能性大。上手側の側部上半を除き含鉄部主体で、磁着も強い。	覆土中	PL47
M34	炉内滓 (含鉄, 大)	5.5	3.9	6.8	138.0	3	H (○)	上手側を除く側部 3 面が破面。側部に残る破面は上下方向主体で、炉底塊を割り分ける方法が向える。上面は緩やかな波状。含鉄部の主体は上手側の中核部で、周辺には木炭痕も目立つ。	覆土中	
M35	炉内滓 (含鉄, 大)	5.3	6.8	4.2	146.0	3	H (○)	上面と左側部が生きている。上面の表皮の一部は平流動状。側部の破面には凹凸が目立ち、含鉄部と滓部が交互に存在している。また一部に放射割れが確認される。含鉄部は上面寄りの芯部にやや広い。	覆土中	
M36	炉内滓 (含鉄, 大)	3.4	6.4	5.8	168.0	2	H (○)	上手側の側部が炉壁土の剥離面で、厚さ 3cm 程。構成 No. 12 ~ 14 と類似する生成位置と見られ、炉壁表面に沿って形成された含鉄の滓層である。下面には木炭痕あり。含鉄部は下手寄りの表層主体。	覆土中	
M37	炉内滓 (含鉄, 大)	7.2	7.0	4.5	266.0	2	H (○)	上面と下面の一部が生きている。側部は基本的に破面で、木炭痕や黒錆の滲みが共存する。下手側の側部右側には、炉壁側溶解物が顔を出している。含鉄部は下面下手寄り主体。	覆土中	
M38	炉内滓 (含鉄, 大)	6.3	6.0	5.1	184.3	4	M (◎)	上手側の側部下半が炉壁表面に接している。残る側面はすべてが直線状の破面になっており、破面は黒錆と気孔が露出する。上面は平坦で、右上手側には塊状の炉壁溶解物が乗っている。含鉄部は芯部寄りにやや広め。	覆土中	PL47
M39	炉内滓 (含鉄, 大)	4.4	8.3	5.9	206.5	5	M (◎)	下手側の側部左側が炉壁土に接している。残る側部 2 面と上面が破面となる。下手側の側部の一部は青光りして、細い垂れが生じている。縦方向に割り分けられた含鉄部で、芯部には鉄部が広がっている。	覆土中	PL47
M40	炉内滓 (含鉄, 大)	3.6	7.4	4.2	108.4	4	L (●)	上面が生きている以外は外周部が破面。黒錆の滲みが広範囲で、側部には 3cm 大を超える木炭痕が認められる。基本的には縦方向に割り取られた含鉄部。	覆土中	PL47
M41	炉内滓 (含鉄, 大)	4.1	7.4	4.4	165.6	3	L (●)	前者と同様、側部から下面が連続的な破面。破面には青光りした結晶の発達部と黒錆の吹いた含鉄部が共存する。割り方は上下方向の後に横方向となる。含鉄部は上半部の芯部に広い。	覆土中	
M42	炉内滓 (含鉄, 大)	6.9	4.0	5.1	167.3	4	L (●)	下面の一部が生きている。上面と側部 4 面が破面で、破面には 2 ~ 3cm 大の木炭痕が目立つ。右側部には広く黒錆が滲む。含鉄部は上手寄り 3 分の 2 程度。	覆土中	
M43	炉内滓 (含鉄, 大)	6.3	5.8	6.5	236.2	4	L (●)	下手側の側部下半が炉壁に接している。左右の側部や上面が破面となっている。下面の中央部のみが自然面で、粘土質の滓が認められる。含鉄部は芯部。上下逆の可能性もあり。	覆土中	
M44	炉内滓 (含鉄, 大)	2.9	5.6	3.9	93.7	4	特 L (☆)	上手側の側部が自然面とみられ、残る側部 3 面と上面が破面同様。下手側の側部には横方向に木炭痕が走る。含鉄部は広く、表面の大半が磁着反応を示す。わずかに滓部を残すが、全体的には鉄塊系遺物に近い。	覆土中	
M45	炉内滓 (含鉄, 大)	6.1	4.2	4.5	162.7	4	特 L (☆)	上手側から下手側の側部が生きている。表面全体が黒錆に覆われ、木炭痕も目立つ。全体に磁着傾向を持つが下面側がより強い。	覆土中	PL47
M46	炉内滓 (含鉄, 大)	4.2	7.2	7.7	231.0	4	特 L (☆)	上面のみが生きており、縦長である。平面形や破面の状態から、炉壁沿いの含鉄部とみられるが、直接は炉壁土に接していない。下手側の側部下半には炉壁土由来の粘土質の滓が確認される。含鉄部は表皮を除く芯部に広範囲。	覆土中	
M47	炉内滓 (含鉄, 大)	5.2	9.4	5.9	371.5	5	特 L (☆)	前者と同様、横方向に長手の縦割りがなされている。上面や短軸側の両肩部は生きている可能性大。側部の破面はシャープで、青光りする結晶の発達した滓部が露出する。右下手側の表面には放射状の割れが生じている。含鉄部は上半部と右下手側の下半部に分かれる。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	縦割度	メタル度	特徴	出土位置	備考
M48	炉内滓 (中, 炉壁付き)	3.1	6.3	5.8	85.0	3	なし	上手側の側部に炉壁土の痕跡を残す。上下方向に長い板状。破面には黒錆も生じているが磁着はせず。炉壁表面と炉底塊の外周部の接点部分か。	覆土中	PL48
M49	炉内滓 (中, 炉壁付き)	3.9	6.6	4.8	98.0	2	なし	下手側の側部はきれいな弧状で、炉壁土が薄皮状。前者と同様。炉壁表面と炉底塊の外周部に相当する滓部である。炉壁と接した側の平面形がやや強い弧状。残る側部3面と下面が破面になっている。炉底塊含鉄部の外周部で滓部主体か。	覆土中	PL48
M50	炉内滓 (中, 炉壁付き)	4.0	4.8	5.2	115.0	2	なし	上手側の側部下半に炉壁土が確認される。側部3面と上下面の少なくとも5面が破面となる。滓には粗密があり、炉壁沿いはやや炉壁溶解物的。	覆土中	PL48
M51	炉内滓 (含鉄, 中)	3.0	3.1	2.7	31.0	2	錆化 (△)	側部4面と上面が破面となっている。下面は碗形で炉壁土に接している可能性がある。上面左側には木炭痕が残る。含鉄部は芯部。	覆土中	PL48
M52	炉内滓 (含鉄, 中)	4.8	3.1	1.9	25.0	2	錆化 (△)	側部4面と下面が破面となる舟底状の形態を持つ。上面のみ生きており、上部が窪んでいる。含鉄部は横方向に広がるが、全体に甘い。	覆土中	PL48
M53	炉内滓 (含鉄, 中)	3.4	3.9	3.7	43.0	3	錆化 (△)	側部3面と上面が破面。下面は碗形で自然面か破片かは不明。側部には木炭痕が食い込み、鉄部の生成は弱い。	覆土中	
M54	炉内滓 (含鉄, 中)	3.1	3.5	2.4	29.0	2	H (○)	上手側の側部から下面が炉壁土に接したような外観を示す。側部3面が破面で、一部に木炭痕あり。含鉄部は芯部に小範囲。	覆土中	PL48
M55	炉内滓 (含鉄, 中)	3.3	3.8	2.6	35.0	2	H (○)	上下面が生きている。側部3面と上面の一部が破面となる。下面は碗形で、炉壁土の剥離面様。下面の中央部に含鉄が露出する。	覆土中	PL48
M56	炉内滓 (含鉄, 中)	2.5	3.5	3.6	39.0	2	H (○)	側部3面が破面。上面は平坦気味で滓主体となる。下半部の3cm大の塊状の部分が含鉄部とみられる。	覆土中	
M57	炉内滓 (含鉄, 中)	3.0	5.1	2.5	49.0	3	H (○)	上面のみ生きている。側部4面と下面が破面になっている。含鉄部は下半主体で成長は弱め。	覆土中	
M58	炉内滓 (含鉄, 中)	3.7	4.4	3.3	44.9	5	M (◎)	下手側の側部から下半が大きく窪む。上面と右上手側の側部が生きている。全体に黒錆が滲み磁着も同傾向を示す。破面には錆ぶくれが目立ち、錆化も進んでいる。	覆土中	PL48
M59	炉内滓 (含鉄, 中)	5.2	3.7	3.7	66.3	4	M (◎)	上面のみが生きている。側部3面と下面全体が破面となる。炉底付近の含鉄部で、含鉄部の主体は下半部とみられる。	覆土中	PL48
M60	炉内滓 (含鉄, 中)	3.6	4.0	4.4	70.7	5	M (◎)	側部4面と下面が破面。小さいながらも縦割りされた含鉄部で、鉄部の主体は下半部とみられる。破面にはやや木炭痕が目立つ。	覆土中	
M61	炉内滓 (含鉄, 中)	4.4	4.1	4.6	83.9	5	M (◎)	側部4面と上面の半分以上が破面。上面には不規則な気孔が目立ち、やや碗形となる。下面は炉壁土の剥離面様。上面も結晶が発達しているため、炉底塊下半部の含鉄部か。含鉄部は下面寄り。	覆土中	
M62	炉内滓 (含鉄, 中)	4.0	6.2	3.9	91.8	5	M (◎)	右上手側の側部が自然面。上手側の平面形が弧状になっている。残る側部3面と上面の一部が破面で、下面は生きている可能性を持つ。端部が一部突出して、中空部は木炭痕と推定される。比較的含鉄部が広く、また上面寄りの錆化が進む。	覆土中	
M63	炉内滓 (含鉄, 中)	4.8	5.2	3.7	95.5	4	M (◎)	上面の中央部に横方向の工具痕又は木炭痕が残る。少なくとも側部3面は破面で、黒錆の範囲が広い。含鉄部は下面側を除く上半部全体。	覆土中	
M64	炉内滓 (含鉄, 中)	5.3	3.1	1.8	28.3	4	L (●)	側部4面と下面が破面となる表面の凹凸が目立つ。表面全体が黒錆に覆われ、磁着傾向が全体的。小割りされた含鉄部か。	覆土中	PL48
M65	炉内滓 (含鉄, 中)	2.9	2.9	2.8	28.9	5	L (●)	側部3面が破面となる。上下に長い。上手側下半の滓の破面はマグネタイト気味の青光りした状態で、含鉄部は部分的。	覆土中	PL48
M66	炉内滓 (含鉄, 中)	2.8	3.4	4.8	43.1	5	L (●)	右側部が生きている。残る側部3面と下面は木炭痕による。黒錆が表面に滲み始めており、全体の8割方が磁着する。下面に突出する小塊状の部分は砂鉄焼結部由来とみられる。	覆土中	
M67	炉内滓 (含鉄, 中)	4.7	3.3	4.3	59.7	4	L (●)	側部3面が破面となって上下に長い。上面も破面の可能性大。下端部には黒錆の滲みがあり、錆ぶくれも生じている。含鉄部は上半3分の2か。	覆土中	
M68	炉内滓 (含鉄, 中)	4.5	3.6	4.3	64.5	4	L (●)	上面の中央部のみが生きている。側部4面と下面が破面になっており、2cm大以下の木炭痕がやや目立つ。黒錆が全体に滲み、一部に磁着の弱い部分あり。	覆土中	
M69	炉内滓 (含鉄, 中)	2.5	4.2	5.3	65.9	4	L (●)	下手側の側部が炉壁土の剥離面となり、上下に長い薄板状。左右の側部と下手寄り側部が破面となる。全体に磁着するが強弱あり。	覆土中	
M70	炉内滓 (含鉄, 中)	3.2	4.7	4.4	72.9	4	L (●)	側部4面と下面の半分以上が破面。上面の中央部がかろうじて生きている。滓部の密度は下半ほど高く、含鉄の主体も下半部とみられる。	覆土中	
M71	炉内滓 (含鉄, 中)	3.5	3.3	2.4	32.0	4	特L (☆)	上面のみ生きている。側部3面が破面で、下面は炉壁土に接している可能性大。上面の中央部には木炭痕が残り、下手側の肩部は打割時の打痕により平坦になっている。上面表皮以外はすべて含鉄部。	覆土中	PL48
M72	炉内滓 (含鉄, 中)	3.0	3.0	3.6	35.0	4	特L (☆)	側部4面と下面が破面と木炭痕に覆われている。上面側が滓部で、下半の大半は含鉄部となる。	覆土中	PL48
M73	炉内滓 (含鉄, 中)	3.0	3.4	4.0	43.5	4	特L (☆)	上面と右下手側の側部が生きている。上下方向に打ち割られた含鉄部で、全体の8割以上が鉄部とみられる。破面には黒錆の滲みや放射割れが認められる。	覆土中	
M74	炉内滓 (含鉄, 中)	3.8	3.0	2.8	46.3	3	特L (☆)	上面の右側から右側部が生きている。破面は結晶が部分的に発達して、芯部には含鉄部が広がっている。破面の外観はややイガイガしている。	覆土中	
M75	炉内滓 (含鉄, 中)	6.6	3.8	3.6	62.6	4	特L (☆)	側部から下面が凹凸の激しい破面に覆われている。上面は生きており、ややマグネタイト化した滓部が予想される。側部の凹凸は木炭痕によるものとみられる。やや密度が低い錆化の進んだ含鉄部か。	覆土中	
M76	炉内滓 (含鉄, 中)	4.4	4.0	2.2	50.5	4	特L (☆)	厚さ1.7cm程の板状。上面のみ生きており、側部全周と下面が破面となる。下手側の肥厚部が含鉄部で、放射状の割れを生じている。	覆土中	
M77	炉内滓 (含鉄, 中)	4.0	4.0	3.7	66.1	5	特L (☆)	側部4面が破面。上面の一部のみが生きている。下面も破面の可能性大。全体に黒錆が吹いているが、含鉄部は芯部主体。	覆土中	
M78	炉内滓 (含鉄, 中)	3.3	4.2	4.1	69.8	4	特L (☆)	狭い上面のみが生きており、縦方向に打ち割られている。側部の破面には放射割れが生じ、黒錆も滲み、滓部は一部のみか。	覆土中	
M79	炉内滓 (含鉄, 小)	2.5	3.0	2.4	18.9	7	M (◎)	下手側の側部が炉壁土に接している。側部3面が破面となる。炉壁土沿いの滓層には大きな放射割れが生じている。滓の性質が異なるためか。	覆土中	PL48
M80	炉内滓 (含鉄, 小)	3.3	4.2	1.8	29.4	7	M (◎)	上面右側のみが生きている小さな碗形。下面は全体が破面で、黒錆が広く滲む。上面左側の肩部には小破面あり。含鉄部は芯部。	覆土中	PL48
M81	炉内滓 (含鉄, 小)	3.8	2.6	2.2	26.6	6	M (◎)	側部4面と下面の大半が破面。1cm大の木炭痕が目立ち、全体的に黒錆が目立つ。含鉄部は左下半部寄りが主体。	覆土中	
M82	炉内滓 (含鉄, 小)	2.9	2.3	2.7	21.1	7	M (◎)	側部4面と下面が破面。上面には木炭痕が残り、下面には隙間が目立つ。含鉄部は下半寄りの芯部か。	覆土中	
M83	炉内滓 (含鉄, 小)	3.7	3.7	2.2	19.4	7	M (◎)	小塊状の含鉄部が上下2段に重層したような形。側部から下面は基本的に破面で、含鉄部は下半の塊状の部分とみられる。	覆土中	
M84	炉内滓 (含鉄, 小)	3.5	3.0	2.3	28.7	7	M (◎)	上面のみ生きており、側部3面と下面が破面。含鉄部は上半主体で、下面沿いは黒錆が生じているが、滓部とみられる。	覆土中	
M85	炉内滓 (含鉄, 小)	3.8	2.6	3.1	37.1	6	M (◎)	側部4面が破面となった小塊状。破面には中小の気孔が混在し、黒錆も転々と滲んでいる。含鉄部は芯部か。	覆土中	
M86	炉内滓 (含鉄, 小)	2.3	3.9	2.3	23.2	4	L (●)	側部4面が破面。イガイガした上面は生きており、下面は木炭痕による平坦気味の面となる。含鉄部はほぼ全体に広がる。	覆土中	PL48
M87	炉内滓 (含鉄, 小)	4.2	2.7	2.6	24.1	4	L (●)	上面の中央部から右側の肩部にかけてが流動状の滓部に覆われている。側部から下面は基本的に破面で、一部に木炭痕あり。含鉄部は下手側の芯部のみ。	覆土中	PL48
M88	炉内滓 (含鉄, 小)	2.6	4.4	1.9	25.5	4	L (●)	下面が剥離面様で生きている以外は、破面に覆われている。上面を中心に密度が低く、含鉄部は上手側の下半部が主体となる。やや砂鉄焼結塊に近い含鉄部か。	覆土中	
M89	炉内滓 (含鉄, 小)	3.6	2.6	2.1	24.7	4	L (●)	側部3面が破面。全体に密度が低めで剥離面様となることから、炉壁表面からの剥落品か。含鉄部は芯部主体。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	磁着度	メタル度	特徴	出土位置	備考
M90	炉内滓 (含鉄, 小)	2.3	3.2	4.3	31.9	4	L (●)	側部4面が破面となり、下面の下手側に滓部が突出している。上面下手側の窪みは木炭痕による。本資料も炉壁表面からの剥落品か。含鉄部は芯部。	覆土中	
M91	炉内滓 (含鉄, 小)	3.6	3.5	2.5	57.5	4	L (●)	上面と右側部のみが生きている。破面にはかすかな木炭痕と中小の気孔が露出する。厚板状の資料で、含鉄部は芯部に広め。	覆土中	
M92	炉内滓 (含鉄, 小)	4.6	3.6	2.6	50.3	4	L (●)	上面や肩部の一部に酸化土砂が固着し、厚さは2.4cm程。側部4面と下面が破面になっている。下面は炉壁土の剥離面様で、かすかに炉壁土が固着する。含鉄部は上半寄りの芯部主体。	覆土中	
M93	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	2.7	2.6	2.1	12.6	7	M (○)	側部3面と下面が破面。密度は低めとみられ、表面には凹凸が目立つ。	覆土中	PL48
M94	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.0	2.9	1.8	18.3	7	M (○)	黒錆が目立つ小塊状。左側部は生きており、両面から右寄りの側部は破面となる。密度は高めで、芯部に含鉄部が予想される。	覆土中	PL48
M95	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.4	2.7	2.1	20.8	7	M (○)	上面のみ生きている。側部や下面には木炭痕らしき出入りがある。ややまとまりに欠ける印象があるが、磁着は強め。	覆土中	
M96	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	2.8	4.1	3.2	29.1	8	M (○)	上手側の側部が炉壁土に接した痕跡を持つ。側部3面と下面が破面になっている。また黒錆の滲みや錆ぶくれの欠けも目立つ。密度としてはやや低めとみられる。	覆土中	
M97	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.2	4.4	4.0	46.1	5	M (○)	下面の中央部に長さ3cm大を超える木炭痕が残されている。上面は平坦気味で、表皮の7割方が剥落する。側部4面と下面の大半が破面と推定される。黒錆が吹き、磁着は強い。	覆土中	
M98	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	4.6	3.8	6.0	56.6	5	M (○)	下面左側が炉壁土に接した剥離面様。上面から左寄りの側部は生きている可能性大。右寄りの側部3面が主破面。黒錆が広範囲で、含鉄部の主体は右下手寄りか。	覆土中	
M99	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.7	4.2	3.9	62.0	3	M (○)	上面のごく小範囲が生きている。側部は左下手寄りが炉壁土に接している可能性を持ち、残る側部3面から下面が破面になっている。やや磁着が強く、右側部には木炭痕が残る。	覆土中	
M100	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.0	2.6	1.8	19.6	4	L (●)	上面が平坦気味な小塊状。側部3面が破面で、上手側の側部から下面の一部が丸みを持った剥離面様となる。ほぼ全体が含鉄部か。	覆土中	PL48
M101	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	2.7	3.7	2.2	25.4	4	L (●)	表面がイガイガしている。上面はやや平坦気味で、側部は出入りが激しい。但し、側部から下面は破面の可能性が高い。ほぼ全体が含鉄部と推定される。	覆土中	PL48
M102	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	2.6	3.3	2.5	26.9	5	L (●)	側部4面と下面が破面。上下面がやや平坦気味で、右下手側の肩部が丸みを持つ。含鉄部は芯部主体。	覆土中	
M103	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	4.8	2.5	2.0	27.8	4	L (●)	黒錆に覆われたやや扁平塊状。微細な凹凸を生じている上面のみが生きており、右側部3面が破面となる。左側部から下面は炉壁表面からの剥離面様。含鉄部が主体になっているが、表面寄りの錆化が進む。	覆土中	
M104	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	4.2	3.6	2.5	42.4	4	L (●)	左右の側部2面が破面となった、やや板状。上面は半流動状で、下面の一部は炉壁表面からの剥離面様。ほぼ全体が含鉄部となっているが、下手側端部の錆化が進む。	覆土中	
M105	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.5	3.2	2.9	42.7	5	L (●)	側部4面が破面となった塊状。下面はやや平坦気味で、下面は剥離面様となる。含鉄部はやや密度が低めか。炉壁表面で生成された可能性大。	覆土中	
M106	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.2	5.5	2.5	42.8	4	L (●)	側部3面が破面となった左右方向に長手。上面は生きており、側面から下面には木炭痕がやや多めに残る。含鉄部は下半主体	覆土中	
M107	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.5	3.3	1.3	18.3	3	特L (☆)	側部3面と下面が破面。左右方向に反り返った薄板状で、鉄滓様に見えるが、メタル度は高い。下面は剥離面様となる。	覆土中	PL48
M108	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.8	4.5	1.5	20.1	4	特L (☆)	上面のみ生きている。側部は細い連続的な破面。破面は外観的には剥離面様。前者と同様、見かけの割にはメタル度が高い。	覆土中	PL48
M109	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	2.8	4.0	1.7	24.6	4	特L (☆)	側部3面と下面が破面。下面を中心に瘤状の酸化土砂が残されて、黒錆の滲みも認められる。やや板状で滓のような外観を示すが、ほぼ全体が鉄部となる。	覆土中	
M110	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.2	3.3	1.9	27.3	4	特L (☆)	上面や側部の半分以上が破面。下面の中央部には木炭痕らしき窪みが生じ、破面の密度はやや低め。見かけの割には含鉄部が主体。	覆土中	
M111	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	4.2	4.3	1.9	33.3	5	特L (☆)	上下面と側部3面の大半が破面となった薄板状。表面には不規則な凹凸や木炭痕に加えて気孔も露出する。磁着は見かけ以上に強い。	覆土中	
M112	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	2.9	5.0	2.6	36.5	4	特L (☆)	側部4面と下面右側が破面。上面のみ生きている。微細な滓の垂れらしき痕跡が確認できる。含鉄部は右半分から左下半部が主体。	覆土中	
M113	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	3.4	4.2	2.2	37.5	4	特L (☆)	右側部が含鉄部の確認のためにグラインダーで研いだ平坦な研磨面。上面の中央部のみが生きており、側部3面と下面は剥離面様の破面となる。不定型な板状で、ほぼ全体が含鉄部とみられる。	覆土中	
M114	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	4.3	3.7	2.9	43.1	5	特L (☆)	上下面の一部が生きている。側部3面が破面とみられる。下手側の側部は炉壁土に接した剥離面様となる。上面表皮はやや磁着が弱め。	覆土中	PL48
M115	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	5.1	3.7	3.3	70.9	4	特L (☆)	黒錆や酸化土砂に覆われて上下に長い、上面から右下手側が生きており、残る側部3面が破面になっている。ほぼ全体が含鉄部とみられるが、密度の差が予想される。	覆土中	PL48
M116	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.0	2.5	1.4	6.0	3	錆化 (△)	表面に錆ぶくれが目立つ小塊状。木炭痕らしき窪みや不規則な気孔も確認される。錆化が進み磁着度は低め。	覆土中	PL48
M117	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.2	2.8	1.5	9.0	3	錆化 (△)	上面のみ生きている。側部4面が破面。下面は剥離面様で、破面からは錆ぶくれが複数生じている。含鉄部は芯部に予想される。	覆土中	PL48
M118	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.4	2.8	1.9	13.0	3	錆化 (△)	側部4面と下面が破面となった小塊状。右側部には放射割れが走り、左側部は塊状に突出する。全体が含鉄部と推定される。	覆土中	
M119	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.0	2.4	1.4	9.5	3	H (○)	側部3面が破面となった板状。破面は剥離面様で、炉壁表面からの剥落品か。	覆土中	PL48
M120	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.2	2.0	1.2	8.3	5	H (○)	側部3面が破面となった、前者を一回り小さくしたような外観を持っている。下面は炉壁表面からの剥離面か。	覆土中	PL48
M121	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	1.8	2.9	1.7	10.9	3	H (○)	側部4面と下面が破面となった小塊状。本資料も前二者と似る。	覆土中	
M122	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	1.3	2.0	1.4	4.9	6	M (○)	側部3面が破面となり、下面が剥離面様に見える。見かけの割には含鉄部が主体。	覆土中	PL48
M123	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.1	1.7	1.1	7.0	6	M (○)	側部3面と下面が破面となった小塊状。炉壁表面からの剥落品の可能性大。	覆土中	PL48
M124	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.1	2.4	1.1	6.9	5	L (●)	側部3面が破面となり、端部に放射割れが生じている薄板状。上面が平坦気味であることから剥落品の可能性大。	覆土中	PL48
M125	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.9	2.5	1.3	7.6	3	L (●)	側部から下面全体が破面とみられる不整板状。表面や破面は微細な木炭痕に覆われ、やや密度の低い含鉄部か。	覆土中	PL48
M126	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	1.9	2.6	2.3	11.1	4	L (●)	側部3面が破面。破面には木炭痕が点在し、密度は低めと予想される。但し、磁着は強い。	覆土中	PL48
M127	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.3	2.2	2.0	12.1	3	L (●)	前者と似た概観。下手側の側部には木炭痕が残り、各所から微細な錆ぶくれが生じている。見かけの割には磁着が強い。	覆土中	PL48
M128	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.8	2.4	1.4	12.6	5	L (●)	側部3面が破面とみられ、下面が浅い碗形の剥離面様。前者と同様、見かけ以上に全体が含鉄部。	覆土中	
M129	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	3.5	2.0	1.4	15.3	5	L (●)	側部4面が破面と推定される。扁平塊状の形状を有し、下手側が剥離面様で、下手側には錆ぶくれが生じている。炉壁表面で生成された鉄部か。	覆土中	
M130	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.3	3.0	1.6	16.7	7	L (●)	側部3面と下面が破面となった、基本的には前者と似た性質。表面には酸化土砂と放射割れに加えて、黒錆の滲みも目立つ。	覆土中	
M131	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	3.4	2.2	1.7	17.6	6	L (●)	側部4面が破面となった板状。下面はやや剥離面様で、見かけ以上に含鉄部が広がっている。但し、一部はマグネタイト系の滓の可能性もある。	覆土中	
M132	鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	2.5	2.8	1.9	17.1	5	L (●)	側部5面と下部の半分以上が破面。上面は平坦ながらも一部が流動状で、下面の剥離面様の部分を加味すると、炉壁表面で生成された鉄塊系遺物か。	覆土中	

第 47 号住居跡										
炉壁 (製錬炉)	M21		M26	M32		M (◎)	特L (☆)	炉内滓 (含鉄, 中)	M (◎)	L (●)
DP60	M21		M26	M32		M38	M44	M51	M58	M64
炉壁 (滓付き, 含鉄)	特L (☆)		M27	M33		M39	M45	M52	M59	M65
DP61	M22		M28	M34		L (●)	M46	M53	M60	M66
炉底塊 (含鉄)	炉内滓 (含鉄, 砂鉄塊結付き)		炉内滓 (含鉄, 大)	M35		M40	M47	H (○)	M61	M67
銹化 (△)	銹化 (△)		銹化 (△)	M36		M41	炉内滓 (中, 炉壁付き)	M54	M62	M68
M17	M23		M29	M37		M42	M48	M55	M63	M69
M18	M24		M30	M38		M43	M49	M56	M66	M70
M (◎)	M25		M31	M39		M44	M50	M57	M64	M70
M19	M (◎)		M32	M40		M45	M51	M58	M65	M71
L (●)	M33		M34	M41		M46	M52	M59	M66	M72
M20	M34		M35	M42		M47	M53	M60	M67	M73
分析	M35		M36	M43		M48	M54	M61	M68	M74
	M36		M37	M44		M49	M55	M62	M69	M75
	M37		M38	M45		M50	M56	M63	M70	M76



第 121 図 第 47 号住居跡製鉄関連遺物構成図 (1)

第 47 号住居跡									
	特 L (☆)	石内滓 (含鉄, 小)	L (●)	鉄塊系遺物 (含鉄, 中)	L (●)	特 L (☆)		鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	
M71		M79		M93		M100		M114	M120
M72		M80		M94		M101		M115	M121
M73		M81		M95		M102		鉄塊系遺物 (含鉄, 小)	M (◎)
M74		M82		M96		M103		錆化 (△)	
M75		M83		M97		M104		M116	M122
M76		M84		M98		M105		M117	M123
M77		M85		M99		M106		H (○)	L (●)
M78		M86		M100		M107		M118	M124
		M87		M101		M108		M119	M125
		M88		M102		M109		M120	M126
		M89		M103		M110		M121	M127
		M90		M104		M111		M122	M128
		M91		M105		M112		M123	M129
		M92		M106		M113		M124	M130
				M107		M114		M125	M131
				M108		M115		M126	M132
				M109		M116			
				M110		M117			
				M111		M118			
				M112		M119			
				M113		M120			
				M114		M121			
				M115		M122			
				M116		M123			
				M117		M124			
				M118		M125			
				M119		M126			
				M120		M127			
				M121		M128			
				M122		M129			
				M123		M130			
				M124		M131			
				M125		M132			



第 122 図 第 47 号住居跡製鉄関連遺物構成図 (2)

第 49 号住居跡 (第 123 ~ 125 図)

位置 調査区東部の F 14b7 区, 標高 14 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.78 m, 短軸 3.55 m の方形で, 主軸方向は N - 2° - E である。壁高は 37 ~ 45cm で, 外傾して立ち上がっている。南壁中央部が幅 120cm, 奥行き 30cm の長方形に張り出している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。東・西の壁下には壁溝が巡っている。貼床は, 中央部と西壁下を皿状に掘り込み, ロームブロックを含む第 10 層を埋土して構築されている。

竈 北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130cm で, 燃焼部幅は 50cm である。袖部は第 20・21 層を埋土して基部とし, 砂質粘土を主体とした第 14 ~ 19 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10cm 掘りくぼめ, 第 20 ~ 22 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 55cm 掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗 褐 色	炭化粒子微量
2	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	12	褐 色	焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗 褐 色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量	14	褐 灰 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15	灰 褐 色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐 色	炭化粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量	16	褐 灰 色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量
7	暗 褐 色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐 灰 色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗 赤 褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	18	暗 褐 色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
9	褐 色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量	19	暗 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
10	極暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	20	褐 色	ロームブロック少量
			21	褐 灰 色	ローム粒子少量
			22	暗 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 20cm・7cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

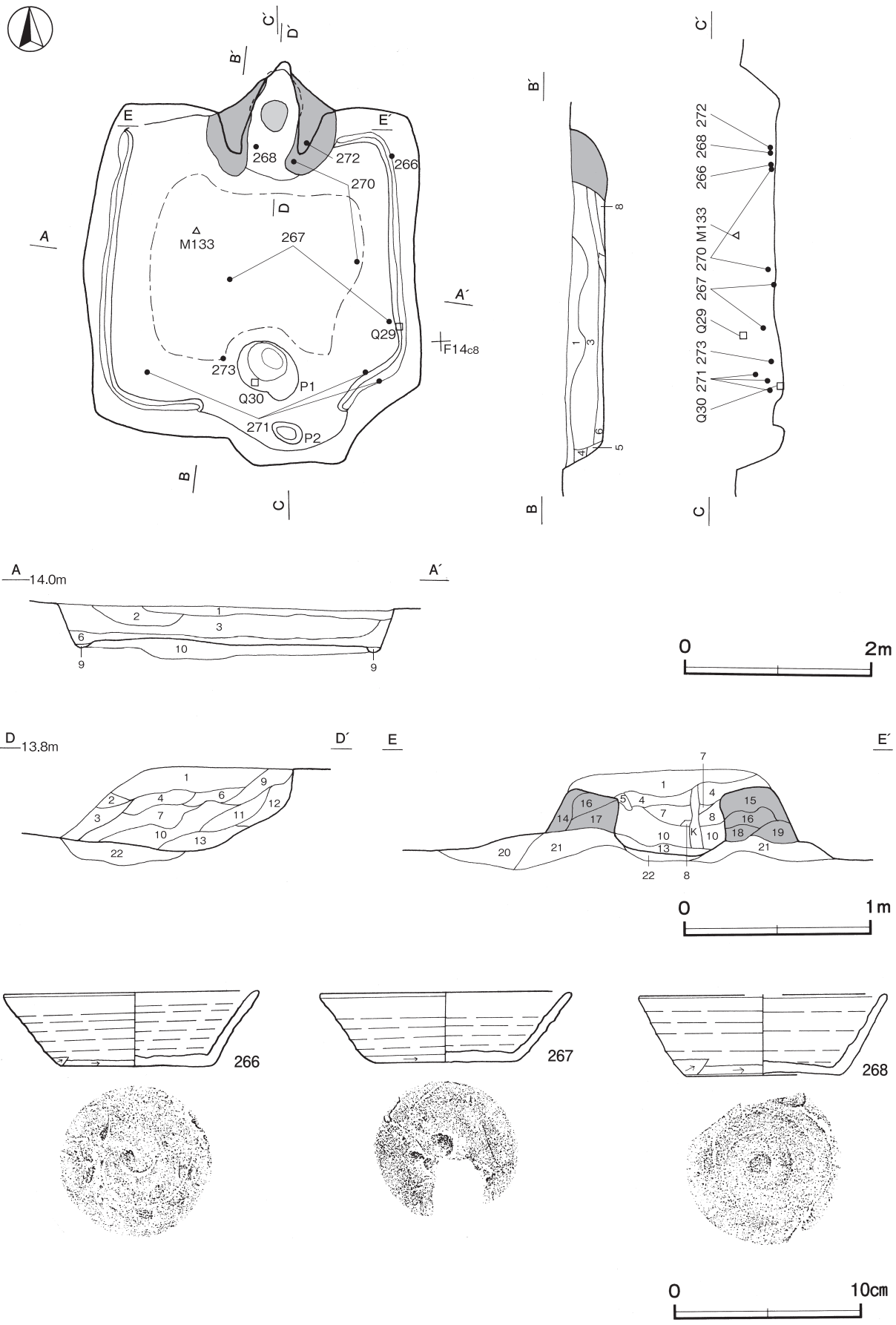
覆土 9 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。第 10 層は, 貼床の構築土である。

土層解説

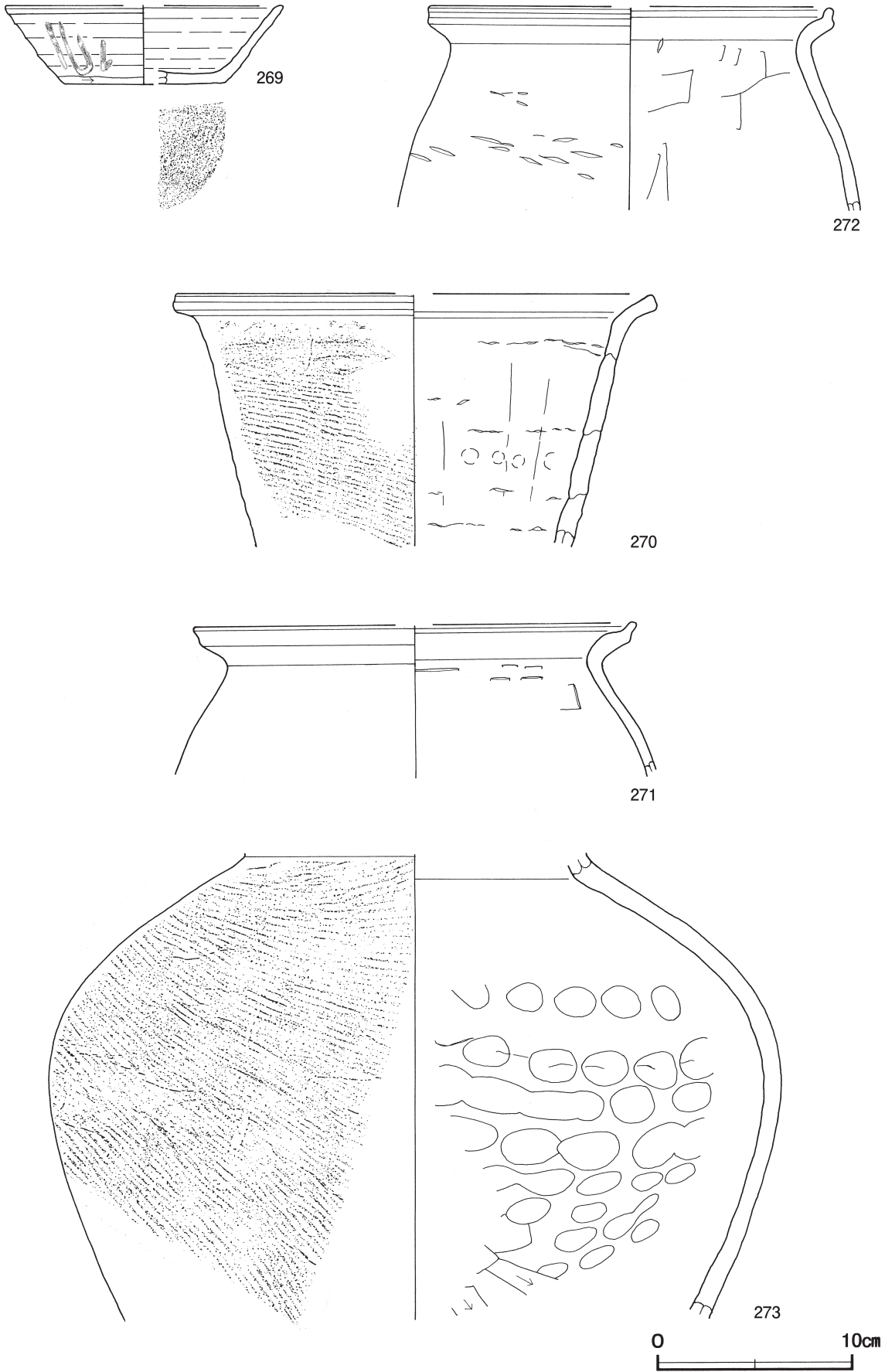
1	暗 褐 色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	7	暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗 褐 色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量	8	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4	褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	9	暗 褐 色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
5	褐 色	ローム粒子中量	10	褐 色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 509 点 (坏 26, 甕類 483), 須恵器片 245 点 (坏 140, 蓋 3, 高盤 2, 鉢 75, 壺 3, 甕類 12, 甌 10), 石器 3 点 (砥石), 鉄製品 2 点 (釘), 焼成粘土塊 17 点, 鉄滓 37 点 (744g) が, 全面の覆土中層から床面にかけて出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 14 点 (坏 13, 甕類 1), 須恵器片 3 点 (坏) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 2 点 (深鉢), 陶器片 2 点 (碗), 磁器片 2 点 (碗), 剥片 4 点も出土している。Q 30 は南部の床面から出土している。266 は北東コーナー部の覆土下層から, 正位の状態出土している。267 は中央部と東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。273 は南部の覆土下層から出土している。270 は東部の覆土下層と竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。268・272 は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。271 は南部の覆土中層から出土している。Q 29 は東部, M 133 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。269 は覆土中から出土している。

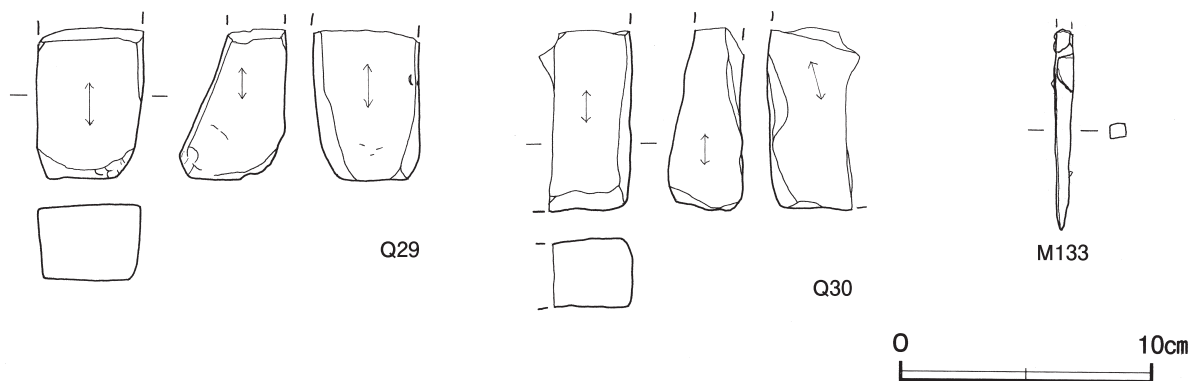
所見 時期は, 出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第 123 图 第 49 号住居跡・出土遺物実測図



第 124 图 第 49 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 125 図 第 49 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 49 号住居跡出土遺物観察表 (第 123 ~ 125 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
266	須恵器	坏	13.6	4.1	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後、ナデ	覆土下層	100% PL37
267	須恵器	坏	13.4	3.8	7.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土下層	80% PL37
268	須恵器	坏	[13.2]	4.4	8.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	竈覆土下層	40% PL37
269	須恵器	坏	[14.2]	4.1	[7.8]	長石・石英	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 側面に火捺	覆土中	10%
270	須恵器	鉢	[24.4]	(13.0)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面輪積痕を残すナデ・指頭圧痕	覆土下層 竈覆土中	10% PL38
271	土師器	甕	[22.6]	(7.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ・工具痕	覆土中層	10%
272	土師器	甕	[20.6]	(10.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面工具痕 内面ヘラナデ・工具痕	竈覆土下層	10%
273	須恵器	甕	-	(24.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部斜位の平行叩き 内面当て具痕	覆土下層	10% PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 29	砥石	(6.0)	4.2	4.3	(133)	凝灰岩	断面逆台形 一部欠損 砥面 3 面	覆土上層	
Q 30	砥石	(7.2)	(3.7)	3.0	(111)	砂岩	断面長方形 一部欠損 砥面 3 面	床面	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M133	釘	(8.0)	0.8	0.8	(14.2)	鉄	断面方形 頭部欠損	覆土上層	PL46

第 51 号住居跡 (第 126・127 図)

位置 調査区東部の F 15c4 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.15 m、短軸 3.03 m の方形で、主軸方向は N - 1° - W である。壁高は 36 ~ 40cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁下を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で、燃焼部幅は 42cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 14 ~ 18 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 5 cm 掘りくぼめ、ローム粒子主体の第 19 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 45cm 掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 16 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 17 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 19 褐色 | ローム粒子中量 |

ピット 深さ32cmで, 南壁際のほぼ中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

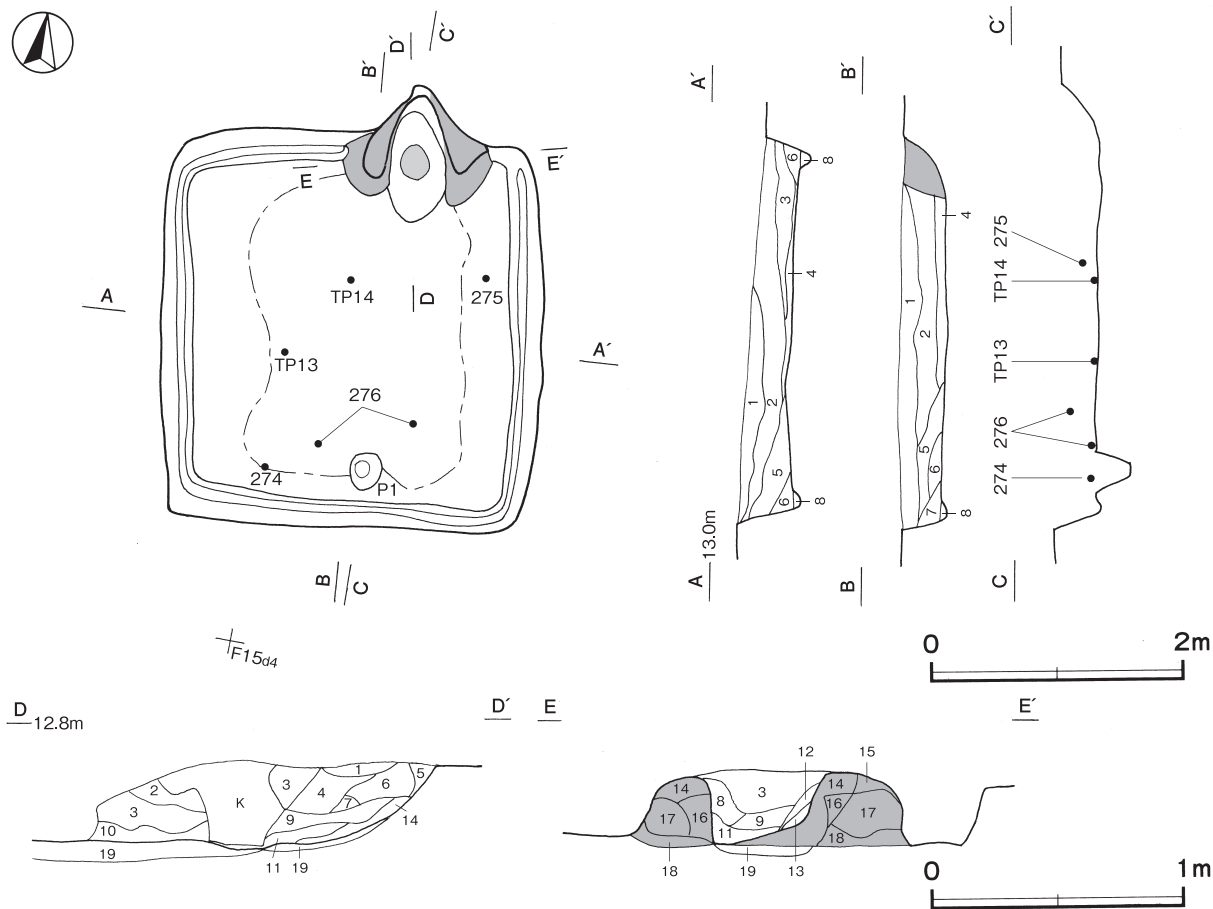
覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

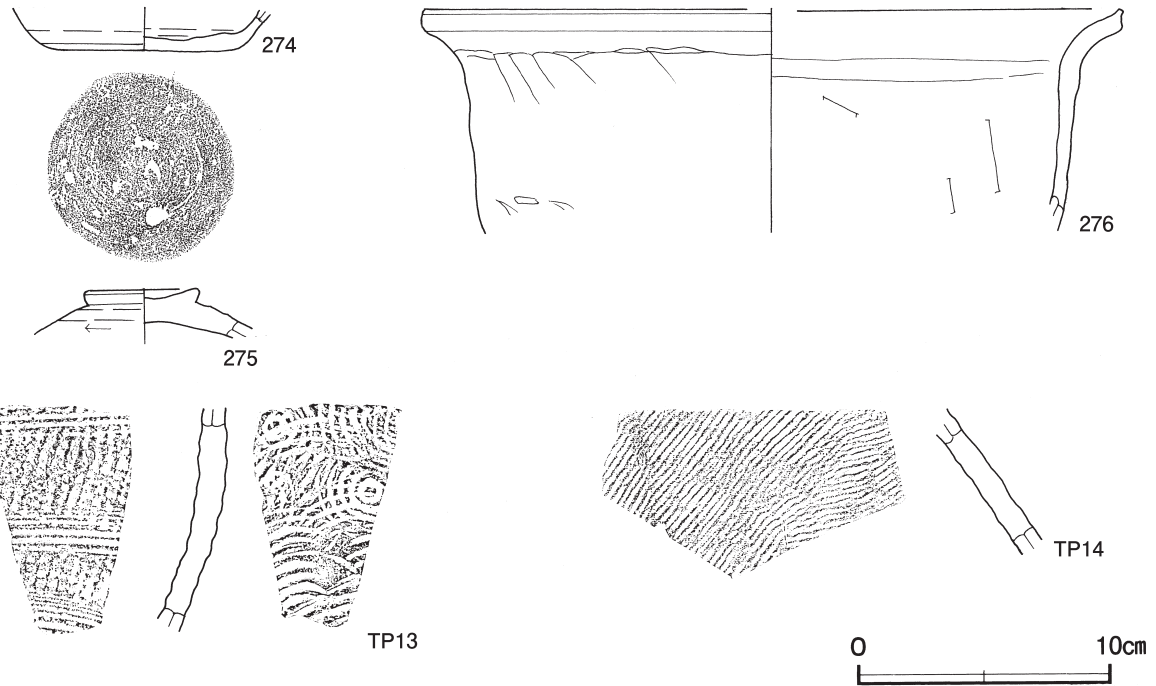
- | | | | |
|-------|----------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 130点 (坏18, 鉢1, 甕類111), 須恵器片 19点 (坏15, 蓋2, 甕類2), 鉄滓2点 (11g) が出土している。TP13・TP14は中央部の床面からそれぞれ出土している。274は南西部, 276は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。275は北東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第126図 第51号住居跡実測図



第 127 図 第 51 号住居跡出土遺物実測図

第 51 号住居跡出土遺物観察表 (第 127 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
274	須恵器	坏	-	(1.7)	7.2	長石・石英・細礫	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	40%
275	須恵器	蓋	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中層	20%
276	土師器	鉢	[27.6]	(8.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ・工具痕	覆土下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	須恵器	甕	長石・石英	灰	体部斜位の平行叩き後、横位のカキ目 内面同心円状の当て具痕	床面	PL40
TP14	須恵器	甕	長石・石英	灰白	体部斜位の平行叩き	床面	

第 52 号住居跡 (第 128・129 図)

位置 調査区東部の F 15d4 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.86 m、短軸 3.62 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 10° - W である。壁高は 30 ~ 36 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を均一に掘りくぼめ、ローム粒子主体の第 9 層を埋土して構築されている。南壁及び西壁下には壁溝が巡っている。竈の右袖前から 6 点の炭化材を検出した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 102 cm で、燃焼部幅は 31 cm である。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土を主体とした第 8 ~ 16 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 8 cm 掘りくぼめ、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第 17・18 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 18 cm 掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

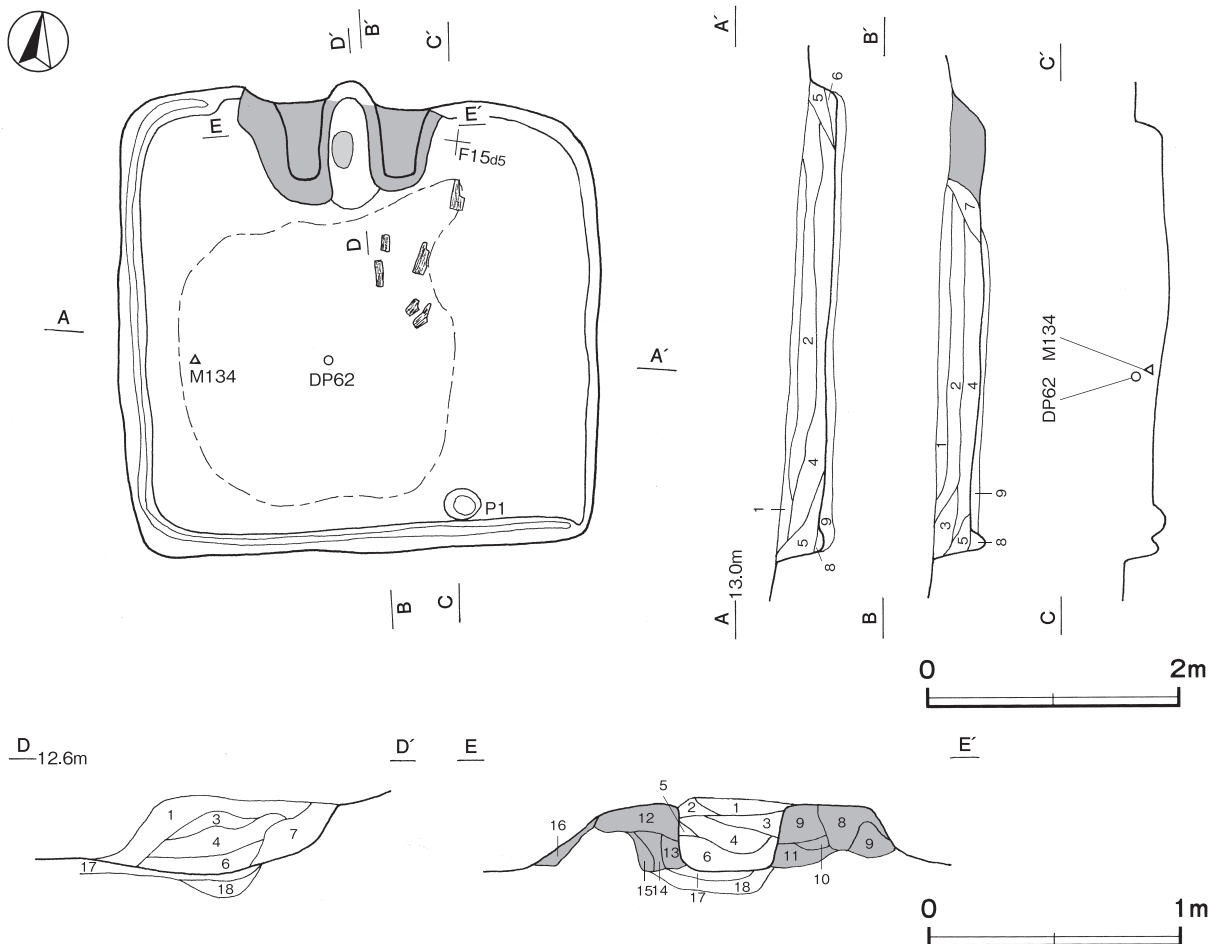
- | | | | |
|---------|--------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 明褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい橙色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 17 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| | | 18 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 深さ13cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

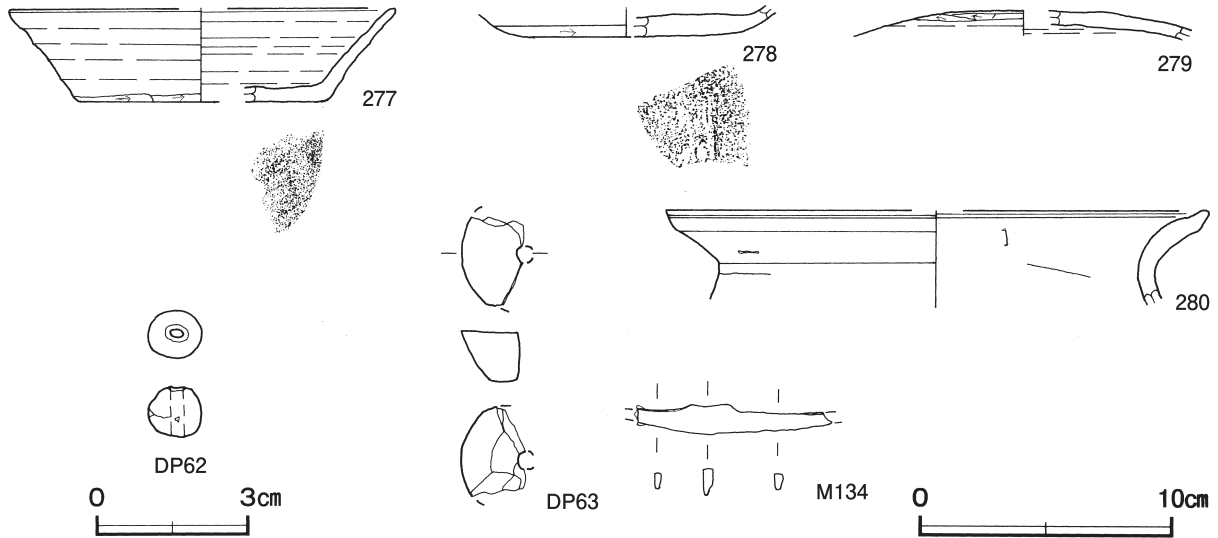
覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第9層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |



第128図 第52号住居跡実測図



第 129 図 第 52 号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 192 点 (坏 34, 碗 1, 甕類 157), 須恵器片 16 点 (坏 14, 蓋 1, 鉢 1), 土製品 2 点 (土玉 1, 紡錘車 1), 鉄製品 1 点 (刀子), 焼成粘土塊 4 点, 鉄滓 51 点 (1371g) が出土している。そのほか, 流れ込んだ縄文土器片 5 点 (深鉢) も出土している。280 は北部, 278・M134 は西部, DP63 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP62 は中央部, 277 は北部, 279 は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。竈の右袖部の前で検出した炭化材は, 床面に焼けた様子が見られないことから, 住居廃絶の際に投棄されたものと考えられる。

第 52 号住居跡出土遺物観察表 (第 129 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
277	須恵器	坏	[15.2]	3.8	[9.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	覆土中層	10%
278	須恵器	坏	-	(1.2)	[9.6]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	5%
279	須恵器	蓋	-	(1.4)	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	5%
280	土師器	甕	[21.6]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ・工具痕	覆土下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP62	土玉	1.1	1.0	0.2	1.1	長石・石英	ナデ 一方方向からの穿孔	覆土中層	PL41
DP63	紡錘車	(3.6)	2.0	(0.7)	(16.1)	長石・石英	ナデ 欠損 一方方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M134	刀子	(7.8)	1.3	0.4	(6.7)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形・茎部断面逆台形	覆土下層	PL45

第 52 号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径 10cm 以上)	大 (長径 4cm 以上 10cm 未満)	中 (長径 1cm 以上 4cm 未満)	小 (長径 1cm 未満)	合計
点数	-	1	38	12	51
重量 (g)	-	135	1,176	60	1,371

第 53 号住居跡 (第 130・131 図)

位置 調査区東部の F 15g6 区, 標高 12 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 東部が攪乱を受けているため、南北軸は3.12 mで、東西軸は2.75 mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき、主軸方向はN - 15° - Wである。壁高は35 ~ 48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南壁下の一部に壁溝を確認した。貼床は、中央部を皿状に掘りくぼめ、ロームブロックを含む第14 ~ 17層を埋土して構築されている。また、中央部の床面上から炭化材を検出した。

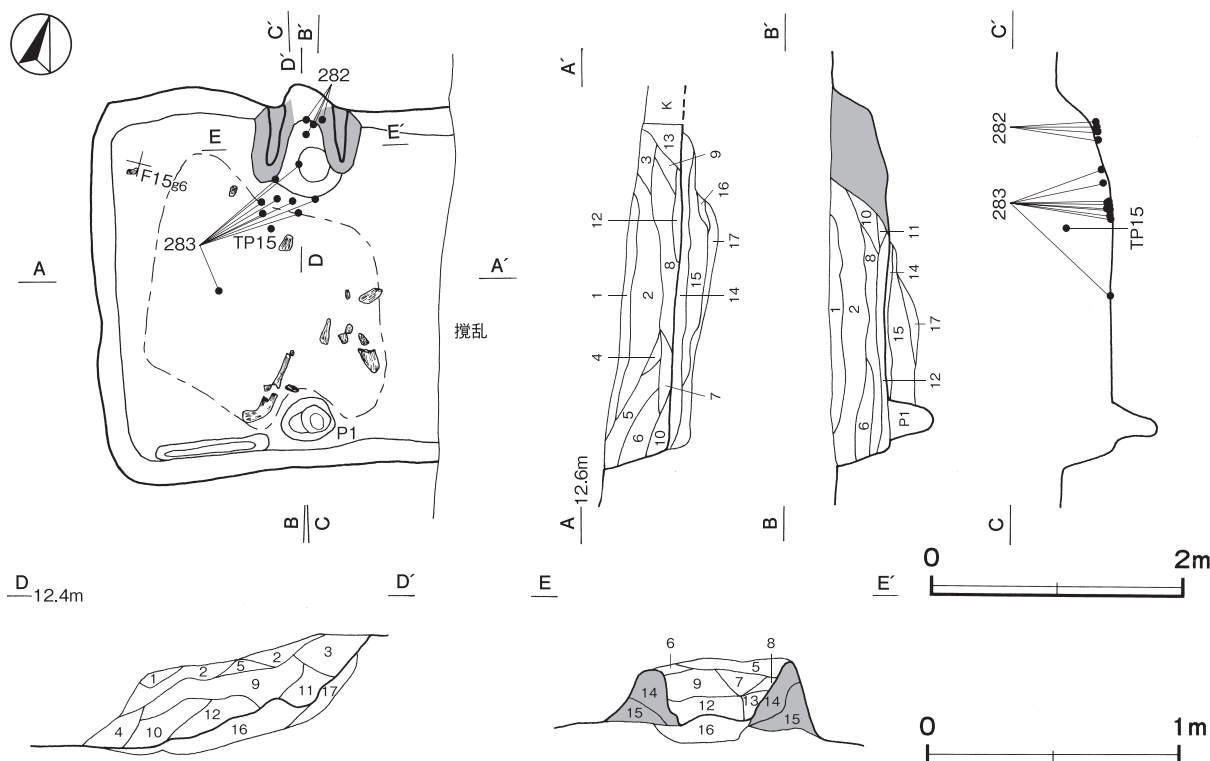
竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第14・15層を積み上げて構築されている。火床部は床面を5cm掘り込んで、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第16・17層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、奥壁で段を有し、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

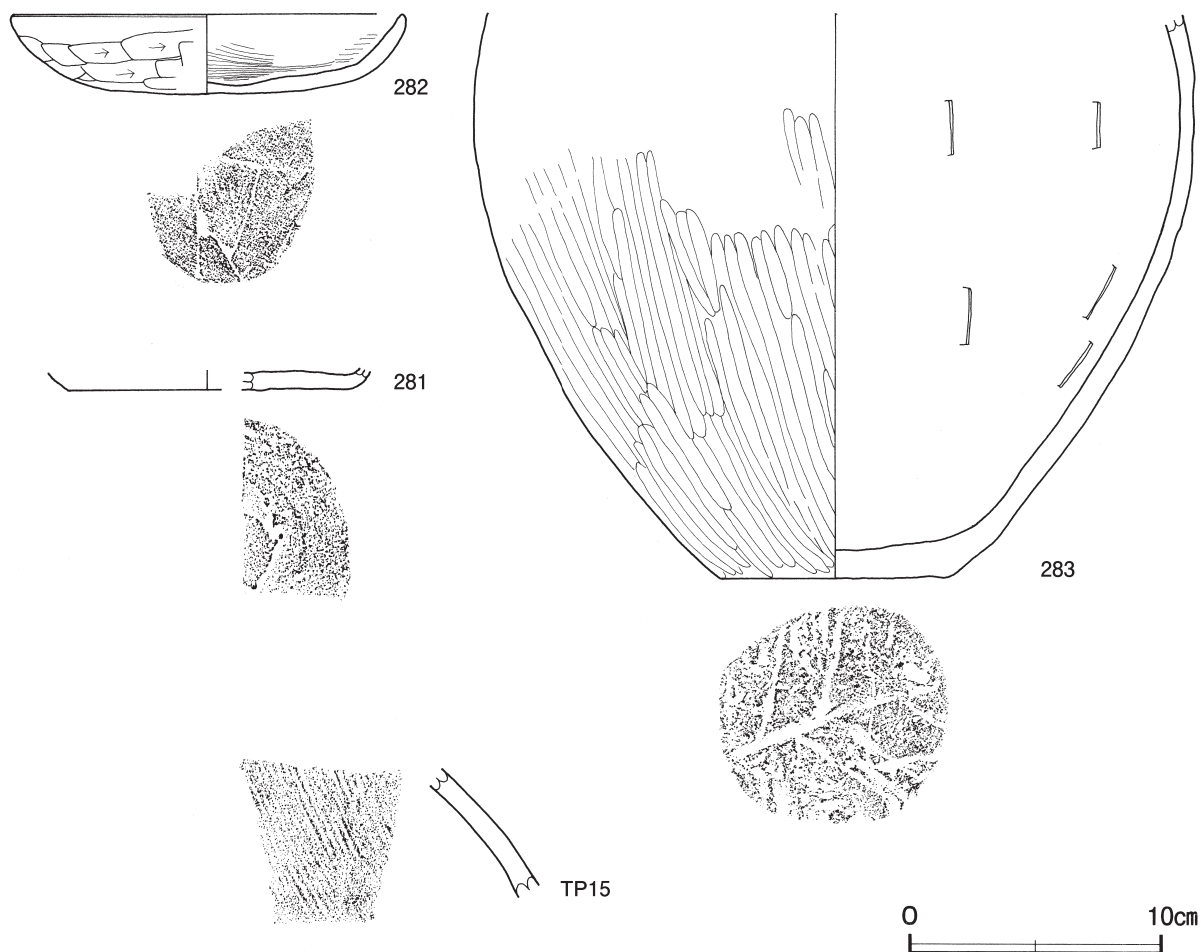
- | | | | |
|--------|-------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子多量 | 16 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 9 暗褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | | |
| 10 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 深さ36cmで、南壁際のほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 13層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第14 ~ 17層は、貼床の構築土である。



第130図 第53号住居跡実測図



第 131 図 第 53 号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|----------|-------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 12 黒 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 | 炭化材中量, ローム粒子微量 | 13 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 14 黒 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 9 黒 褐 色 | 炭化材・ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 129 点 (坏 19, 甕類 110), 須恵器片 7 点 (坏 6, 鉢 1), 鉄滓 27 点 (138g) が出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 7 点 (坏 1, 甕類 6) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 3 点 (深鉢), 石器 1 点 (凹石), 剥片 2 点も出土している。282 は竈の煙道部の奥壁下から出土した破片が接合したものである。283 は竈の火床面と竈の前及び中央部の床面から出土した破片が接合したものである。TP15 は竈の前の覆土上層から出土している。281 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。中央部の床面上で検出した炭化材は, 床面に焼けた様子がみられないことから, 住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。

第 53 号住居跡出土遺物観察表 (第 131 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
281	須恵器	坏	-	(0.9)	[11.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	覆土中	10%
282	土師器	盤状坏	15.5	3.2	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	竈煙道部奥壁下	80% PL37
283	土師器	甕	-	(22.5)	9.0	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ・工具痕	竈火床面床面	50%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP15	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰黄	体部斜位の平行叩き	覆土上層	

第 56 号住居跡 (第 132・133 図)

位置 調査区東部の F 15c1 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 60・61 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.52 m、短軸 4.32 m の不整形で、主軸方向は N - 3° - W である。壁高は 35 ~ 50 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。西壁下の一部で壁溝を確認した。貼床は、四隅を土坑状に掘りくぼめ、ロームブロックを含む第 16 ~ 19 層を埋土して構築されている。

竈 北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 142 cm で、燃焼部幅は 60 cm である。袖部は床面を 18 cm 掘り込んで第 16 ~ 25 層を埋土し、その上に砂質粘土を主体とした第 14・15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40 cm 掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗 褐 色	焼土粒子微量	12 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 褐 色	ローム粒子少量	14 暗 褐 色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量	15 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量
5 褐 色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
6 灰 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量
7 暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	18 暗 褐 色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
8 暗 褐 色	焼土粒子少量	19 暗 褐 色	ローム粒子少量
9 灰 褐 色	焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	20 灰 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
10 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭砂質粘土粒子微量	21 褐 色	ロームブロック少量
11 暗 赤 褐 色	焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量	22 褐 色	炭化粒子中量
		23 褐 色	ローム粒子中量
		24 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
		25 暗 褐 色	ローム粒子微量

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 20 ~ 41 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 15 cm で、南壁際のほぼ中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 15 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第 16 ~ 19 層は、貼床の構築土である。

土層解説

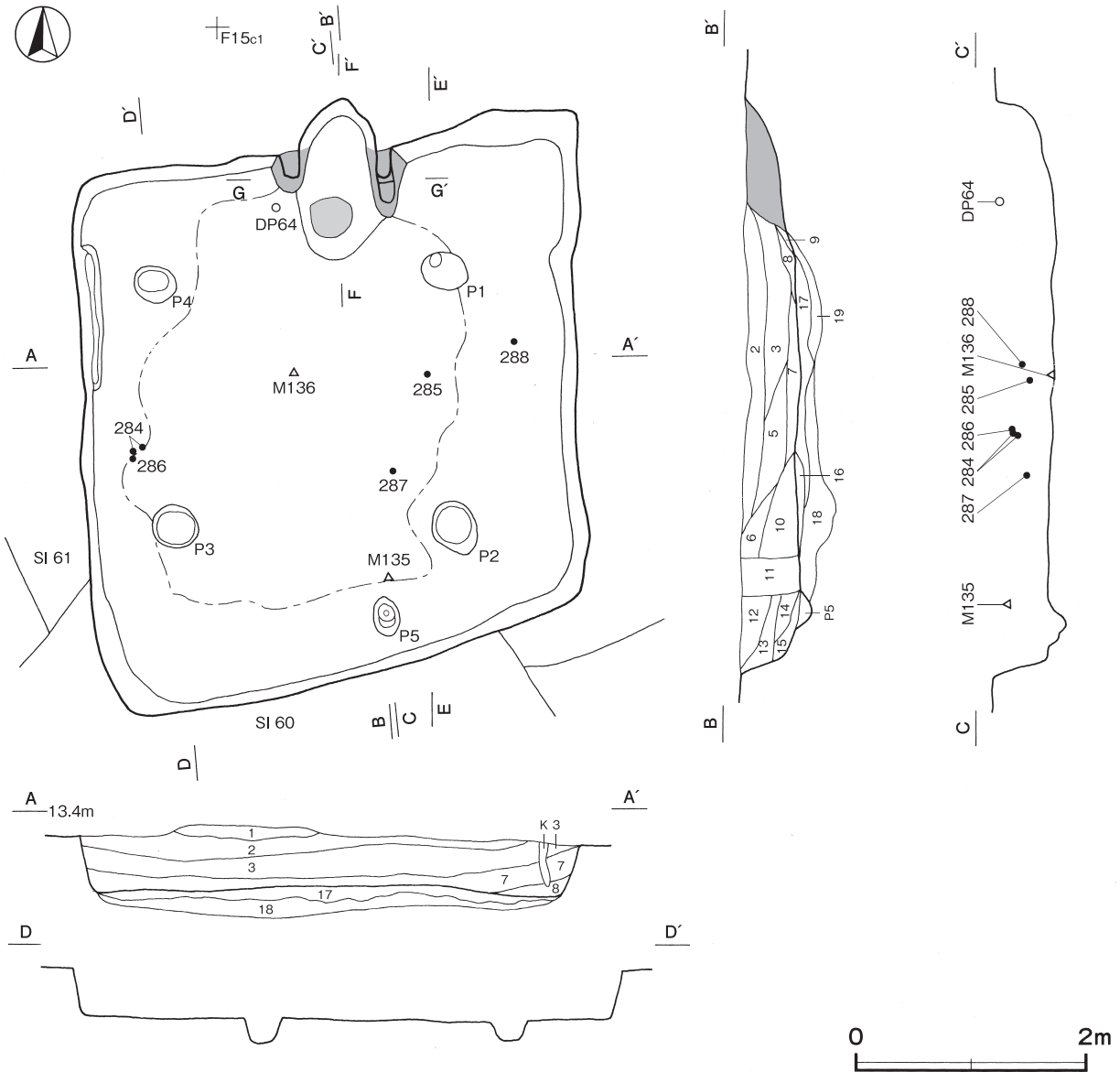
1 黒 褐 色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子微量	8 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量	9 極 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 極 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	11 極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量		

- 12 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 13 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 14 極 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 15 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

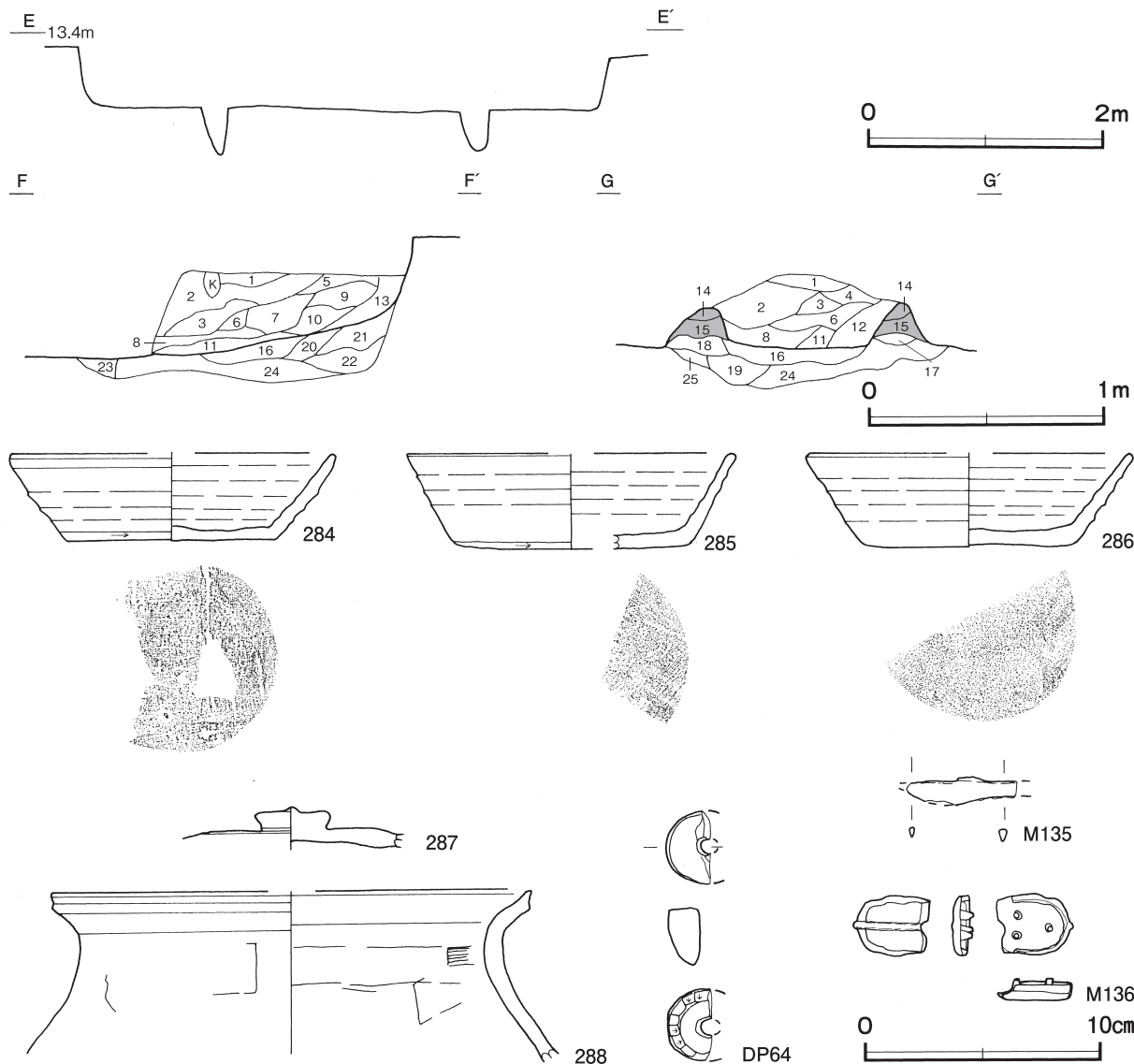
- 16 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 17 褐 色 ロームブロック中量
- 18 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 19 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 1252 点 (坏 184, 高坏 3, 壺 1, 甕類 1063, 甑 1), 須恵器片 119 点 (坏 108, 高台付坏 4, 蓋 7), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 1 点 (砥石), 鉄製品 1 点 (刀子), 銅製品 1 点 (腰帶具), 焼成粘土塊 5 点, 鉄滓 19 点 (290g) が, 全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 69 点 (坏 18, 甕類 51), 須恵器片 1 点 (坏) が出土している。そのほか, 混入した瓦片 1 点, 剥片 2 点も出土している。M136 は中央部の床面から出土している。285・287 は中央部, 288 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP64 は竈の西側, 284・286 は西部, M135 は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第 132 図 第 56 号住居跡実測図



第 133 図 第 56 号住居跡・出土遺物実測図

第 56 号住居跡出土遺物観察表 (第 133 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
284	須恵器	坏	[13.8]	3.7	8.4	長石・石英・雲母・細礫	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土上層	40%
285	須恵器	坏	[13.6]	4.1	[9.6]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	30%
286	須恵器	坏	[13.5]	4.0	9.0	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土上層	30%
287	須恵器	蓋	-	(1.8)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中層	10%
288	土師器	甕	[20.4]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ・工具痕	覆土中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP64	紡錘車	(3.1)	2.5	(0.8)	(15.7)	長石・石英	一部欠損 上面・底面ヘラ削り 側面ヘラ削り・ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M135	刀子	(4.7)	(1.2)	0.4	(5.7)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形 茎部断面逆台形	覆土上層	
M136	鉞尾	3.2	2.6	0.9	17.5	銅	上端中央部突出 下端中央部凹み 表面中央部一文字状に隆起 裏面鏝3か所	床面	PL46

第 57 号住居跡 (第 134・135 図)

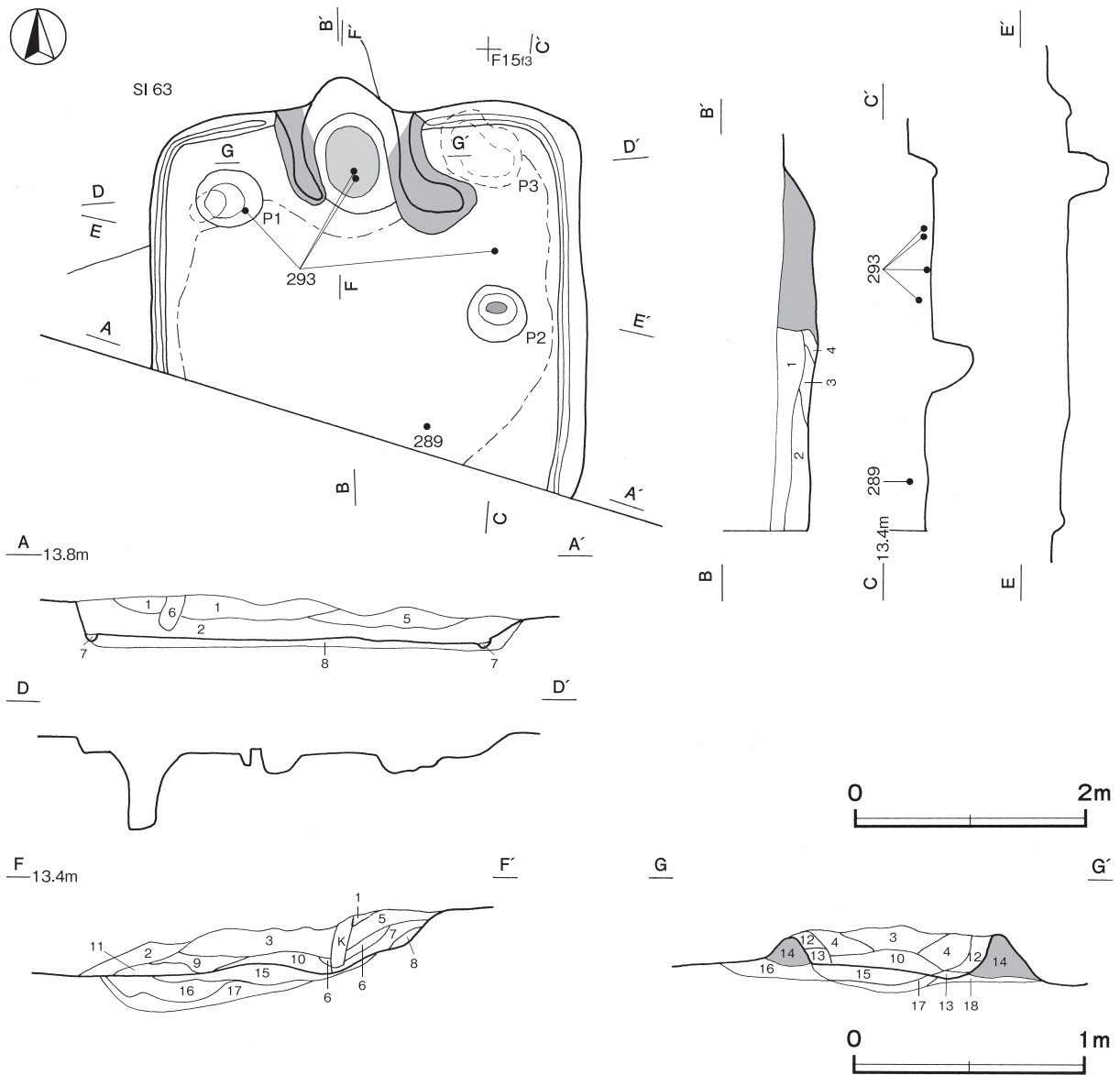
位置 調査区東部の F 15f2 区, 標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 63 住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため, 東西軸は 3.80 m で, 南北軸は 3.30 m しか確認できなかった。平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形と推定でき, 主軸方向は $N-3^{\circ}-W$ である。壁高は 15~30cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は, 全面を均一に掘りくぼめ, ロームブロックを含む第 8 層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cm で, 燃烧部幅は 62cm である。袖部は床面を 15cm 掘り込んで第 15~18 層を埋土し, その上に砂質粘土を主体とした第 14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用し, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 35cm 掘り込まれ, 奥壁で段を有し, 外傾して立ち上がっている。



第 134 図 第 57 号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | ローム粒子少量 | 18 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子微量 | | |
| 11 にぶい橙色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 3か所。P 1は深さ76cmで、規模と配置から支柱穴である。P 2は深さ36cm, P 3は床下から確認したもので深さ15cmで、ともに性格は不明である。

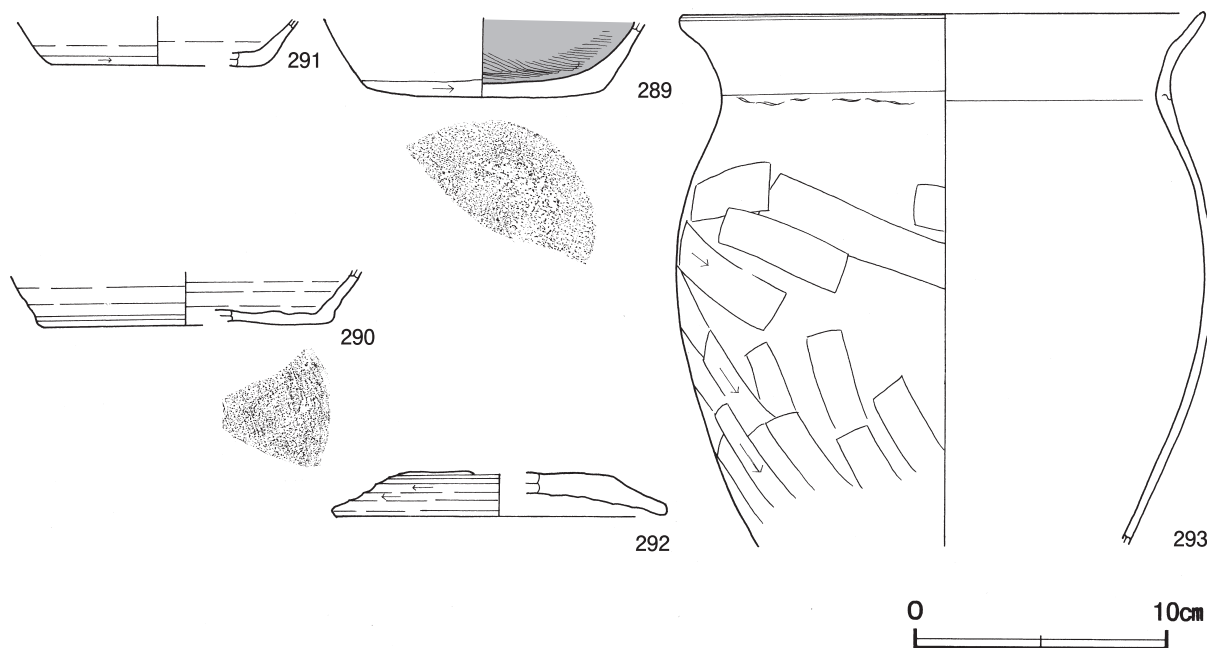
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第8層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片118点(坏11, 甕類107), 須恵器片26点(坏21, 蓋1, 甕類4), 焼成粘土塊2点, 鉄滓20点(213g)が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片1点(甕類), 須恵器片4点(坏)が出土している。そのほか、混入した縄文土器片6点(深鉢), 剥片4点も出土している。293は竈の火床面と竈の西側及び竈の東側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。290は竈の掘方の埋土中から出土している。291は東部の覆土下層から出土している。292はP 3覆土中から出土している。289は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第135図 第57号住居跡出土遺物実測図

第 57 号住居跡出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
289	土師器	坏	-	(3.1)	[9.2]	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	20%
290	須恵器	坏	-	(2.1)	[11.4]	長石・石英	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	竈掘方埋土中	10%
291	須恵器	坏	-	(1.9)	[8.6]	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	10%
292	須恵器	蓋	-	(1.8)	[13.0]	長石・石英・ 雲母	にぶい黄	普通	天井部回転ヘラ削り	P 3 覆土中	10%
293	土師器	甕	20.5	(21.3)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	竈火床面 覆土下層	40%

第 58 号住居跡 (第 136 図)

位置 調査区東部の F 15e4 区, 標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.74 m, 短軸 3.60 m の隅丸方形で, 主軸方向は N - 12° - W である。壁高は 5 ~ 11cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。南壁及び西壁下には壁溝が巡っている。貼床は, コーナ一部を土坑状に掘りくぼめ, ロームブロックを含む第 7・8 層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部からやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で, 燃焼部幅は 52cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 8 ~ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10cm 掘り込んで, 第 14 ~ 16 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 10cm 掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子多量, 砂質粘土粒子少量
5 にぶい橙色	砂質粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 にぶい橙色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック微量
7 暗褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量

ピット 4 か所。P 1 は深さ 38cm で, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 2 は深さ 13cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 3・P 4 は, 深さ 18cm・6cm で, 性格は不明である。

覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 7・8 層は貼床の構築土である。

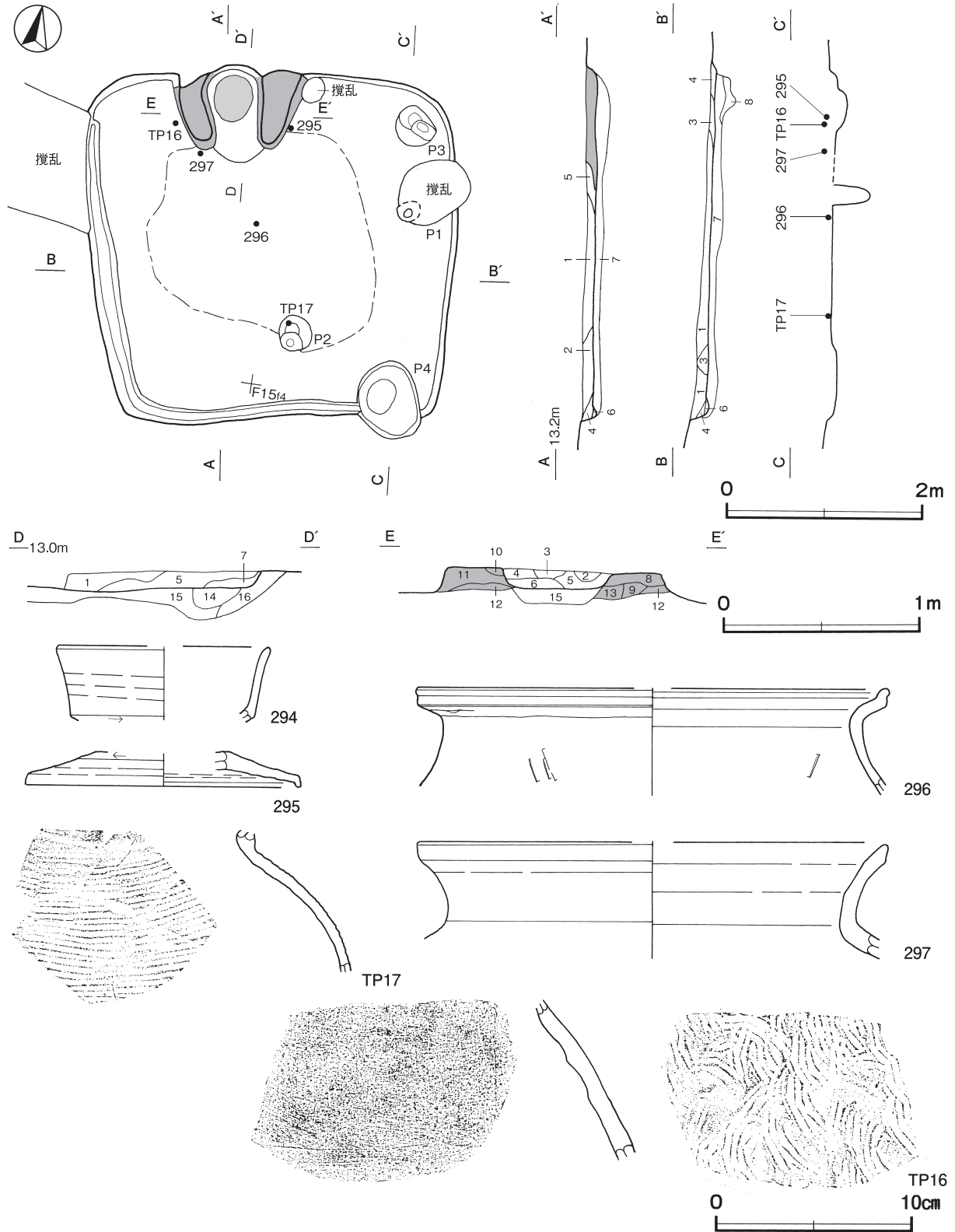
土層解説

1 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	5 極暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	6 極暗褐色	ローム粒子微量
3 極暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	8 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 108 点 (坏 18, 甕類 89, 甗 1), 須恵器片 26 点 (坏 8, 蓋 1, 鉢 4, 甕類 13), 鉄製品 1 点 (不明), 鉄滓 6 点 (84g) が出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 7 点 (甕類) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 2 点 (深鉢) も出土している。295 は竈の東側, 296 は竈の前

の覆土下層からそれぞれ出土している。TP17はP2の覆土上層から出土している。297・TP16は竈の西側、294は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第 136 図 第 58 号住居跡・出土遺物実測図

第 58 号住居跡出土遺物観察表 (第 136 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
294	須恵器	坏	[10.8]	(3.8)	-	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	覆土中層	20% PL37
295	須恵器	蓋	-	(1.7)	[14.2]	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	10%
296	土師器	甕	[23.8]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面工具痕	覆土下層	5%
297	須恵器	甕	[23.8]	(6.0)	-	長石・石英・細礫	灰	普通	口頸部ロクロナデ	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP16	須恵器	甕	長石・石英	オリーブ黒	体部無文の叩き 内面当て具痕	覆土中層	
TP17	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰褐	体部横位の平行叩き	P 2 覆土上層	

第 64 号住居跡 (第 137 ~ 139 図)

位置 調査区東部の F 15a1 区, 標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 94 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.28 m, 短軸 5.05 m の隅丸方形で, 主軸方向は N - 4° - W である。壁高は 46 ~ 57 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。南西コーナー部を除いて壁下には, 壁溝が巡っている。貼床は, 四隅を土坑状に掘りくぼめ, ローム粒子, 焼土粒子を含んだ第 16 層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130 cm で, 燃焼部幅は 30 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 16 ~ 20 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 18 cm 掘り込んで, 主に焼土粒子を含んだ第 21 ~ 28 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 32 cm 掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	15 暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	16 褐灰色	砂質粘土粒子多量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子微量	18 褐色	炭化粒子少量
5 灰褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	19 褐灰色	砂質粘土粒子少量
6 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	20 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
7 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	21 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色	焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量	22 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土ブロック微量
9 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	23 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
10 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	24 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量
11 灰褐色	砂質粘土粒子多量	25 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
12 暗褐色	焼土ブロック少量	26 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
13 暗褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	27 褐灰色	焼土粒子少量, 炭化物微量
14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	28 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

ピット 9 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 37 ~ 68 cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 18 cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ~ P 9 は深さ 21 ~ 58 cm である。P 7・P 8 は掘方調査によって確認した。配置状況から P 6 から P 1 へ, P 7 から P 2 へ, P 8 から P 3 へ, P 9 から P 4 への柱の立て替えが行われた可能性が考えられる。

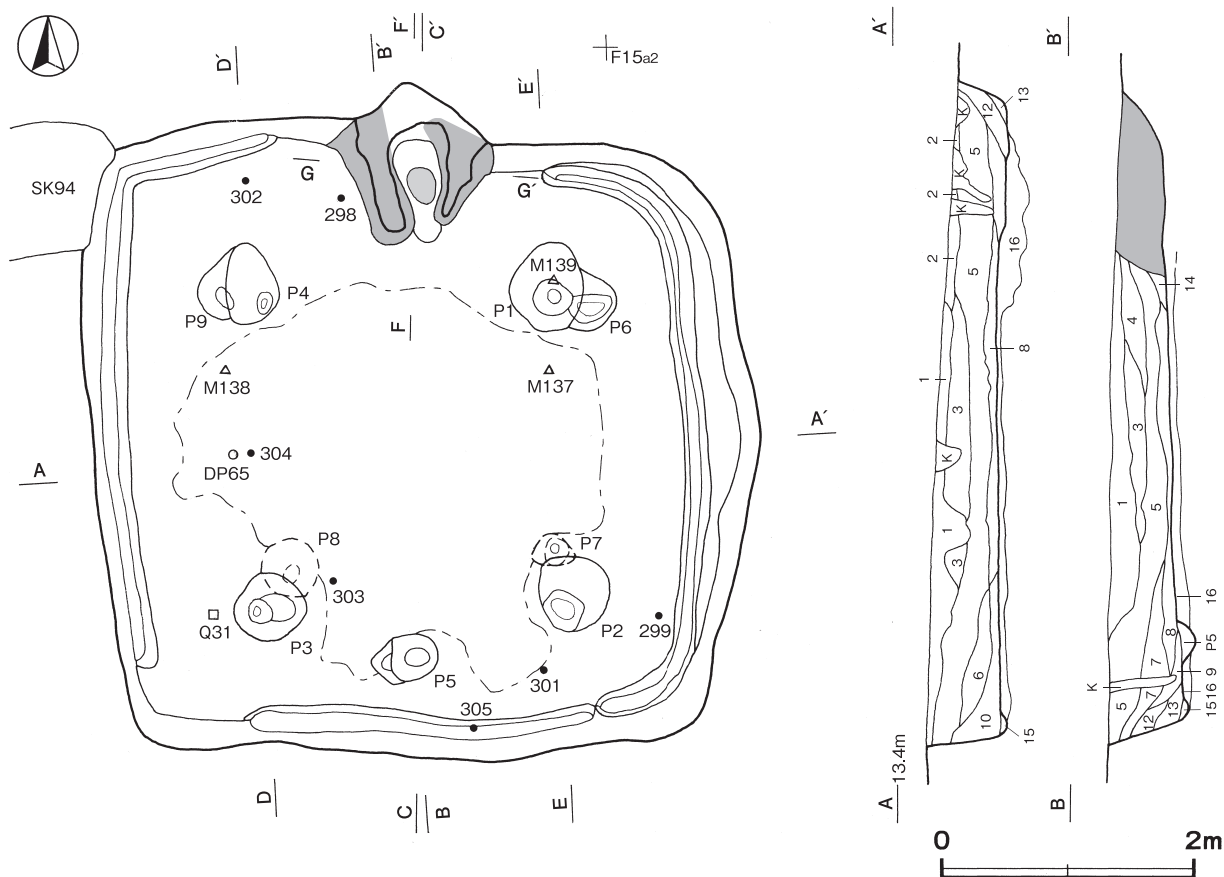
覆土 15 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。第 16 層は, 貼床の構築土である。

土層解説

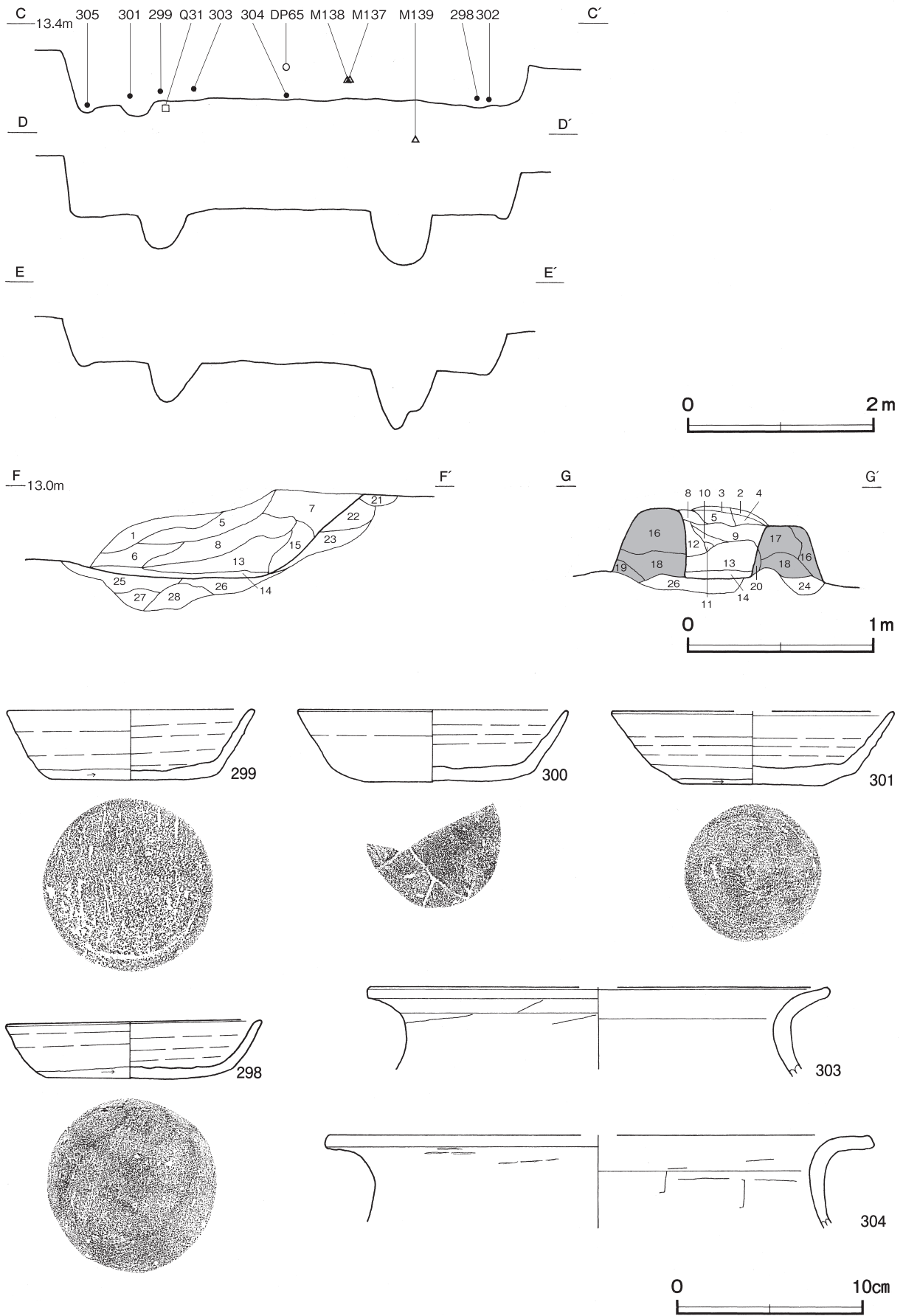
1 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 黒褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	11 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 極暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック少量
8 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 1741 点 (坏 257, 甕類 1480, 小形甕 1, 甌 3), 須恵器片 181 点 (156 坏, 蓋 22, 壺 3), 土製品 1 点 (支脚), 石製品 1 点 (砥石), 鉄製品 5 点 (刀子 1, 鎌 1, 手鎌 1, 不明 2), 鉄滓 38 点 (292g) が, 全面的覆土上層から床面にかけて出土している。また, 貼床の構築土内から土師器片 27 点 (坏 6, 甕類 21), 須恵器片 7 点 (坏 6, 蓋 1) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 29 点 (深鉢) も出土している。Q31 は南西部の床面から出土している。298 は竈の西側, 299 は南東部の覆土下層から, 正位の状態でそれぞれ出土している。302 は北西部の覆土下層から, 横位の状態で出土している。304 は西部, 303 は南西部, 301 は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。305 は南部の壁溝の覆土下層から出土している。M139 は P1 の覆土中層から出土している。M137 は東部, DP65・M138 は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。300 は覆土中から出土している。

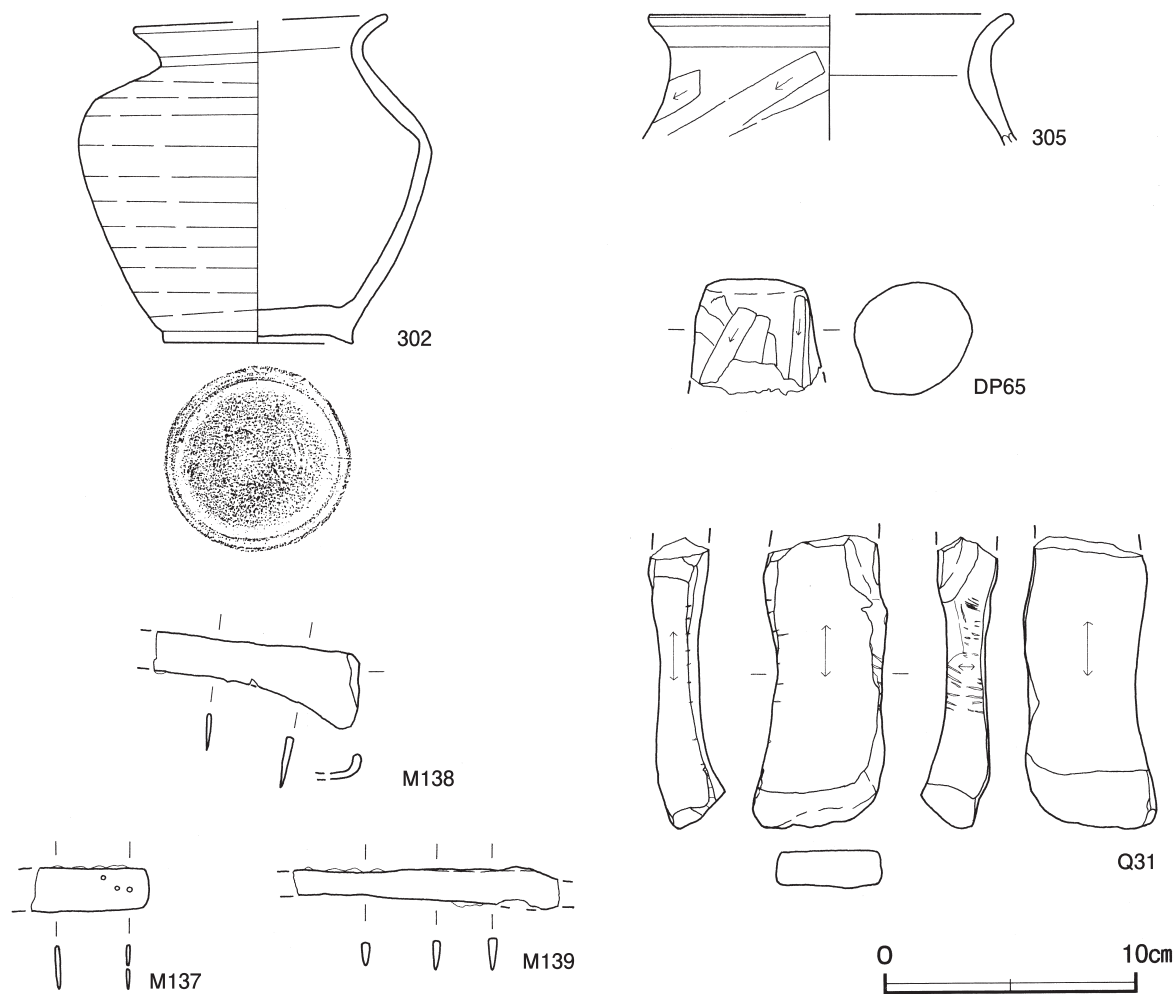
所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。



第 137 図 第 64 号住居跡実測図



第 138 图 第 64 号住居跡・出土遺物実測図



第 139 図 第 64 号住居跡出土遺物実測図

第 64 号住居跡出土遺物観察表 (第 138・139 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
298	須恵器	坏	13.7	3.2	9.1	長石・石英	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	90% PL37
299	須恵器	坏	13.2	3.9	9.2	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	80% PL37
300	須恵器	坏	14.4	3.9	-	長石・石英	灰白	普通	底部二方向のヘラ削り後ナデ	覆土中	70%
301	須恵器	坏	[15.2]	4.0	7.4	長石・石英	灰白	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
302	須恵器	壺	[10.0]	13.1	7.4	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	90% PL38
303	土師器	甕	[24.6]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5%
304	土師器	甕	[29.2]	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ヘラナデ・工具痕	覆土下層	5%
305	土師器	小形甕	[14.2]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り	壁溝覆土下層	5%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP65	支脚	(4.6)	3.9	(5.0)	(96.3)	長石・石英	下部欠損 ヘラナデ 指頭圧痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 31	砥石	(11.6)	5.3	3.0	(175)	凝灰岩	断面長方形 側面に条線状の研痕	床面	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M137	手鎌	(4.7)	1.7	0.2	(4.5)	鉄	一方の端部欠損 端部に孔3か所	覆土中層	
M138	鎌	(8.2)	3.9	0.3	(20.4)	鉄	断面三角形 端部折り返し 刃部先端欠損	覆土中層	PL46
M139	刀子	(10.6)	1.7	0.4	(20.7)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形	P1 覆土中層	

第65号住居跡（第140図）

位置 調査区東部のF 15e2区，標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸2.70m，短軸2.31mの長方形で，主軸方向はN-13°-Wである。壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で，出入り口から中央部にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は，北東側を除くコーナー部を土坑状に掘りくぼめ，ローム粒子主体の第6・7層を埋土して構築されている。出入り口付近の床面上に，焼土塊を検出した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cmで，燃焼部幅は40cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cm掘り込んで，ローム粒子，粘土粒子を含んだ第8層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ45cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子微量
2 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	6 暗褐色	焼土粒子少量
3 暗褐色	焼土粒子微量	7 褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4 褐色	焼土ブロック微量	8 暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量

ピット 深さ17cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径47cm，短径42cmの楕円形で，深さは22cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	2 暗褐色	ローム粒子少量
-------	-------------------------	-------	---------

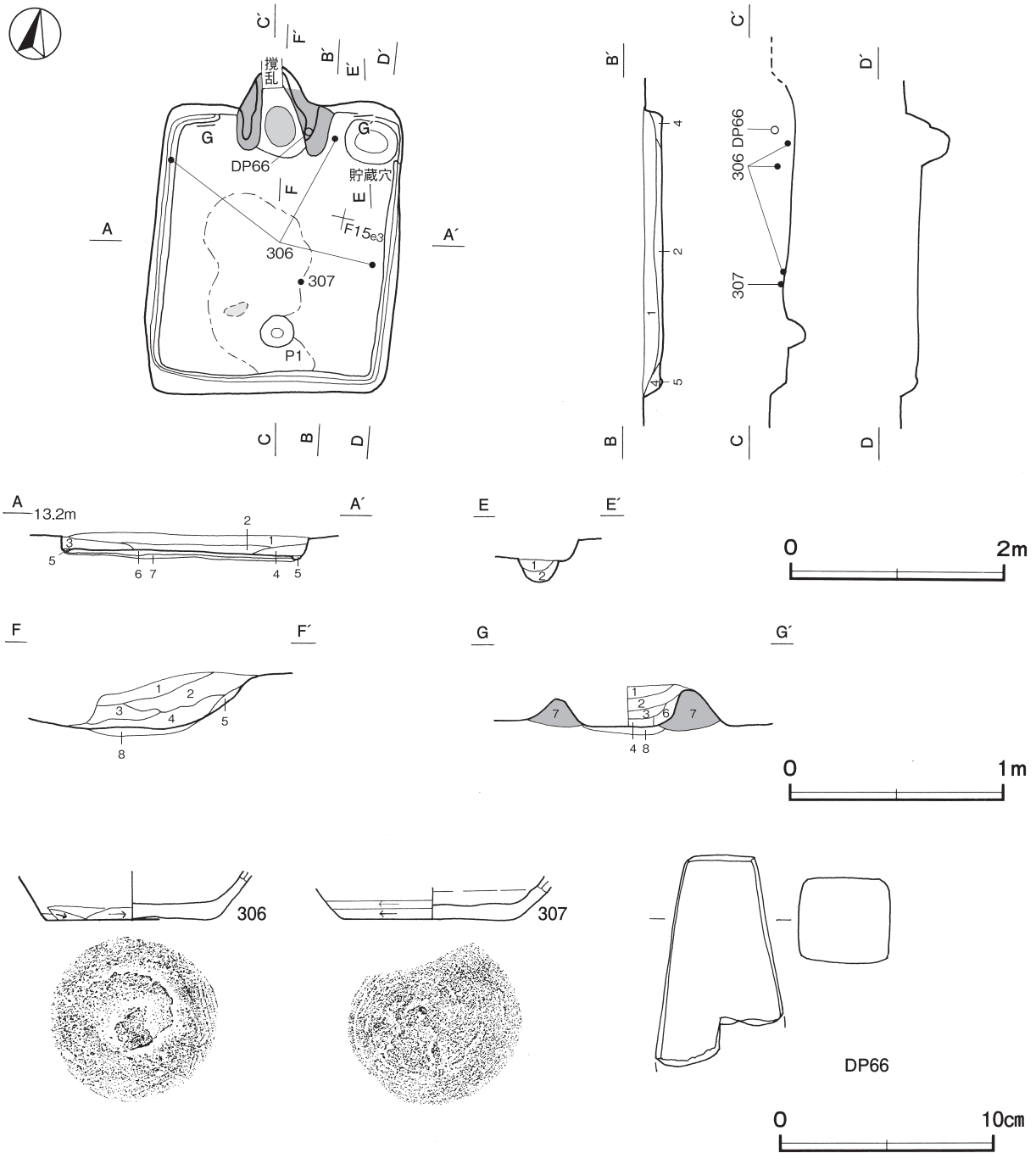
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第6・7層は，貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
		7 暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片74点（坏7，甕類67），須恵器片15点（坏12，甕類3），土製品1点（支脚），焼成粘土塊4点，鉄滓1点（5g）が出土している。また，貼床の構築土内から土師器1点（甕類）が出土している。307は中央部の床面から，正位の状態で出土している。306は竈の東側と東部及び北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。DP66は竈の覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉に比定できる。検出した焼土塊は，床面に焼けた様子がないことから，住居廃絶後の埋め土に混入したものとみられる。



第 140 図 第 65 号住居跡・出土遺物実測図

第 65 号住居跡出土遺物観察表 (第 140 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
306	須恵器	坏	-	(2.3)	8.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す二方向のヘラ削り	覆土下層	30%
307	須恵器	坏	-	(1.6)	8.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	60%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP66	支脚	(9.9)	3.4	(5.6)	(234)	長石・石英・赤色粒子	断面方形 下部欠損 ナデ	竈覆土中層	PL42

表5 奈良時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
4	F11b7	[方形・長方形]	N-23°-W	(3.84)×(3.04)	58~65	平坦	一部	-	1	-	-	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄滓	8世紀中葉	
5	E11j8	[方形・長方形]	N-10°-E	3.58×(3.15)	55~65	平坦	一部	1	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 石器	8世紀中葉	
7	F15i9	方形	N-32°-E	3.72×3.49	18~23	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SI8→本跡
9	G15a0	[方形・長方形]	-	(3.70)×(2.50)	15~28	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器, 須恵器, 鉄滓	8世紀中葉	
13	E11i9	[方形・長方形]	N-24°-W	(3.78)×(2.23)	45~58	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	
14	E11go	[方形・長方形]	N-5°-W	5.35×(4.27)	20~33	平坦	一部	8	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄製品	8世紀後葉	SI15→本跡
15	E11h0	[方形・長方形]	N-25°-W	(3.00)×(2.40)	30~36	平坦	一部	1	-	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	8世紀前葉	本跡→SI14
17	D12i5	隅丸方形	N-18°-W	3.76×3.44	48~65	平坦	一部	3	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉	
28	E13g0	隅丸長方形	N-30°-W	3.73×3.28	11~15	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉	
30	E14i1	方形	N-27°-W	5.65×5.49	15~30	平坦	一部	9	2	-	竈2	1	自然	土師器, 須恵器, 鉄滓	8世紀中葉	本跡→SI31
33	F14a2	長方形	N-15°-W	5.85×5.24	28~34	平坦	ほぼ全周	8	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 鉄製品	8世紀後葉	SI35→本跡
36	F13a0	隅丸方形	N-62°-E	2.31×2.27	16~18	平坦	-	-	-	6	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 鉄製品	8世紀前葉	
37	F14c2	[方形・長方形]	N-10°-W	4.38×(3.87)	27~45	平坦	一部	5	-	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄滓	8世紀後葉	
40	E14i8	長方形	N-9°-E	4.88×4.00	38~50	平坦	ほぼ全周	4	1	4	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 鉄製品, 鉄滓	8世紀後葉	
42	E15i1	方形	N-17°-W	3.80×3.66	35~45	平坦	全周	4	1	3	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 石器	8世紀後葉	SI41→本跡
44	E15i2	長方形	N-8°-W	3.86×3.50	20~42	平坦	-	-	1	1	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品	8世紀後葉	
45	F15a3	五角形	N-8°-W	3.78×3.48	35~45	平坦	一部	-	2	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	SI46→本跡→SK73
47	F14a8	方形	N-8°-E	3.86×3.75	45~60	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 鉄製品, 鉄滓	8世紀後葉	SI48→本跡
49	F14b7	方形	N-2°-E	3.78×3.55	37~45	平坦	ほぼ全周	-	2	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品	8世紀中葉	
51	F15c4	方形	N-1°-W	3.15×3.03	36~40	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉	
52	F15d4	隅丸方形	N-10°-W	3.80×3.62	30~36	平坦	ほぼ全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 鉄製品, 鉄滓	8世紀前葉	
53	F15g6	[方形・長方形]	N-15°-W	3.12×(2.75)	35~48	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	
56	F15c1	不整形	N-3°-W	4.52×4.32	35~50	平坦	一部	4	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄製品	8世紀中葉	SI60・61→本跡
57	F15f2	[隅丸方形・隅丸長方形]	N-3°-W	3.80×(3.30)	15~30	平坦	[全周]	1	-	2	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	SI63→本跡
58	F15e4	隅丸方形	N-12°-W	3.74×3.60	5~11	平坦	一部	1	1	2	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 鉄製品	8世紀後葉	
64	F15a1	隅丸方形	N-4°-W	5.28×5.05	46~57	平坦	ほぼ全周	8	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 鉄製品	8世紀前葉	本跡→SK94
65	F15e2	長方形	N-13°-W	2.70×2.31	15~20	平坦	ほぼ全周	-	1	-	竈1	1	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀中葉	

(2) 土坑

第58号土坑 (第141図)

位置 調査区中央部のE14j3区, 標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第32号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00m, 短径0.68mの不整形円形で, 長径方向はN-63°-Eである。深さは24cmで, 底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

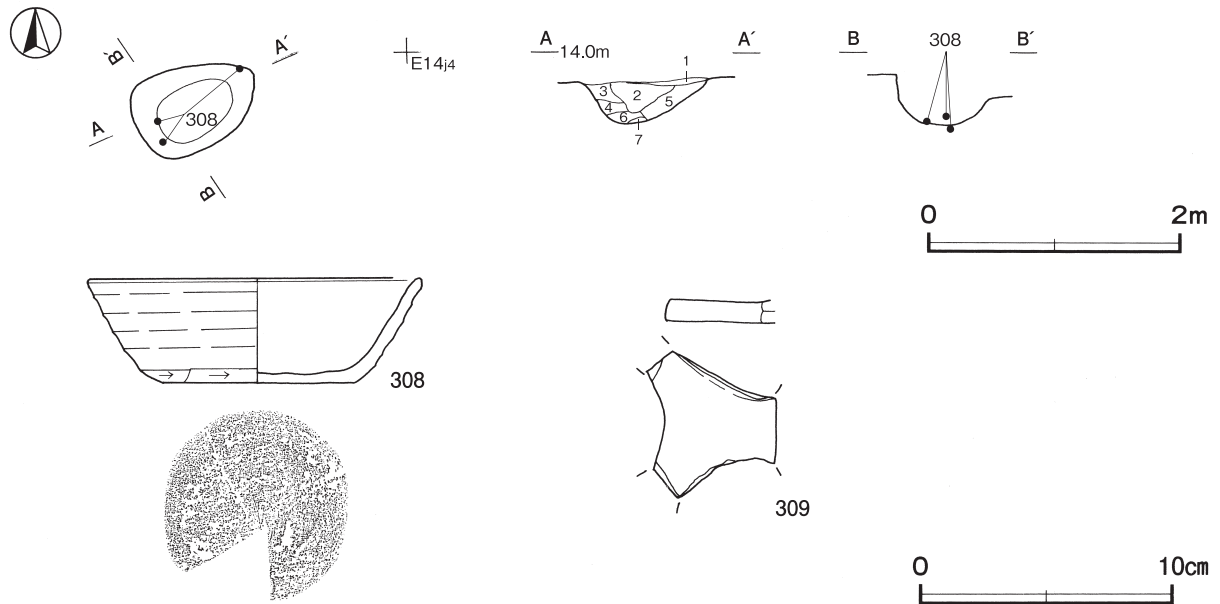
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片12点(坏3, 甕類9), 須恵器片2点(坏, 甌)が出土している。308は東部及び西部の底面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。309は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



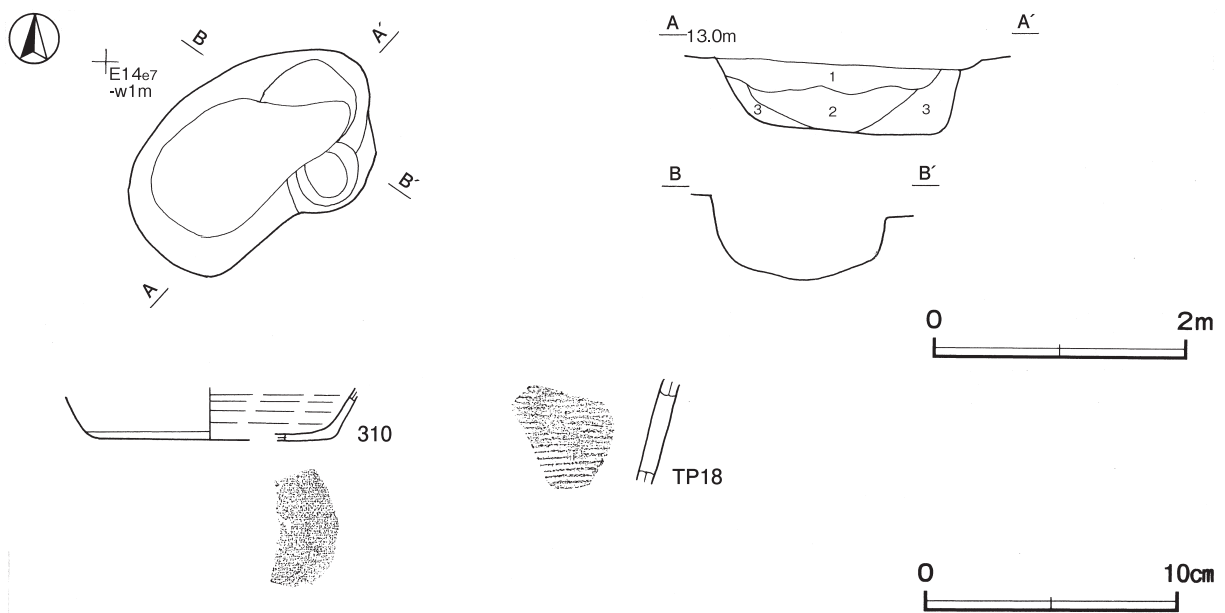
第 141 図 第 58 号土坑・出土遺物実測図

第 58 号土坑出土遺物観察表 (第 141 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
308	須恵器	坏	13.0	4.2	7.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	底面 覆土下層	70% PL37
309	須恵器	甌	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部5孔式カ	覆土中	5%

第 64 号土坑 (第 142 図)

位置 調査区東部の E 14e7 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。



第 142 図 第 64 号土坑・出土遺物実測図

重複関係 第39号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.14m、短径1.26mの楕円形で、長径方向はN-51°-Eである。深さは50cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片63点(坏9, 甕類54), 須恵器片7点(坏4, 甕類3), 鉄滓4点(34.8g)が出土している。310・TP18は覆土中からそれぞれ出土している。

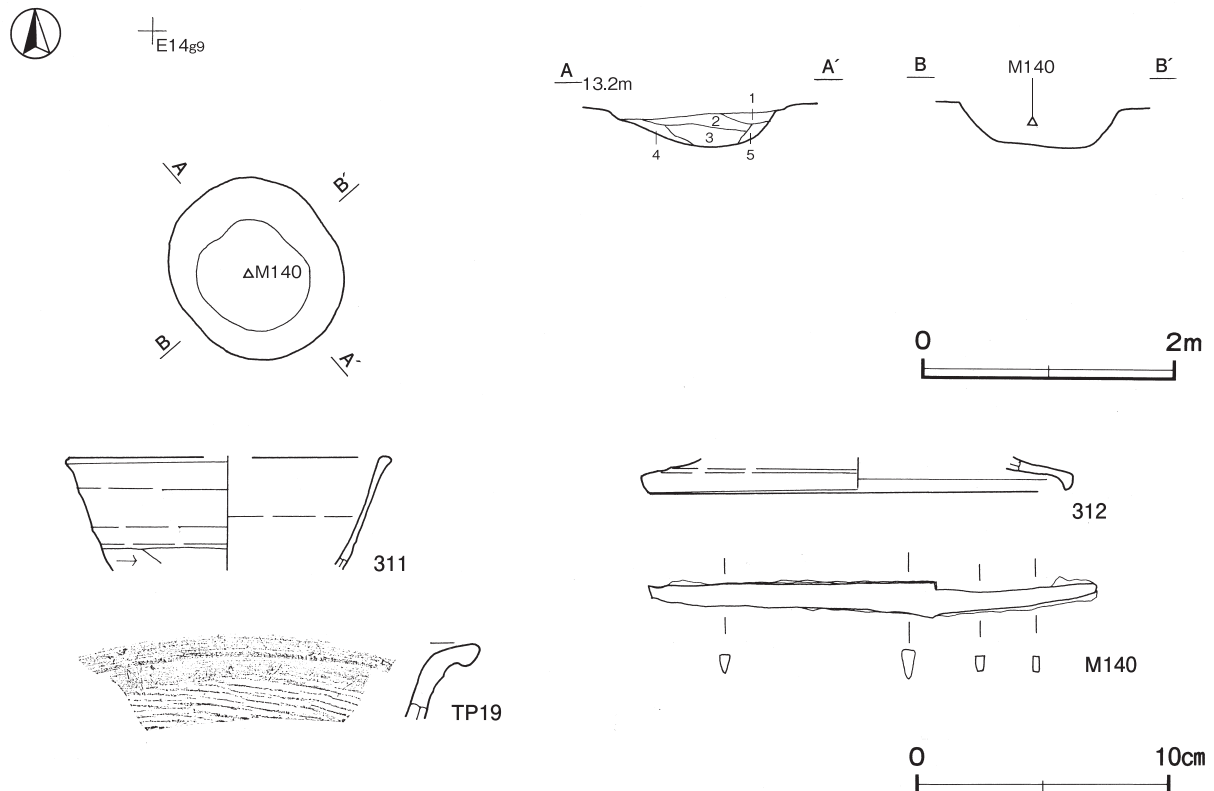
所見 時期は、出土土器から8世紀前葉とみられる。

第64号土坑出土遺物観察表 (第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
310	須恵器	坏	-	(2.1)	[7.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土中	20%
番号	種別	器種	胎土		色調	手法の特徴ほか			出土位置	備考	
TP18	須恵器	甕	長石・石英		灰	体部横位の平行叩き			覆土中		

第72号土坑 (第143図)

位置 調査区東部のE14g9区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。



第143図 第72号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 1.48 m, 短径 1.30 m の楕円形で, 長径方向は N - 40° - W である。深さは 32cm で, 底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|---------|-----------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 47 点 (坏 1, 甕類 46), 須恵器片 11 点 (坏 7, 蓋 1, 甕類 3), 鉄製品 1 点 (刀子), 鉄滓 15 点 (161g) が出土している。M 140 は中央部の覆土中層から出土している。311・312・TP19 は覆土中からそれぞれで出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 72 号土坑出土遺物観察表 (第 143 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
311	須恵器	坏	[12.8]	(4.5)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	20%
312	須恵器	蓋	16.4	(1.4)	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部ロクロナデ	覆土中	10%

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
TP19	須恵器	甕	長石・石英	褐灰	体部横位の平行叩き	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M140	刀子	17.8	1.4	0.5	18.6	鉄	両区部断面三角形 茎部断面長方形	覆土中層	PL45

第 95 号土坑 (第 144・145 図)

位置 調査区東部の F 15c8 区, 標高 11 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径 3.34 m, 短径 3.28 m の不定形で, 長径方向は N - 10° - E である。深さは 70cm で, 底面は平坦である。壁は段を有し, 外傾して立ち上がっている。

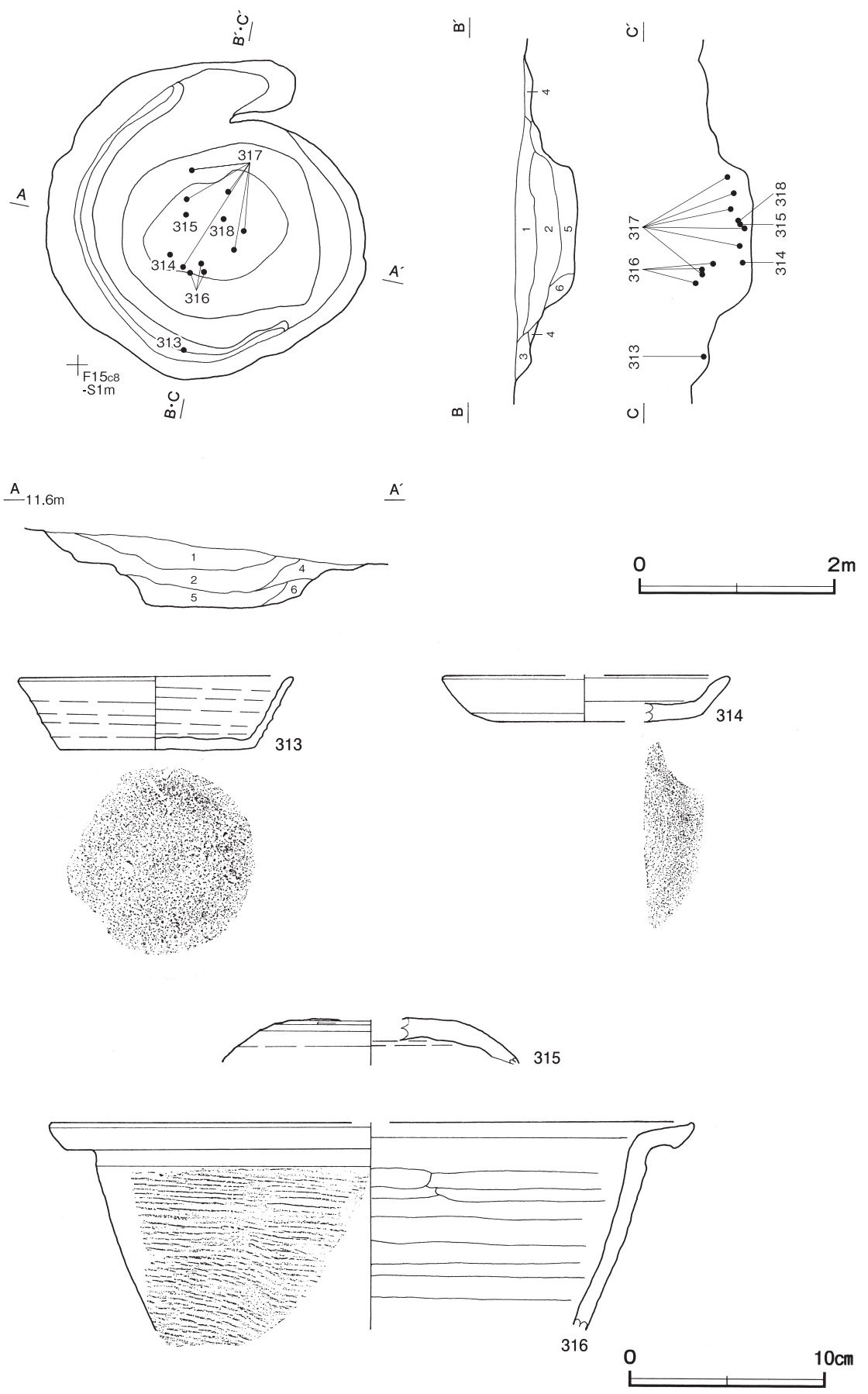
覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

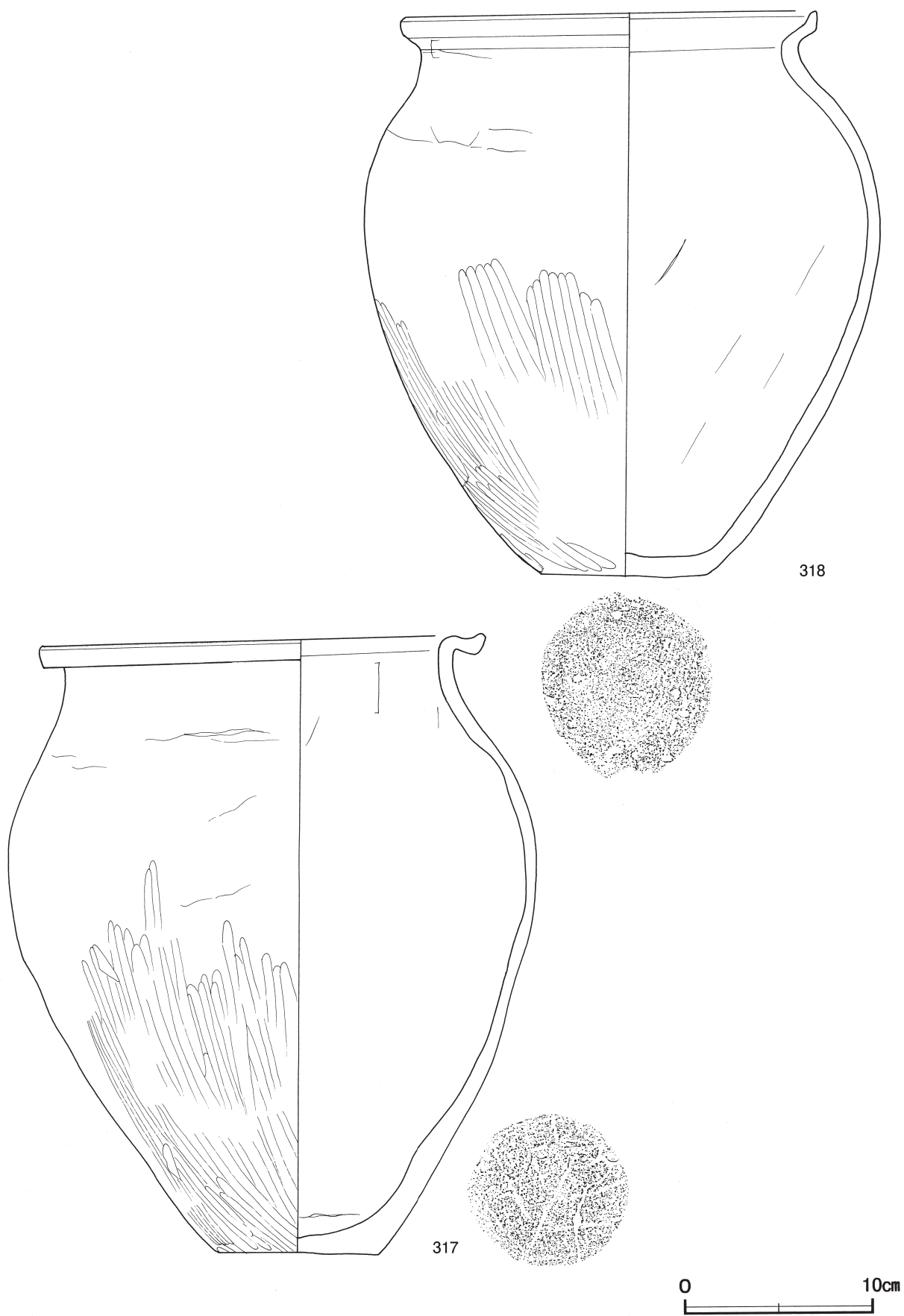
- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 1171 点 (坏 129, 椀 1, 甕類 1041), 須恵器片 57 点 (坏 44, 皿 1, 蓋 1, 鉢 11), 石器 1 点 (砥石), 焼成粘土塊 1 点, 鉄滓 215 点 (6200g) が, 中央部の覆土中層から下層にかけて出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 1 点 (深鉢), 石器 1 点 (敲石), 石製品 2 点 (管玉 1, 白玉 1) も出土している。313 は南部, 314・315・318 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。317 は中央部の覆土中層から出土している。316 は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。覆土中層から下層にかけて, 多量の土器片が投棄された状態で出土しており, 8 世紀中葉に廃棄土坑として使用した後, 埋め戻された可能性が考えられる。



第 144 图 第 95 号土坑·出土遺物実測図



第 145 图 第 95 号土坑出土遗物实测图

第 95 号土坑出土遺物観察表 (第 144・145 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
313	須恵器	坏	13.9	3.8	10.0	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	底部二方向のヘラ削り	覆土下層	70% PL37
314	須恵器	盤カ	[14.6]	2.4	[12.0]	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	30%
315	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
316	須恵器	鉢	[32.8]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部横位の平行叩き 内面ナデ	覆土上層	10%
317	土師器	甕	23.3	33.1	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下半縦位のヘラ磨き 内面工具痕 底部木葉痕	覆土中層	80% PL38
318	土師器	甕	21.8	30.2	9.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下半縦位のヘラ磨き 外・内面工具痕	覆土下層	70% PL38

表 6 奈良時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
58	E14j3	N-63°-E	不整楕円	1.00×0.68	24	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI32→本跡
64	E14e7	N-51°-E	楕円形	2.14×1.26	50	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI39→本跡
72	E14g9	N-40°-W	楕円形	1.48×1.30	32	皿状	外傾	自然	土師器, 須恵器, 鉄製品	
95	F15c8	N-10°-E	不定形	3.34×3.28	70	平坦	有段・外傾	人為	土師器, 須恵器, 石器, 鉄滓	

4 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡 4 軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第 1 号住居跡 (第 146・147 図)

位置 調査区南西部の G 10i8 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

確認状況 東西両側が調査区域外になっており、調査区幅が 1 m 未満の範囲で竈と東壁の一部を確認した。竈の北側及び南コーナー部に当たる壁が攪乱を受けている。

規模と形状 大半が調査区域外へ延びており、攪乱を受けていることなどから、南北軸は 1.05 m、東西軸は 0.55 m しか確認できなかった。

竈 東壁に付設されていたと考えられる。煙道の突端部が調査区域外へ延びているため、規模は燃焼部幅が 25cm で、焚口部から煙道部までは 85cm しか確認できなかった。袖部は砂質粘土を主体とした第 5 層を積み上げて構築され、右袖部の内面には土師器片を貼り付けて補強している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 55cm 掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。火床部の煙道よりには、安山岩製の直径 15cm、高さ 20cm ほどの円柱状の石が据えられ、上部には土師器の高台付椀が 2 個重ねて伏せた状態で出土した。支脚として使用されていたと思われる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

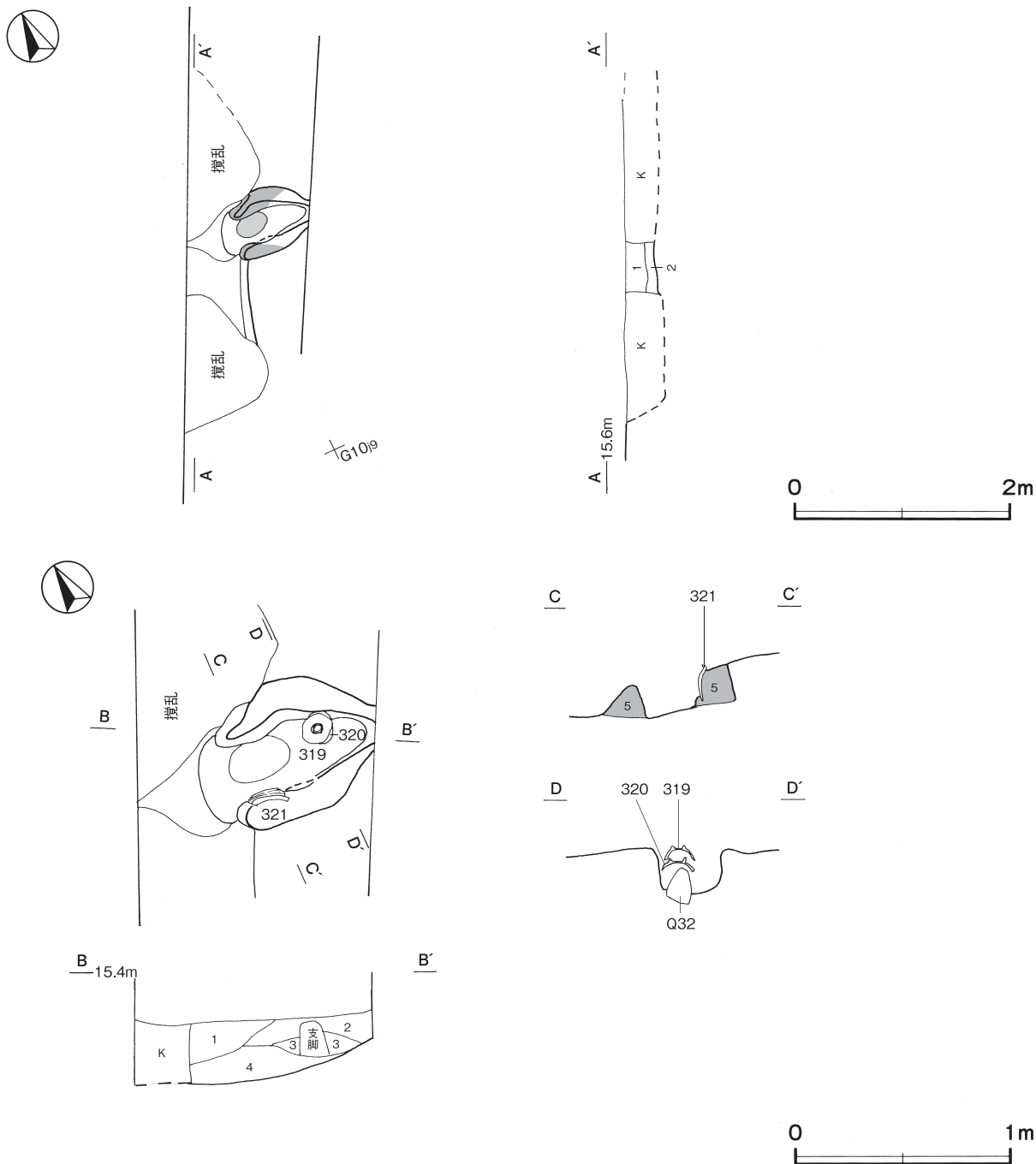
覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

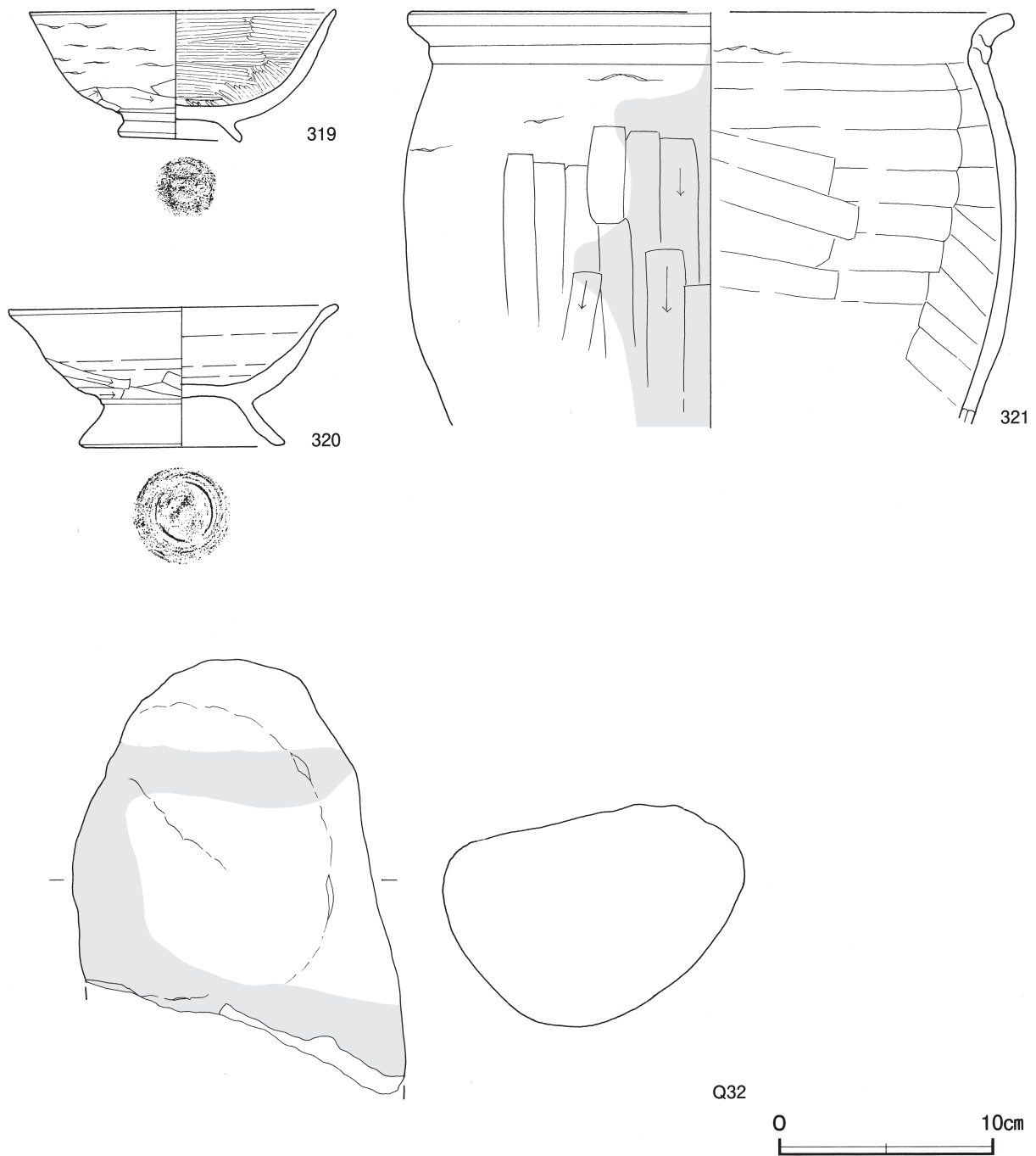
- 1 黒 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 19 点 (坏 1, 高台付碗 2, 甕類 16), 須恵器片 1 点 (甕類), 石器 1 点 (支脚) が出土している。Q 32 は火床部の奥の中央部にほぼ垂直に据えられた状態で出土した。320 は Q32 の上部に, 319 は更にその上部に, とともに伏せた状態で出土している。321 は竈の右袖部の内側に貼られた状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 146 図 第 1 号住居跡実測図



第 147 図 第 1 号住居跡出土遺物実測図

第 1 号住居跡出土遺物観察表 (第 147 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
319	土師器	高台付碗	14.3	6.2	5.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面輪積痕を残すロクロナデ。内面横位のヘラ磨き。下端手持ちヘラ削り後、高台貼り付け	竈火床面	95% PL39
320	土師器	高台付碗	15.4	6.6	9.0	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端高台貼り付け後、ヘラナデ	竈火床面	95% PL39
321	土師器	甕	[28.0]	(19.5)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り・被熱痕。内面ヘラナデ	竈火床面	10%

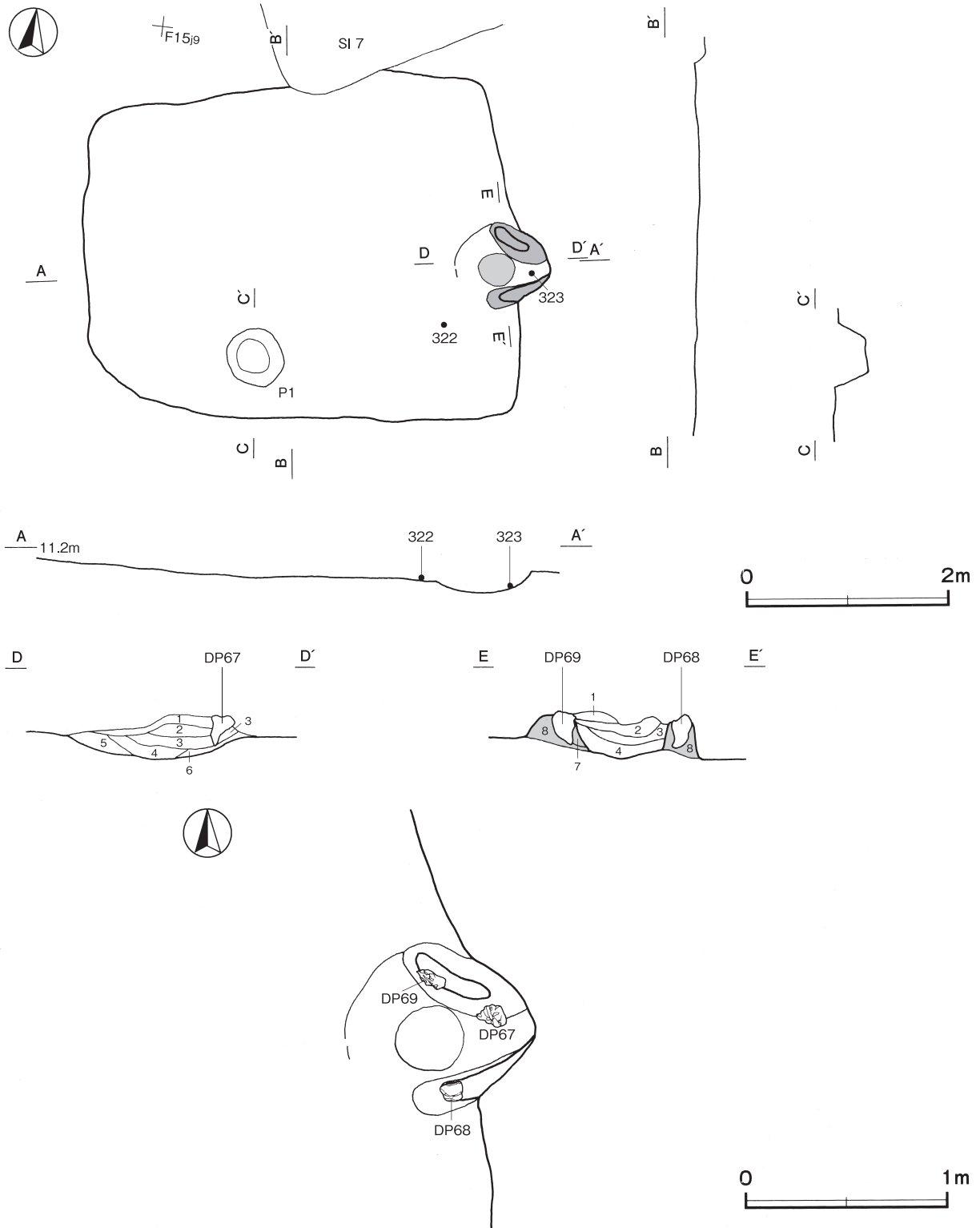
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 32	支脚	(20.4)	5.8	(14.6)	(3440)	安山岩	断面不整楕円形 被熱痕	竈火床面	PL44

第8号住居跡（第148・149図）

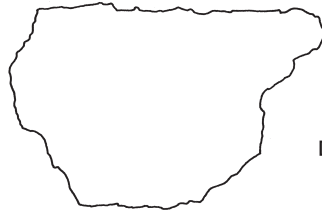
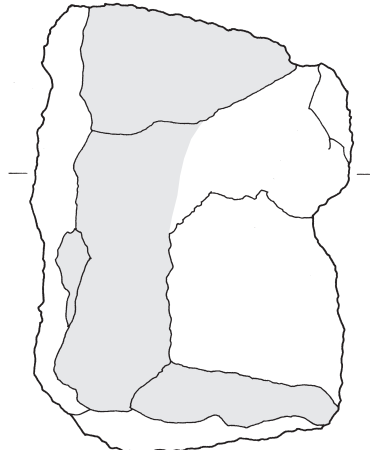
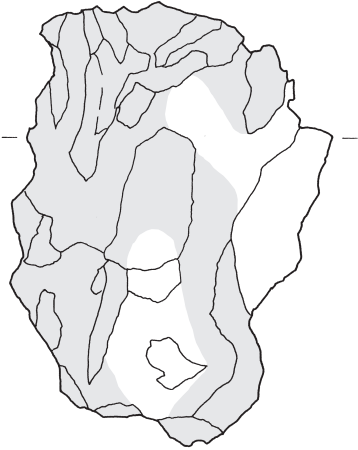
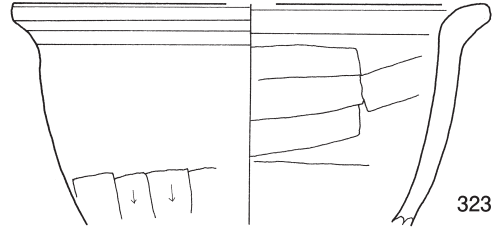
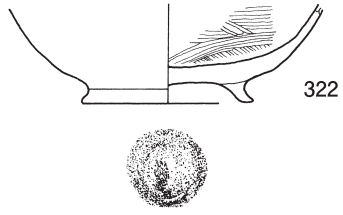
位置 調査区南東部のF 15j9区，標高11mの低地に向かう斜面部に位置している。

重複関係 第7号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m，短軸3.47mの長方形で，主軸方向はN-81°-Eである。確認面では覆土が残っておらず，住居のプランのみを確認した。

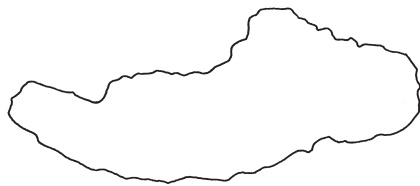
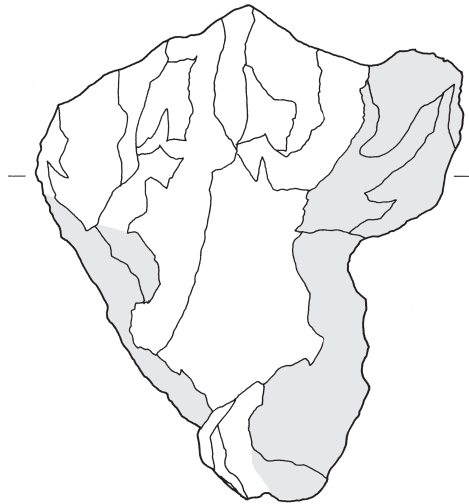


第148図 第8号住居跡実測図



DP67

DP68



DP69



第 149 图 第 8 号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、踏み固められた痕跡は認められない。

竈 東壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cmで、燃焼部幅は20cmである。袖部は製鉄炉の炉壁の一部を芯材としており、左袖に2点、右袖に1点を据え、砂質粘土を主体とした第7・8層を積み上げて構築されている。火床部は床面を12cm掘り込んで使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	にぶい橙色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	極暗褐色	焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	7	極暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8	極暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量

ピット 深さ34cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片56点（坏9、高台付椀7、甕類40）、須恵器片2点（坏1、甕類1）、炉壁3点、鉄滓5点（1720g）が出土している。そのほか、混入した土師器片2点（高坏）も出土している。322は竈の南西部の床面から出土している。323は竈の覆土下層から出土している。DP68は竈の右袖部内、DP67・DP69は左袖部内からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉に比定できる。

第8号住居跡出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
322	土師器	高台付椀	-	(3.9)	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	床面	30%
323	土師器	甕	[18.8]	(8.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP67	炉壁	17.6	13.0	4.6	920	粘土	内面黒色ガラス化気味 外面ガラス質のたれ 胎土はスサ少量の粘土質	竈左袖部内	PL43
DP68	炉壁	17.8	12.9	8.2	1080	粘土	内面灰色に被熱・発砲気味 外面酸化 胎土はスサ少量の粘土質	竈右袖部内	PL43
DP69	炉壁	19.8	17.0	7.0	1180	粘土	内面灰色に被熱・一部酸化 外面酸化 胎土はスサ少量の粘土質	竈左袖部内	PL43

第8号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径10cm以上)	大 (長径4cm以上10cm未満)	中 (長径1cm以上4cm未満)	小 (長径1cm未満)	合計
点数	2	3	-	-	5
重量(g)	1,205	515	-	-	1,720

第31号住居跡（第150～152図）

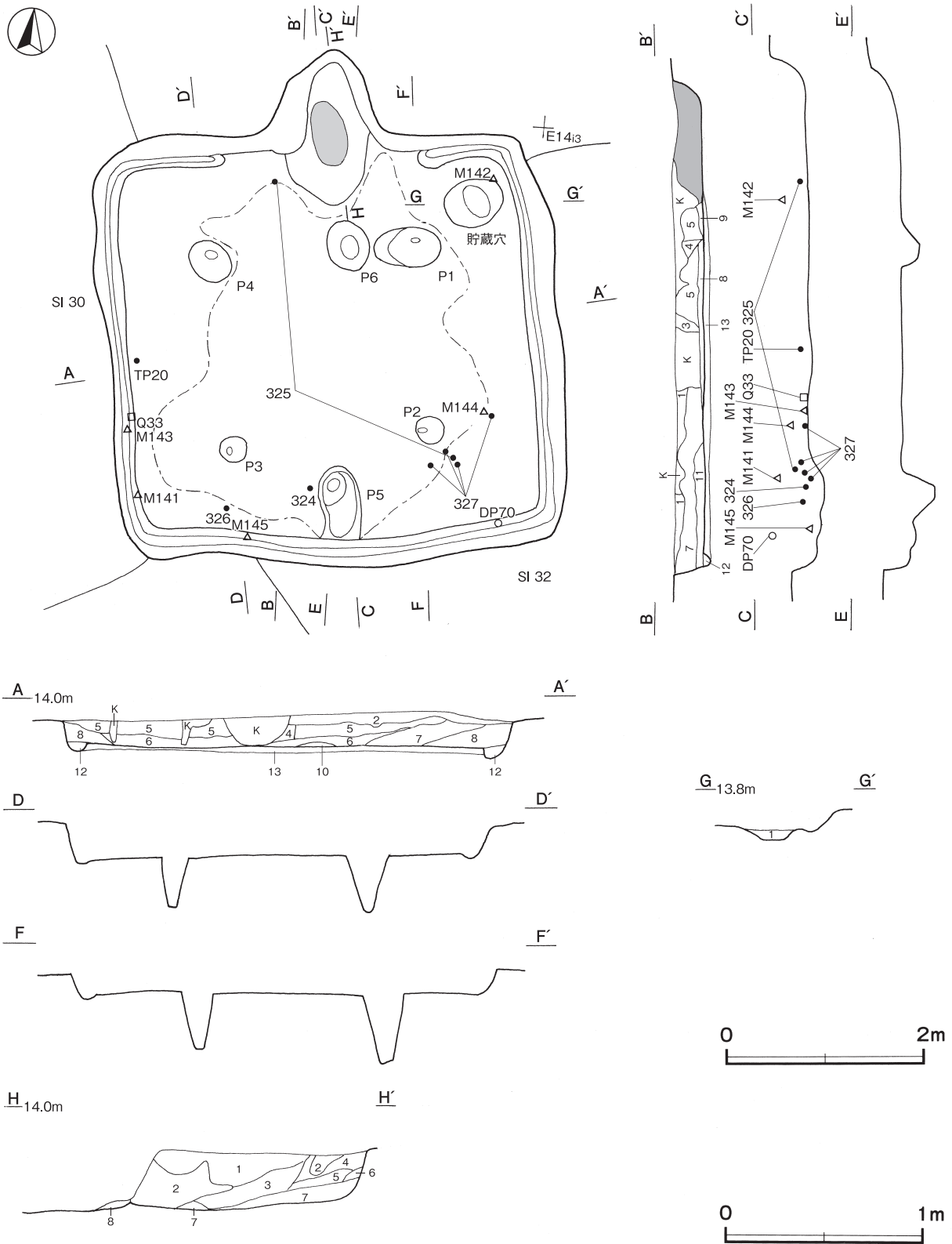
位置 調査区中央部のE14i2区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30・32号住居跡を掘り込んでいる。

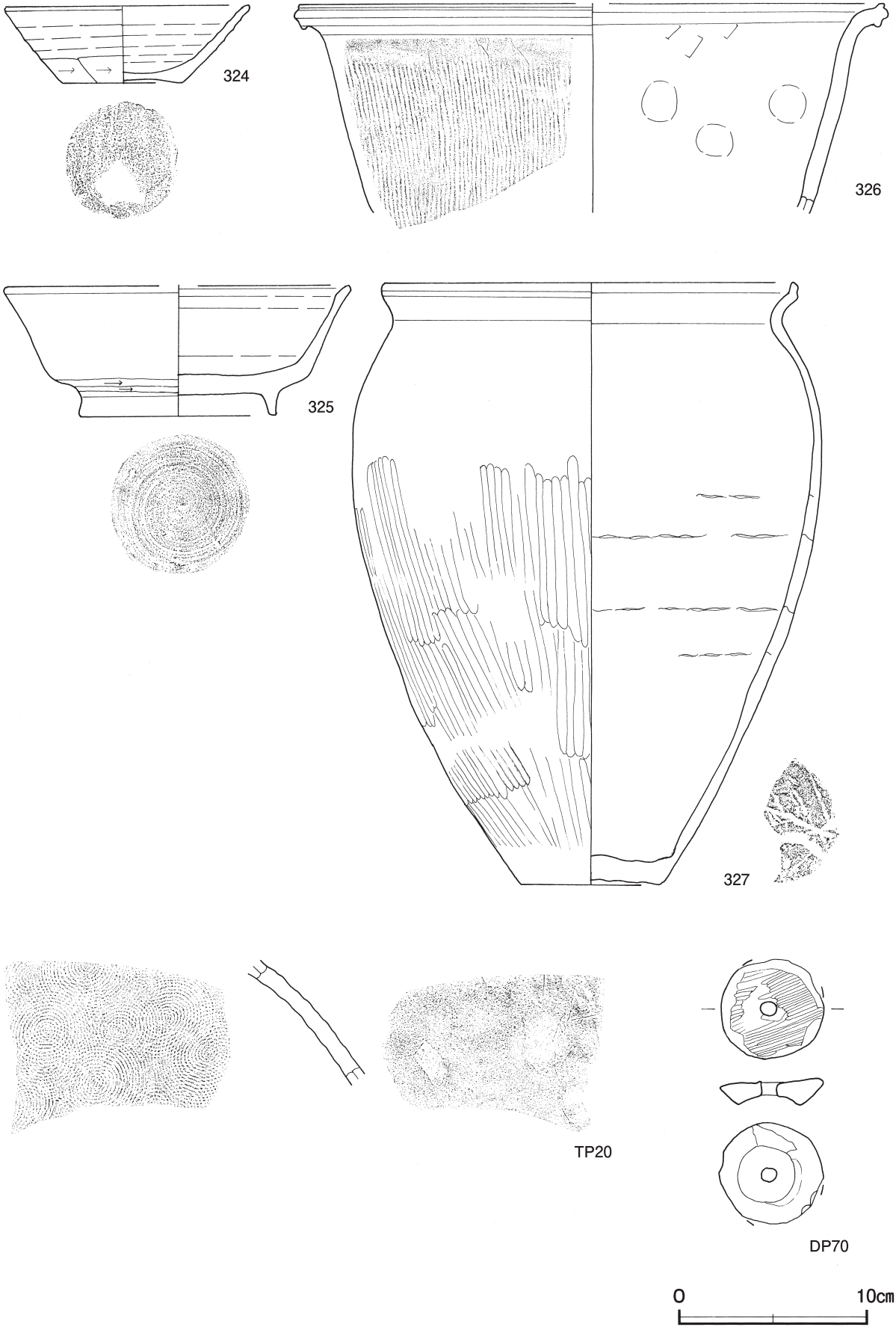
規模と形状 長軸4.68m、短軸4.30mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は13～40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁下を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、四隅を土坑状に掘り込み、ロームブロックを含んだ第13層を埋土して構築されている。

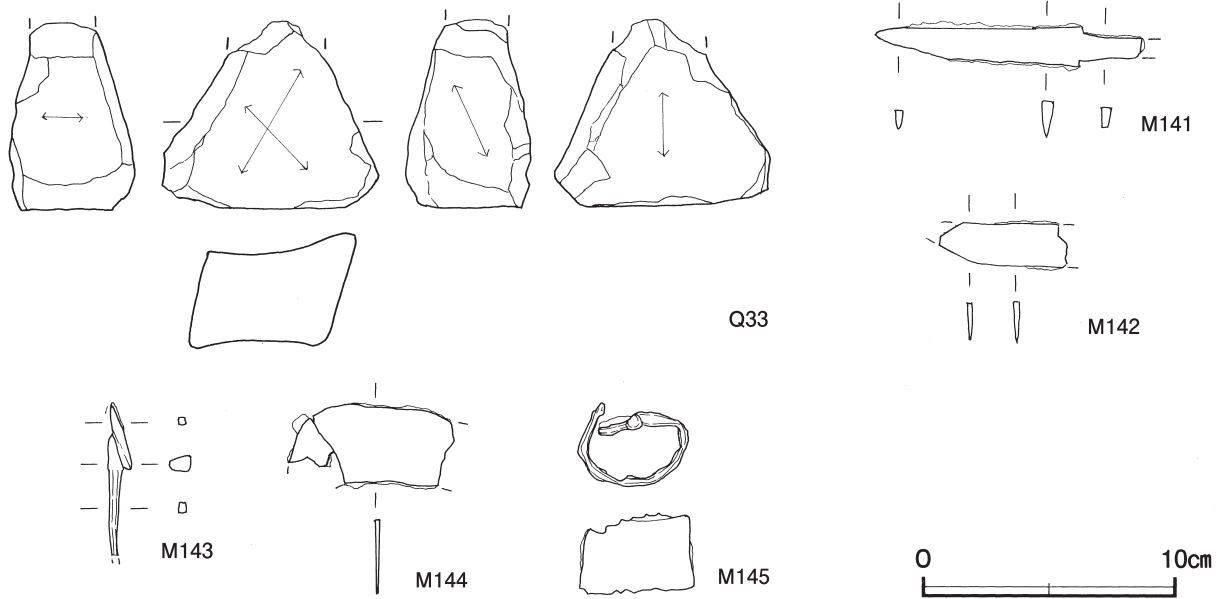
竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 157cmで、 燃焼部幅は 55cmである。袖部は遺存しない。火床部は床面と同じ高さを使用しており、 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 95cm掘り込まれ、 火床部から外傾して立ち上がっている。



第 150 図 第 31 号住居跡実測図



第 151 図 第 31 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 152 図 第 31 号住居跡出土遺物実測図 (2)

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ 57～72cmで、規模と配置から支柱穴である。P 5は深さ 36cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ 18cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 60cm, 短径 50cmの楕円形で、深さは 15cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

覆土 12層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第 13層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 極暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 444 点 (坏 40, 甕類 404), 須恵器片 156 点 (坏 104, 高台付坏 3, 蓋 5, 盤 1, 鉢 9, 壺 1, 甕類 31, 甗 2), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 3 点 (砥石), 鉄製品 7 点 (刀子 2, 鎌 3, 鎌 1, 釘 1), 焼成粘土塊 24 点, 鉄滓 179 点 (2062g) が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 10 点 (坏 1, 甕類 9), 須恵器片 3 点 (坏 2, 甕類 1) が出土している。そのほか、

混入した土師器片1点（高坏），陶器片1点（碗），石器1点（剥片）も出土している。324は，南部の床面から逆位の状態で出土している。325は竈の南西側と南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。327は南東部，326は南西部，TP20は西部，Q33・M143は西壁際，M145は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。M142は北東コーナー部の覆土中層から出土している。DP70・M144は南東部，M141は南西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第31号住居跡出土遺物観察表（第151・152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
324	須恵器	坏	13.0	4.1	6.4	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	80% PL39
325	須恵器	高台付坏	[18.2]	6.9	10.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土下層	70% PL39
326	須恵器	鉢	[31.2]	(11.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部縦位の平行叩き 内面当て具痕	覆土下層	10% PL39
327	土師器	甕	21.7	32.0	[7.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き	覆土下層	70% PL40

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP20	須恵器	甕	長石・石英・雲母	黄灰	体部同心円状の叩き 内面当て具痕・指頭痕	覆土下層	PL40

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP70	紡錘車	(5.5)	1.4	0.8	(37.4)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 上面ヘラ磨き 一方向からの穿孔	覆土上層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q33	砥石	(7.5)	8.5	4.9	(278)	凝灰岩	一部欠損 砥面4面	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M141	刀子	(10.6)	1.6	0.4	(16.5)	鉄	茎部欠損 刃部断面三角形・茎部断面逆台形	覆土上層	PL45
M142	刀子	(5.1)	1.8	0.2	(7.2)	鉄	刃部・茎部欠損 断面三角形	覆土中層	
M143	鎌	(6.1)	(0.9)	0.6	(3.9)	鉄	三角鎌 茎部欠損 鎌身・茎部断面長方形	覆土下層	PL46
M144	鎌	(6.6)	(3.3)	0.2	(11.5)	鉄	両端欠損	覆土上層	
M145	不明	3.2	4.5	0.3	17.3	鉄	帯状の素材を環状に曲げている。	覆土下層	PL46

第31号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径10cm以上)	大 (長径4cm以上10cm未満)	中 (長径1cm以上4cm未満)	小 (長径1cm未満)	合計
点数	-	11	70	98	179
重量(g)	-	1430	1556	196	2062

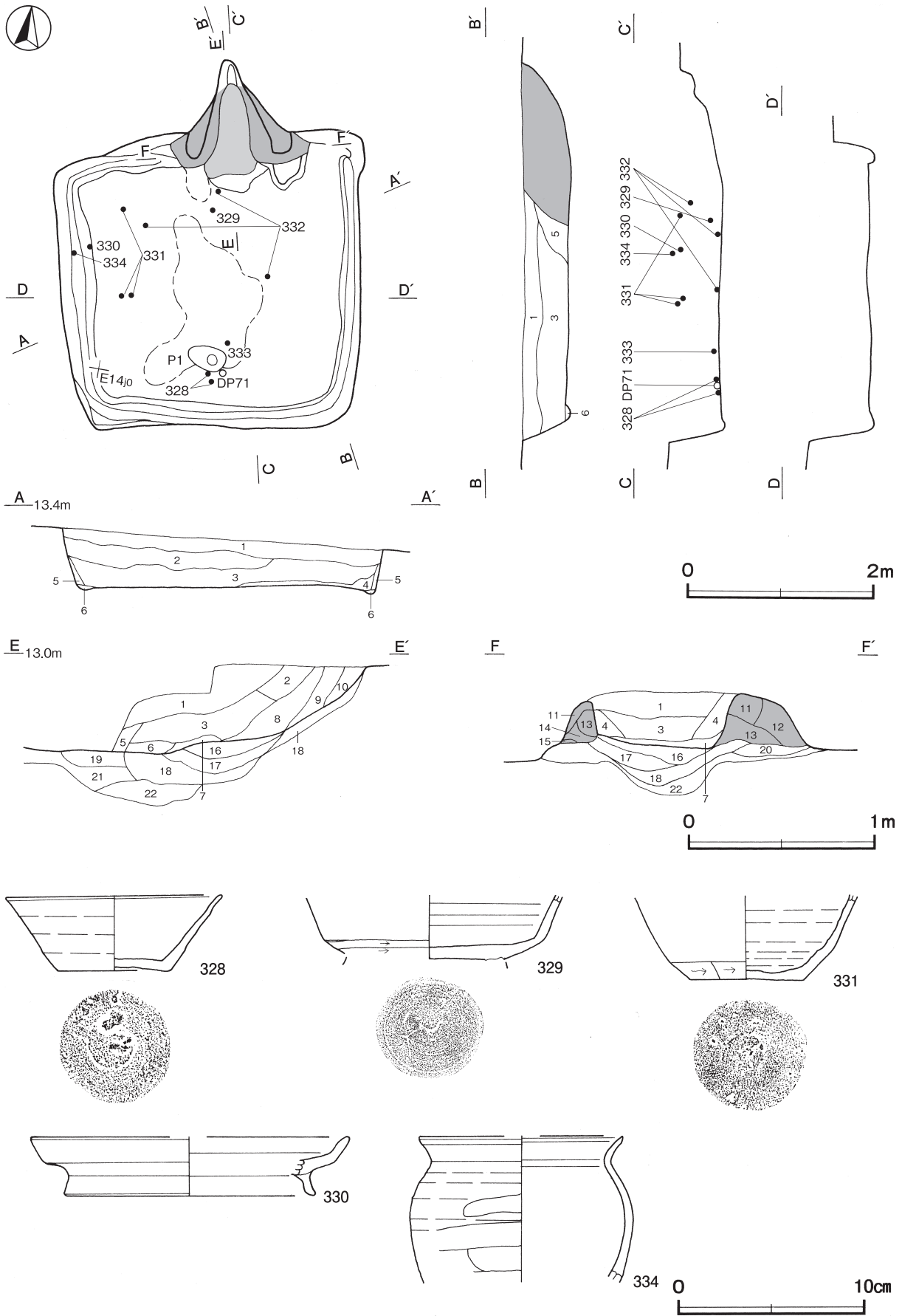
第43号住居跡（第153・154図）

位置 調査区東部のE14i0区，標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

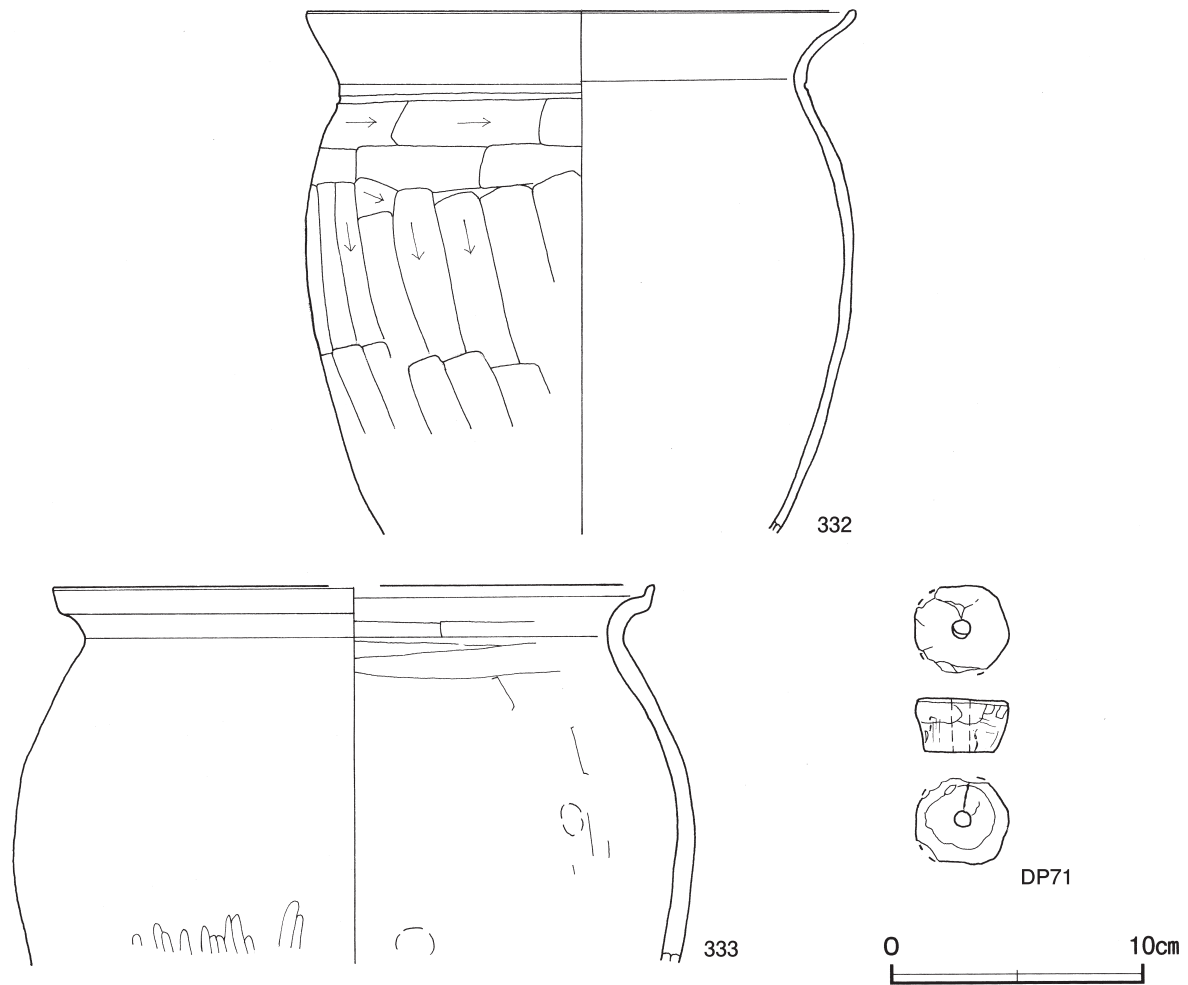
重複関係 第41号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺が3.20mの方形で，主軸方向はN-11°-Wである。壁高は40～55cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。竈の東側を除く壁下には壁溝が巡っている。



第 153 图 第 43 号住居跡・出土遺物実測図



第 154 図 第 43 号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 145cm で、 燃焼部幅は 40cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 11 ～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 25cm 掘り込んで、第 16 ～ 22 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ 78cm 掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	10	黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗 褐 色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
3	暗 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	12	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
4	灰 褐 色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗 褐 色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14	暗 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
6	暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	15	褐 色	ローム粒子中量
7	暗 赤 褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	16	暗 赤 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
8	暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗 赤 褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
9	暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
			19	暗 褐 色	ロームブロック中量
			20	暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
			21	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
			22	暗 褐 色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 深さ 65cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	5	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 677 点 (坏 105, 椀 2, 高坏 3, 甕類 564, 小形甕 1, 甑 2), 須恵器片 234 点 (坏 199, 高台付坏 3, 蓋 9, 盤 1, 鉢 7, 瓶 1, 甕類 14), 土製品 1 点 (紡錘車), 焼成粘土塊 6 点, 鉄滓 649 点 (20,257g) が, 全面の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 6 点 (深鉢), 陶器片 2 点 (碗), 磁器片 1 点 (碗), 石器 1 点 (石斧), 石製品 1 点 (剣形模造品) も出土している。328・DP71 は南部の床面からそれぞれ出土している。332 は竈の前の床面と竈の南西側の覆土上層から出土した破片が接合したものである。329 は竈の前, 333 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。330・331・334 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。

第 43 号住居跡出土遺物観察表 (第 153・154 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
328	須恵器	坏	11.4	4.1	6.0	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削りを残すナデ	床面	85% PL39
329	須恵器	高台付坏	-	(3.4)	-	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 高台部剥離	覆土下層	30%
330	須恵器	盤	[16.8]	3.2	[13.2]	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	覆土上層	10%
331	須恵器	長頸瓶カ	-	(4.5)	6.2	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土上層	20% PL39 自然釉
332	土師器	甕	21.8	(20.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上位横位のヘラ削り 中位斜位のヘラ削り	床面 覆土上層	70% PL40
333	土師器	甕	[23.8]	(15.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ・工具痕 指頭圧痕	覆土下層	20%
334	土師器	小形甕	[10.8]	(7.9)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラナデ	覆土上層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP71	紡錘車	(3.8)	2.2	0.8	30.4	長石・石英	側面ヘラ削り 一方向からの穿孔	床面	PL42

第 43 号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径 10cm 以上)	大 (長径 4cm 以上 10cm 未満)	中 (長径 1cm 以上 4cm 未満)	小 (長径 1cm 未満)	合計
点数	3	54	290	302	649
重量 (g)	1,590	7,020	10,137	1,510	20,257

表 7 平安時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)	
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴					
1	G10i8	-	-	(1.05)×(0.55)	-	-	-	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器, 石器	10 世紀前葉	
8	F15j9	長方形	N-81°-E	4.30×3.47	-	平坦	-	-	1	-	-	竈1	-	-	土師器, 須恵器, 炉壁, 鉄滓	10 世紀前葉	本跡→SI7
31	E14i2	方形	N-5°-W	4.68×4.30	13~40	平坦	ほぼ全周	4	1	1	竈1	1	自然	土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品, 鉄滓	9 世紀前葉	SI30・32→本跡	
43	E14i0	方形	N-11°-W	3.20×3.20	40~55	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄滓	9 世紀前葉	SI41→本跡	

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、伴う遺物が出土していないことから、時期が明らかでない掘立柱建物跡2棟、溝跡14条、炉跡2基、井戸跡3基、土坑95基、ピット群14か所、不明遺構1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第155図)

位置 調査区中央部のE 14g3～E 14h4区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号ピット群のP29と重複しているが、新旧関係は不明である。

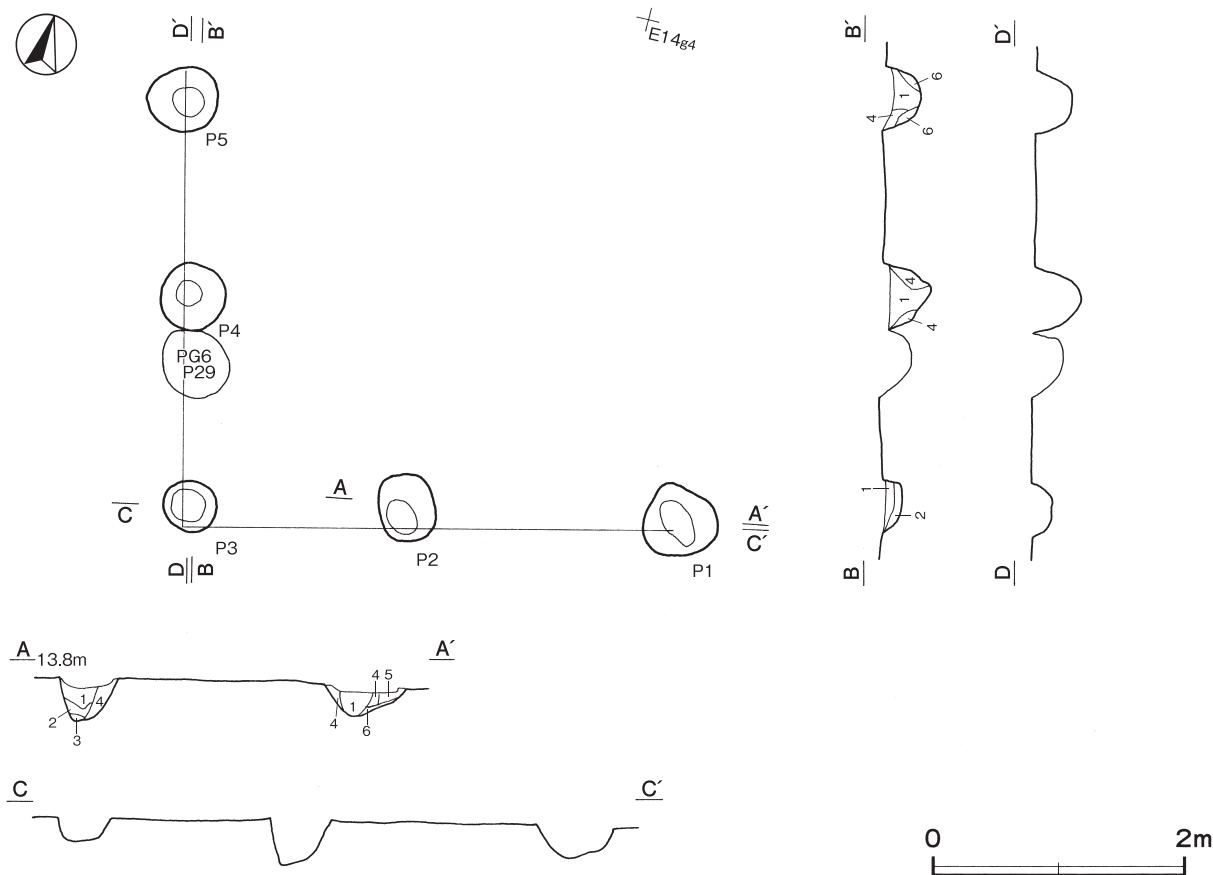
規模と形状 北東コーナー部と北平・東妻の中間柱穴が確認できなかったが、他の柱穴の配置から桁行、梁行ともに2間の側柱建物跡と推定できる。桁行方向はN-77°-Eの東西棟である。規模は桁行3.90m、梁行3.60mで、面積は14.04㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から1.8m(6尺)・2.1m(7尺)で、梁行は1.8m(6尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 5か所。平面形は円形または楕円形で、長径42～60cm、短径41～58cmである。深さ18～44cmで、掘方の断面形は逆台形またはU字形である。土層はいずれも柱の抜き取り後の覆土で、締まりは弱い。

土層解説

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量 | 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量 |

所見 時期は、本跡に伴う出土土器がないため不明である。



第155図 第1号掘立柱建物跡実測図

第2号掘立柱建物跡 (第156図)

位置 調査区中央部のF 13a9～F 13b0区, 標高14mの平坦な台地上に位置している。

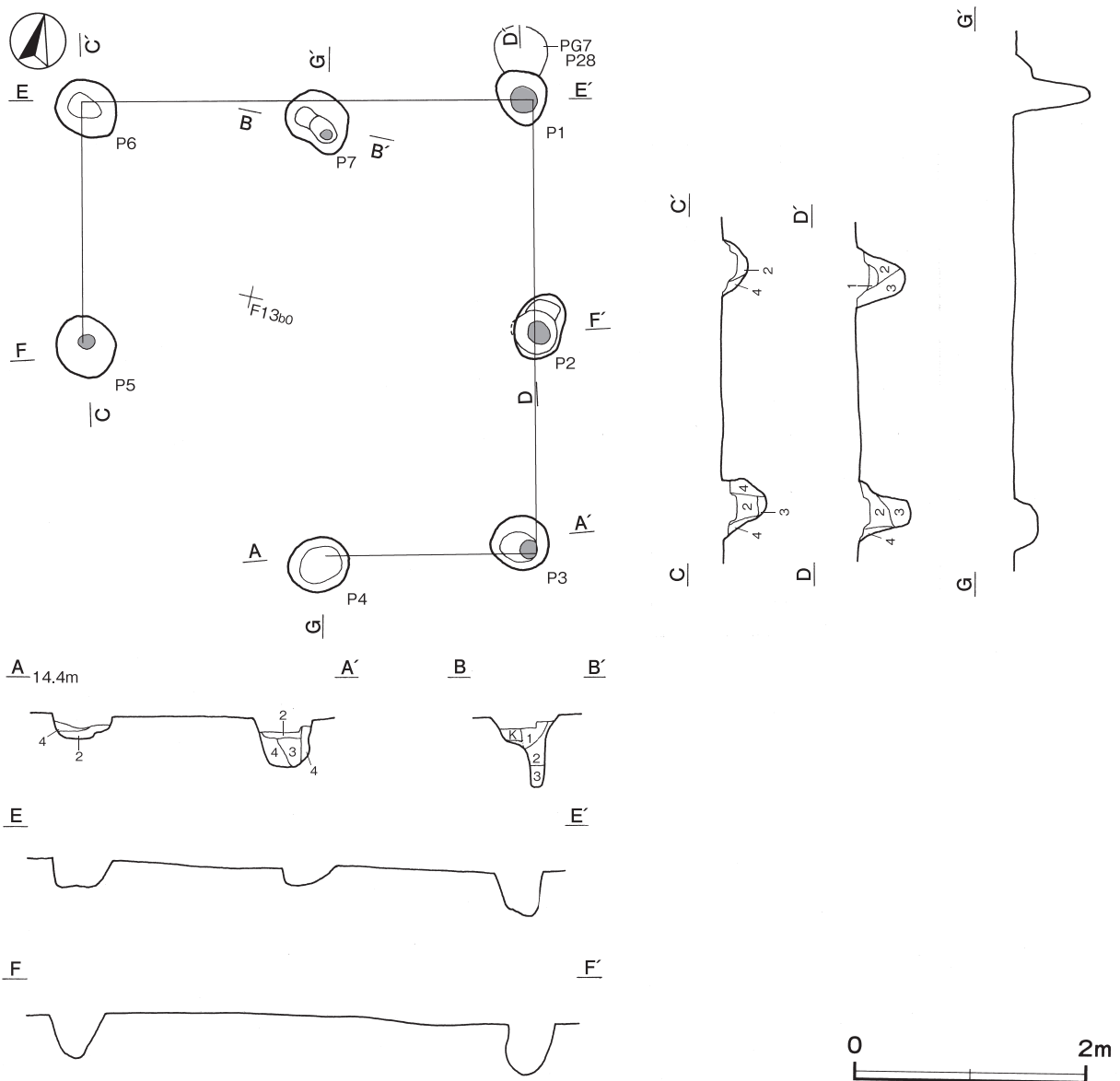
重複関係 第7号ピット群のP 28を掘り込んでいる。

規模と形状 南西コーナー部の柱穴が確認できなかったが, 他の柱穴の配置から桁行, 梁行ともに2間の側柱建物跡と推定できる。桁行方向はN-14°-Wの南北棟である。規模は桁行, 梁行ともに3.90mで, 面積は15.21㎡である。柱間寸法は桁行が南妻から1.8m(6尺)・2.1m(7尺)で, 梁行は西平から2.1m(7尺), 1.8m(6尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形で, 長径48～58cm, 短径43～50cmである。深さ23～64cmで, 掘方の断面形は逆台形またはU字形である。土層はいずれも柱の抜き取り後の覆土で, 締まりは弱い。P1～P3・P5・P7の底面では, 柱のあたりを確認した。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |



第156図 第2号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 12 点 (坏 6, 甕類 6), 磁器 1 点 (碗), 鉄滓 1 点 (10.4g) が出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期は, 出土土器から近世以降と考えられるが, 細片のため明確な時期は不明である。

表 8 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考	
						桁×梁(間)	桁×梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)				構造
1	E 14g3~ E 14h4	N - 77° - E	2 × 2	3.90 × 3.60	14.04	1.8 ~ 2.1	1.8	側柱	5	円形 楕円形	18 ~ 44		不明	PG6P29
2	F 13a9~ F 13b0	N - 14° - W	2 × 2	3.90 × 3.90	15.21	1.8 ~ 2.1	1.8 ~ 2.1	側柱	7	円形 楕円形	23 ~ 64	土師器・磁器・ 鉄滓	不明	PG7P28 → 本跡

(2) 溝跡

今回の調査で, 時期不明の溝跡 14 基を確認した。そのうち, 当遺跡の性格を考える上で必要な第 3・8・9・10~12 号溝跡を取り上げて解説する。その他の溝跡の規模については一覧表で, 土層断面図(第 157・158 図)と土層解説については遺構順に掲載し, 平面図については遺構全体図(付図)で掲載する。

第 3 号溝跡 (第 159 図)

位置 調査区西部の E 12a3 ~ E 13i2 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 10・20・24・27 号住居跡, 第 21 号土坑, 第 5 号溝跡を掘り込み, 第 49 号土坑, 第 4・6 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西端部及び南東端部が調査区域外へ延びているため, 長さは 53.0 m しか確認できなかった。E 12a3 区から南東方向(N - 44° - W)へほぼ直線的に延び, E 13i2 区まで緩やかに下っている。規模は上幅 0.70 ~ 1.26 m, 下幅 0.58 ~ 0.88 m で, 南東部が北西部に比べてやや幅広である。深さは 16 ~ 21 cm で, 底面の標高は, 北西端部 14.7 m, 南東端部 14.2 m で, 底面は南西端部から北東端部に向かって 50 cm ほど低くなっている。断面形は逆台形で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量 2 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した土師器片 179 点 (坏 43, 高坏 3, 甕類 133), 須恵器片 41 点 (坏 26, 蓋 2, 鉢 10, 瓶 1, 甕類 2), 陶器片 1 点 (鉢), 石器 1 点 (凹石), 鉄滓 14 点 (176g) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中世以降と考えられるが, 細片のため明確な時期は不明である。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから, 区画溝の可能性がある。

第 8 号溝跡 (第 159 図)

位置 調査区中央部の E 13e9 ~ E 13j5 区, 標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 9 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西端部が調査区域外へ延びているため, 長さは 29.5 m しか確認できなかった。E 13j5 区から北東方向(N - 36° - E)へほぼ直線的に延び, E 13e9 区まで緩やかに下っている。規模は上幅 0.80 ~ 1.20 m,

下幅 0.12 ～ 0.38 m で、南西部が北東部に比べてやや幅広である。深さは 12 ～ 18cm で、底面の標高は、南西端部 14.1 m、北東端部 13.8 m で、底面は南西端部から北東端部に向かって 30cm ほど低くなっている。断面形は浅い U 字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した土師器片 91 点（坏 14、高坏 1、甕類 76）、須恵器片 26 点（坏 11、蓋 1、鉢 1、甕類 13）、磁器 1 点（碗）、鉄滓 13 点（263g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性はある。

第 9 号溝跡（第 159 図）

位置 調査区中央部の E 13d0 ～ E 13j5 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 8 号溝跡を掘り込み、第 35 ～ 37 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東端部及び南西端部が調査区域外へ延びているため、長さは 33.8 m しか確認できなかった。E 13j5 区から北東方向（N - 40° - E）へほぼ直線的に延び、E 13d0 区まで緩やかに下っている。規模は上幅 0.36 ～ 1.40 m、下幅 0.16 ～ 0.75 m で、南西部が北東部に比べてやや幅広である。深さは 7 ～ 22cm で、底面の標高は、北東端部 13.8 m、南西端部 14.1 m で、底面は南西端部から北東端部に向かって 30cm ほど低くなっている。断面形は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 混入した縄文土器片 1 点（深鉢）、土師器片 69 点（坏 19、甕類 50）、須恵器片 12 点（坏 3、蓋 2、鉢 1、甕類 6）、磁器 1 点（碗）、石器 2 点（砥石、剥片）、鉄滓 55 点（1704g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。南西端部から調査区域の中央部まで第 8 号溝と重複し、北東端部までは平行しており、ともに方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性はある。

第 10 号溝跡（第 157 図）

位置 調査区中央部の E 13e0 ～ F 13a6 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 43・46・50 号土坑を掘り込み、第 41・42・45・47・48・51・61 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西端部が調査区域外へ延びているため、長さは 30.4 m しか確認できなかった。F 13a6 区から北東方向（N - 43° - E）へほぼ直線的に延び、E 13e0 区まで緩やかに下っている。規模は上幅 0.34 ～ 1.62 m、下幅 0.16 ～ 0.42 m で、南西部が北東部に比べて幅広である。深さは 12 ～ 56cm で、底面の標高は、北東端部は 13.6 m、南西端部 13.8 m で、底面は南西端部から北東端部に向かって 20cm ほど低くなっている。断面形は浅い V 字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

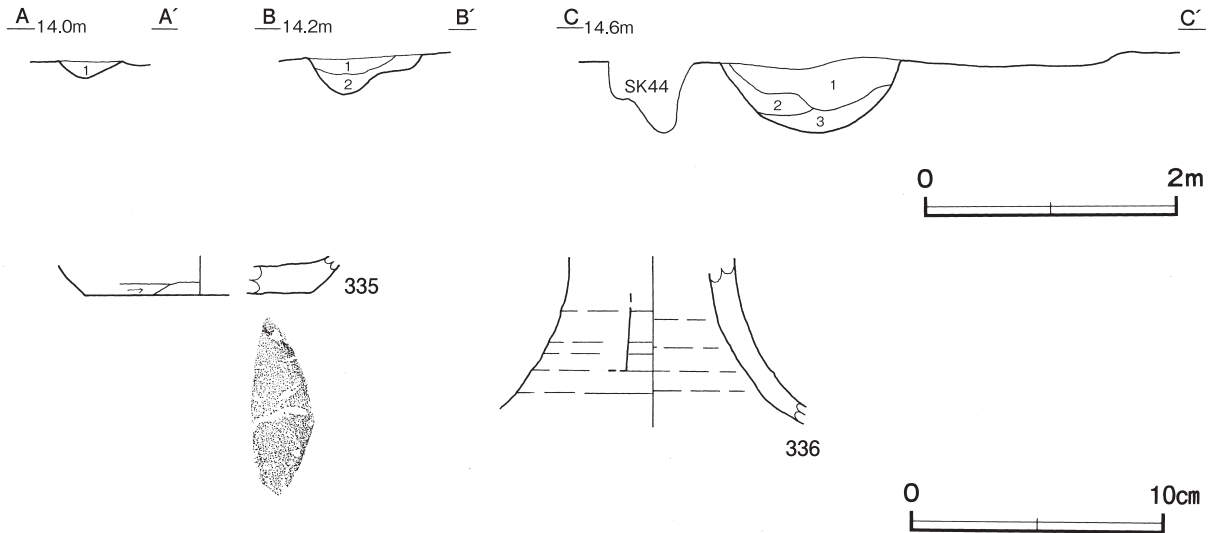
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 混入した土師器片 176 点 (坏 35, 甕類 141), 須恵器片 46 点 (坏 28, 高盤 1, 鉢 1, 甕類 16), 土製品 3 点 (支脚), 鉄滓 42 点 (1114g) が出土している。335・336 は南西部の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から奈良時代以降と考えられるが, 明確な時期は不明である。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから, 区画溝の可能性はある。



第 157 図 第 10 号溝跡・出土遺物実測図

第 10 号溝跡出土遺物観察表 (第 157 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
335	須恵器	坏	-	(1.5)	[9.0]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	10%
336	須恵器	高盤	-	(6.7)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	ロクロナデ 脚部透かし孔	覆土中	10%

第 11 号溝跡 (第 160 図)

位置 調査区東部の E 15f7～F 15d0 区, 標高 10 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 調査区域東端の境界線に沿い, 南東から北西へ弧状に延びている。北西端部及び南東端部が調査区域外へ延びているため, 長さは 35.7 m しか確認できなかった。F 15b0 区から北西方向 (N - 32° - W ~ N - 40° - W) へ, 弧状に E 15f7 区まで延びている。規模は上幅 0.78 ~ 1.50 m, 下幅 0.30 ~ 0.94 m である。深さは 18 ~ 30cm で, 底面の標高は, 北西端部及び南東端部ともに 9.9 m である。断面形は浅い U 字形で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

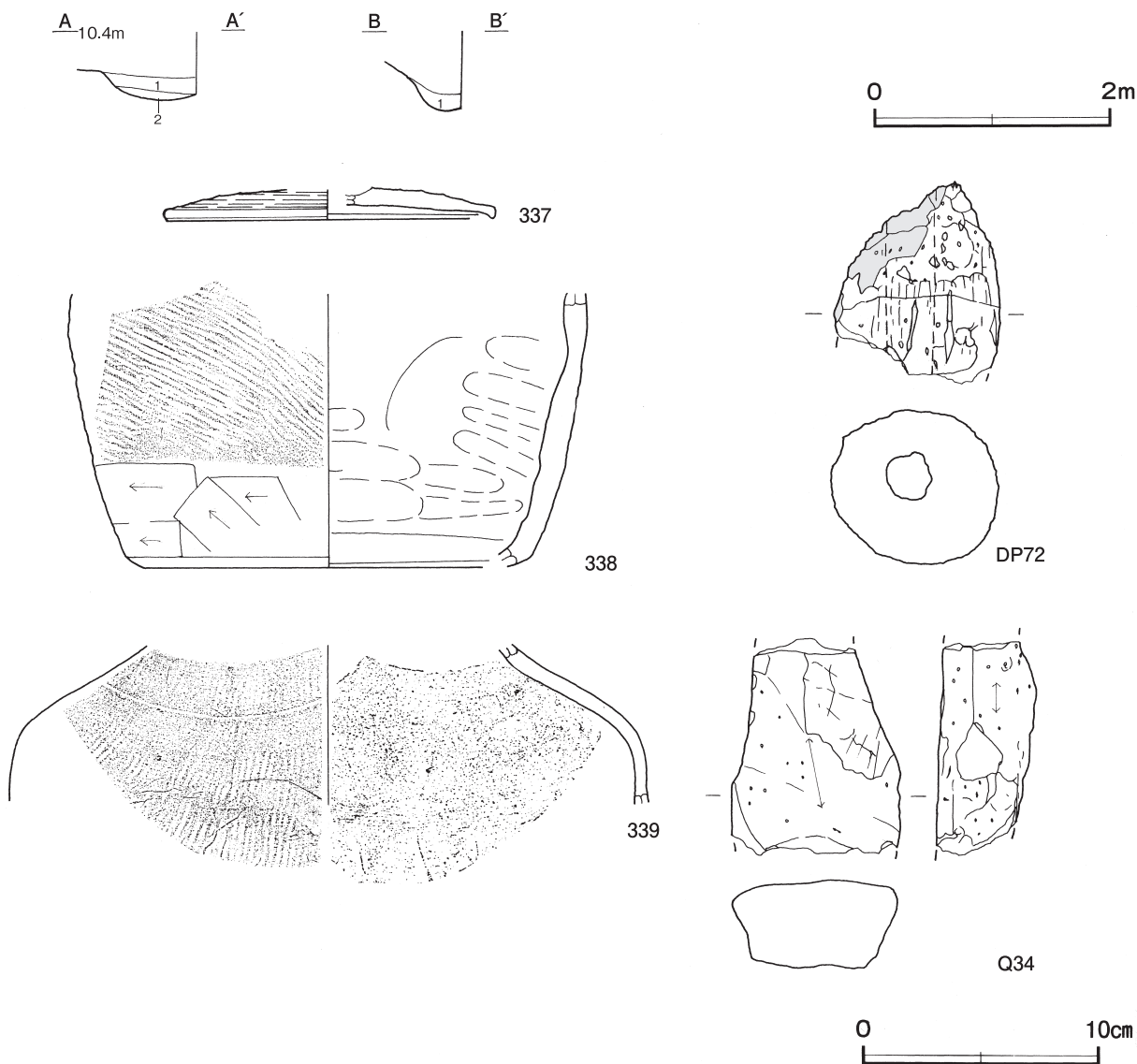
遺物出土状況 混入した土師器片 76 点 (坏 10, 高坏 1, 壺 2, 甕類 63), 須恵器片 24 点 (坏 10, 蓋 3, 鉢 5, 甕類 6), 陶器片 1 (鉢), 鉄滓 5 点 (664g) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中世以降と考えられるが, 細片のため明確な時期は不明である。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから, 区画溝の可能性はある。

第 12 号溝跡 (第 158 図)

位置 調査区東部の E 15f7 ~ F 15a0 区, 標高 10 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 調査区域東端の境界線に沿い, 南東から北西へ弧状に延びている。北西端部及び南東端部が調査区域外へ延びているため, 長さは 25.1 m しか確認できなかった。更に, 東側の調査区域外に延びているため, 東側の立ち上がりも確認できなかった。F 15a0 区から北西方向 (N - 32° - W ~ N - 40° - W) へ, 弧状に E 15f7 区まで延びている。確認できた規模は上幅 0.34 ~ 1.18 m, 下幅 0.25 ~ 0.68 m である。深さは 18cm で, 底面の標高は, 9.9 m である。断面形は浅い U 字状と推定でき, 西壁は外傾して立ち上がっている。



第 158 図 第 12 号溝跡・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 極暗褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した縄文土器1点（深鉢）、土師器片297点（坏47、甕類250）、須恵器片57点（坏32、高台付坏2、蓋3、盤1、鉢4、瓶1、甕類14）、土製品1点（羽口）、石器2点（石棒、砥石）、鉄滓4点（262g）が、全面の覆土下層から底面にかけて出土している。337～339・Q34は南東部、DP72は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から奈良時代以降と考えられるが、明確な時期は不明である。第11号溝跡と平行している。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性はある。

第12号溝跡出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
337	須恵器	蓋	[13.8]	(1.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部ロクロナデ	覆土中	20%
338	須恵器	鉢	-	(11.6)	[15.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部斜位の平行叩き 下端ヘラ削り 内面当て具痕・指頭痕	覆土中	5%
339	須恵器	甕	-	(6.7)	-	長石・石英	灰	普通	体部横位のカキ目後、斜位の平行叩き 内面12条1単位の当て具痕	覆土中	5% PL40

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP72	羽口	(7.2)	(8.8)	2.0	(245)	粘土・スサ	先端部のみ残存 外面ヘラナデ痕 滓化発砲 黒色ガラス質付着	覆土中	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	砥石	(9.2)	7.2	(3.7)	(326)	凝灰岩	断面逆台形 砥面2面	覆土中	

第1号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第2号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子中量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色 ロームブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック少量

第5号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量

第6号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第7号溝跡土層解説

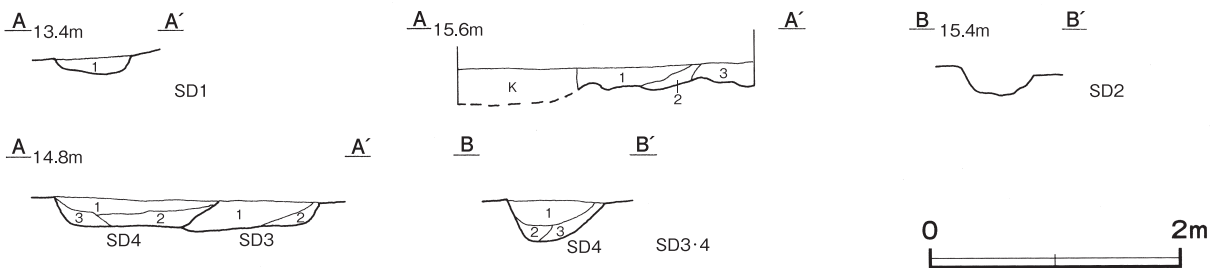
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック微量

第13号溝跡土層解説

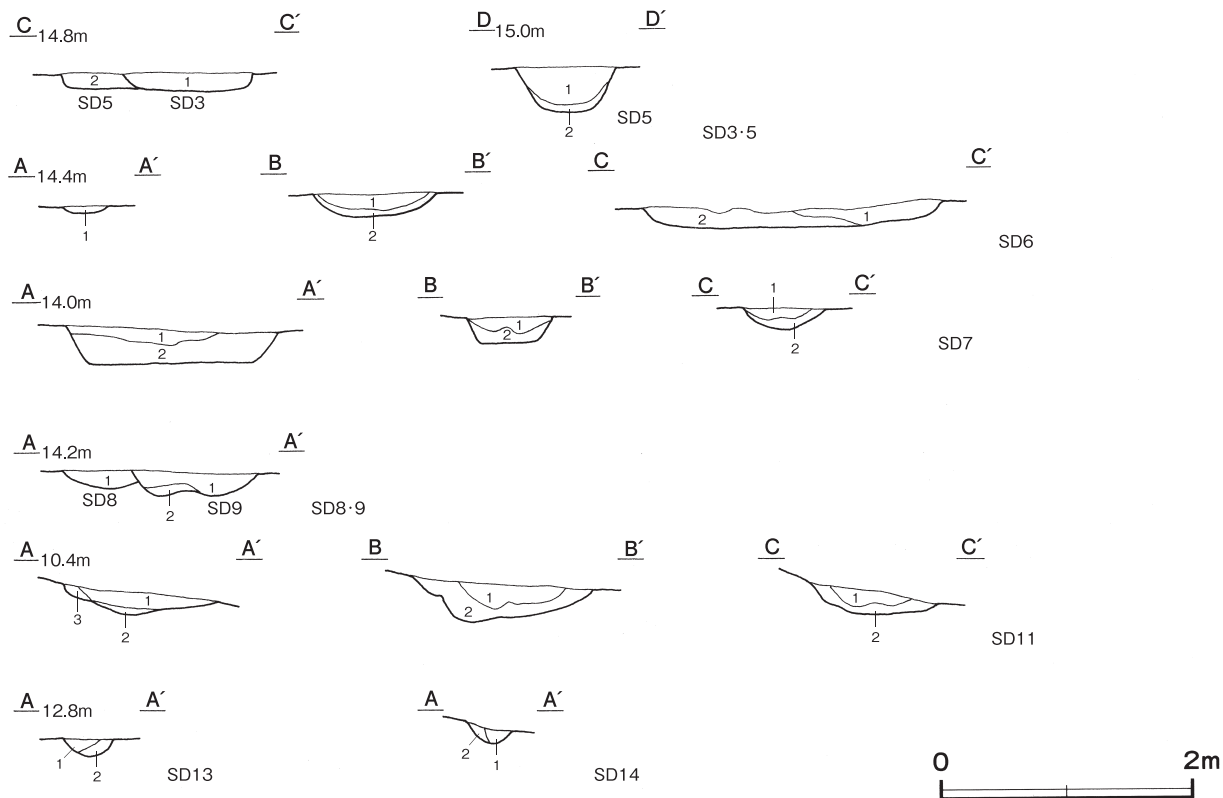
- 1 褐色 ロームブロック多量
2 褐色 ロームブロック中量

第14号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ローム粒子中量



第159図 第1～4号溝跡実測図



第 160 図 第 3・5～9・11・13・14 号溝跡実測図

表 9 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面形	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
1	D12c6～ D12c7	N-77°-W	直線状	(1.36)	0.47～0.62	0.26～0.39	13	浅いU字形	緩斜	平坦	人為	-	
2	F11i4	N-66°-E	直線状	(2.42)	0.43～0.57	0.32～0.43	17	逆台形	外傾	凸凹	人為	-	本跡→SK9・10
3	E12a3～ E13i2	N-44°-W	直線状	(53.0)	0.70～1.26	0.58～0.88	16～21	逆台形	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 鉄滓	SI10・20・24・27, SK21, SD5→本跡→SK49, SD4・6
4	E13h1～ E12h0	N-38°-E	直線状	(1.54)	0.78～1.05	0.32～0.64	34	浅いU字形	外傾	皿状	人為	-	SD3→本跡
5	E12g0～ E12h9	N-37°-E	直線状	(2.90)	0.60～0.68	0.24～0.46	36	浅いU字形	外傾	皿状	人為	-	本跡→SD3
6	E13f7～ E13i2	N-41°-E N-88°-E	くの字状	(26.9)	0.26～1.04	0.10～0.72	5～16	逆台形	緩斜	平坦	人為	土師器	SD3→本跡
7	E13b5～ E13e8	N-53°-W	直線状	(15.5)	0.48～0.78	0.22～0.44	12～30	逆台形	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	
8	E13e9～ E13i5	N-36°-E	直線状	(29.5)	0.80～1.20	0.12～0.38	12～18	浅いU字形	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器, 磁器, 鉄滓	本跡→SD9
9	E13d0～ E13i5	N-40°-E	直線状	(33.8)	0.36～1.40	0.16～0.75	7～22	逆台形	外傾	凸凹	人為	土師器, 須恵器, 磁器, 鉄滓	SD8→本跡→SK 35～37
10	E13e0～ F13a6	N-43°-E	直線状	(30.4)	0.34～1.62	0.16～0.42	12～56	浅いV字形	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 鉄滓	SK43・46・50→本跡 →SK41・42・45・47・ 48・51・61
11	E15f7～ F15d0	N-32°-W N-40°-W	弧状	(35.7)	0.78～1.50	0.30～0.94	18～30	浅いU字形	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 鉄滓	
12	E15f7～ F15a0	N-32°-W N-40°-W	弧状	(25.1)	(0.34)～(1.18)	(0.25)～(0.68)	18	浅いU字形	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄滓	
13	F15b2	N-9°-W	直線状	(2.32)	0.41～0.60	0.06～0.34	13	浅いU字形	緩斜	皿状	人為	土師器	本跡→SK93, SE 2
14	F15b3	N-10°-W	直線状	2.7	0.31～0.42	0.09～0.15	14	浅いU字形	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	

(3) 炉跡

第 1 号炉跡 (第 161 図)

位置 調査区南西部の F 11h5 区, 標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

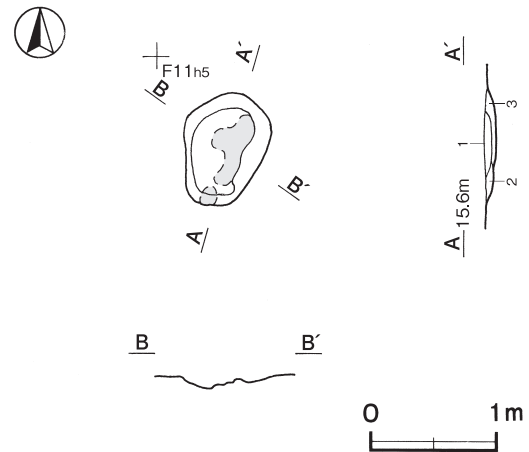
規模と形状 長径92cm, 短径70cmの楕円形で, 長径方向はN-22°-Eである。底面は皿状にくぼんでおり確認面からの深さは10cmである。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

所見 周辺に柱穴等が確認できなかったことから, 住居に伴うものとは考えられない。時期は, 本跡に伴う出土土器がないため不明である。



第161図 第1号炉跡実測図

第2号炉跡 (第162図)

位置 調査区西部のE14f8区, 標高13mの低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

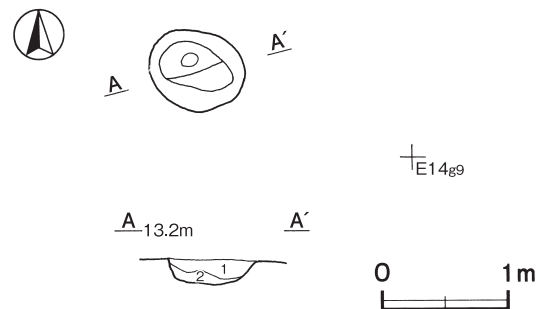
規模と形状 長径75cm, 短径62cmの楕円形で, 長径方向はN-71°-Wである。底面は皿状にくぼんでおり確認面からの深さは18cmである。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

所見 周辺に第9号ピット群のP11~P16があることから, 住居跡に伴う炉跡の可能性が考えられるが, 柱穴の配置等が捉えられないため断定できない。時期は, 本跡に伴う出土土器がないため不明である。



第162図 第2号炉跡実測図

表10 その他の炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)				
1	F11h5	N-22°-E	楕円形	92×70	10	皿状	自然		
2	E14f8	N-71°-W	楕円形	75×62	18	皿状	自然		

(4) 井戸跡

第1号井戸跡 (第163図)

位置 調査区西部のE12f7区, 標高15mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.42 m, 短径 1.30 m の円形である。確認面から円筒状に掘り下げている。深さ 1 m ほどで湧水し、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

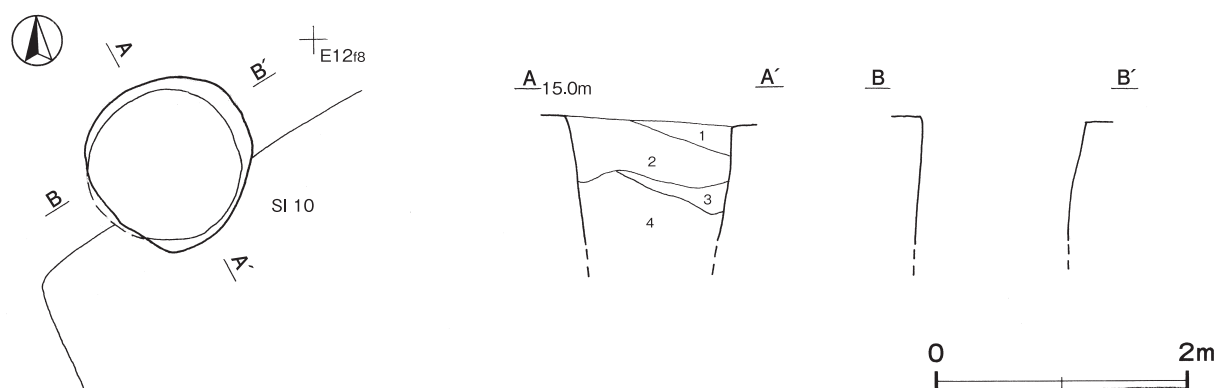
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|------------------|
| 1 極暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 9 点 (坏 3, 甕類 6), 須恵器片 1 点 (坏) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から奈良時代以降と考えられるが, 細片のため明確な時期は不明である。



第 163 図 第 1 号井戸跡実測図

第 2 号井戸跡 (第 164 図)

位置 調査区東部の F 15b2 区, 標高 13 m の低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 13 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.26 m, 短径 1.90 m の楕円形で, 長径方向は N - 53° - E ある。確認面から 0.5 m まで漏斗状に掘り込み, 下部は円筒状に掘り下げている。深さ 1.8 m ほどで湧水し, 崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

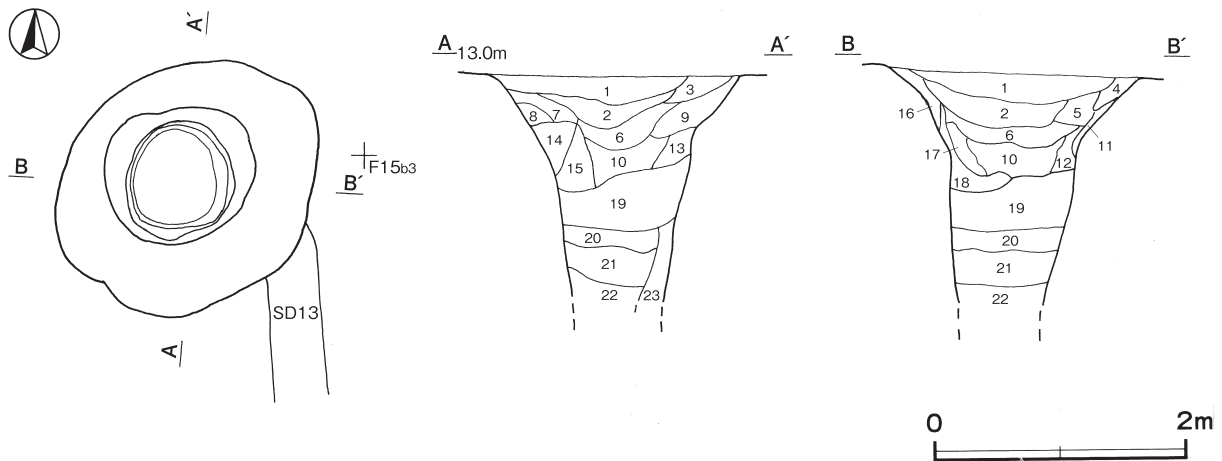
覆土 23層に分層できる。不自然な堆積状況から, 埋め戻されている。

第 2 号井戸跡土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量 | 18 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 19 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子微量 | 21 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 11 褐色 | ロームブロック中量 | 22 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| | | 23 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢), 土師器片 58 点 (坏 6, 甕類 52), 須恵器片 15 点 (坏 11, 高台付坏 1, 蓋 1, 甕類 2), 石器 2 点 (鎌, 磨石), 鉄滓 3 点 (198g) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から奈良時代以降と考えられるが, いずれも細片のため明確な時期は不明である。



第 164 図 第 2 号井戸跡実測図

第 3 号井戸跡 (第 165 図)

位置 調査区東部の F 15d9 区, 標高 11 m の低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径 3.08 m, 短径 2.98 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 28° - E である。確認面から 1.2 m まで浅い播鉢状に掘り込み, 下部は円筒状に掘り下げていると思われる。播鉢状の掘り込みの底面で湧水したため, 下部の調査を断念した。

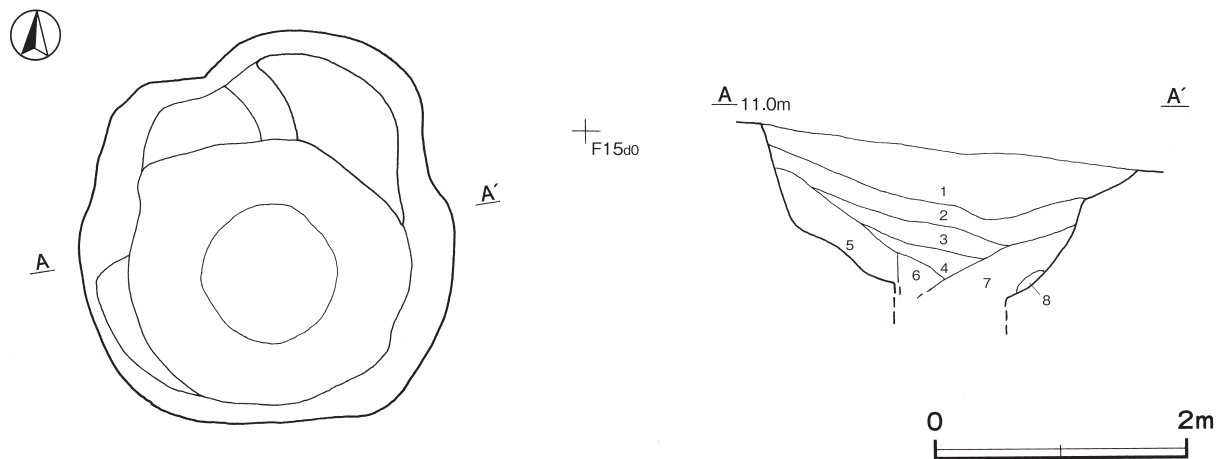
覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

第 3 号井戸跡土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 極 暗 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 極 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 極 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 7 極 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量 |
| 4 黒 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 8 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 2 点 (深鉢), 土師器片 82 点 (坏 21, 甕類 61), 須恵器片 17 点 (坏 8, 蓋 1, 盤 2, 甕類 6), 磁器 1 点 (碗), 鉄滓 4 点 (168g) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から近世以降と考えられるが, 細片のため明確な時期は不明である。



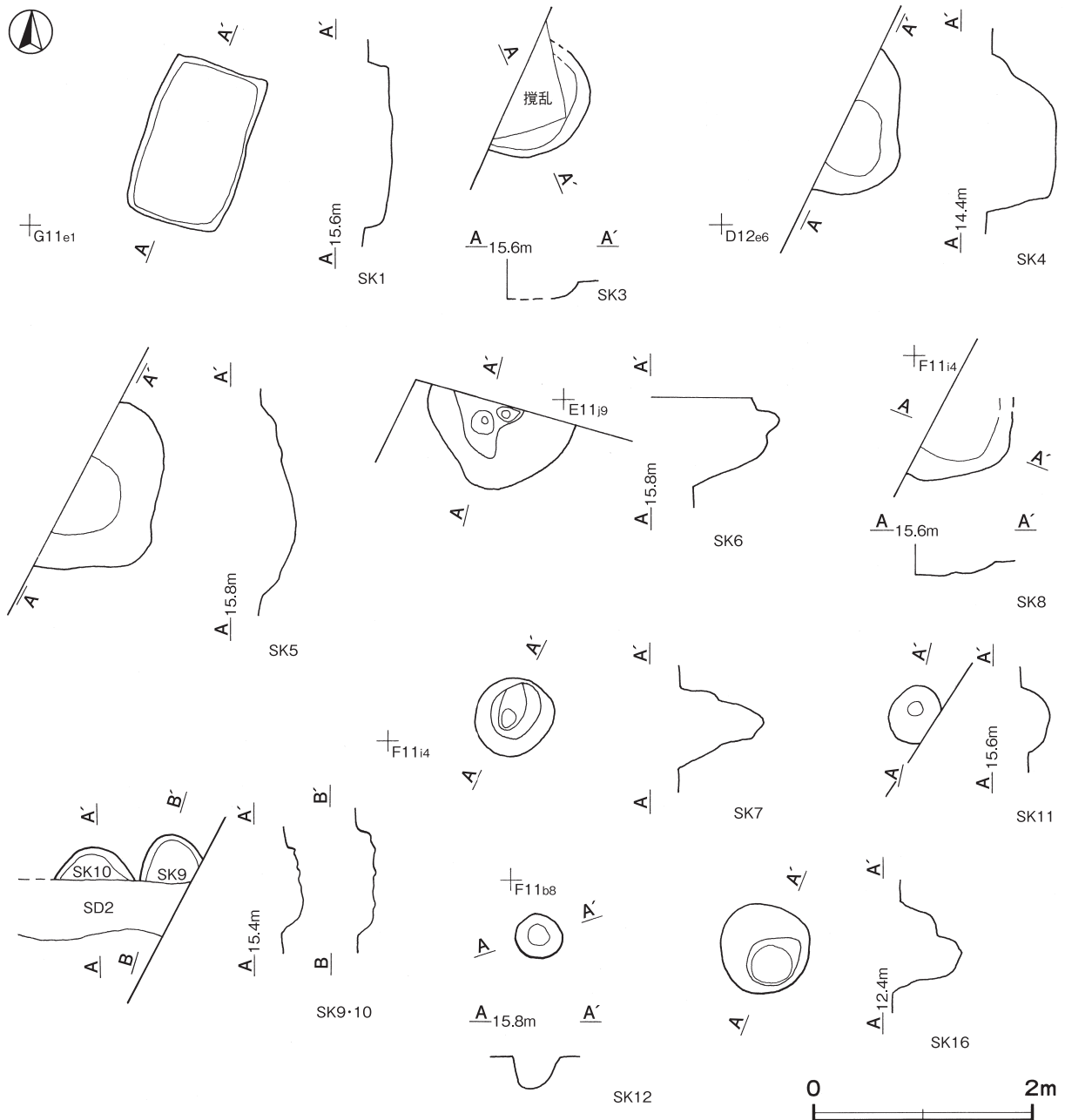
第 165 図 第 3 号井戸跡実測図

表 11 その他の井戸跡一覧表

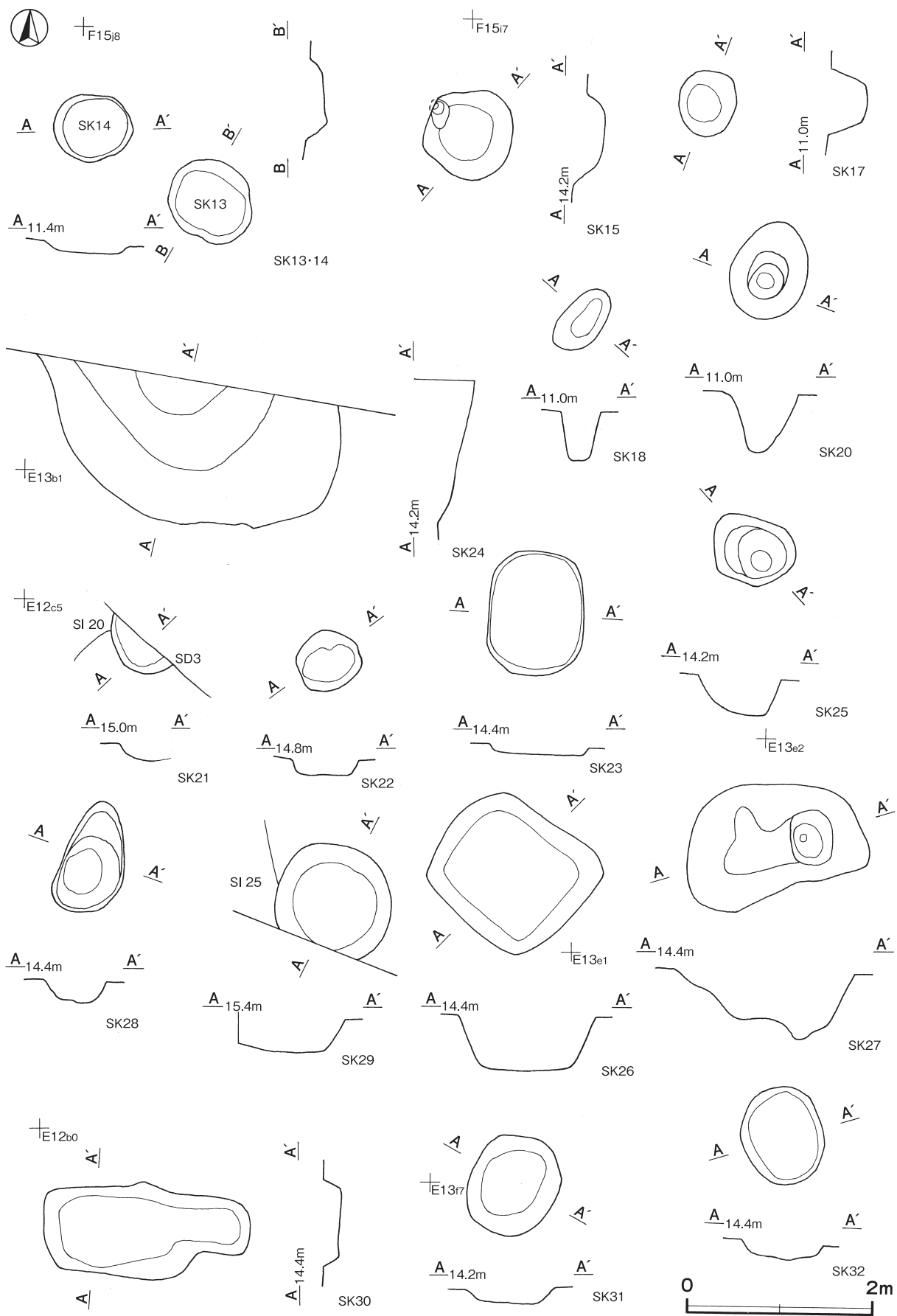
番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	E12f7	-	円形	1.42 × 1.30	(98)	-	直立	人為	土師器, 須恵器	SI10 → 本跡
2	F15b2	N - 53° - E	楕円形	2.26 × 1.90	(180)	-	漏斗状・直立	人為	縄文土器, 土師器, 須恵器, 石器, 鉄滓	SD13 → 本跡
3	F15d9	N - 28° - E	不整楕円形	3.08 × 2.98	(120)	-	錐錐状・直立	人為	縄文土器, 土師器, 須恵器, 磁器, 鉄滓	

(5) 土坑

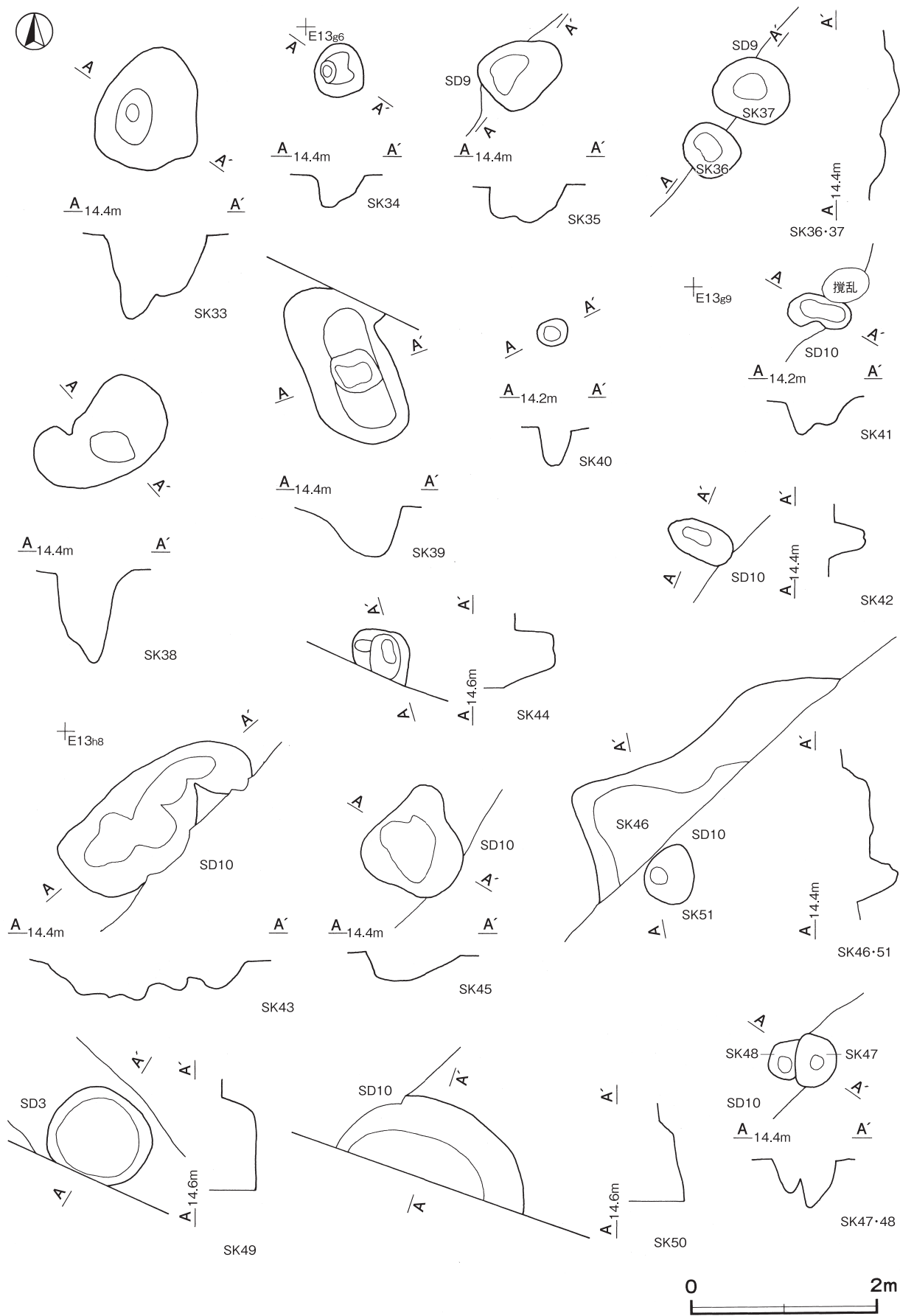
今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑 95 基を確認した。これらの土坑については、規模・形状等について実測図（第 166 ～ 171 図）と一覧表を掲載する。



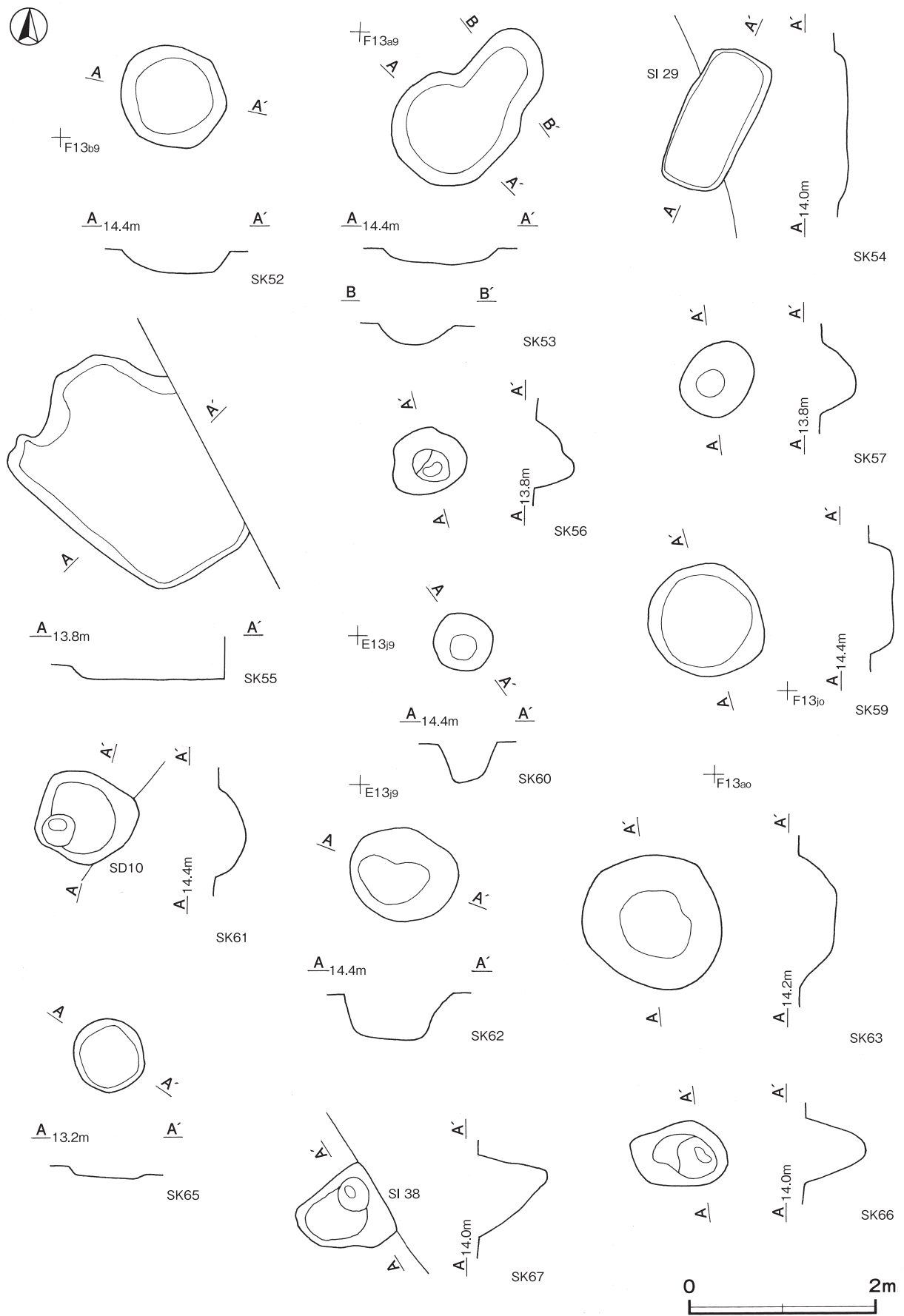
第 166 図 その他土坑実測図 (1)



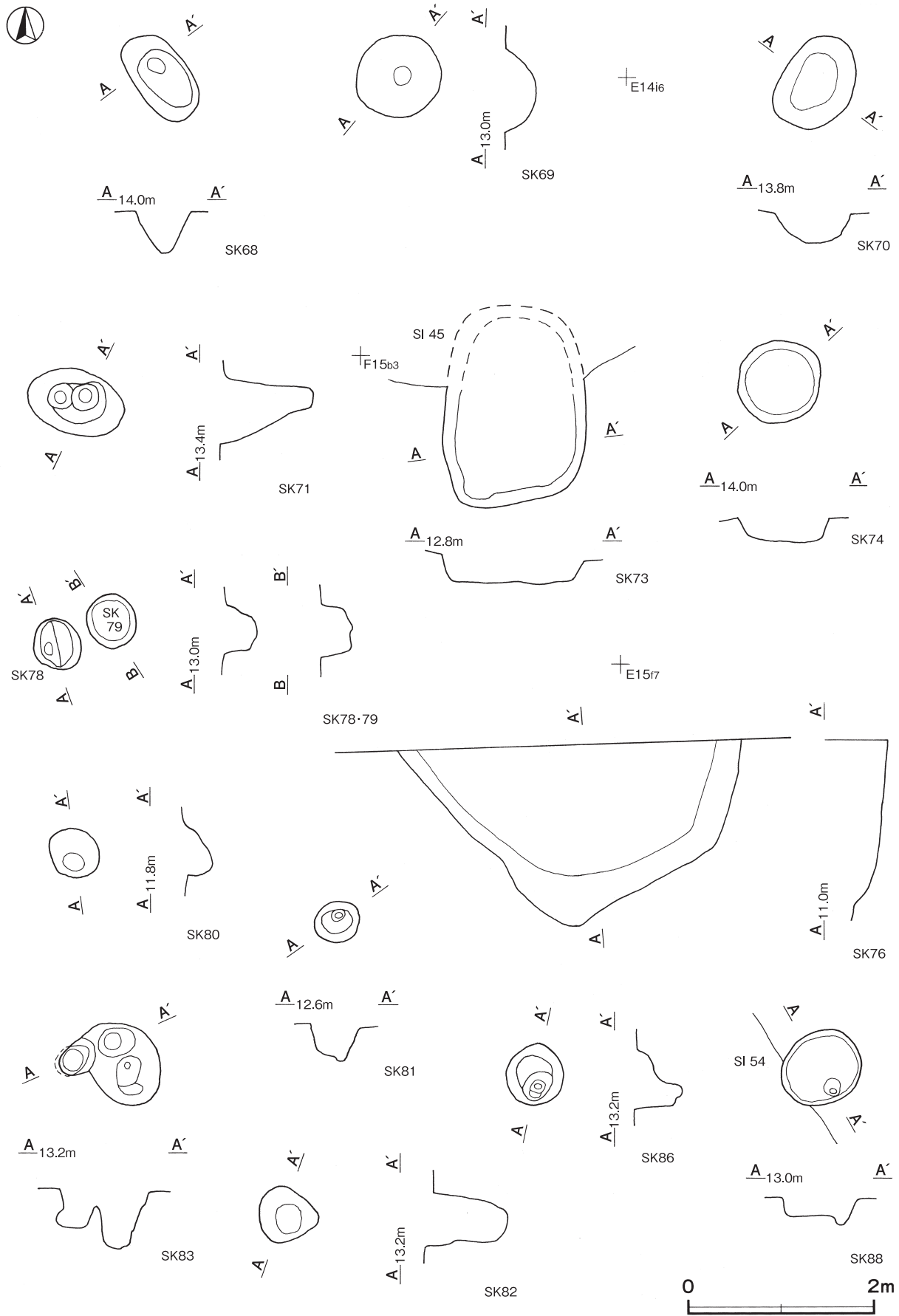
第 167 図 その他の土坑実測図 (2)



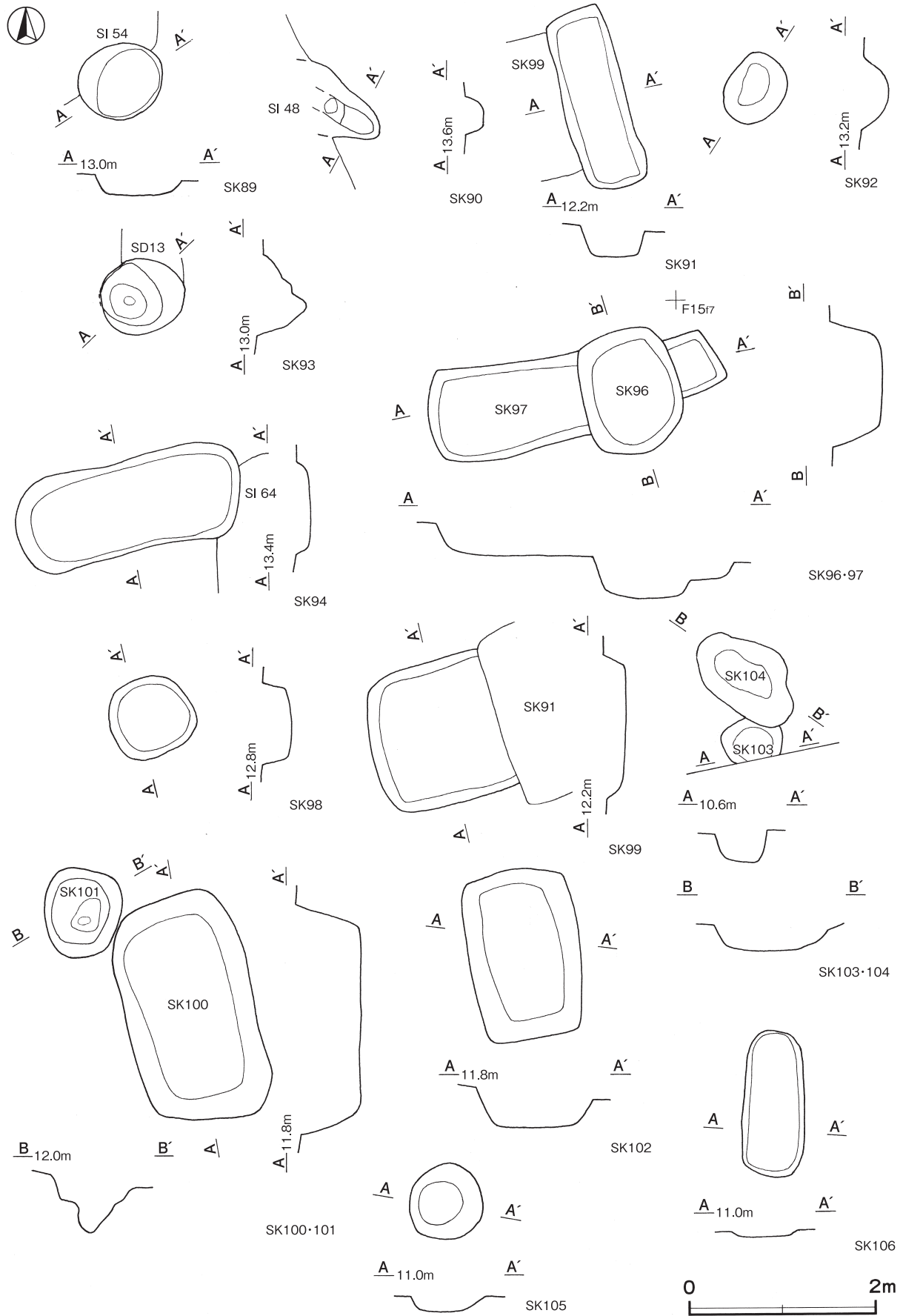
第 168 図 その他土坑実測図 (3)



第 169 図 その他土坑実測図 (4)



第 170 図 その他土坑実測図 (5)



第 171 図 その他土坑実測図 (6)

表 12 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸(径)×短軸(径)						
1	G11d1	N-20°-E	長方形	1.50×0.96	24	外傾	平坦	人為	土師器, 鉄滓	
3	G10e0	N-42°-E	[円形 楕円形]	(1.12)×(0.68)	14	外傾	平坦	人為		
4	D12d6	N-18°-E	[楕円形]	1.40×(0.60)	64	外傾 緩斜	平坦	人為	土師器	
5	F11c6	N-37°-E	[円形 楕円形]	1.71×(0.86)	34	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
6	E11j8	N-73°-W	[円形 楕円形]	1.38×(0.80)	68	外傾	平坦	人為	土師器, 鉄滓	
7	F11h4	-	円形	0.72×0.68	74	外傾	皿状	自然		
8	F11i4	-	[円形]	(0.72)×(0.70)	14	緩斜	平坦	人為	土師器	
9	F11i4	N-0°	[楕円形]	(0.55)×(0.46)	14	外傾	凹凸	人為		SD2→本跡
10	F11i4	N-87°-W	[円形 楕円形]	0.70×(0.30)	15	緩斜	凹凸	人為		SD2→本跡
11	G11c2	-	[円形]	0.54×(0.40)	22	外傾	皿状	人為		
12	F11b8	-	円形	0.42×0.40	30	外傾	皿状	人為		
13	F15j8	-	円形	0.98×0.84	15	外傾	皿状	自然	縄文土器	
14	F15j8	-	円形	0.80×0.72	5	外傾	平坦	人為	土師器	
15	F15i7	-	円形	1.00×0.98	22	緩斜	皿状	人為		
16	F15i5	-	円形	0.85×0.84	56	外傾	平坦	自然		
17	F15h0	N-35°-E	楕円形	0.72×0.64	40	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
18	F15i0	N-40°-E	楕円形	0.76×0.45	54	外傾	平坦	自然		
20	F15h0	N-18°-E	楕円形	1.08×0.82	60	外傾	皿状	人為	土師器	
21	E12c5	N-51°-W	[楕円形]	0.80×(0.35)	15	緩斜	平坦	人為	土師器	SI20→本跡→SD3
22	E12g8	N-38°-E	楕円形	0.72×0.65	15	外傾	平坦	人為		
23	E12b9	N-5°-E	楕円形	1.35×1.04	5	外傾	平坦	人為		
24	E13a1	N-82°-W	[楕円形]	3.28×(1.56)	32	緩斜	平坦	人為		
25	E13b1	N-60°-W	楕円形	0.96×0.72	40	緩斜	皿状	人為		
26	E12d0	N-52°-W	隅丸長方形	1.65×1.44	56	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
27	E13e1	N-87°-W	不整楕円形	1.95×1.20	52	緩斜	凹凸	人為	土師器, 陶器	
28	E13f2	N-17°-E	楕円形	1.24×0.68	24	緩斜	皿状	自然	須恵器	
29	E12g6	-	円形	(1.34)×(1.24)	34	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	SI25→本跡
30	E12b0	N-88°-E	楕円形	2.24×1.04	20	外傾	平坦	人為	土師器	
31	E13f7	N-35°-E	楕円形	1.12×0.96	18	緩斜	平坦	自然		
32	E13h6	N-22°-W	楕円形	1.06×0.86	18	外傾	皿状	自然	土師器	
33	E13h6	N-25°-E	楕円形	1.34×1.08	64	外傾	凹凸	人為	土師器, 須恵器	
34	E13g6	N-27°-E	楕円形	0.62×0.56	34	外傾 緩斜	平坦	人為		
35	E13g7	N-64°-E	楕円形	0.90×0.68	40	外傾	凹凸	人為	須恵器	SD9→本跡
36	E13g8	-	円形	0.60×0.56	16	外傾	平坦	人為	土師器, 鉄滓	SD9→本跡
37	E13g8	N-54°-W	楕円形	0.78×0.70	18	外傾	平坦	人為	土師器, 鉄滓	SD9→本跡
38	E13i5	N-57°-E	不整楕円形	1.52×0.80	104	外傾	凹凸	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	
39	E12a8	N-28°-W	楕円形	1.86×(0.94)	52	外傾	皿状	人為		
40	E13f9	N-48°-E	楕円形	0.36×0.30	40	外傾	皿状	人為		
41	E13g9	N-77°-W	不整楕円形	0.70×0.40	37	外傾	凹凸	人為		SD10→本跡
42	E13g8	N-70°-W	楕円形	0.72×0.39	37	外傾	平坦	自然		SD10→本跡
43	E13h8	N-50°-E	不定形	2.20×(1.00)	40	外傾 緩斜	凹凸	人為		本跡→SD10
44	E13j5	N-51°-W	[円形 楕円形]	0.64×(0.46)	60	外傾	平坦	人為		
45	E13j6	N-5°-E	不定形	1.22×1.10	32	外傾 緩斜	皿状	人為	鉄滓	SD10→本跡
46	E13i6	N-57°-W	[不定形]	3.30×(1.06)	30	外傾 緩斜	平坦	人為		SK51→本跡→SD10
47	E13j6	N-55°-W	楕円形	0.56×0.46	51	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	SK48, SD10→本跡

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸(径)×短軸(径)	高さ(cm)					
48	E13j6	N-12°-W	[円形 楕円形]	0.42×(0.30)	37	外傾	皿状	自然		SD10→本跡→SK47
49	E13i1	-	円形	1.12×1.08	35	外傾	平坦	人為		SD3→本跡
50	F13a6	N-65°-W	[円形 楕円形]	(2.14)×(0.90)	48	緩斜	平坦	人為		本跡→SD10
51	E13j6	-	円形	0.60×0.58	45	外傾 緩斜	皿状	人為		本跡→SK46, SD10
52	F13a9	-	円形	1.13×1.12	21	緩斜	平坦	自然	土師器, 須恵器, 鉄滓	
53	F13a9	N-43°-E	不整楕円形	1.90×1.24	22	緩斜	平坦 皿状	人為	土師器, 須恵器	
54	E14g2	N-22°-E	隅丸長方形	1.60×0.76	12	外傾	平坦	人為		SI29→本跡
55	E14e3	N-46°-W	不定形	2.70×(1.80)	12	緩斜	平坦	人為	土師器, 鉄滓	
56	E14h3	N-66°-E	楕円形	0.84×0.72	40	緩斜	皿状	人為		
57	E14g3	N-43°-E	楕円形	0.88×0.68	38	外傾	皿状	人為	土師器, 鉄滓	
59	E13i9	-	円形	1.20×1.20	28	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	
60	E13j9	-	円形	0.64×0.62	43	外傾	皿状	自然		
61	E13h7	N-12°-E	不定形	1.04×0.94	34	緩斜	皿状	人為		SD10→本跡
62	E13j9	N-75°-W	楕円形	1.16×1.00	52	外傾	皿状	人為 自然	土師器, 須恵器, 陶器, 鉄滓	
63	F13a9	-	円形	1.48×1.48	38	緩斜	平坦	自然	土師器, 鉄滓	
65	E14f7	-	円形	0.80×0.76	10	緩斜	平坦	人為	土師器	SI39→本跡
66	F14a4	N-73°-W	楕円形	1.08×0.72	66	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	
67	F14b4	N-83°-W	不定形	1.06×0.82	74	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	SI38→本跡
68	F14b4	N-38°-W	楕円形	1.04×0.58	42	外傾	皿状	人為		
69	E14f8	-	円形	0.90×0.90	32	緩斜	皿状	自然		SI39→本跡
70	E14i6	N-34°-E	楕円形	1.05×0.70	32	緩斜	皿状	人為	土師器, 鉄滓	
71	E14g8	N-77°-W	楕円形	1.06×0.72	100	外傾	平坦	人為		
73	F15b3	N-10°-W	[長方形]	2.16×1.50	30	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	SI45→本跡
74	F14a7	-	円形	0.95×0.87	28	外傾	平坦	自然	土師器, 鉄滓	
76	E15f6	N-3°-W	[楕円形]	3.68×(1.94)	20	緩斜	平坦	自然		
78	E15i2	-	円形	0.58×0.53	34	外傾	皿状	自然		
79	E15i2	-	円形	0.57×0.53	33	外傾	凹凸	自然		
80	E15h5	-	円形	0.55×0.51	26	外傾	皿状	人為		
81	E15h2	N-63°-E	楕円形	0.50×0.43	38	外傾	皿状	人為		
82	F15b2	-	円形	0.64×0.60	83	直立	皿状	人為	土師器	
83	F15b3	N-33°-W	楕円形	0.98×0.74	60	外傾 緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	
86	F15b2	-	円形	0.64×0.60	52	直立 緩斜	凹凸	人為	土師器, 須恵器	
88	F15c3	N-60°-E	楕円形	0.88×0.76	26	外傾	平坦	人為	須恵器	SI54→本跡
89	F15d3	N-58°-E	円形	0.93×0.80	20	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器, 鉄製品	SI54→本跡
90	F14b9	N-62°-W	[楕円形]	(0.74)×0.53	18	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	SI48→本跡
91	F15c6	N-16°-W	長方形	1.96×0.68	28	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	SK99→本跡
92	F15c2	N-34°-E	楕円形	0.78×0.64	28	緩斜	皿状	自然		
93	F15b2	-	円形	0.88×0.84	48	外傾 緩斜	皿状	人為		SD13→本跡
94	F14a0	N-69°-E	長方形	2.50×0.98	14	外傾	平坦	自然		SI64→本跡
96	F15f6	N-18°-W	楕円形	1.34×1.07	52	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	SK97→本跡
97	F15f6	N-80°-E	隅丸長方形	3.16×1.02	27	外傾	平坦	自然		本跡→SK96
98	F15d6	-	円形	0.90×0.90	32	直立	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 鉄滓	
99	F15c6	N-13°-W	[長方形]	1.54×(1.37)	26	直立	平坦	自然		本跡→SK91
100	F15d7	N-13°-W	隅丸長方形	2.43×1.40	68	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
101	F15d6	N-25°-W	楕円形	0.96×0.88	58	緩斜	皿状	自然		
102	F15f7	N-8°-W	長方形	1.84×1.20	40	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸(径)×短軸(径)								
103	F15f0	-	[円形]	0.68 × (0.44)			32	外傾	平坦	自然		本跡→SK104
104	F15f0	N-52°-W	楕円形	1.22 × 0.77			25	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器, 須恵器, 鉄滓	SK103→本跡
105	F15j0	-	円形	0.84 × 0.77			19	外傾 緩斜	皿状	人為		
106	F15j0	N-3°-W	隅丸長方形	1.58 × 0.69			7	緩斜	平坦	人為		

(6) ピット群

今回の調査で確認したピット群 14 か所については、いずれも建物跡を想定できるような配置ではなく、時期も不明である。ここではピットごとの計測表と平面図を掲載する。

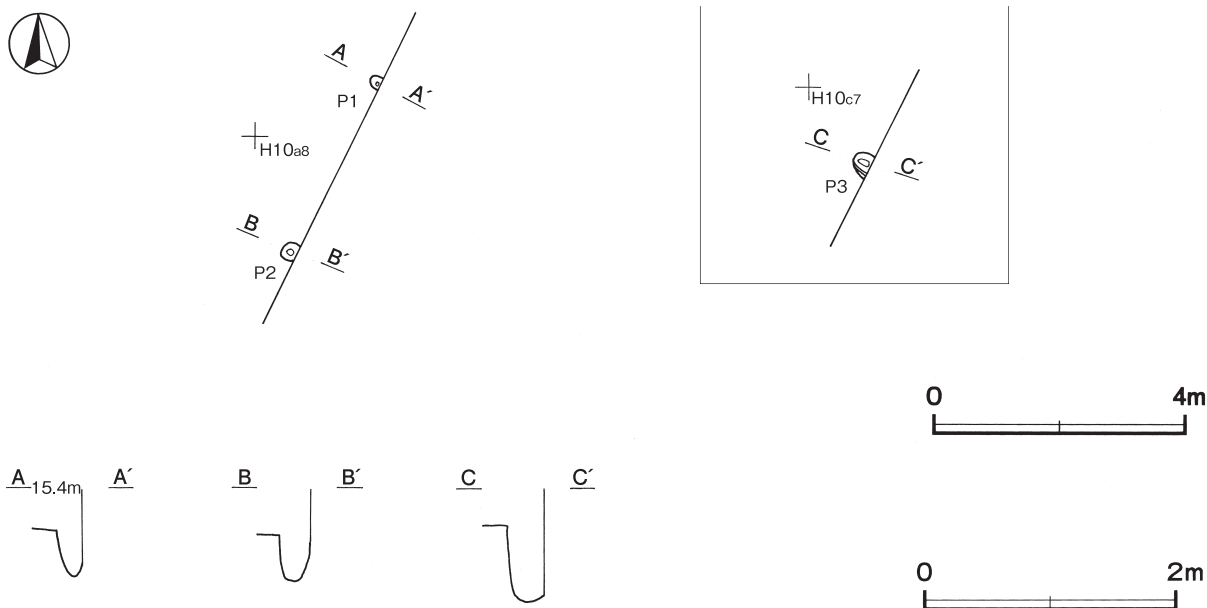
第 1 号ピット群 (第 172 図)

位置 調査区南西部の標高 15 m, G 10j8 ~ H 10c7 区にかけての東西 5 m, 南北 10 m の範囲から、柱穴状のピット 3 か所を確認した。

規模 平面形は長径 22 ~ 40cm の円形または楕円形で、深さが 37 ~ 60cm である。

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏, 甕類), 須恵器片 2 点 (坏, 甕類) が P 1・P 2 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第 172 図 第 1 号ピット群実測図

第 1 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	G10j8	[楕円形]	(22)	19	37	3	H10c7	[楕円形]	40	(32)	60
2	H10a8	楕円形	28	24	38						

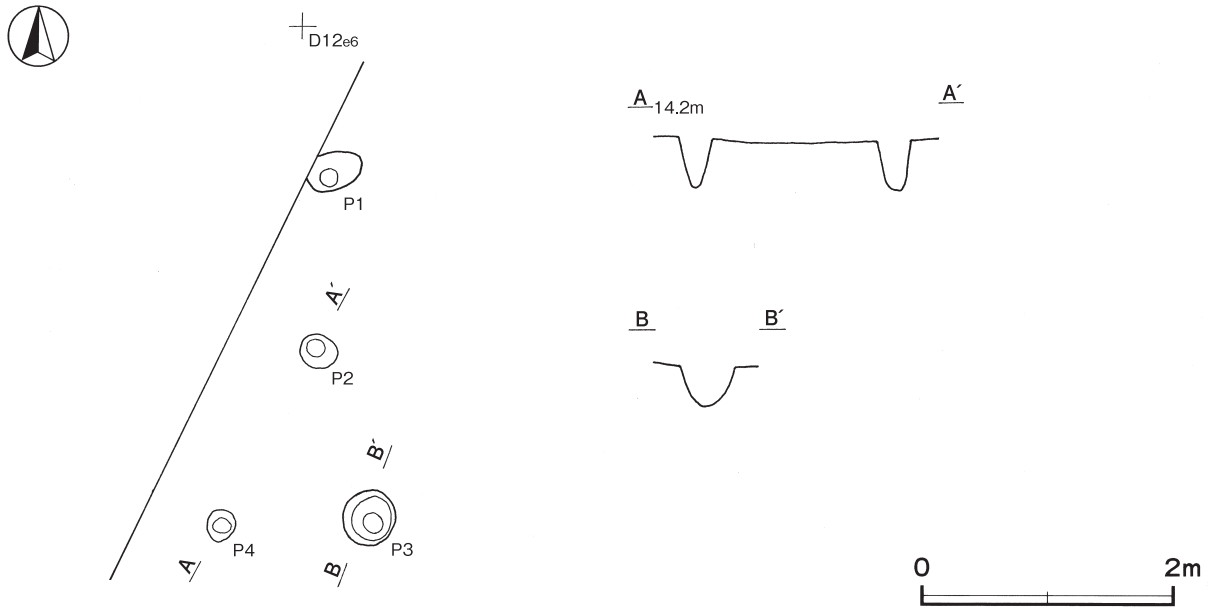
第2号ピット群 (第173図)

位置 調査区西部の標高14m, D12e5～D12e6区にかけての東西2m, 南北3mの範囲から, 柱穴状のピット4か所を確認した。

規模 平面形は長径25～46cmの円形または楕円形で, 深さが34～77cmである。

遺物出土状況 土師器片7点(甕類), 鉄滓3点(42.5g)がP1～P4の覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第173図 第2号ピット群実測図

第2号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D12e6	楕円形	46	32	77	3	D12e6	円形	42	42	34
2	D12e6	楕円形	32	28	38	4	D12e5	楕円形	25	22	38

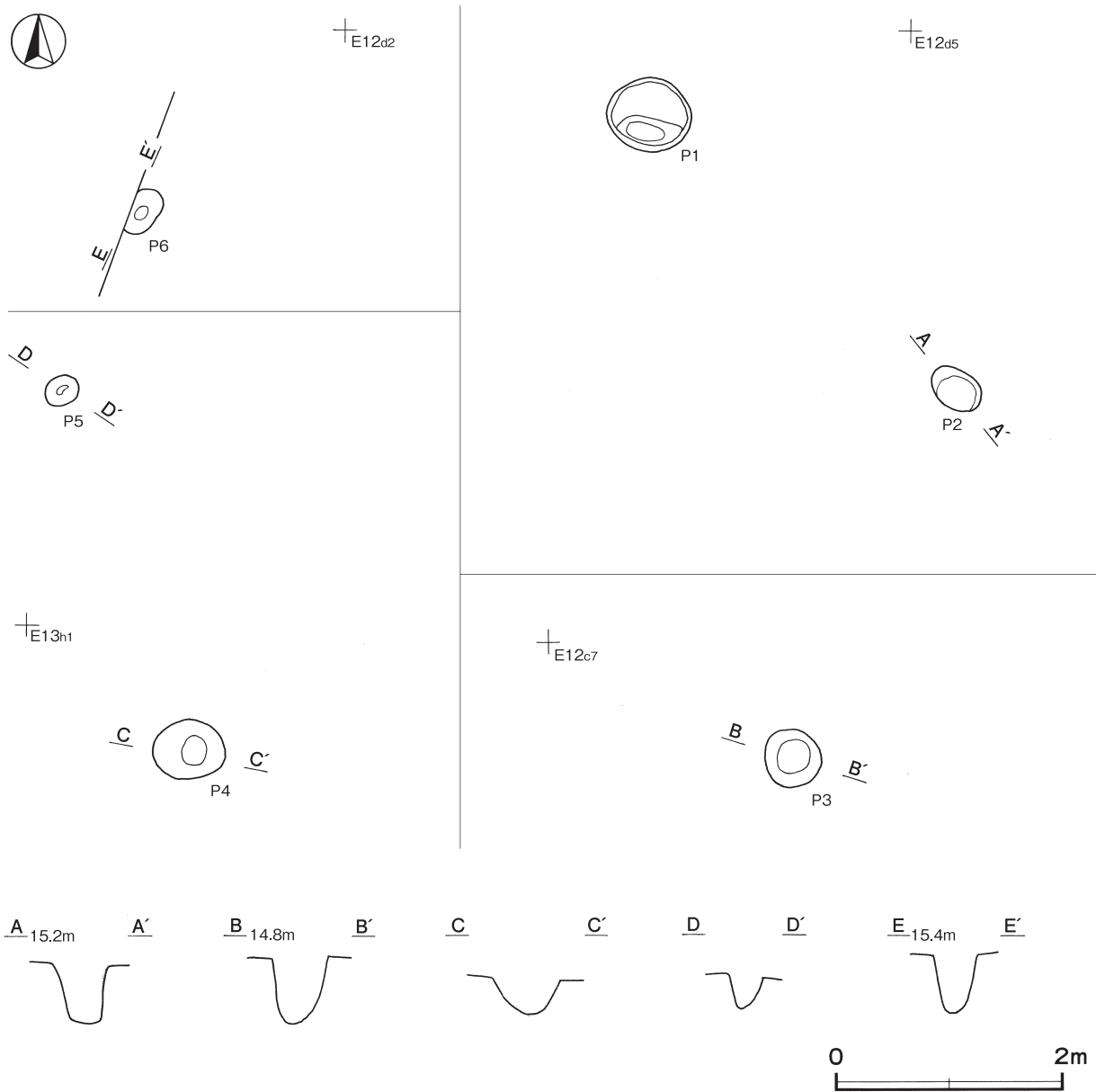
第3号ピット群 (第174図)

位置 調査区西部の標高15m, E12d1～E13h1区にかけての東西36m, 南北20mの範囲から, 柱穴状のピット6か所を確認した。

規模 平面形は長径30～74cmの円形または楕円形で, 深さが32～58cmである。

遺物出土状況 土師器片5点(坏2, 甕類3), 陶器片1点(碗)がP2・P3・P5・P6の覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第 174 図 第 3 号ピット群実測図

第 3 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E12d4	楕円形	74	66	39	4	E13h1	楕円形	60	54	32
2	E12d5	楕円形	48	35	50	5	E13g1	円形	30	28	32
3	E12c7	円形	52	50	58	6	E12d1	楕円形	44	(22)	50

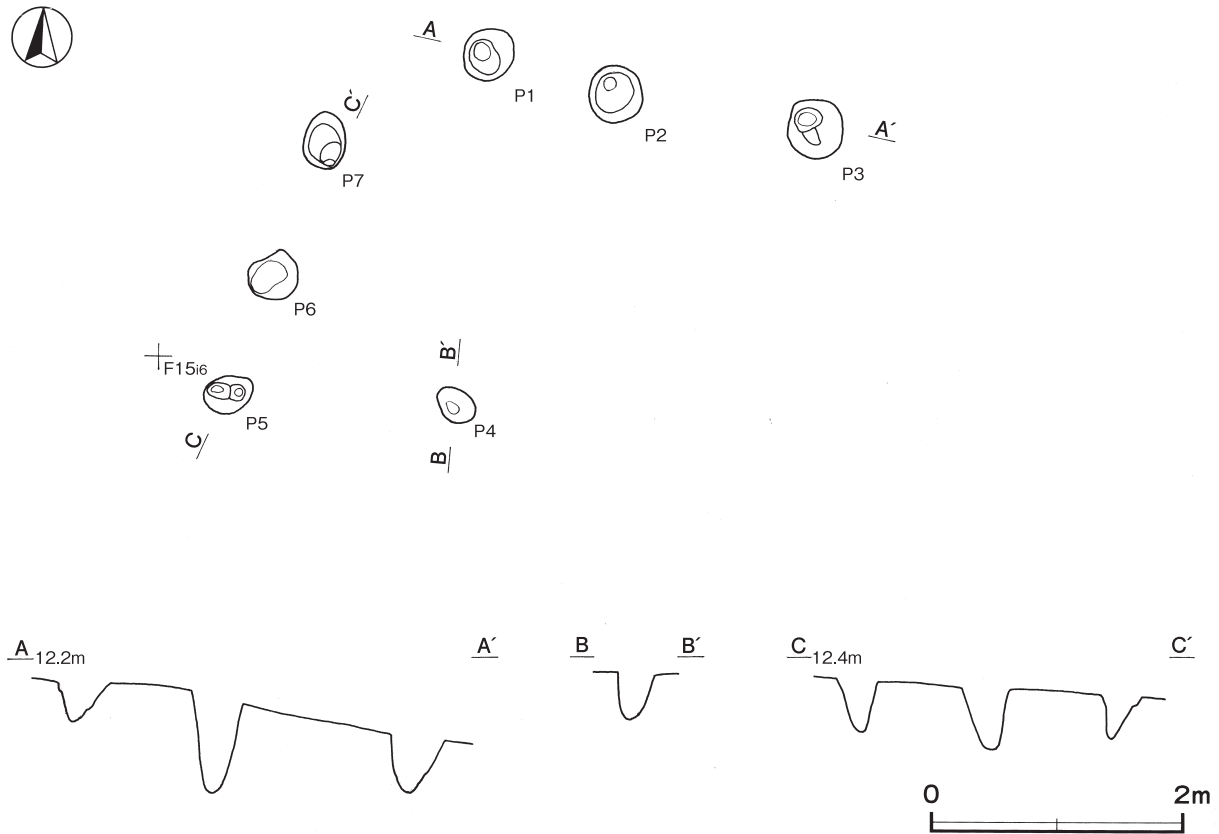
第 4 号ピット群 (第 175 図)

位置 調査区南東部の標高 12 m, F 15h6 ~ F 15i6 区にかけての東西 5 m, 南北 3 m の範囲から, 柱穴状のピット 7 か所を確認した。

規模 平面形は長径 34～50cmの円形または楕円形で、深さが 30～80cmである。

遺物出土状況 土師器片 3 点（甕）が P 1～P 3 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第 175 図 第 4 号ピット群実測図

第 4 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15h6	円形	45	42	30	5	F15i6	楕円形	42	30	40
2	F15h6	円形	46	44	80	6	F15h6	楕円形	42	36	44
3	F15h7	円形	50	46	40	7	F15h6	楕円形	46	34	38
4	F15i6	楕円形	34	24	38						

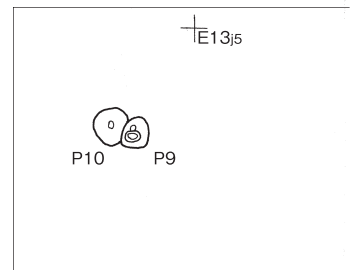
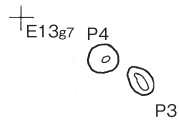
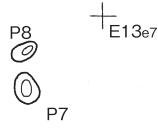
第 5 号ピット群 (第 176 図)

位置 調査区中央部の標高 14 m, E 13d9～E 13j4 区にかけての東西 24 m, 南北 24 m の範囲から、柱穴状のピット 10 か所を確認した。

規模 平面形は長径 32～60cmの円形、楕円形または不整楕円形で、深さが 29～68cmである。

遺物出土状況 土師器片 4 点（坏 1, 甕類 3）, 鉄滓 1 点 (8.7g) が P 3・P 5 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第 176 図 第 5 号ピット群実測図

第 5 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E13d9	不整楕円形	32	26	52	6	E13g5	楕円形	41	36	52
2	E13d9	円形	45	44	46	7	E13e6	楕円形	54	38	68
3	E13g7	楕円形	52	34	29	8	E13e6	楕円形	44	29	45
4	E13g7	楕円形	52	45	58	9	E13j4	楕円形	52	45	65
5	E13g5	楕円形	53	47	30	10	E13j4	円形	60	56	56

第 6 号ピット群 (第 177 図)

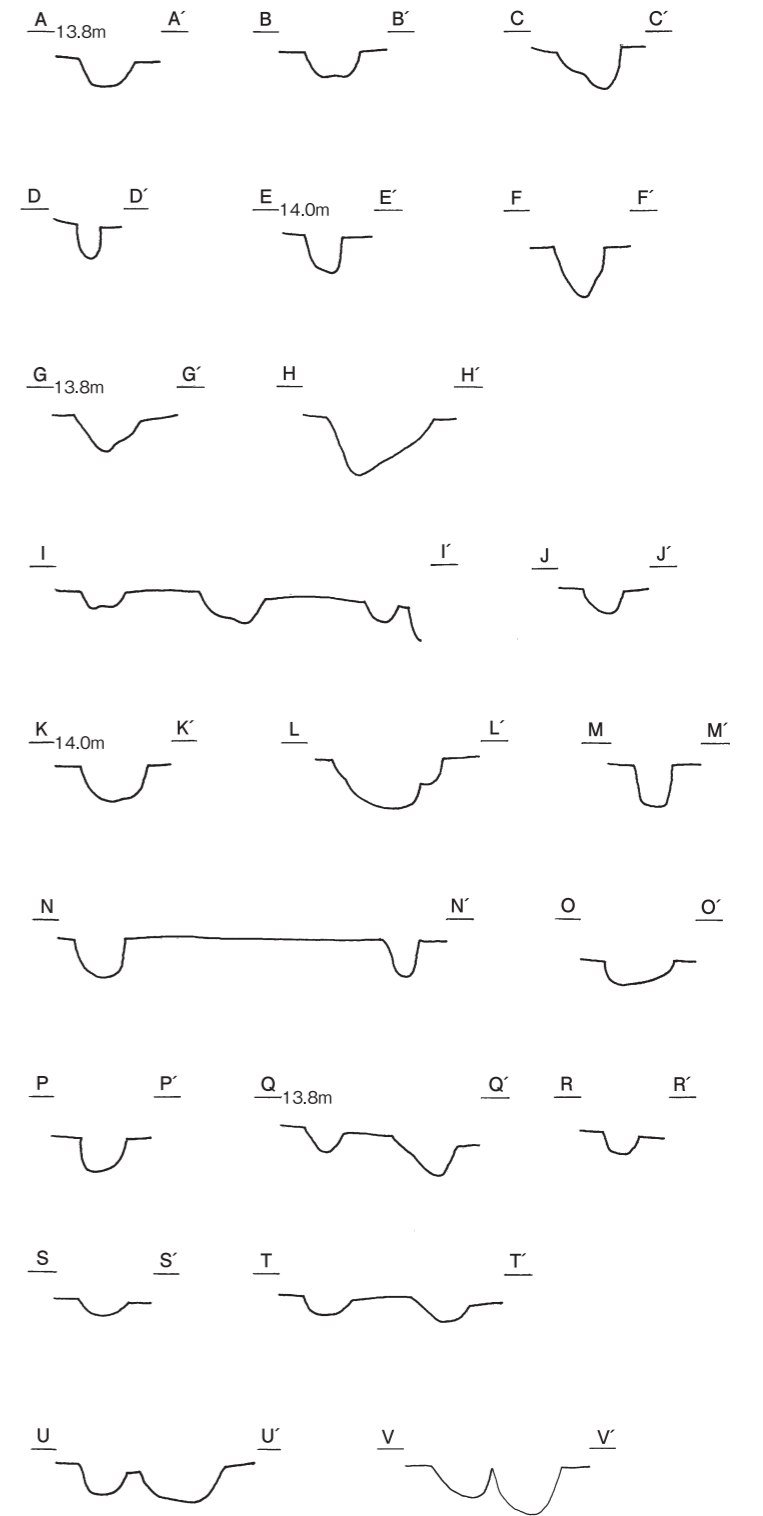
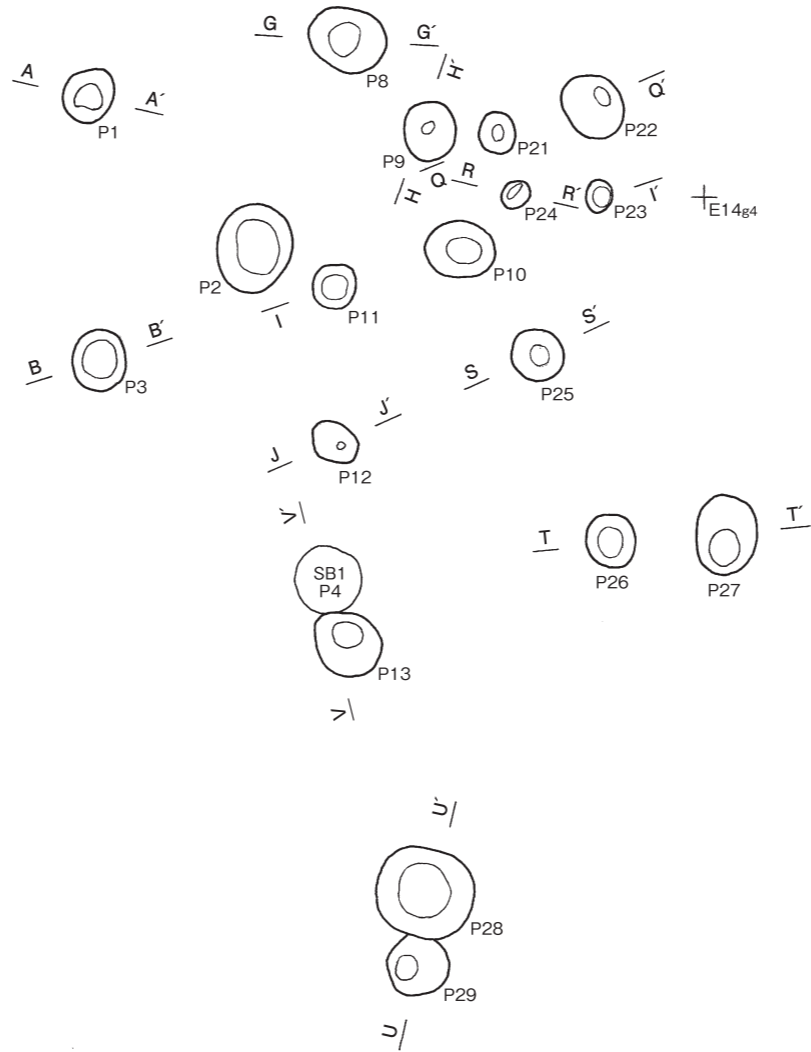
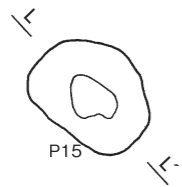
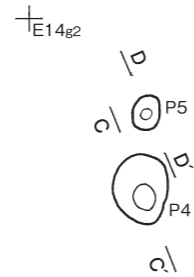
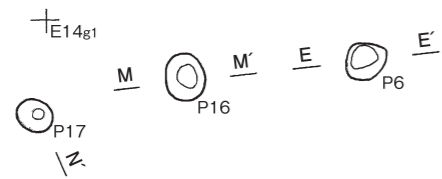
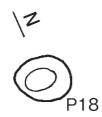
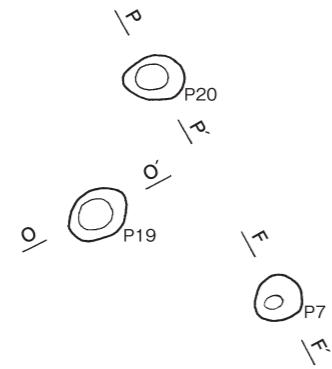
位置 調査区中央部の標高 14 m, E 14e1 ~ E 14h3 区にかけての東西 14 m, 南北 12 m の範囲から, 柱穴状のピット 29 か所を確認した。

重複関係 第 1 号掘立柱建物跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模 平面形は長径 26 ~ 100cm の円形または楕円形で, 深さが 12 ~ 50cm である。

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 1, 甕類 3), 須恵器片 4 点 (坏 1, 甕類 3) が P 9・P 15・P 18・P 22 の覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第 177 図 第 6 号ピット群実測図

第6号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E14f2	楕円形	45	40	24	16	E14g1	楕円形	38	34	31
2	E14g3	円形	68	62	-	17	E13g0	楕円形	30	26	32
3	E14g2	円形	48	44	21	18	E13f0	楕円形	43	38	30
4	E14g2	楕円形	54	44	37	19	E14f1	楕円形	50	38	16
5	E14g2	楕円形	28	23	26	20	E14e1	楕円形	46	38	27
6	E14g1	円形	34	32	30	21	E14f3	円形	32	30	18
7	E14f1	円形	39	36	42	22	E14f3	楕円形	50	44	27
8	E14f3	楕円形	62	52	30	23	E14f3	楕円形	26	22	12
9	E14f3	円形	48	44	50	24	E14f3	楕円形	26	19	15
10	E14g3	楕円形	54	46	24	25	E14g3	円形	44	42	12
11	E14g3	円形	37	36	17	26	E14g3	楕円形	44	40	16
12	E14g3	楕円形	40	30	20	27	E14g4	楕円形	62	50	20
13	E14g3	楕円形	58	50	25	28	E14h3	円形	77	72	30
14	E14h1	楕円形	62	56	30	29	E14h3	円形	48	48	26
15	E14h1	楕円形	100	78	42						

第7号ピット群 (第178・179図)

位置 調査区中央部の標高14m, E13h8～F14c1区にかけての東西16m, 南北19mの範囲から, 柱穴状のピット40か所を確認した。

重複関係 第2号掘立柱建物跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模 平面形は長径30～100cmの円形または楕円形で, 深さが12～67cmである。

遺物出土状況 土師器片42点(坏6, 甕類36), 須恵器片1点(坏), 鉄滓4点(18.0g)がP2・P3・P5・P6・P10・P12・P18・P20～P22・P24・P25・P28・P30・P33・P35・P37～P40の覆土中からそれぞれ出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

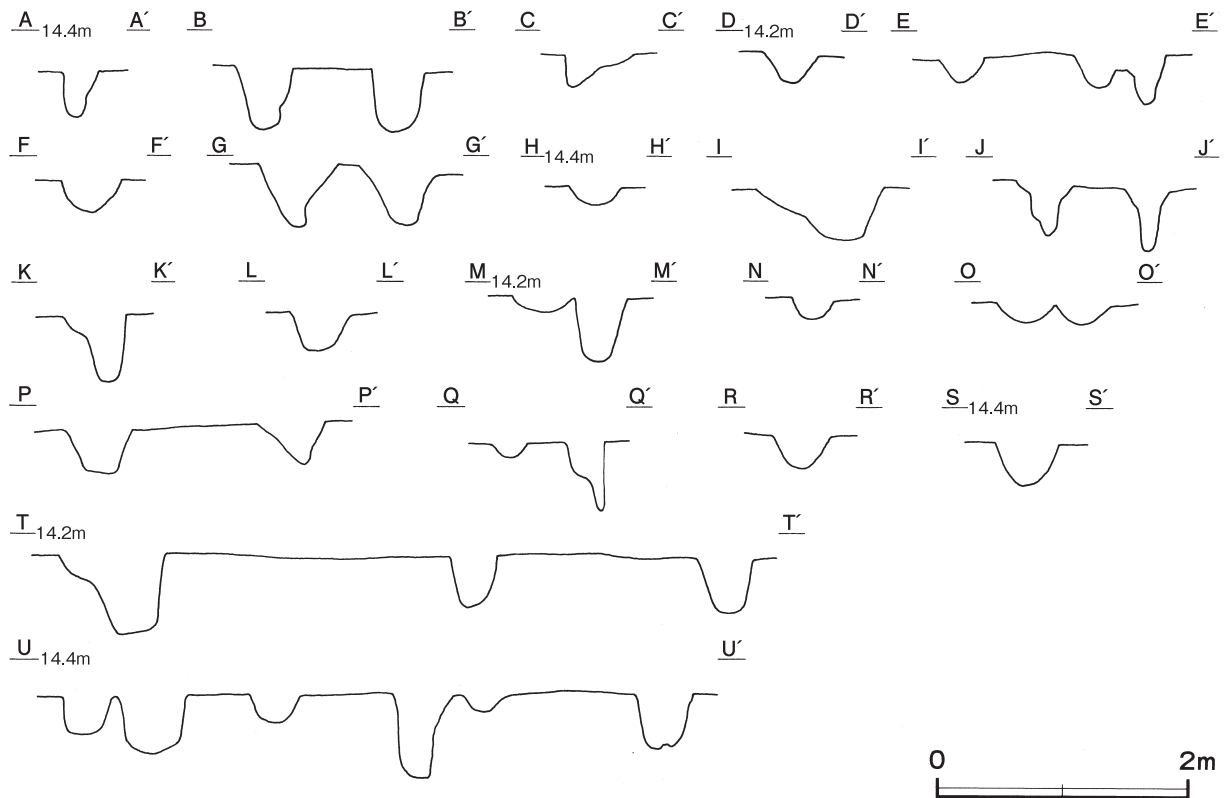
第7号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E13h8	円形	30	28	35	14	E13j8	楕円形	100	86	42
2	E13h9	円形	50	48	51	15	E13j8	円形	46	44	42
3	E13h9	円形	46	42	46	16	E13j8	楕円形	44	38	50
4	E13h9	楕円形	48	42	30	17	E13i8	楕円形	50	40	52
5	E14j1	楕円形	56	46	25	18	E13i8	楕円形	52	46	32
6	F14c1	楕円形	45	34	25	19	E13i9	楕円形	47	40	12
7	F14b1	楕円形	48	(38)	42	20	E13i9	楕円形	44	40	53
8	F14b1	楕円形	44	(38)	28	21	E13j9	円形	33	32	14
9	F13b0	円形	40	38	20	22	E13j0	楕円形	44	40	15
10	F13b0	円形	47	45	26	23	E13j0	楕円形	46	38	14
11	F13a9	楕円形	64	56	50	24	E13j0	楕円形	58	48	38
12	F13a9	円形	64	60	40	25	E13j0	円形	60	58	34
13	E13j8	楕円形	43	38	18	26	F14a1	楕円形	28	24	13

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
27	F14a1	楕円形	50	40	55	34	E13i0	楕円形	49	40	42
28	F13a0	楕円形	(50)	44	38	35	E13i9	楕円形	44	40	43
29	F13a9	円形	56	52	27	36	E13i9	円形	46	43	12
30	E13j9	円形	54	53	38	37	E13i9	円形	62	62	67
31	E13h9	楕円形	74	49	63	38	E13h9	楕円形	44	38	20
32	E13h9	楕円形	49	42	56	39	E13h8	楕円形	54	49	48
33	E13i9	円形	38	37	42	40	E13h8	楕円形	49	43	31



第 178 図 第 7 号ピット群実測図 (1)



第 179 図 第 7 号ピット群実測図 (2)

第 8 号ピット群 (第 180 図)

位置 調査区中央部の標高 14 m, F 14a3 ~ F 14c4 区にかけての東西 10 m, 南北 9 m の範囲から, 柱穴状のピット 14 か所を確認した。

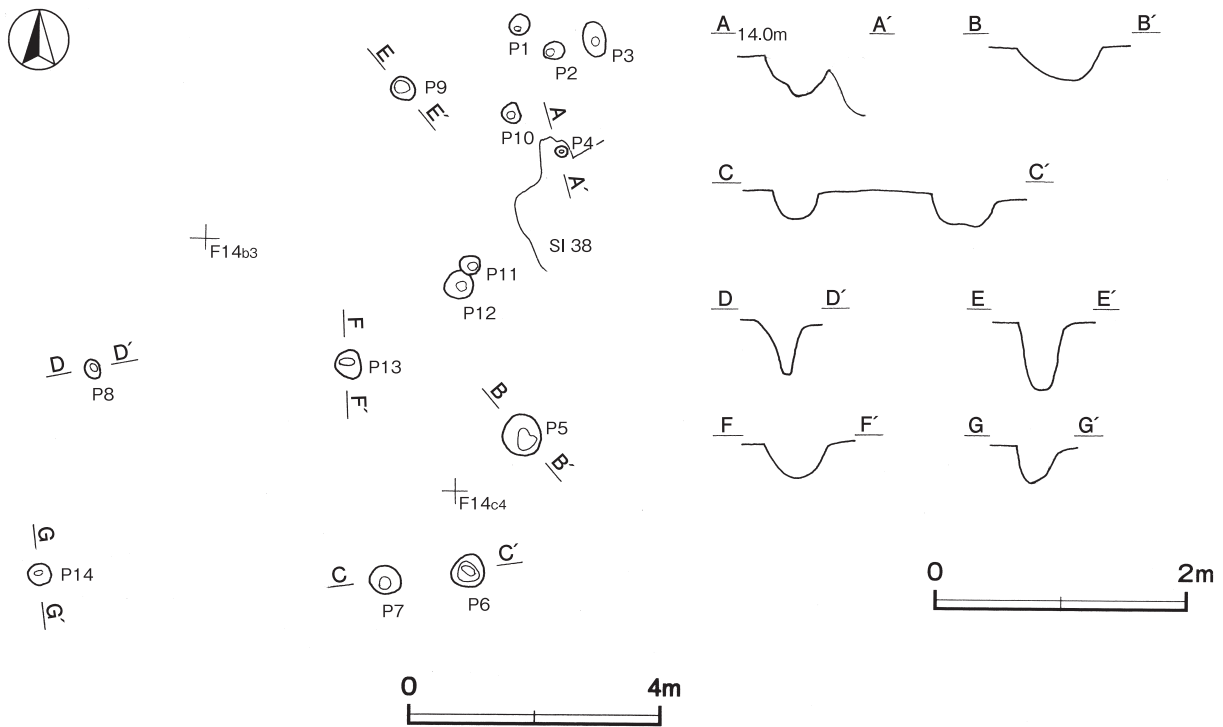
規模 平面形は長径 18 ~ 68cm の円形または楕円形で, 深さが 17 ~ 53cm である。

遺物出土状況 土師器片 11 点 (坏 4, 甕類 7), 須恵器片 2 点 (坏, 甕類), 鉄滓 5 点 (33.1g) が P 4・P 9 の覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第 8 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F14a4	楕円形	38	34	26	8	F14b2	楕円形	30	24	42
2	F14a4	楕円形	38	30	17	9	F14a3	円形	38	38	53
3	F14a4	楕円形	58	38	18	10	F14a4	楕円形	35	30	18
4	F14a4	円形	18	18	30	11	F14b4	円形	33	30	20
5	F14b4	楕円形	68	60	24	12	F14b4	円形	48	44	18
6	F14c4	楕円形	54	47	26	13	F14b3	円形	46	42	28
7	F14c3	円形	46	44	24	14	F14c2	円形	32	32	32



第 180 図 第 8 号ピット群実測図

第 9 号ピット群 (第 181 図)

位置 調査区中央部及び西部の標高 13 m, E 14f9 ~ E 15h2 区にかけての東西 17 m, 南北 10 m の範囲から, 柱穴状のピット 17 か所を確認した。

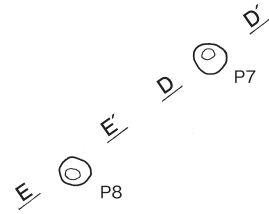
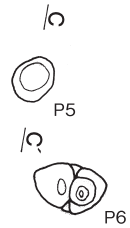
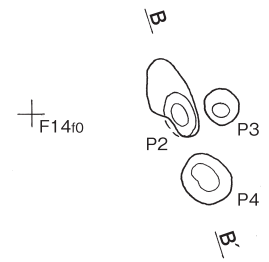
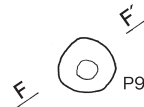
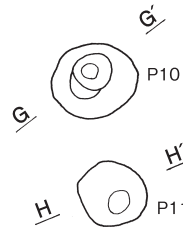
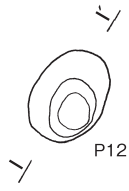
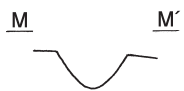
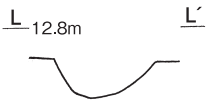
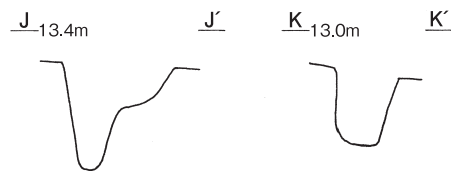
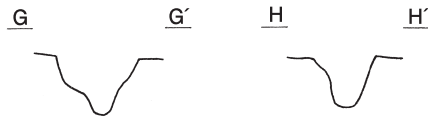
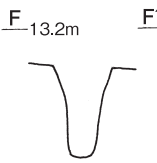
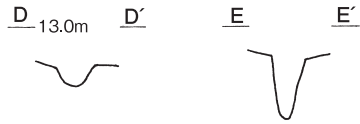
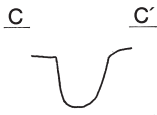
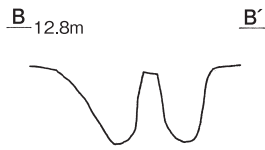
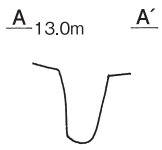
規模 平面形は長径 25 ~ 87cm の円形または楕円形で, 深さが 20 ~ 89cm である。

遺物出土状況 土師器片 11 点 (坏 2, 甕類 9), 須恵器片 3 点 (坏 2, 蓋 1), 磁器片 1 点 (碗), 鉄滓 8 点 (90.2g) が P 2 ・ P 11 ・ P 13 ~ P 15 の覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第 9 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E14f9	楕円形	38	32	56	10	E14g9	楕円形	70	62	49
2	E14f0	楕円形	68	32	62	11	E14g9	楕円形	55	50	42
3	E14f0	円形	28	27	45	12	E14g9	楕円形	77	57	82
4	E14f0	楕円形	44	37	60	13	E14h8	楕円形	87	62	89
5	E14f0	楕円形	40	33	40	14	E14go	楕円形	48	28	60
6	E14f0	楕円形	58	38	-	15	E15g1	楕円形	82	50	34
7	E14g0	円形	28	26	20	16	E15h1	楕円形	64	54	30
8	E14g0	円形	25	22	56	17	E15h2	楕円形	47	42	39
9	E14g9	円形	46	45	75						



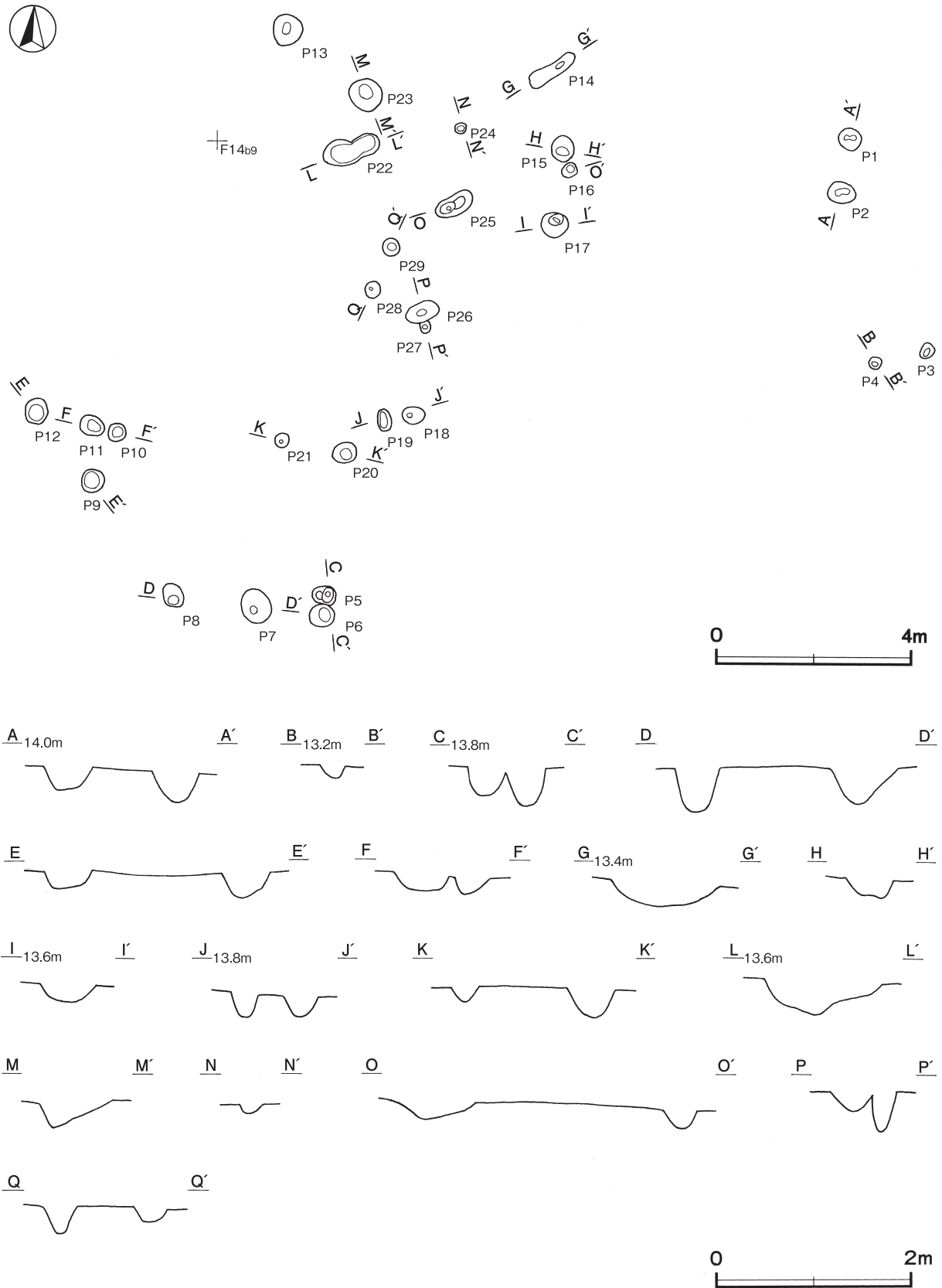
E 15h2



第 181 図 第 9 号ピット群実測図

第 10 号ピット群 (第 182 図)

位置 調査区中央部及び西部の標高 13 m, F 14a9 ~ F 14d9 区にかけての東西 18 m, 南北 12 m の範囲から,



第 182 図 第 10 号ピット群実測図

柱穴状のピット 29 か所を確認した。

規模 平面形は長径 24～118cmの円形または楕円形で、深さが 10～46cmである。

遺物出土状況 土師器片 29 点 (坏 9, 甕類 20), 須恵器片 14 点 (坏 10, 甕類 4), 剥片 1 点, 鉄滓 1 点 (38.4g) が P 1・P 2・P 5～P 9・P 11・P 14～P 17 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第 10 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15a2	円形	48	44	33	16	F14b0	楕円形	36	26	20
2	F15b2	楕円形	52	47	24	17	F14b0	円形	56	54	20
3	F15c2	楕円形	34	26	46	18	F14c0	楕円形	46	36	22
4	F15c2	円形	28	28	12	19	F14c9	楕円形	43	27	26
5	F14d9	楕円形	46	36	30	20	F14c9	楕円形	52	42	30
6	F14d9	円形	52	48	40	21	F14c9	円形	32	30	16
7	F14d9	円形	72	66	36	22	F14b9	楕円形	118	38	34
8	F14d8	楕円形	54	42	44	23	F14a9	楕円形	72	63	28
9	F14c8	円形	52	50	25	24	F14a0	円形	24	22	10
10	F14c8	円形	39	37	16	25	F14b0	楕円形	85	40	18
11	F14c8	楕円形	53	42	18	26	F14b0	楕円形	70	42	18
12	F14c8	楕円形	54	48	18	27	F14b0	円形	24	22	40
13	F14a9	円形	68	64	26	28	F14b9	楕円形	36	30	28
14	F14a0	楕円形	106	32	26	29	F14b9	円形	36	36	16
15	F14b0	楕円形	56	48	20						

第 11 号ピット群 (第 183 図)

位置 調査区西部の標高 11 m, F 15d8～F 15e8 区にかけての東西 2 m, 南北 5 m の範囲から、柱穴状のピット 7 か所を確認した。

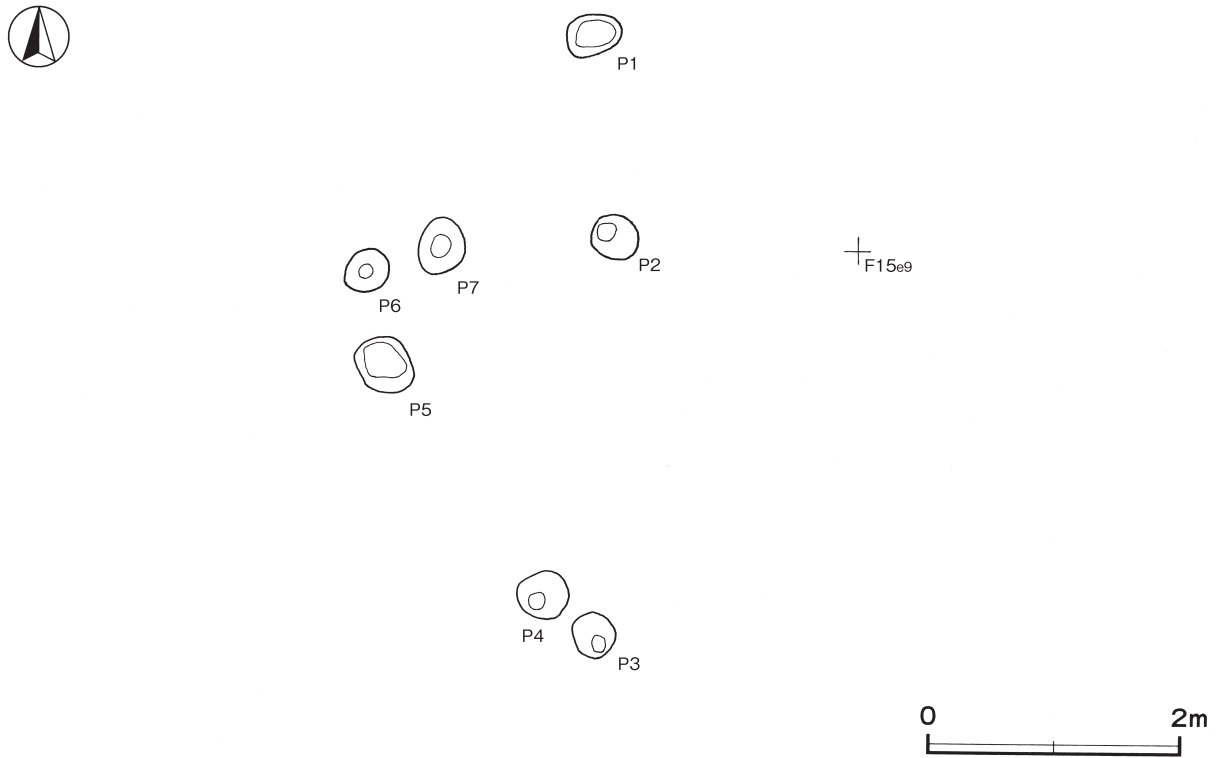
規模 平面形は長径 36～50cmの円形または楕円形で、深さが 18～51cmである。

遺物出土状況 土師器片 14 点 (甕類) が P 1～P 3 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第 11 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15d8	楕円形	44	32	18	5	F15e8	楕円形	50	42	34
2	F15d8	楕円形	38	34	25	6	F15e8	円形	36	34	51
3	F15e8	楕円形	40	34	38	7	F15d8	楕円形	46	38	34
4	F15e8	円形	40	40	25						



第 183 図 第 11 号ピット群実測図

第 12 号ピット群 (第 184 図)

位置 調査区中央部の標高 11 m, F 15h8 ~ G 15a0 区にかけての東西 7 m, 南北 13 m の範囲から, 柱穴状のピット 10 か所を確認した。

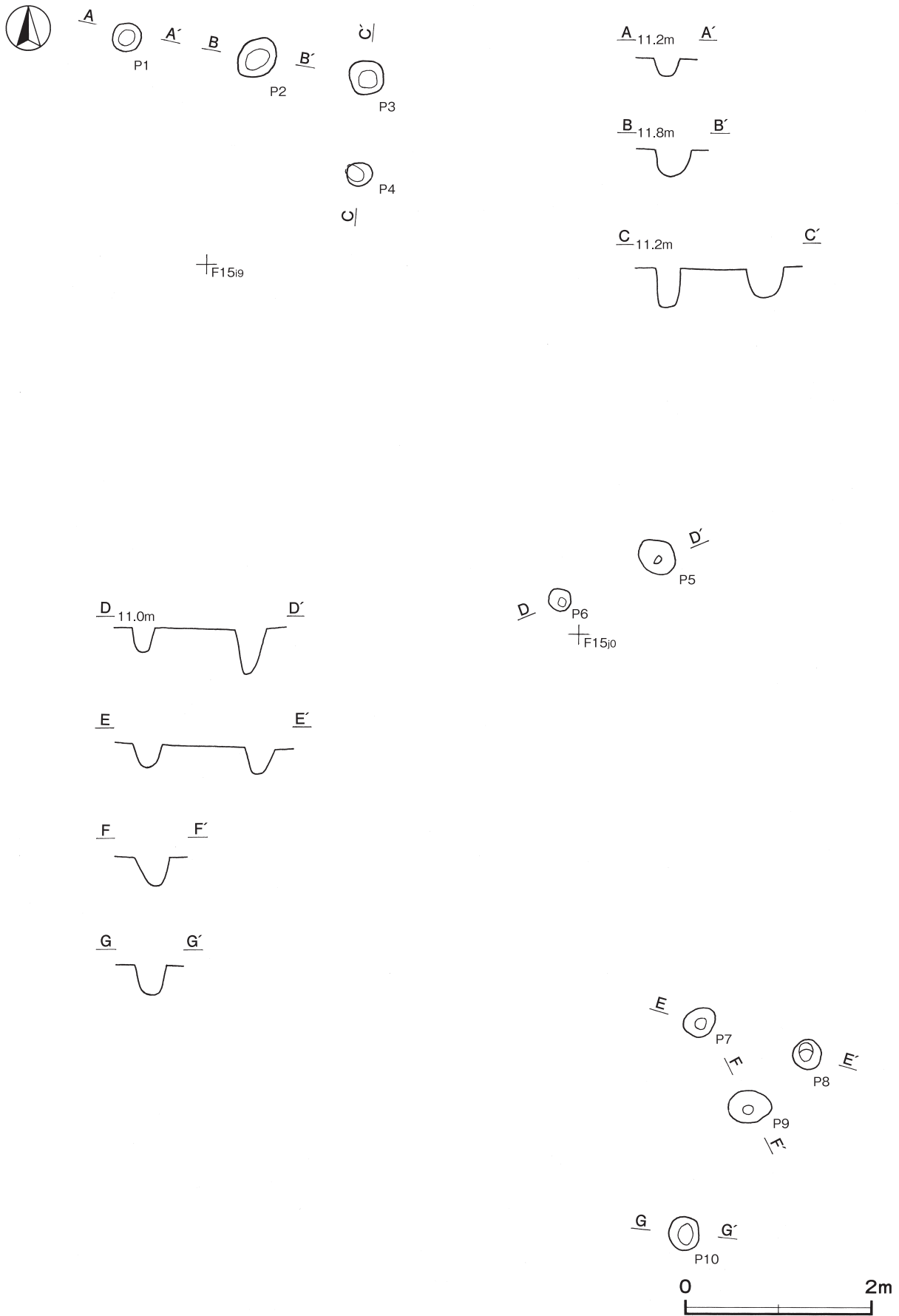
規模 平面形は長径 28 ~ 50cm の円形または楕円形で, 深さが 19 ~ 50cm である。

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢), 土師器片 6 点 (坏 2, 甕類 4) が覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第 12 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15h8	楕円形	32	28	19	6	F15i9	楕円形	28	25	28
2	F15h9	円形	50	46	28	7	G15a0	楕円形	36	30	22
3	F15h9	円形	40	38	30	8	G15a0	楕円形	34	30	28
4	F15h9	円形	28	28	40	9	G15a0	楕円形	48	36	32
5	F15i0	楕円形	46	36	50	10	G15a0	楕円形	38	32	34



第 184 図 第 12 号ピット群実測図

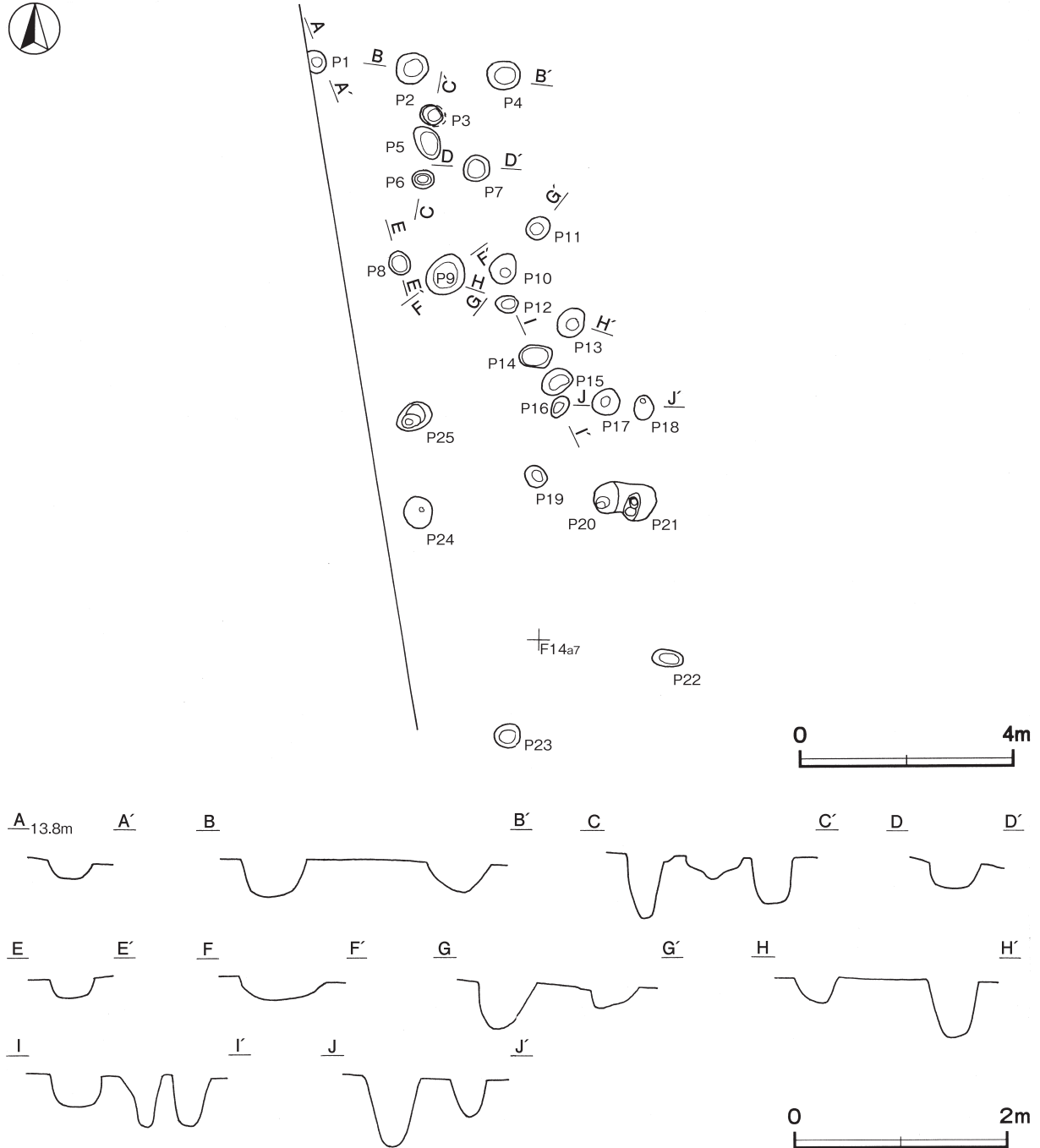
第 13 号ピット群 (第 185 図)

位置 調査区中央部の標高 13 m, E 14h5 ~ F 14a7 区にかけての東西 7 m, 南北 13 m の範囲から, 柱穴状のピット 25 か所を確認した。

規模 平面形は長径 42 ~ 84cm の円形または楕円形で, 深さが 10 ~ 77cm である。

遺物出土状況 土師器片 27 点 (坏 7, 甕類 20), 須恵器片 3 点 (坏), 鉄製品 1 点 (不明), 鉄滓 32 点 (620.3g) が P 1 ・ P 3 ・ P 4 ・ P 7 ・ P 9 ・ P 13 ~ P 17 の覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第 185 図 第 13 号ピット群実測図

第13号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E14h5	[円形]	46	(35)	17	14	E14i6	楕円形	59	41	34
2	E14h6	円形	65	60	36	15	E14i7	楕円形	62	47	52
3	E14h6	楕円形	63	57	30	16	E14i7	楕円形	46	30	50
4	E14h6	楕円形	45	37	47	17	E14i7	円形	55	51	67
5	E14h6	楕円形	67	47	24	18	E14i7	楕円形	47	33	36
6	E14h6	楕円形	42	34	63	19	E14j6	楕円形	43	38	47
7	E14h6	円形	52	50	26	20	E14j7	[円形]	60	(48)	69
8	E14i6	楕円形	43	38	20	21	E14j7	[円形]	71	(52)	77
9	E14i6	楕円形	84	70	18	22	F14a7	楕円形	57	33	10
10	E14i6	楕円形	60	47	50	23	F14a6	円形	48	44	14
11	E14i6	楕円形	47	42	23	24	E14j6	楕円形	61	52	31
12	E14i6	楕円形	42	32	25	25	E14i6	楕円形	65	51	51
13	E14i7	楕円形	60	47	54						

第14号ピット群 (第186図)

位置 調査区西部の標高12m, F15b3～F15d5区にかけての東西8m, 南北8mの範囲から, 柱穴状のピット19か所を確認した。

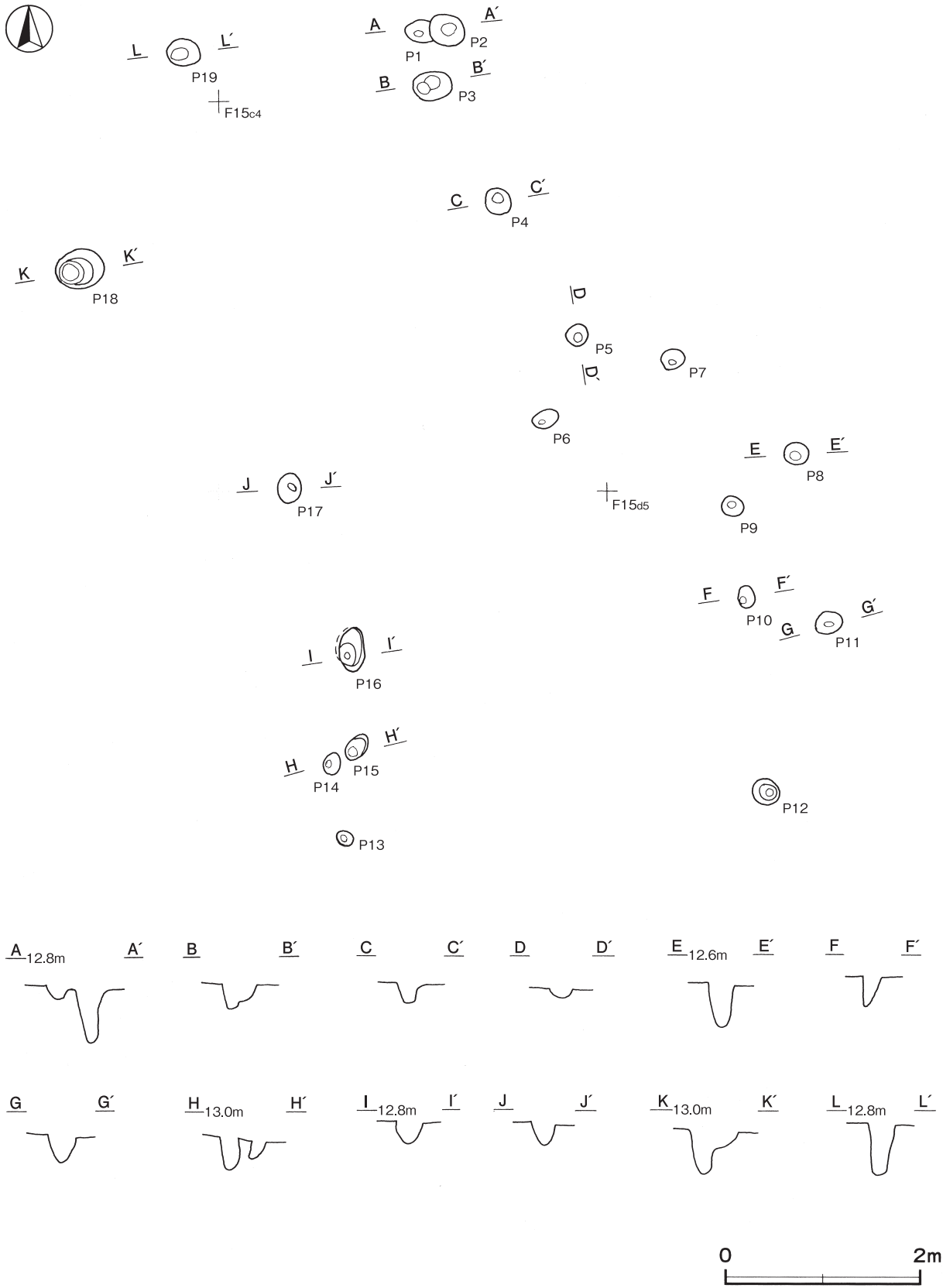
規模 平面形は長径18～50cmの円形または楕円形で, 深さが10～58cmである。

遺物出土状況 土師器片4点(甕類)が覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第14号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15b4	[円形]	(27)	27	15	11	F15d5	楕円形	30	23	26
2	F15b4	円形	38	35	58	12	F15d5	円形	27	25	27
3	F15b4	楕円形	39	34	27	13	F15d4	楕円形	18	14	10
4	F15c4	円形	28	28	20	14	F15d4	楕円形	23	18	35
5	F15c4	円形	24	23	10	15	F15d4	楕円形	29	21	19
6	F15c4	円形	23	22	38	16	F15d4	楕円形	46	26	23
7	F15c5	円形	25	23	23	17	F15d4	楕円形	30	25	23
8	F15c5	円形	26	26	45	18	F15c3	楕円形	50	43	44
9	F15d5	円形	23	23	23	19	F15b3	円形	31	30	54
10	F15d5	楕円形	26	20	31						



第 186 図 第 14 号ピット群実測図

表 13 その他のピット群一覧表

番号	位置	柱穴（長さの単位はすべてcm）					主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
		柱穴数	平面形	長径	短径	深さ			
1	G10j8 ~ H10c7	3	円形・楕円形	(22) ~ 40	19 ~ (32)	37 ~ 60	土師器, 須恵器		
2	D12e5 ~ D12e6	4	円形・楕円形	25 ~ 46	22 ~ 42	34 ~ 77	土師器, 鉄滓		
3	E12d1 ~ E13h1	6	円形・楕円形	30 ~ 74	(22) ~ 66	32 ~ 58	土師器, 陶器		
4	F15h6 ~ F15i6	7	円形・楕円形	34 ~ 50	24 ~ 46	30 ~ 80	土師器		
5	E13d9 ~ E13j4	10	円形・楕円形・ 不整楕円形	32 ~ 60	26 ~ 56	29 ~ 68	土師器, 鉄滓		
6	E14e1 ~ E14h3	29	円形・楕円形	26 ~ 100	19 ~ 78	12 ~ 50	土師器, 須恵器		SB1
7	E13h8 ~ F14c1	40	円形・楕円形	30 ~ 100	28 ~ 86	12 ~ 67	土師器, 須恵器, 鉄滓		SB2
8	F13a3 ~ F14c4	14	円形・楕円形	18 ~ 68	18 ~ 60	17 ~ 53	土師器, 須恵器, 鉄滓		
9	E14f9 ~ E15h2	17	円形・楕円形	25 ~ 87	22 ~ 62	20 ~ 89	土師器, 須恵器, 磁器, 鉄滓		
10	F14a9 ~ F14d9	29	円形・楕円形	24 ~ 118	22 ~ 66	10 ~ 46	土師器, 須恵器, 剥片, 鉄滓		
11	F15d8 ~ F15e8	7	円形・楕円形	36 ~ 50	32 ~ 42	18 ~ 51	土師器		
12	F15h8 ~ G15a0	10	円形・楕円形	28 ~ 50	25 ~ 46	19 ~ 50	縄文土器, 土師器		
13	E14h5 ~ F14a7	25	円形・楕円形	42 ~ 84	30 ~ 70	10 ~ 77	土師器, 須恵器, 鉄製品, 鉄滓		
14	F15b3 ~ F15d5	19	円形・楕円形	18 ~ 50	14 ~ 43	10 ~ 58	土師器		

(7) 不明遺構

第 1 号不明遺構（第 187 図）

位置 調査区南西部の F 11g4 区, 標高 15 m の台地上に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びており, 南部が攪乱を受けているため, 南北軸は 2.18 m, 東西軸は 0.32 m しか確認できなかった。深さは 17cm で, 底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

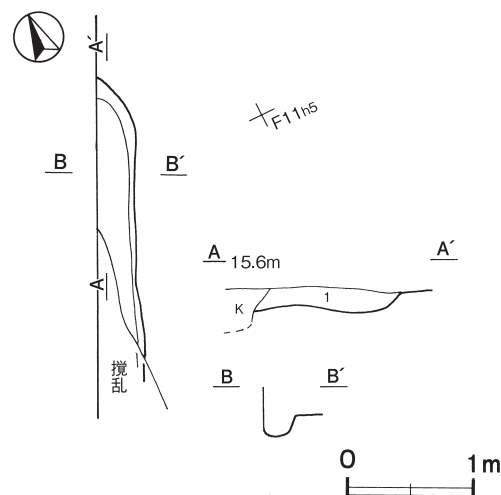
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した鉄滓 11 点 (58.5g) が出土している。

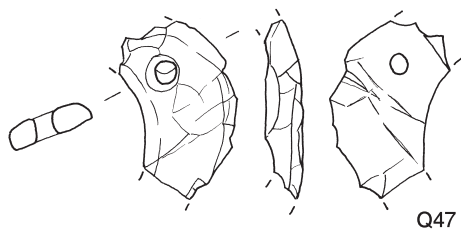
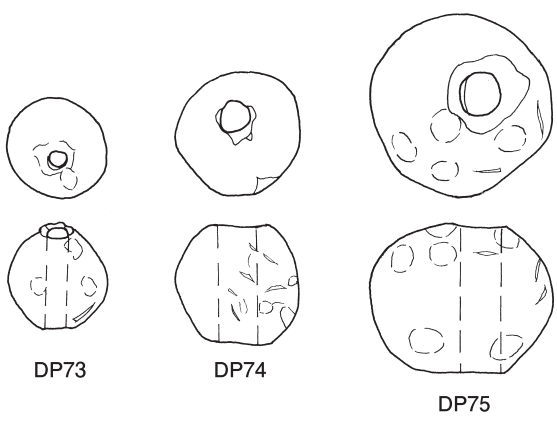
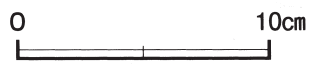
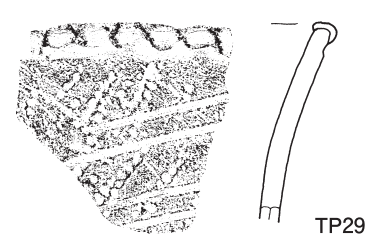
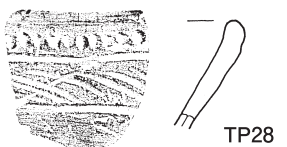
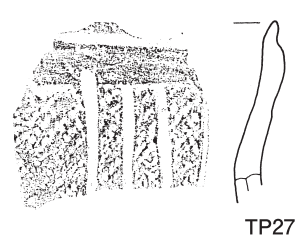
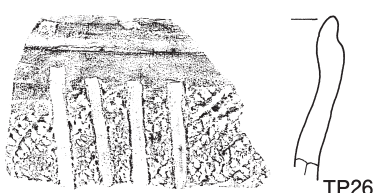
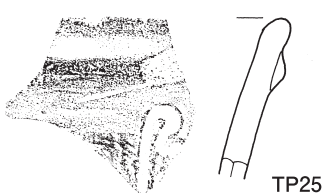
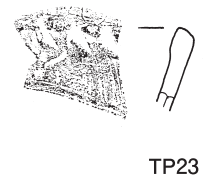
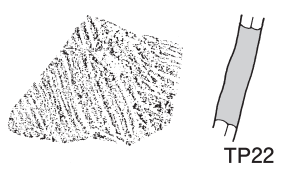
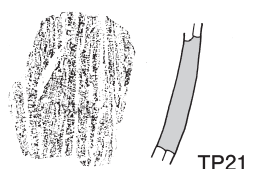
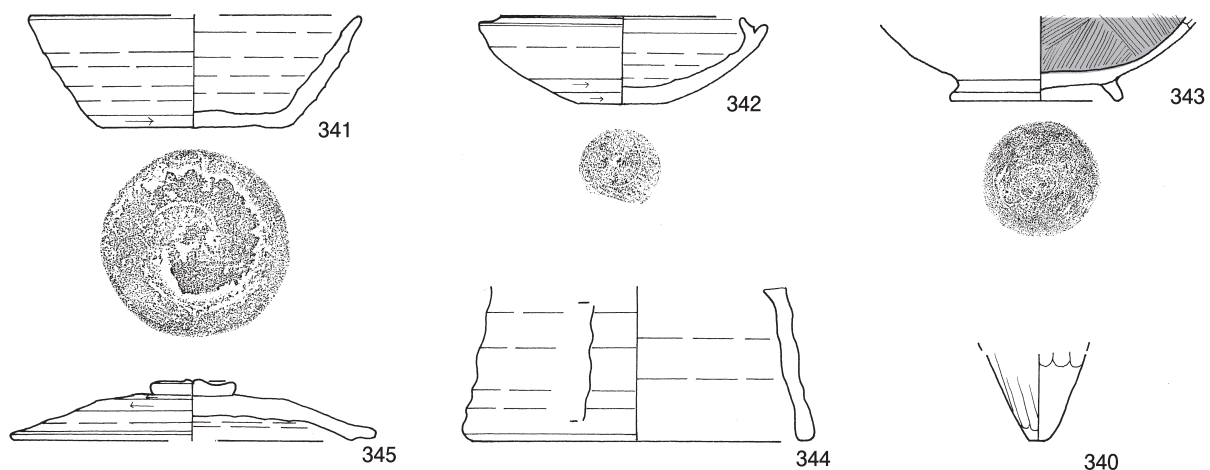
所見 遺構に伴う出土遺物がないため, 時期は不明である。住居跡の可能性もあるが, 確認できたのはわずかな部分で, 時期を判断できる遺物も出土していないことから, 性格は不明である。



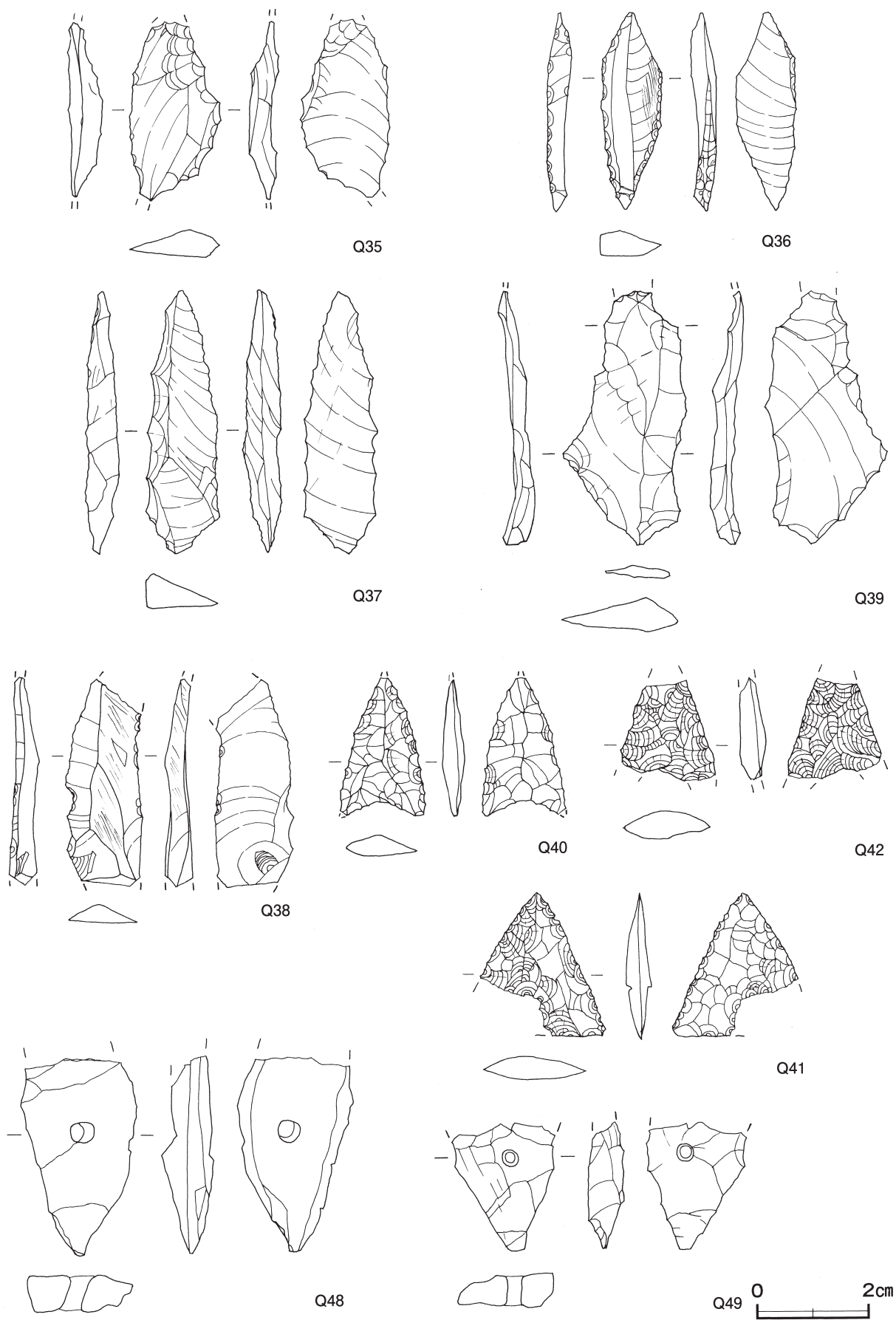
第 187 図 第 1 号不明遺構実測図

(8) 遺構外出土遺物（第 188 ~ 190 図）

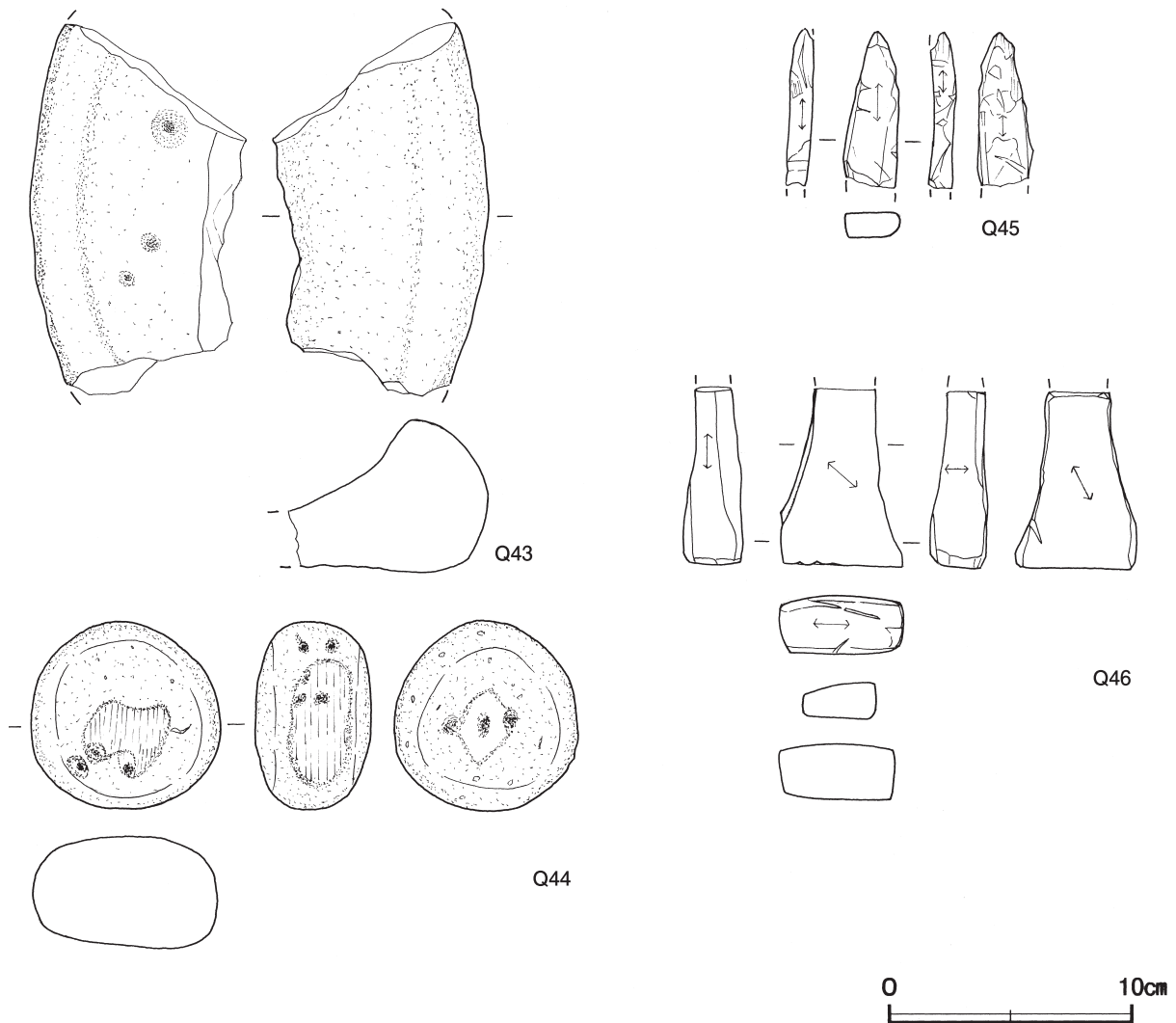
今回の調査で, 出土した遺構に伴わない遺物について, 実測図と観察表を掲載する。



第 188 图 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 189 图 遺構外出土遺物実測図 (2)



第 190 図 遺構外出土遺物実測図 (3)

遺構外出土遺物観察表 (第 188 ~ 190 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
340	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	先底部のみ残存 外面ヘラナデ	表土	5%
341	須恵器	坏	[13.0]	4.5	7.2	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	表土	60%
342	須恵器	坏	9.4	3.5	3.4	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	表土	80% PL40
343	土師器	高台付碗	-	(3.3)	6.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面多方向のヘラ磨き	表土	50%
344	須恵器	盤カ	-	(6.1)	[12.6]	長石・石英	暗灰	普通	ロクロナデ 脚部に透かし孔	表土	5%
345	須恵器	蓋	[14.4]	2.4	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	表土	50% PL40

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	外面条痕文	表土	
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	外面条痕文	表土	
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口縁部キザミ目	表土	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	口縁部横位の爪形文 半截竹管による斜行沈線	表土	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口縁部隆帯 胴部縄文を地文とし、蕨手状文施文	表土	
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	胴部単節縄文 LR を地文とし、4条の平行沈線が垂下	表土	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	胴部単節縄文 LR を地文とし、4条の平行沈線が垂下	表土	

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口縁部縦位のキザミ目 2条の平行沈線、間に斜行沈線	表土	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黒褐 にぶい褐	口縁部紐状文 胴部単節縄文LRを地文とし、斜行沈線	表土	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP73	土玉	2.0	2.1	0.4	6.7	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	表土	PL41
DP74	土玉	2.4	2.4	0.6	12.6	長石・石英	ナデ 工具痕 一方向からの穿孔	表土	PL41
DP75	土玉	3.6	3.0	0.8	37.6	長石・石英	ナデ 工具痕 指頭圧痕 一方向からの穿孔	表土	PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 35	ナイフ形石器	(3.2)	1.7	0.5	(2.4)	黒曜石	縦長剥片を素材とし、一側縁に調整を施す 端部欠損	SI63	PL44
Q 36	ナイフ形石器	3.5	1.1	0.5	1.4	黒曜石	縦長剥片を素材とし、一側縁ともう一方の側縁の下半部に調整を施す	表土	PL44
Q 37	ナイフ形石器	4.7	1.4	0.6	3.2	黒曜石	縦長剥片を素材とし、一側縁に調整を施す	SI41	PL44
Q 38	剥片	(3.8)	1.4	0.5	(1.9)	黒曜石	縦長剥片 背面は同一方向からの剥離 端部欠損	SI63	PL44
Q 39	剥片	(4.6)	2.3	0.6	(3.4)	硬質頁岩	縦長剥片 背面は同一方向からの剥離 一部欠損	表土	PL44
Q 40	鎌	(2.5)	1.5	0.4	(1.0)	チャート	両面剥離調整	SE2	PL44
Q 41	鎌	2.6	(2.2)	0.5	(1.4)	チャート	両面剥離調整 一部欠損	SI56	PL44
Q 42	鎌	(1.8)	(1.6)	0.5	(1.2)	黒曜石	両面剥離調整 一部欠損	表土	PL44
Q 43	石皿	(15.4)	(9.0)	6.6	(1037)	凝灰岩	上面摩耗による皿状の凹み 底面凹痕3か所	SI9	PL44
Q 44	磨石	7.8	7.7	4.6	469	花崗岩	全面研磨痕 上面・底面・側面に敲打痕	SI49	PL44
Q 45	砥石	(6.5)	2.3	1.1	(21.4)	凝灰岩	一部欠損 砥面4面 刃物痕	表土	PL44
Q 46	砥石	(7.3)	5.1	2.4	(86.3)	砂岩	一部欠損 砥面5面	表土	PL44
Q 47	勾玉カ	(3.6)	(2.4)	0.7	(5.2)	滑石	一部欠損 両面研磨 弓状に屈曲 0.3cmの穿孔	SI33	PL45
Q 48	剣形カ	(3.6)	2.1	1.0	(4.9)	滑石	一部欠損 両面研磨 0.4cmの穿孔	SI33	PL45
Q 49	剣形カ	(2.3)	1.8	0.7	(2.0)	滑石	一部欠損 両面研磨 0.3cmの穿孔	SI33	PL45

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 50	白玉	1.1	0.5	0.3	0.8	滑石	円筒状 両面研磨 一方向からの穿孔	SI33	PL45

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査では、縄文時代の土坑2基、古墳時代の竪穴住居跡33軒、土坑2基、奈良時代の竪穴住居跡27軒、土坑4基、平安時代の竪穴住居跡4軒を確認した。その他、時期不明の掘立柱建物跡2棟、溝跡14条、炉跡2基、井戸跡3基、土坑95基、ピット群14か所、不明遺構1基を確認した。遺物は、各遺構から土師器・須恵器とともに、土製品、石製品、鉄製品、製鉄・鍛冶関連遺物等が出土している。このことから、台地上から台地縁辺部にいたる今回の調査区内では、縄文時代に人々の生活の営みが始まり、古墳時代から集落が形成され、平安時代まで断続的に営まれていることが明らかになった。

当節では、縄文時代から平安時代にいたる各時代の遺構や出土遺物から、集落の変遷を概観していくこととする。また、奈良時代後葉の第47号住居跡から多量に出土している製鉄関連遺物を中心とし、調査区内から出土している鉄滓等を含めて、奈良・平安時代に本跡で行われていたとみられる製鉄について、若干の考察を加えてまとめとしたい。

当遺跡の遺構の時期については、当財団『研究ノート』及び報告書に掲載された県南地域における土器編年研究¹⁾を参考にするとともに、坂東市を中心とした地域の発掘調査報告書及び当財団の報告書²⁾を踏まえながら検討を行った。

2 古墳時代の土師器について

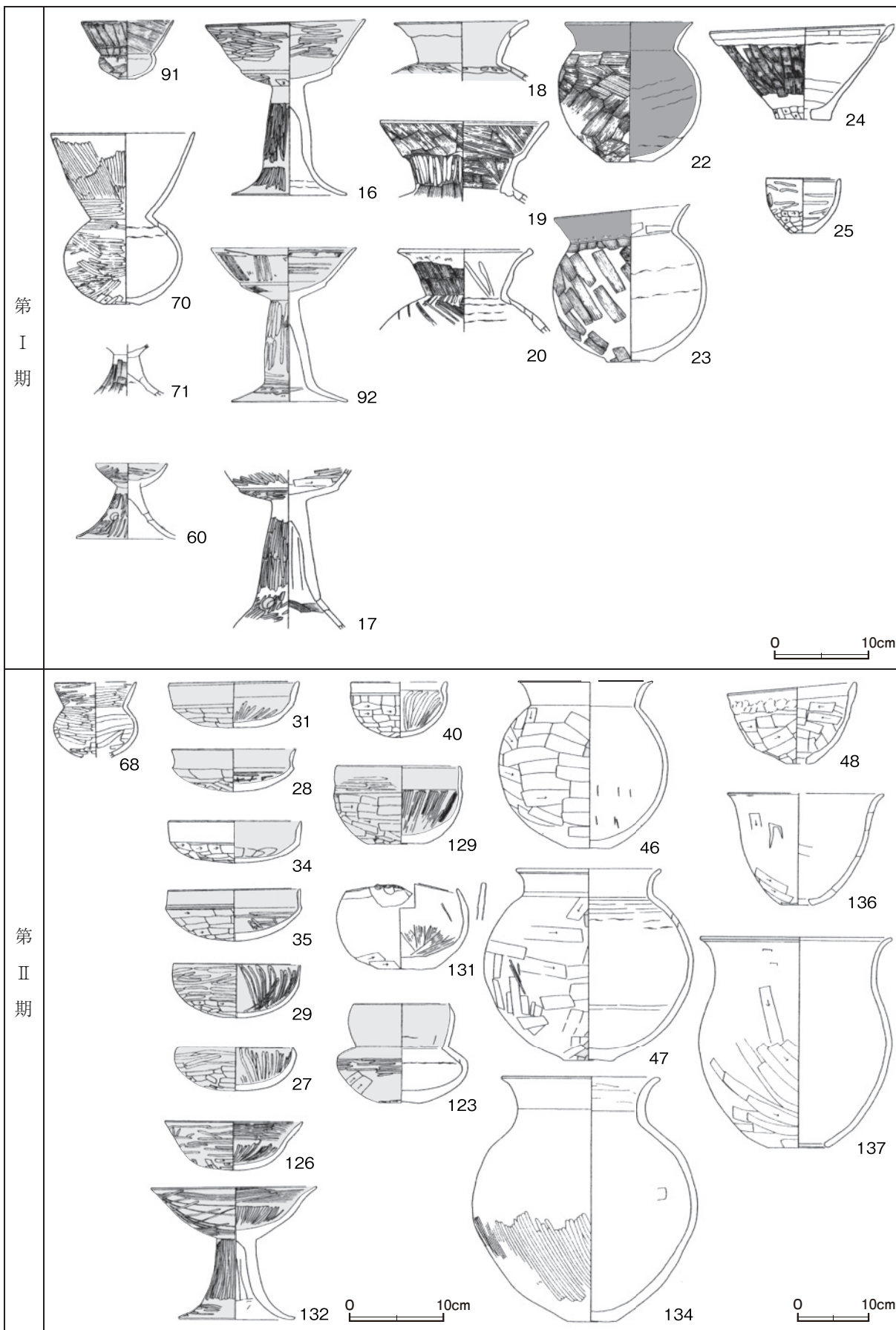
当時代の出土土器は、一部須恵器も出土しているが、大半を占めるのが土師器である。33軒の住居跡は、出土土器から判断して、古墳時代前期後葉から後期後葉まで間断なく存在している。ここでは、それらを第I～Ⅳ期（第I期＝4世紀後葉、第Ⅱ期＝5世紀末～6世紀初頭、第Ⅲ期＝6世紀、第Ⅳ期＝7世紀）に大別して、器種ごとに各期の特徴が現れたものを取り上げて、その変遷を捉えてみることにする。

(1) 第I期（第191図）

当期の出土土器の器種は、埴・器台・高坏・壺・甕・甌・ミニチュア土器・手捏土器である。

埴（70・91）は、小形のものには体部がそろばん玉形を呈し、底部は平底であり、外・内面にはハケ目調整が成されている。大形のものには、体部が球形を呈し、底部は平底であり、外面には精緻なヘラ磨きが施されている。器台（60・71）は、外面にヘラ磨きが施され、裾部に3か所穿孔されているものとハケ目調整が施されているものがある。高坏（16・17・92）は、坏底部に明確な稜を持ち、口縁部は大きく外傾している。脚部はエンタシス状の膨らみを持ち、精緻なヘラ磨きが施されている。裾部に3か所穿孔されているものもある。16・92は赤彩されている。壺（18・19・20）は、折り返し口縁、有段口縁、単口縁のものがある。体部は遺存していないが、球形と推定できる。外面にはハケ目調整後、ナデやヘラナデが施されている。甕（22・23）は、口縁がくの字状で、体部は球形を呈しており、底部は平底である。外面には、ハケ目調整が施されている。甌（24）は、折り返し口縁で、体部は鉢形を呈している。外面にはハケ目調整、下端にはヘラ削りが施されている。底部の中央が穿孔されている。ミニチュア土器（25）は、鉢形で、外・内面にはナデとヘラ磨き、下端にはヘラ削りが施されている。第I期は五領式から和泉式への過渡期にあたる土器群と考えられる。

(2) 第Ⅱ期（第191図）



第 191 図 宮内遺跡古墳時代第 I・II 期出土土器 赤彩 煤

当期の出土土器の器種は、埴・坏・椀・高坏・短頸壺・甕・甌である。第Ⅰ期に存在した器台・ミニチュア土器・手捏土器は確認できず、壺の出土量もわずかである。坏・椀・短頸壺が新たに出土している。

埴(68)は出土量がほとんどなくなり、形状は体部がやや扁平な球形を呈し、括れは浅く、口縁部は第Ⅰ期より短くなっている。坏(27・28・29・31・34・35・126)は今期から出土するようになり、豊富な形状を持っている。須恵器坏蓋模倣で、口縁部と体部の境目に明確な稜を持つものは、口縁部が外傾して立ち上がるもの、やや外反して立ち上がるもの、直立するもの、やや内傾するものがある。また、口縁部と体部の境目に明瞭な稜がみられない椀状のものは、口縁がまっすぐに立ち上がるものや内傾しているもの、大きく外反するものがある。体部外面にはヘラ削り、内面にはヘラ磨きが施されており、外・内面とも赤彩されているものが大半を占めている。椀状のものは、外面上位及び内面にはヘラ磨きが施されており、外・内面とも赤彩されている。椀(40・129・131)も今期から出土するようになり、口径が10cm強と小形で口縁がやや外傾するもの、口縁が直立するもの、口縁に片口を有する特殊な器形のものなどが出土している。外面にはヘラ削り、内面にはヘラ磨きまたはヘラナデが施されている。高坏(132)は、第Ⅰ期よりも器高が低く、肉厚である。坏部の深さは浅く、脚部は裾部にかけてラッパ状に開いている。外面には精緻な磨きが施され、赤彩されている。短頸壺(123)の出土は1例のみで、口径と器高はほぼ10cmである。体部はそろばん玉状に膨らみ、口縁部より張り出している。括れた頸部から口縁が外傾して立ち上がるが、上端はやや内傾している。埴の派生種と考えられる。甕(46・47・134)は、第Ⅰ期よりも大形化している。体部は球形をしたものとやや長胴化したものがある。口縁部は、くの字に開いたものとやや頸部の伸びたものがある。底部はやや突出しているものもある。甌(48・136・137)は、基本的には鉢形を呈しているが、第Ⅰ期よりも体部が緩やかに弯曲している。口縁がやや外反するものや、大形で甕形を呈するものも出土している。第Ⅱ期の土器群は鬼高式初期に当たると考えられる。

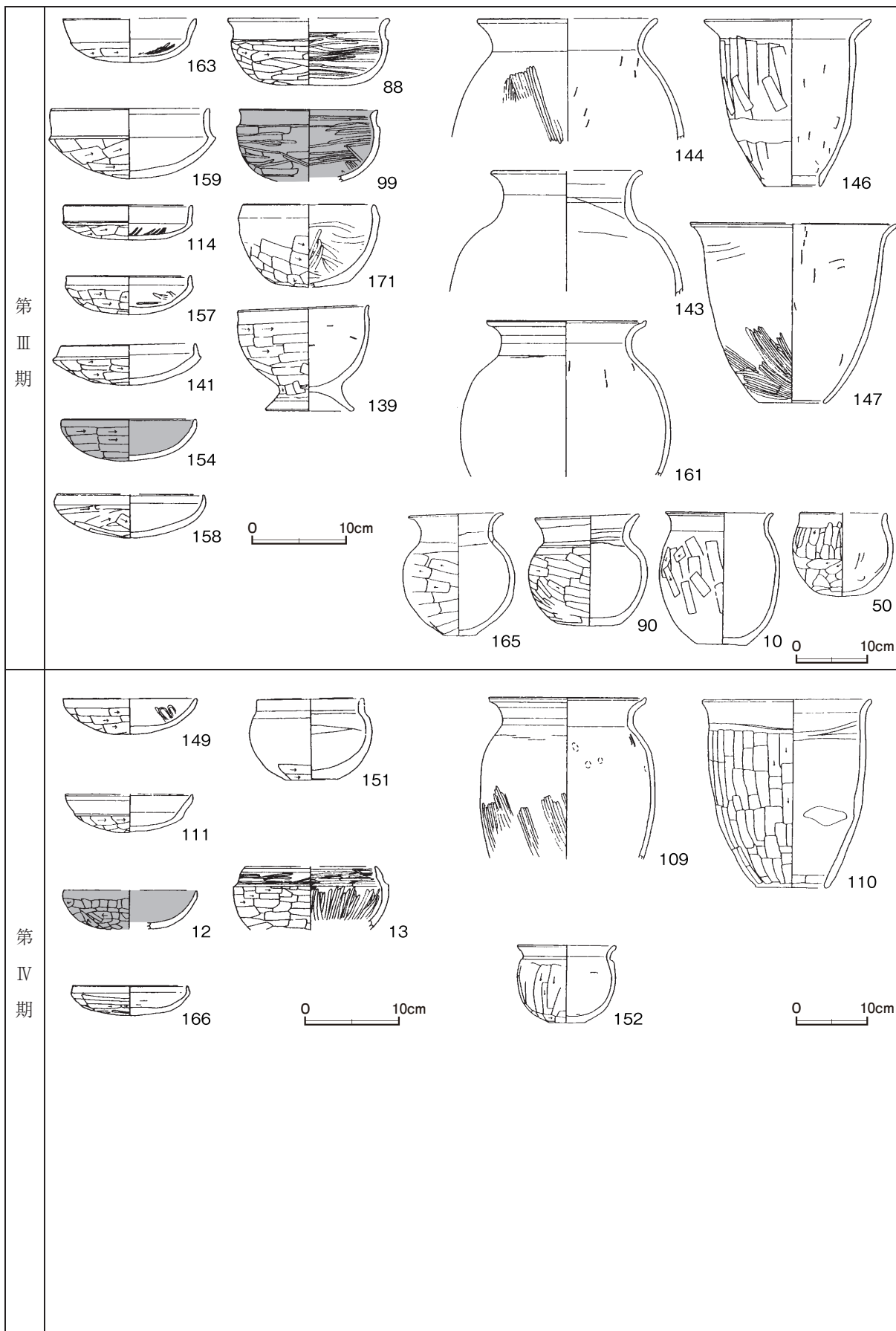
(3) 第Ⅲ期(第192図)

当期の出土土器の器種は、坏・椀・台付椀・甕・小形甕・甌である。器種が減り日常使用する供膳具が主体である。

坏(114・141・154・157・158・159・163)は、全体的に第Ⅱ期のものより口径が大きくなる傾向がみられる。器高は低くなり、扁平になる傾向が認められる。第Ⅱ期にみられたような、椀状で外・内面にヘラ磨きが施されており、大きく外反して立ち上がるものは姿を消している。赤彩されたものはわずかとなり、黒色処理を施されたものが出土している。椀(88・99・139・171)は、第Ⅱ期のものより全体に大形化する傾向が認められる。口縁部には横ナデ、体部には削りが施されている。外・内面には黒色処理がされているものもある。台付のものが1点出土している。甕(143・144・161)は、第Ⅱ期と同様に括れは緩やかであるが、口縁部がくの字に開いたものとやや頸部の伸びたものがある。また、この時期から口縁部がつまみ上げられた常総形がみられるようになる。体部は長胴化が進み、外面にはヘラ削りだけではなく、ヘラ磨きが施されているものもみられる。小形甕(10・50・90・165)も出土するようになり、体部が球形を呈して底部がやや突出するもの、括れが弱く体部が卵形のもの、口縁部が開かず深い椀形のもの等が出土している。甌(146・147)は、口縁部がくの字に開くもの、体部と口縁部との境に括れをあまり持たず、体部からそのままわずかに外反して立ち上がり、下半にヘラ磨きが施されているものが出土している。第Ⅲ期の土器群は鬼高式である。

(4) 第Ⅳ期(第192図)

当期の出土土器の器種は、坏・椀・甕・小形甕・甌である。第Ⅲ期に引き続き、供膳具が主体である。



第 192 图 宮内遺跡古墳時代第Ⅲ・Ⅳ期出土土器 ■ 黑色处理

住居数が減っていることから、土器の出土量も少なくなっている。

坏（12・111・149・166）は、小形化する傾向が見られ、黒色処理されたものもある。第Ⅱ期のころ明確であった稜が曖昧になり、胎土や調整も粗雑になっている。椀（13・151）は、第Ⅲ期よりもやや小形化し、器高に比べて口径が小さく、半球状になる。甕（109）は、より長胴化が進み、口縁部のつまみ上げが強く、明瞭になっている。体部のヘラ磨きは、中位以下に施されている。小形甕（152）は、出土例が少なく良好な資料は少なかったが、頸部の括れがあまりなく、口縁部は小さく外反している。体部は椀のような形状となる。甌（110）は、体部外面は直線的で、口縁部はわずかに外反している。外面には縦位のヘラ削りが施されている。第Ⅳ期の土器群は鬼高式の終末期に当たると考える。

以上、当遺跡の古墳時代の住居跡から出土した土師器をⅠ～Ⅳ期に分けて、各期における器種の構成や技法をもとに変遷を追ってみた。多くの事例を基にした研究により、編年が確立している県南地域における変遷とほぼ合致していることが確認できた。今後は、細部に目を向け、更なる近隣の調査研究の蓄積を基に、当遺跡の属する下総国内や近隣諸国からの影響等も考慮した土器編年研究が必要になるであろう。

3 各時代の様相

(1) 縄文時代

当時代の遺構は、第85・87号土坑の2基である。第87号土坑では、覆土上層から後期前葉の堀之内Ⅰ式期の土器が出土した。そのほか、調査区東端の低地に向かう緩やかな斜面部では、表土や後世の遺構の覆土に混入あるいは流れ込んだ縄文土器片が確認できた。それらは、早期から後期にかけての条痕文系土器、浮島式土器、堀之内Ⅰ式土器、加曽利B式土器である。土器の出土量は少ないが、石鏃・石皿・磨石等の石器類も出土していることから、近くに集落が形成されていた可能性が考えられる。

(2) 古墳時代（第193図）

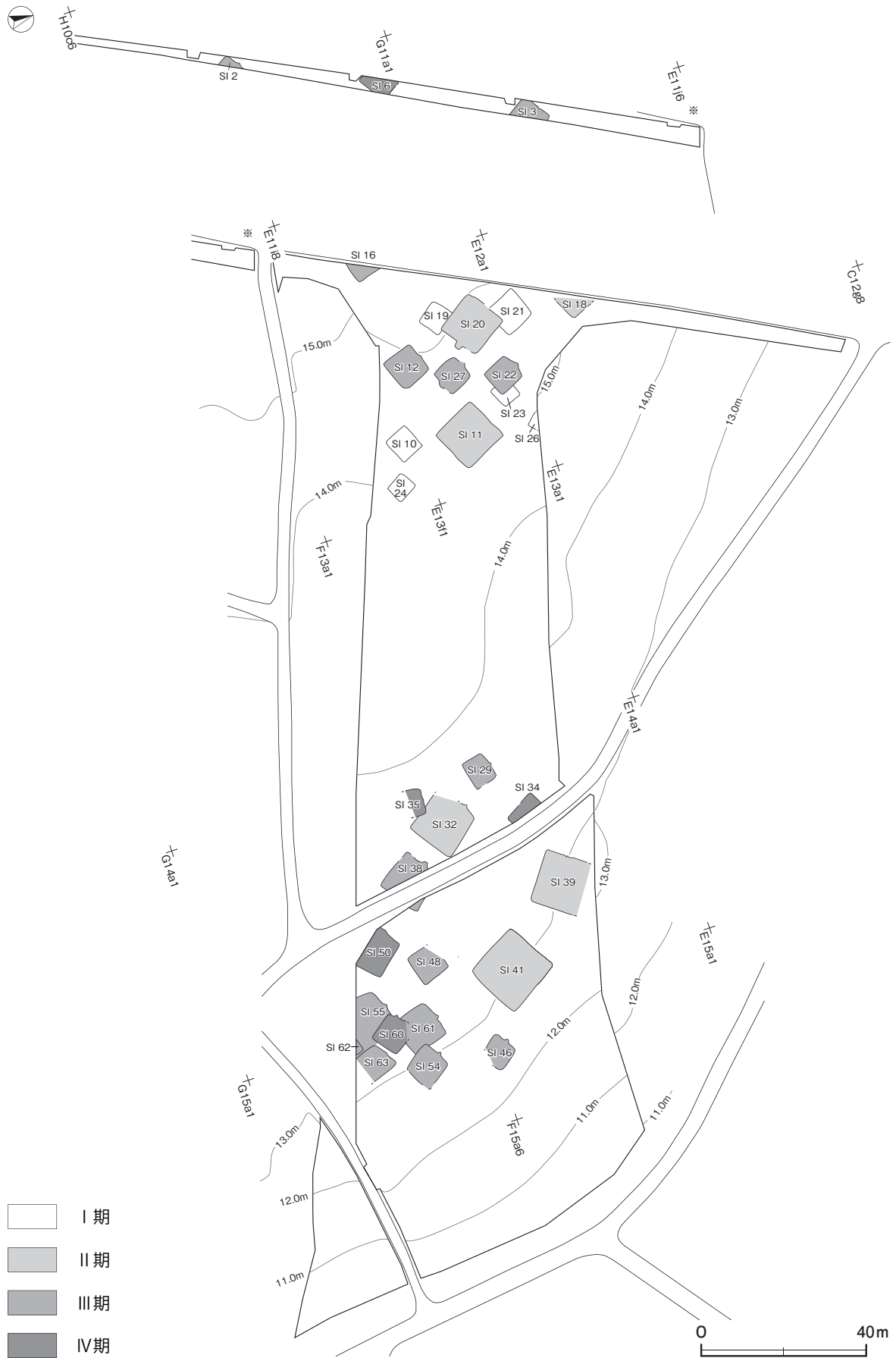
当時代の遺構は確認された数が最も多く、竪穴住居跡33軒、土坑2基である。前期後葉に調査区西部の最も標高の高い台地上の平坦部に集落が形成され始め、後期には住居跡の増加とともに、集落が台地の縁辺部に移行していく傾向が見られる。ここでは、古墳時代の各期の特徴ある住居跡の様相及び集落の変遷について述べることにする。第25号住居跡は出土土器から5世紀前葉に比定され、第Ⅰ～Ⅳ期のいずれにも属さないため、考察から除外することとした。また、今回の調査区域内から5世紀中葉の住居跡は確認できなかった。

① 第Ⅰ期

当期では、住居跡6軒（第10・19・21・23・24・26号住居跡）が該当する。住居跡は、調査区西部の標高15mほどの最も標高の高い台地上の平坦部に集中して分布し、小集団を形成している。当期が古墳時代における集落形成の黎明期とみられる。主軸方向は、第21号住居跡以外はN-17°～33°-Wとやや西に振れているが、ほぼ揃っている。規模は、一辺が約3.5～5.5mの方形である。注目できるのは、焼失住居の第10号住居跡である。遺物は中央部の床面から集中して出土している。特に土師器の壺はすべて口縁部のみが残存し、床面に伏せられた状態であったことから、住居廃絶に伴う祭祀が行われた可能性が考えられる。第21・24号住居跡は、壁下を一段下げて帯状に掘り込み、埋土して平坦な床面を構築しているのが特徴である。

② 第Ⅱ期

当期では、住居跡6軒（第11・18・20・32・39・41号住居跡）が該当する。住居跡の規模が最も大



第 193 図 宮内遺跡古墳時代集落変遷図

形化する時期である。規模は一辺が7.4～9.6 mの方形である。西部の最も標高の高い台地上の平坦部に3軒と、中央の平坦部から東側の緩やかな斜面部にかけての3軒と、2グループに分かれている。主軸方向はN - 18° - 55° - Wであり、多少のばらつきはあるが、ほぼ北西方向を指している。後期初頭の竈の導入期に当たり、第32・39号住居跡では炉と竈との両方が確認されている。各住居跡とも竈の袖部の形状に特徴があり、壁に直交し平行に構築されている。煙道部は壁外への突出が少ない。第11・39・41号住居跡は、煙道部が壁内に収まっている。貯蔵穴の位置は、第11・18・32号住居跡が、出入り口の東側または南東コーナー部に位置しているのに対して、第39号住居跡は南西コーナー部、第41号住居跡は竈の東側に位置している。第20号住居跡では南側の出入り口付近の壁外に突出して構築されているのが特徴である。

③ 第三期

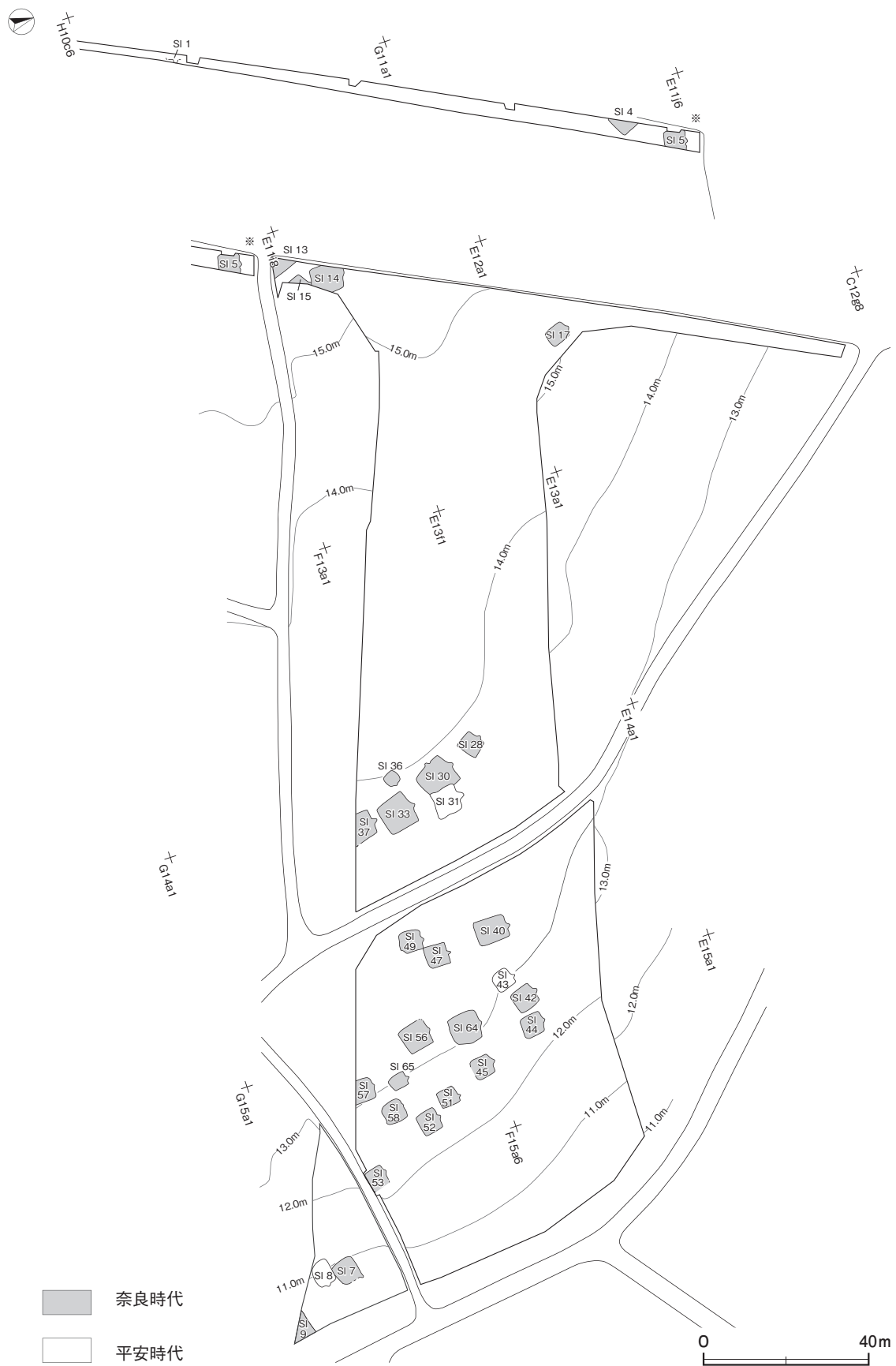
当期では、住居跡15軒（第2・3・12・16・22・27・29・38・46・48・54・55・61～63号住居跡）が該当する。住居跡は、古墳時代の中で最も軒数が多い。主軸方向はN - 15° - 37° - Wと、ばらつきはほとんどなくなり、真北を指すようになっている。規模は、一辺が3.5～7.5 mで、平面形は方形（隅丸方形）あるいは長方形（隅丸長方形）である。第Ⅱ期の住居跡群と比較すると、軒数は増加しているが、規模は小さくなっている。注目できる住居跡としては、間仕切り溝を4条もつ第12・54号住居跡、3条もつ第55号住居跡、2条もつ第38・48号住居跡があげられる。これは1軒あたりの居住員増加、生活習慣や様式の変化があった可能性が考えられる。また、出入り口側の南壁に張り出しをもつ第27号住居跡があげられる。張り出し部分の正面に出入り口施設に伴うピットが配置されているので、住居に出入りする際の階段状の施設が設置されていた可能性が考えられる。第Ⅱ期の第20号住居跡でも貯蔵穴を伴う張り出しが確認されている。貯蔵穴を伴う張り出しを持つ住居跡は、本県域ではつくば市平北田遺跡、同市島名熊の山遺跡、稲敷市堂ノ上遺跡等に類例がみられる。本跡第27号住居跡のような形態は、平北田遺跡第8号住居跡にみられる。出入り口を壁外へ突出させ、貯蔵穴や階段状の施設を併せて構築することにより、生活空間を有効に活用した可能性が考えられる。

④ 第四期

当期では、住居跡5軒（第6・34・35・50・60号住居跡）が該当する。住居跡は、軒数がⅢ期から激減している。第6号住居跡を除いて、中央部から西部にかけての台地上から低地に向かう緩やかな斜面部にまとまって所在している。主軸方向は、N - 40° - W～N - 3° - Eとばらつきが大きくなっている。住居跡の規模は第Ⅲ期とさほど変わらない。集落の中心が調査区域外に移り、集落の外れに所在する住居跡が確認されたものと思われる。

(3) 奈良時代（第194図）

当時代では、住居跡27軒（第4・5・7・9・13～15・17・28・30・33・36・37・40・42・44・45・47・49・51～53・56～58・64・65号住居跡）が該当する。古墳時代の第Ⅳ期で大きく減少した住居の軒数が再び増加している。西部の台地上の平坦部に5軒、中央部から東部にかけての台地上と、その台地から低地に向かう緩やかな斜面部にかけて22軒が所在している。標高12～14 mの間に最も集中しており、調査区域の南側に更に集落が広がっていく様相を呈している。第7号住居跡は北東コーナー竈で、第36号住居跡は東竈である。この2軒以外は、主軸方向がほぼN - 30° - W～N - 30° - Eの範囲内に収まり、北を指している。規模は、一辺が4 m前後の方形（隅丸方形）または長方形（隅丸長方形）であり、古墳時代の住居跡より小さくなっている。8世紀代は律令制による国の中央集権体制が確立し、地方にも



第 194 図 宮内遺跡奈良・平安時代集落変遷図

浸透していく時期である。一概には論じられないが、住居跡の小規模化は、当時の厳しい税制が当地域の人々の生活に大きな影響を及ぼしたことによるものと推測できるのではないだろうか。注目できるのは、第33号住居跡である。時期は出土土器から8世紀後葉と考えられ、長軸5.85m、短軸5.24mの長方形で当時代の住居跡の中で最大規模を持っている。竈の両側に上面の面積が約0.7㎡の棚状施設が設けられている。これは、竈の周りで使用する煮炊き具や供膳具等を置く施設ではないかと思われる。第47号住居跡からは、製鉄関連遺物である炉壁・炉底塊・炉内滓・炉内滓含鉄・鉄塊系遺物が約93kg出土している。その他、5軒からもそれぞれ1kgを超える鉄滓が出土していることから、調査区域外の何処かに製鉄炉が築かれていたものと推定できる。また、少量であるが鍛冶関連遺物が出土している住居跡も存在することから、集落内において鍛冶も行われていたとみられる。

(4) 平安時代（第194図）

当時代では、住居跡4軒（第1・8・31・43号住居跡）が該当する。住居跡の軒数は奈良時代に比べて激減している。これらは、調査区域の南西部の外れに1軒と中央部に1軒、西部の緩斜面部に1軒と南東部外れの最も低い所に1軒と点在している。主軸方向は、第1号住居跡は不明であるが、第8号住居跡はN-81°-Eで東竈である。第31号住居跡はN-5°-Wで、第43号住居跡はN-11°-Wとわずかに西側に振れているが、ともにほぼ真北を指している。4軒は点在しているため、集落が過疎化したと思われる。急激な人口減少の理由として考えられるのは、何らかの理由で移住を強いられたか、または疾病や災害、戦乱等で人命が失われたこと等である。しかし、それはあくまで推測の域を出ない。製鉄滓が出土していることから、製鉄は継続して行われていたと思われる。

以上、時代別・時期別に集落の変遷について述べてきた。今回の調査区域内で最も西側の低地に近い斜面部からは、縄文時代の土坑及び土器や石器が出土していることから、当時の集落の縁辺部に当たるとみられる。西側の最も標高の高い台地上からは、古墳時代前期後葉の集落跡が確認された。住居跡の軒数は4軒と少ないが、調査区域の南西側に標高15mほどの台地が続いているため、集落が広がっていたことが予想される。古墳時代後期にかけて集落は、台地上から東側の低地に向かう斜面部へと規模を拡大していく。特に6世紀代の住居跡の軒数が15軒と最も多く、調査区域の西側にも広がっている様相を呈している。7世紀には住居跡が5軒と一度減少する。これは、集落の中心が調査区域外に移ったためとみられる。8世紀に入ると住居跡が再び増加し、8世紀後葉には10軒と大幅に増加している。この時期に鉄滓の出土量も急増していることから、製鉄工人たちが集落を形成していたとみられる。律令期は製鉄に関しては国が管理を行っていたことから、国によって計画的に配置された製鉄工人たちの集落であった可能性が考えられる。9世紀から10世紀にかけては集落や製鉄も小規模化していく。

4 製鉄・鍛冶関連遺物について

(1) 製鉄・鍛冶関連遺物の出土状況（第195・196図、表14）

当遺跡付近では、以前から表面採集で鉄滓が確認されていたが、今回の発掘調査により、全体で181kgに及ぶ鉄滓が出土している。それらは調査区域全体から出土している状況であるが、第195図から中央部の台地上から東部の低地に向かう緩斜面部にかけての出土量が特に多いことがわかる。最も標高の高い西側の台地上に所在する、古墳時代前期の住居跡からも鉄滓が20gほど確認された。古墳時代後期の住居跡までは1～802gとばらつきはあるものの、一定量が出土している。表14や第196図から、奈良時代になると鉄滓の出土量が増え始め、8世紀の後葉では第47号住居跡が最も多く、約93kgもの鉄滓が出土



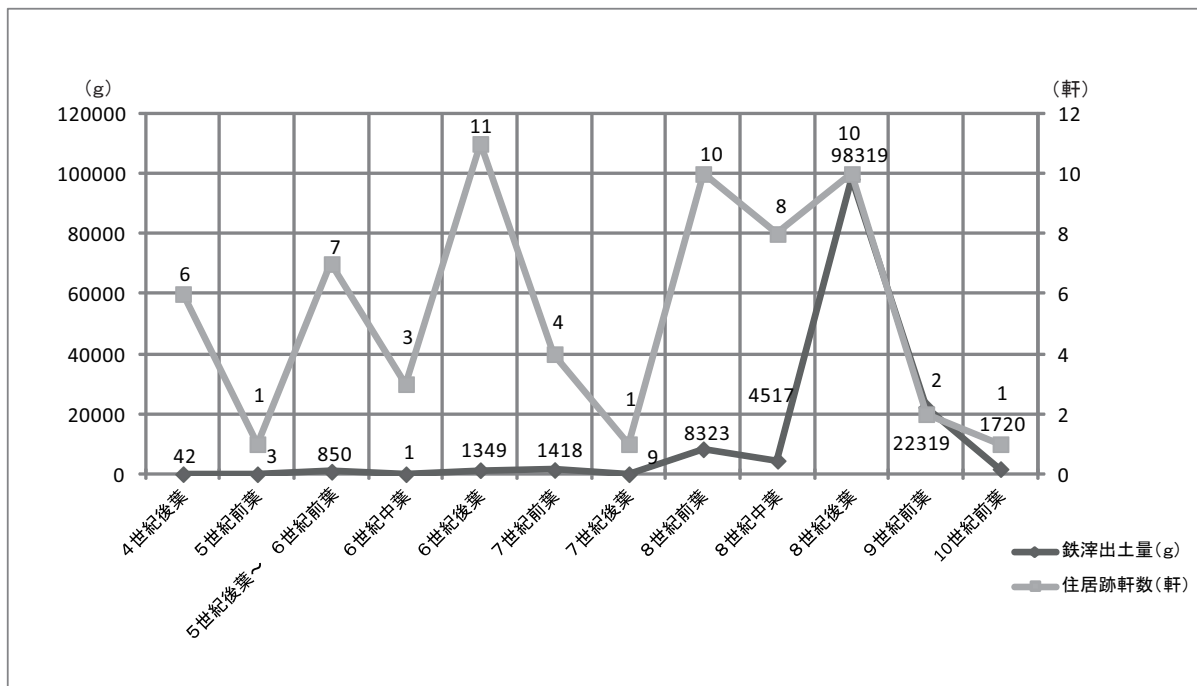
第 195 図 宮内遺跡鉄滓出土遺構

表 14 宮内遺跡住居跡内出土鉄滓点数・重量・種類一覧表

遺構番号	時期	出土鉄滓		鉄滓の種類									
		点数	重量 (g)	炉壁	炉底塊	炉内滓	炉内滓 (含鉄)	鉄塊系遺物	腕形鍛冶滓 (大)	腕形鍛冶滓 (中)	腕形鍛冶滓 (小)	腕形鍛冶滓 (極小)	その他
SI19	4世紀後葉	2	19	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
SI21	4世紀後葉	2	23	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
SI25	5世紀前葉	1	3	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
SI11	5世紀末～ 6世紀初頭	1	17	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
SI18	5世紀後葉～ 6世紀前葉	1	31	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SI20	5世紀末～ 6世紀初頭	6	43	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-
SI32	5世紀末～ 6世紀初頭	1	12	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
SI39	5世紀末～ 6世紀初頭	25	235	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-
SI41	5世紀末～ 6世紀初頭	29	512	○	-	-	○	○	-	-	◎	◎	-
SK75	5世紀末～ 6世紀初頭	3	29	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
SI22	6世紀中葉	1	1	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
SI 3	6世紀後葉	7	72	-	-	○	-	○	-	-	-	○	-
SI12	6世紀後葉	4	46	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
SI27	6世紀後葉	9	198	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-
SI29	6世紀後葉	6	332	○	-	-	◎	-	-	-	-	-	-
SI38	6世紀後葉	32	206	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-
SI48	6世紀後葉	7	170	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-
SI54	6世紀後葉	3	13	○	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛冶炉の炉壁
SI61	6世紀後葉	2	262	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
SI63	6世紀後葉 以降	6	50	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-
SI50	7世紀前葉	43	802	-	○	-	○	◎	-	-	-	◎	羽口少々
SI60	7世紀前葉	2	616	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SI35	7世紀後葉	2	9	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
SI 9	8世紀前葉	186	6,076	○	-	○	◎	●	-	◎	◎	◎	-
SI15	8世紀前葉	2	75	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-
SI17	8世紀前葉	15	133	-	-	-	-	◎	-	-	-	○	羽口少々
SI28	8世紀前葉	7	76	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-
SI36	8世紀前葉	15	151	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
SI51	8世紀前葉	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
SI52	8世紀前葉	51	1,371	-	○	-	◎	◎	-	-	-	◎	羽口少々
SI53	8世紀前葉	27	138	○	-	-	-	○	-	-	-	-	鍛冶炉の炉壁
SI64	8世紀前葉	38	292	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-
SK64	8世紀前葉	1	35	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-
SI 4	8世紀中葉	33	1,577	-	-	○	◎	●	-	-	○	-	羽口少々
SI 5	8世紀中葉	14	358	-	-	-	-	◎	-	-	○	○	-
SI30	8世紀中葉	112	1,330	-	-	-	○	◎	-	-	○	◎	-
SI49	8世紀中葉	37	744	-	-	-	○	◎	-	-	○	◎	-
SI56	8世紀中葉	19	290	○	-	○	○	○	-	-	○	○	-
SI57	8世紀中葉	20	213	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-
SI65	8世紀中葉	1	5	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
SK95	8世紀中葉	215	6,200	○	-	-	◎	☆	-	-	-	-	-
SI 7	8世紀後葉	8	196	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-
SI14	8世紀後葉	18	142	○	-	-	-	◎	-	-	-	○	-
SI33	8世紀後葉	211	2,446	○	-	◎	-	◎	○	-	◎	◎	-

遺構番号	時期	出土鉄滓		鉄滓の種類										
		点数	重量 (g)	炉壁	炉底塊	炉内滓	炉内滓 (含鉄)	鉄塊系遺物	腕形鍛冶滓 (大)	腕形鍛冶滓 (中)	腕形鍛冶滓 (小)	腕形鍛冶滓 (極小)	その他	
SI37	8世紀後葉	49	957	○	-	○	○	◎	-	-	-	○	-	
SI40	8世紀後葉	69	1,091	-	-	-	◎	☆	-	-	◎	◎	-	
SI42	8世紀後葉	54	573	-	-	-	○	◎	-	-	-	◎	羽口若干	
SI44	8世紀後葉	6	70	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	
SI47	8世紀後葉	5,576	92,760	集計表・構成図参照					-	-	-	-	-	-
SI58	8世紀後葉	6	84	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	
SK72	8世紀後葉	15	161	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	
SI31	9世紀前葉	179	2,062	○	-	◎	◎	◎	-	-	-	○	砂鉄塊	
SI43	9世紀前葉	649	20,257	○	☆	○	☆	☆	-	-	-	-	-	
SI 8	10世紀前葉	5	1,720	○	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	
SB 2	不明	1	10	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	
SD 3	不明	14	176	-	○	○	◎	-	-	-	-	-	-	
SD 7	不明	3	14	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	
SD 8	不明	13	263	○	-	○	-	○	-	-	○	○	-	
SD 9	不明	55	1,704	○	-	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	
SD10	不明	42	1,114	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	◎	-	
SD11	不明	5	664	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	
SD12	不明	4	262	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SE 2	不明	3	198	-	-	-	-	-	-	○	○	-	羽口少々	
SE 3	不明	4	168	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	
SK 1	不明	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
SK 5	不明	1	31	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
SK 6	不明	1	24	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
SK36	不明	1	43	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
SK37	不明	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
SK38	不明	1	211	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	
SK45	不明	1	195	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
SK52	不明	1	36	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	
SK55	不明	1	21	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
SK59	不明	1	97	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	
SK60	不明	1	63	-	-	-	-	○	-	-	○	○	鍛造剥片少々	
SK62	不明	1	12	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	
SK63	不明	1	27	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
SK67	不明	1	61	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	
SK69	不明	1	54	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
PG 2	不明	3	42	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	
PG 5	不明	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
PG 7	不明	4	18	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
PG 8	不明	5	33	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	
PG 9	不明	8	60	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	
PG10	不明	1	38	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	
PG13	不明	32	620	-	-	-	-	◎	-	○	○	◎	-	
SX 1	不明	11	58	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	
HD	不明	106	29,440	◎	◎	☆	☆	☆	○	○	◎	◎	羽口少々	

- = なし ○ = 少量 ◎ = 一定量 ● = やや多量 ☆ = 多量



第 196 図 宮内遺跡時期別住居跡軒数の移り変わりと鉄滓の出土量

する住居跡が現れる。平安時代になると確認された住居跡の軒数は少ないが、第 43 号住居跡のように鉄滓の出土量が 20kg を超える住居跡もある。全体的には出土した総量の約 75% にあたる 135kg ほどが奈良・平安時代の住居跡の覆土中から出土している。更に、鉄滓が 1 kg 以上出土している住居跡はすべて奈良・平安時代であり、特に 8 世紀前葉から 9 世紀前葉にかけての出土量が最も多い。

鉄滓の種類は、特に第 47 号住居跡から出土した多量の鉄滓について細部まで観察した結果、炉壁・炉底塊・炉内滓・炉内滓含鉄・鉄塊系遺物であることが確認できた。このことから、これらの鉄滓は鍛冶の段階で生じる鍛冶滓ではなく、製鉄の段階で生成される製鉄滓であることがわかった。今回の調査区域内で出土した鉄滓の大半はこの製鉄滓である。よって、付近で製鉄が行われていたことは明らかである。一方、表 14 を見ると少量の椀形鍛冶滓や羽口などの鍛冶関連遺物も出土している。特に 8 世紀代の住居跡から一定量の小形及び極小形の椀形鍛冶滓が出土している。このことから、奈良時代には、小規模ながら鍛冶も行われていたとみられる。

第 196 図から、4 世紀後葉から 6 世紀中葉にかけては住居跡の軒数の増減の変化にあまり左右されることなく少量の鉄滓が出土している。これは住居跡の覆土への混入である可能性が高い。一方、6 世紀後葉からは、鉄滓の出土量が 1 kg 以上に増えている。7 世紀後葉には住居跡の軒数が 1 軒ということもあり、鉄滓の出土量もわずかである。8 世紀前葉には、住居跡の増加とともに鉄滓の出土量も増加する。8 世紀中葉には若干減るものの、8 世紀後葉には住居跡の軒数が再び増加し、鉄滓の出土量も大幅に増加している。その後 9 世紀前葉から 10 世紀前葉にかけては減少していく傾向にある。10 世紀中葉以降は住居跡が確認されていないので不明である。よって、今回の調査区域内という限定的な範囲でのことではあるが、8 世紀前葉から製鉄工人たちが集団で移り住み、操業を行っていた可能性が高い。

(2) 奈良・平安時代における近隣の製鉄遺跡と本跡

近隣の八千代町に所在する尾崎前山遺跡は、飯沼川の支流が流れる低地に向かう斜面部に立地している。古河市に所在する川戸台遺跡は、渡良瀬川左岸の台地縁辺部に立地している。当財団で調査を実施した小

美玉市に所在するかじや久保遺跡は、梶無川支流が流れる低地に向かう緩やかな斜面部に立地している。埼玉県花園町に所在する台耕地遺跡は、荒川左岸の段丘上に立地している。かじや久保遺跡は13世紀代であるが、それ以外は9世紀代の製鉄遺跡で、いずれも台地縁辺部の低地に向かう斜面部や河岸段丘上に立地している。その理由は、尾崎前山遺跡の調査では、製鉄炉内の燃焼効率を上げるための、斜面に吹く自然風の利用について述べられている。台耕地遺跡の調査では、荒川からの砂鉄の確保や、河川交通による製品の運搬等が挙げられている。当遺跡も立地条件が類似している。原料の確保や製品の運搬も立地条件の重要な要素となるが、炉内を加熱するための燃料の確保も重要である。木炭を利用していたことは、他の遺跡の調査例や本跡の鉄滓にも炭の付着が見られたことからわかる。大量に必要な木炭を得るためには、豊かな森林資源や炭焼のための施設が必要になる。今回の調査では、そこまでは確認するには至らなかった。

尾崎前山遺跡の調査では、遺跡内で行われていた製鉄及び鍛冶が、近接する大結馬牧（官牧）への鉄製馬具の供給に関係していた可能性があることが述べられている。本跡の西側にも長洲馬牧（官牧）が存在し、本跡から馬具の供給を行ったり、あるいは馬を製鉄の原料や製品等の輸送手段として使用していた可能性も考えられるが、今回の調査からだけでは明らかにできない。

当財団で調査を実施した石岡市に所在する鹿の子C遺跡では、8世紀末から9世紀前葉にかけての大規模な官営鍛冶工房跡が確認されている。ここでは、日常的な鉄製品と共に、多量の武器や武具が出土している。時期的に国家的な政策である蝦夷征伐のさなかにあり、鹿の子C遺跡の属する常陸国は、前線基地の多賀城と近接していることもあり、武器や武具の供給という重要な役割を果たしたことが述べられている。当遺跡の集落も、ほぼ同時期に住居跡の軒数が増え、鉄滓の出土量が急増することからも製鉄が盛んに行われるようになったことがわかる。調査区域内から製鉄炉本体は確認されず、住居跡から出土している鉄製品は、日常生活や作業に使用する鎌・刀子・紡錘車・釘等の道具類が大半を占めている。よって、大量に出土している製鉄関連遺物の中でも、含鉄量の多い滓や鉄塊系遺物等を選別し、製品作りを行う鍛冶の原材料として官営の鍛冶工房等に納めていた可能性も考えられるが、今回の調査結果からは明言することはできない。当地域は下総国猿嶋郡に属することから、郡衙や国衙との関連や在地の有力者等との関わりについても考えていくことが必要になるであろう。

5 おわりに

今回の調査から、当調査区域内においては、縄文時代に人々の足跡を見いだすことができた。古墳時代前期後葉に人々が台地上に集落を形成し始め、古墳時代後期には低地に向かう台地縁辺部へと集落を拡大させていった。古墳時代の人々の生活は、大地からの恵みも受けていたと思われるが、住居跡から土玉が出土していることから、河川や湖沼で漁労も行っていただと考えられる。奈良・平安時代は、製鉄工人たちの集落であった可能性が強い。操業が始まった年代は、残念ながら製鉄炉本体が見つかっていないため、明確にはできない。この製鉄は、奈良時代に隆盛を見せる。当時製鉄は国の統制のもとで行われており、税（租・調・庸）の対象ともなっていた。また、8世紀代に出された班田収授法や墾田永年私財法により、未開の地を開拓し、開墾するための鉄製農具が大量に生産され、普及していったとも考えられる。更には、前述したように蝦夷征伐との関わりについても考える必要がある。今回の調査によって製鉄及び鍛冶が行われていたことがわかったが、今後当遺跡も含め、近隣地域で更なる調査の累積によって、律令期という時代背景と関連づけて実態を明らかにしていくことが求められると考える。

註

- 1) 樫村宣行「和泉式土器編年考－茨城県を中心として－」『研究ノート』5号 茨城県教育財団 1995年3月
樫村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年7月
浅井哲也「茨城県における奈良・平安時代の土器（I）」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1992年7月
稲田義弘「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 2) 岩井市史編さん委員会「岩井市の遺跡」『岩井市史遺跡調査報告書』第1集 1992年3月
大森雅之「茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 原口・北前遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第83集 1993年3月

参考文献

- ・今井隆介『北下総地方史』 崙書房 1974年12月
- ・窪田蔵郎『鉄の考古学』 雄山閣 1979年6月
- ・松井和幸『日本古代の鉄文化』 雄山閣 2001年2月
- ・高塚秀治・後藤忠俊・阿久津久・川野辺渉・浅見勉・岡本真実・飯田健一・福田豊彦・道家達将「茨城県八千代町尾崎前山製鉄遺跡の発掘 第2報」『東京工業大学人文論叢』 1980年3月
- ・酒井清治・鈴木仁子「関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅸ 台耕地（Ⅱ）」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書』第33集 1984年3月
- ・佐藤正好・川井正一「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書5 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第20集 1983年3月
- ・井上琢哉「かじや久保遺跡 一般県道百里飛行場線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第259集 2006年3月

写 真 图 版



第11号住居跡出土土師器



調査区全景（南から）



調査区中央部（上空から）

PL2



第 87 号 土 坑
完 掘 状 况



第 2 号 住 居 跡
完 掘 状 况

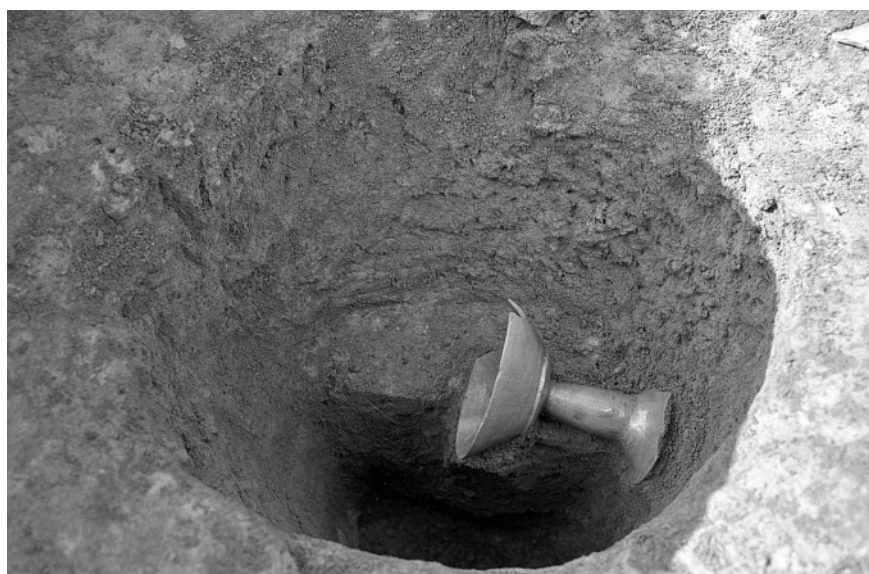


第 3 号 住 居 跡
完 掘 状 况

第10号住居跡
遺物出土狀況



第10号住居跡
貯蔵穴遺物出土狀況



第10号住居跡
完掘狀況



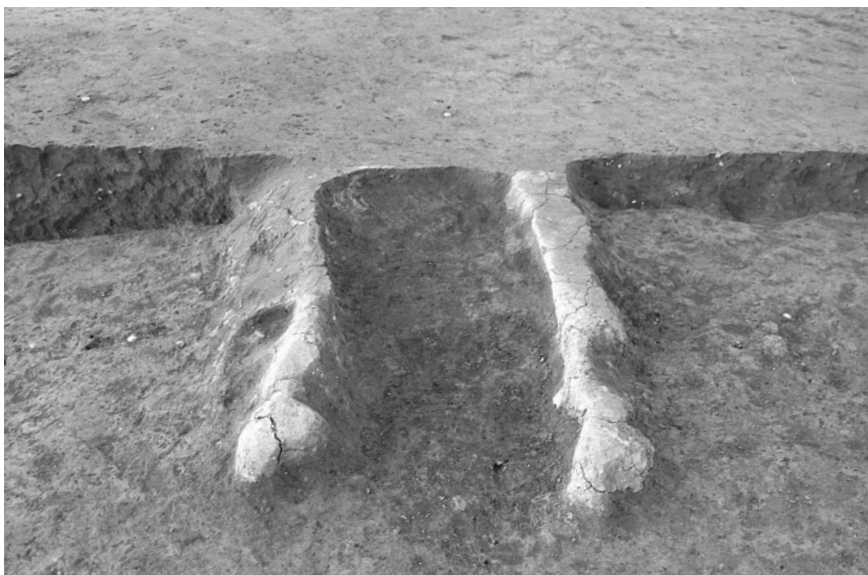
PL4



第11号住居跡
遺物出土状況

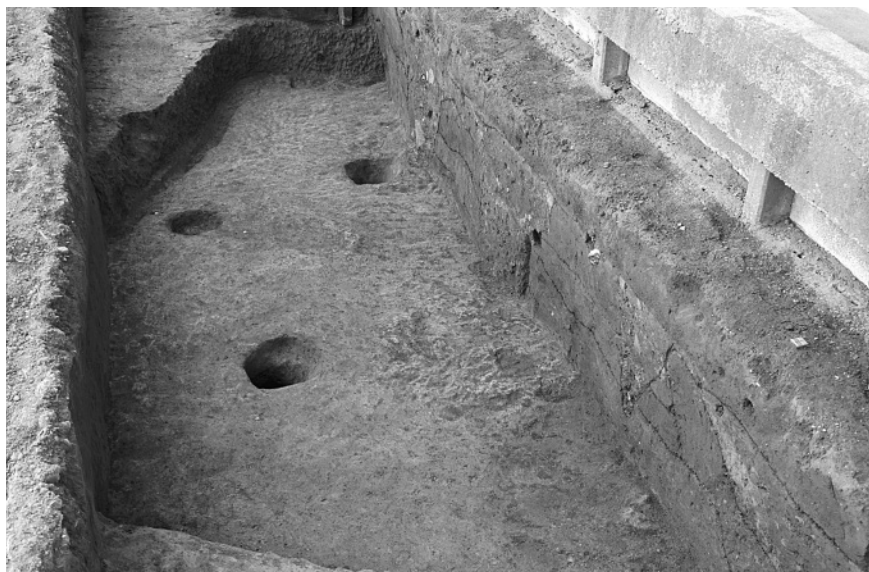


第11号住居跡
完掘状況



第11号住居跡
竈完掘状況

第 6 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 12 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 19 号 住 居 跡
完 掘 状 況



PL6



第20号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



第20号住居跡
完掘状況



第21号住居跡
炉完掘状況

第22・23号住居跡
完掘状況



第24号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



第24号住居跡
完掘状況



PL8



第25号住居跡
遺物出土状況



第27号住居跡
完掘状況



第29号住居跡
完掘状況

第32号住居跡
完掘状況



第34号住居跡
完掘状況



第38号住居跡
完掘状況



PL10



第39号住居跡
完掘状況



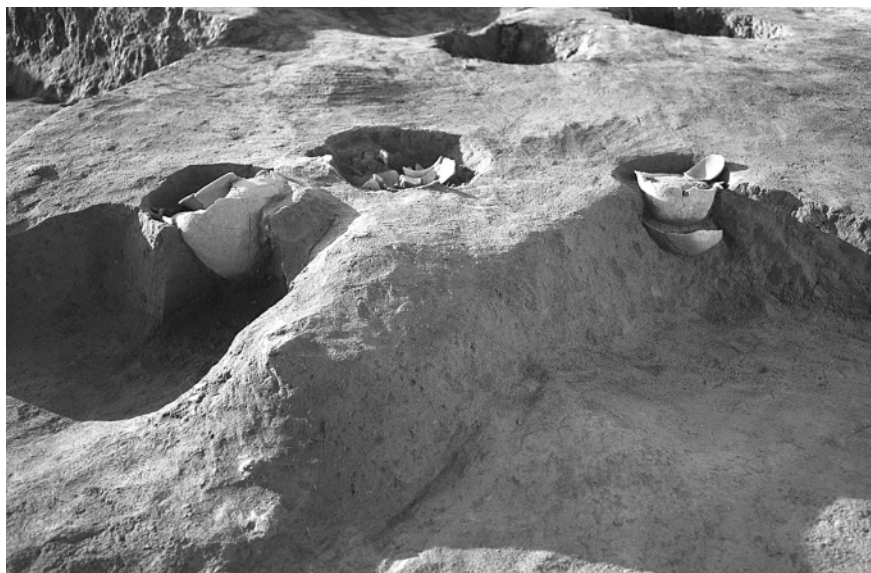
第39号住居跡
竈完掘状況



第41号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



第41号住居跡
完掘状況



第41号住居跡
竈遺物出土状況



第41号住居跡
竈完掘状況

PL12



第46号住居跡
完掘状況



第50号住居跡
完掘状況



第54号住居跡
完掘状況

第55号住居跡
竈遺物出土狀況



第56・60号住居跡
完掘狀況



第19号土坑
完掘狀況



PL14



第 4 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 5 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 7 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第14号住居跡
完掘状況



第17号住居跡
完掘状況



第17号住居跡
竈完掘状況



PL16



第15号住居跡
竈完掘状況



第28号住居跡
完掘状況



第30・31号住居跡
完掘状況

第30号住居跡
竈1完掘状況



第33号住居跡
完掘状況



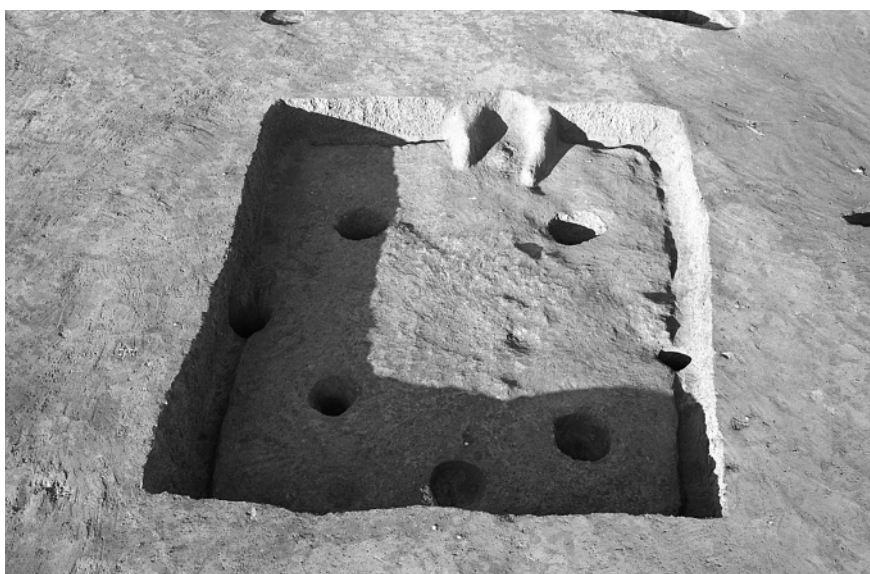
第36号住居跡
完掘状況



PL18



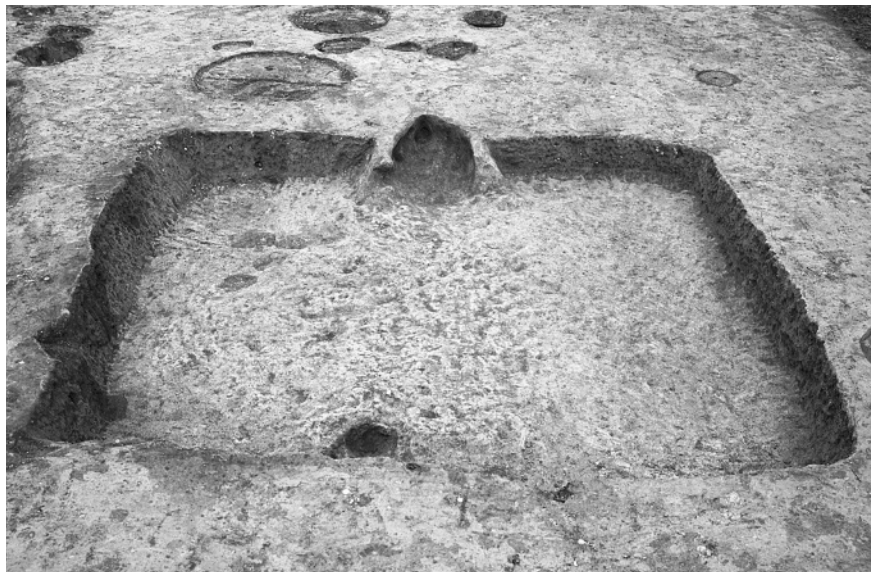
第37号住居跡
完掘状況



第40号住居跡
完掘状況



第42号住居跡
完掘状況



第44号住居跡
完掘状況

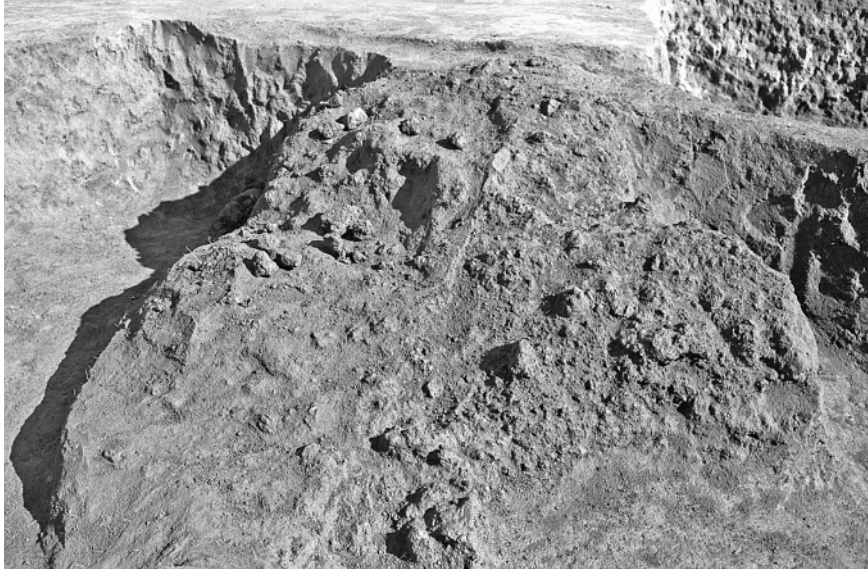


第45号住居跡
完掘状況



第49号住居跡
完掘状況

PL20



第47号住居跡
遺物出土状況

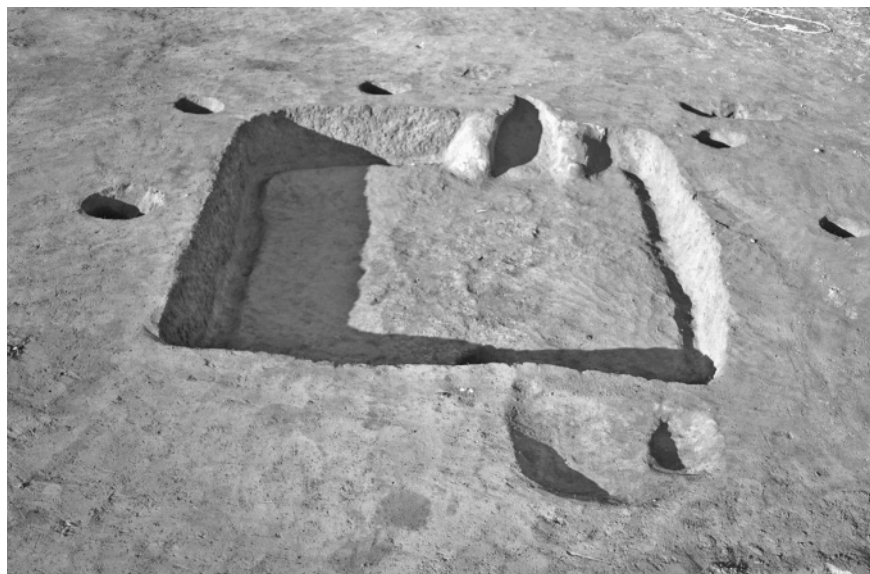


第47・48号住居跡
完掘状況



第47号住居跡
竈完掘状況

第51号住居跡
完掘狀況



第52号住居跡
完掘狀況



第53号住居跡
完掘狀況



PL22



第57号住居跡
完掘状況



第58号住居跡
完掘状況



第64号住居跡
完掘状況

第 65 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 95 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 95 号 土 坑
完 掘 状 況



PL24



第 64 号 土 坑
完 掘 状 况



第 1 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 况



第 8 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 况

第43号住居跡
完掘狀況



第1号掘立柱建物跡
完掘狀況



第2号掘立柱建物跡
完掘狀況



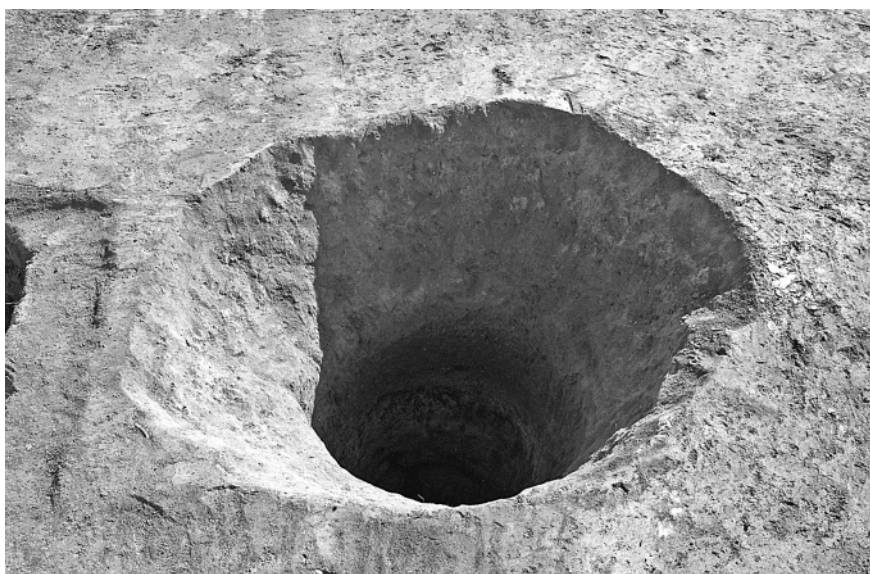
PL26



第 12 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況



第 2 号 炉 穴
完 掘 状 況



第 3 号 井 戸 跡
完 掘 状 況



第11号住居跡，第87号土坑出土土器





PL30



第10・11・24・27・41・46・50号住居跡出土土器



第10・19・20・21・24・48号住居跡出土土器

PL32



第3・10・11・12・27・39・50号住居跡出土土器



第11・22・41・55号住居跡出土土器

PL34



第3・10・11・24・25・55号住居跡出土土器



第34・41・48号住居跡出土土器

PL36



第5・28・30・33・36・37・40号住居跡出土土器



第40・47・49・53・58・64号住居跡，第58・95号土坑出土土器

PL38

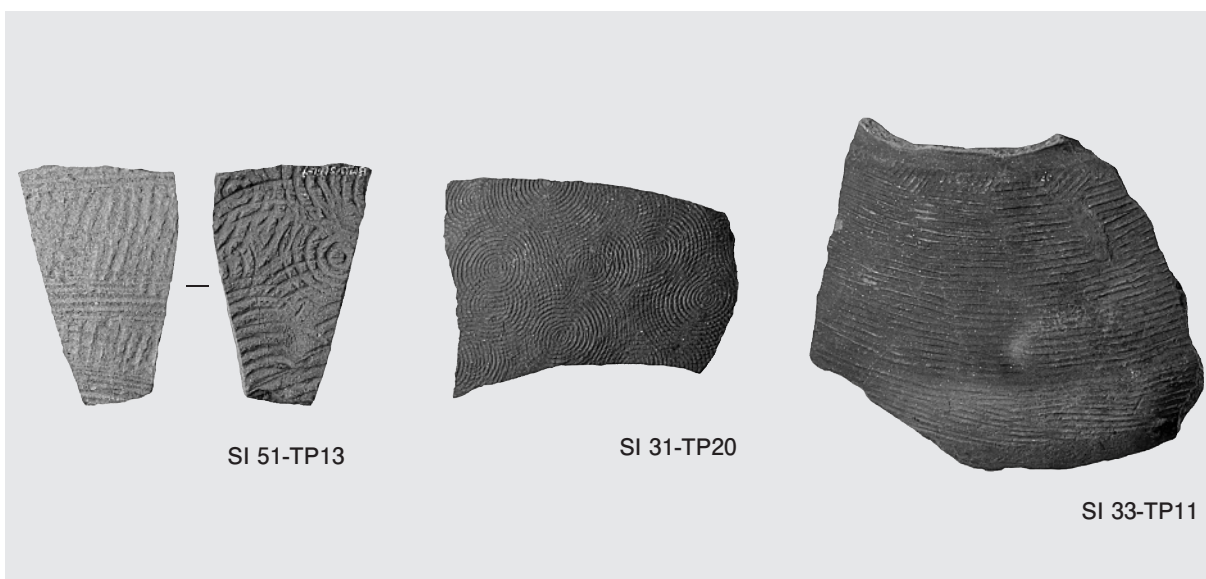
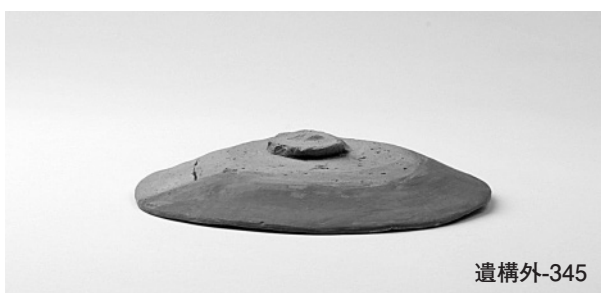


第4·9·15·33·37·49·64号住居跡，第95号土坑出土土器

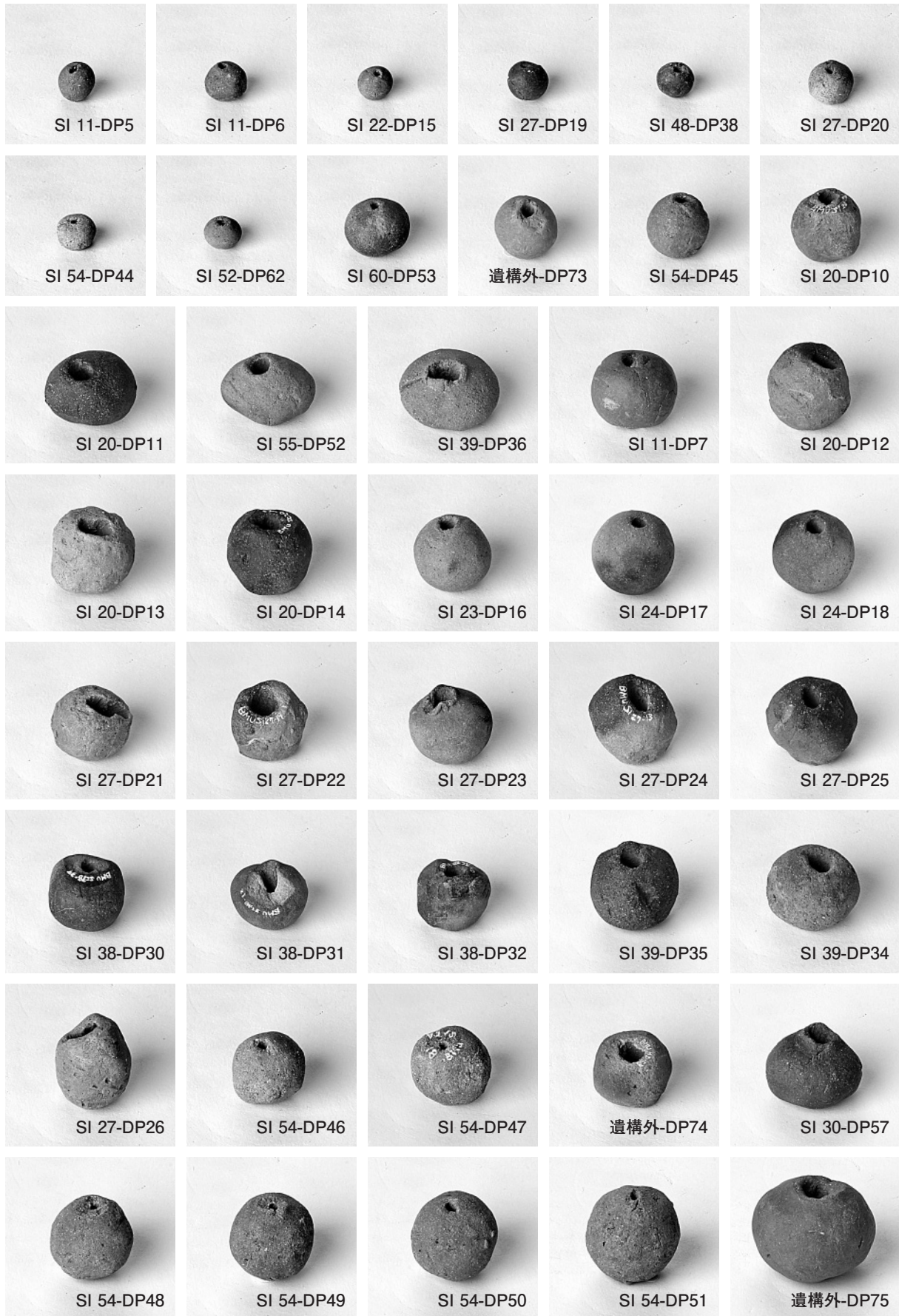


第1・15・31・43・49号住居跡出土土器

PL40



第31・33・43・51号住居跡，第12号溝跡，遺構外出土土器

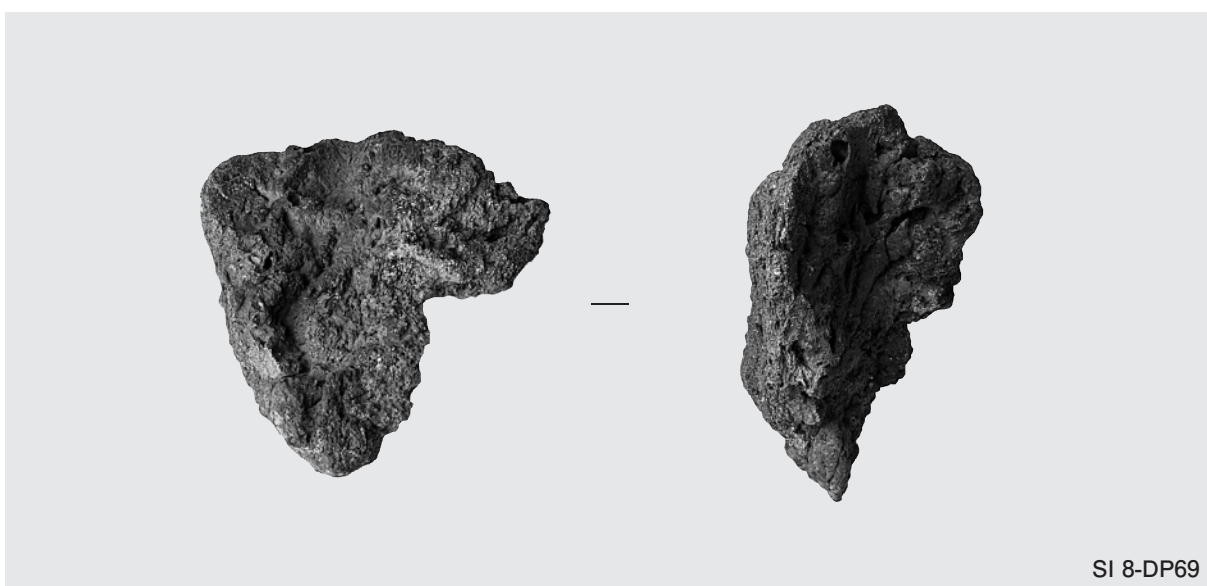
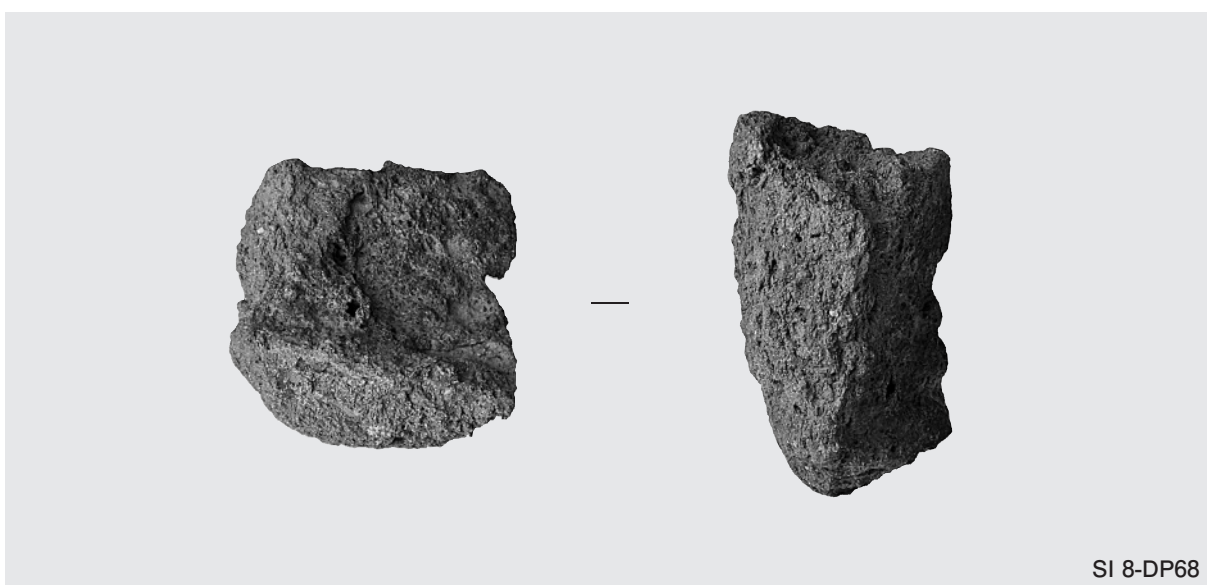


出土土製品 (土玉)

PL42

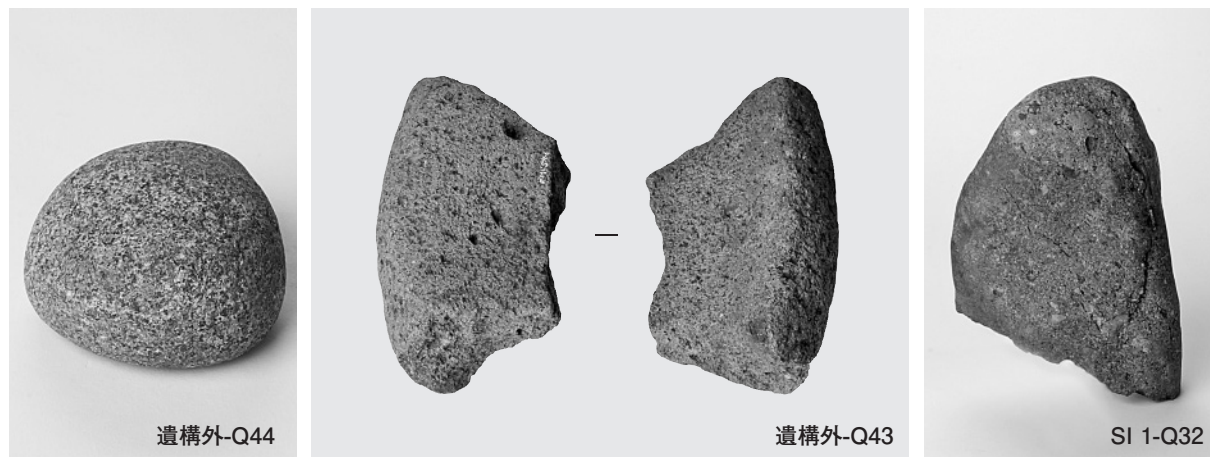
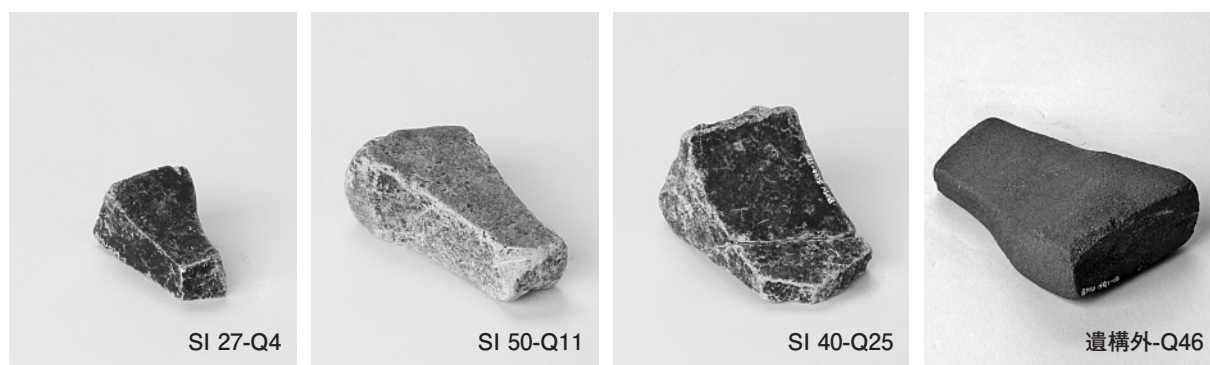
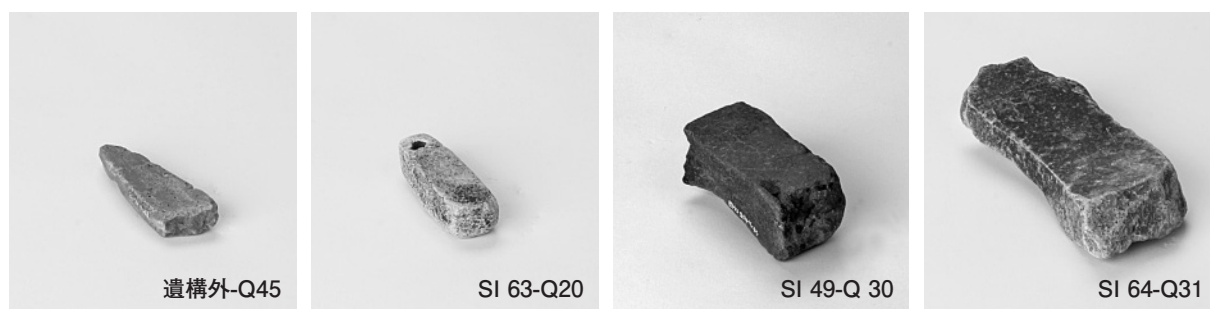
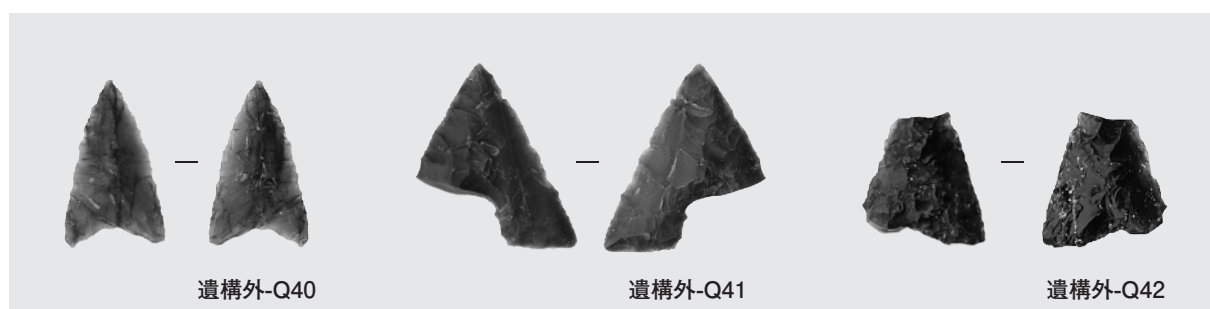
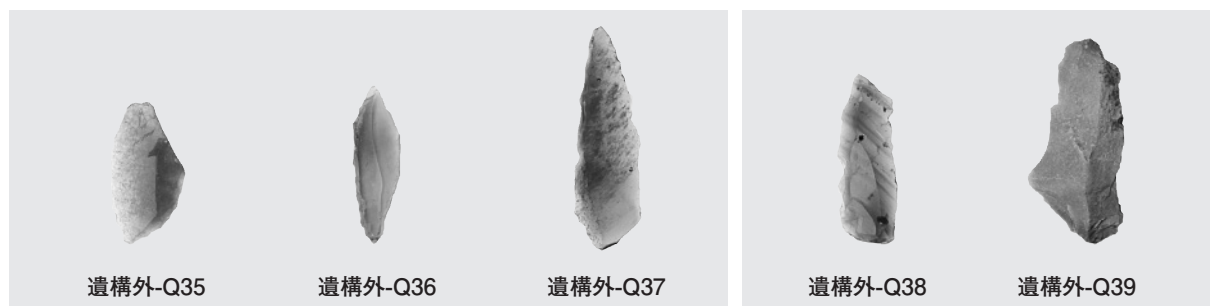


出土土製品

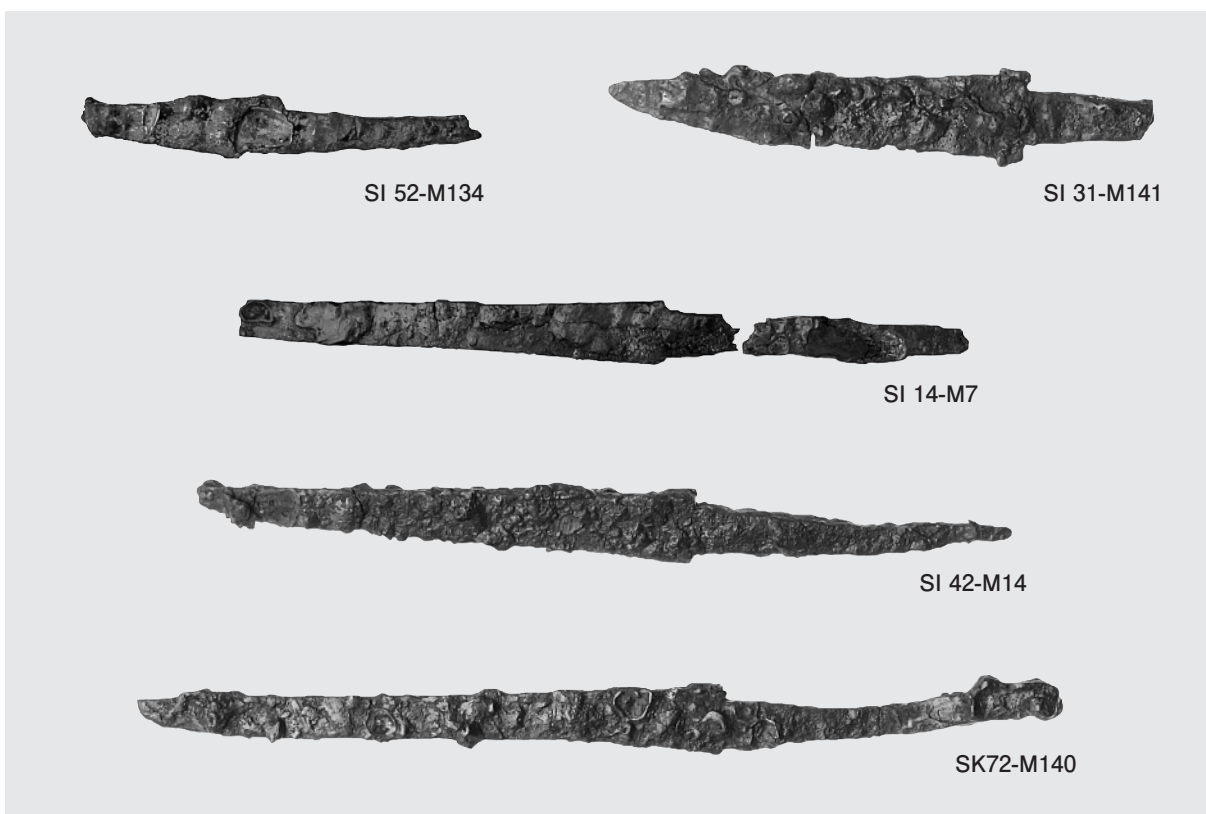
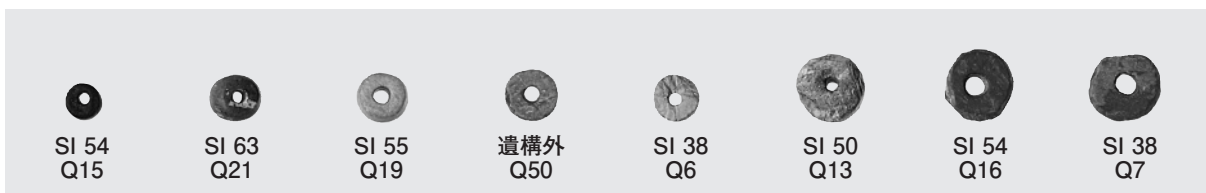


第8号住居跡出土土製品 (炉壁)

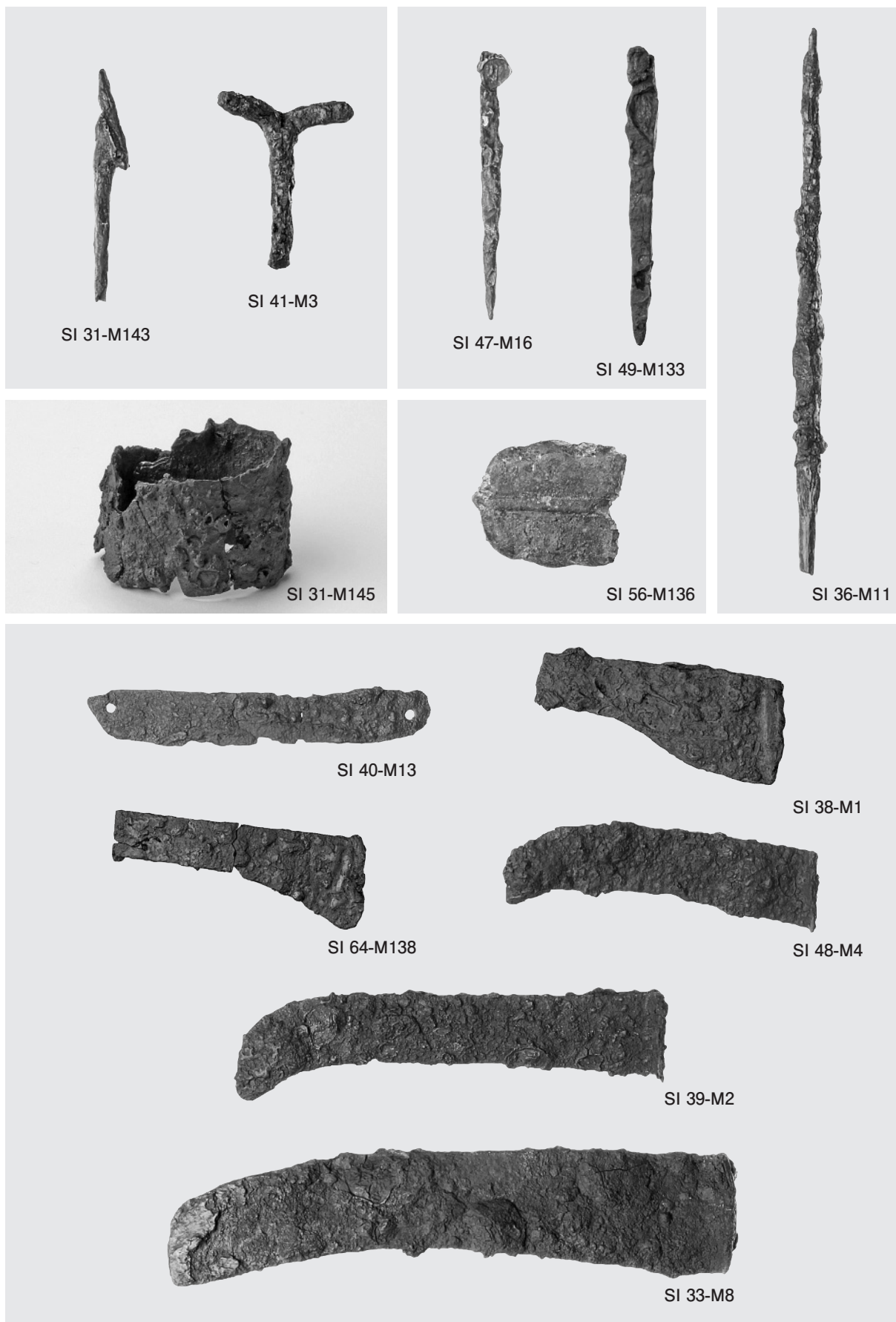
PL44



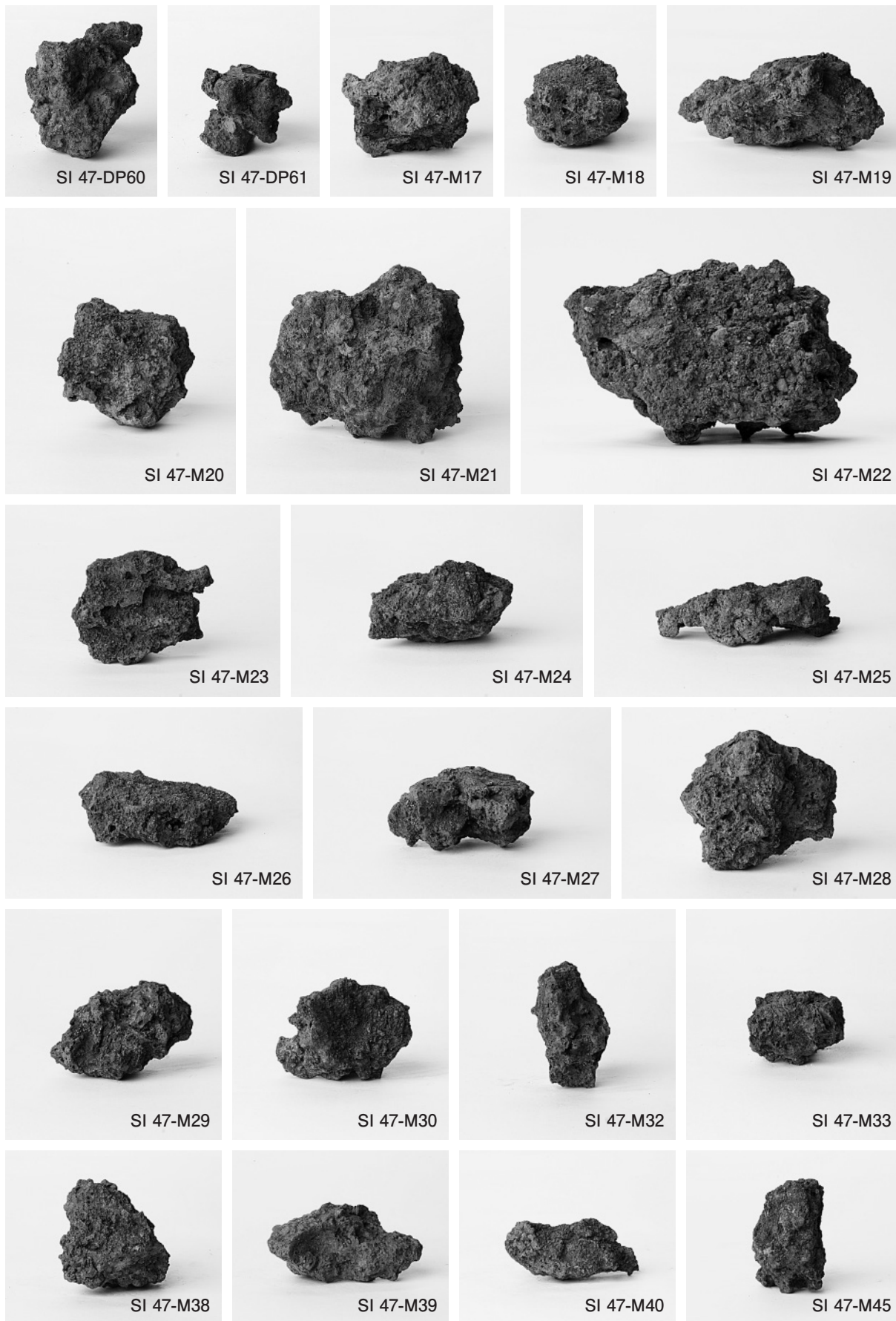
出土石器



出土石製品，鉄製品

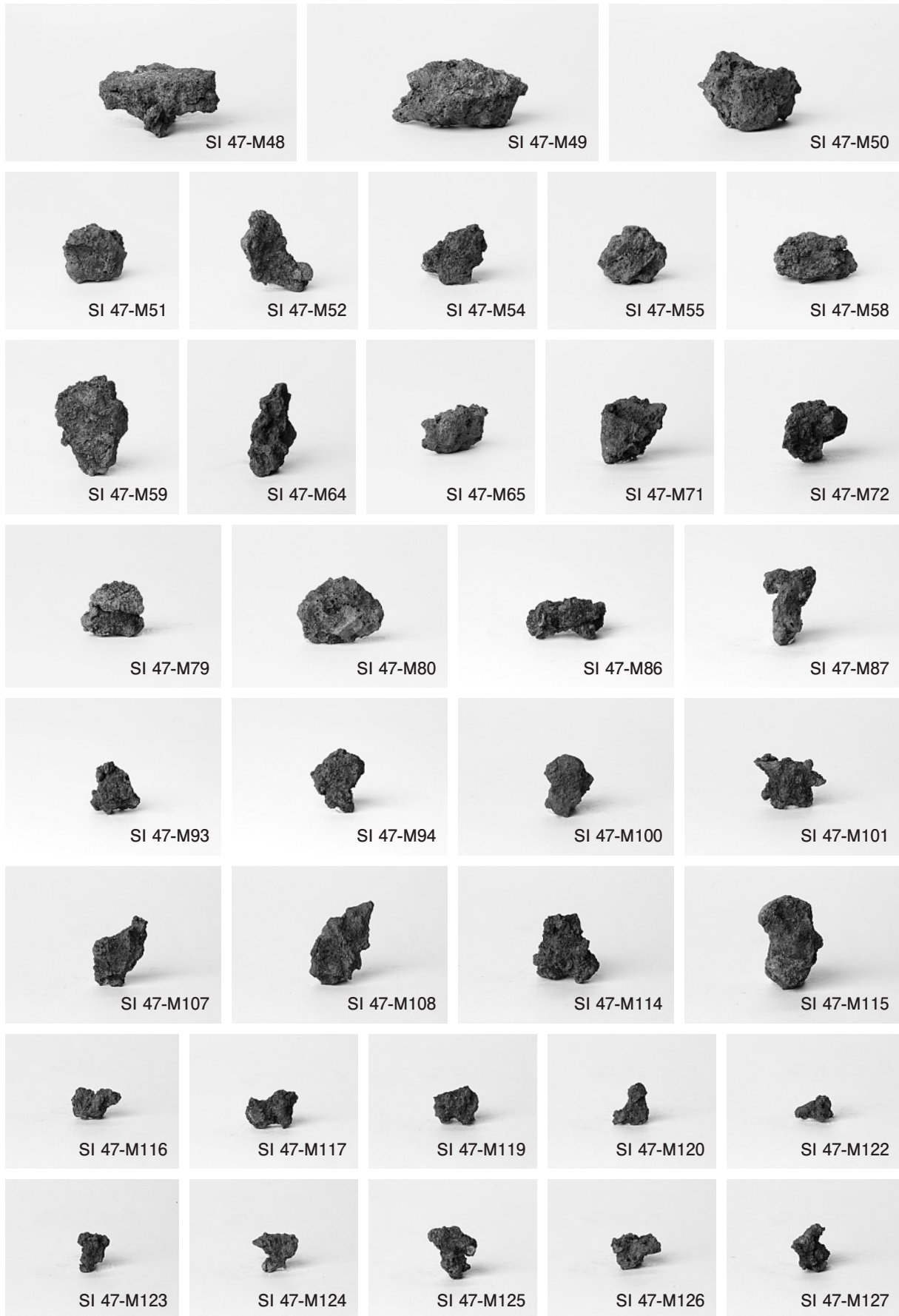


出土金属製品



第47号住居跡製鉄関連遺物

PL48



第47号住居跡製鉄関連遺物

抄 録

ふりがな	みやうちいせき							
書名	宮内遺跡							
副書名	国道354号岩井バイパス事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第359集							
著者名	小林和彦 宮崎剛							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2012(平成24)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査積 面	調査原因
宮内遺跡	茨城県坂東市岩井 字宮内前959-3番 地ほか	08218 - 153	36度 3分 49秒	139度 53分 31秒	10.0 ~ 15.0 m	20100901 ~ 20110331	6,622 m ²	国道354号岩井バイパス事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
宮内遺跡	集落跡	縄文	土坑	2基	縄文土器(深鉢)		古墳時代前期の住居跡からは、五領式から和泉式への過渡期の土師器が出土している。 古墳時代後期初頭の住居跡は大形で、初期竈の形態をとる。出土した土師器は、鬼高式初頭である。 奈良・平安時代の住居跡から多量の製鉄滓が出土しており、製鉄に関わる工人たちが居住していたと考えられる。	
		古墳	竪穴住居跡	33軒	土師器(坏・椀・埴・器台・高坏・壺・甕・甑・手捏土器)、須恵器(坏・長頸瓶・甗)、土製品(土玉・勾玉・紡錘車)、石器(砥石・紡錘車)、石製品(勾玉・管玉・白玉・有孔円板)、鉄製品(鎌)			
			土坑	2基	土師器(坏・甕・甑)、須恵器(坏・蓋・鉢・壺・長頸壺・甕)、鉄製品(手鎌・刀子・紡錘車軸・釘)、銅製品(腰帯具)、鉄滓(製鉄滓)			
	奈良	竪穴住居跡	27軒	土師器(坏・高台付坏・高台付椀・甕・甑)、須恵器(坏・鉢・甕・甑・壺)、鉄製品(鎌・刀子・鏟)、鉄滓(製鉄滓)				
平安	竪穴住居跡	4軒	土師器(坏・高台付坏・高台付椀・甕・甑)、須恵器(坏・鉢・甕・甑・壺)、鉄製品(鎌・刀子・鏟)、鉄滓(製鉄滓)					
その他	時期不明	掘立柱建物跡	2棟	縄文土器、土師器、須恵器				
		溝跡	14条					
		炉跡	2基					
		井戸跡	3基					
		土坑	95基					
		ピット群	14か所					
		不明遺構	1基					
要約	当遺跡は台地縁辺部に位置し、古墳時代から平安時代にかけて断続的に集落が形成されていたことがわかった。古墳時代前期の集落は調査区西側の台地平坦部に営まれ、古墳時代後期から平安時代にかけて東側の低地に向かって集落が広がっていった様子が確認できた。							

印刷仕様

編集 OS Microsoft Windows 7
Home Premium.ServicePack1
編集 Adobe InDesign CS4
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真調整 Adobe Photoshop CS4
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
図面類 EPSON ES-10000G
使用Font OpenType リュウミンPro・L
写真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第359集

宮内遺跡

国道354号岩井バイパス
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成24（2012）年 3月14日 印刷

平成24（2012）年 3月16日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 山三印刷株式会社

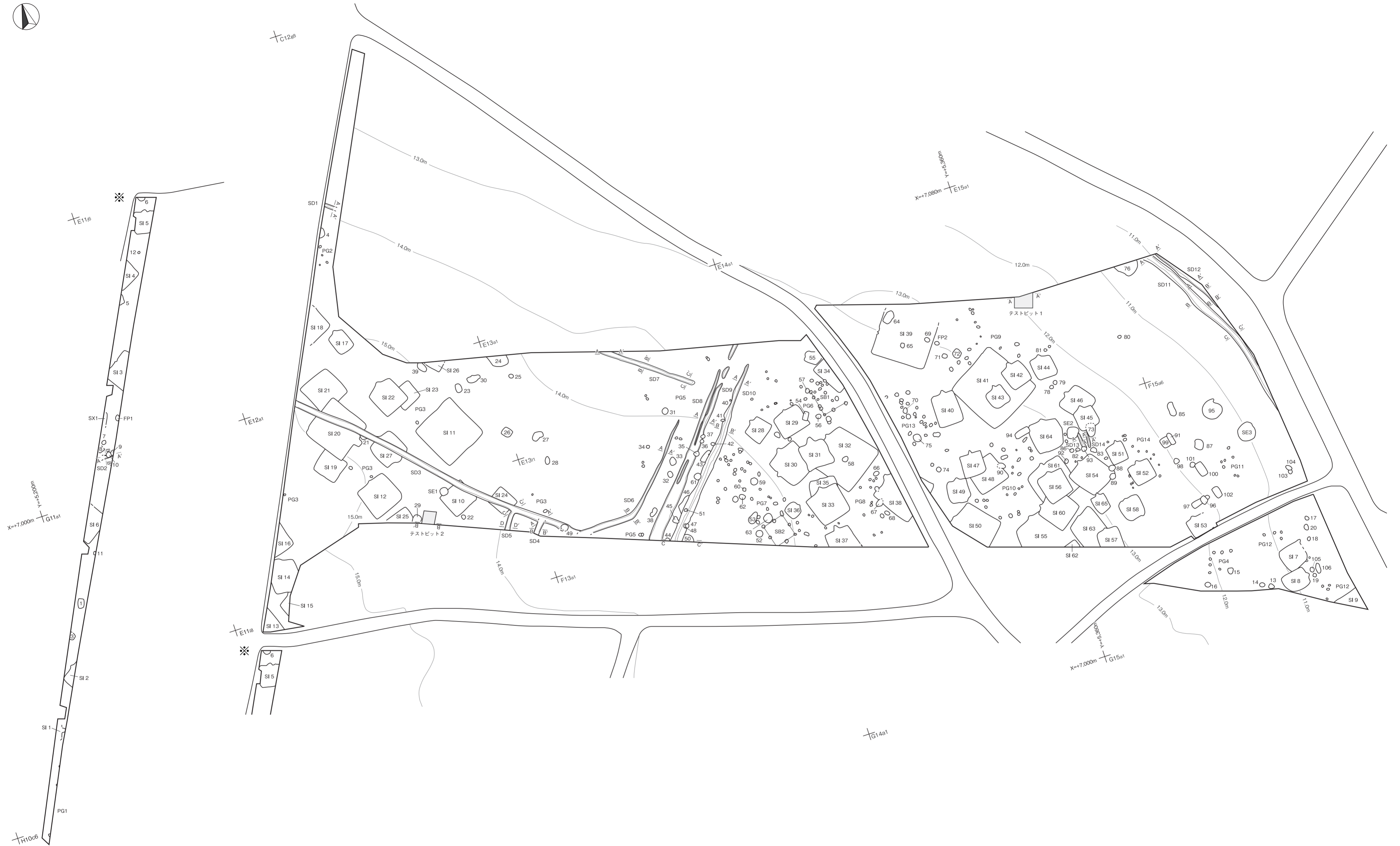
〒311-4153 水戸市河和田町4433の33

TEL 029-252-8481

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第359集

宮内遺跡遺構全体図



付図 宮内遺跡遺構全体図 (『茨城県教育財団文化財調査報告』第 359 集)

